

令和4年度
新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた
男女共同参画推進に関する調査
報告書

【目次】

第1章 調査概要

1. 調査目的	・・・4
2. 調査検討委員会	・・・4
3. モニター調査 調査事項	・・・5
4. 調査方法・調査対象	・・・8
5. 調査期間	・・・8
6. サンプル	・・・9
7. 報告書内で使用する用語、定義	・・・10

第2章 調査結果

1. 基本属性	・・・12
2. 働き方の現状と課題	・・・16
3. 仕事とプライベートの理想と現実	・・・55
4. 生活の中でのバランス	・・・77
5. 生活の中での責任とストレス	・・・121

第3章 分析視点別結果

1. 若年層を取り巻く状況	・・・130
2. 非正規雇用労働者を取り巻く状況	・・・146
3. 子育て世代を取り巻く状況	・・・162
4. 就職氷河期世代を取り巻く状況	・・・179
5. 中高年男性を取り巻く状況	・・・187

分析結果まとめ

稲葉 昭英（慶應義塾大学 文学部 教授/調査検討委員会主査）

永瀬 伸子（お茶の水女子大学基幹研究院 教授）

参考資料 WEBアンケート調査票

第1章 調査概要

第1章 調査概要

1. 調査目的

これまで女性に対する施策は多数行われているが、更なる女性活躍を目指すためには、男性の変革が必要である。例えば、女性が様々なライフステージで仕事を継続できる環境は整ってきたが、男性の長時間労働の慣行は十分に改善されておらず、このことが、男性の家事参画が進まない要因、女性に家事負担が集中する要因となっている。家族の姿が変化し、共働き世帯が増加している中、従来通りの家事・育児に加え、仕事での活躍も求められ、女性の負担は増加している。このことは、コロナ下で改めて顕在化した。

一方、コロナ下での生活も3年となり、働き方、ライフスタイルが変わってきている。特に若い世代と中高年との間では、両者に対する考え方も大きく異なっている可能性があり、今後の男女共同参画を推進する上では、確認しておく必要がある。

さらに、コロナ下では、中高年男性の孤独・孤立が注目されることになったが、これは、現役時代に仕事以外の繋がりを持てなかったこと、性別役割分業の副産物であることが指摘されている。

本調査は、前述の問題意識を念頭に、コロナを経験した上でのライフスタイルにおける意識の変化、ライフスタイル、働き方に対する理想と実態について、男女別、年代別、配偶関係別等で確認し、今後の男女共同参画推進に向けた材料とする。

2. 調査検討委員会

本調査の実施に当たっては、有識者からなる検討委員会を設置し、開催した。

① 構成

氏名	所属
<主査> 稲葉 昭英	慶應義塾大学 文学部 教授
永瀬 伸子	お茶の水女子大学 基幹研究院 教授
永井 暁子	日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科 准教授

② 開催実績

回	日時	主な課題
第1回	令和4年12月5日(月)	・調査計画について ・調査票について
第2回	令和5年1月31日(火)	・調査結果(集計速報値)について ・分析方針について ・中間報告書の作成について ・最終報告書の構成について
第3回	令和5年3月3日(金)	・最終報告書の完成に向けて

3.モニター調査 調査事項

調査項目、設問項目一覧は以下のとおりである。

① 設問項目一覧

【スクリーニング調査】

設問番号	項目	設問文
—	性別	※性別は登録時情報を利用する為、本アンケートでは確認していない
F1	年齢	あなたの年齢をお知らせください。
F2	居住地域	お住まいの地域を教えてください。
Q1	配偶状況	現在、結婚相手や配偶者、恋人がいますか。
Q2	離婚・死別経験	過去に離婚・死別の経験はありますか。
Q3	同居している人と人数	現在、同居している方がいますか。同居している人数についてもお答えください。
Q4	子供の有無・同居している子供の年齢	子供の有無と、現在同居している子供の年齢についてお聞きします。当てはまるものを全てお選びください。
Q5	最終学歴	最後に行かれた(または現在行かれている)学校は次のどれにあたりますか。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。
Q6	自身の雇用形態	あなたの職業・雇用形態について、当てはまるものを選択してください。
Q7	自身の勤務形態(勤務時間)	現在の勤務形態について、最も当てはまるものを選択してください。
Q8	自身の職種	あなたご自身の仕事の種類について、実際にしている主な仕事の内容をお選びください。
Q9	勤務先の業種	あなたの勤務先の業種について教えてください。
Q10	勤務先の従業員数	あなたご自身の仕事について、勤め先の従業員数を教えてください。
Q11	最終学歴後、初めて仕事に就いた時期	先ほどお答えいただいた、最終学歴(※回答内容提示)を卒業された後、最初に仕事に就いた時期を教えてください。
Q12	最終学歴後に就いた仕事の雇用形態	最終学歴後に初めて就いた仕事の職業・雇用形態について、当てはまるものを選択してください。
Q13①	個人年収	今年度(2022年度)の①個人年収(あなたご自身)と、②世帯全体の年収について、教えてください。
Q13②	世帯年収	
Q14	配偶者・恋人の雇用形態	現在の配偶者、または恋人の職業・雇用形態を教えてください。
Q15	配偶者・恋人の勤務形態(勤務時間)	現在の配偶者、または恋人の勤務形態について、最も当てはまるものを選択してください。
Q16	配偶者・恋人の個人年収	今年度(2022年度)の配偶者、または恋人の個人年収について教えてください。

【本調査】

設問番号	項目	設問文
Q17	現在の雇用形態で働いている理由	あなたが現在の「職業・雇用形態」で働いている理由について、下記から当てはまるものをお選びください。
Q18	どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか	どのような条件があれば「正規の会社員・職員・従業員」として働きたいと思いますか。
Q19①	自身の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」(理想)	あなたご自身の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」に対する「①理想」と「②実際の状況」について、最も近いものをお選びください。
Q19②	自身の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」(現実)	
Q20①	配偶者・恋人の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」(理想)	配偶者・恋人の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」に対する「①理想」と「②実際の状況」について、あなたご自身の考えとして、最も近いものをお選びください。
Q20②	配偶者・恋人の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」(現実)	
Q21	仕事・働くことに対する現在の考え方	あなたの仕事・働くことに対する現在の考え方について、最も近いものをそれぞれお選びください。
Q22	仕事において必要と考えるもの	あなたの仕事において必要と考えるものを、下記の中からお選びください。
Q23	「仕事での昇進」 20代時点での考え方	仕事での昇進について、20代時点のあなたの見通し・考えとして最も近いものをお選びください。
Q24	昇進することへのイメージ	あなたは、昇進することについてどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについて最も近いものをお選びください。
Q25	今後、子供を持ちたいと思うか	あなたは今後、子供を持ちたいと思いますか。現在の考えに最も近いものを下記よりお選びください。
Q26	育児休業の取得経験	育児休業の取得経験について、下記よりお選びください。
Q27	育児休業取得(子供が0～3歳の頃)の希望	第一子が生まれた後、子供が0～3歳の頃の「育児休業取得」について、自分の希望(子供がいる人は当時の希望)をお答えください。
Q28	男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由	現在、男性の育児休業取得率が女性に比べて低い状況ですが、なぜ男性は育児休業を取得しないことが多いと思いますか？あなたの考えを教えてください。
Q29	育児休業取得への考え方	「育児休業」を取得することや、取得した後について、最も近いものをお選びください。
Q30①	自身のテレワークの実施頻度(最も多かった時期)	あなたご自身のテレワーク(在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイル勤務含む)実施頻度についてお聞きます。この3年の間で、①最も多かった時期と、②この3カ月の実施頻度について教えてください。
Q30②	自身のテレワークの実施頻度(この3カ月)	
Q31①	配偶者・恋人のテレワークの実施頻度(最も多かった時期)	あなたの配偶者・恋人のテレワーク(在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイル勤務含む)実施頻度についてお聞きます。この3年の間で、①最も多かった時期と、②この3カ月の実施頻度について教えてください。
Q31②	配偶者・恋人のテレワークの実施頻度(この3カ月)	

【本調査】

設問番号	項目	設問文
Q32①	仕事がある日の1日の時間配分(テレワーク以外)	仕事がある日の1日の時間配分について、現在の状況を分単位で教えてください。
Q32②	仕事がある日の1日の時間配分(テレワーク)	
Q33	仕事がない日／普段の1日の時間配分	働いている人は仕事がない日(勤め先がお休みの日)、働いていない人は普段の1日の時間配分について、現在の状況を分単位で教えてください。
Q34	生活の中の時間 増減希望	以下の生活の中の時間について、増やしたいか減らしたいか、当てはまるものをそれぞれお選びください。
Q35	配偶者・恋人の生活の中の時間 増減希望	以下の配偶者・恋人の生活の中の時間について、増やしてほしいか減らしてほしいか、当てはまるものをそれぞれお選びください。
Q36	勤務時間を減らしにくい理由	あなたご自身の勤務時間を減らしにくい理由として、あなたに当てはまるものをお選びください。
Q37	自身の仕事がある日の帰宅時間	仕事がある日の平均的な帰宅時間について、当てはまるものをお選びください。
Q38	配偶者・恋人の仕事がある日の帰宅時間	仕事がある日の配偶者・恋人の平均的な帰宅時間について、当てはまるものをお選びください。
Q39	現在の勤務時間による影響	あなたの仕事について、【Q7の回答を表示】とお答えいただきましたが、現在の勤務時間による影響として、どちらの方に近いか当てはまるものをお選びください。
Q40	家事・育児等への考え方	家事・育児等へのあなたのお考えについて、近いものをそれぞれお答えください。
Q41	家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向	下記の家事・育児等に関する外部サービスについて、利用経験(経験がない場合は興味)を教えてください。
Q42	自身の家事のスキル(能力)についての評価	あなたご自身の家事のスキル(能力)について、ご自身でどのように評価されていますか。
Q43	配偶者・恋人の実施する家事への満足度	あなたの配偶者・恋人が実施する家事について、どのぐらい満足できていますか。
Q44	配偶者・恋人の実施する家事についてどう感じるか	あなたの配偶者・恋人が実施する家事についてどう感じるか、当てはまるものを選んでください。
Q45	自身の育児のスキル(能力)についての評価	あなたご自身の育児スキル(能力)について、ご自身でどのように評価されていますか。
Q46	配偶者・恋人の実施する育児への満足度	あなたの配偶者・恋人が実施する育児について、どのぐらい満足できていますか(出来ていましたか)。
Q47	配偶者・恋人の実施する育児についてどう感じるか	あなたの配偶者・恋人が実施する育児についてどう感じるか(感じていたか)、当てはまるものを選んでください。
Q48	ストレスや責任などについての考え方	以下について、あなたご自身や周囲のことを考えた時にどう思われるかをお答えください。
Q49	自身の父親・母親等との関係について	以下について、あなたご自身のことを振り返った時にどうであったかをお答えください。
Q50	休みの日に過ごすことが多い人	あなたは、お休みの日に誰と時間を過ごすことが多いですか。当てはまるものを全てお答えください。

4. 調査方法・調査対象

調査方法	インターネット・モニターに対するアンケート調査 (株式会社マーケティング・アプリケーションズの登録モニターが対象)
調査名	あなた自身に関する調査
調査対象	国内在住のインターネット・モニター(20歳以上70歳未満)

5. 調査期間

インターネット・モニター に対するアンケート調査	令和4年12月23日(金)～令和5年1月6日(金)
-----------------------------	---------------------------

6. サンプル

① 回収数：20,000人

② サンプルの割付

令和2年国勢調査における「配偶者の有無×男女年代」とエリア(2区分)に基づき、以下のとおり回収。

③ 回収サンプルの割付

回収したサンプルの構成は以下のとおりである。

【人数割合】

		①東日本			②西日本		
		未婚	既婚		未婚	既婚	
			有配偶	離死別		有配偶	離死別
男性	20代	3.5	0.6	0.02	3.0	0.6	0.02
	30代	2.1	2.7	0.1	1.6	2.4	0.1
	40代	1.9	4.3	0.3	1.5	3.7	0.3
	50代	1.4	4.1	0.4	1.0	3.5	0.4
	60代	0.8	4.0	0.5	0.6	3.7	0.5
女性	20代	3.2	0.8	0.05	2.7	0.8	0.1
	30代	1.4	3.2	0.2	1.2	2.8	0.2
	40代	1.2	4.6	0.6	1.0	4.0	0.6
	50代	0.8	4.3	0.8	0.7	3.8	0.7
	60代	0.4	4.1	1.0	0.3	3.9	1.0
合計		100%					

【回収割付】

		①東日本			②西日本		
		未婚	既婚		未婚	既婚	
			有配偶	離死別		有配偶	離死別
男性	20代	706	118	4	595	118	4
	30代	410	545	22	323	487	22
	40代	376	855	58	294	749	57
	50代	272	820	85	203	699	80
	60代	156	804	98	123	740	96
女性	20代	636	167	9	549	160	11
	30代	287	632	45	239	561	47
	40代	236	920	111	204	808	113
	50代	158	856	150	136	754	150
	60代	77	824	200	68	770	201
合計		2万人					



本調査 回収数		①東日本			②西日本		
		未婚	既婚		未婚	既婚	
			有配偶	離死別		有配偶	離死別
男性	20代	706	118	4	595	118	4
	30代	410	545	22	323	487	22
	40代	376	855	58	294	749	57
	50代	272	820	85	203	699	80
	60代	156	804	98	123	740	96
女性	20代	636	167	9	549	160	11
	30代	287	632	45	239	561	47
	40代	236	921	111	204	808	113
	50代	158	857	150	136	754	150
	60代	77	824	200	68	770	201
合計		2万人					

※配偶関係「不詳」と回答している人を除いて総数を算出

※東日本・西日本の定義:東日本とは新潟県、長野県及び静岡県以東の都道府県、

西日本とは富山県、岐阜県及び愛知県以西の府県としている

7. 報告書内で使用する用語、定義

本調査で使用する用語		本調査で用いた定義	
世帯類型	夫婦のみ世帯	世帯主とその配偶者のみで構成する世帯。本調査では、回答者とその配偶者。	
	夫婦と子供から成る世帯	夫婦と未婚の子のみで構成する世帯。	
	単独世帯	世帯員が一人だけ(回答者のみ)の世帯。本調査では回答者本人のみの世帯。	
	母子・父子世帯	ひとり親と19歳以下の子供を含む世帯。本調査の定義においては、20歳以上の子供がいても、他に19歳以下の子供がいれば母子・父子世帯とみなす。他に祖父母などと同居していても該当。対象者は未婚もしくは離死別(有配偶は除外)。	
	親と同居世帯	自分と親の組合せで同居しており、かつ、配偶者・子供・孫と同居していない世帯。	
	親とのみ同居世帯	自分と親の組み合わせで同居しており、かつ、親以外の世帯員がいない世帯。	
配偶者の有無 ※回収設定時の分類	未婚	まだ結婚したことがない人をいう。未婚には乳幼児なども含む。	
	既婚	有配偶	現在結婚している人をいう(事実婚も含む)。
		離別・死別	「死別」とは配偶者と死別し、再婚していない人をいう。「離別」とは離婚し、再婚していない人をいう。
配偶者の有無 ※分析で使用する分類	独身	現在、配偶者がいない人をいう(「死別」「離別」経験の上、現在配偶者がいない人も含む)。	
	有配偶	現在結婚している人をいう(事実婚も含む)。	
有配偶の定義	法律婚	婚姻の届出をしている。	
	事実婚・内縁	婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にあることを指す。本人同士に結婚する意思があり、共同生活を営んでいるのであれば事実婚として成立。	
雇用形態	正規雇用労働者	就業状況を尋ねる設問のうち、「正規の会社員・職員・従業員」「会社などの役員」を選択した人。	
	非正規雇用労働者	同設問において、「パート・アルバイト」「労働派遣事業所の派遣社員」「契約社員」「嘱託」「その他の形で雇用されている」を選択した人。	
	自営業・自由業・その他	同設問において、「自営業・自由業(従業員がいる)」「自営業・自由業(従業員がいない)」「自家営業の手伝い(家族従業者)」「家庭内の賃仕事(内職)」「その他」を選択した人。	
	働いていない	同設問において、「主婦・主夫」「学生」「その他(働いていない)」を選択した人。	
就職氷河期	就職氷河期コア世代	1975年～1984年生まれ＝2022年調査時点38歳～47歳で定義。	
	就職氷河期コア世代より若い世代	1985年生まれ以降＝2022年調査時点20歳～37歳で定義。	
	就職氷河期コア世代より上の世代	1974年生まれ以前＝2022年調査時点48歳～69歳で定義。	

なお、結果数値(%)は、少数第二位を四捨五入(報告書内では少数第一位まで表章)しているため、合計の数字と内訳の計とが一致しない場合がある。

第2章 調査結果

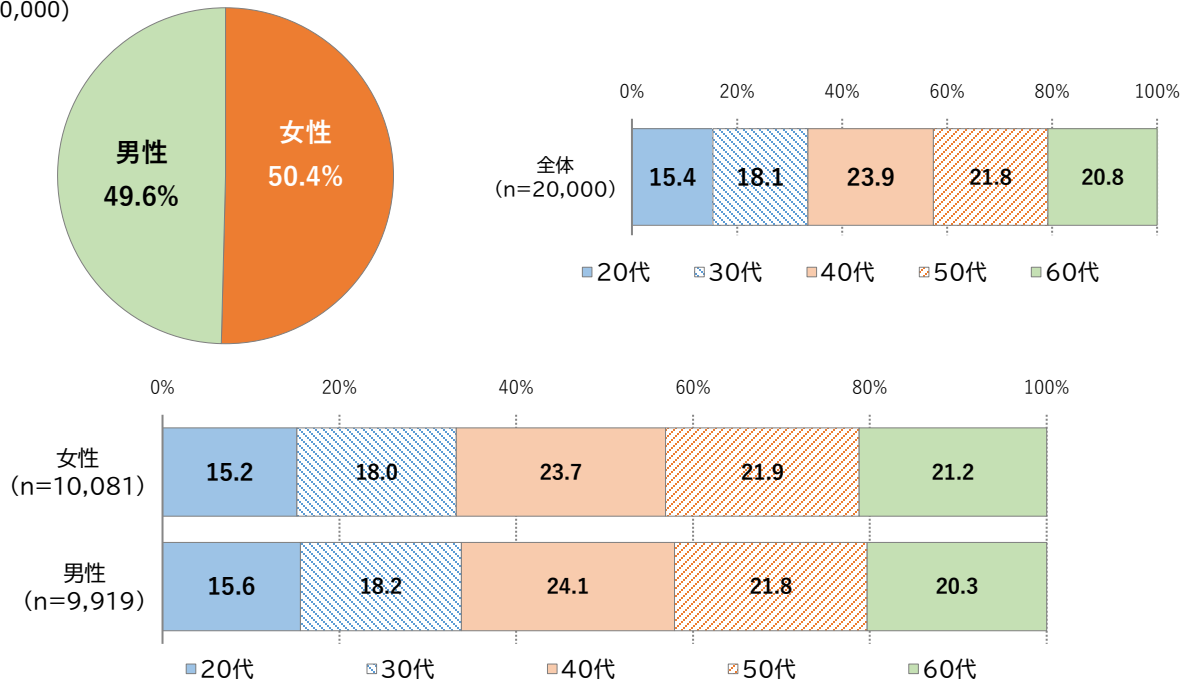
第2章 調査結果

1. 基本属性

・本調査における回答者の基本属性を以下にまとめる。

(1) 性別・年代

(n=20,000)



(2) 居住地

・都道府県ごとの回収数は以下の通り。

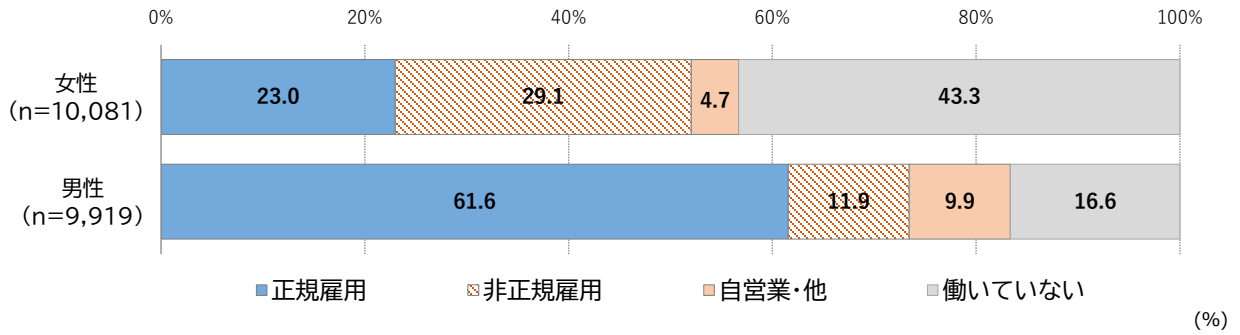
(人)

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
全体	944	156	145	349	126	139	222	322	254	233	1248	1005	2652	1698	299	149
女性	521	85	72	202	65	77	115	147	117	125	599	485	1271	831	171	74
男性	423	71	73	147	61	62	107	175	137	108	649	520	1381	867	128	75

	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
全体	149	90	84	286	286	477	1369	283	216	429	1673	1023	257	151	88	84
女性	69	41	44	137	142	246	693	148	111	218	904	532	122	73	45	37
男性	80	49	40	149	144	231	676	135	105	211	769	491	135	78	43	47

	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
全体	285	492	194	105	138	184	80	737	72	143	159	125	103	169	128
女性	148	236	103	44	70	86	41	401	38	70	88	54	43	85	55
男性	137	256	91	61	68	98	39	336	34	73	71	71	60	84	73

(3) 就業状況



	正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他					働いていない		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業 (従業員がいる)	自営業・自由業 (従業員がいない)	自家営業の手伝い (家族従業員)	家庭内の賃仕事 (内職)	その他	主婦・主夫	学生	その他 (働いていない)
全体 (n=20,000)	40.5	1.6	14.5	1.9	3.1	0.7	0.3	1.4	4.7	0.7	0.2	0.3	17.0	2.5	10.6
女性 (n=10,081)	22.5	0.5	23.2	2.5	2.6	0.4	0.3	0.6	2.6	0.8	0.3	0.3	32.7	2.2	8.4
男性 (n=9,919)	58.8	2.8	5.8	1.3	3.5	0.9	0.3	2.2	6.8	0.5	0.1	0.3	1.0	2.8	12.8

(4) 産業

	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
全体 (n=13,986)	1.2	0.2	5.1	18.1	1.3	5.4	5.0	3.6	7.6	3.8	2.8	4.2	5.2	11.5	15.6	9.3
女性 (n=5,717)	1.0	0.2	3.9	11.5	0.9	2.6	2.7	3.4	10.7	4.3	2.0	6.8	6.3	17.9	16.0	10.0
男性 (n=8,269)	1.3	0.3	6.0	22.7	1.6	7.3	6.6	3.8	5.5	3.5	3.3	2.4	4.5	7.0	15.4	8.8

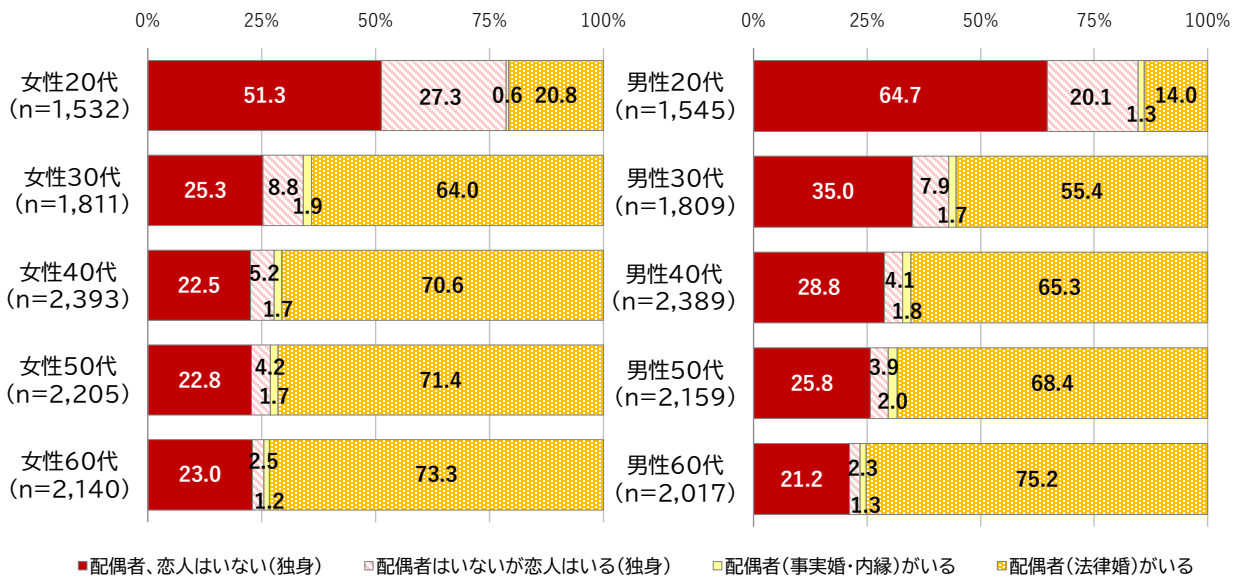
(5) 仕事の種類

	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
全体 (n=13,986)	27.0	21.9	7.8	8.7	12.1	1.1	0.9	7.4	1.8	1.3	3.2	7.0
女性 (n=5,717)	36.4	16.2	1.5	10.3	16.7	0.1	0.7	5.3	0.2	0.2	3.1	9.2
男性 (n=8,269)	20.4	25.8	12.2	7.5	8.9	1.8	1.0	8.8	2.9	2.1	3.2	5.4

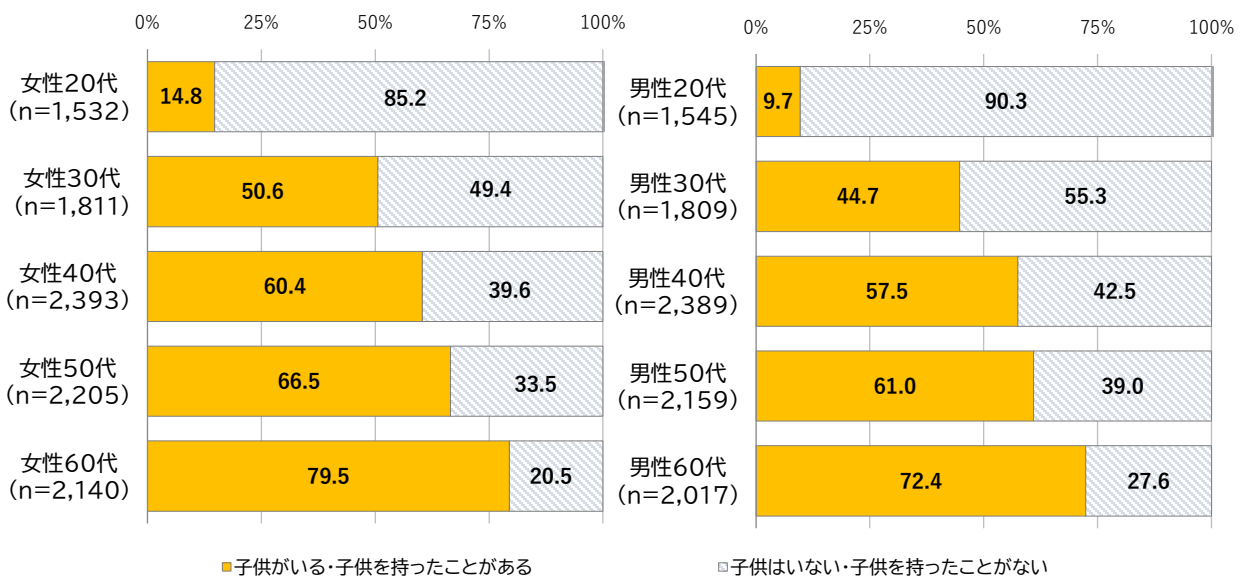
(6) 勤め先の従業員数

	1名~4名	5名~29名	30名~49名	50名~99名	100名~299名	300名~999名	1,000名以上	官公庁	民間企業・官公庁以外に勤めている	わからない
全体 (n=12,530)	4.7	17.4	7.1	9.8	13.2	11.9	22.9	3.9	0.5	8.6
女性 (n=5,246)	5.8	21.5	8.2	9.6	11.0	9.2	16.7	2.6	0.6	14.7
男性 (n=7,284)	3.9	14.5	6.3	9.9	14.9	13.8	27.3	4.8	0.4	4.2

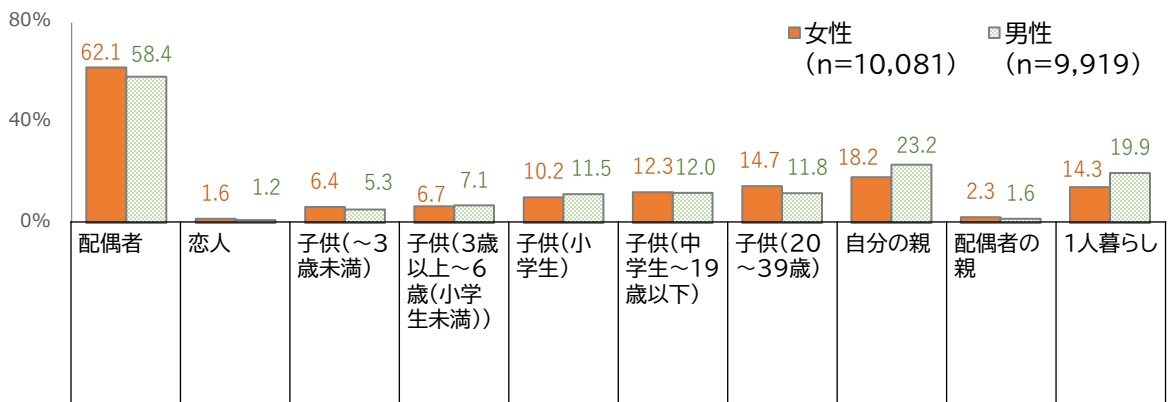
(7) 現在の配偶者等の状況



(8) 子供の有無

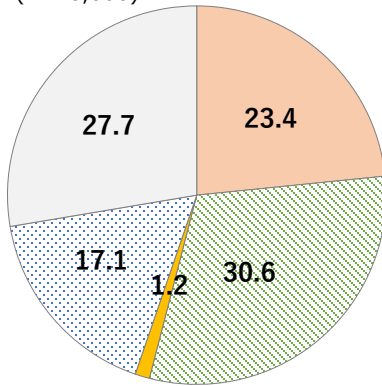


(9) 同居家族

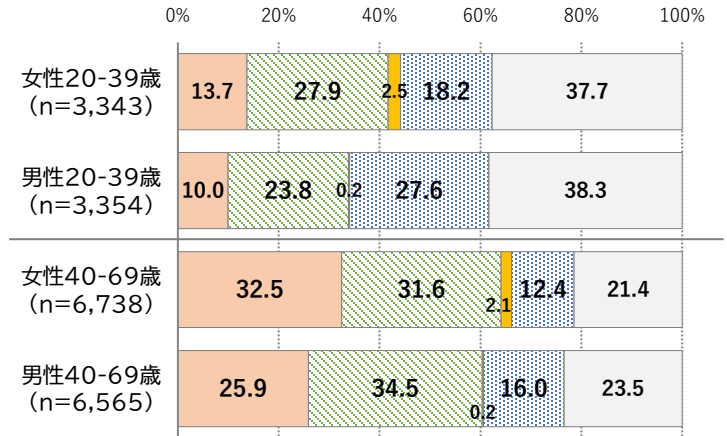


(10) 家族形態

(n=20,000)

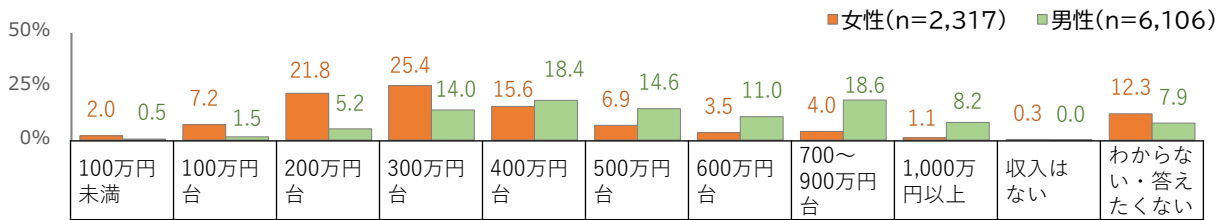


■ 夫婦のみ世帯 ■ 夫婦と子供から成る世帯 ■ 母子・父子世帯 ■ 単独世帯 ■ その他世帯

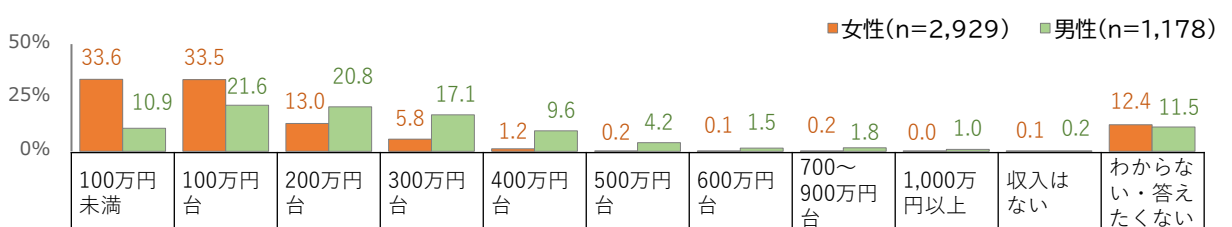


(11) 個人年収

[正規雇用]



[非正規雇用]

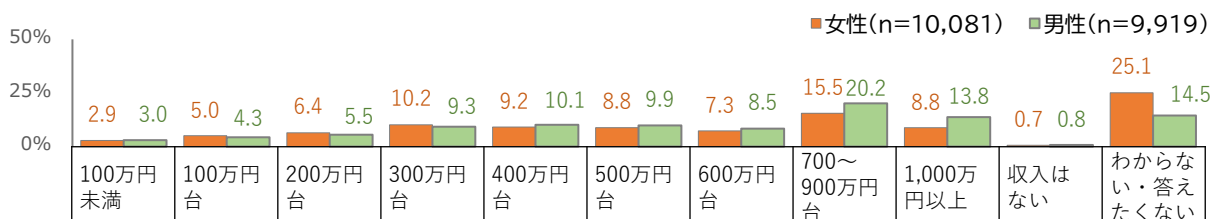


- 個人年収について、「女性／正規雇用」では、「300～400万円台」が41.0%。対して「男性／正規雇用」では、「300～400万円台」32.4%、「500～600万円台」25.5%、「700万円以上」26.8%。
- 「女性／非正規雇用」では、「200万円台以下」が80.0%。

個人年収	200万円以下	300～400万円台	500～600万円台	700万円以上
女性／正規雇用	31.0%	41.0%	10.4%	5.1%
男性／正規雇用	7.2%	32.4%	25.5%	26.8%
女性／非正規雇用	80.0%	7.0%	0.3%	0.2%
男性／非正規雇用	53.2%	26.7%	5.7%	2.8%

※「収入はない」「わからない 答えたくない」以外の数字を掲載

(12) 世帯年収



2. 働き方の現状と課題

(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象)

・「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、女性で8割を超える項目は、「雇用の安定性を重視して働きたい」「負荷の少ないことを仕事にして働きたい」「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」「残業が少ないことを優先して働きたい」。男性で8割を超える項目はないが、「雇用の安定性を重視して働きたい」79.5%が最も高く、次に「自分がやりたいことを仕事にして働きたい」76.4%が続く。

・男女で比較すると、「残業が少ないことを優先して働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高く、「専門性を磨けるように働きたい」「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」は男性の方が10%ポイント以上高い。

※80%を超えるセルに色掛け

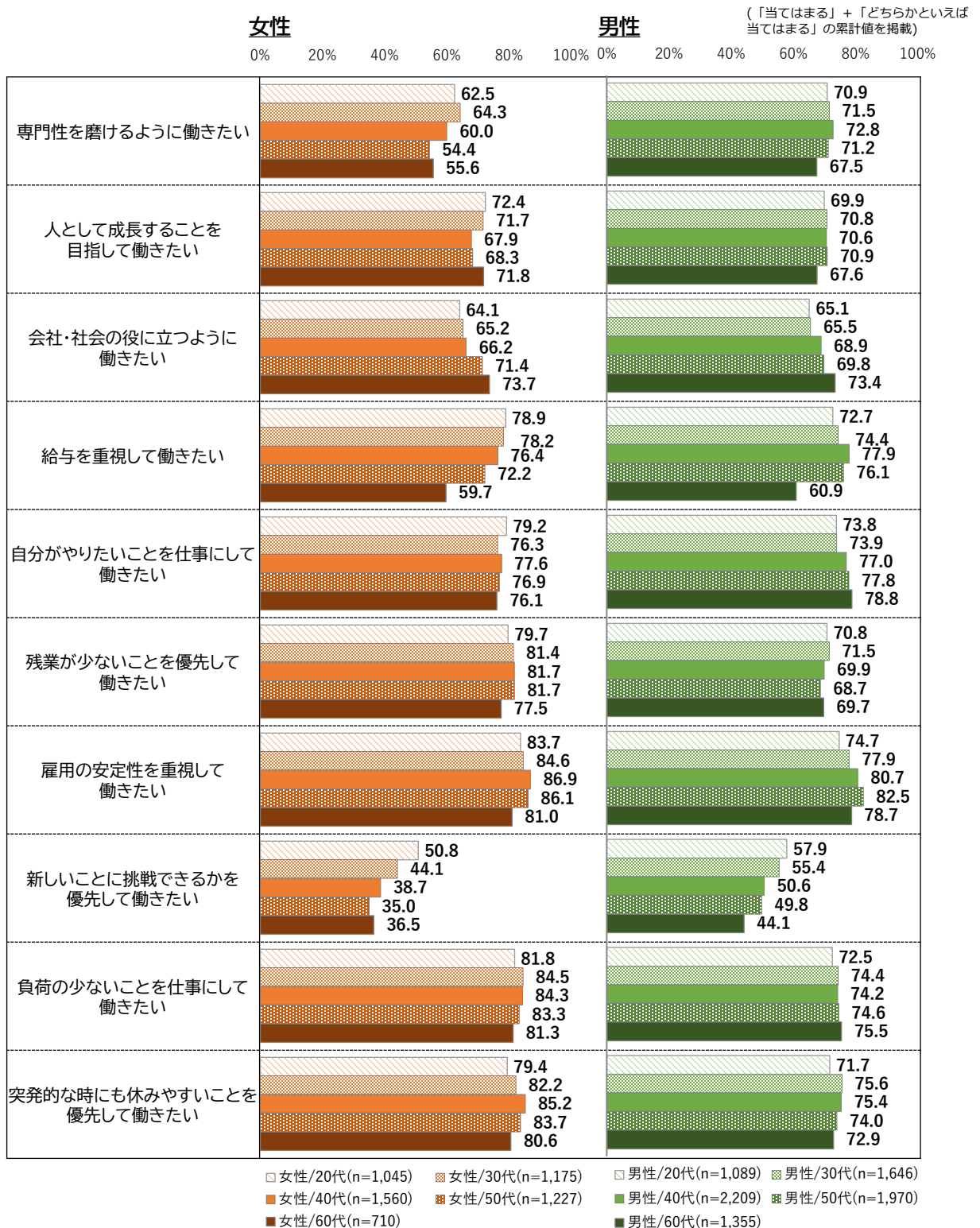
		女性(n=5,717)	男性(n=8,269)	0%	20%	40%	60%	80%	100%	当てはまる +どちらか といえば 当てはまる
女性	専門性を磨けるように働きたい	15.0	44.6	26.3	14.1	59.6%				
	人として成長することを目指して働きたい	15.4	54.6	21.6	8.3	70.1%				
	会社・社会の役に立つように働きたい	13.4	54.2	24.3	8.0	67.7%				
	給与を重視して働きたい	22.9	51.3	21.7	4.0	74.3%				
	自分がやりたいことを仕事にして働きたい	21.7	55.6	18.2	4.5	77.3%				
	残業が少ないことを優先して働きたい	30.9	49.9	15.7	3.6	80.8%				
	雇用の安定性を重視して働きたい	32.6	52.3	12.2	2.8	84.9%				
	新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい	7.5	33.5	44.0	15.0	40.9%				
	負荷の少ないことを仕事にして働きたい	28.5	54.8	13.9	2.8	83.3%				
	突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい	29.2	53.5	14.4	3.0	82.6%				
男性	専門性を磨けるように働きたい	19.1	51.9	19.5	9.5	71.0%				
	人として成長することを目指して働きたい	17.4	52.7	21.9	8.0	70.1%				
	会社・社会の役に立つように働きたい	15.6	53.1	23.2	8.1	68.7%				
	給与を重視して働きたい	22.7	50.6	21.7	5.0	73.3%				
	自分がやりたいことを仕事にして働きたい	22.3	54.1	18.3	5.2	76.4%				
	残業が少ないことを優先して働きたい	19.0	51.1	24.2	5.8	70.0%				
	雇用の安定性を重視して働きたい	26.0	53.5	15.9	4.7	79.5%				
	新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい	10.4	40.9	38.0	10.7	51.3%				
	負荷の少ないことを仕事にして働きたい	19.3	55.0	21.2	4.4	74.3%				
	突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい	18.8	55.4	21.2	4.6	74.2%				

■ 当てはまる
 □ どちらかといえば当てはまらない
 ▨ どちらかといえば当てはまる
 ■ 当てはまらない

(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象、年代別)

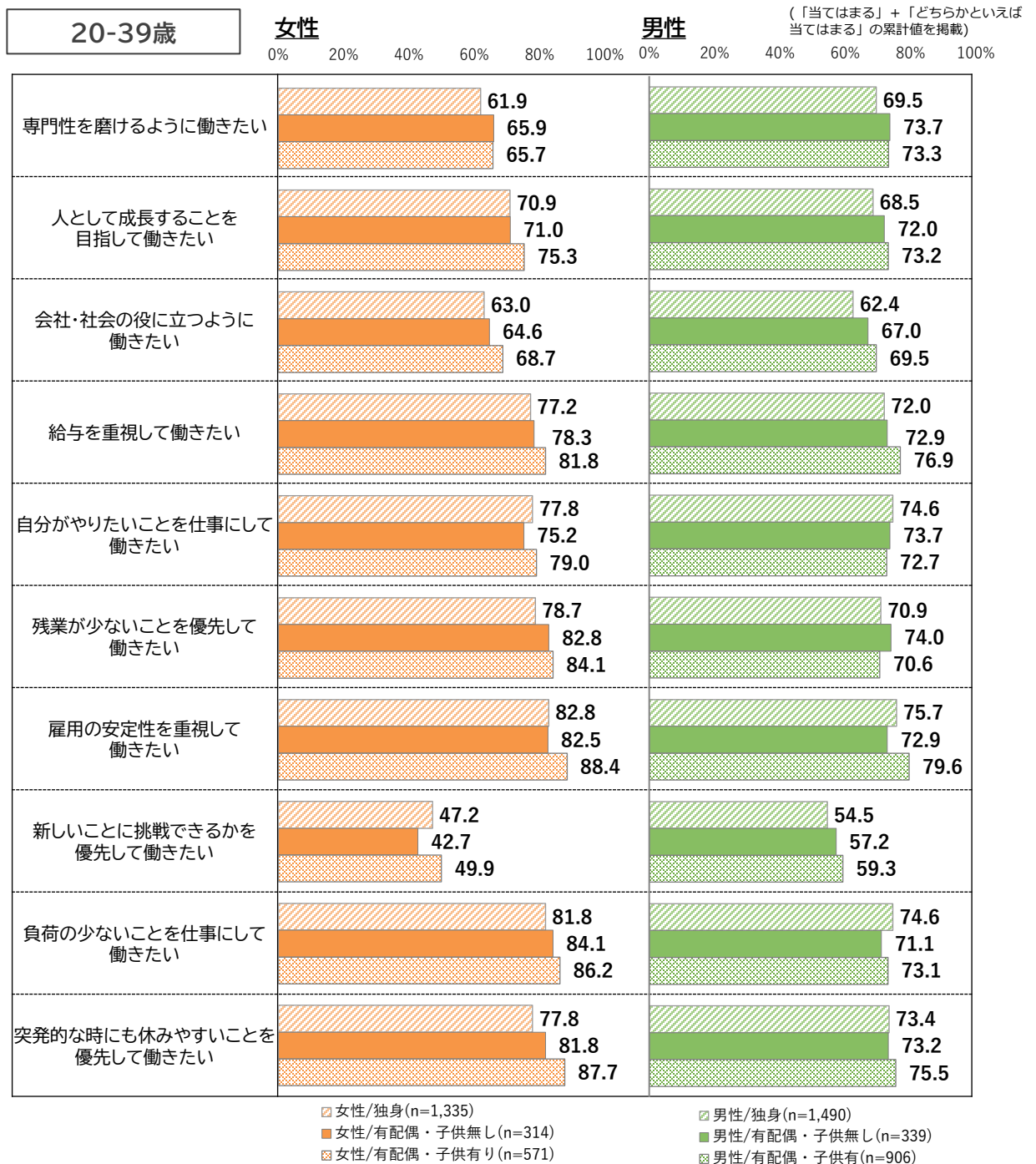
・年代別で見ると、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」が高く、年代が上がるほど「会社・社会の役に立つように働きたい」が高い傾向にある。また、女性では、若い年代ほど「給与を重視して働きたい」が高い傾向にある。

・同年代の男女で比較すると、若い年代ほど男女差が小さい傾向にあり、20代では男女で10%ポイント以上差がある項目はなかった。



(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象、配偶状況、子供の有無別)(20-39歳)

- ・20-39歳の人について配偶状況、子供の有無別に見てみると、女性では、「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」は、「有配偶・子供有り」の方が「独身」よりも10%ポイント近く高い。男性では、区分によって差があるものはなかった。
- ・男女で比較すると、「有配偶」では「負荷の少ないことを仕事にして働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高く、「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」は、男性の方が10%ポイント近く高い。また「有配偶・子供有り」では、「残業が少ないことを優先して働きたい」「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「独身」においては、男女差が10%ポイント以上ある項目はなかった。

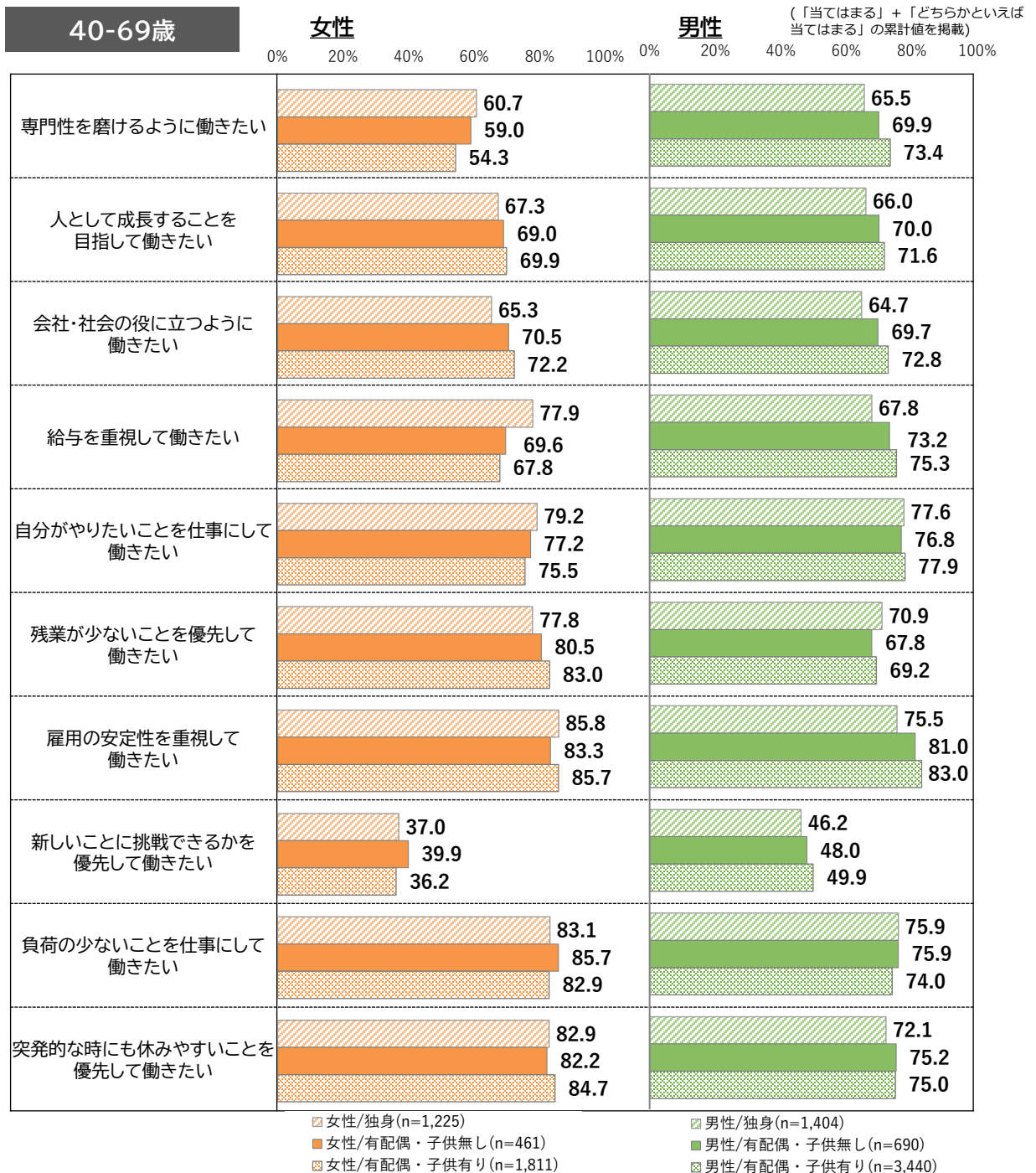


(1) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象、配偶状況、子供の有無別)(40-69歳)

・40-69歳の人について配偶状況、子供の有無別に見てみると、女性では、「給与を重視して働きたい」は「独身」の方が10%ポイント以上高い。男性では、10%ポイント以上差がある項目はなかったが、「会社・社会の役に立つように働きたい」「専門性を磨けるように働きたい」「給与を重視して働きたい」「雇用の安定性を重視して働きたい」は、「有配偶・子供有り」の方が8%ポイント近く高い。

・男女で比較すると、「有配偶」では「残業が少ないことを優先して働きたい」「負荷の少ないことを仕事にして働きたい」は、女性の方が10%ポイント近く高く、「専門性を磨けるように働きたい」は、男性の方が10%ポイント以上高い。また、「有配偶・子供有り」では、「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」は、男性の方が10%ポイント以上高い。

・「独身」では、「給与を重視して働きたい」「雇用の安定性を重視して働きたい」「突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい」は女性の方が10%ポイント以上高い。



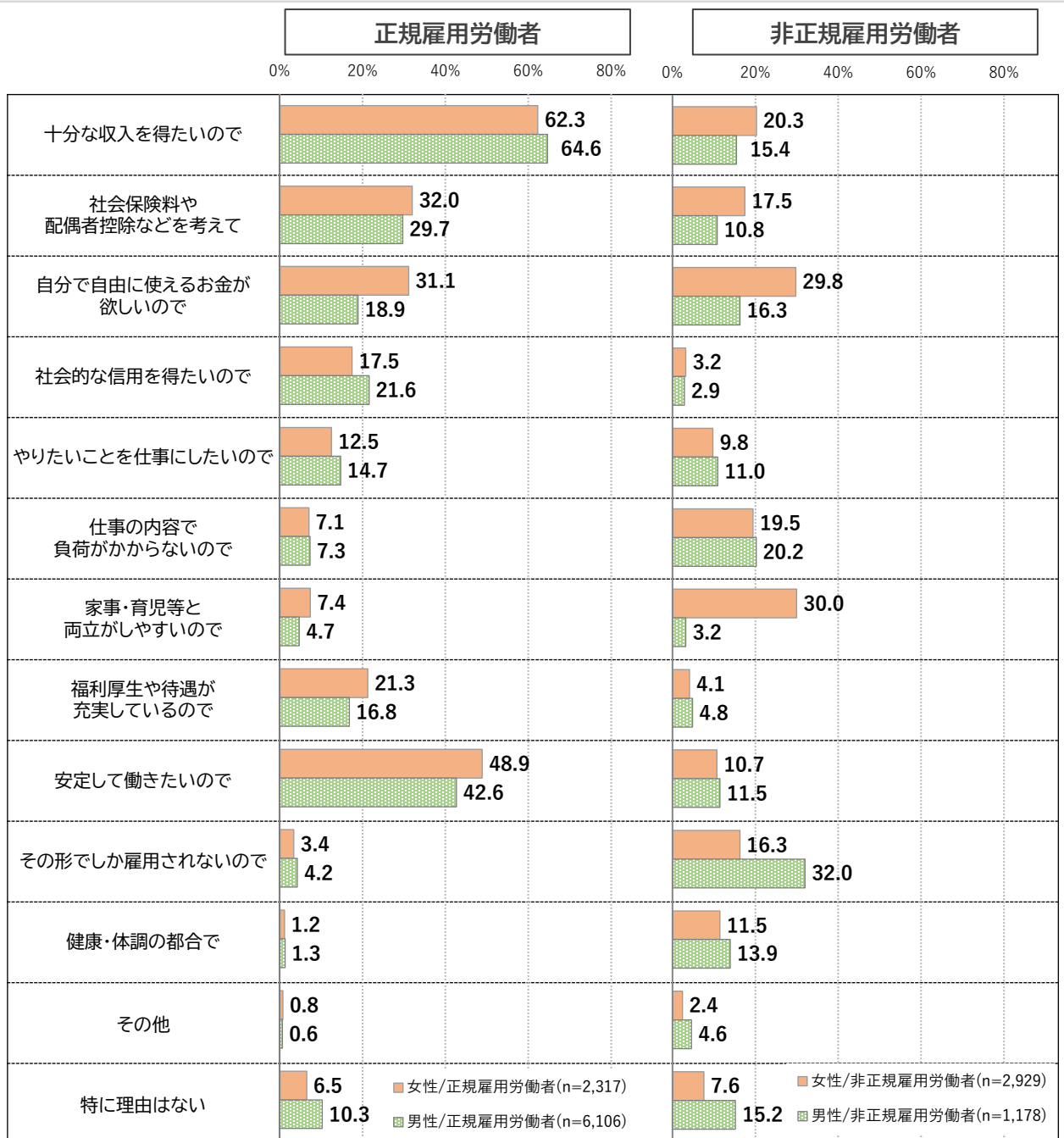
(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由

・雇用形態別に見てみると、正規雇用労働者では、男女ともに「十分な収入を得たいので」が6割強と最も高く、次に「安定して働きたいので」、「社会保険料や配偶者控除などを考えて」が続く。

・非正規雇用労働者では、女性では「家事・育児等と両立がしやすいので」30.0%が最も高く、次に「自分で自由に使えるお金が欲しいので」29.8%が続く。男性では「その形でしか雇用されないの」32.0%が最も高く、次に「仕事の内容で負荷がかからないので」20.2%が続く。

・男女別で比較すると、正規雇用労働者・非正規雇用労働者どちらも「自分で自由に使えるお金が欲しいので」は女性の方が10%ポイント以上高い。非正規雇用労働者では、「家事・育児等と両立がしやすいので」は女性の方が10%ポイント以上高く、「その形でしか雇用されないの」は男性の方が10%ポイント以上高い。

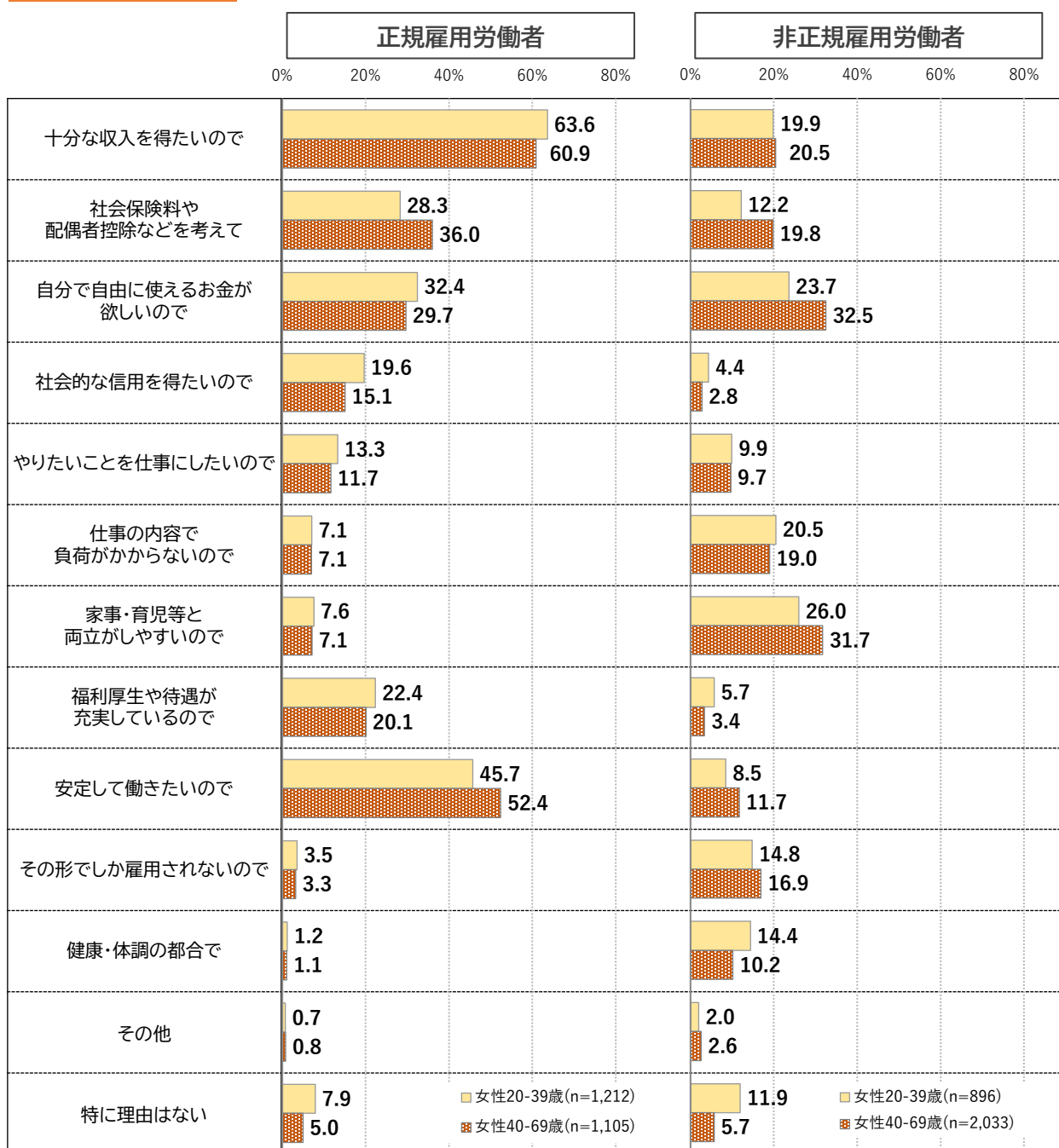
・正規雇用労働者と比較すると、非正規雇用労働者では、男女ともに「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないの」「健康・体調の都合で」が10%ポイント以上高い。女性では、「家事・育児等と両立がしやすいので」も10%ポイント以上高い。



(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由(女性、年代別)

- ・女性について、20-39歳、40-69歳の年代別に見てみると、正規雇用労働者では、どちらの年代でも「十分な収入を得たいので」が最も高く6割強、次に「安定して働きたいので」が続く。なお、年代で10%ポイント以上差がある項目はなかった。
- ・非正規雇用労働者では、20-39歳では「家事・育児等と両立がしやすいので」26.0%が最も高く、次に「自分で自由に使えるお金が欲しいので」23.7%が続く。40-69歳では「自分で自由に使えるお金が欲しいので」32.5%が最も高く、次に「家事・育児等と両立がしやすいので」31.7%が続く。年代で10%ポイント以上差がある項目はなかった。
- ・正規雇用労働者と比較すると、非正規雇用労働者では、どちらの年代でも「家事・育児等と両立がしやすいので」「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないのでは」が10%ポイント以上高い。20-39歳では、「健康・体調の都合で」も10%ポイント以上高い。

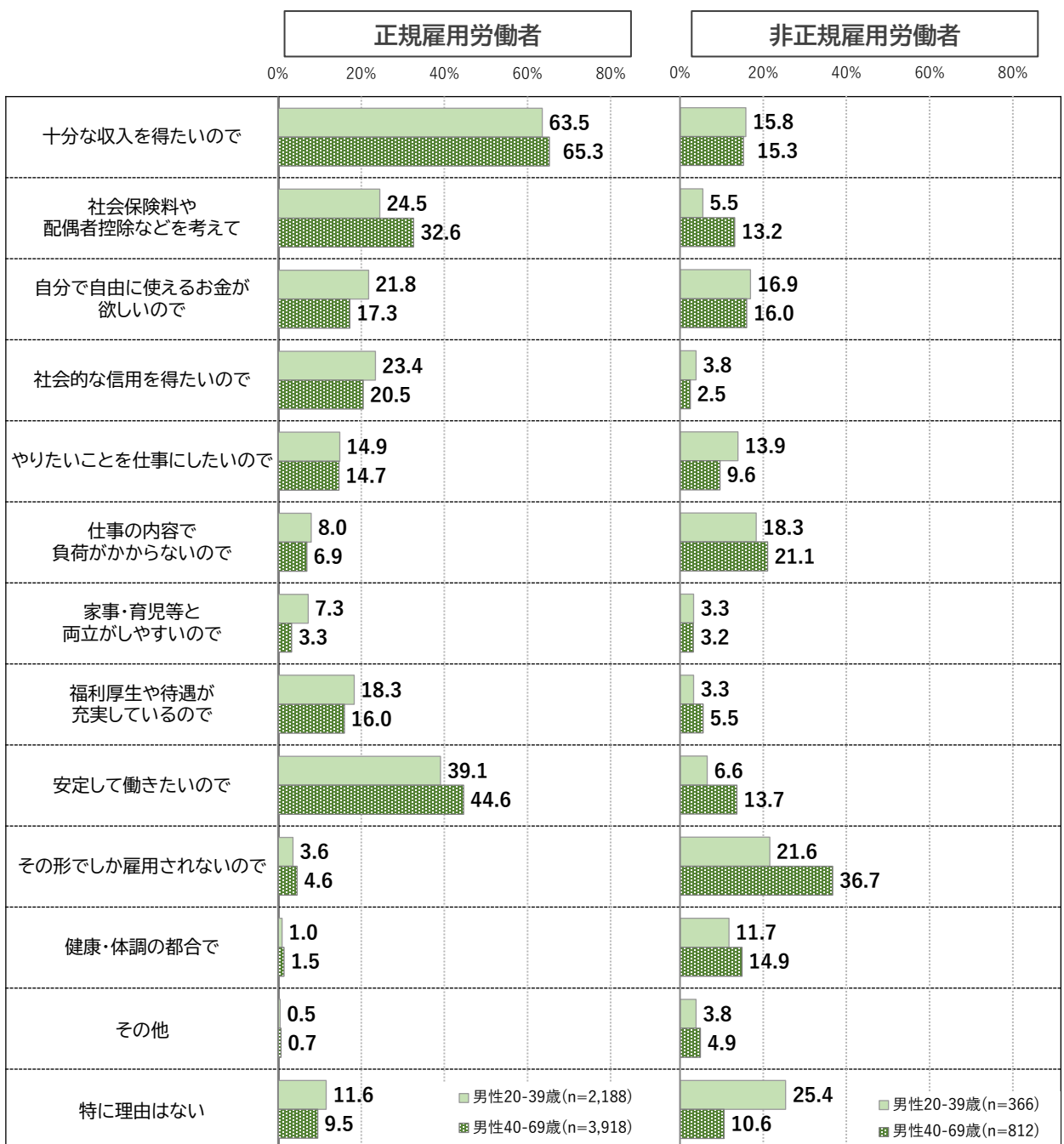
女性年代別



(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由(男性、年代別)

- ・男性について、20-39歳、40-69歳の年代別に見てみると、正規雇用労働者では、どちらの年代でも「十分な収入を得たいので」が6割強と最も高く、次に「安定して働きたいので」が続く。年代で10%ポイント以上差がある項目はない。
- ・非正規雇用労働者では、40-69歳では「その形でしか雇用されないので」36.7%が最も高く、20-39歳(21.6%)と10%ポイント以上差がある。一方、20-39歳では「特に理由はない」25.4%が最も高い。
- ・正規雇用労働者と比較すると、非正規雇用労働者では、どちらの年代でも「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないので」「健康・体調の都合で」が10%ポイント以上高い。また20-39歳では「特に理由はない」も非正規雇用労働者の方が10%ポイント以上高い。

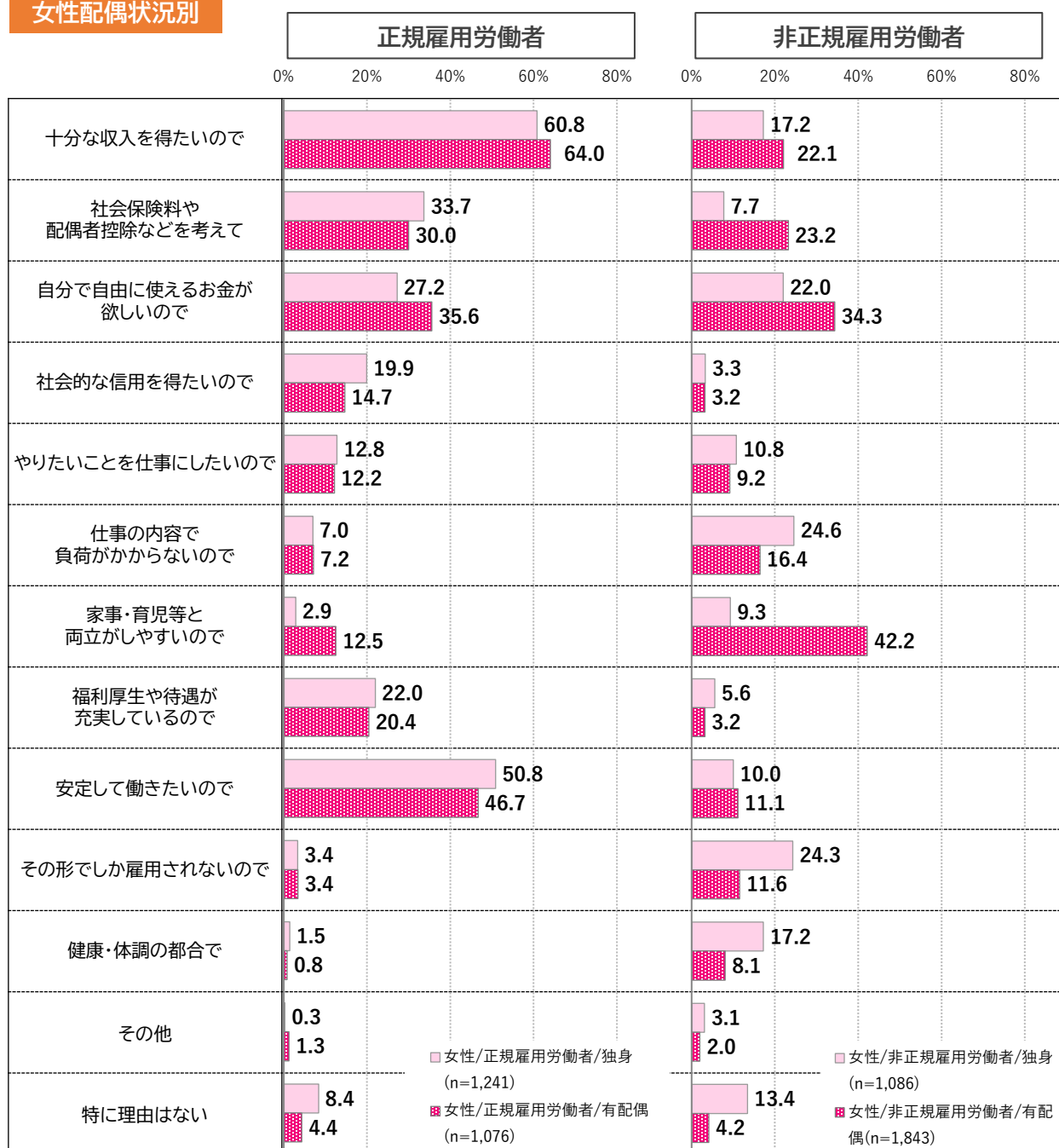
男性年代別



(2) 現在の職業・雇用形態で働いている理由(女性、配偶状況別)

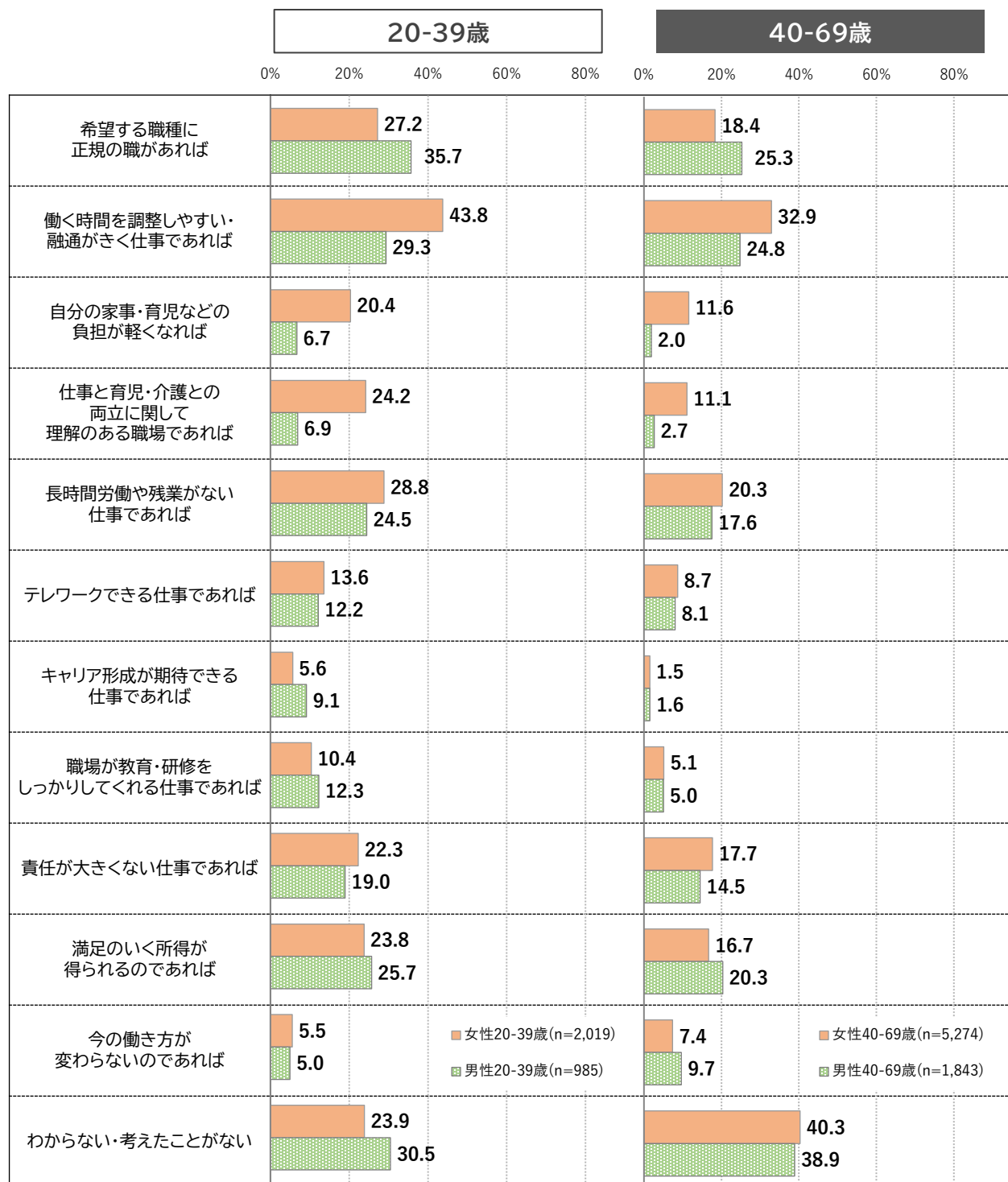
- ・女性について、配偶状況別に見てみると、正規雇用労働者では、どちらの区分でも「十分な収入を得たいので」が6割強と最も高く、次に「安定して働きたいので」が続く。10%ポイント以上差がある項目はなかった。
- ・非正規雇用労働者では、独身では「仕事の内容で負荷がかからないので」が24.6%と最も高く、次に「その形でしか雇用されないのでは」24.3%続く。有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」42.2%が最も高く、次に「自分で自由に使えるお金が欲しいので」34.3%が続く。なお、独身の方が「その形でしか雇用されないのでは」が10%ポイント以上高く、有配偶の方が「社会保険料や配偶者控除などを考えて」「自分で自由に使えるお金が欲しいので」「家事・育児等と両立がしやすいので」が10%ポイント以上高い。
- ・非正規雇用労働者について、正規雇用労働者と比較すると、独身では「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないのでは」「健康・体調の都合で」、有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」が10%ポイント以上高い。

女性配偶状況別



(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(非正規雇用労働者もしくは無職者対象)

- ・20-39歳、40-69歳の年代別に見てみると、20-39歳については、女性では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」43.8%が最も高く、次に「長時間労働や残業がない仕事であれば」28.8%、「希望する職種に正規の職があれば」27.2%が続く。
- ・40-69歳については、女性では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」32.9%が最も高く、次に「長時間労働や残業がない仕事であれば」20.3%が続くが、「わからない・考えたことがない」も40.3%と高い。
- ・男女で比較すると、20-39歳では、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は女性の方が10%ポイント以上高い。



(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(非正規雇用労働者対象・産業別)

※対象数30人以上かつ30%以上のセルに色掛け

女性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=25	n=1	n=55	n=302	n=26	n=48	n=88	n=75	n=461	n=92	n=36	n=293	n=184	n=450	n=504	n=289
希望する職種に正規の職があれば	24.0	100.0	25.5	30.5	30.8	45.8	27.3	29.3	20.6	45.7	22.2	19.5	29.3	21.3	29.0	27.7
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	36.0	100.0	40.0	39.1	50.0	35.4	42.0	37.3	41.2	47.8	25.0	38.6	34.8	42.9	39.5	38.1
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	8.0	-	20.0	14.2	11.5	6.3	17.0	9.3	15.2	12.0	16.7	14.0	12.5	20.7	13.1	14.5
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	8.0	-	18.2	16.2	7.7	4.2	10.2	16.0	13.4	16.3	11.1	15.7	15.8	19.1	14.3	15.2
長時間労働や残業がない仕事であれば	24.0	-	23.6	22.8	30.8	31.3	34.1	25.3	22.8	35.9	25.0	23.2	27.2	26.7	27.8	20.1
テレワークできる仕事であれば	8.0	-	14.5	7.3	7.7	14.6	8.0	14.7	6.5	14.1	19.4	3.4	9.8	4.4	10.3	10.0
キャリア形成が期待できる仕事であれば	-	-	1.8	1.3	3.8	4.2	4.5	2.7	3.3	3.3	2.8	3.4	5.4	0.9	0.8	3.1
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	4.0	-	7.3	6.3	7.7	4.2	6.8	6.7	8.9	13.0	2.8	5.8	6.5	4.7	5.6	6.9
責任が大きくない仕事であれば	20.0	-	14.5	24.2	38.5	16.7	22.7	28.0	22.6	25.0	19.4	20.8	18.5	21.3	23.2	17.6
満足のいく所得が得られるのであれば	16.0	100.0	27.3	28.1	23.1	25.0	28.4	24.0	20.4	31.5	22.2	19.1	21.2	21.1	23.4	19.4
今の働き方が変わらないのであれば	24.0	-	10.9	18.5	19.2	25.0	22.7	25.3	15.0	20.7	25.0	14.7	17.4	18.7	16.9	13.5
わからない・考えたことがない	20.0	-	14.5	18.9	11.5	10.4	13.6	21.3	30.4	13.0	16.7	27.6	23.4	18.9	25.0	29.1

男性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=13	n=4	n=30	n=215	n=7	n=50	n=98	n=28	n=92	n=23	n=39	n=50	n=81	n=71	n=253	n=124
希望する職種に正規の職があれば	30.8	-	46.7	43.7	14.3	34.0	32.7	32.1	32.6	30.4	25.6	36.0	38.3	28.2	36.8	29.8
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	38.5	25.0	23.3	21.9	14.3	26.0	24.5	28.6	41.3	17.4	35.9	26.0	27.2	31.0	30.8	25.0
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	15.4	50.0	3.3	2.8	14.3	6.0	2.0	-	2.2	4.3	2.6	6.0	4.9	1.4	4.0	0.8
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	7.7	-	3.3	3.7	28.6	-	3.1	3.6	5.4	-	5.1	2.0	4.9	2.8	4.0	1.6
長時間労働や残業がない仕事であれば	38.5	25.0	23.3	18.6	42.9	26.0	15.3	14.3	27.2	8.7	15.4	26.0	19.8	18.3	21.3	21.0
テレワークできる仕事であれば	-	25.0	3.3	7.4	28.6	24.0	5.1	3.6	5.4	-	5.1	2.0	7.4	1.4	7.5	8.1
キャリア形成が期待できる仕事であれば	7.7	-	3.3	3.7	-	8.0	1.0	10.7	3.3	-	-	4.0	6.2	2.8	3.6	5.6
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	-	-	6.7	7.9	-	6.0	4.1	-	4.3	-	5.1	10.0	8.6	9.9	6.3	8.1
責任が大きくない仕事であれば	30.8	-	13.3	17.7	28.6	22.0	18.4	21.4	17.4	8.7	7.7	20.0	23.5	18.3	19.0	21.0
満足のいく所得が得られるのであれば	38.5	-	23.3	31.2	14.3	30.0	28.6	21.4	20.7	21.7	20.5	28.0	25.9	12.7	26.9	21.0
今の働き方が変わらないのであれば	23.1	-	26.7	20.0	-	28.0	25.5	21.4	16.3	21.7	20.5	12.0	19.8	18.3	16.2	19.4
わからない・考えたことがない	15.4	-	16.7	17.7	14.3	14.0	20.4	21.4	19.6	34.8	23.1	36.0	19.8	26.8	24.9	31.5

※該当なしは「-」と表示

(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(非正規雇用労働者対象・仕事の種類別)

※対象数30人以上かつ30%以上のセルに色掛け

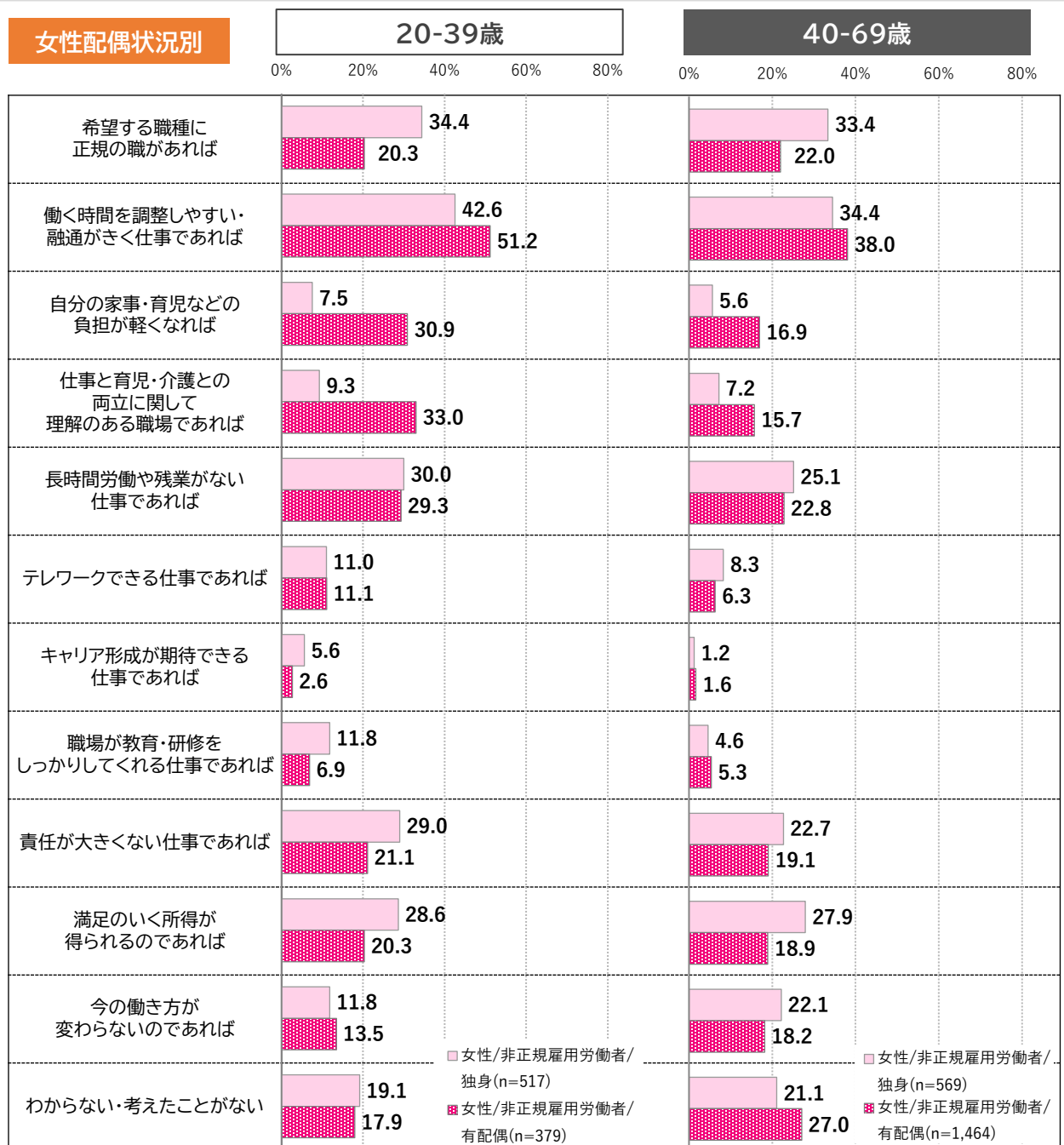
女性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=852	n=279	n=6	n=420	n=625	n=4	n=17	n=225	n=8	n=0	n=164	n=329
希望する職種に正規の職があれば	35.9	25.1	-	20.0	23.2	-	23.5	24.4	37.5	-	20.7	20.1
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	38.3	40.5	-	39.5	42.4	25.0	41.2	41.8	25.0	-	41.5	38.0
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	11.9	19.4	-	14.8	16.2	-	11.8	14.7	12.5	-	18.3	15.8
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	14.9	19.4	50.0	14.3	15.7	-	5.9	16.4	-	-	11.6	13.7
長時間労働や残業がない仕事であれば	26.5	26.9	33.3	22.1	27.4	25.0	23.5	23.6	25.0	-	28.0	21.3
テレワークできる仕事であれば	13.8	7.2	-	6.4	5.0	25.0	5.9	5.3	-	-	5.5	5.8
キャリア形成が期待できる仕事であれば	2.3	2.9	33.3	2.9	2.4	-	-	0.9	12.5	-	1.8	2.1
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	6.3	4.3	-	8.1	6.7	25.0	-	6.2	12.5	-	6.7	6.7
責任が大きくない仕事であれば	20.9	19.0	-	20.5	23.7	50.0	5.9	25.8	25.0	-	23.2	21.9
満足のいく所得が得られるのであれば	24.9	25.8	-	19.3	21.4	50.0	11.8	27.1	37.5	-	23.8	16.7
今の働き方が変わらないのであれば	19.8	16.1	-	13.6	15.8	-	17.6	17.3	25.0	-	21.3	16.7
わからない・考えたことがない	17.0	17.6	-	32.1	24.5	50.0	23.5	21.8	12.5	-	26.8	30.7

男性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=214	n=158	n=16	n=98	n=185	n=43	n=9	n=154	n=28	n=17	n=121	n=135
希望する職種に正規の職があれば	34.1	33.5	12.5	37.8	35.7	39.5	22.2	45.5	50.0	64.7	31.4	25.2
働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば	22.0	29.7	25.0	35.7	33.0	32.6	55.6	20.1	21.4	17.6	39.7	20.0
自分の家事・育児などの負担が軽くなれば	2.3	3.8	-	5.1	4.9	2.3	22.2	2.6	-	11.8	4.1	0.7
仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば	1.9	3.2	18.8	7.1	4.3	4.7	11.1	1.9	-	5.9	2.5	3.7
長時間労働や残業がない仕事であれば	16.4	21.5	18.8	23.5	24.3	20.9	44.4	17.5	14.3	23.5	24.8	18.5
テレワークできる仕事であれば	12.1	11.4	6.3	6.1	4.9	7.0	-	3.9	-	11.8	4.1	4.4
キャリア形成が期待できる仕事であれば	2.8	7.6	-	8.2	4.3	2.3	11.1	2.6	-	5.9	1.7	2.2
職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば	4.2	7.6	6.3	7.1	8.6	7.0	-	7.8	3.6	5.9	5.0	6.7
責任が大きくない仕事であれば	14.0	20.9	6.3	14.3	18.9	18.6	33.3	16.9	21.4	11.8	31.4	17.8
満足のいく所得が得られるのであれば	27.6	28.5	25.0	20.4	20.0	25.6	44.4	32.5	50.0	11.8	26.4	15.6
今の働き方が変わらないのであれば	24.8	21.5	37.5	16.3	13.5	9.3	22.2	16.9	28.6	5.9	23.1	17.8
わからない・考えたことがない	22.0	22.2	12.5	17.3	25.9	20.9	22.2	17.5	3.6	17.6	19.0	40.7

※該当なしは「-」と表示

(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(女性非正規雇用労働者対象)

- ・女性について、配偶状況別に見てみると、20-39歳では、どちらの区分でも「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高い。なお、「希望する職種に正規の職があれば」は独身の方が10%ポイント以上高く、「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は有配偶の方が10%ポイント以上高い。
- ・40-69歳では、独身では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」34.4%が最も高く、次に「希望する職種に正規の職があれば」33.4%が続く。有配偶では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」38.0%が最も高いが、「わからない・考えたことがない」も27.0%と高い。
- ・年代別で比較すると、独身の方が年代差は小さく、全体的に似た傾向にあるが、「今の働き方が変わらないのであれば」は40-69歳の方が10%ポイント以上高い。有配偶では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は20-39歳の方が10%ポイント以上高い。

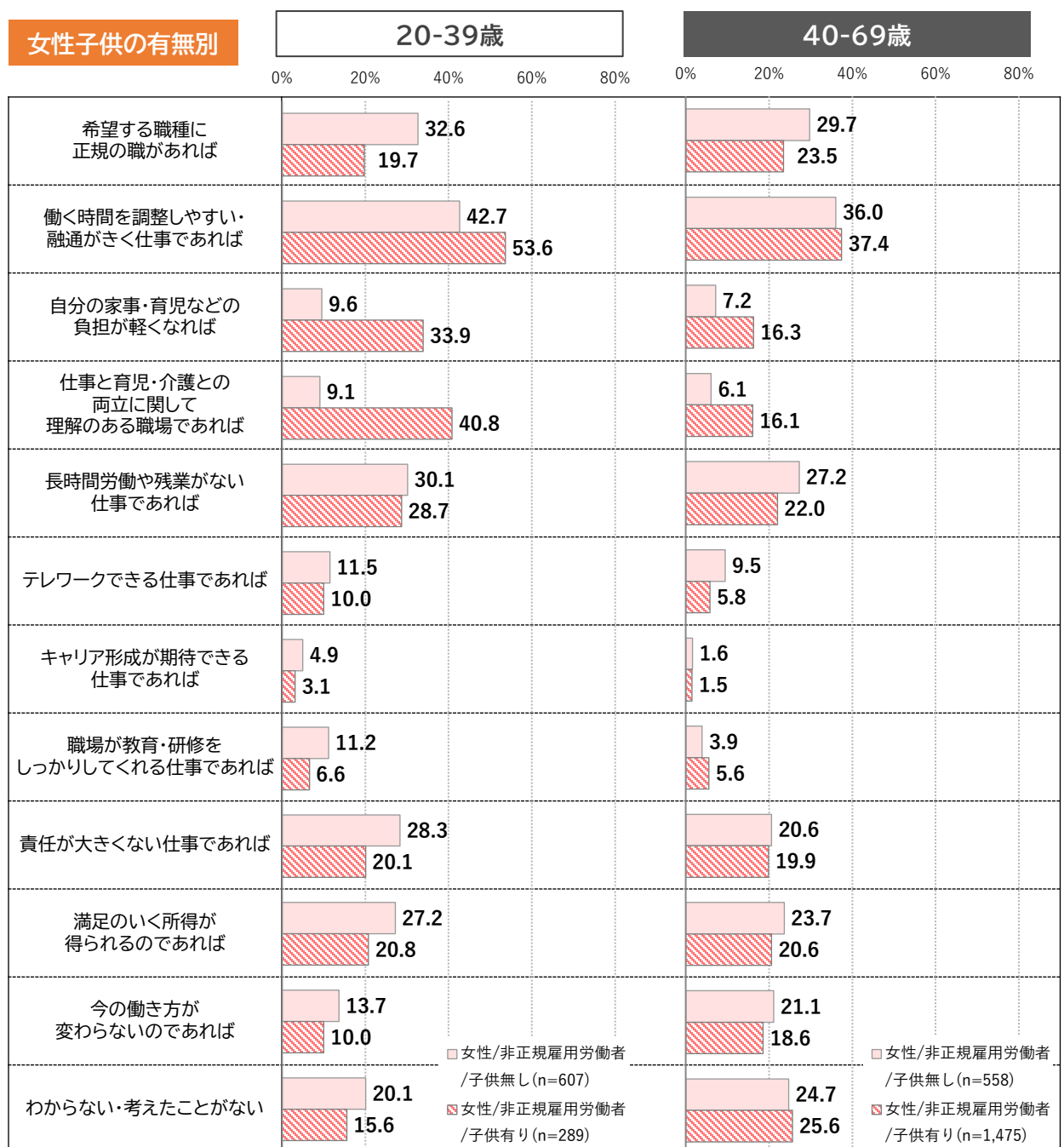


(3) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか(女性非正規雇用労働者対象)

・女性について子供の有無別で見ると、20-39歳では、子供の有無にかかわらず、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高い。また、「希望する職種に正規の職があれば」は子供無しの方が10%ポイント以上高く、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は子供有りの方が10%ポイント以上高い。

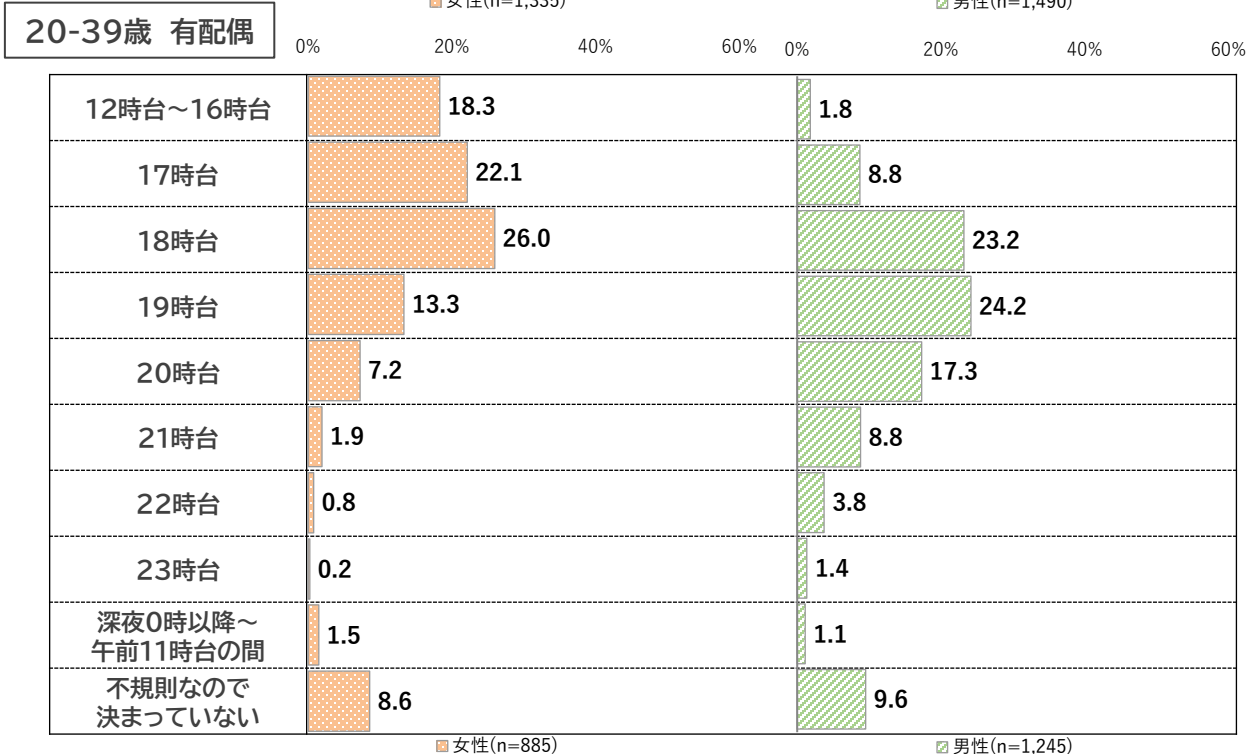
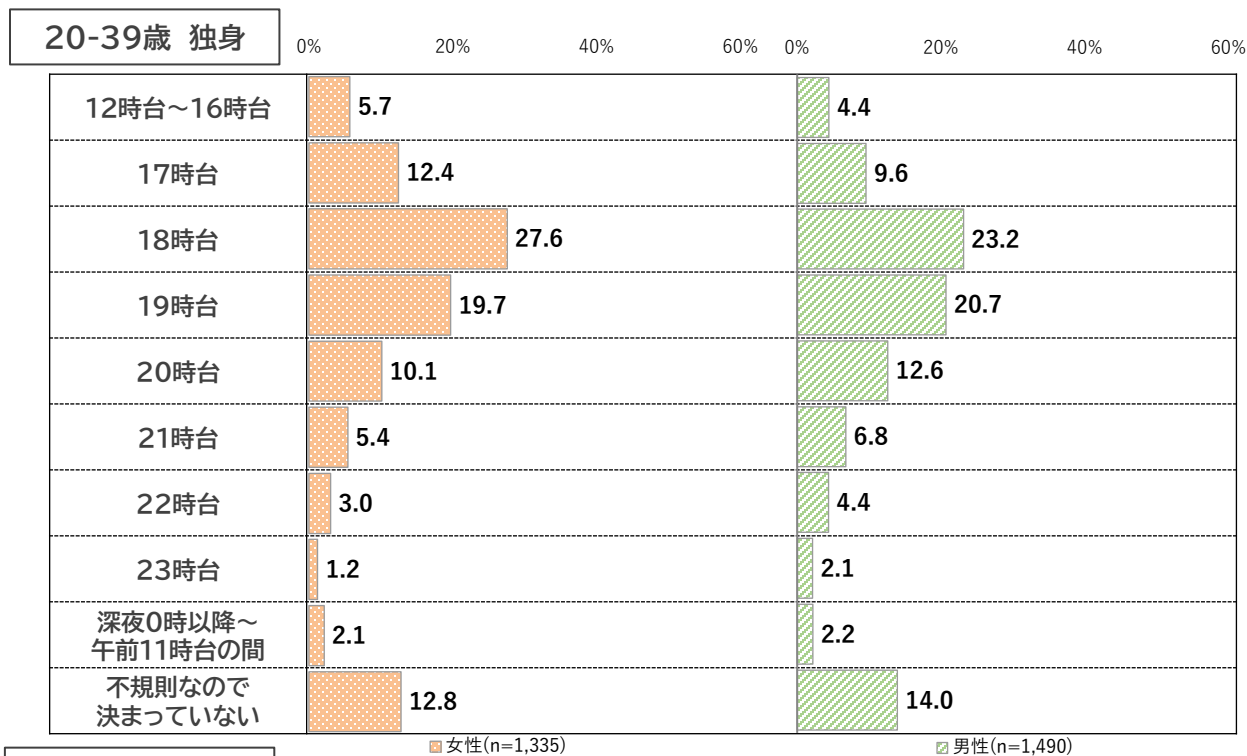
・40-69歳では、子供の有無にかかわらず、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高い。「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は子供有りの方が10%ポイント高い。

・年代別で比較すると、子供無しの方が年代差は少なく、10%ポイント以上差がある項目はなかった。一方、子供有りでは、「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は20-39歳の方が10%ポイント以上高い。



(4) 仕事がある日の平均的な帰宅時間(有職者対象、配偶状況別)(20-39歳)

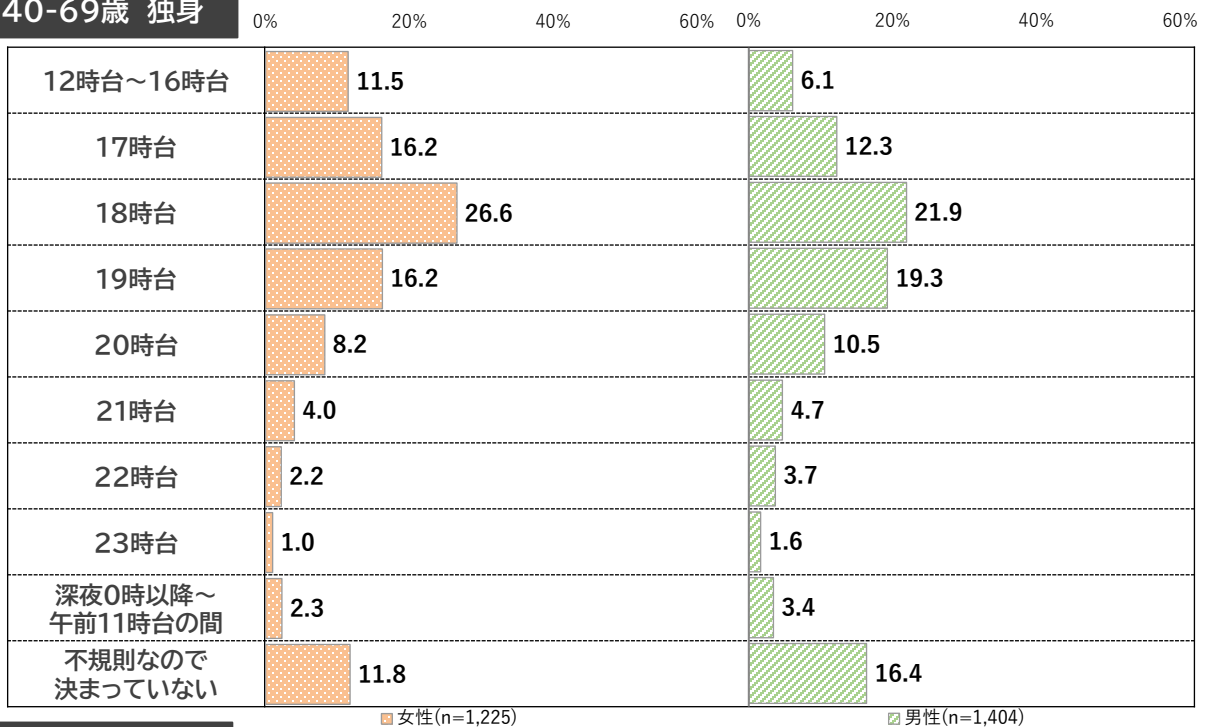
- 20-39歳の人について配偶状況別で見ると、独身では、「18時台」が女性で27.6%、男性で23.2%と男女ともに最も高く、どちらも次に「19時台」が続く。
- 有配偶では、女性は「18時台」26.0%が最も高く、次に「17時台」22.1%が続く。男性は「19時台」24.2%が最も高く、次に「18時台」23.2%が続く。
- 男女で比較すると、独身では、時間の分布は全体的に似た傾向にあるが、有配偶では、女性は18時台以前の時間帯で7割弱を占めるのに対し、男性は19時台以降の時間帯で6割弱と、傾向が異なっている。



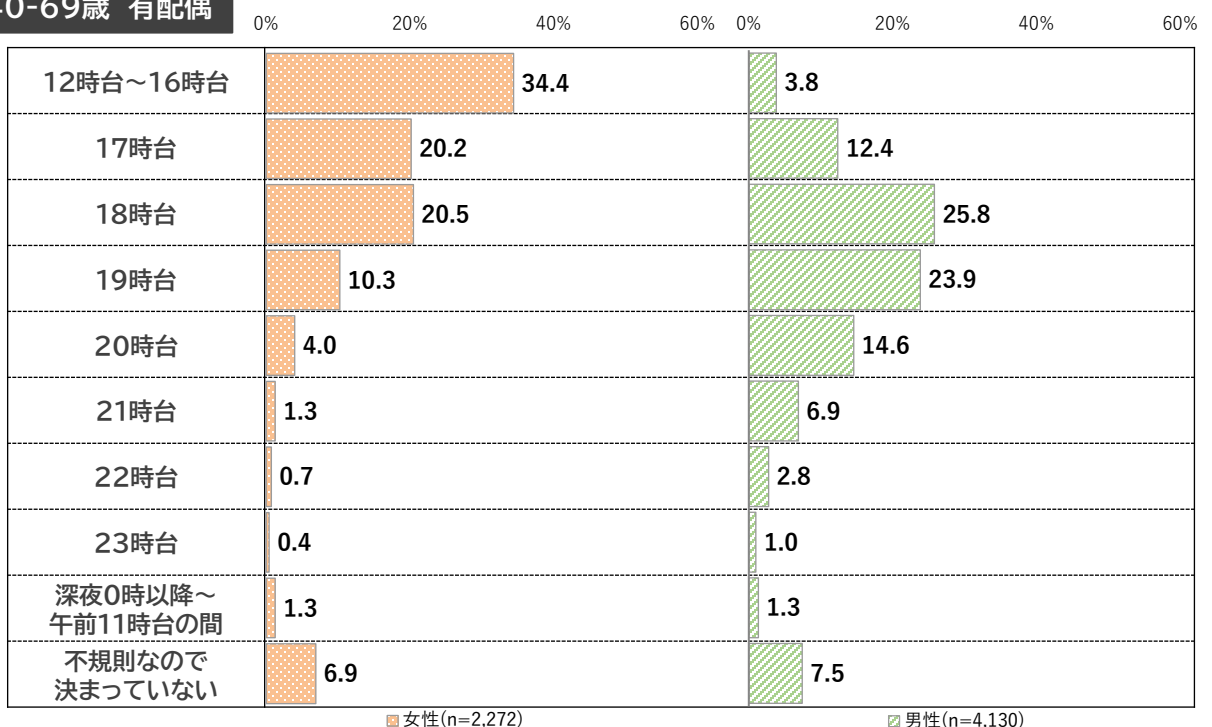
(4) 仕事がある日の平均的な帰宅時間(有職者対象、配偶状況別)(40-69歳)

- 40-69歳の人について配偶状況別に見てみると、独身では、男女ともに「18時台」が最も高く、女性で26.6%、男性で21.9%となっている。女性では次に「17時台」「19時台」がどちらも16.2%と続き、男性では次に「19時台」19.3%が続く。
- 有配偶では、女性は「12時台～16時台」34.4%が最も高く、次に「18時台」20.5%、「17時台」20.2%が続く。男性は「18時台」25.8%が最も高く、「19時台」23.9%が続く。
- 男女で比較すると、独身では、時間の分布は全体的に似た傾向にあるが、有配偶では、女性は18時台以前の時間帯で75%を占めるのに対し、男性は19時台以降の時間帯で5割と、傾向が異なっている。

40-69歳 独身

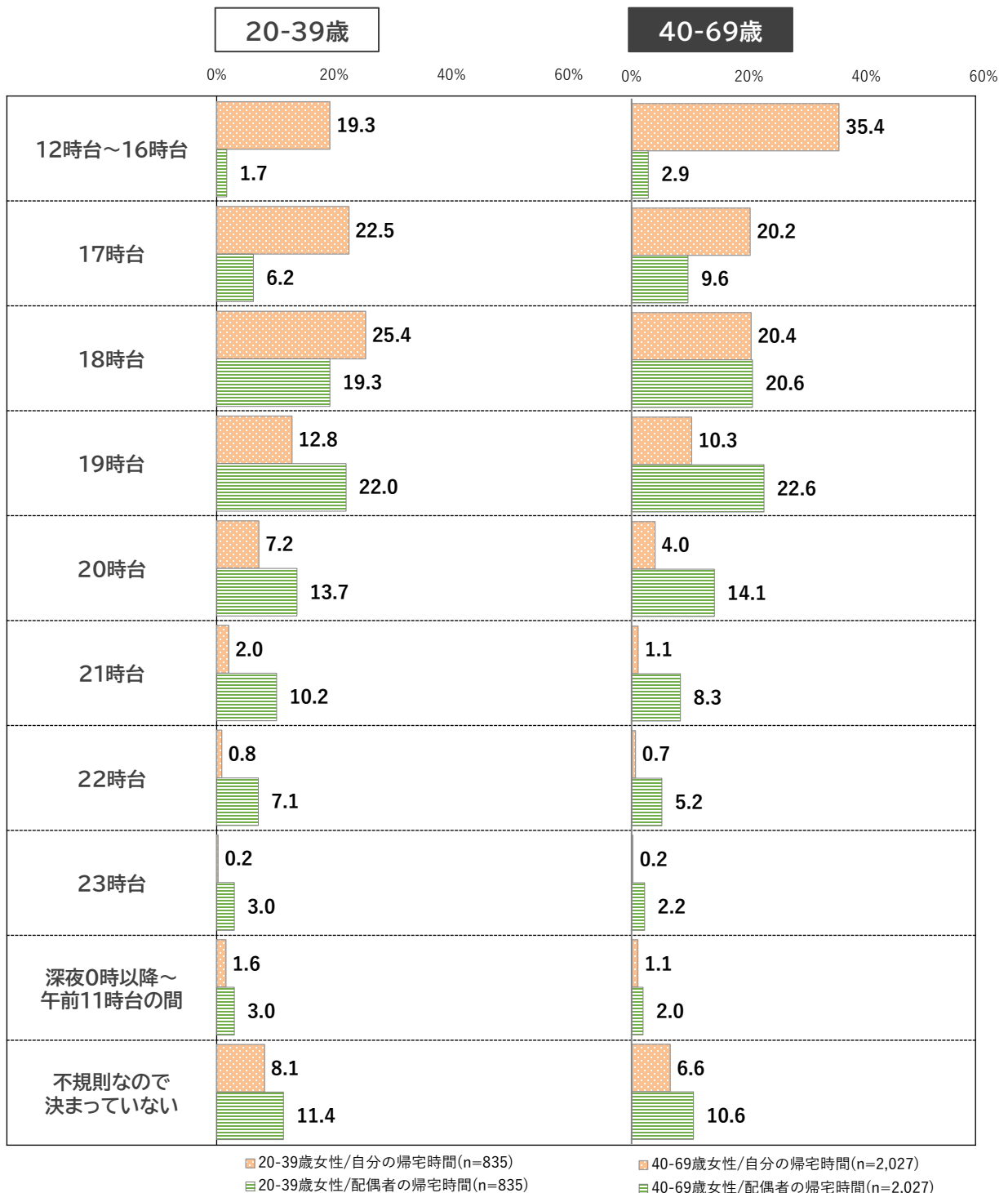


40-69歳 有配偶



(4) 仕事がある日の、自分と配偶者の平均的な帰宅時間(共働き・配偶者と同居している女性)

・配偶者と同居していて、自分も配偶者も働いている共働き女性の、「自分の帰宅時間」と「配偶者の帰宅時間」を年代別に比較すると、20-39歳では、18時台以前の時間帯は「自分の帰宅時間」が高く、19時台以降の時間帯は「配偶者の帰宅時間」が高い。
 ・40-69歳では、17時台以前の時間帯は「自分の帰宅時間」が高く、18時台は同程度、19時台以降は「配偶者の帰宅時間」が高い。



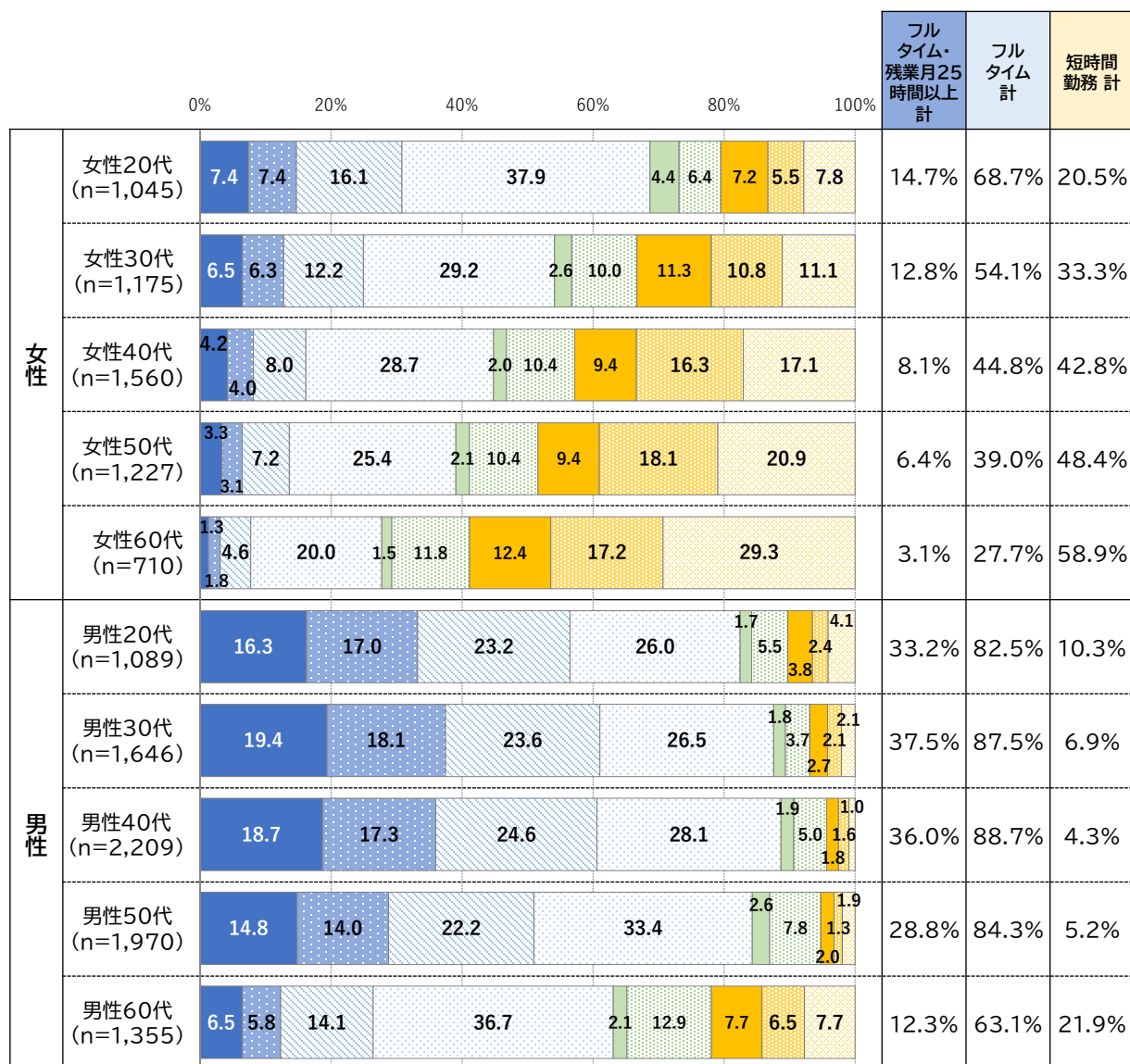
※配偶者の帰宅時間は「わからない 知らない」を除いて表章しているため、合計が100%にならない。

(5) 勤務形態(勤務時間)(有職者、年代別)

・年代別にフルタイムと短時間勤務の割合を見てみると、女性では、20代～30代ではフルタイムの割合が、短時間勤務の割合より20%ポイント以上高いが、40代ではどちらも4割強、50代以上では短時間勤務の割合が上回る。「フルタイム・残業月25時間以上計」の割合は、女性20代～30代で12～15%程度となっており、40代以上では1割を切っている。

・男性では、20～50代のいずれもフルタイムの割合が8割強、60代でも6割強となっている。「フルタイム・残業月25時間以上計」の割合は、男性30～40代で36～38%と最も高く、男性20代で33.2%、男性50代で28.8%となっている。また、「フルタイム・残業月46時間以上」(長時間労働)の割合についても、男性20～40代で高い。

・男女で比較すると、全ての年代で男性でフルタイム、女性で短時間勤務の割合が高く、特に30代以上でその差は大きい。またフルタイムにおいても、女性は「残業がほとんどない(月9時間以下)」の占める割合は全ての年代において5～7割であるのに対し、男性ではフルタイムにおける「残業がほとんどない(月9時間以下)」割合は、20～50代においては3～4割となっている。



- フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
- フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事
- フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
- フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 短時間勤務(週20時間未満)

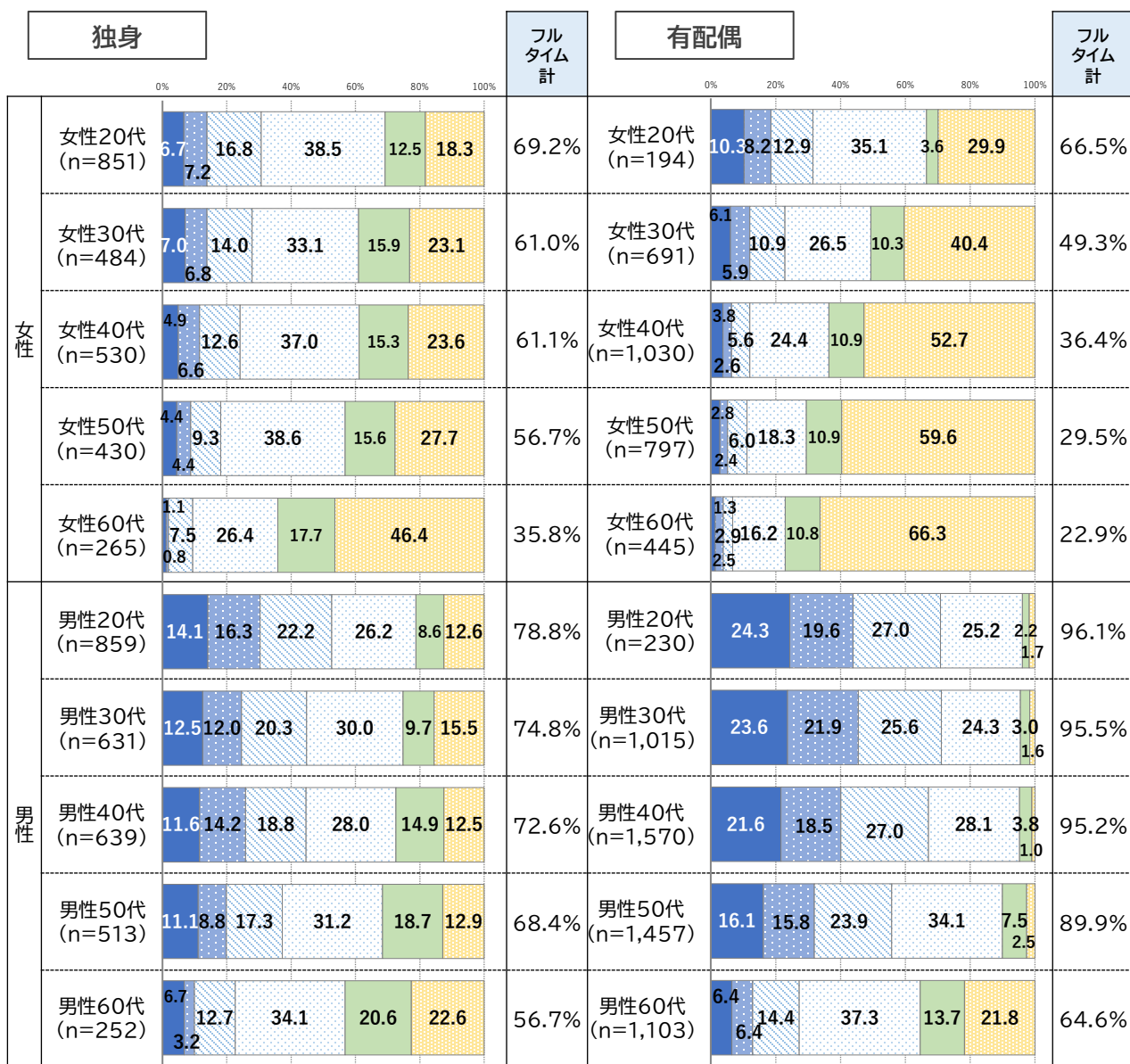
※フルタイム 残業月25時間以上(計)=(月46時間以上残業)+(月25時間～45時間残業)の計

※フルタイム(計)=(月46時間以上残業)+(月25時間～45時間残業)+(月10時間～24時間残業)+(月9時間以下残業)の計

※短時間勤務(計)=短時間勤務(週30時間以上40時間未満)+(週20時間以上30時間未満)+(週20時間未満)の計

(5) 勤務形態(勤務時間)(有職者、年代、配偶状況別)

- ・年代、配偶状況別にフルタイムと短時間勤務の割合を見てみると、女性では、20～40代の「独身」においては、フルタイムの割合の方が、30%ポイント以上高い。「有配偶」においては、20代ではフルタイムの割合の方が30%ポイント以上高いが、30代ではフルタイムの割合が49.3%、短時間勤務の割合が40.4%とその差が小さくなる。40代以上では短時間勤務の割合の方が高く、年代が上になるほどその差は大きくなる。
- ・男性では、20～40代においては、「独身」ではフルタイムの割合が70%台、「有配偶」ではフルタイムの割合が95%以上となっている。更に50代でも「独身」ではフルタイムの割合が68.4%、「有配偶」では89.9%となっている。
- ・男女で比較すると、「独身」においては、フルタイムの割合は男性の方が高いものの、20～50代ではその差は10%ポイント程度。対して「有配偶」では、全ての年代でフルタイムの割合は、男性の方が約30%ポイント以上高く、特に40～50代でその差が大きい。またフルタイムにおける長時間勤務(残業月46時間以上)の状況についてみると、配偶状況にかかわらず男性の方が高いが、「独身」では、全ての年代でその差は10%ポイント以内となっている。一方「有配偶」の20～50代では、その差は10%ポイント以上となっており、特に20～40代では全体の2割を占めている。



- フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
- フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事
- フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
- フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事
- 短時間勤務

(6) 現在の勤務時間による影響(有職者・フルタイム/長時間労働(残業月46時間以上)の男性対象)

・ポジティブ要素で累計値が5割を超える項目は「自分がやりたい仕事ができる」「昇進・昇給により影響を与える」「仕事で周りに負担をかけることがない」「職場の人間関係が円滑になる」、ネガティブ要素で累計値が5割を超える項目は、「趣味等の時間を十分取りにくい」「家事・育児等の時間を十分取りにくい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りにくい」「知人などとの繋がりが減る」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができない」。

フルタイム/長時間労働 男性

(n=1,289)

※「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」「Bに近い」+「どちらかといえばBに近い」のうち、累計が50%以上のセルに色掛け

計		A	B		計
64.2%		自分がやりたい仕事ができる	自分がやりたい仕事ができない		35.8%
57.2%		昇進・昇給により影響を与える	昇進・昇給により影響を与えない		42.8%
59.3%		仕事で周りに負担をかけることがない	仕事で周りに負担をかけてしまう		40.7%
59.8%		職場での人間関係が円滑になる	職場での人間関係に支障をきたす		40.2%
43.2%		趣味等の時間を十分取りやすい	趣味等の時間を十分取りにくい		56.8%
40.7%		家事・育児等の時間を十分取りやすい	家事・育児等の時間を十分取りにくい		59.3%
43.3%		家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい	家族とのコミュニケーションの時間を取りにくい		56.7%
42.3%		知人などとの繋がりが増える	知人などとの繋がりが減る		57.7%
41.0%		ワーク・ライフ・バランスを保つことができる	ワーク・ライフ・バランスを保つことができない		59.0%

■ Aに近い

▨ どちらかといえばAに近い

■ Bに近い

▨ どちらかといえばBに近い

(6) 現在の勤務時間による影響(有職者・短時間勤務の女性対象)

・ポジティブ要素で累計値が5割を超える項目が多く、「自分がやりたい仕事ができる」「仕事で周りに負担をかけることがない」「職場の人間関係が円滑になる」「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「知人などとの繋がりが増える」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」。一方、ネガティブ要素で累計値が5割を超える項目は「昇進・昇給により影響を与えない」。

短時間勤務 女性

(n=2,285)

※「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」「Bに近い」+「どちらかといえばBに近い」のうち、累計が50%以上のセルに色掛け

計	A		B		計
72.3%	55.0	17.4	6.0	21.7	27.7%
27.0%	23.7	3.4	27.6	45.3	73.0%
73.7%	53.1	20.5	5.1	21.2	26.3%
76.5%	62.1	14.4	3.6	19.9	23.5%
78.4%	54.4	24.0	3.8	17.9	21.6%
81.3%	57.1	24.2	2.8	15.8	18.7%
80.9%	59.2	21.8	3.4	15.7	19.1%
63.9%	54.5	9.5	6.3	29.8	36.1%
78.4%	57.2	21.2	3.6	18.0	21.6%

■ Aに近い

▨ どちらかといえばAに近い

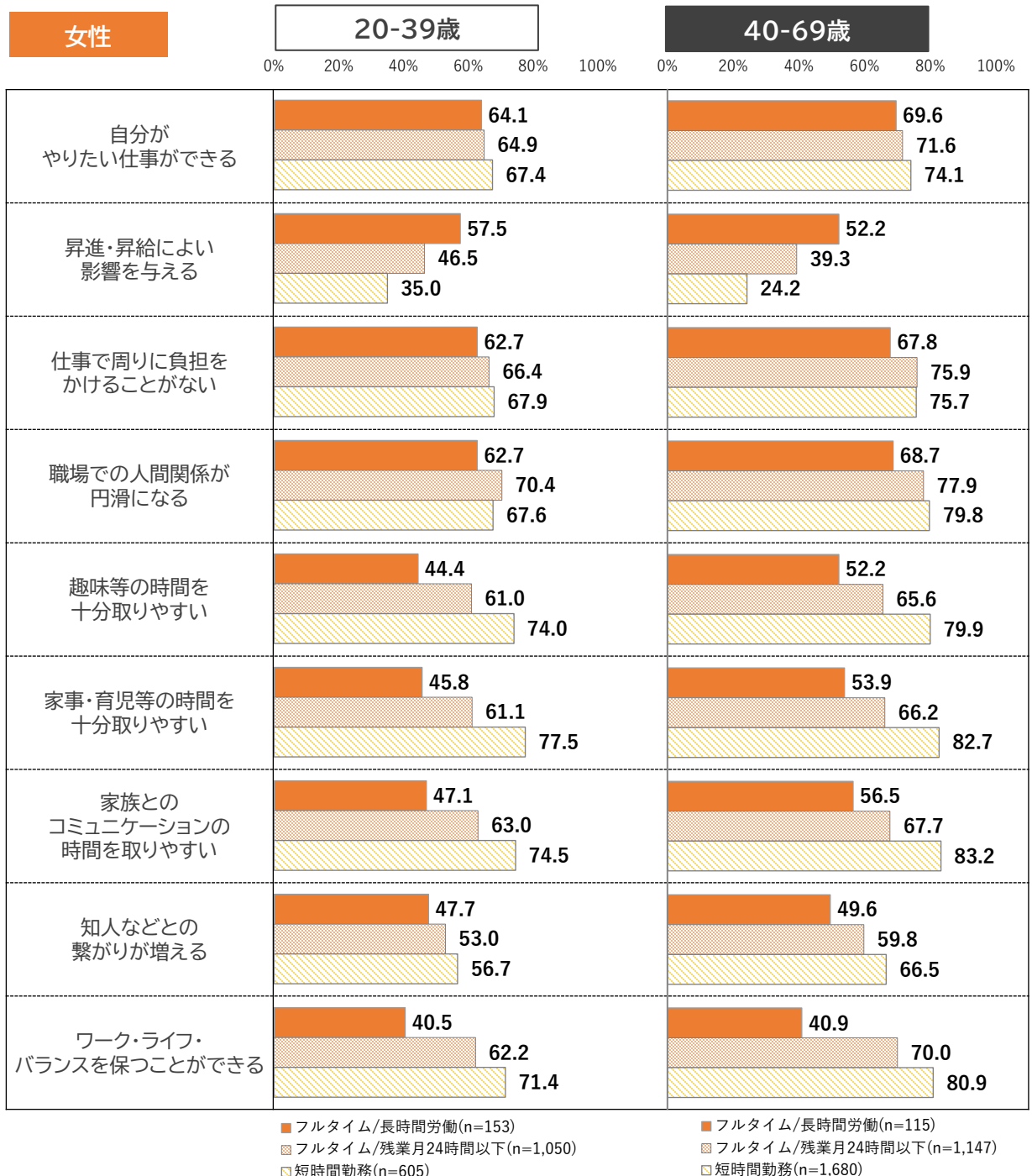
■ Bに近い

▨ どちらかといえばBに近い

(6) 現在の勤務時間による影響(有職者女性対象)

- ・女性について、20-39歳、40-69歳の年代別に現在の勤務時間による影響を見てみると、20-39歳では、「残業月46時間以上(以下「長時間労働」という。)」と「残業月24時間以下」では、「昇進・昇給による影響を与える」のみ「長時間労働」の方が10%ポイント以上高い。「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」は「残業月24時間以下」の方が10%ポイント以上高い。
- ・「短時間勤務」では、「昇進・昇給による影響を与える」が、フルタイム2区分(長時間労働、残業月24時間以下)と比べると低い。「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」については、「フルタイム/残業月24時間以下」よりも10%ポイント以上高い。
- ・40-69歳でも、20-39歳の女性と全体的に同じ傾向である。

※「Aに近い+どちらかといえばAに近い」の累計値を掲載

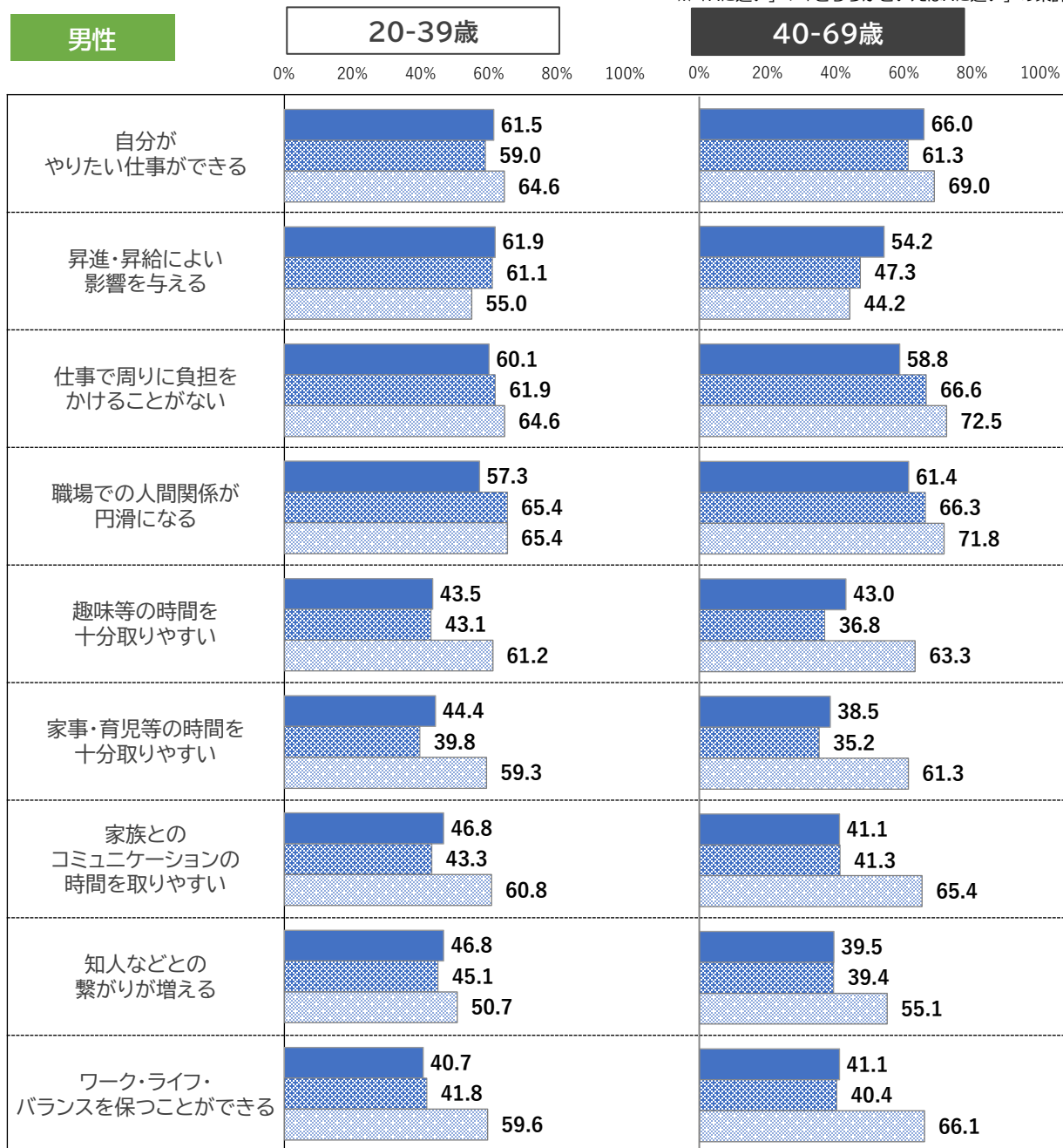


(6) 現在の勤務時間による影響(有職者・フルタイムの男性対象)

・フルタイムの男性について20-39歳、40-69歳の年代別に現在の勤務時間による影響を見てみると、20-39歳では、フルタイムにおいて「長時間労働」と「残業月24時間以下」を比較して、「長時間労働」の方が10%ポイント以上高い項目はなかった。一方、「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」は「残業月24時間以下」の方が10%ポイント以上高い。

・40-69歳では、「昇進・昇給により影響を与える」のみ「長時間労働」の方が10%ポイント高い。一方、「仕事で周りに負担をかけることがない」「職場での人間関係が円滑になる」「趣味等の時間を十分取りやすい」「家事・育児等の時間を十分取りやすい」「家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい」「知人などとの繋がりが増える」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」は「残業月24時間以下」の方が10%ポイント以上高い。

※「Aに近い」+「どちらかといえばAに近い」の累計値を掲載



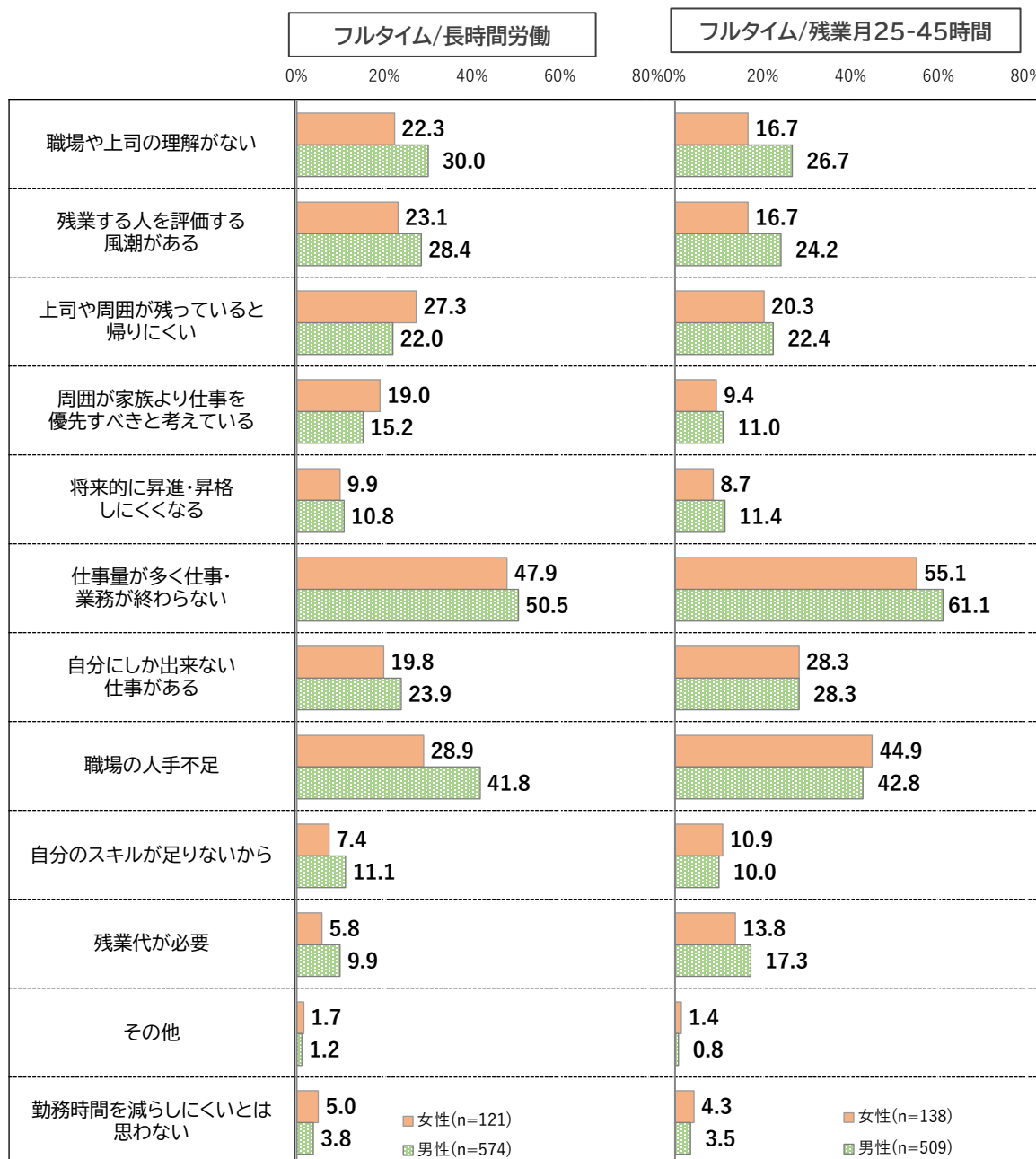
■ フルタイム/長時間労働(n=496)
 ■ フルタイム/残業月25-45時間(n=483)
 ■ フルタイム/残業月24時間以下(n=1,360)

■ フルタイム/長時間労働(n=793)
 ■ フルタイム/残業月25-45時間(n=736)
 ■ フルタイム/残業月24時間以下(n=2,946)

(7) 勤務時間を減らしにくい理由(フルタイム労働者、勤務形態別)

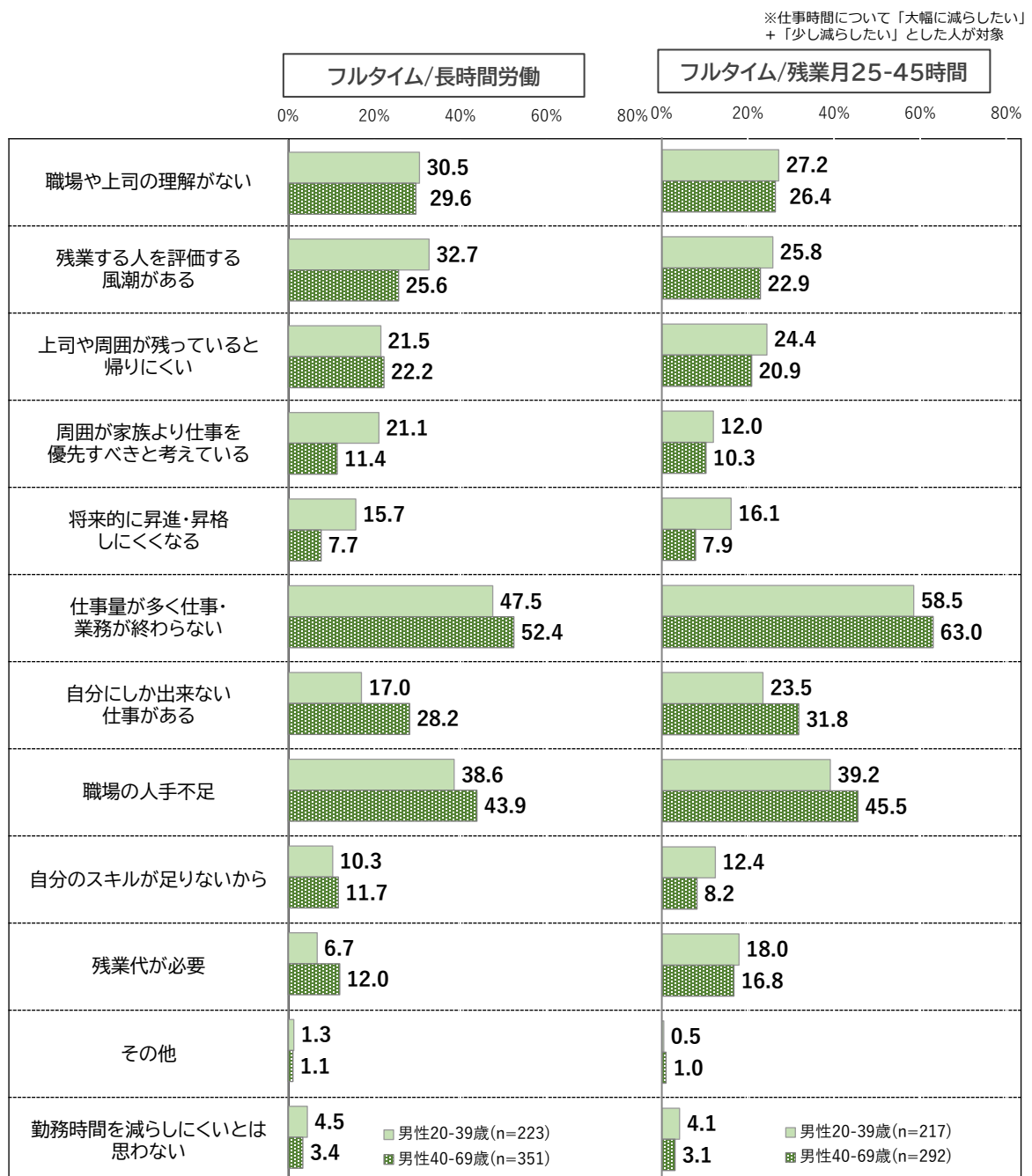
- ・「フルタイム/長時間労働」では、男女ともに「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」が5割程度で最も高い。男女ともに、次に「職場の人手不足」が続くが、男性41.8%に対し、女性28.9%と10%ポイント以上の差がある。
- ・「フルタイム/残業月25-45時間」では、男女ともに「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」が最も高く、次に「職場の人手不足」が続く。男女で比較すると「職場や上司の理解がない」で男性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「長時間労働」と「残業月25-45時間」を比較すると、女性では「周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている」について、「長時間労働」の方が10%ポイント近く高い。一方、「職場の人手不足」は「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。男性では、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」で「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。

※仕事時間について「大幅に減らしたい」
+「少し減らしたい」とした人が対象



(7) 勤務時間を減らしにくい理由(フルタイム労働者、勤務形態別、男性)

- ・男性について「20-39歳」、「40-69歳」の年代別に見てみると、「フルタイム/長時間労働」では、どちらの年代でも「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」が5割程度で最も高く、次に「職場の人手不足」が4割程度で続く。また、「20-39歳」のみ「残業する人を評価する風潮がある」32.7%、「職場や上司の理解がない」30.5%と3割を超える。年代間では、「自分にしか出来ない仕事がある」については、「40-69歳」の方が10%ポイント以上高く、「周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている」は「20-39歳」の方が10%ポイント程度高い。
- ・「フルタイム/残業月25-45時間」でも、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」、「職場の人手不足」の順で高い。なお、年代間で10%ポイント以上差がある項目はない。
- ・「長時間労働」と「残業月25-45時間」で比較すると、「20-39歳」においては「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」「残業代が必要」について、「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。「40-69歳」では、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」について、「残業月25-45時間」の方が10%ポイント以上高い。



(7) 勤務時間を減らしにくい理由(産業別)

※仕事時間について「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」とした人が対象
 ※対象数30人以上/40%以上のセルに色掛け

女性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=13	n=2	n=56	n=140	n=10	n=47	n=36	n=53	n=111	n=75	n=30	n=70	n=102	n=269	n=188	n=111
職場や上司の理解がない	7.7	-	25.0	14.3	40.0	17.0	13.9	20.8	18.9	16.0	16.7	12.9	13.7	17.5	18.1	17.1
残業する人を評価する風潮がある	30.8	50.0	10.7	12.9	20.0	21.3	16.7	18.9	9.9	8.0	20.0	7.1	9.8	7.8	12.2	15.3
上司や周囲が残っていると帰りにくい	23.1	50.0	14.3	17.9	30.0	10.6	11.1	13.2	15.3	18.7	6.7	12.9	18.6	18.6	10.6	14.4
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	15.4	-	8.9	8.6	20.0	6.4	5.6	3.8	10.8	8.0	16.7	4.3	7.8	4.8	7.4	10.8
将来的に昇進・昇格しにくくなる	15.4	100.0	3.6	5.0	40.0	10.6	-	7.5	9.9	9.3	6.7	4.3	3.9	3.7	3.2	6.3
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	30.8	-	14.3	27.9	20.0	59.6	27.8	32.1	26.1	34.7	30.0	27.1	48.0	37.5	26.1	36.9
自分にしか出来ない仕事がある	15.4	-	23.2	18.6	20.0	14.9	13.9	13.2	9.9	16.0	6.7	15.7	24.5	15.6	14.9	21.6
職場の人手不足	38.5	-	21.4	24.3	30.0	34.0	47.2	32.1	46.8	29.3	20.0	41.4	40.2	49.8	33.0	27.9
自分のスキルが足りないから	7.7	-	7.1	2.9	50.0	14.9	5.6	3.8	7.2	10.7	3.3	5.7	8.8	6.3	10.1	9.9
残業代が必要	-	-	7.1	12.1	20.0	10.6	16.7	3.8	12.6	8.0	6.7	4.3	2.0	8.9	6.9	9.9
その他	15.4	-	5.4	4.3	10.0	6.4	5.6	5.7	2.7	5.3	6.7	4.3	2.9	3.7	4.3	3.6
勤務時間を減らしにくいとは思わない	7.7	-	23.2	13.6	10.0	12.8	16.7	22.6	21.6	17.3	23.3	15.7	14.7	13.8	20.2	19.8

男性	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
	n=32	n=9	n=160	n=518	n=43	n=177	n=173	n=97	n=119	n=77	n=77	n=62	n=111	n=158	n=336	n=160
職場や上司の理解がない	12.5	-	25.0	25.9	18.6	26.6	25.4	24.7	21.0	24.7	24.7	32.3	21.6	22.8	21.7	28.1
残業する人を評価する風潮がある	25.0	22.2	18.8	28.2	20.9	20.9	14.5	21.6	10.9	29.9	16.9	25.8	18.9	19.0	15.8	21.3
上司や周囲が残っていると帰りにくい	28.1	44.4	21.9	22.8	27.9	14.1	16.8	20.6	21.0	16.9	9.1	27.4	12.6	14.6	17.0	20.0
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	6.3	-	9.4	13.5	7.0	10.2	8.1	5.2	13.4	6.5	10.4	14.5	6.3	12.0	9.8	11.3
将来的に昇進・昇格しにくくなる	12.5	-	6.9	9.8	14.0	14.7	9.2	1.0	6.7	14.3	3.9	19.4	7.2	6.3	7.7	10.6
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	34.4	33.3	40.6	45.9	48.8	51.4	36.4	49.5	39.5	39.0	35.1	38.7	51.4	38.6	41.4	38.8
自分にしか出来ない仕事がある	31.3	-	27.5	24.5	27.9	22.0	16.2	34.0	25.2	16.9	24.7	25.8	37.8	17.7	23.2	16.9
職場の人手不足	25.0	33.3	39.4	38.4	30.2	32.2	40.5	43.3	42.9	28.6	28.6	45.2	34.2	38.6	39.3	42.5
自分のスキルが足りないから	9.4	11.1	6.9	8.9	11.6	11.9	7.5	6.2	10.1	6.5	6.5	8.1	13.5	8.9	8.9	14.4
残業代が必要	-	11.1	5.6	16.4	16.3	7.3	15.6	6.2	7.6	9.1	5.2	11.3	7.2	5.1	11.9	11.9
その他	3.1	-	2.5	2.5	2.3	1.7	3.5	-	3.4	-	2.6	4.8	2.7	1.3	4.2	3.8
勤務時間を減らしにくいとは思わない	18.8	-	12.5	6.9	9.3	11.9	14.5	9.3	10.1	11.7	11.7	14.5	6.3	10.1	10.7	10.0

※該当なしは「-」と表示

(7) 勤務時間を減らしにくい理由(仕事の種類別)

※仕事時間について「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」とした人が対象
 ※対象数30人以上/40%以上のセルに色掛け

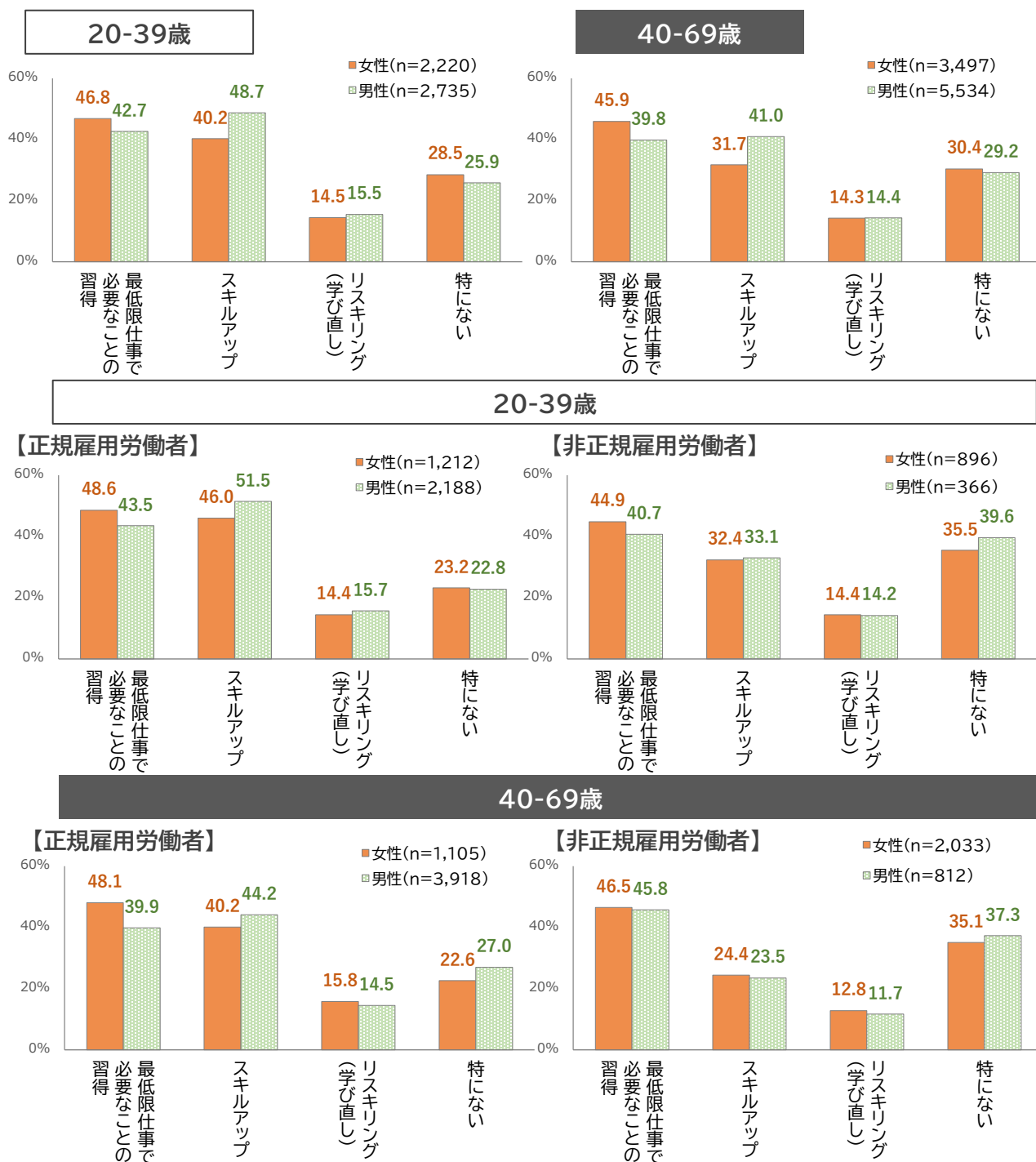
女性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=515	n=271	n=30	n=116	n=200	n=2	n=7	n=63	n=4	n=2	n=24	n=79
職場や上司の理解がない	18.6	16.2	10.0	17.2	18.0	-	14.3	14.3	25.0	50.0	12.5	12.7
残業する人を評価する風潮がある	14.2	13.3	3.3	9.5	5.0	-	14.3	14.3	50.0	-	20.8	10.1
上司や周囲が残っていると帰りにくい	15.5	19.6	16.7	15.5	9.5	-	28.6	19.0	-	-	4.2	16.5
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	6.2	7.7	13.3	8.6	9.0	-	28.6	12.7	25.0	-	4.2	5.1
将来的に昇進・昇格しにくくなる	5.6	5.2	6.7	9.5	6.5	-	14.3	4.8	-	-	-	3.8
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	28.9	43.9	63.3	26.7	27.5	50.0	57.1	23.8	-	50.0	25.0	39.2
自分にしか出来ない仕事がある	16.1	22.1	36.7	10.3	15.0	-	28.6	12.7	-	-	4.2	12.7
職場の人手不足	28.9	42.8	36.7	43.1	43.0	50.0	42.9	30.2	25.0	50.0	50.0	40.5
自分のスキルが足りないから	8.7	9.2	10.0	5.2	7.5	-	14.3	-	-	-	8.3	6.3
残業代が必要	8.2	8.9	3.3	7.8	7.5	-	-	17.5	25.0	-	4.2	8.9
その他	5.4	1.1	3.3	3.4	4.0	-	14.3	6.3	-	-	8.3	7.6
勤務時間を減らしにくいとは思わない	20.0	11.4	3.3	24.1	16.5	50.0	14.3	11.1	-	-	20.8	19.0

男性	事務的な仕事	専門的・技術的な仕事	管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上	販売の仕事	サービスの仕事	保安の仕事	農林漁業の仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転の仕事	建設・採掘の仕事	運搬・清掃・包装等の仕事	その他
	n=470	n=638	n=274	n=173	n=204	n=43	n=22	n=180	n=82	n=60	n=76	n=87
職場や上司の理解がない	27.9	22.9	21.2	30.1	21.6	25.6	18.2	26.1	19.5	31.7	21.1	20.7
残業する人を評価する風潮がある	21.7	24.0	19.7	20.8	17.6	20.9	18.2	27.2	18.3	5.0	14.5	10.3
上司や周囲が残っていると帰りにくい	21.9	19.6	16.1	20.2	15.7	18.6	27.3	21.1	17.1	13.3	19.7	13.8
周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている	11.5	11.1	5.8	11.0	12.3	16.3	9.1	9.4	11.0	15.0	7.9	8.0
将来的に昇進・昇格しにくくなる	9.6	9.7	10.2	7.5	9.3	11.6	9.1	7.2	13.4	5.0	5.3	5.7
仕事量が多く仕事・業務が終わらない	35.7	50.6	51.5	43.9	36.8	34.9	40.9	41.1	32.9	35.0	39.5	32.2
自分にしか出来ない仕事がある	20.6	27.1	41.6	21.4	22.5	14.0	31.8	15.6	8.5	15.0	6.6	19.5
職場の人手不足	33.2	37.5	36.9	38.2	41.7	53.5	31.8	43.9	42.7	48.3	42.1	28.7
自分のスキルが足りないから	11.5	10.8	5.5	11.0	7.4	9.3	13.6	5.6	4.9	13.3	5.3	11.5
残業代が必要	9.1	10.5	3.6	12.1	8.3	20.9	-	20.6	23.2	10.0	14.5	11.5
その他	1.7	3.0	2.2	1.7	3.9	2.3	-	3.3	1.2	3.3	3.9	5.7
勤務時間を減らしにくいとは思わない	8.9	8.9	10.2	8.7	11.8	9.3	13.6	7.2	15.9	15.0	14.5	18.4

※該当なしは「-」と表示

(8) 仕事において必要と考えるもの(有職者対象、年代別、雇用形態別)

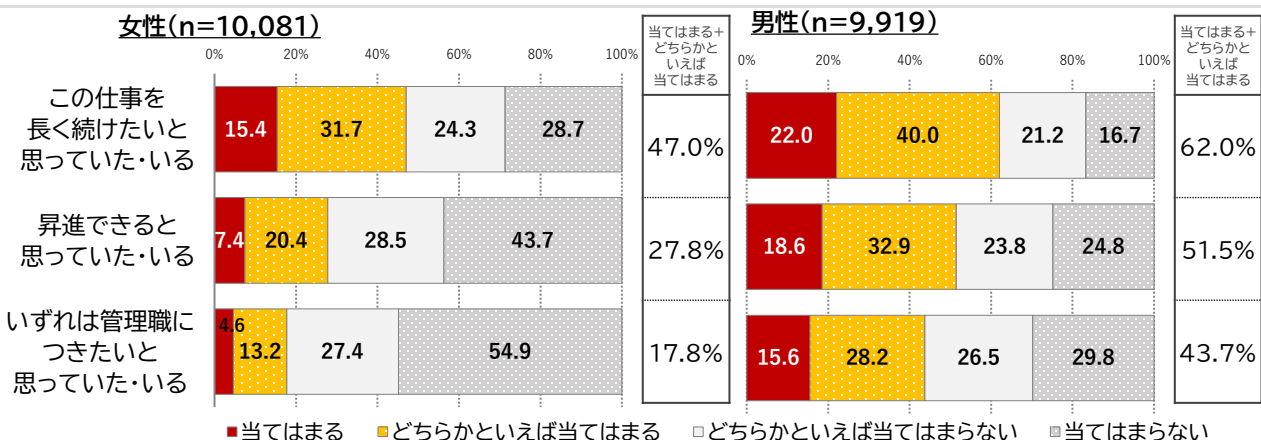
- ・年代別に見てみると、20-39歳においては、女性では「最低限仕事に必要なことの習得」46.8%、「スキルアップ」40.2%の順で高く、男性では「スキルアップ」48.7%、「最低限仕事に必要なことの習得」42.7%の順で高い。
- ・40-69歳においては、女性では「最低限仕事に必要なことの習得」45.9%、「スキルアップ」31.7%の順で高く、男性では「スキルアップ」41.0%、「最低限仕事に必要なことの習得」39.8%が同程度。
- ・年代・雇用形態別に見てみると、女性で「スキルアップ」が最も高いのは、「20-39歳・正規雇用労働者」46.0%、次に「40-69歳・正規雇用労働者」40.2%。最も低いのは「40-69歳・非正規雇用労働者」24.4%。
- ・「リスキリング」は、どの年代・雇用形態でも、男女ともに10～15%程度となった。



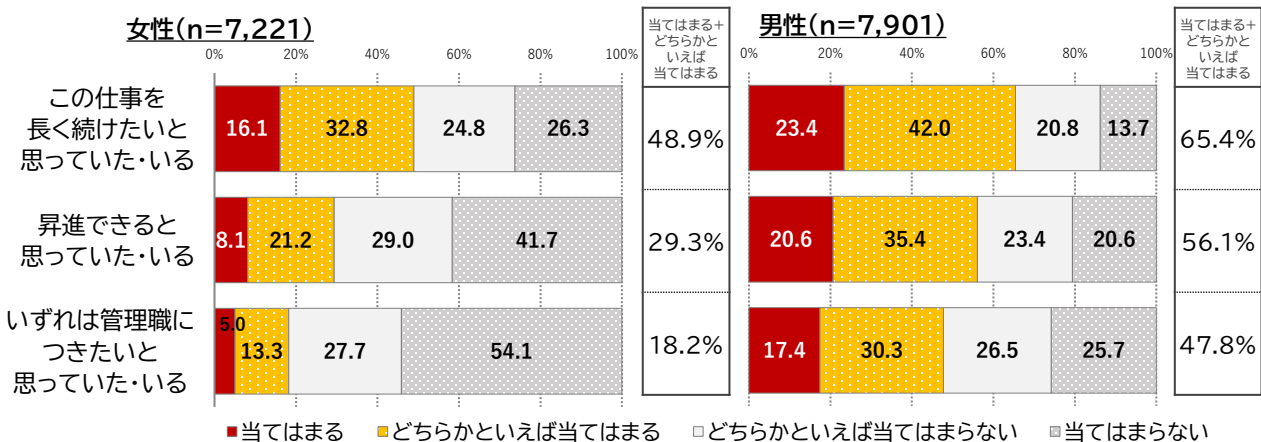
(9)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(全体、初職の雇用形態別)

・男女別に「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、「この仕事を長く続けたいと思っていた・いる(以下、「長く続けたい」)」は女性で47.0%、男性で62.0%と15%ポイント差がある。「昇進できると考えていた・いる(以下、「昇進できる」)」は女性で27.8%、男性で51.5%、「いずれは管理職につきたいと思っていた・いる(以下、「いずれは管理職」)」は女性で17.8%、男性で43.7%と、どちらも20%ポイント以上差がある。

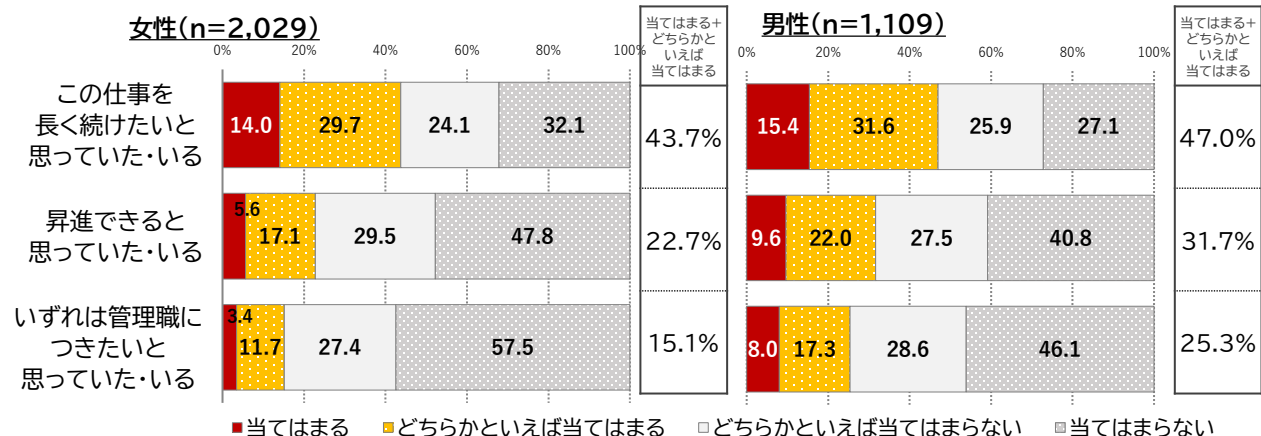
・初職の雇用形態別に見てみると、「初職が正規雇用労働者」では男女差が大きく、特に「昇進できる」「いずれは管理職」については25%ポイント以上男性の方が高い。一方「初職が非正規雇用労働者」では、「初職が正規雇用労働者」に比べ男女差が小さい。



初職が「正規雇用労働者」



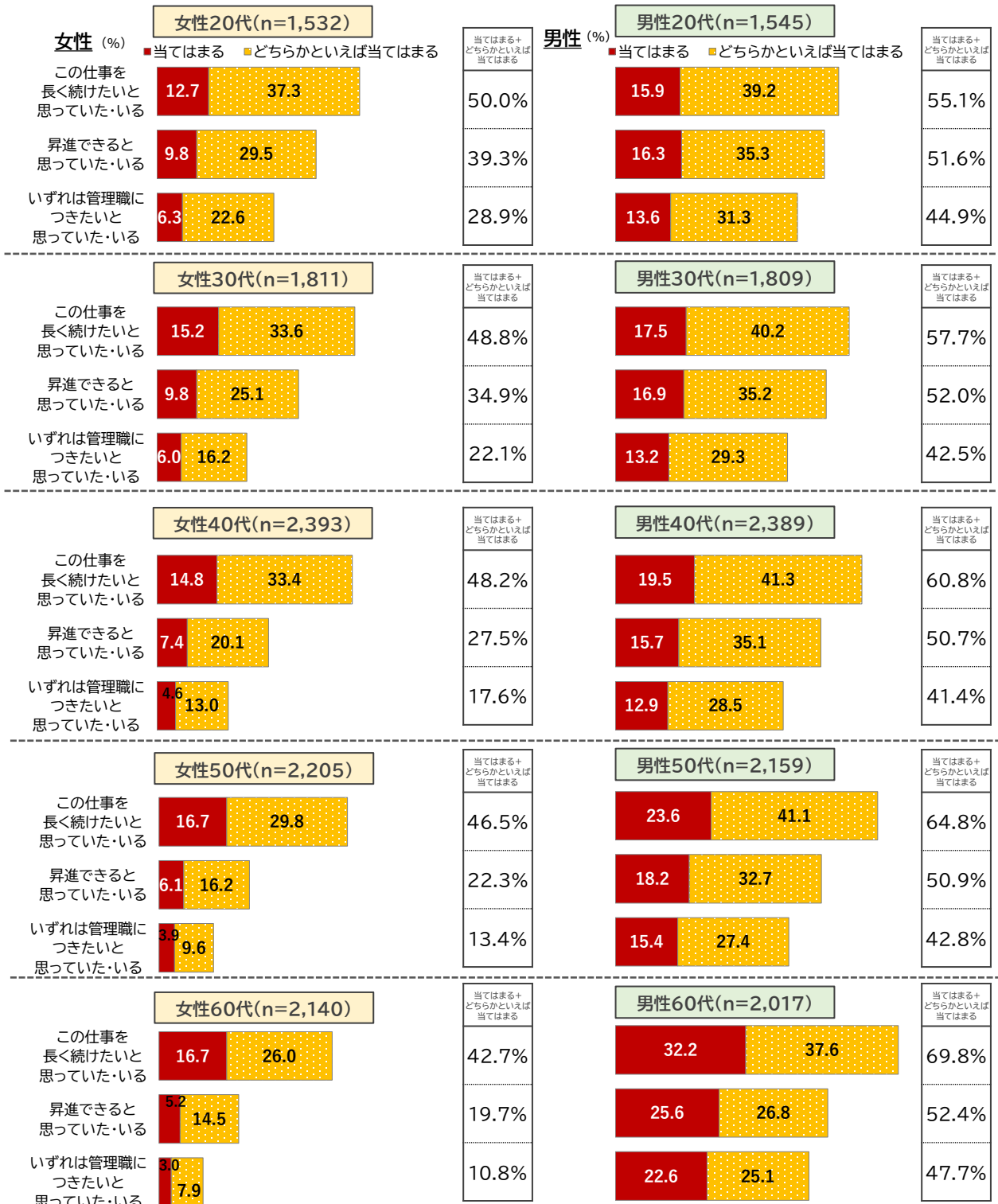
初職が「非正規雇用労働者」



※20代の方は現在どう思っているか、30~60代の方は20代の頃どう思っていたかについて回答。

(9)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(年代別)

- ・年代別に見てみると、女性では「長く続けたい」「昇進できる」「いずれは管理職」のいずれの項目でも若い年代ほど割合が高く、特に「昇進できる」「いずれは管理職」について20代と60代では20%ポイント近く差がある。
- ・男性では、上の年代ほど「長く続けたい」が高い。「昇進できる」は全ての年代で5割程度、「いずれは管理職」は4～5割と、年代による差は見られないが、60代では「当てはまる」の割合が下の年代に比べ高い。
- ・男女で比較すると、20代で男女差が最も少ない。一方、40代以上になると、「昇進できる」「いずれは管理職」について、どちらも20%ポイント以上女性の方が低くなる。

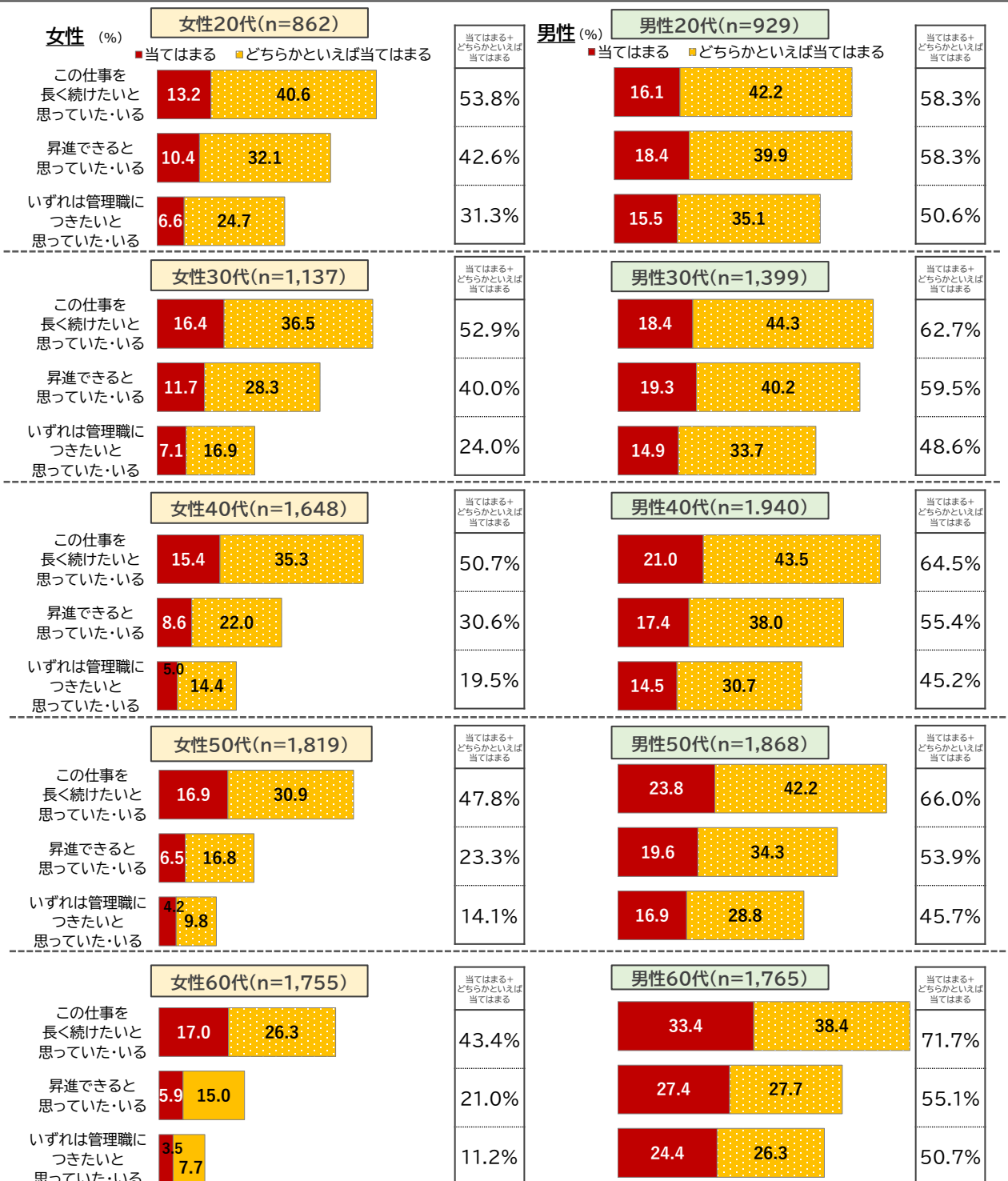


※20代の方は現在どう思っているか、30～60代の方は20代の頃どう思っていたかについて回答。

(9)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(初職が「正規雇用労働者」)

- ・初職が「正規雇用労働者」について年代別に見てみると、女性では、「長く続けたい」「昇進できる」「いずれは管理職」のいずれの項目でも若い年代ほど割合が高く、特に「昇進できる」「いずれは管理職」については、20代と60代では20%ポイント以上差がある。
- ・男性では、上の年代ほど「長く続けたい」が高い。また、全ての年代で「昇進できる」は5～6割、「いずれは管理職」は45～50%程度と、年代による差は見られない。
- ・男女で比較すると、20代で男女差が最も少ない。一方、40代以上では、「昇進できる」「いずれは管理職」について、どちらも20%ポイント以上女性の方が低い。

初職が「正規雇用労働者」



※20代の方は現在どう思っているか、30～60代の方は20代の頃どう思っていたかについて回答。

(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象)

・「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、「役割の割に給料が上がらない」「会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる」「仕事量が増し、勤務時間の調整がしにくくなる」は男女ともに6割を超えている。また、「家事・育児等の時間が取れなくなる」は女性のみ6割を超えている。全体的に、ネガティブ要素の方で割合が高い項目が多い。

・男女で比較すると、「家族が昇進を望んでいる」は男性の方が10%ポイント以上高い。

※60%を超えるセルに色掛け

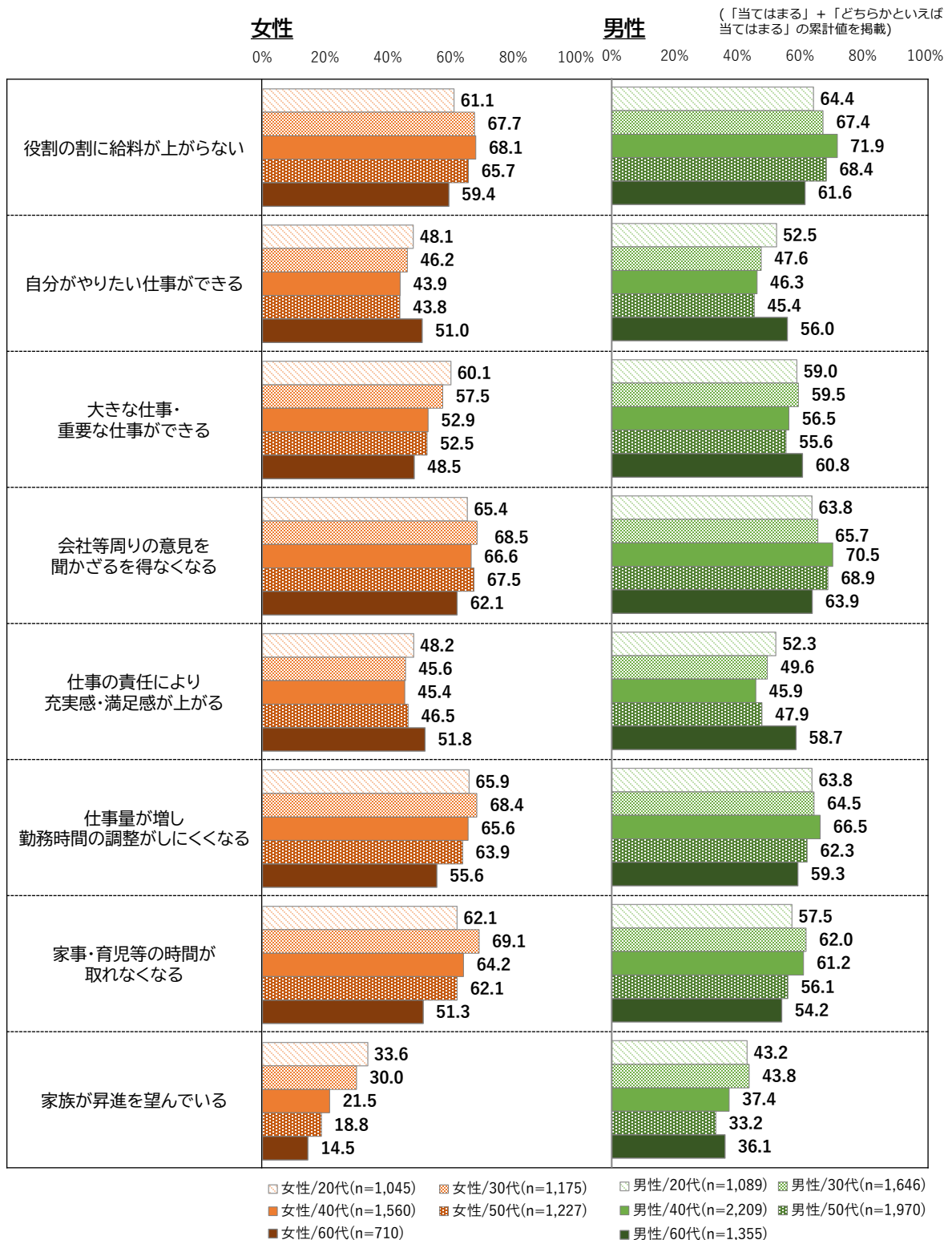
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	当てはまる +どちらかとい えば 当てはまる
女性	女性(n=5,717) 男性(n=8,269)							
	役割の割に給料が上がらない	19.9	45.3	26.2	8.6	65.1%		
	自分がやりたい仕事ができる	8.0	38.0	41.4	12.6	46.0%		
	大きな仕事・重要な仕事ができる	10.2	44.3	33.7	11.7	54.5%		
	会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる	16.5	49.9	26.2	7.5	66.4%		
	仕事の責任により充実感・満足感が上がる	7.2	39.8	40.9	12.2	47.0%		
	仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる	20.2	44.4	26.5	8.8	64.6%		
	家事・育児等の時間が取れなくなる	20.3	42.5	25.9	11.3	62.8%		
家族が昇進を望んでいる	3.3	20.8	41.5	34.5	24.0%			
男性	役割の割に給料が上がらない	22.0	45.5	23.9	8.6	67.5%		
	自分がやりたい仕事ができる	9.8	39.0	37.4	13.9	48.8%		
	大きな仕事・重要な仕事ができる	10.5	47.4	31.6	10.4	57.9%		
	会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる	16.6	50.6	25.3	7.5	67.2%		
	仕事の責任により充実感・満足感が上がる	8.3	41.8	37.0	12.9	50.1%		
	仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる	16.9	46.7	28.5	7.9	63.6%		
	家事・育児等の時間が取れなくなる	14.6	43.9	30.7	10.8	58.5%		
	家族が昇進を望んでいる	5.5	32.7	41.7	20.1	38.2%		

■ 当てはまる
 □ どちらかといえば当てはまらない
 ▨ どちらかといえば当てはまる
 ■ 当てはまらない

(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象、年代別)

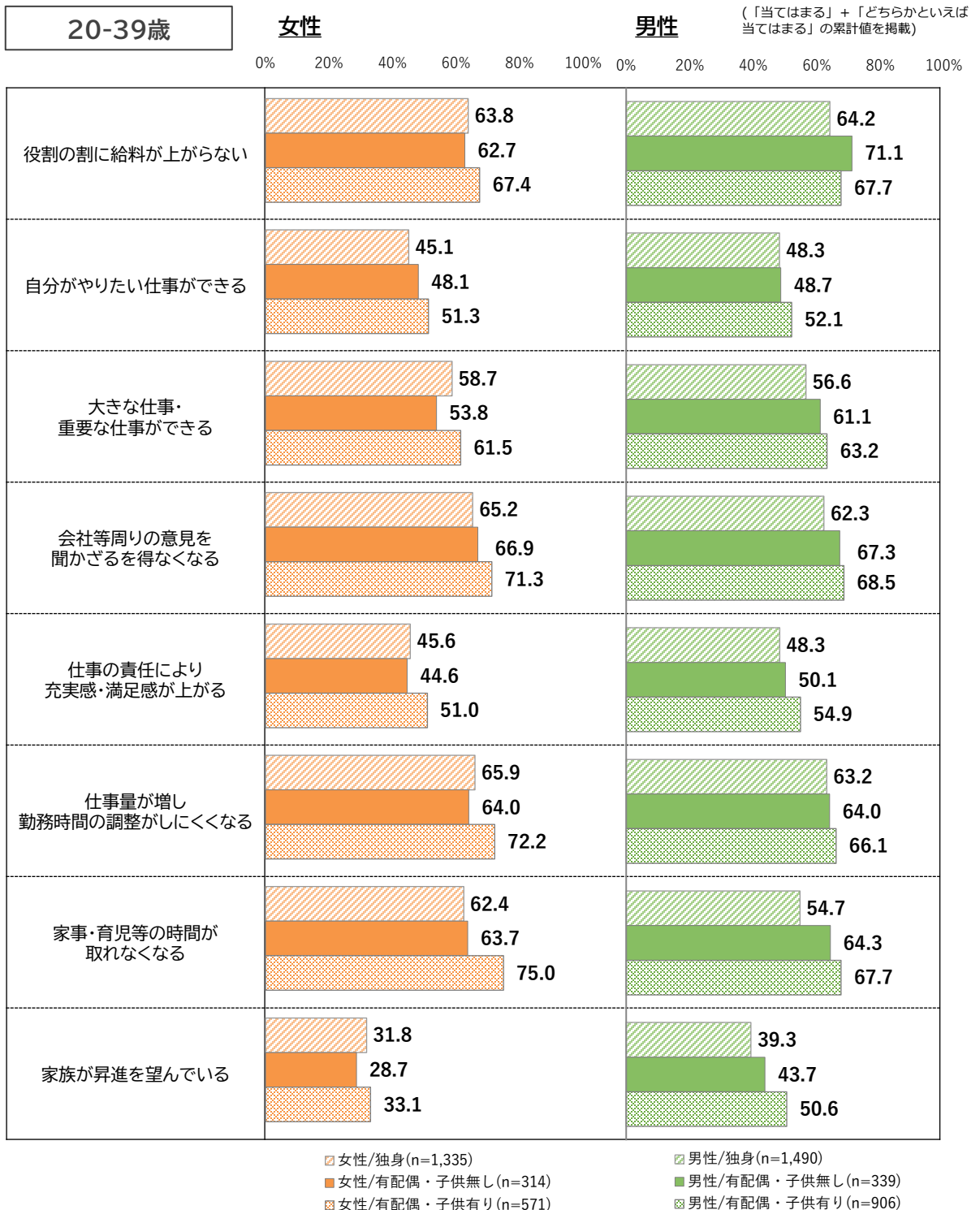
・年代別に見てみると、女性では若い年代ほど「大きな仕事・重要な仕事ができる」「家族が昇進を望んでいる」が高い傾向にある。

・同年代の男女で比較すると、10%ポイント以上差がある項目は少ないが、「家族が昇進を望んでいる」については、いずれの年代でも10~20%ポイント程度、女性の方が低い。



(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象、配偶状況・子供の有無別、20-39歳)

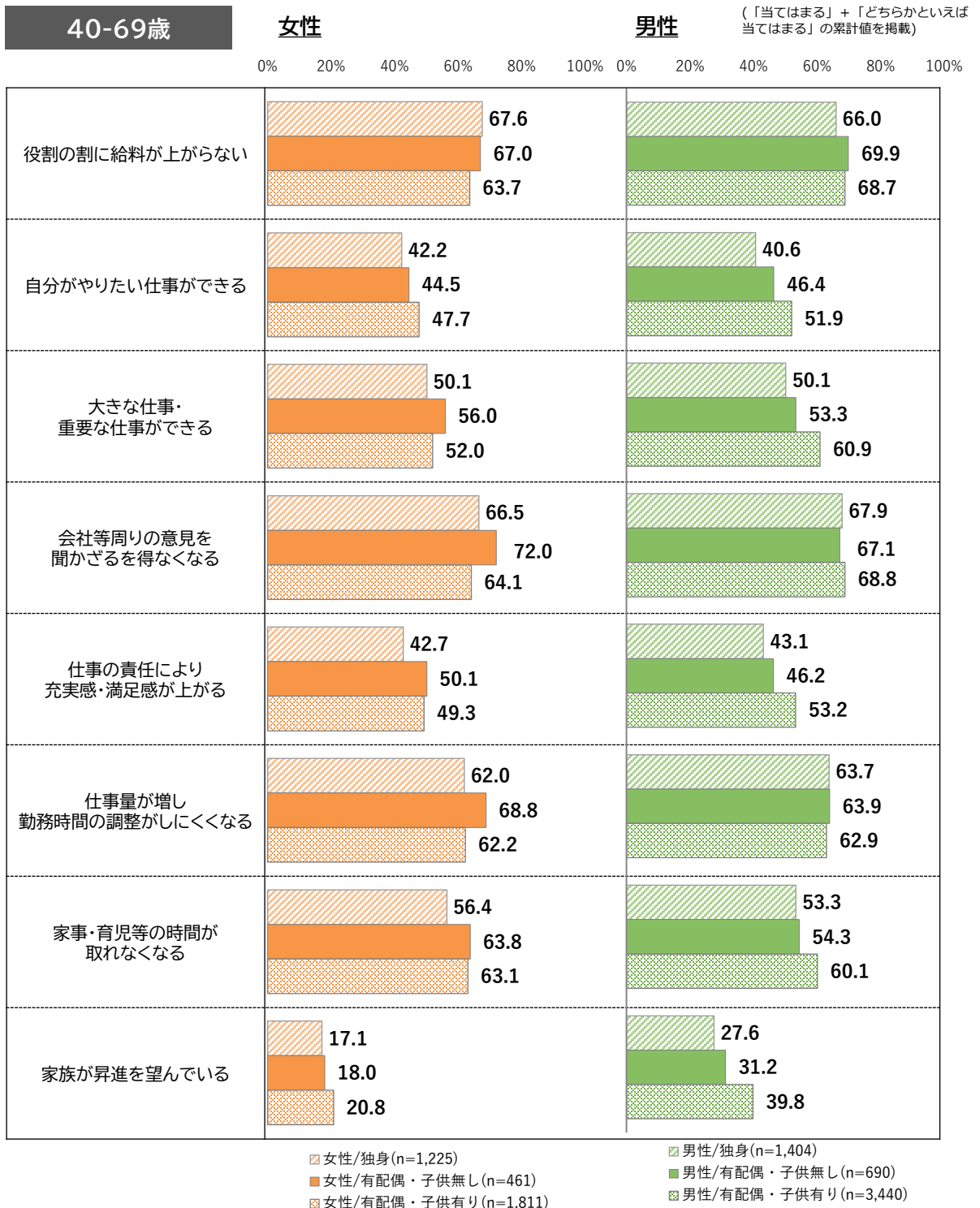
- ・20-39歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに「家事・育児等の時間が取れなくなる」は、「有配偶・子供有り」の方が「独身」よりも10%ポイント以上高い。また、男性では、「家族が昇進を望んでいる」は、「有配偶・子供有り」の方が、「独身」よりも10%ポイント以上高い。
- ・男女で比較すると、「家族が昇進を望んでいる」については、「有配偶・子供有り」では、男性の方が15%ポイント以上高い。



(10) 昇進することへのイメージ(有職者対象、配偶状況・子供の有無別、40-69歳)

・40-69歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男性では、「自分がやりたい仕事ができる」「大きな仕事・重要な仕事ができる」「仕事の責任により充実感・満足感が上がる」「家族が昇進を望んでいる」のポジティブ要素で、「有配偶・子供有り」の方が「独身」に比べ10%ポイント以上高い。

・男女で比較すると、「家族が昇進を望んでいる」については、いずれの区分でも男性の方が10%ポイント以上高い。

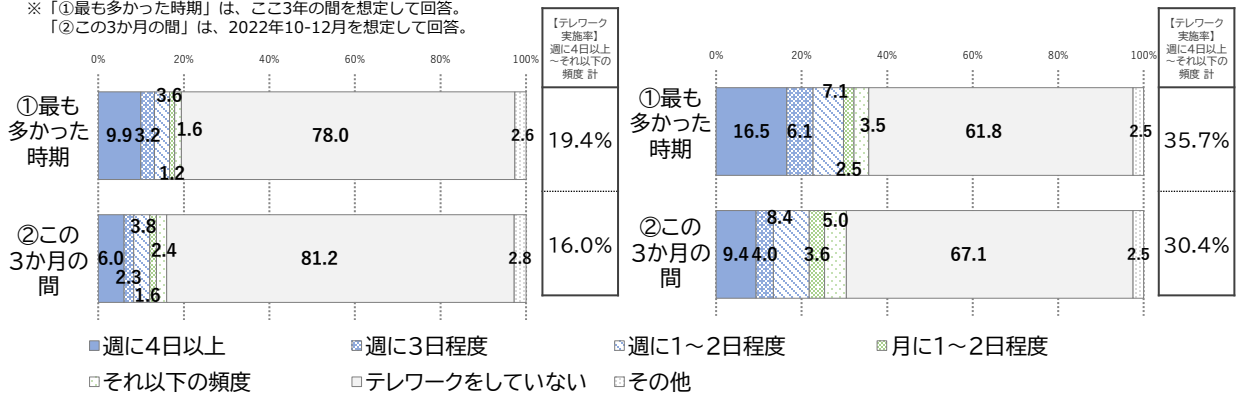


(11) テレワーク実施状況(有職者対象、雇用形態別)

- ・テレワーク実施率を男女別に見ると、この3年で最も多かった時期では女性で19.4%、男性で35.7%。この3か月の間(2022年10-12月を想定)では、女性は16.0%、男性は30.4%と、いずれも男性の方が10%ポイント以上高い。
- ・正規雇用労働者におけるテレワーク実施率については、最も多かった時期では女性27.9%、男性39.3%。この3か月の間では女性22.4%、男性33.2%と、いずれも男性の方が10%ポイント以上高い。
- ・非正規雇用労働者におけるテレワーク実施率については、最も多かった時期では女性10.6%、男性17.8%。この3か月の間では女性8.7%、男性14.1%となっている。

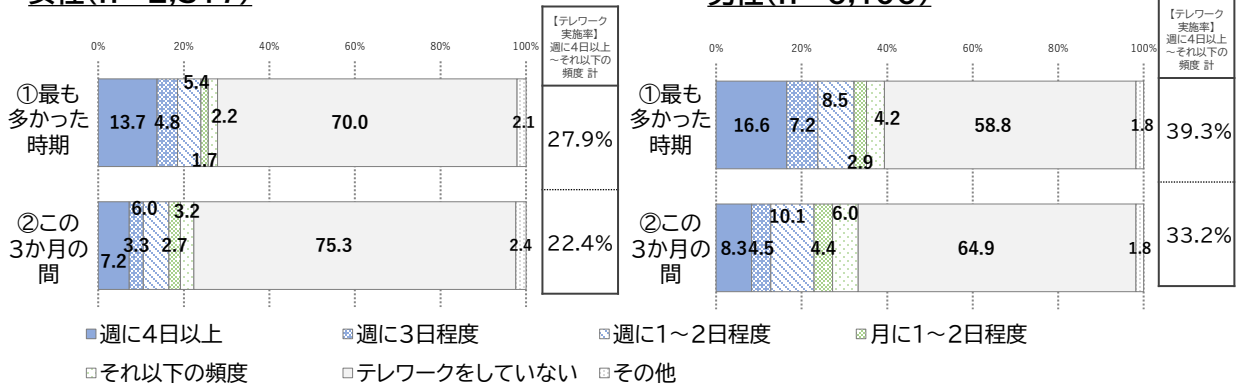
女性(n=5,717)

※「①最も多かった時期」は、ここ3年の間を想定して回答。
「②この3か月の間」は、2022年10-12月を想定して回答。



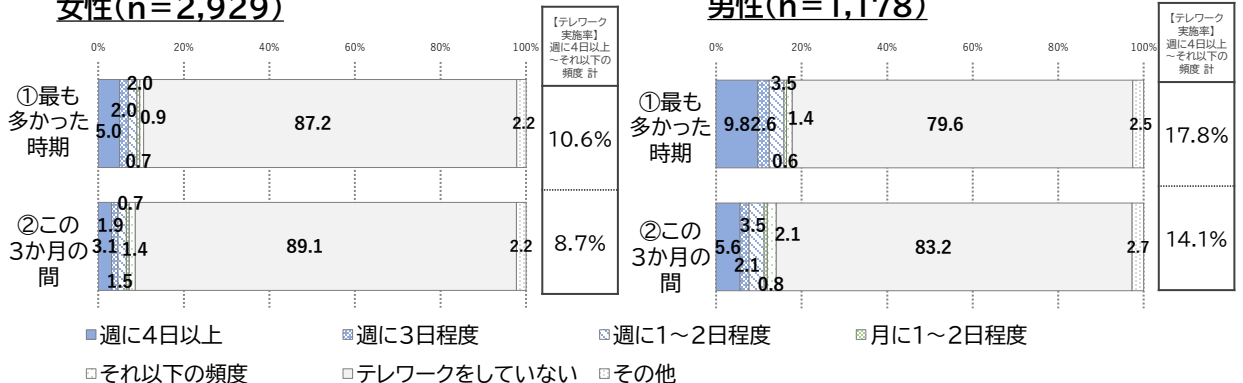
正規雇用労働者

女性(n=2,317)



非正規雇用労働者

女性(n=2,929)

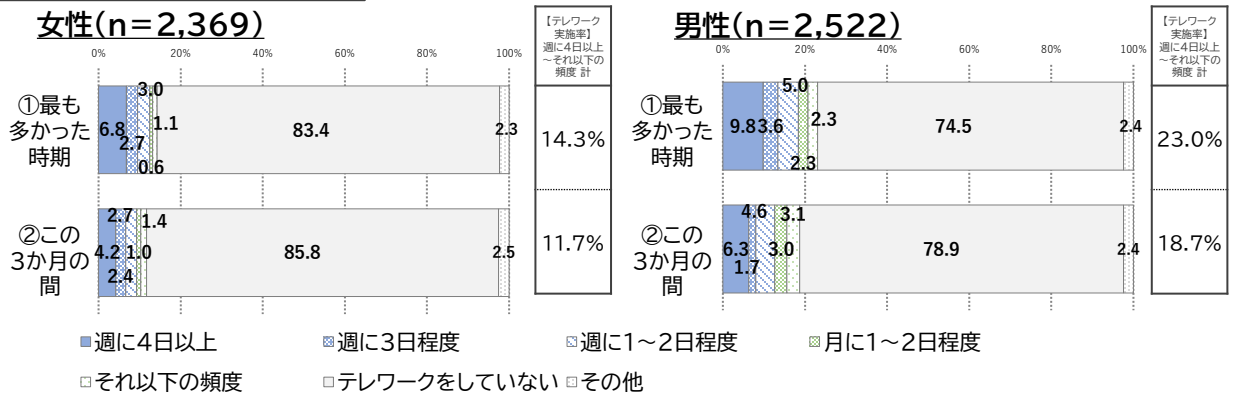


(11) テレワーク実施状況(有職者対象、勤務先の従業員規模別)

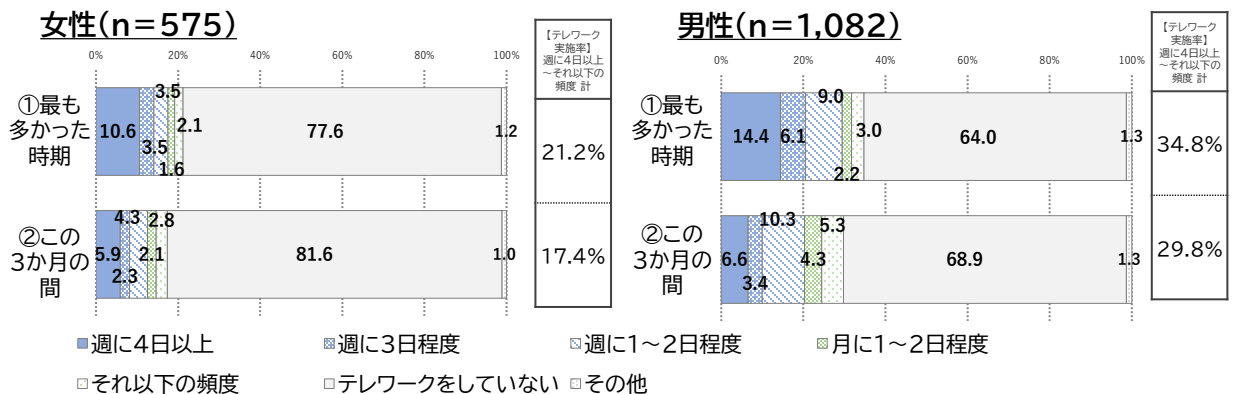
・勤務先の従業員規模別にテレワーク実施率を見てみると、この3年間で最も多かった時期、この3か月の間(2022年10-12月を想定)のいずれも男女ともに従業員数が多いほどテレワーク実施率が高い傾向にある。

・「従業員数300名以上」の企業に勤めている人では、最も多かった時期のテレワーク実施率は女性で28.8%、男性で49.4%。この3か月の間のテレワーク実施率は、女性で23.0%、男性で43.0%と、男性の方が20%ポイント以上高い。

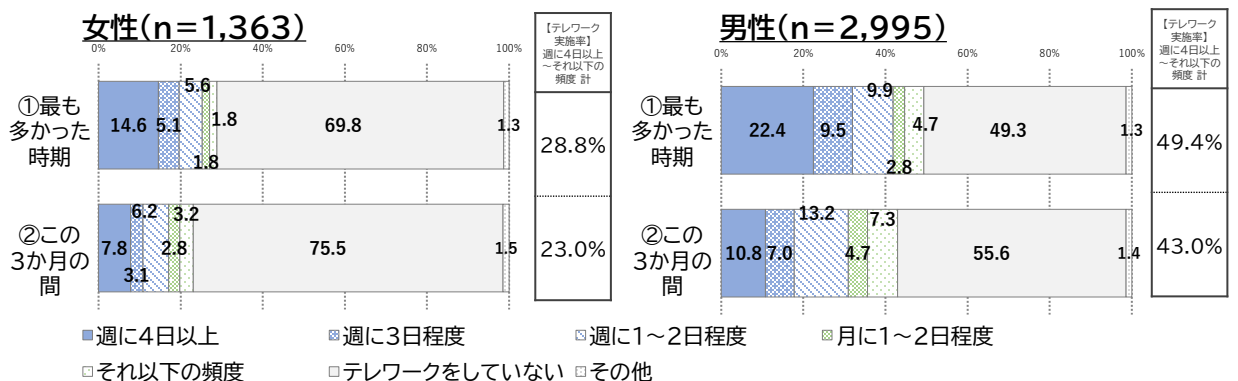
従業員数 99名以下



従業員数 100-299名



従業員数 300名以上



調査結果まとめ

◆“働くこと”に対する考え方と仕事において必要なもの

1 働くことに対する考え方について、男女とも「雇用の安定性を重視」が高い。また、女性では「残業・負荷の少なさ」など、仕事以外の時間確保も高く、特に有配偶・子供有りで顕著。

2 働くことに対する考え方について、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるか」が高い。一方、上の年代ほど「会社・社会の役に立つか」が高く、世代による差が見られた。

3 仕事において必要なものについて、男女とも「スキルアップ」は正規雇用労働者で4割強、非正規雇用労働者では27%。「リスキリング」は雇用形態にかかわらず10~15%程度。

- 働くことに対する考え方では、男女ともに「雇用の安定性を重視して働きたい」が最も高い。男女別にみると、女性は「残業が少ないことを優先」「負荷の少ないことを優先」が高く、男性は「専門性を磨けるように」等が高い。
- 年代別では、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」が高く、年代が上がるほど「会社・社会の役に立つように働きたい」が高い傾向がある。
- 仕事において必要なことについて、「スキルアップ」は、女性正規雇用労働者で43.2%、男性正規雇用労働者で46.8%。一方、女性非正規雇用労働者では26.9%、男性非正規雇用労働者では26.5%。「リスキリング」は、男女とも正規雇用労働者で15%、非正規雇用労働者で13%程度。

・有職者の「働くことに対する考え方」
※選択肢は抜粋 ※10%ポイント程度差がある(高い)項目に色掛け (当てはまる+どちらかといえば当てはまるの累計値)

	女性	男性
雇用の安定性を重視して働きたい	84.9%	79.5%
残業が少ないことを優先して働きたい	80.8%	70.0%
負荷の少ないことを優先して働きたい	83.3%	74.3%
専門性を磨けるように働きたい	59.6%	71.0%

◆現在の雇用形態で働く理由と、非正規雇用労働者が「正規雇用で働くための条件」

1 男女とも正規雇用の理由は「十分な収入 & 安定」。男性非正規雇用労働者は「その形でしか雇用されない」が高い。女性非正規雇用労働者は「家事・育児と両立しやすい」が高く、有配偶で顕著。

2 女性20-39歳非正規雇用労働者(有配偶)の、正規雇用で働く条件TOP3は、「働く時間を調整しやすい」「育児等の両立に理解がある」「自分の家事・育児等の負担が軽くなる」こと。

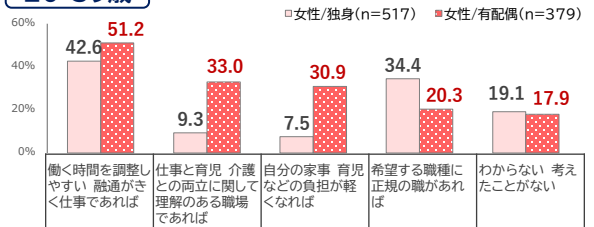
3 女性40-69歳非正規雇用労働者(有配偶)の、正規雇用で働く条件は、「働く時間を調整しやすい」ことが最も高いが、次に「わからない・考えたことがない」が挙がる。

- 現在の雇用形態で働く理由について、正規雇用労働者で男女ともに最も高い項目は「十分な収入を得たいので」で6割強、次に「安定して働きたいので」が続く。
- 非正規雇用労働者について見てみると、女性では「家事・育児等と両立しやすいので」30.0%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」29.8%が高く、男性では「その形でしか雇用されない」32.0%が最も高い。
- 現在の雇用形態で働く理由(女性)について、配偶状況別に見てみると、非正規雇用労働者において、独身では「仕事の内容で負荷がかからないので」24.6%、「その形でしか雇用されない」24.3%が高く、有配偶では「家事・育児等と両立しやすいので」42.2%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」34.3%が高い。また、「社会保険料や配偶者控除などを考えて」「自分で自由に使えるお金が欲しいので」「家事・育児等と両立しやすいので」は、有配偶の方が10%ポイント以上高い。

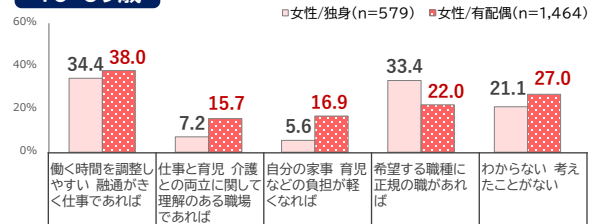
＜女性非正規雇用労働者が正規雇用で働く条件＞

※選択肢は抜粋

20-39歳



40-69歳



調査結果まとめ

◆長時間労働と働く時間を減らしにくい理由

- 1 男性20代～40代では、**有職者の約1/3が「フルタイム/残業月25時間以上」**。また「**有配偶**」の方がフルタイム・長時間労働の割合が高い。
- 2 男性の「長時間労働」におけるプラスの影響は、40代以上における「**昇進・昇給による影響**」のみ。**ワーク・ライフ・バランス**や**家事・育児時間確保等マイナスの影響**は複数挙がる。
- 3 男性が勤務時間を減らしにくい理由TOP2は「**仕事量**」「**人手不足**」。若い層の方が「**残業を評価する風潮**」「**周囲が仕事を優先すべきと考えている**」などが高い。

- 男性の残業月25時間以上の割合は右記表のとおりであり、どの年代でも「有配偶」の方が残業月25時間以上の割合が高い。
- 勤務時間が与える影響について、男性の「長時間労働(残業月46時間以上)」と「残業月24時間以下」で比較すると、20-39歳では長時間労働の方が10%ポイント以上高い項目はなかったが、40-69歳では「昇進・昇給による影響を与える」のみが高い。一方、どちらの年代でも「趣味等の時間」「家事・育児等の時間」「家族とのコミュニケーションの時間」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」かについて、「長時間労働」の方が10%ポイント以上低い。
- 「長時間労働」「残業月25-45時間」において勤務時間を減らしにくい理由は、年代に関係なく「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」「職場の人手不足」が高い。一方、「長時間労働」では、20-39歳でのみ「残業する人を評価する風潮がある」32.7%、「職場や上司の理解がない」30.5%と3割を超える。また、「周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている」は40-69歳と比べ10%ポイント程度高い。

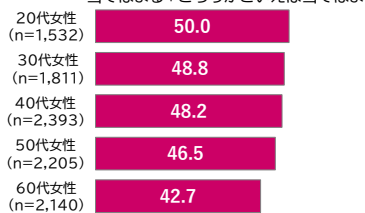
対象者区分	フルタイム			
	①残業月46時間以上(長時間労働)	②残業月25-45時間	①+②(残業月25時間以上)	
男性・独身	20代	14.1%	16.3%	30.4%
	30代	12.5%	12.0%	24.6%
	40代	11.6%	14.2%	25.8%
	50代	11.1%	8.8%	19.9%
	60代	6.7%	3.2%	9.9%
男性・有配偶	20代	24.3%	19.6%	43.9%
	30代	23.6%	21.9%	45.5%
	40代	21.6%	18.5%	40.1%
	50代	16.1%	15.8%	31.9%
	60代	6.4%	6.4%	12.9%

◆「仕事での昇進」 20代時点での考え方

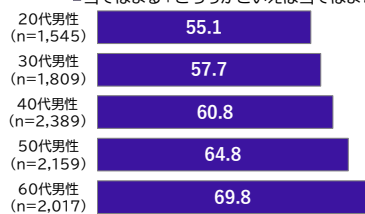
- 1 女性では、「長く続ける」「昇進できる」「いずれは管理職」、いずれも**若い年代ほど割合が高い**。特に「**昇進できる**」「**いずれは管理職**」で年代による差が大きく、**意識の変化が窺える**。
- 2 男性では、「昇進できる」「いずれは管理職」については、**年代による大きな差は見られない**。一方「**長く続けたい**」は若い年代ほど低く、「**一つの会社で勤め上げる**」**意識の変化が関係か**。
- 3 **初職が正規雇用か非正規雇用かによって、「昇進できる」「いずれは管理職」の割合は異なるが、初職が正規雇用の方が男女差が大きい**。

【この仕事を長く続けたいと思っている・いた】

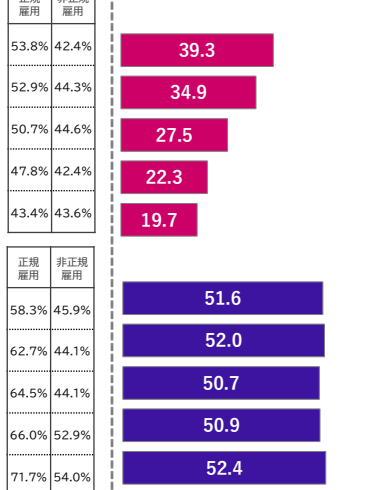
■当てはまる+どちらかといえば当てはまる



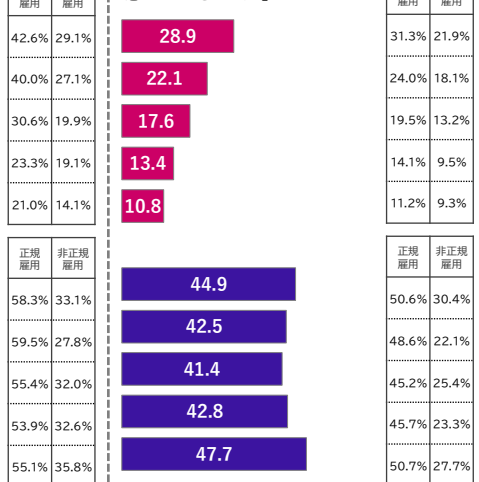
■当てはまる+どちらかといえば当てはまる



【昇進できている・いた】



【いずれは管理職につきたいと思っている・いた】



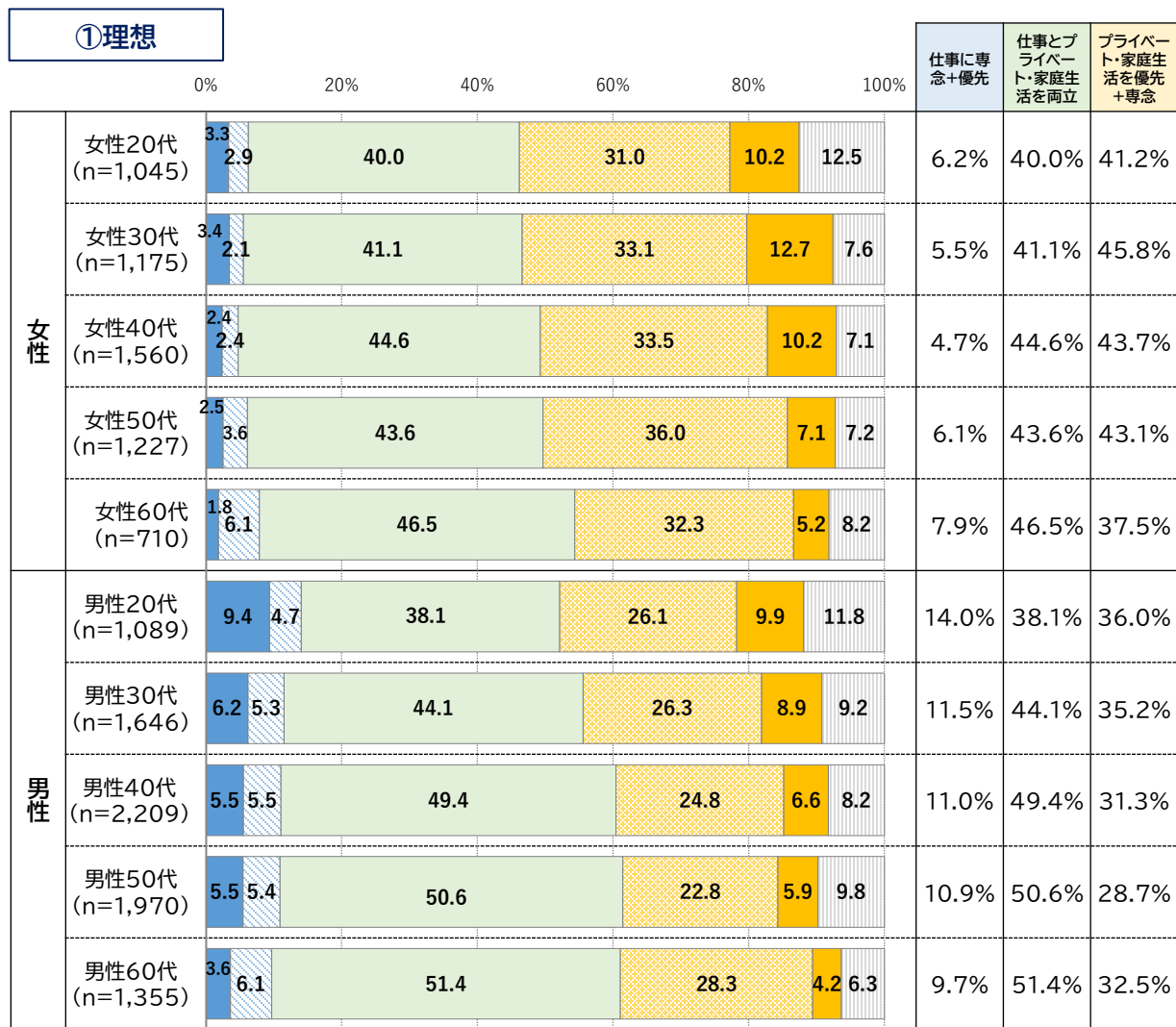
3.仕事とプライベートの理想と現実

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、理想)

・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの理想について見てみると、男女ともに、全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高く、4～5割を占める。ただし、累計値で見ると、女性20～30代では「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」よりわずかに高い。

・同年代の男女を比較すると、30～50代では、女性の方が男性よりも「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高いが、20代では差が小さい(「プライベート・家庭生活を優先+専念」:20代女性41.2%、20代男性36.0%)。

・「仕事に専念+優先」は、男女ともに全ての年代で15%以下となっている。

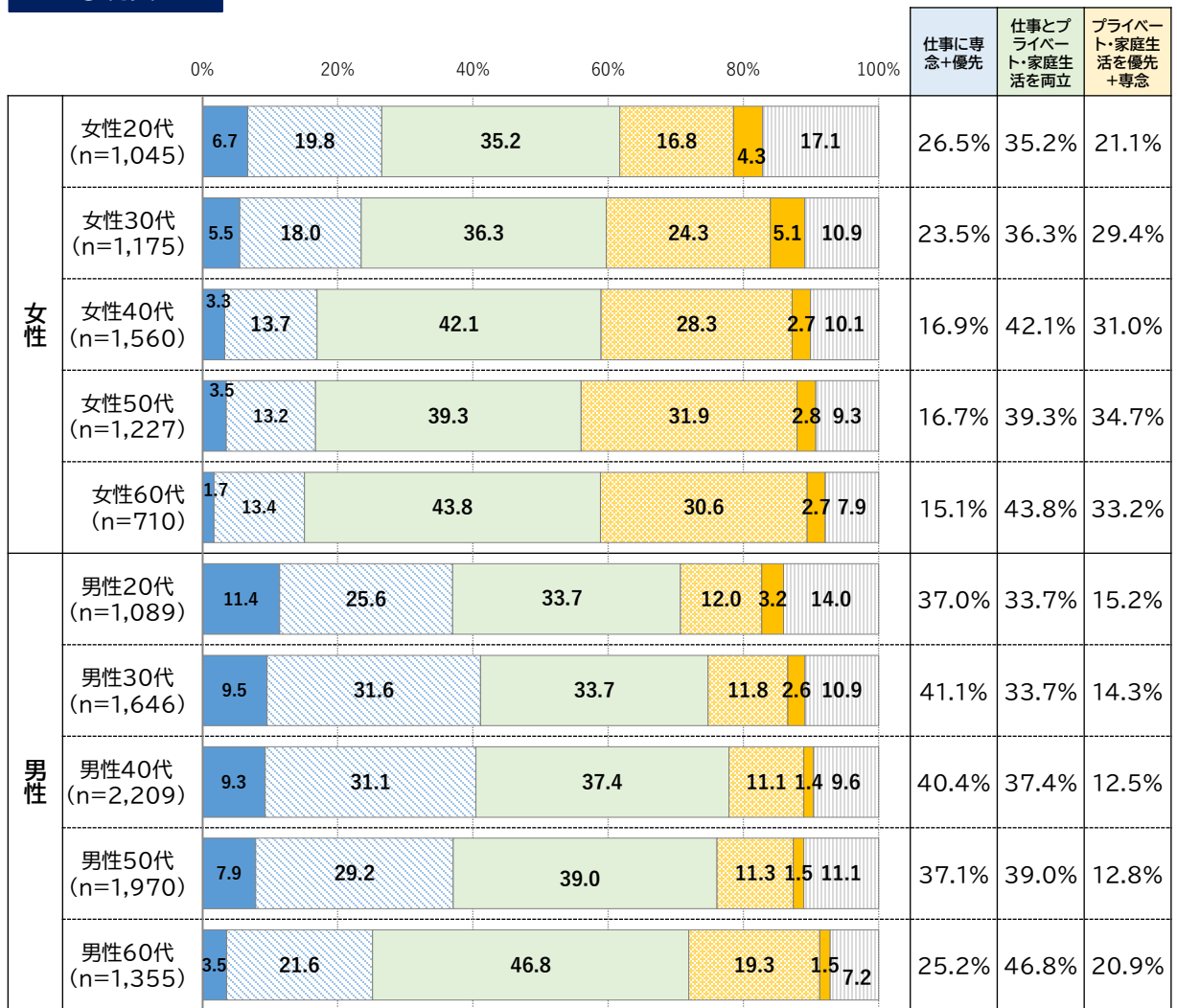


- 仕事に専念
- 仕事を優先
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- プライベート・家庭生活を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 考えたことがない・わからない

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、現実)

- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの現実について見てみると、男女ともに全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。
- ・全体的に「理想」と比べると「現実」では「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に男性20～40代の「現実」では、累計値で見ると「仕事に専念+優先」の割合が、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」よりも高くなる。
- ・同年代の男女で比較すると、全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合は男性の方が10%ポイント以上高い。一方、「プライベート・家庭生活を優先+専念」については30代以上では女性の方が10%ポイント以上高いが、20代ではその差は小さい(「プライベート・家庭生活を優先+専念」:20代女性21.1%、20代男性15.2%)。

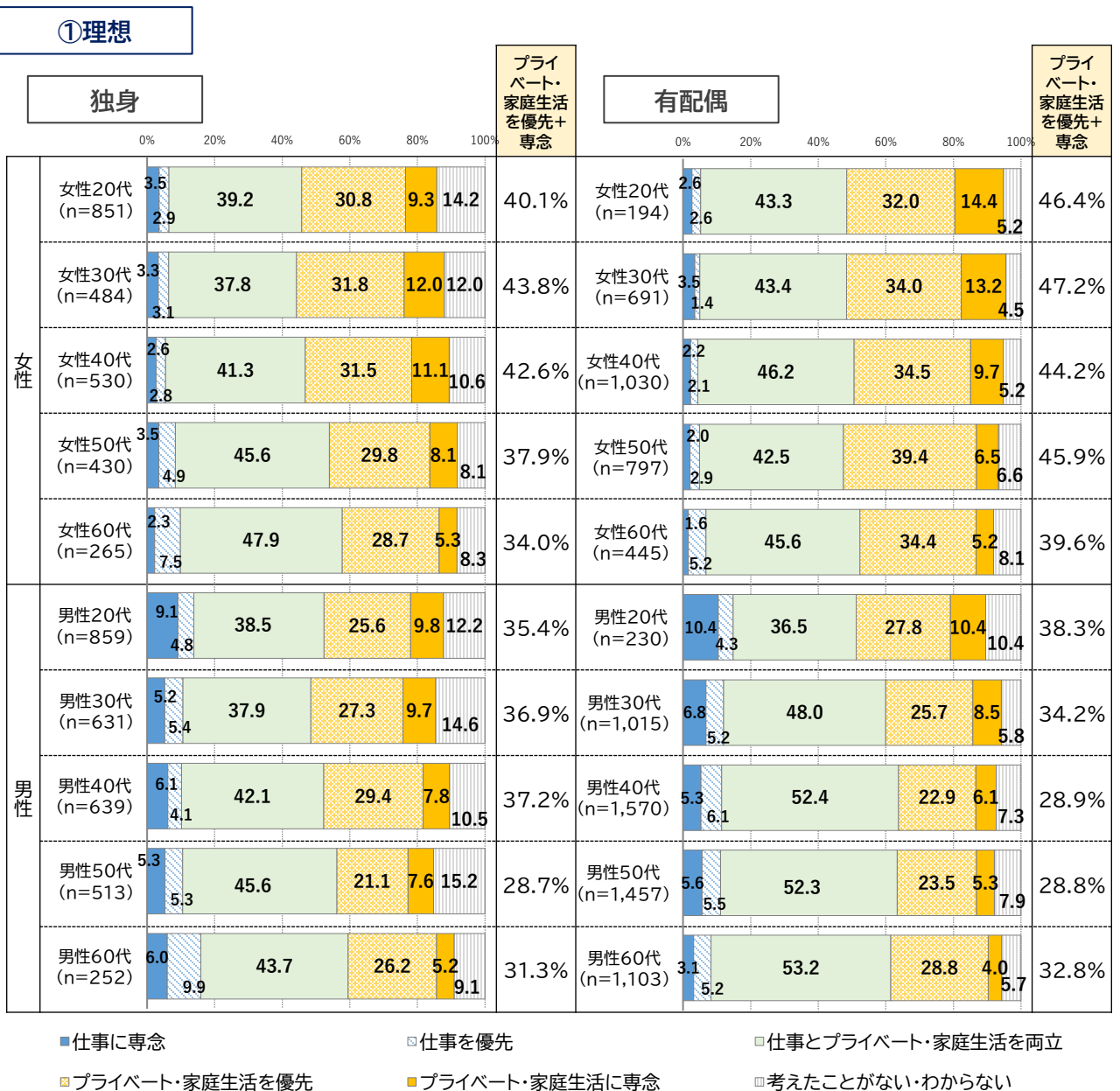
②現実



- 仕事に専念
- 仕事を優先
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- プライベート・家庭生活を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 考えたくない・わからない

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、配偶状況別、理想)

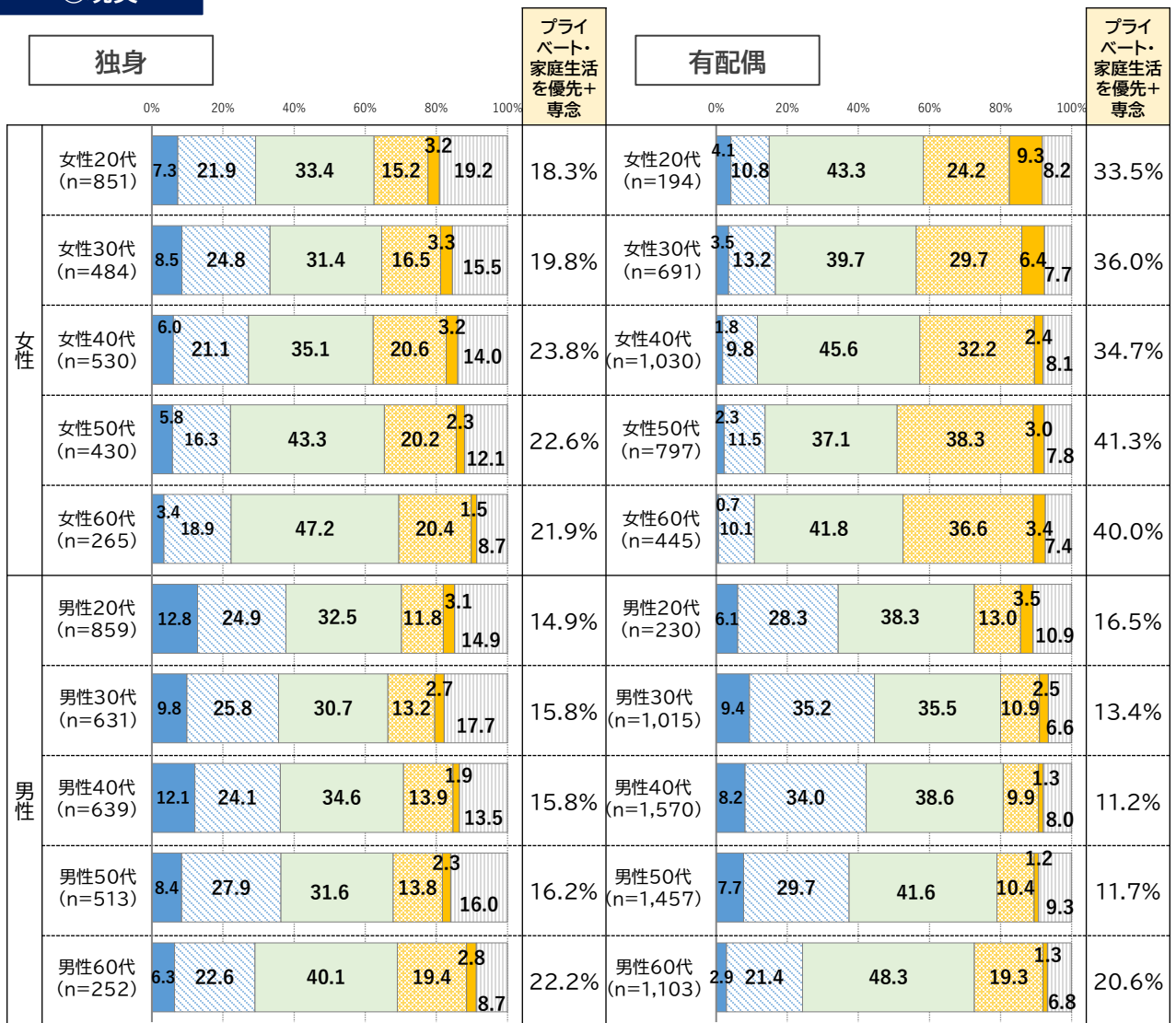
- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの理想について配偶状況別に見てみると、男女ともに配偶状況にかかわらず、全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。
- ・独身と有配偶を比較すると、30～40代の男性では有配偶の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が10%ポイント以上高い。また女性では、全ての年代で「有配偶」の方が、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が高い。
- ・男女の同年代で比較すると、独身では男性の方でやや「仕事に専念+優先」の割合が高いが、あまり大きな差は見られない。
- ・有配偶においては、30～50代では、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」を理想とする割合が10%ポイント以上高い。



(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、配偶状況別、現実)

- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの現実について配偶状況別に見てみると、有配偶50代女性を除く全ての区分で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が最も高いが、理想と比較すると「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・独身と有配偶を比較すると、女性で差が大きく、全ての年代で「有配偶」の方が、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。また「独身」の方が、「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に40代以下で顕著である。男性では、独身と有配偶で大きな差はなかった。
- ・独身について、同年代の男女で比較すると、男性の方が「仕事に専念+優先」の割合が高い傾向にあるが、20～40代、60代ではその差は10%ポイント以内であり、「プライベート・家庭生活を優先+専念」とする割合については、どの年代でも10%ポイント以上の差はない。
- ・有配偶については男女差が大きく、全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合は男性の方が高く、特に30～50代では20%ポイント以上の差がある。また「プライベート・家庭生活を優先+専念」とする割合は、全ての年代で女性の方が高く、特に30～50代では20%ポイント以上の差がある。

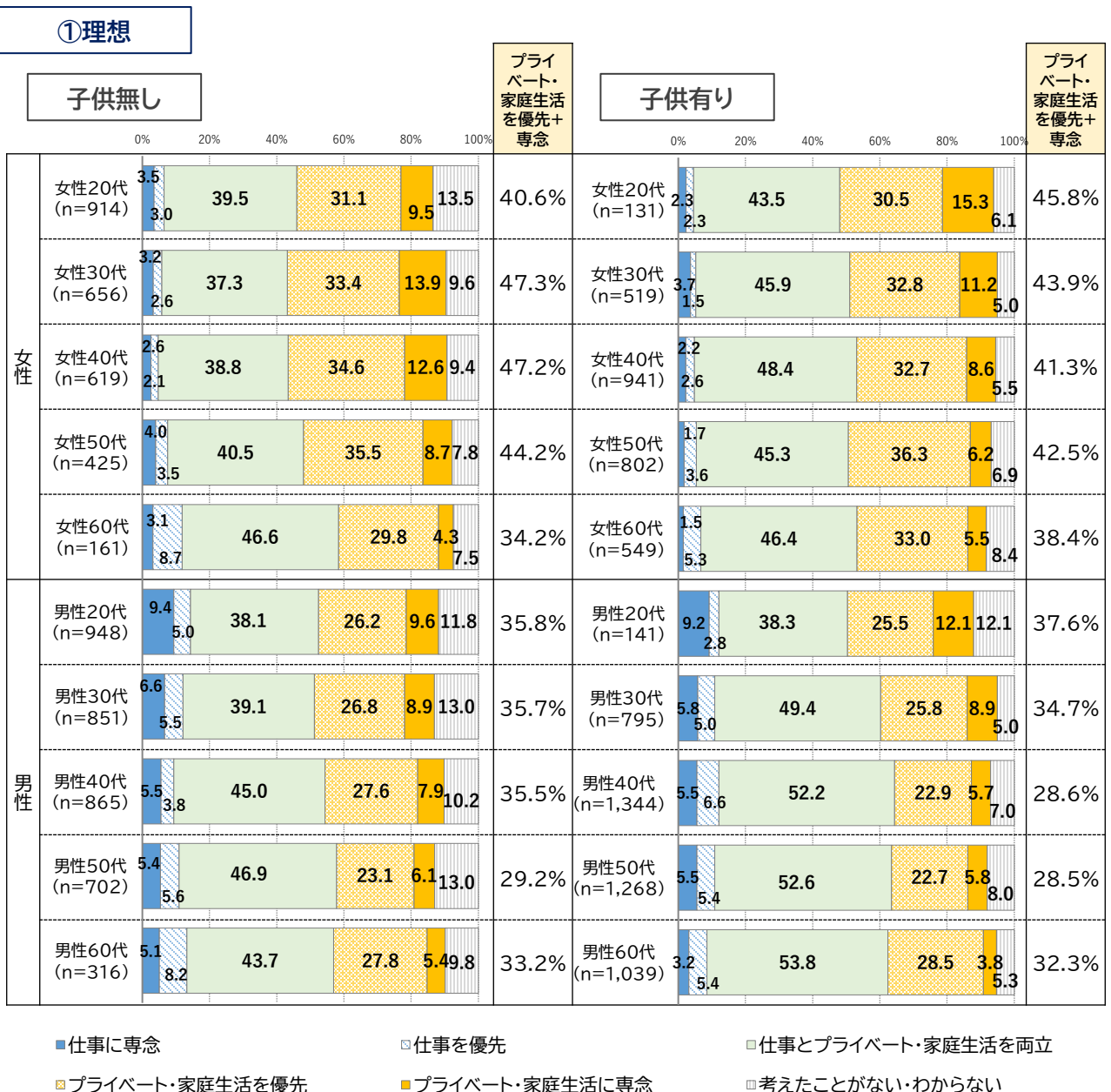
②現実



- 仕事に専念
- ▨ 仕事を優先
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- プライベート・家庭生活を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 考えたことがない・わからない

(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、子供の有無別、理想)

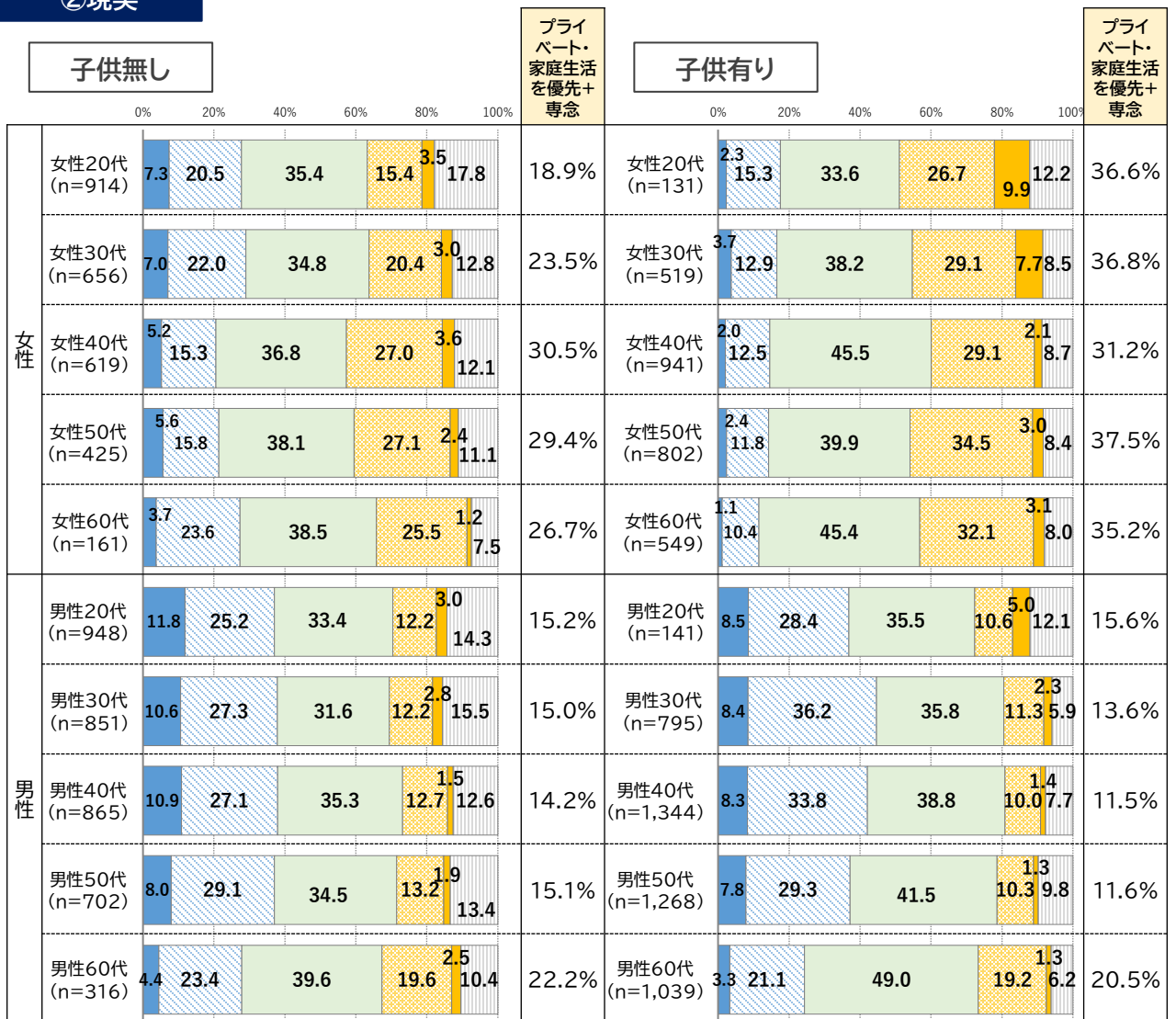
- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの理想について子供の有無別に見てみると、男女ともに子供の有無にかかわらず全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。
- ・子供の有無別に比較すると、30～50代女性では、「子供無し」の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が若干高く、「子供有り」の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が高い。また男性の30～60代でも、「子供有り」の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が高い。
- ・同年代の男女で比較すると、「子供無し」については、30～50代においては、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。
- ・「子供有り」においては、40～50代で、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」を理想とする割合が10%ポイント以上高い。



(1) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、子供の有無別、現実)

- ・仕事とプライベート・家庭生活のバランスの現実について、子供の有無別で見ると、男女ともに「30代男性子供有り」を除く全ての区分で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高いが、「理想」と比較すると全ての区分で「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・子供の有無別で比較すると、女性では20～30代で「子供有り」の方が、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。また「子供無し」の方が、「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に30代以下及び60代で顕著である。
- ・男性では、子供の有無ではあまり大きな差は見られないが、「子供有り」の方が若干「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が高い。
- ・同年代の男女で比較すると、「子供無し」については、男性の方が「仕事に専念+優先」の割合が高く、40～50代では10%ポイント以上差がある。一方、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合は、40～50代では女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「子供有り」では男女差が大きく、全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合は男性の方が高く、特に30～40代では25%ポイント以上の差がある。また「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合は、全ての年代で女性の方が高く、特に20～30代、50代では20%ポイント以上の差がある。

②現実

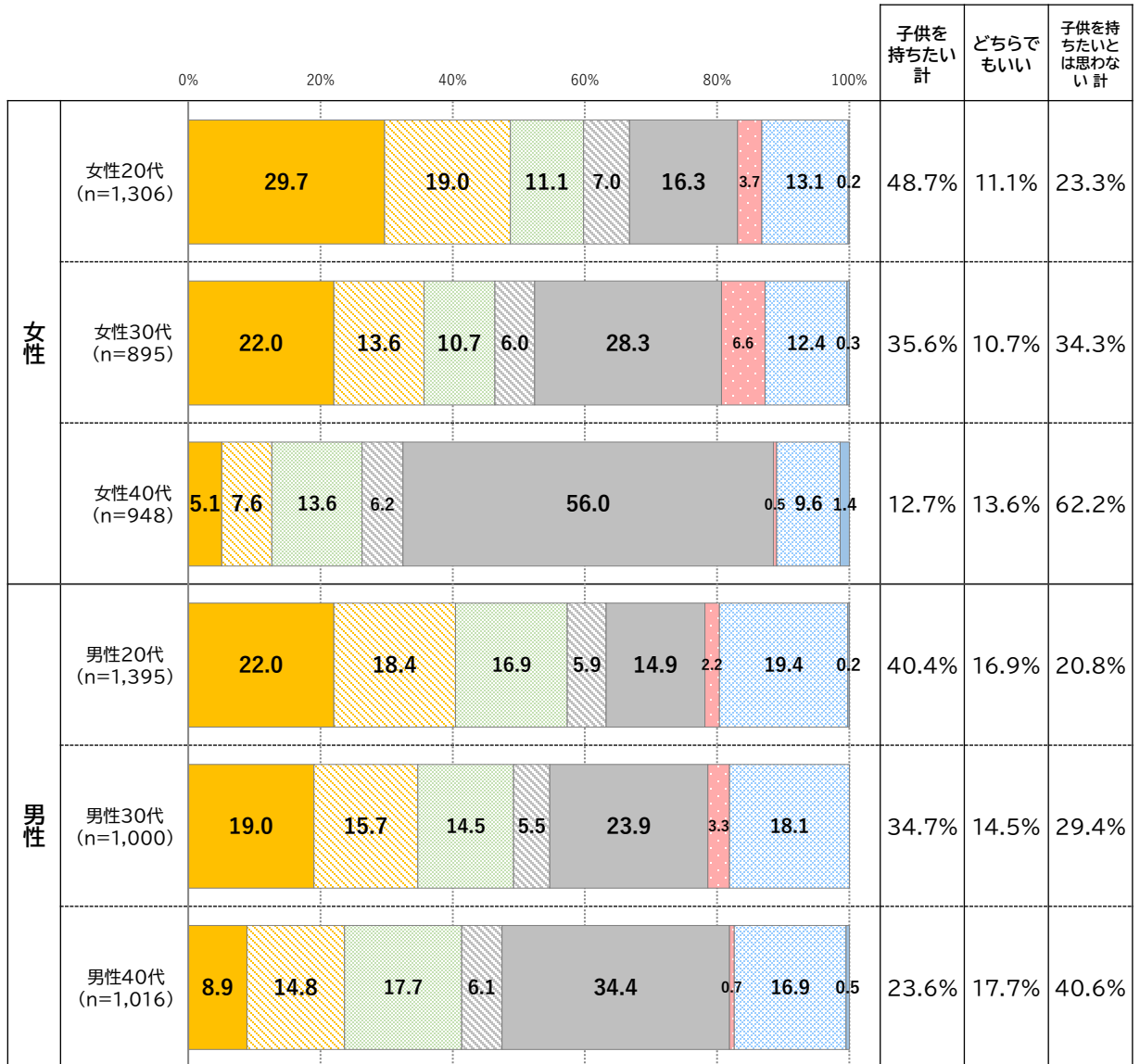


- 仕事に専念
- プライベート・家庭生活を優先
- 仕事を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- 考えたことがない・わからない

(3) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象)

・年代別に見てみると、女性については、20代では「子供を持ちたい(計)」が48.7%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」23.3%を上回る。30代では、「子供を持ちたい(計)」35.6%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」34.3%と同程度。40代では、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が62.2%となる。

・男性については、20代では「子供を持ちたい(計)」が40.4%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」20.8%を上回る。30代では、「子供を持ちたい(計)」34.7%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」29.4%。40代では、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が40.6%となる。



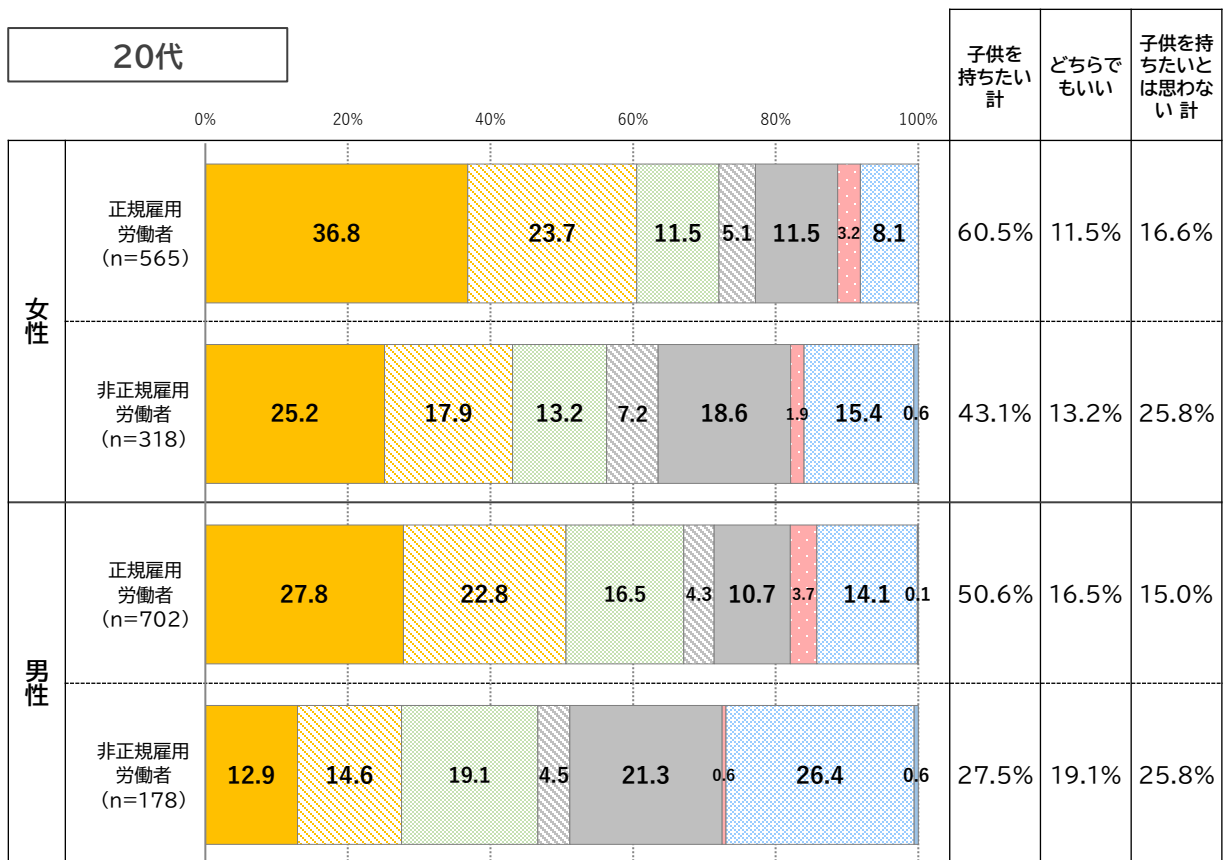
- 子供を持ちたいと思う
- 出来れば子供を持ちたいと思う
- どちらでもいいと思う
- あまり子供を持ちたいとは思わない
- 子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- まだわからない・考えたことがない
- その他

※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う
 ※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

(3) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象、雇用形態別、20代)

・雇用形態別に見てみると、20代の女性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が60.5%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が16.6%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」43.1%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が25.8%と、「正規雇用労働者」の方が「子供を持ちたい(計)」割合が高い。

・20代の男性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が50.6%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が15.0%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」27.5%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」25.8%と同程度で、「正規雇用労働者」の方が「子供を持ちたい(計)」割合が高い。また「非正規雇用労働者」では、「まだわからない・考えたことがない」が26.4%と高い。



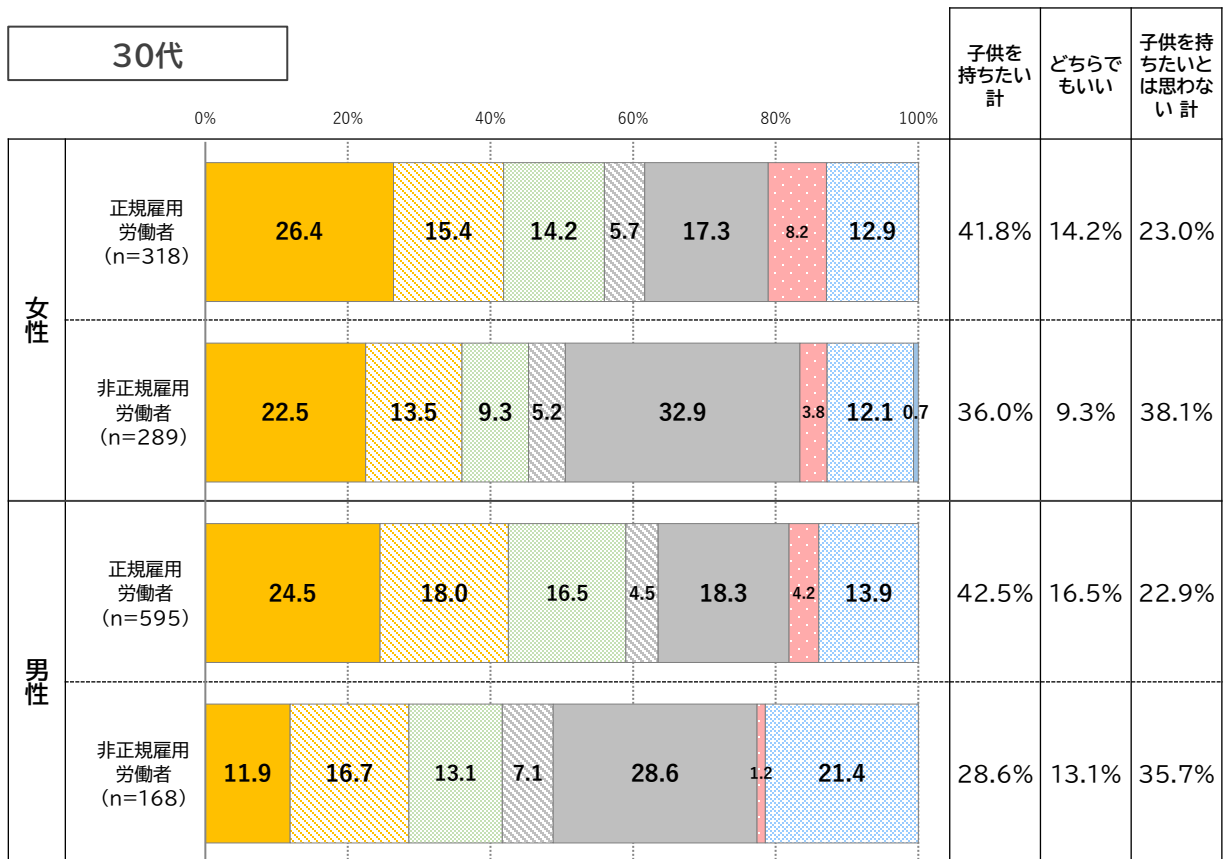
- 子供を持ちたいと思う
- ▨ どちらでもいいと思う
- 子供を持ちたいとは思わない
- まだわからない・考えたことがない
- ▨ 出来れば子供を持ちたいと思う
- ▨ あまり子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- その他

※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う
 ※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

(3) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象、雇用形態別、30代)

・雇用形態別に見てみると、30代の女性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が41.8%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が23.0%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」36.0%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が38.1%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が「子供を持ちたい(計)」を上回っている。

・30代の男性においては、「正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」が42.5%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が22.9%であるのに対し、「非正規雇用労働者」では「子供を持ちたい(計)」28.6%、「子供を持ちたいとは思わない(計)」35.7%と、「子供を持ちたいとは思わない(計)」が「子供を持ちたい(計)」を上回っている。また「非正規雇用労働者」では、「まだわからない・考えたことがない」が21.4%と高い。

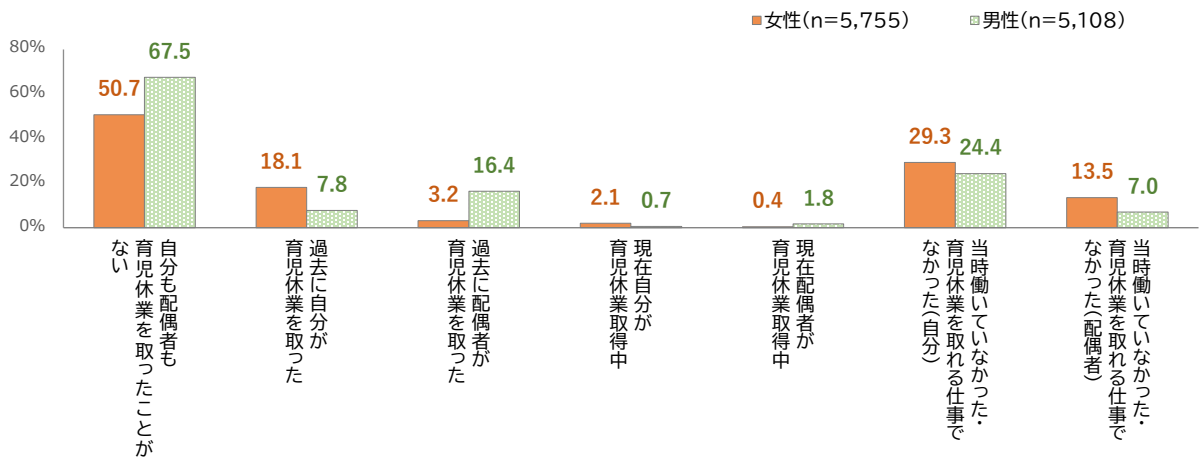


- 子供を持ちたいと思う
- ▨ どちらでもいいと思う
- 子供を持ちたいとは思わない
- ▨ まだわからない・考えたことがない
- ▨ 出来れば子供を持ちたいと思う
- ▨ あまり子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- その他

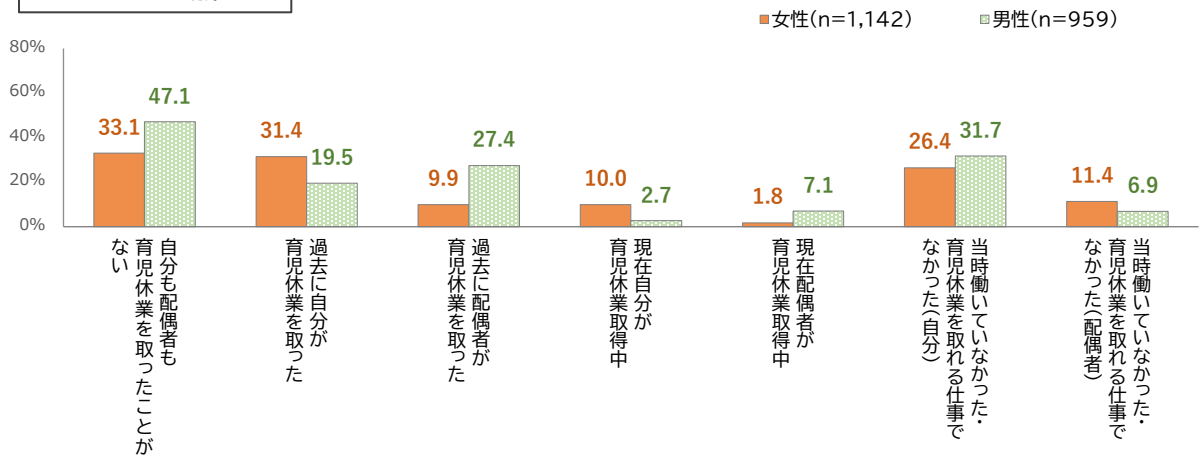
※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う
 ※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

(4) 育児休業の取得経験(子供がいる・子供を持ったことがある人対象)

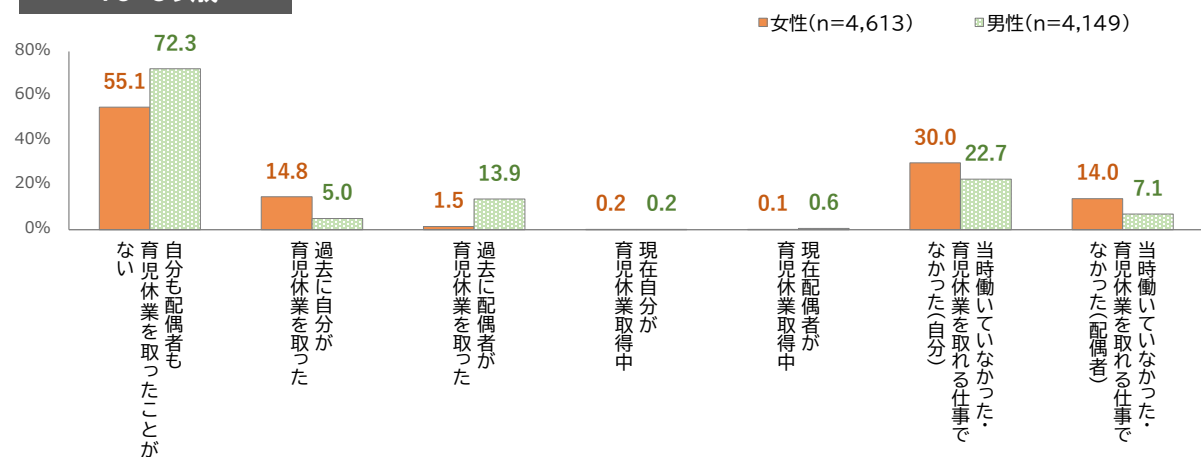
- ・「自分も配偶者も育児休業を取ったことがない」が、女性では50.7%、男性では67.5%となっている。
- ・「過去に自分が育児休業を取った」については、女性で18.1%、男性で7.8%。
- ・年代別に見ると、「過去に自分が育児休業を取った」については、20-39歳では、女性で31.4%、男性で19.5%。40-69歳では、女性で14.8%、男性で5.0%。



20-39歳



40-69歳

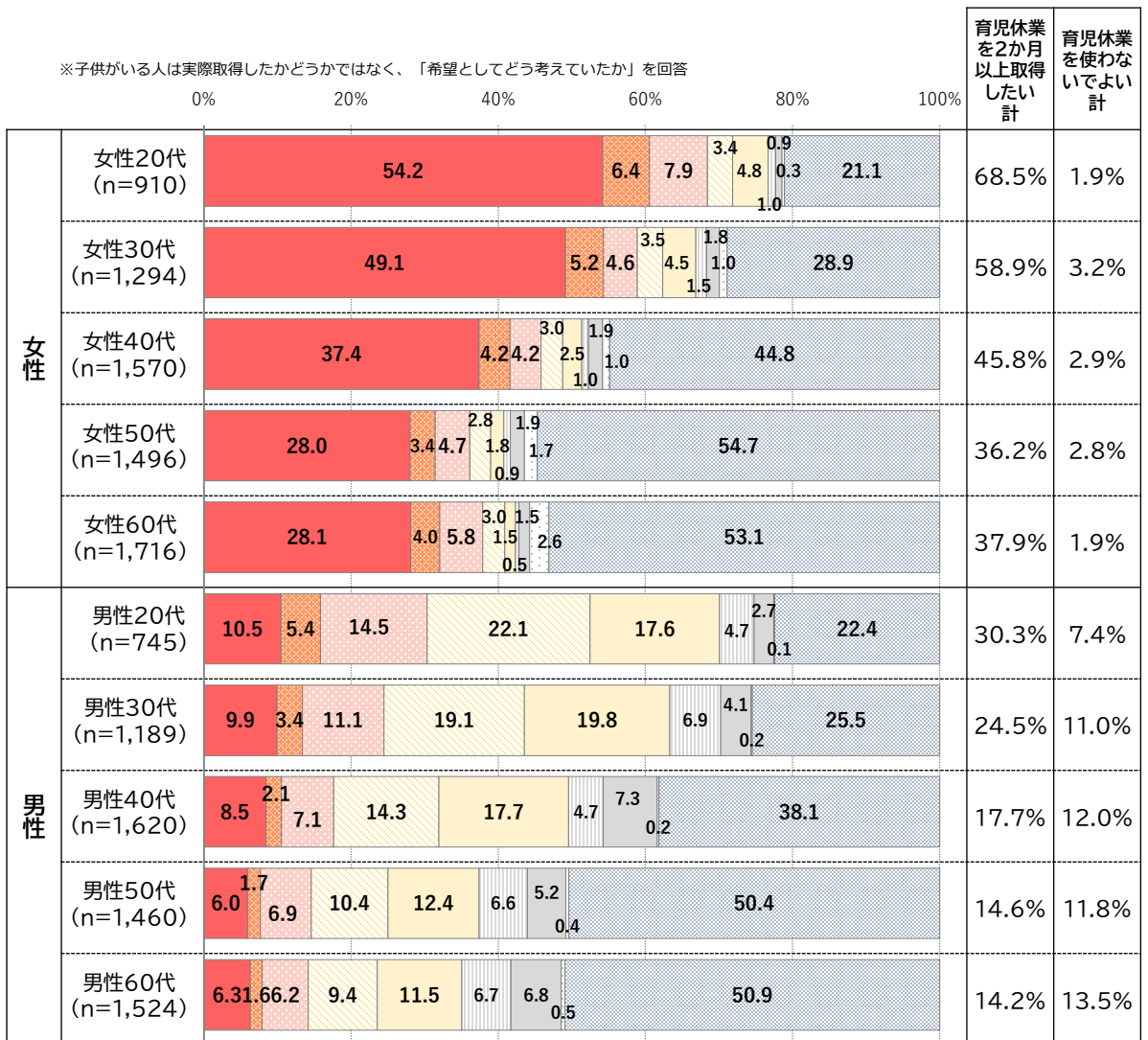


(5) 育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0～3歳の頃)の希望

(子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)が対象)

- ・男女、年代別にみると、女性の20～30代では「育児休業を半年以上取得したい」が最も高く5割、40代で4割、50～60代で3割となっている。なお、40代以上では、「覚えていない・特に希望はない・なかった」が4～5割と高い。
- ・男性では、全ての年代で「覚えていない・特に希望はない・なかった」が最も高いが、その他の選択肢の中では、20代では「育児休業を1か月程度取得したい」が22.1%と高く、30代以上では「育児休業を数日間取得したい」が最も高い。「育児休業を2か月以上取得したい」計で見てみると、20代では30.3%、30代では24.5%、40代より上の年代では15%程度となる。
- ・男女を比較すると、女性ではどの年代でも取得希望期間は「半年以上」が最も高い。一方、男性では「数日間」または「1か月程度」が高く、差が大きい。

※子供がいる人は実際取得したかどうかではなく、「希望としてどう考えていたか」を回答



- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

※育児休業を2か月以上取得したい(計) = 育児休業を半年以上取得したい+育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい+育児休業を2-3か月取得したい
 ※育児休業を使わないでよい(計) = 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい+育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい

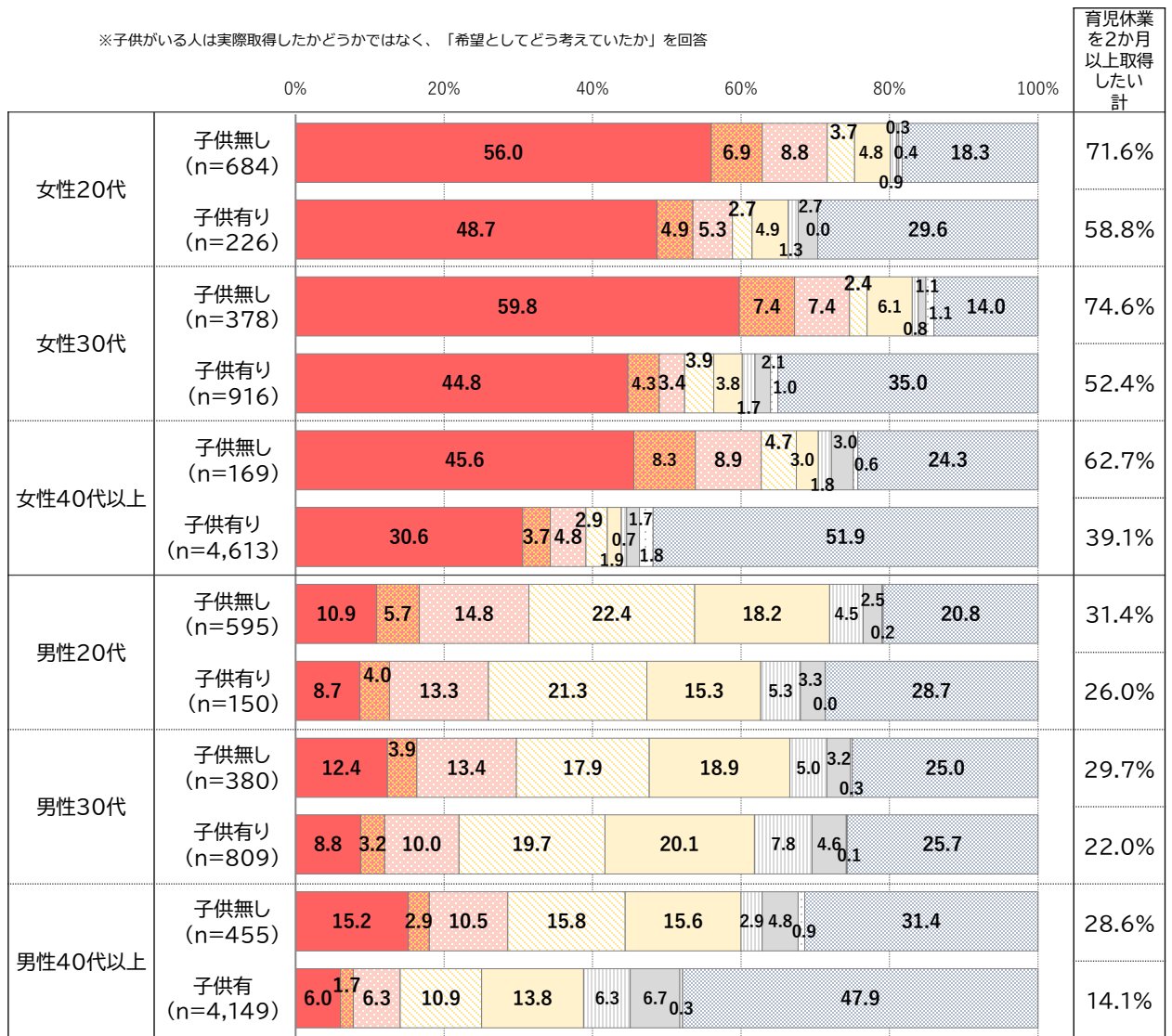
(5) 育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0~3歳の頃)の希望

(子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)が対象)

- ・年代、子供の有無別に見てみると、女性では、「40代以上子供有り」を除く全ての区分で「半年以上取得したい」で4~6割程度と最も高い。また、「子供無し」では「子供有り」と比べ、全ての年代で「育児休業を2か月以上取得したい」割合が10%ポイント以上高い。一方、「子供有り」では「子供無し」と比べ、全ての年代で、「覚えていない・特に希望はない・なかった」の割合が10%ポイント以上高い。
- ・男性では、「40代以上子供有り」を除く全ての区分で、「育児休業を2か月以上取得したい」割合が3割程度。「子供無し」の方が割合は高い傾向にある。「半年以上取得したい」割合は、いずれの区分でも1割程度となっている。
- ・同年代の男女で比較すると、育児休業を「半年以上取得したい」「2か月以上取得したい」のいずれの区分で見ても、女性の方が高い傾向にある。

※子供無し：子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)
 子供有り：子供がいる 子供を持ったことがある人

※子供がいる人は実際取得したかどうかではなく、「希望としてどう考えていたか」を回答



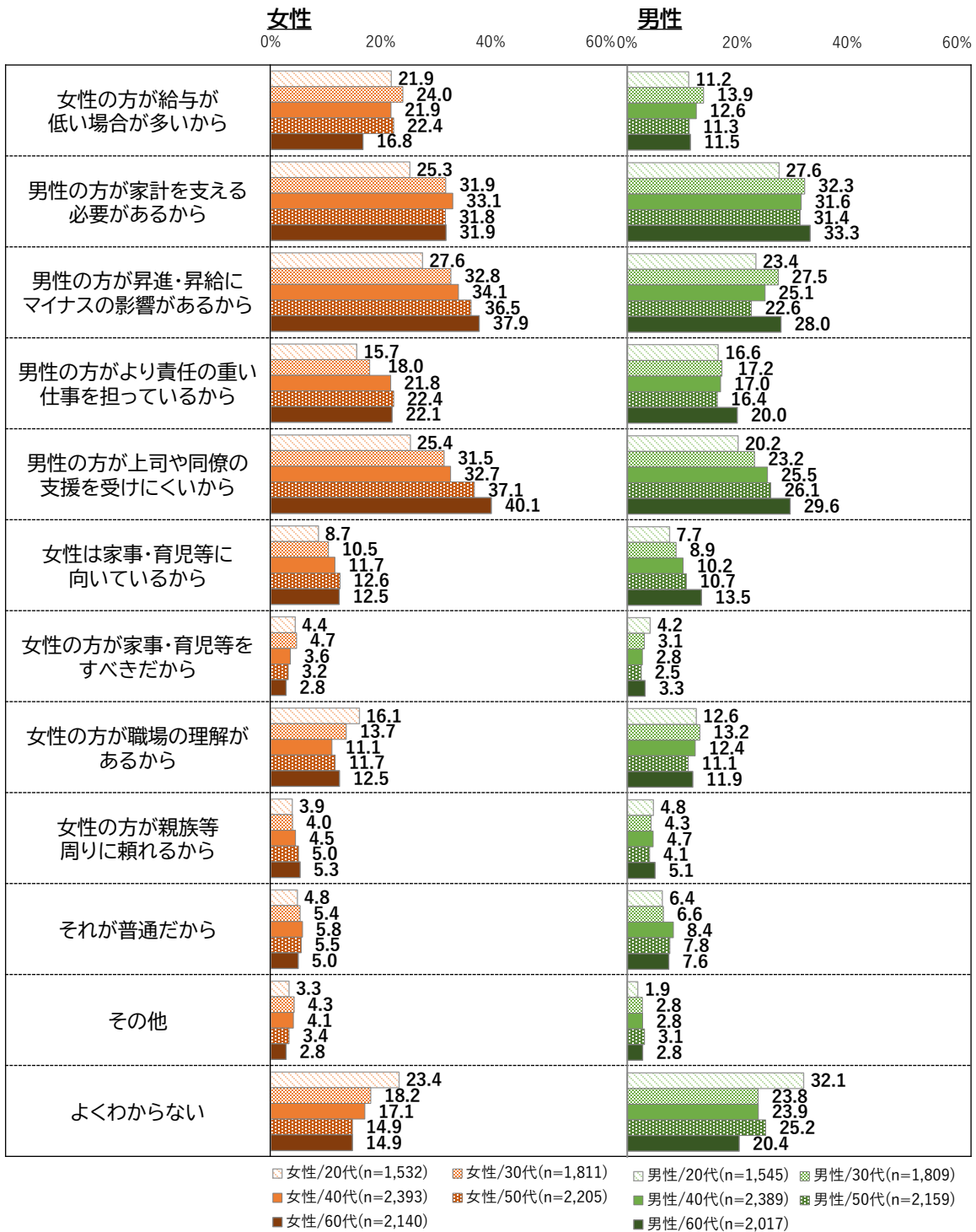
- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

※育児休業を2か月以上取得したい(計) = 育児休業を半年以上取得したい + 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい + 育児休業を2-3か月取得したい
 ※育児休業を使わないでよい(計) = 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい + 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい

(6) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(年代別)

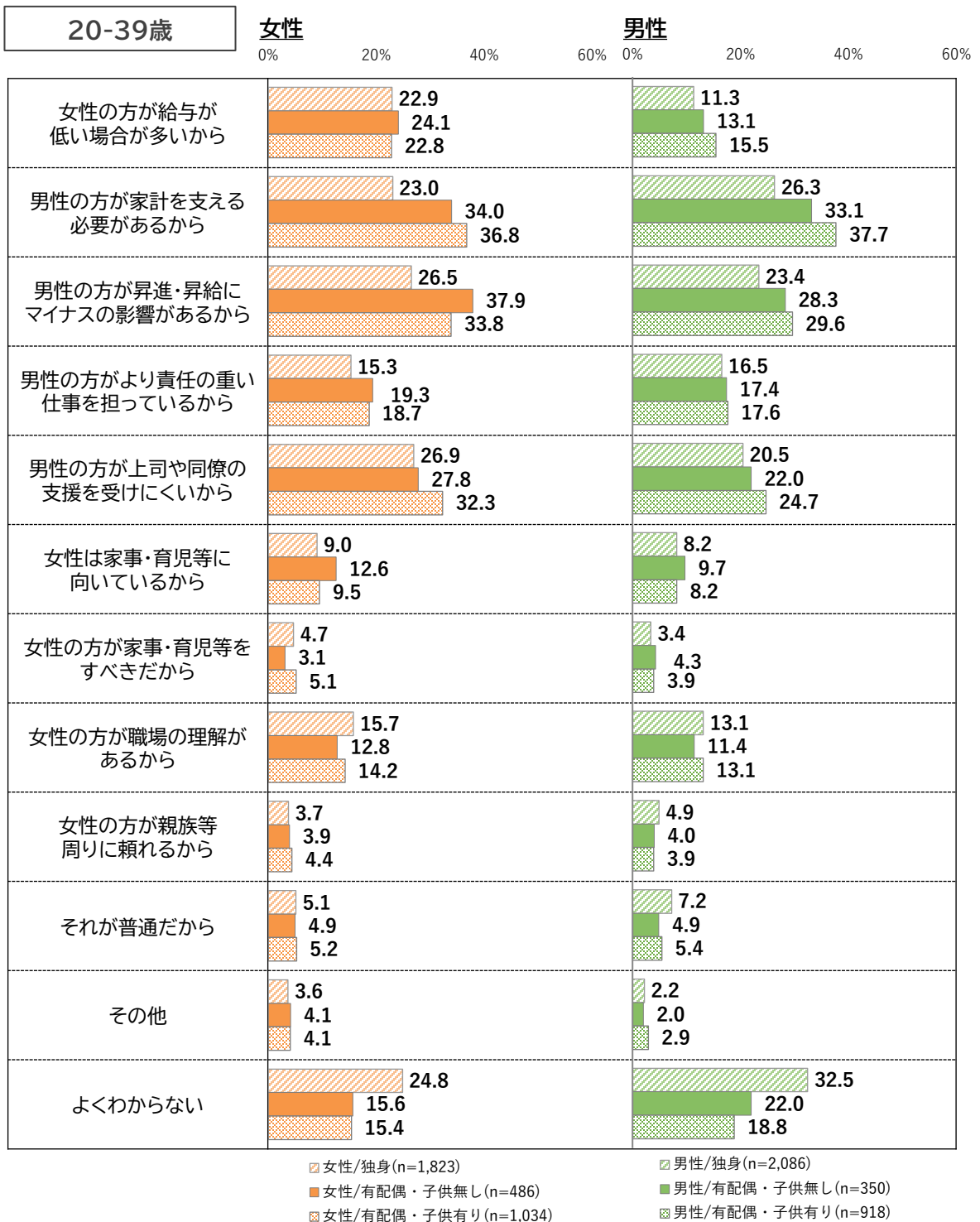
・年代別に見てみると、男女ともに上の年代ほど「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」「女性は家事・育児等に向いているから」が高い傾向にあり、また女性では上の年代ほど「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方がより責任の重い仕事を担っているから」「女性の方が親族等周りに頼れるから」が高い傾向にある。

・同年代の男女で比較すると、10%ポイント以上差がある項目は少ないが、「女性の方が給与が低い場合が多いから」は、20～50代では女性の方が10%ポイント程度高い。また、「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」は、50～60代では女性の方が10%ポイント程度高い。



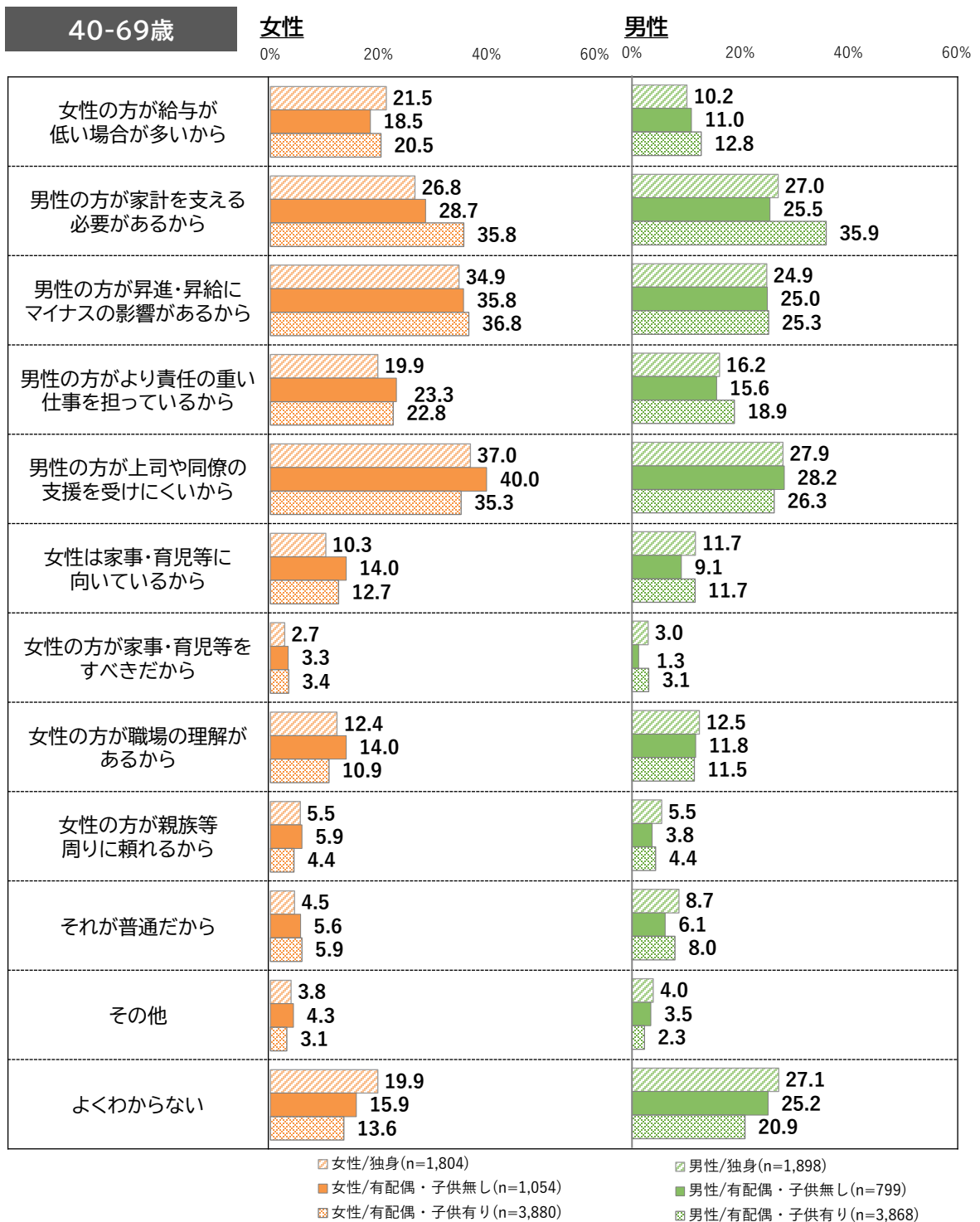
(6) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(配偶状況・子供の有無別、20-39歳)

- ・20-39歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに「男性の方が家計を支える必要があるから」では「独身」と比べて「有配偶・子供有り」の方が10%ポイント以上高い。
- ・女性では、「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」については、「独身」と比べて「有配偶・子供無し」の方が10%ポイント以上高い。
- ・男女で比較すると、「女性の方が給与が低い場合が多いから」については、「独身」「有配偶・子供無し」では、男性よりも女性の方が10%ポイント以上高い。



(6) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(配偶状況・子供の有無別、40-69歳)

- ・40-69歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに「男性の方が家計を支える必要があるから」については、「独身」に比べて「有配偶・子供有り」の方が9%ポイント程度高い。
- ・男女で比較すると、「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」については、いずれの区分でも女性の方が10%ポイント程度高い。また、「女性の方が給与が低い場合が多いから」については、「独身」では、女性の方が10%ポイント以上高い。

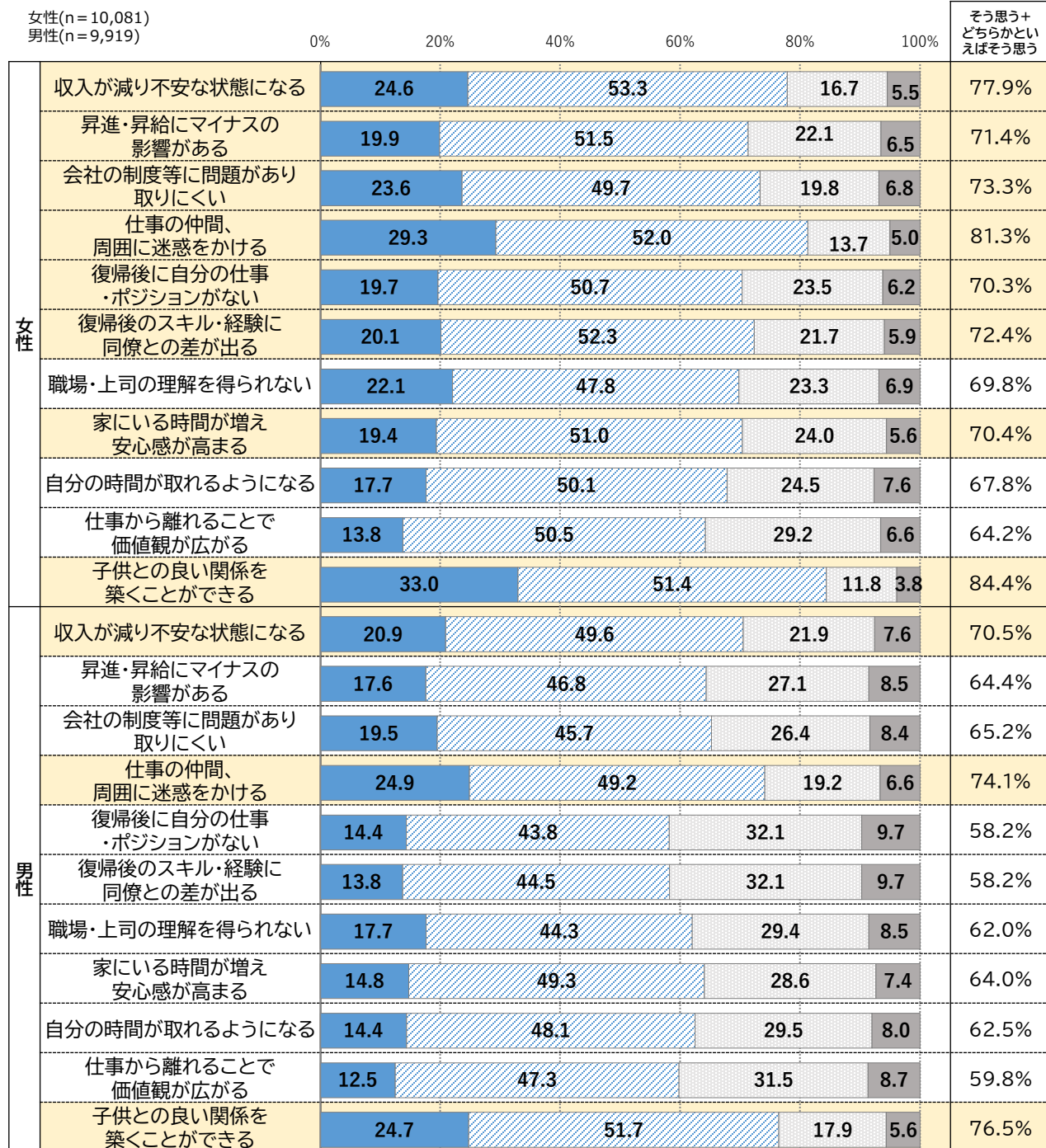


(7) 育児休業取得への考え方

・「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値でみると、男女ともに7割を超える項目は、ポジティブ要素では「子供との良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」「収入が減り不安な状態になる」。女性の7割を超える項目は、ポジティブ要素では「家にいる時間が増え安心感が高まる」、ネガティブ要素では「会社の制度等に問題があり取りにくい」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」「昇進・昇給にマイナスの影響がある」「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」。

・男女で比較すると「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」は女性の方が10ポイント以上高い。

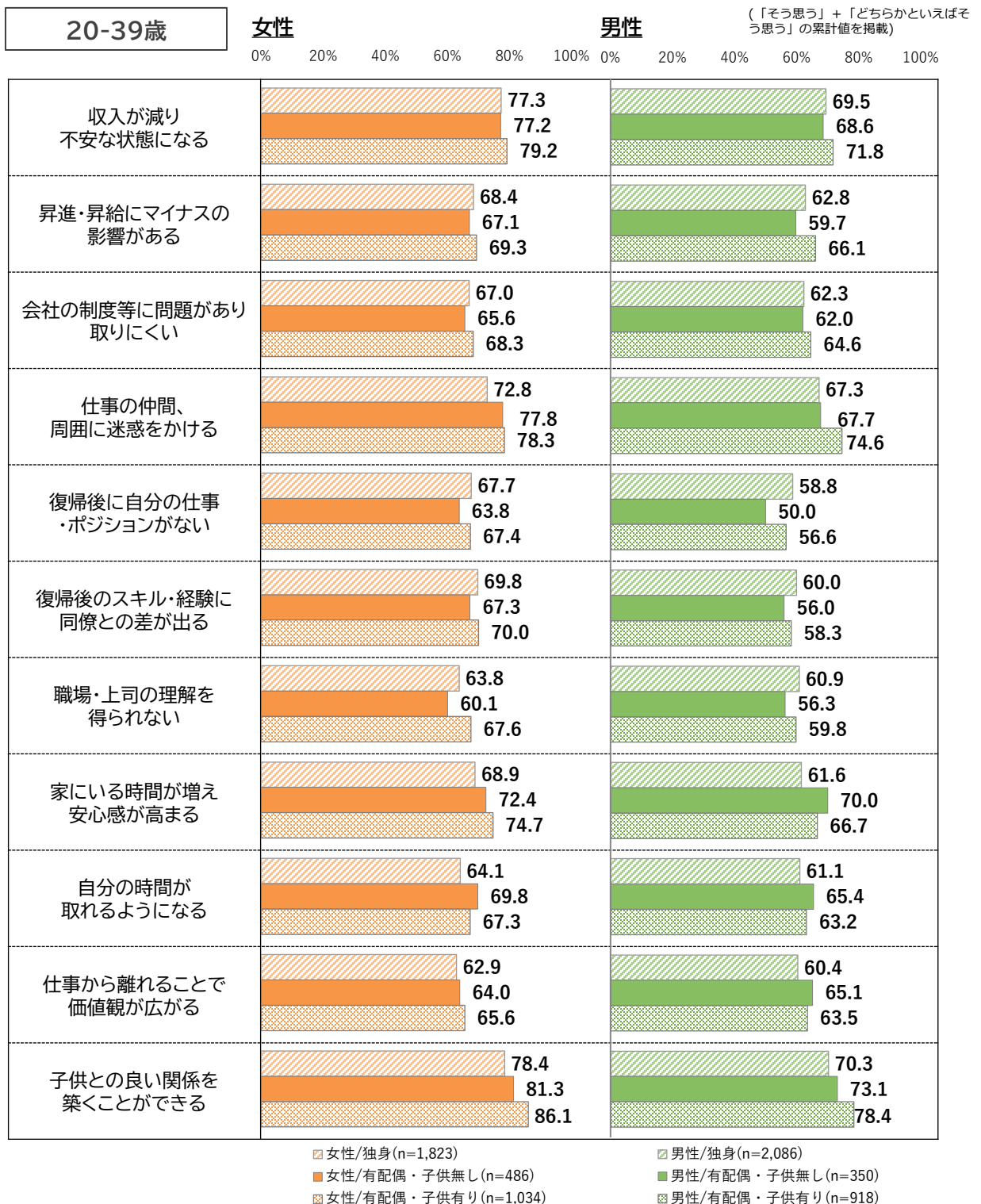
※70%を超えるセルに色掛け



■ そう思う ▨ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

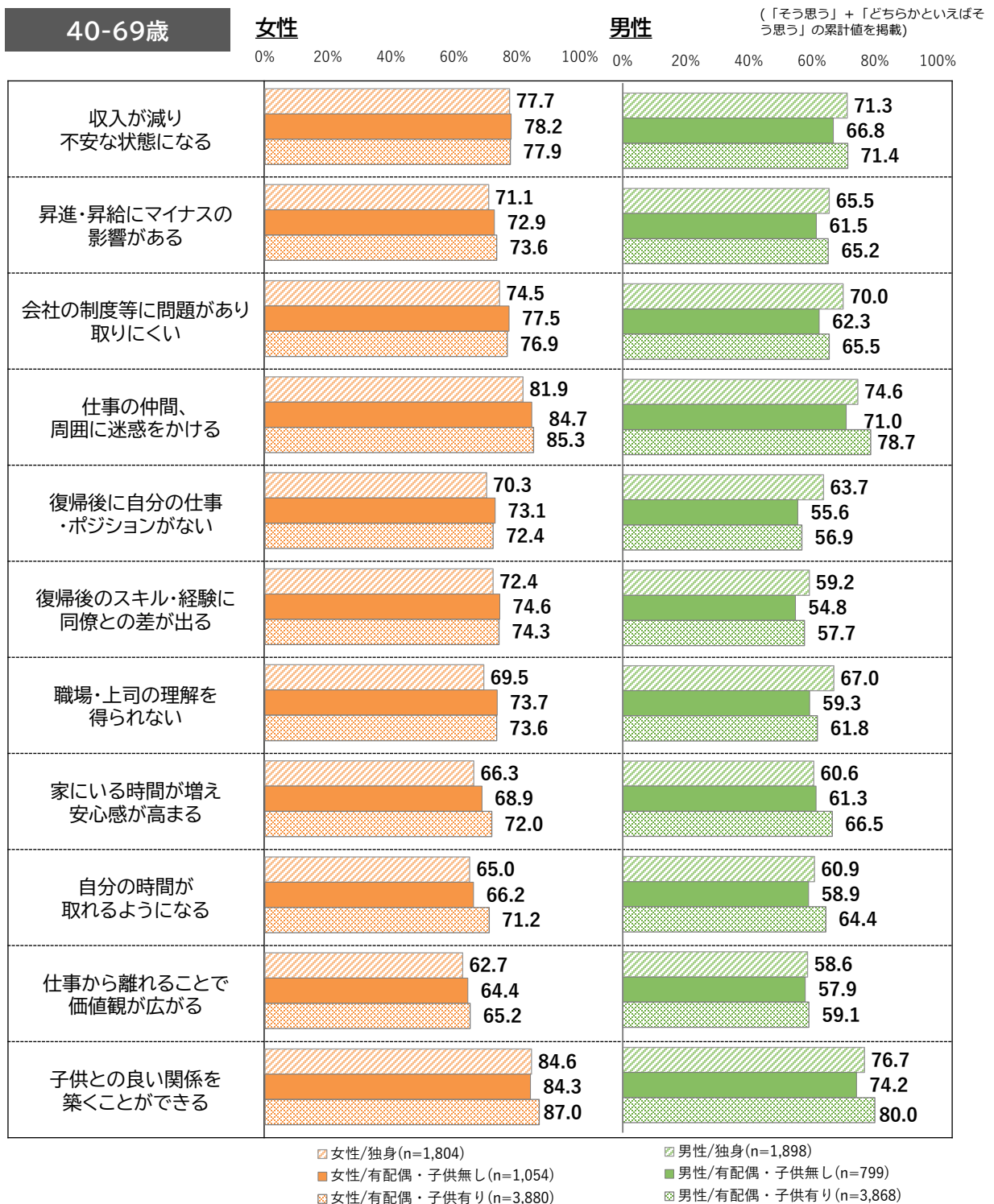
(7) 育児休業取得への考え方(配偶状況・子供の有無別、20-39歳)

- ・20-39歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに大きな差はなかった。
- ・男女で比較すると、「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」については、全ての区分で、男性より女性の方が10%ポイント程度高い。また「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」は、「有配偶・子供無し」においては、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。



(7) 育児休業取得への考え方(配偶状況・子供の有無別、40-69歳)

・40-69歳の人について、配偶状況・子供の有無別に見てみると、男女ともに大きな差はなかった。
 ・男女で比較すると、「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」については、全ての区分で、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。また「会社の制度等に問題があり取りにくい」「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」「職場・上司の理解を得られない」については、「有配偶・子供無し」「有配偶・子供有り」で、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。「収入が減り不安な状態になる」「昇進・昇給にマイナスの影響がある」「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」「子供との良い関係を築くことができる」については、「有配偶・子供無し」において、男性より女性の方が10%ポイント以上高い。



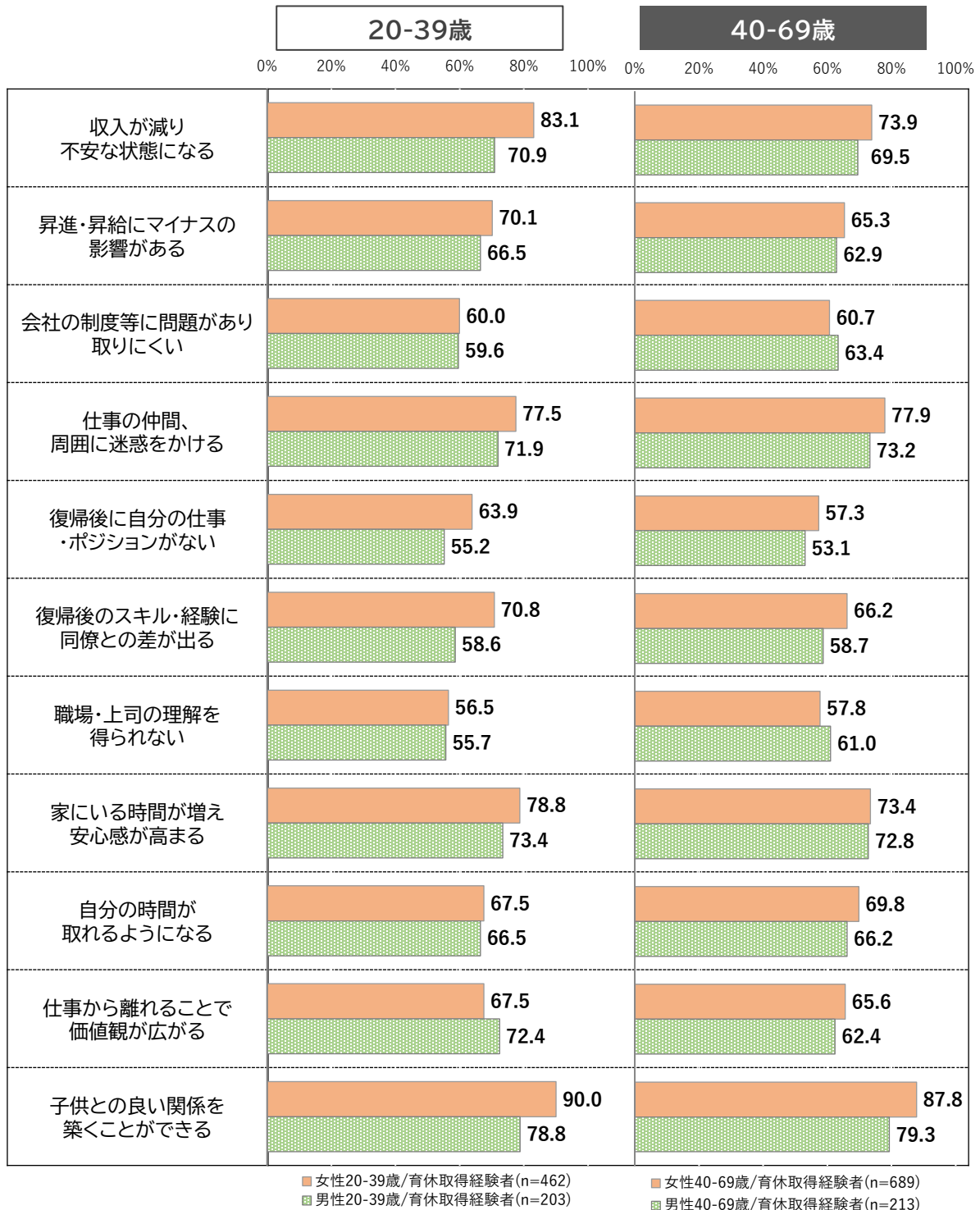
(7) 育児休業取得への考え方(育児休業取得経験者)

・育児休業取得経験者の育児休業取得への考え方について、年代別に見てみると、20-39歳では、ポジティブ要素では「子供との良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「収入が減り不安な状態になる」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」について、女性の方が10%ポイント以上高い。

・40-69歳では、ポジティブ要素である「子供との良い関係を築くことができる」について、女性の方が高い。

・20-39歳と40-69歳で比較すると差はあまりないが、「収入が減り不安な状態になる」については、20-39歳女性の方が、40-69歳女性と比べて10%ポイント近く高い。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載)

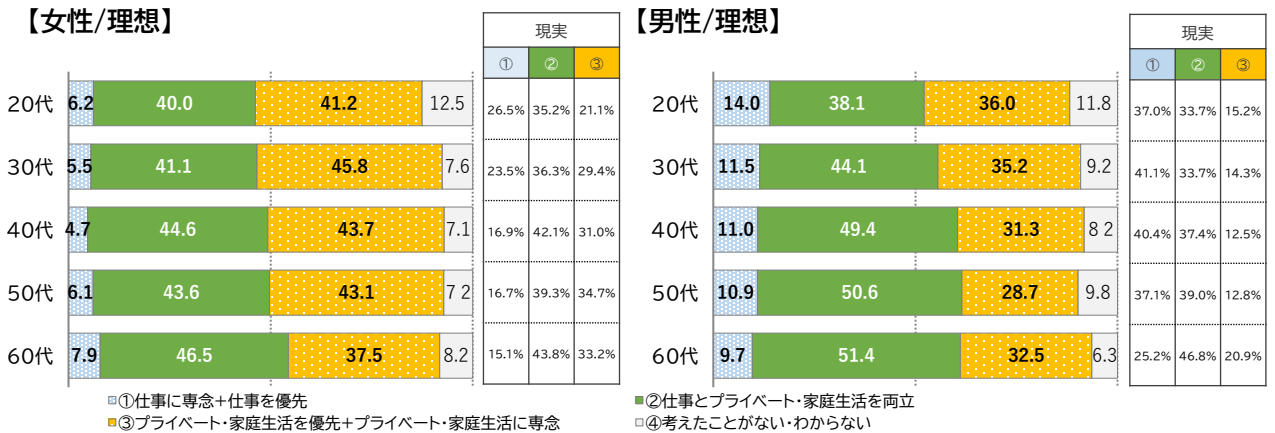


調査結果まとめ

◆仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者対象)

- 1 男女ともに、理想では「両立」志向がいずれの年代でも4~5割を占める。また、「仕事に専念+優先」は男性でも1割程度で、どの年代でも高くない。
- 2 30~50代では、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」を理想とする割合が高いが、20代では男女差は小さい。
- 3 現実では理想と比べ、「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に男性で顕著。どの年代でも男性の方が「仕事に専念+優先」の割合が高いが、20代では上の年代と比べて男女差は小さい。

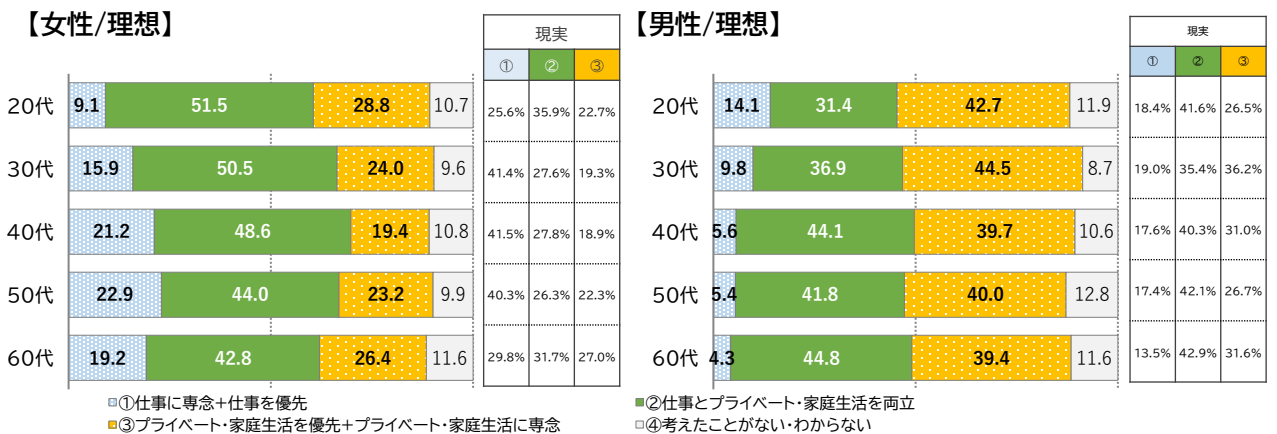
・有職者における仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実



◆配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者)

- 1 理想では男女ともに配偶者に「両立」を望む傾向が高く、女性は4~5割、男性は3~4割。なお、男性では「プライベート・家庭生活を優先+専念」も高く、全ての年代で約4割程度となっている。
- 2 現実に女性が配偶者を見ると、20代と60代では「両立」が最も高いが、30~50代では「仕事に専念+優先」が4割強と最も高い。
- 3 男女で比較すると、理想においては女性の方が配偶者に対して「両立」を望む傾向があり、男性は配偶者に対して「プライベート・家庭生活を優先+専念」を望む傾向がある。

・配偶者(有職者)の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実



調査結果まとめ

◆育児休業取得(子供が0～3歳の頃)の希望

- 1 女性では、「半年以上取得したい」が20～30代で5割程度、40代で4割、50～60代で3割。(40代以上では「覚えていない・希望がなかった」が4～5割と高い。)
- 2 男性では、どの年代でも「半年以上取得したい」は1割程度。若い年代ほど、取得希望期間は長くなる傾向がある。
- 3 取得希望の期間については、女性では全ての年代で「半年以上」が最も高い。一方、男性では、全ての年代で「数日間」または「1か月程度」が最も高く、差が大きい。

育児休業取得の希望		育児休業取得の希望期間				
		半年以上	4-5か月 (半年未満)	2-3か月	1か月程度	数日間
20代	女性	54.2%	6.4%	7.9%	3.4%	4.8%
	男性	10.5%	5.4%	14.5%	22.1%	17.6%
30代	女性	49.1%	5.2%	4.6%	3.5%	4.5%
	男性	9.9%	3.4%	11.1%	19.1%	19.8%
40代	女性	37.4%	4.2%	4.2%	3.0%	2.5%
	男性	8.5%	2.1%	7.1%	14.3%	17.7%
50代	女性	28.0%	3.4%	4.7%	2.8%	1.8%
	男性	6.0%	1.7%	6.9%	10.4%	12.4%
60代	女性	28.1%	4.0%	5.8%	3.0%	1.5%
	男性	6.3%	1.6%	6.2%	9.4%	11.5%

※子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ちたい人(妊娠中も含む)が対象
※各区分で最も高い取得希望期間に色掛け

◆育児休業取得の影響・考え方と、男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由

- 1 育児休業取得への考え方・影響について、「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」「復帰後に自分のポジションがない」等で女性の方が高く、男女差が大きい。
- 2 男性の育児休業取得率が低い理由について、20-39歳の男女で高い項目は、「男性の方が家計を支える必要がある」「男性の方が昇進にマイナスの影響がある」「男性の方が周囲の支援を受けにくい」。
- 3 男性の育児休業取得率が低い理由について男女差が大きい項目は、「女性の方が給与が低い場合が多い」であり、20～39歳においては女性の方が10%ポイント高い。

※選択肢は抜粋
※男女差が10%ポイント以上ある(高い)項目に色掛け

- 育児休業取得への考え方・影響について、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の累計値で見ると、男女ともに7割を超える項目は、ポジティブ要素では「子供との良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」「収入が減り不安な状態になる」。
- 「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」は男女差が大きく、女性の方が10%ポイント以上高い。

男性の育児休業取得率が低い理由	20-39歳	
	女性	男性
男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから	30.4%	25.6%
男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから	28.7%	21.8%
男性の方が家計を支える責任があるから	28.9%	30.1%
女性の方が給与が低い場合が多いから	23.1%	12.6%

4.生活の中でのバランス

(1) 1日の時間の使い方(仕事がある日、有職者)

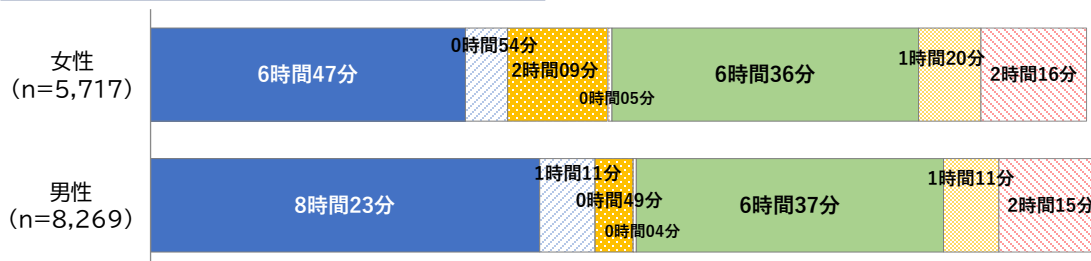
・仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方について有職者の男女で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が1時間20分長く、男性の2.6倍となっている。「仕事の時間」は男性の方が1時間36分長く、「睡眠時間」は男女同程度となっている。

・テレワークの日の「家事・育児時間」も女性の方が長い、その差はテレワーク以外の日より小さい。「仕事の時間」は男性の方が1時間22分長い。

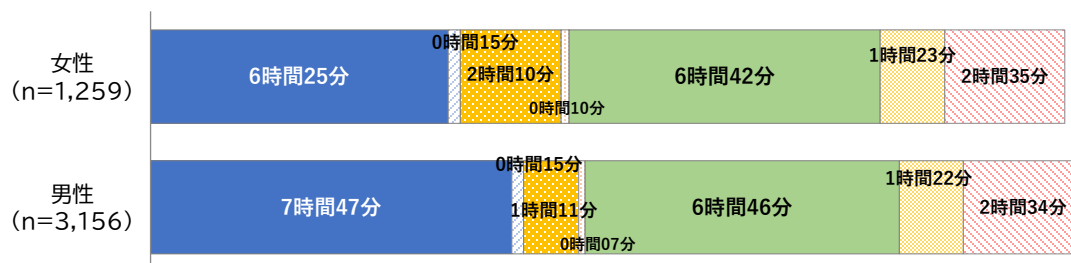
・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」はテレワークの日の方が短くなっており、特に男性では30分以上短い。「家事・育児時間」は、男性ではテレワークの日の方が22分長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も、男性ではテレワークの日の方が11分長い。また、「自分のことに使う時間」は、テレワークの日の方が、男女ともに19分長い。

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



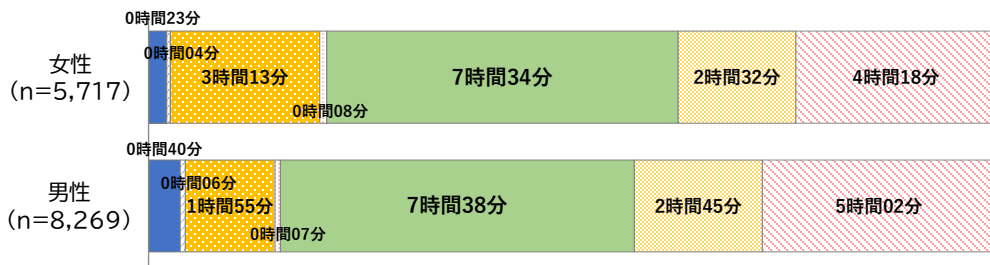
※食事 身の回りの用事(入浴時間等)の時間、友人等と遊んだり、くつろいだりする時間、その他の時間についてはグラフに表章していないため、合計で24時間にはならない。(以下同じ)

(1) 1日の時間の使い方(仕事がない日(有職者)、普段の日(働いていない人))

- ・有職者の仕事がない日と働いていない人の普段の日の1日の時間の使い方を見ると、有職者において、仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性の方が1時間以上長い。一方、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が13分長い。「自分のことに使う時間」も、男性の方が44分長い。
- ・働いていない人の普段の日の「家事・育児時間」は、女性の方が3時間近く長く、差が大きい。一方、「睡眠時間」は男性の方が25分長く、「自分のことに使う時間」は男性の方が2時間31分長い。
- ・有職者の仕事がない日と働いていない人の普段の一日を比較すると、「家事・育児時間」は、女性では働いていない人の方が長く、男性では有職者の方が長い。また、「睡眠時間」は、男女ともに有職者の方が長い。

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がない日※有職者



普段の日※働いていない人



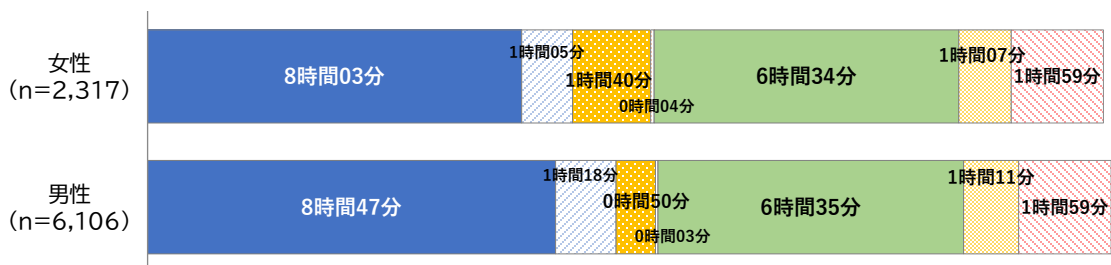
(1) 1日の時間の使い方(正規雇用労働者)

- ・正規雇用労働者の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が50分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が44分長く、「睡眠時間」は同程度となっている。
- ・テレワークの日の「家事・育児時間」も、女性の方が46分長いが、その差はテレワーク以外の日より小さい。一方、「仕事の時間」は男性の方が46分長い。
- ・テレワークの日とテレワーク以外の日と比較すると、男女ともに「仕事の時間」はテレワークの日の方が短くなっており、女性で44分、男性で42分短い。「家事・育児時間」は、女性で20分、男性で24分、テレワークの日の方が長い。また「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も、男女ともにテレワークの日の方が10分前後長く、「自分のことに使う時間」についても、男女ともにテレワークの日の方が、25分程度長くなっている。
- ・仕事がない日の「家事・育児時間」は、男性に比べて女性の方が51分が長い。一方で、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が25分長く、「自分のことに使う時間」も、男性の方が27分長い。

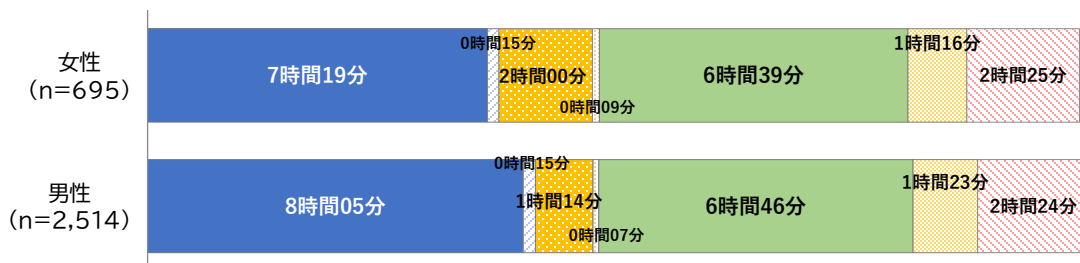
正規雇用労働者

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

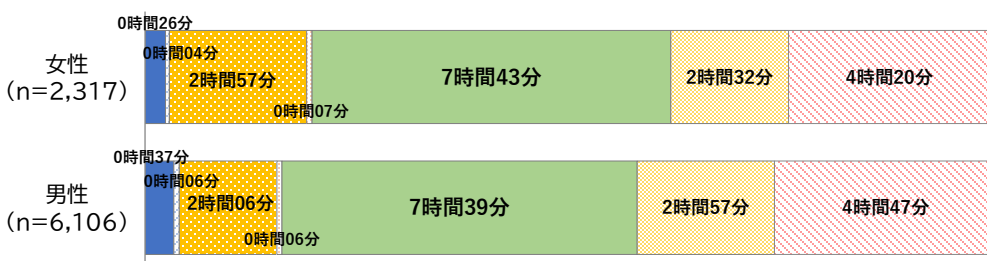
仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



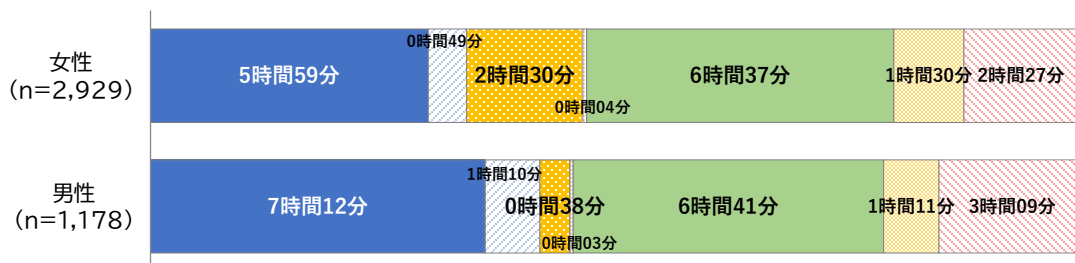
(1) 1日の時間の使い方(非正規雇用労働者)

- ・非正規雇用労働者の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見てみると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性で2時間30分、男性で38分と女性の方が1時間52分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が1時間13分長い。
- ・テレワークの日の「家事・育児時間」については、テレワーク以外の日よりも男女差は小さくなるが、女性の方が1時間34分長い。一方「仕事の時間」は男性の方が1時間13分長い。
- ・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、「仕事の時間」は男女ともに33分テレワークの日の方が短い。「家事・育児時間」は、男性では8分、テレワークの日の方が長い。また「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も、男女ともにテレワークの日の方が10分程度長く、「自分のことに使う時間」は、女性で21分、男性で5分テレワークの日の方が長くなっている。
- ・仕事がない日の「家事・育児時間」は、男性と比べて女性の方が2時間8分長い。一方で、「自分のことに使う時間」については、男性の方が1時間59分長い。

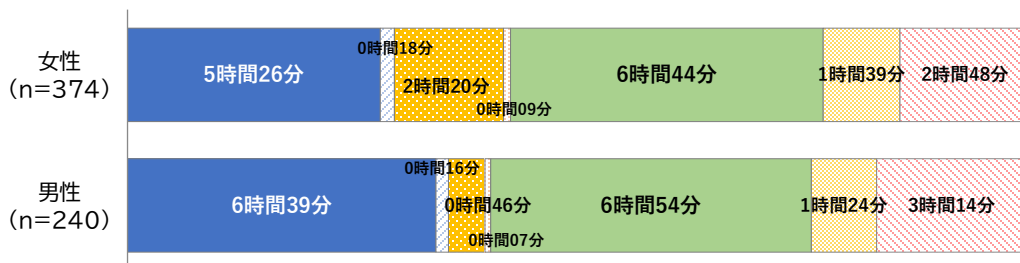
非正規雇用労働者

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、有配偶(20-39歳))

・有配偶の有職者(20-39歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見てみると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が1時間41分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が2時間11分長い。

・テレワークの日の「家事・育児時間」は、テレワーク以外の日より男女差は小さくなるが、女性の方が1時間20分長い。「仕事の時間」は男性の方が1時間51分長い。

・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」は女性で30分、男性で50分、テレワークの日の方が短い。「家事・育児時間」は、男性では28分、テレワークの日の方が長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」については、男女ともに15分程度テレワークの日の方が長く、「自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)」も、男女ともに20分程度テレワークの方が長くなっている。

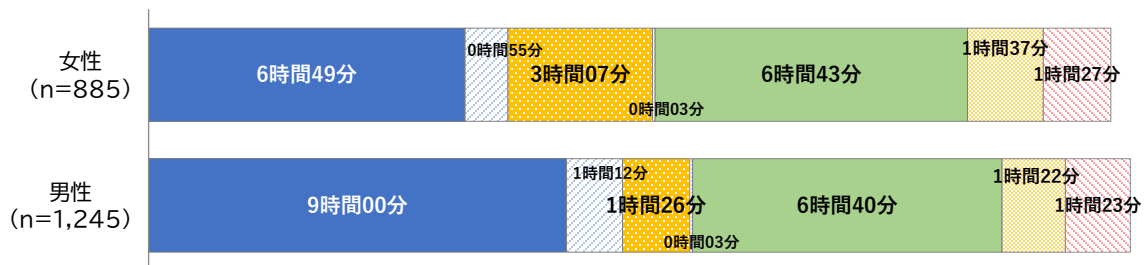
・仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性で4時間54分、男性で3時間57分と、女性の方が長い。その差は1時間以内となる。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が女性より24分長い。

有配偶

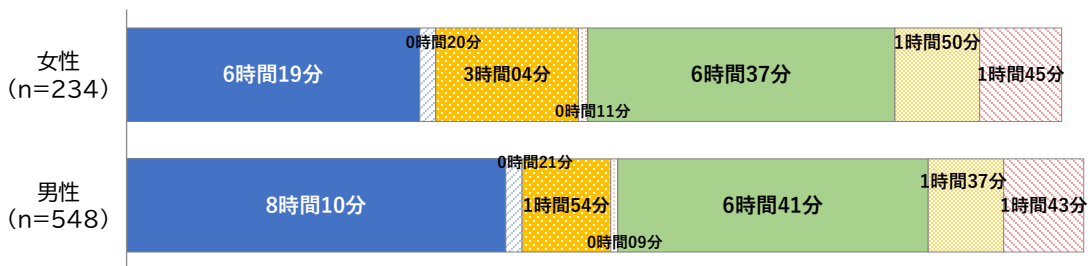
20-39歳

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、有配偶(40-69歳))

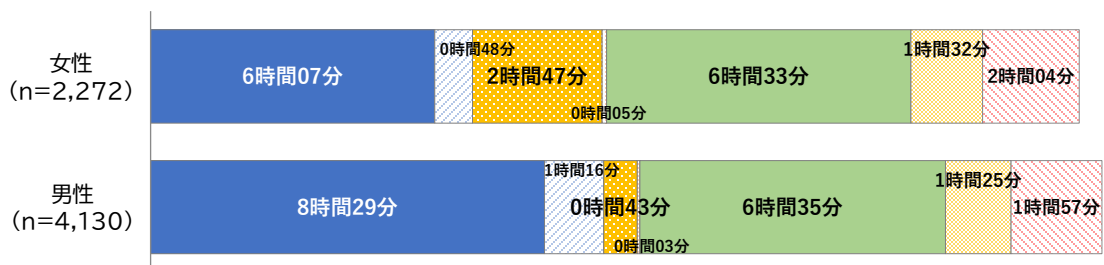
- ・有配偶の有職者(40-69歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見てみると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が2時間4分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が2時間22分長い。
- ・テレワークの日の「家事・育児時間」は、テレワーク以外の日より男女差は小さいが、女性の方が1時間47分長い。「仕事の時間」は男性の方が1時間56分長い。
- ・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」は女性で6分、男性で32分テレワークの日の方が短い。「家事・育児時間」は、男性で22分テレワークの日の方が長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性で12分テレワークの日の方が長い。「自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)」は、女性で12分、男性で25分、テレワークの日の方が長い。
- ・仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性の方が2時間長い。「自分のことに使う時間」は、男性の方が54分長い。

有配偶

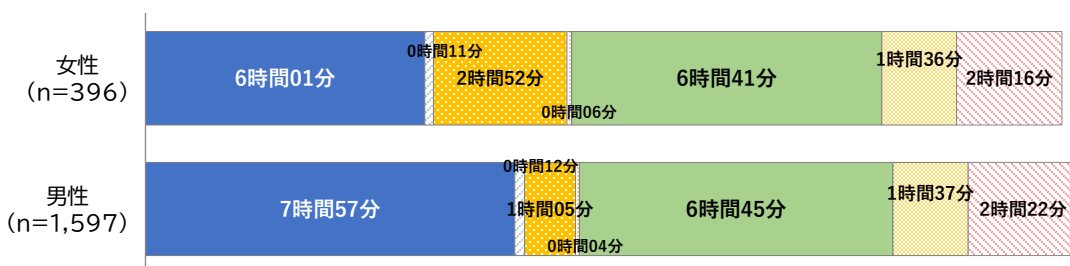
40-69歳

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、小学生以下の子供と同居している人)

・小学生以下の子供と同居している有職者の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日、仕事がない日の1日の時間の使い方を見てみると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は、女性の方が2時間15分長い。一方、「仕事の時間」は男性の方が2時間30分長い。

・テレワークの日の「家事・育児時間」は、テレワーク以外の日より男女差は小さいが、女性の方が1時間44分長い。「仕事の時間」は男性の方が2時間4分長い。

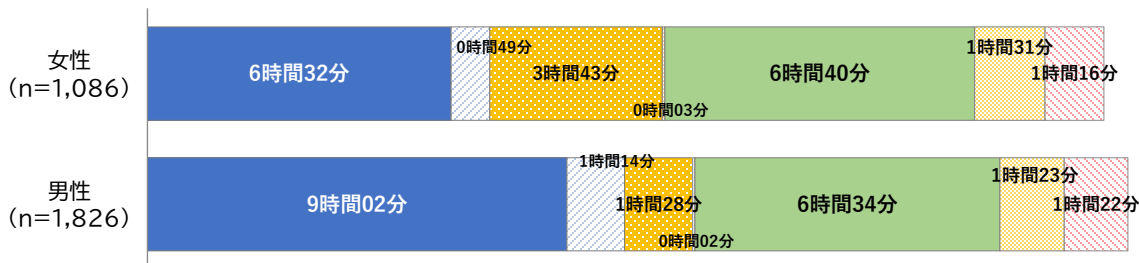
・テレワークの日とテレワーク以外の日を比較すると、男女ともに「仕事の時間」はテレワークの日の方が短くなっており、女性で19分、男性で45分短い。「家事・育児時間」は、男性では29分、テレワークの日の方が長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、女性で12分、男性で19分、テレワークの日の方が長く、「自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)」も、男女ともに20分程度テレワークの日の方が長くなっている。

・仕事がない日の「家事・育児時間」は、女性で5時間39分、男性で4時間7分と、女性の方が1時間32分長い。また、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」は、男性の方が女性より42分長く、「自分のことに使う時間」も、男性の方が女性より31分長い。

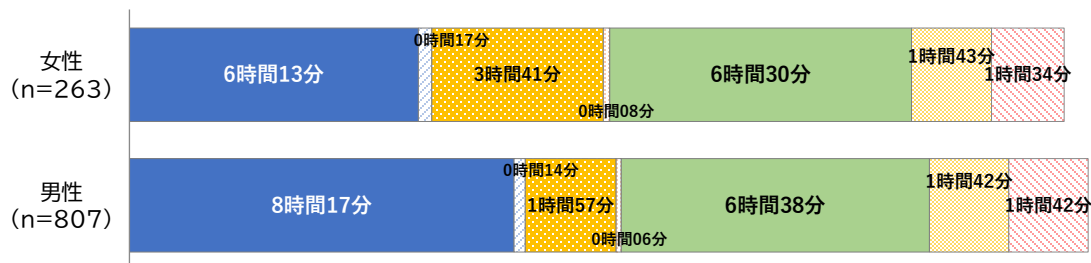
小学生以下の子供と同居している人

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

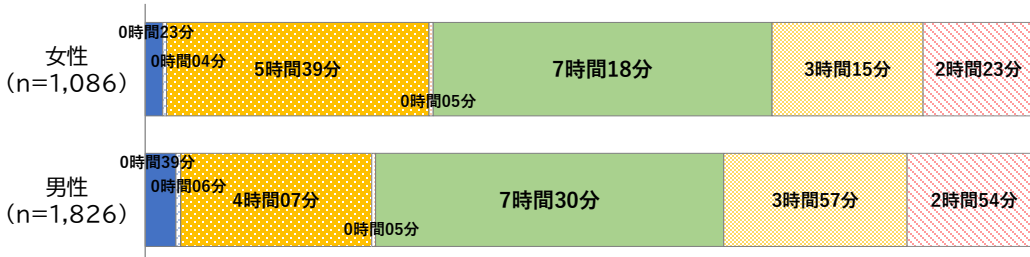
仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



仕事がない日



(1) 1日の時間の使い方(有職者、20-39歳有配偶女性、雇用形態・勤務形態別)

・有配偶の有職女性(20-39歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」「睡眠時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

・テレワークの日をテレワーク以外の日と比較すると、仕事時間の差が最も大きいのは「フルタイム/長時間労働」であり、1時間10分短い。対してテレワークの日の方が増える時間は、「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」となっている。

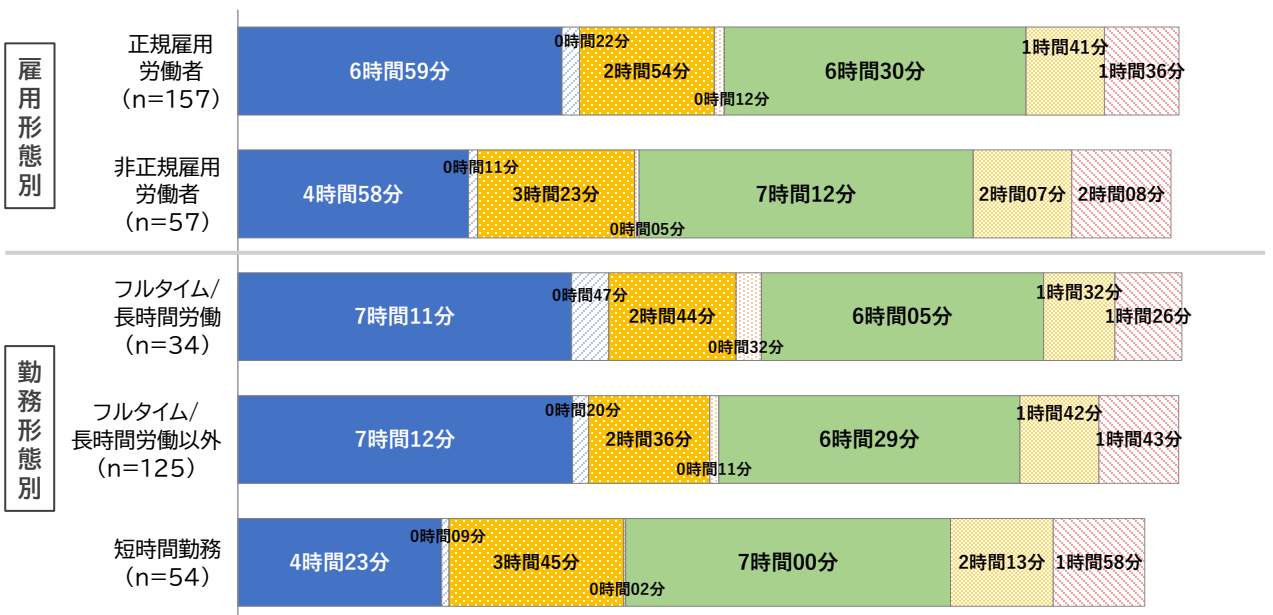
20-39歳・有配偶・女性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



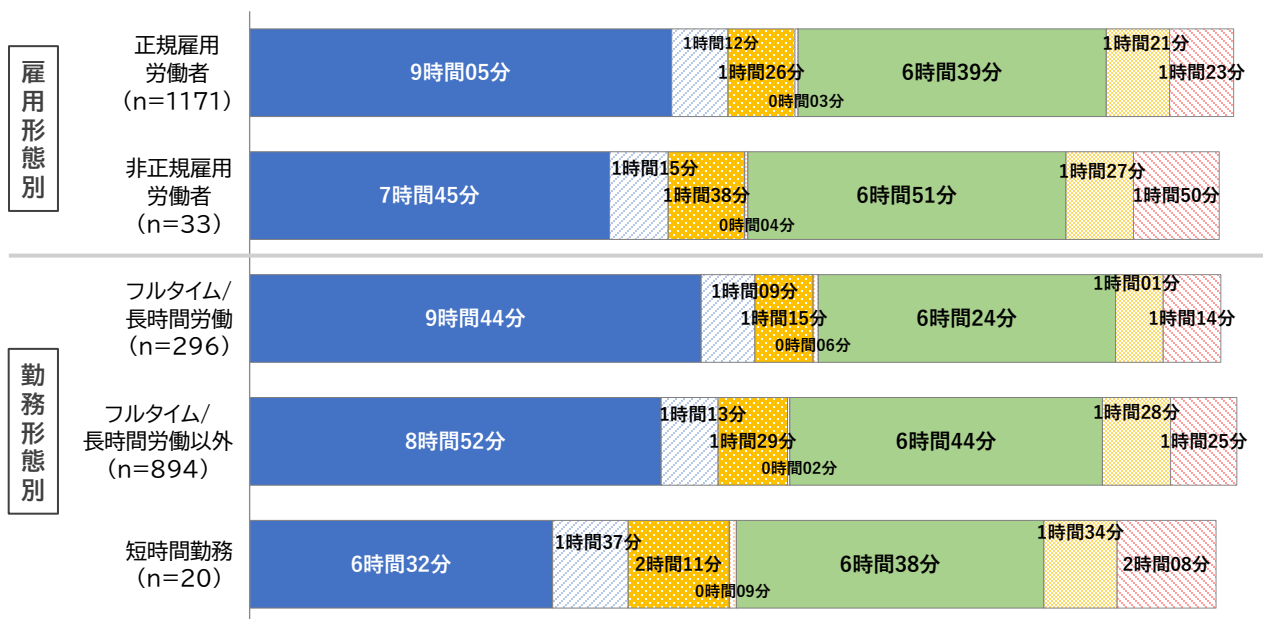
(1) 1日の時間の使い方(有職者、20-39歳有配偶男性、雇用形態・勤務形態別)

・有配偶の有職男性(20-39歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

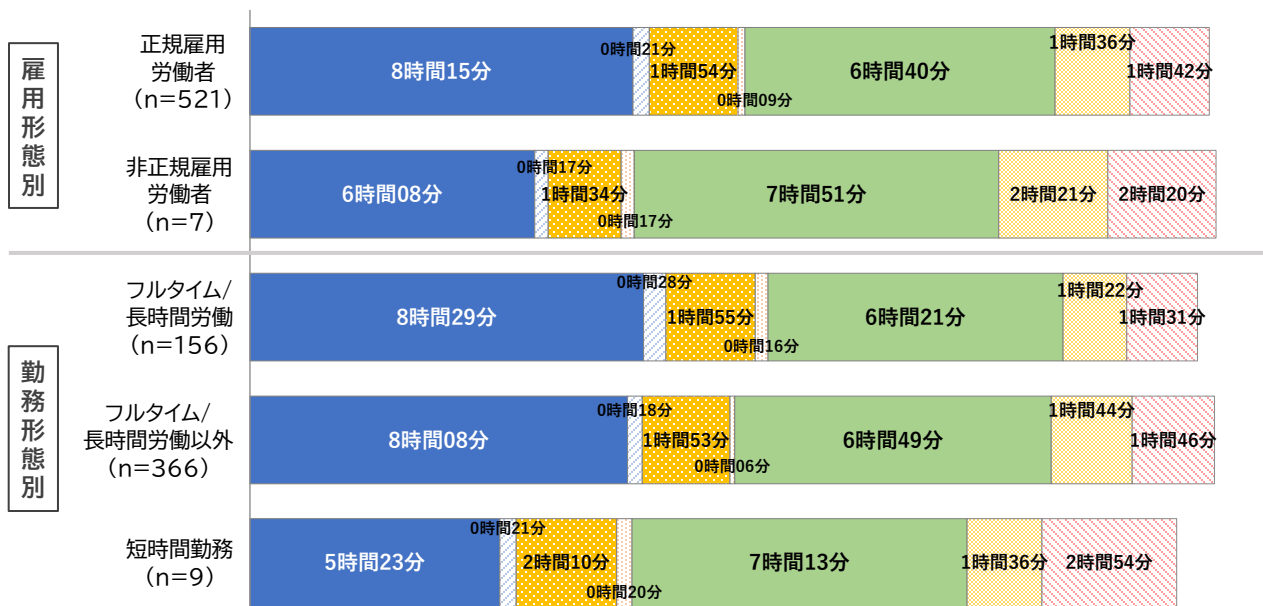
20-39歳・有配偶・男性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



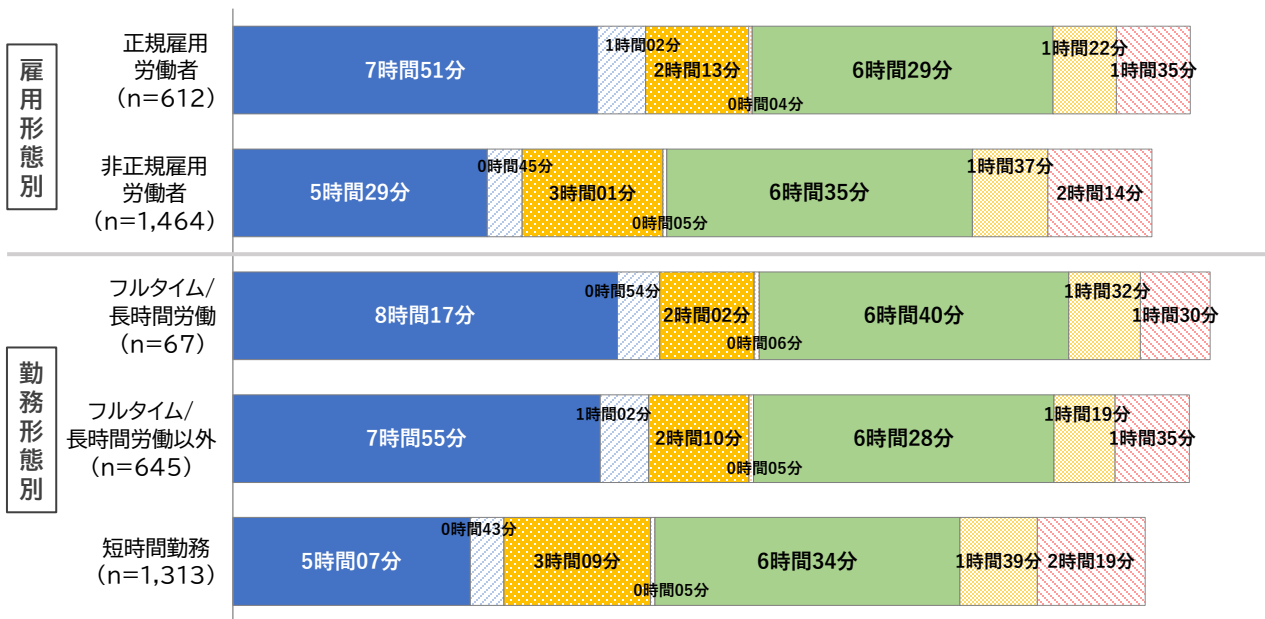
(1) 1日の時間の使い方(有職者、40-69歳有配偶女性、雇用形態・勤務形態別)

・有配偶の有職女性(40-69歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

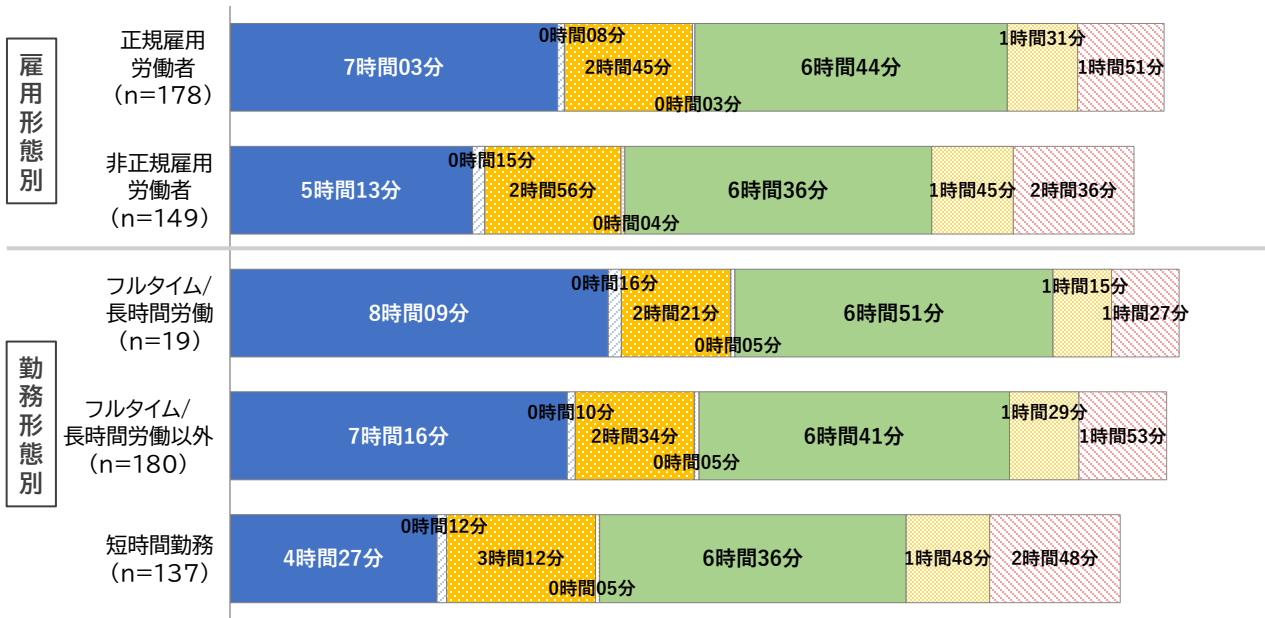
40-69歳・有配偶・女性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 通勤・通学時間
- 家事・育児時間
- 介護時間
- 睡眠時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



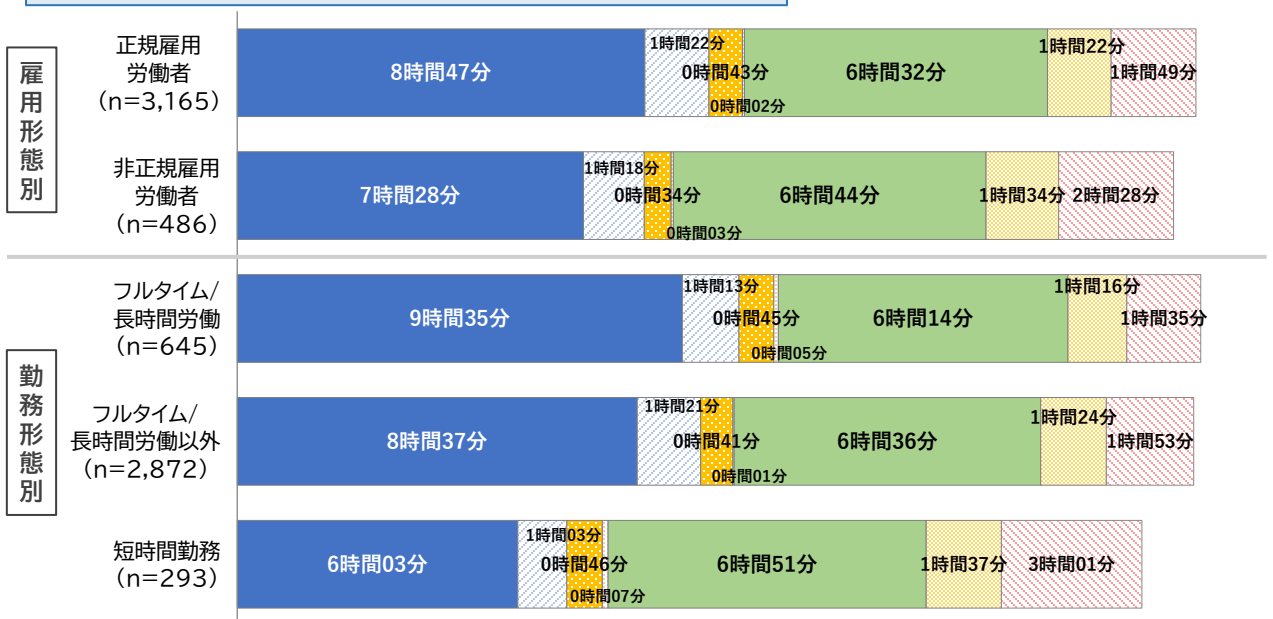
(1) 1日の時間の使い方(有職者、40-69歳有配偶男性、雇用形態・勤務形態別)

・有配偶の有職男性(40-69歳)の仕事がある日のテレワーク以外とテレワークの日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、仕事がある日(テレワーク以外)の「家事・育児時間」は雇用形態・勤務形態で大きな違いはない。「睡眠時間」「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」「自分のことに使う時間」の長さは、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。

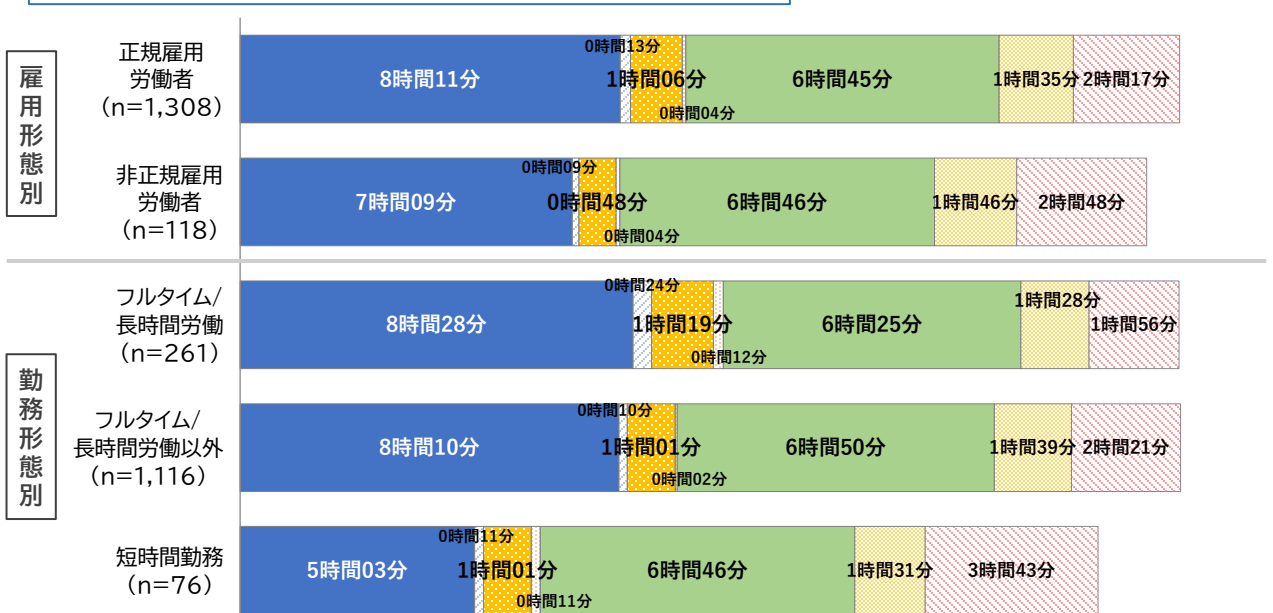
40-69歳・有配偶・男性

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

仕事がある日(テレワーク以外)



仕事がある日(テレワークの日)



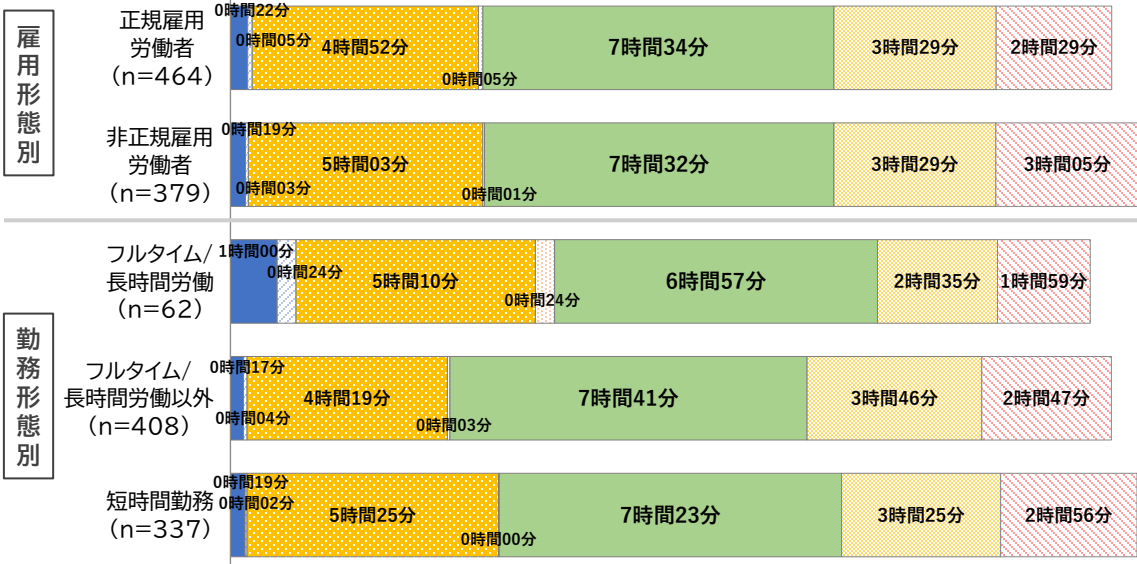
(1) 1日の時間の使い方(有職者、20-39歳有配偶、雇用形態・勤務形態別、仕事がない日)

- ・有配偶の有職の男女(20-39歳)の仕事がない日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、女性の「家事・育児時間」「自分のことに使う時間」は、正規雇用労働者の方が非正規雇用労働者より短い。
- ・男性の「家事・育児時間」の長さは、正規雇用労働者の方が非正規雇用労働者より長い。
- ・男女で比較すると、「フルタイム/長時間労働以外」においては、「家事・育児時間」が女性で4時間19分、男性で4時間と、男女差が最も小さい。一方、仕事がない日において「自分のことに使う時間」が最も少ないのは、「フルタイム/長時間労働」の女性となっている。

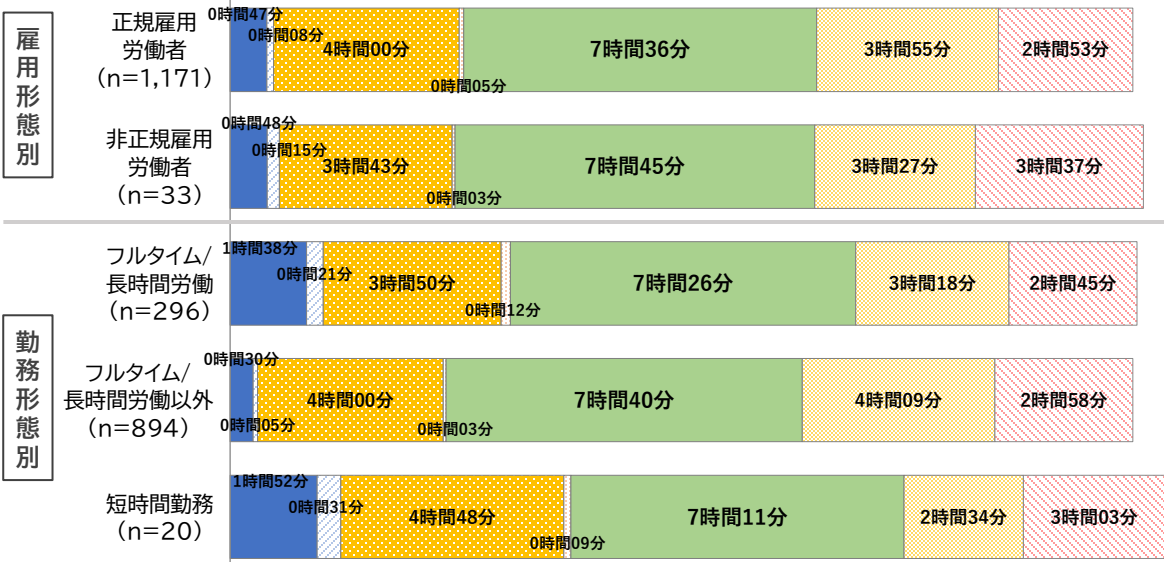
20-39歳・有配偶・仕事がない日

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

女性



男性



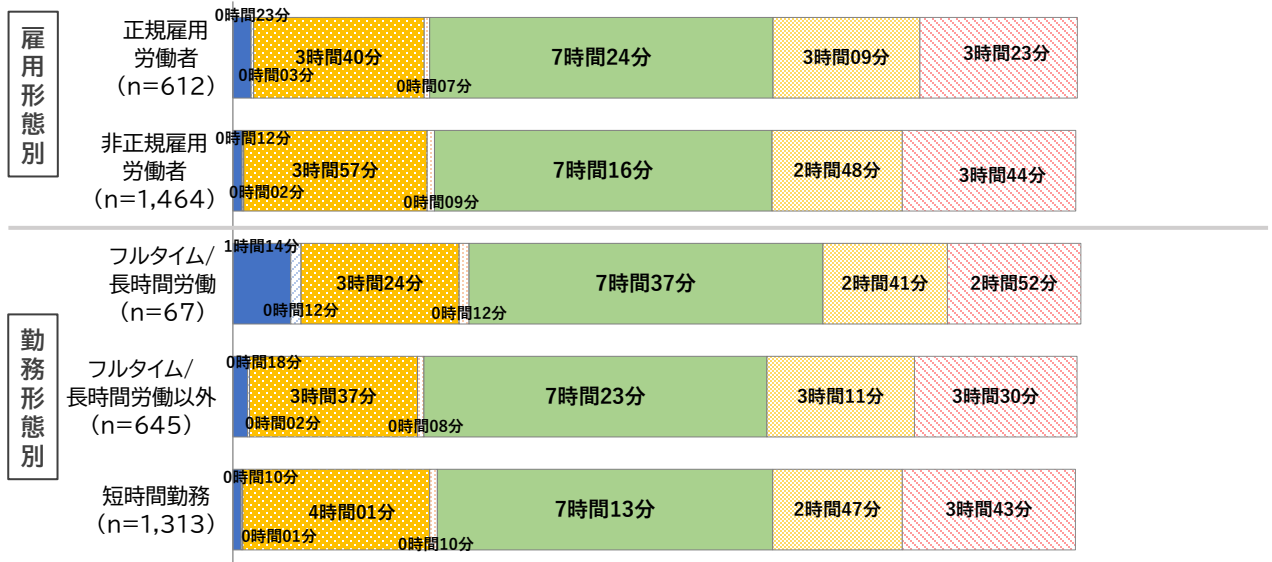
(1) 1日の時間の使い方(有職者、40-69歳有配偶、雇用形態・勤務形態別、仕事がない日)

- ・有配偶の有職の男女(40-69歳)の仕事がない日の1日の時間の使い方を、雇用形態、勤務形態別で見ると、女性の「家事・育児時間」「自分のことに使う時間」は、正規雇用労働者<非正規雇用労働者、フルタイム<短時間勤務となっている。
- ・男性の「家事・育児時間」の長さは、正規雇用労働者>非正規雇用労働者、フルタイム>短時間勤務となっている。
- ・男女で比較すると、いずれの区分においても、「家事・育児時間」は女性の方が1時間以上長い。また、「自分のことに使う時間」が最も少ないのは、「フルタイム/長時間労働」の女性となっている。

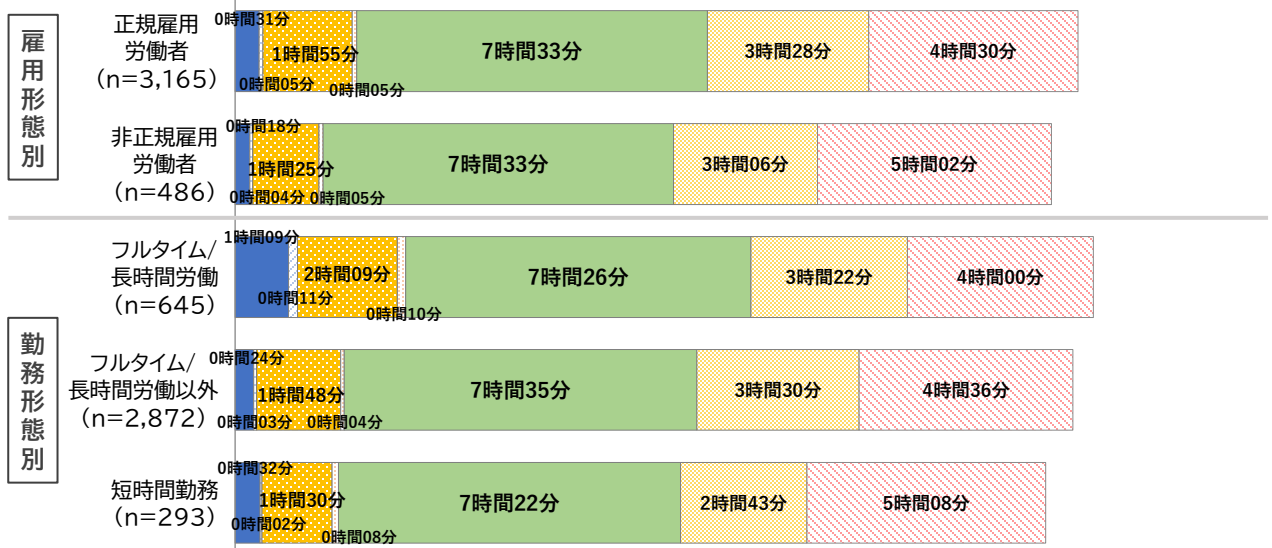
40-69歳・有配偶・仕事がない日

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間

女性

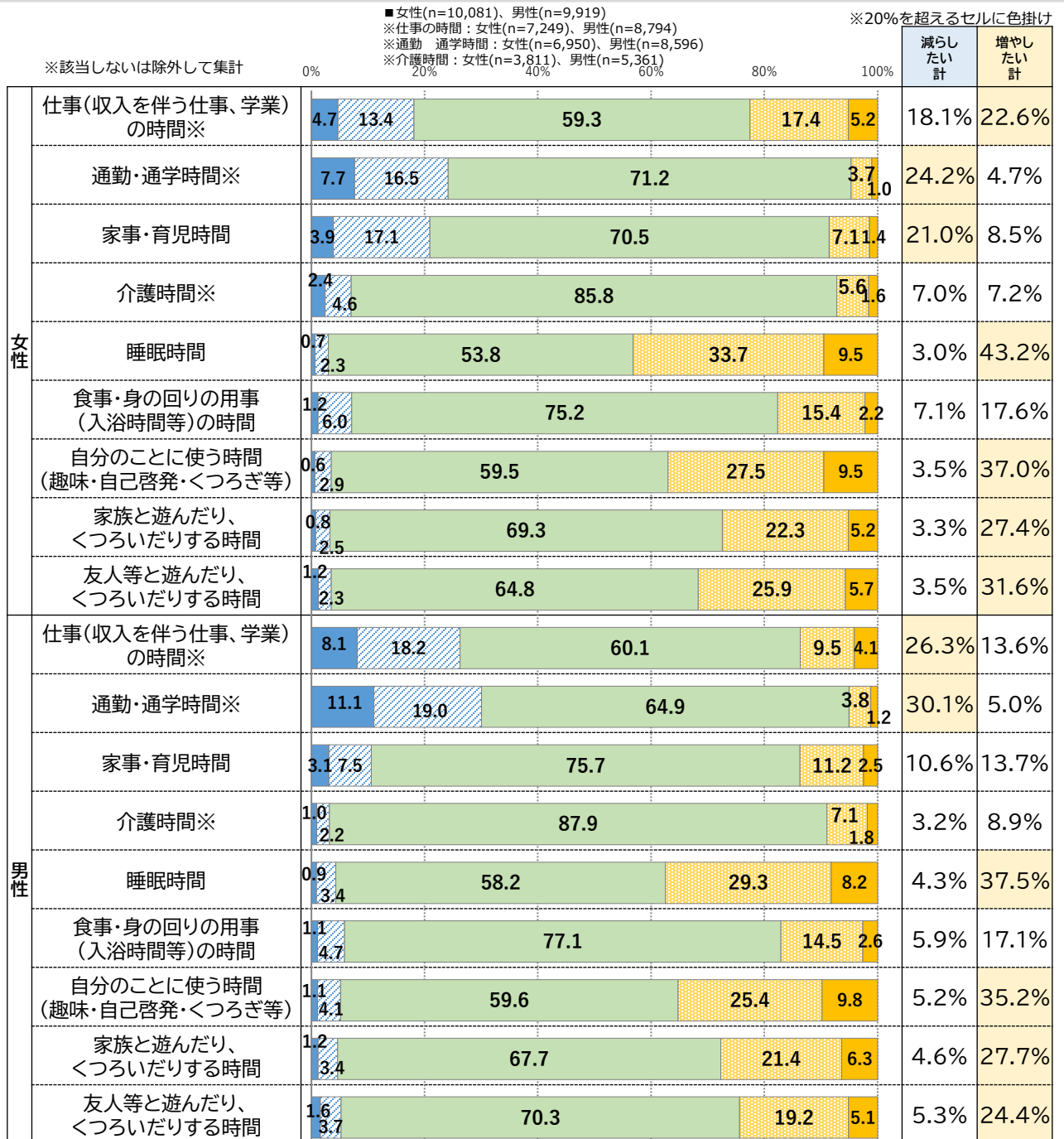


男性



(2) 生活の中の時間 増減希望

- 生活の中の時間の増減希望について男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」24.2%、「家事・育児時間」21.0%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」43.2%、「自分のことに使う時間」37.0%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」31.6%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」27.4%、「仕事の時間」22.6%。
- 男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」30.1%、「仕事の時間」26.3%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」37.5%、「自分のことに使う時間」35.2%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」27.7%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」24.4%。
- 男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「増やしたい計」が22.6%、男性では「減らしたい計」が26.3%と希望傾向が異なり、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」21.0%に対し、男性では10.6%と差がある。



■ 大幅に減らしたい □ 少し減らしたい ■ 現在のままでいい ■ 少し増やしたい ■ 大幅に増やしたい

※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(20-39歳、有配偶)

・生活の中の時間の増減希望について有配偶(20-39歳)の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」30.7%、「通勤・通学時間」29.7%、「仕事の時間」23.5%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」47.4%、「自分のことに使う時間」45.7%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」40.5%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」39.4%、「仕事の時間」25.9%、「食事・身の回りの用事の時間」23.4%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「仕事の時間」34.3%、「通勤・通学時間」34.2%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」46.0%、「自分のことに使う時間」43.8%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」40.7%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」32.8%、「家事・育児時間」26.3%、「食事・身の回りの用事の時間」22.6%。

・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「減らしたい」「増やしたい」がどちらも24~26%と分かれているが、男性では「減らしたい計」が34.3%と高い。「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい」30.7%に対し、男性では「増やしたい」26.3%と増減の希望の傾向が異なる。

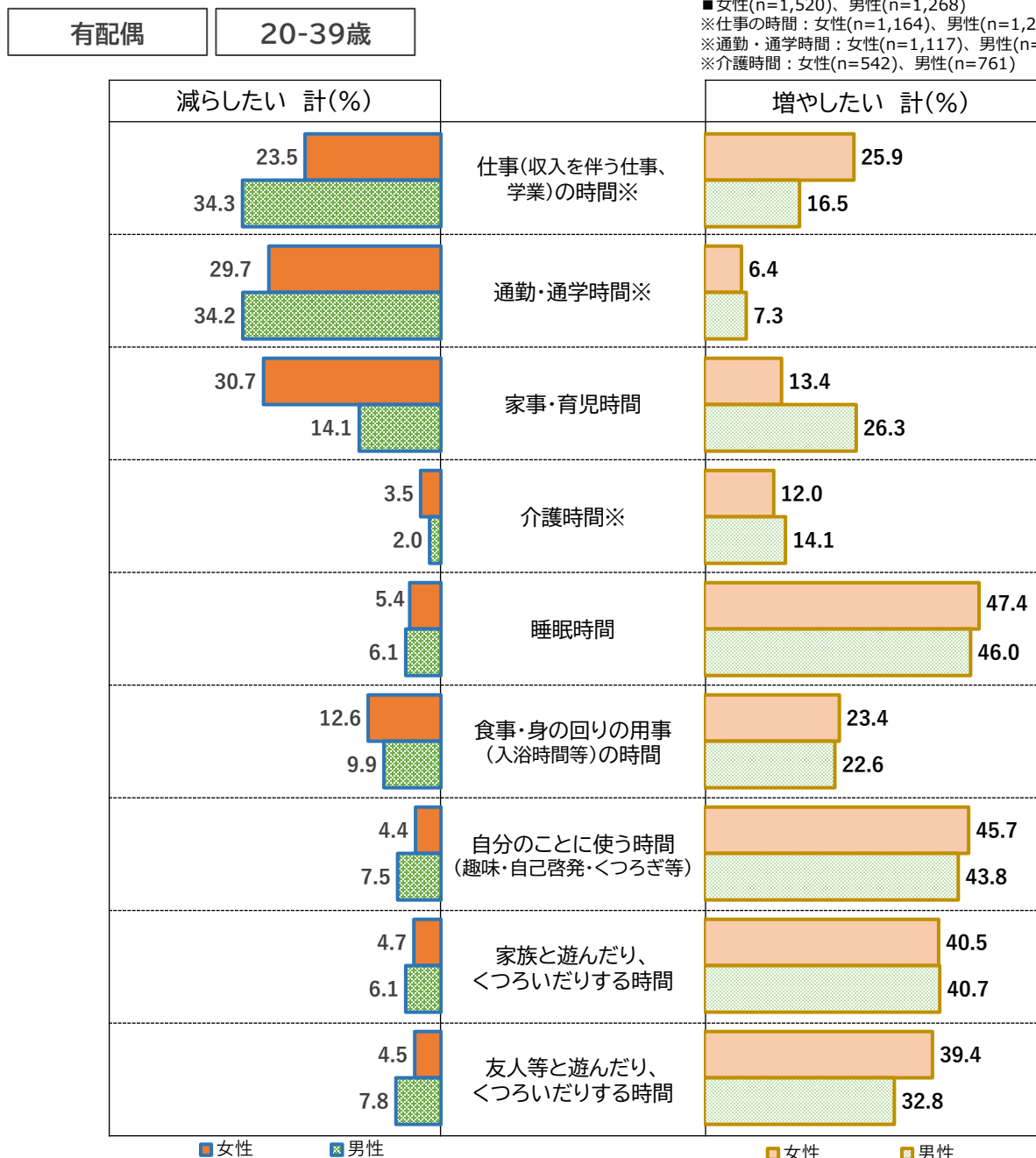
※該当しないは除外して集計

■女性(n=1,520)、男性(n=1,268)

※仕事の時間：女性(n=1,164)、男性(n=1,245)

※通勤・通学時間：女性(n=1,117)、男性(n=1,236)

※介護時間：女性(n=542)、男性(n=761)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

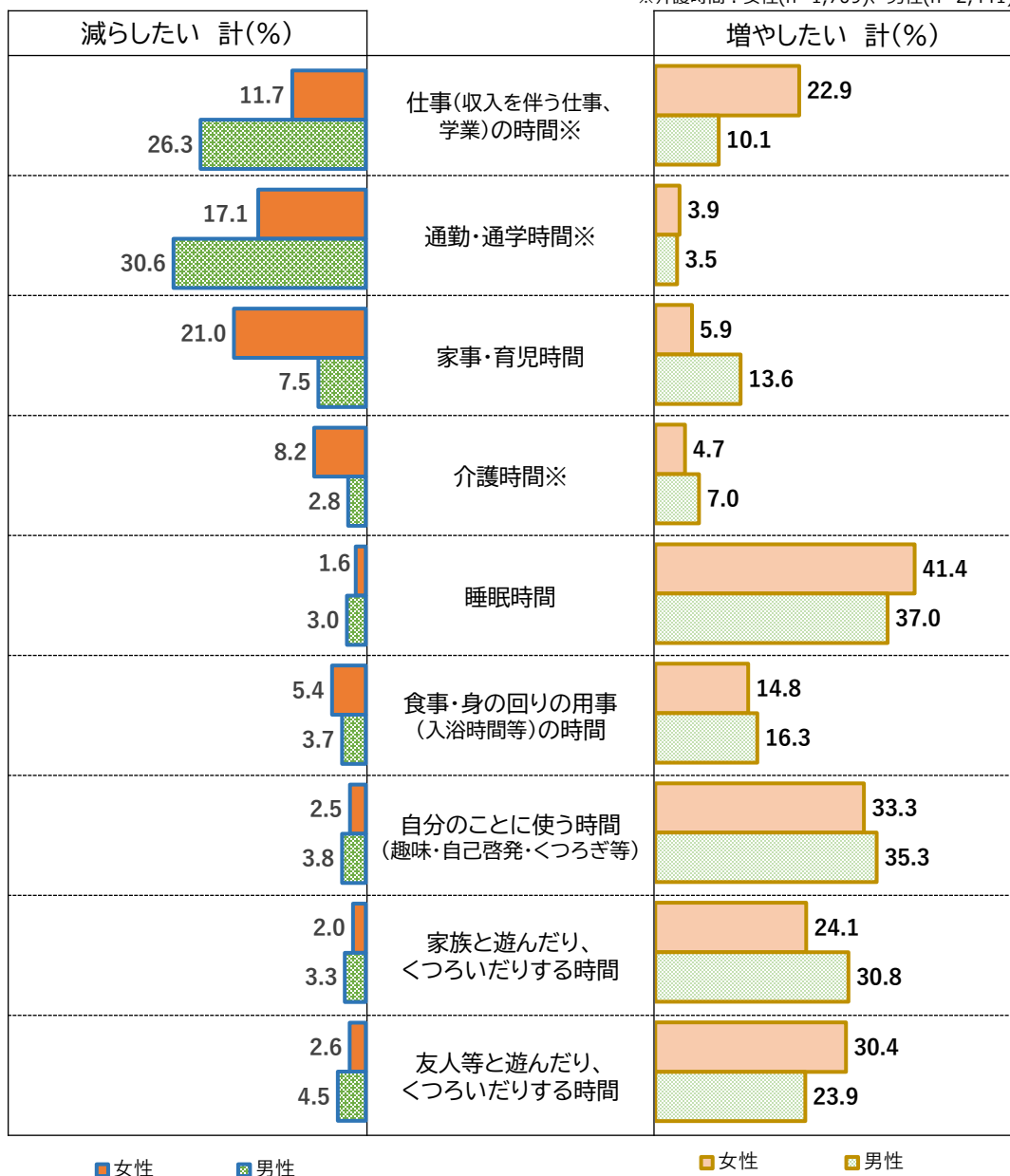
※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(40-69歳、有配偶)

- ・生活の中の時間の増減希望について有配偶(40-69歳)の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」21.0%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」41.4%、「自分のことに使う時間」33.3%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」30.4%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」24.1%、「仕事の時間」22.9%。
- ・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」30.6%、「仕事の時間」26.3%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」37.0%、「自分のことに使う時間」35.3%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」30.8%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」23.9%。
- ・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「増やしたい」が22.9%、対して男性では「減らしたい計」が26.3%と希望傾向が異なり、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」21.0%に対し、男性では「増やしたい計」13.6%と希望傾向が異なっている。

有配偶 40-69歳

※該当しないは除外して集計
 ■女性(n=4,934)、男性(n=4,667)
 ※仕事の時間：女性(n=3,125)、男性(n=4,250)
 ※通勤・通学時間：女性(n=2,908)、男性(n=4,100)
 ※介護時間：女性(n=1,709)、男性(n=2,441)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」
 ※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(20-39歳、子供有り)

・生活の中の時間の増減希望について、子供がいる20-39歳の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」33.5%、「通勤・通学時間」27.9%、「仕事の時間」23.2%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「自分のことに使う時間」51.3%、「睡眠時間」49.9%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」44.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」43.9%、「仕事の時間」28.6%、「食事・身の回りの用事の時間」26.6%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」34.8%、「仕事の時間」34.1%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」46.9%、「自分のことに使う時間」44.4%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」42.2%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」33.0%、「家事・育児時間」27.7%、「食事・身の回りの用事の時間」22.3%。

・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「減らしたい」「増やしたい」がどちらも23~29%と分かれているが、男性では「減らしたい計」が34.1%と高い。「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい」33.5%に対し、男性では「増やしたい」27.7%と増減の希望が異なる。

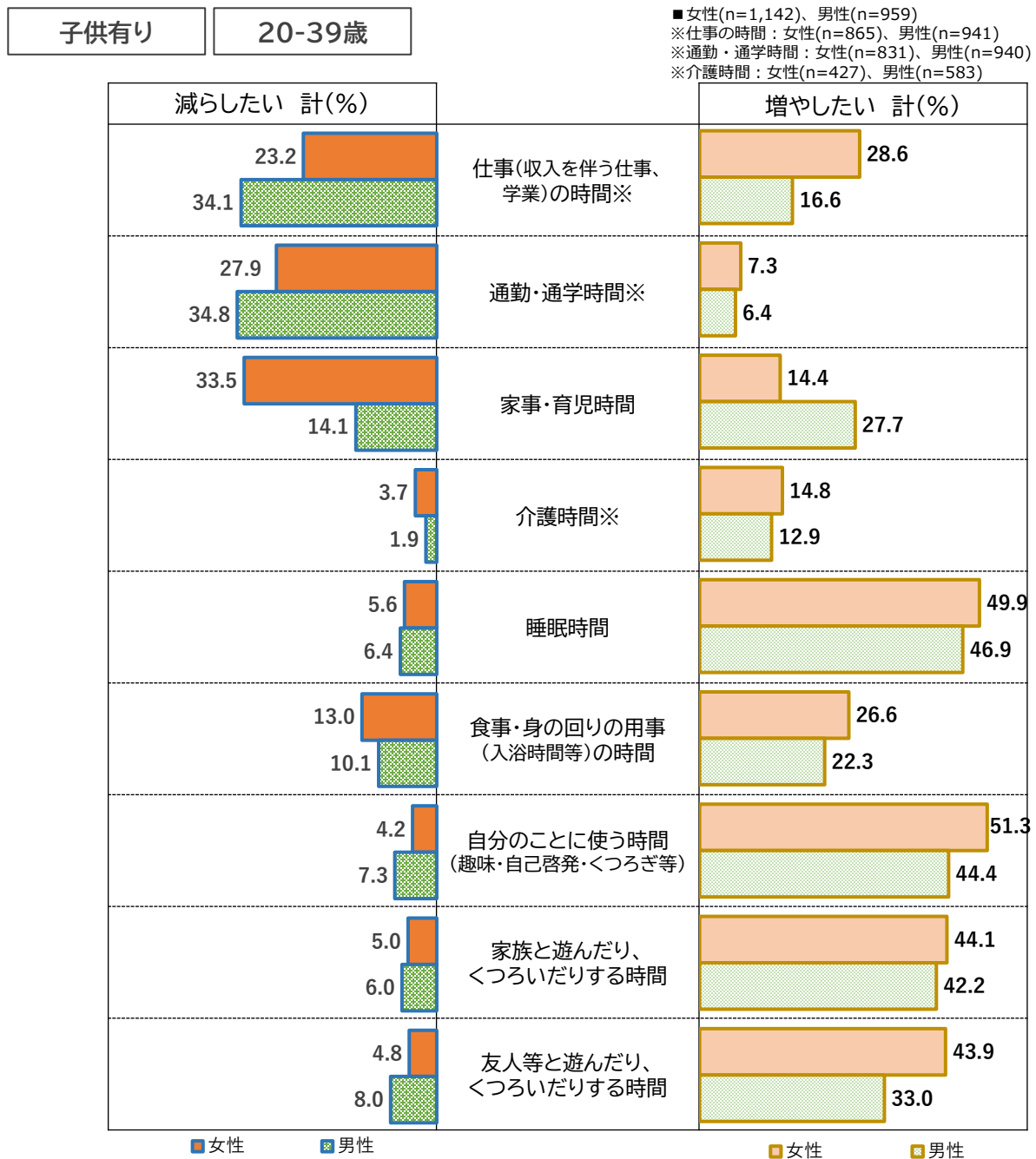
※該当しないは除外して集計

■女性(n=1,142)、男性(n=959)

※仕事の時間：女性(n=865)、男性(n=941)

※通勤・通学時間：女性(n=831)、男性(n=940)

※介護時間：女性(n=427)、男性(n=583)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」
 ※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(40-69歳、子供有り)

- ・生活の中の時間の増減希望について、子供がいる40-69歳の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「家事・育児時間」20.2%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」42.6%、「自分のことに使う時間」34.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」30.6%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」25.2%、「仕事の時間」22.5%。
- ・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」30.1%、「仕事の時間」25.7%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」37.3%、「自分のことに使う時間」35.0%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」30.7%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」24.2%。
- ・男女で比較すると、「仕事の時間」は女性では「増やしたい」が22.5%、対して男性では「減らしたい計」が25.7%と希望傾向が異なり、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」20.2%に対し、男性では「増やしたい計」が14.3%と傾向が異なっている。

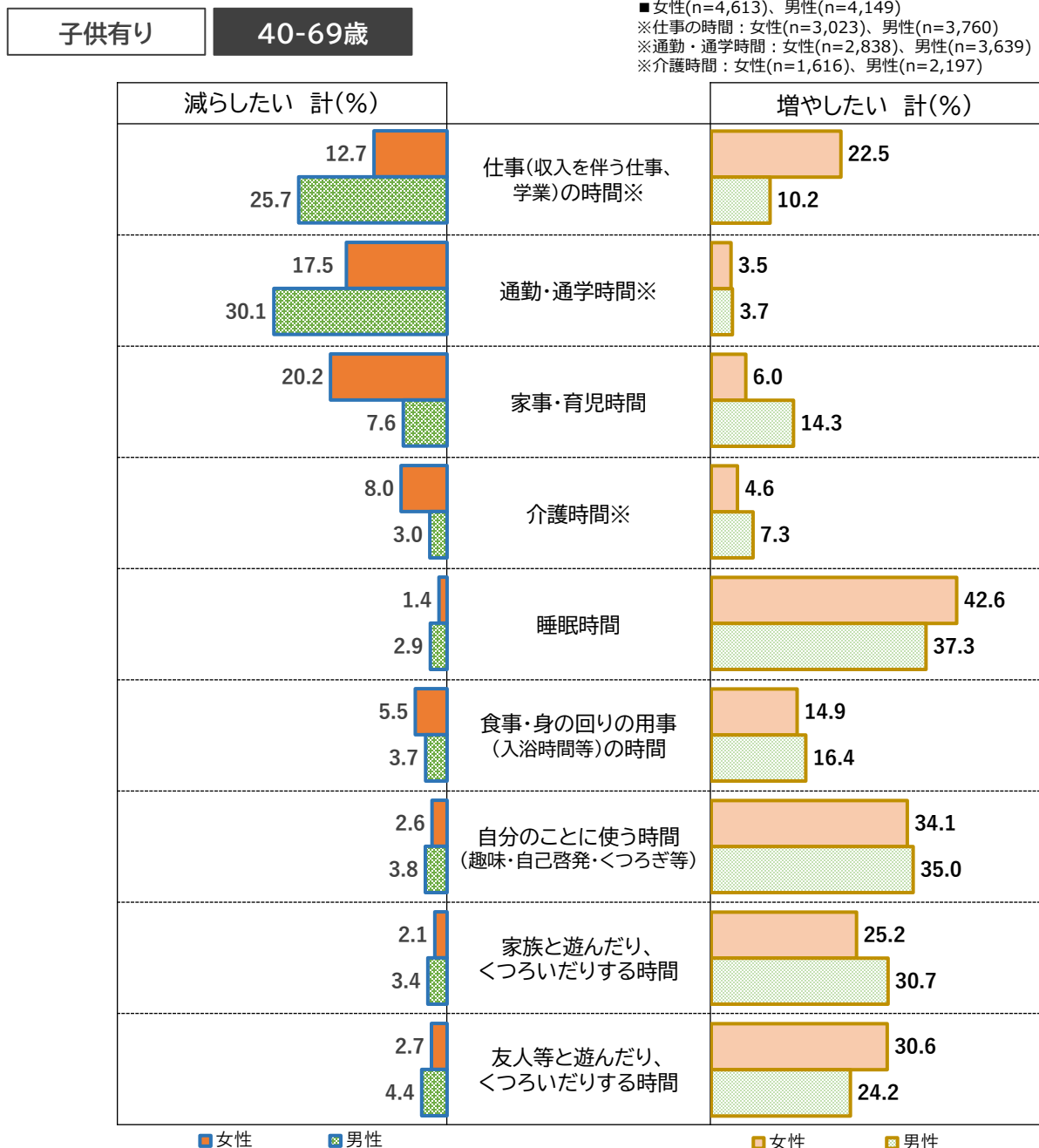
※該当しないは除外して集計

■女性(n=4,613)、男性(n=4,149)

※仕事の時間：女性(n=3,023)、男性(n=3,760)

※通勤・通学時間：女性(n=2,838)、男性(n=3,639)

※介護時間：女性(n=1,616)、男性(n=2,197)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(フルタイム/長時間労働)

・生活の中の時間の増減希望について、「フルタイム/長時間労働」の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「仕事の時間」45.8%、「通勤・通学時間」35.7%、「家事・育児時間」20.1%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」48.1%、「自分のことに使う時間」44.8%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」34.7%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」34.0%、「食事・身の回りの用事の時間」27.2%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「仕事の時間」45.2%、「通勤・通学時間」34.1%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」47.0%、「自分のことに使う時間」43.5%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」38.8%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」33.4%、「食事・身の回りの用事の時間」26.8%。

・男女で大きな差がある項目はなかった。

※該当しないは除外して集計

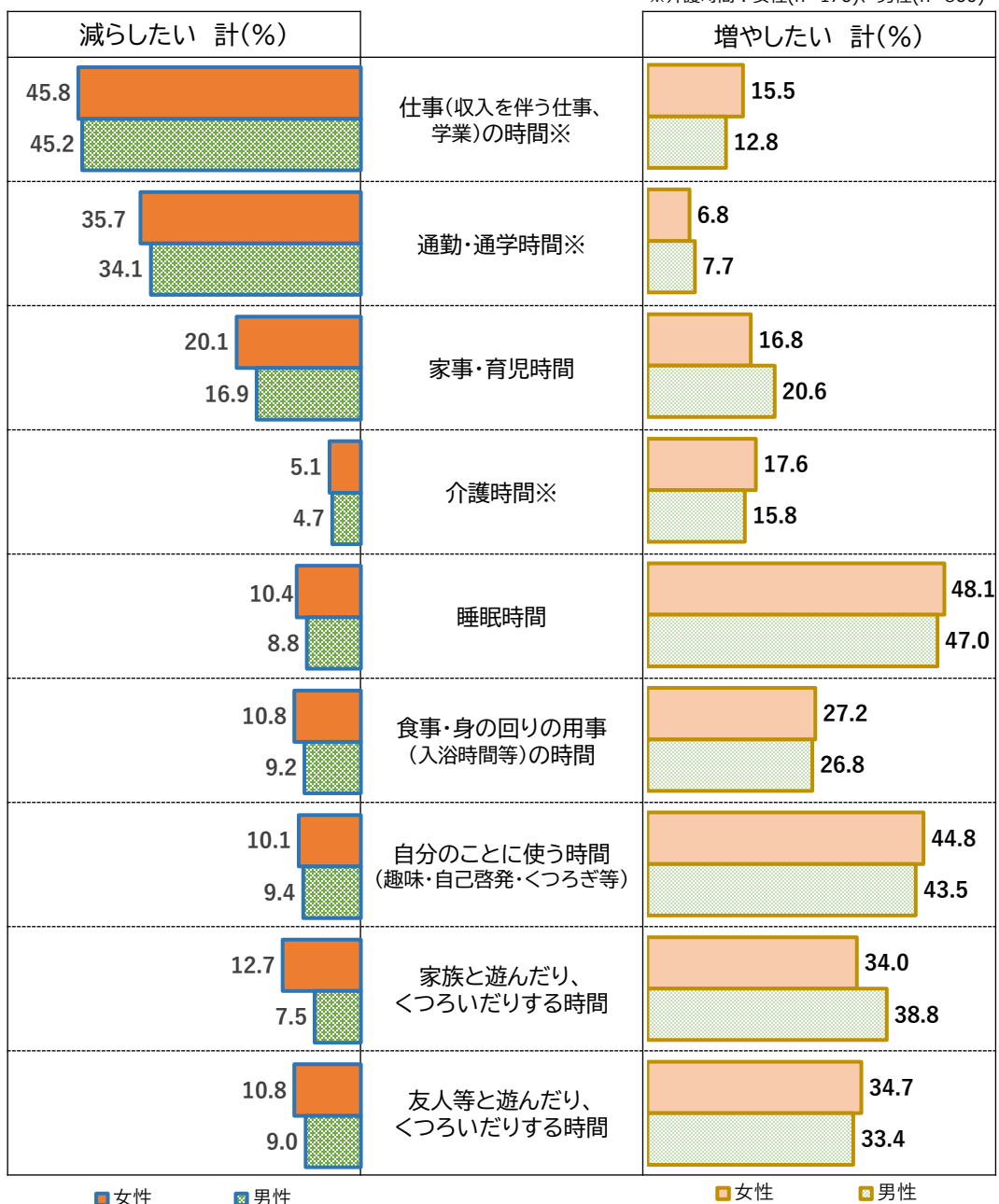
■女性(n=268)、男性(n=1,289)

※仕事の時間：女性(n=264)、男性(n=1,270)

※通勤・通学時間：女性(n=263)、男性(n=1,259)

※介護時間：女性(n=176)、男性(n=860)

フルタイム/長時間労働(残業月46時間以上)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(フルタイム/長時間労働以外)

・生活の中の時間の増減希望について、「フルタイム/長時間労働以外」の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」34.7%、「仕事の時間」31.9%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」50.1%、「自分のことに使う時間」45.5%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」35.2%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」33.6%、「食事・身の回りの用事の時間」24.2%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」32.8%、「仕事の時間」27.8%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」40.6%、「自分のことに使う時間」38.5%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」30.0%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」24.8%。

・男女で比較すると、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」18.7%に対し、男性では「増やしたい計」14.1%と傾向が異なっている。「睡眠時間」は、「増やしたい計」が女性50.1%、男性40.6%と、女性の方が高い。

※該当しないは除外して集計

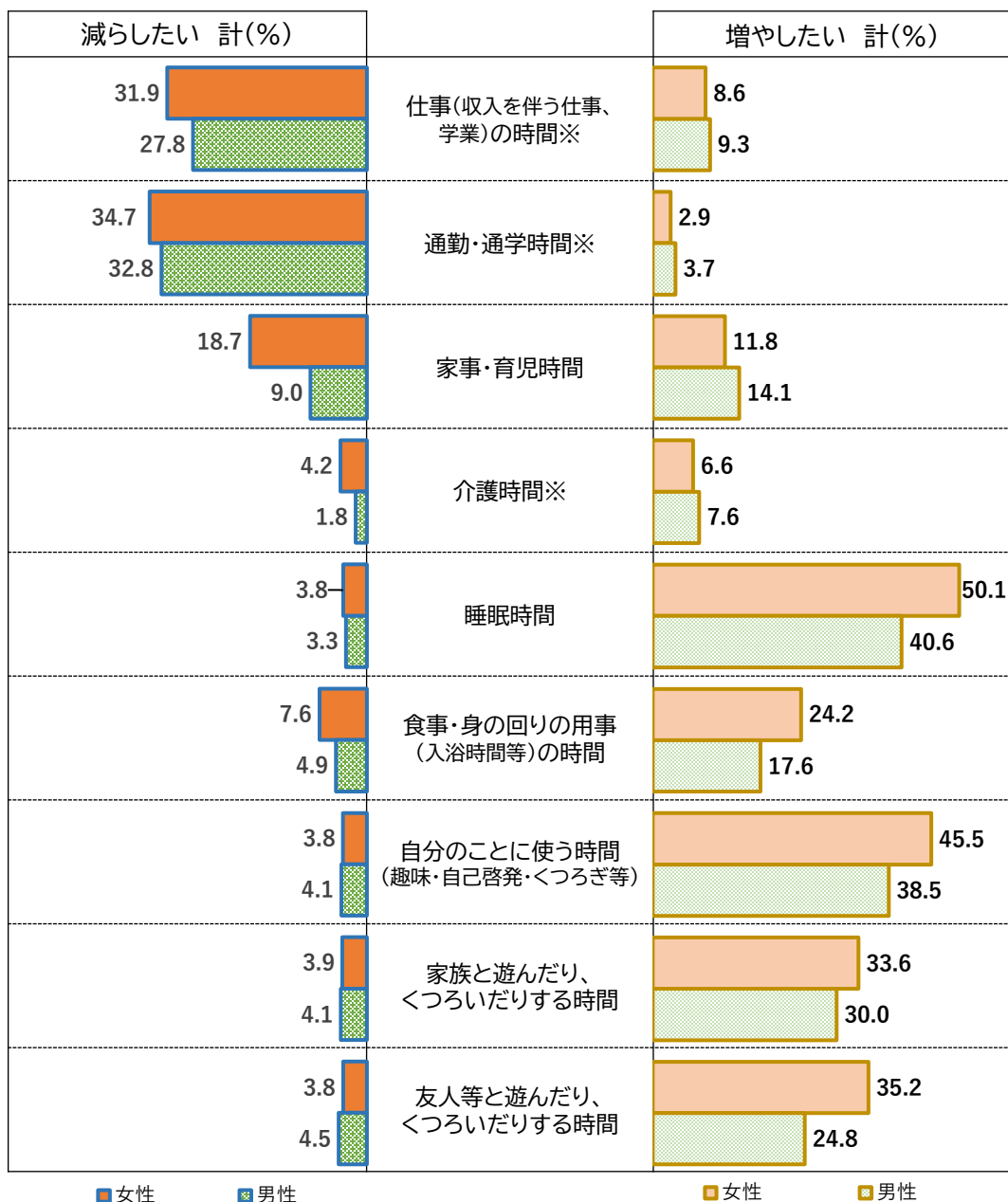
■女性(n=2,461)、男性(n=5,525)

※仕事の時間：女性(n=2,426)、男性(n=5,469)

※通勤・通学時間：女性(n=2,398)、男性(n=5,386)

※介護時間：女性(n=1,063)、男性(n=3,097)

フルタイム/長時間労働以外(残業月45時間以下)



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」
 ※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(2) 生活の中の時間 増減希望(短時間勤務)

・生活の中の時間の増減希望について、短時間勤務の男女別で見ると、女性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」21.1%、「家事・育児時間」20.5%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」45.9%、「自分のことに使う時間」40.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」32.1%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」28.1%、「仕事の時間」24.6%。

・男性で「減らしたい計」が20%を超える項目は、「通勤・通学時間」23.7%。「増やしたい計」が20%を超える項目は、「睡眠時間」30.1%、「自分のことに使う時間」29.1%、「仕事の時間」24.1%、「友人等と遊んだり、くつろいだりする時間」23.3%、「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」21.3%。

・男女で比較すると、「家事・育児時間」は、女性では「減らしたい計」20.5%、男性では9.0%と差がある一方、「睡眠時間」「自分のことに使う時間」は、「増やしたい計」が女性の方が男性より10%ポイント以上高い。

※該当しないは除外して集計

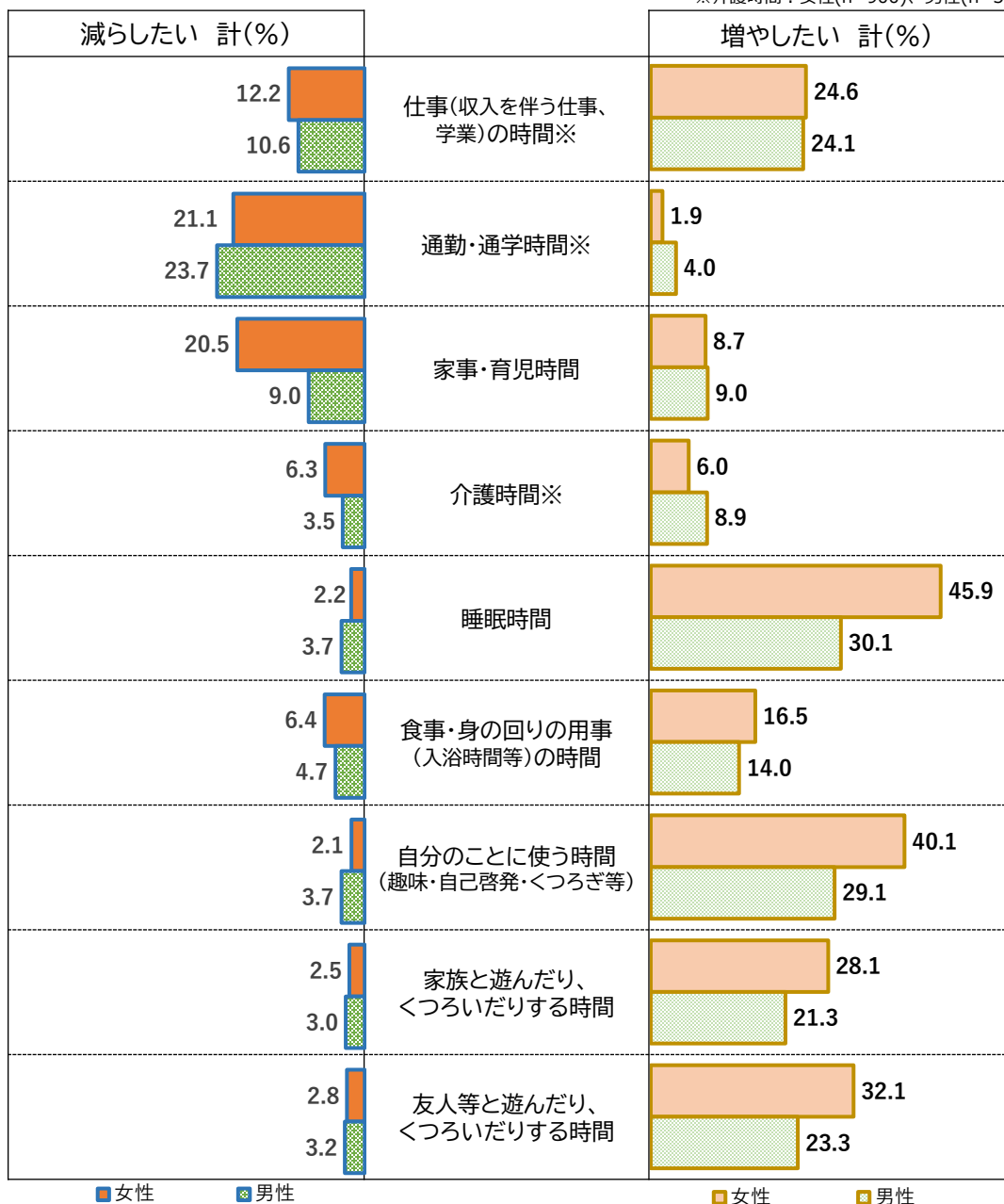
■女性(n=2,285)、男性(n=722)

※仕事の時間：女性(n=2,260)、男性(n=696)

※通勤・通学時間：女性(n=2,198)、男性(n=649)

※介護時間：女性(n=900)、男性(n=371)

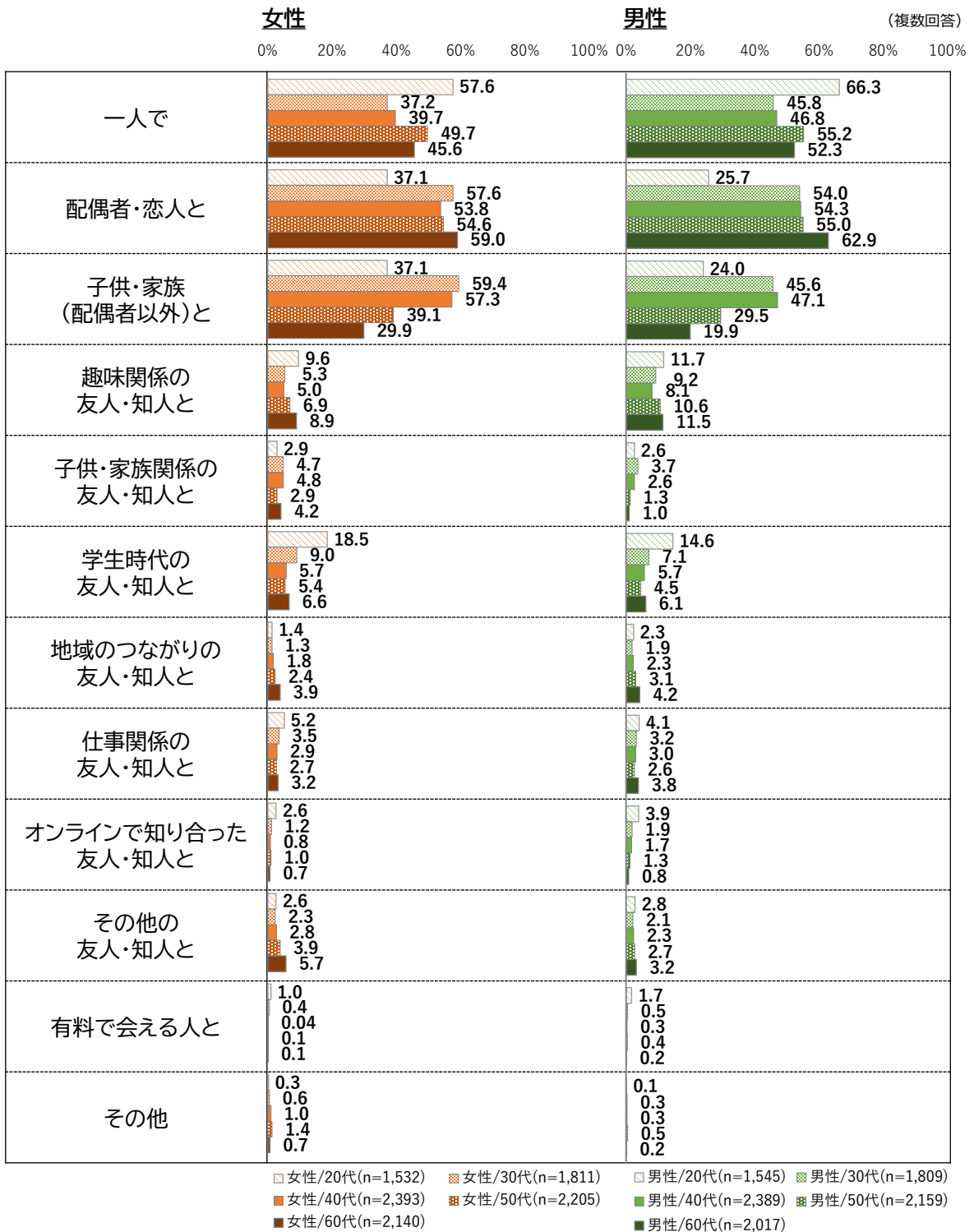
短時間勤務



※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」
 ※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

(3) 休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか(年代別)

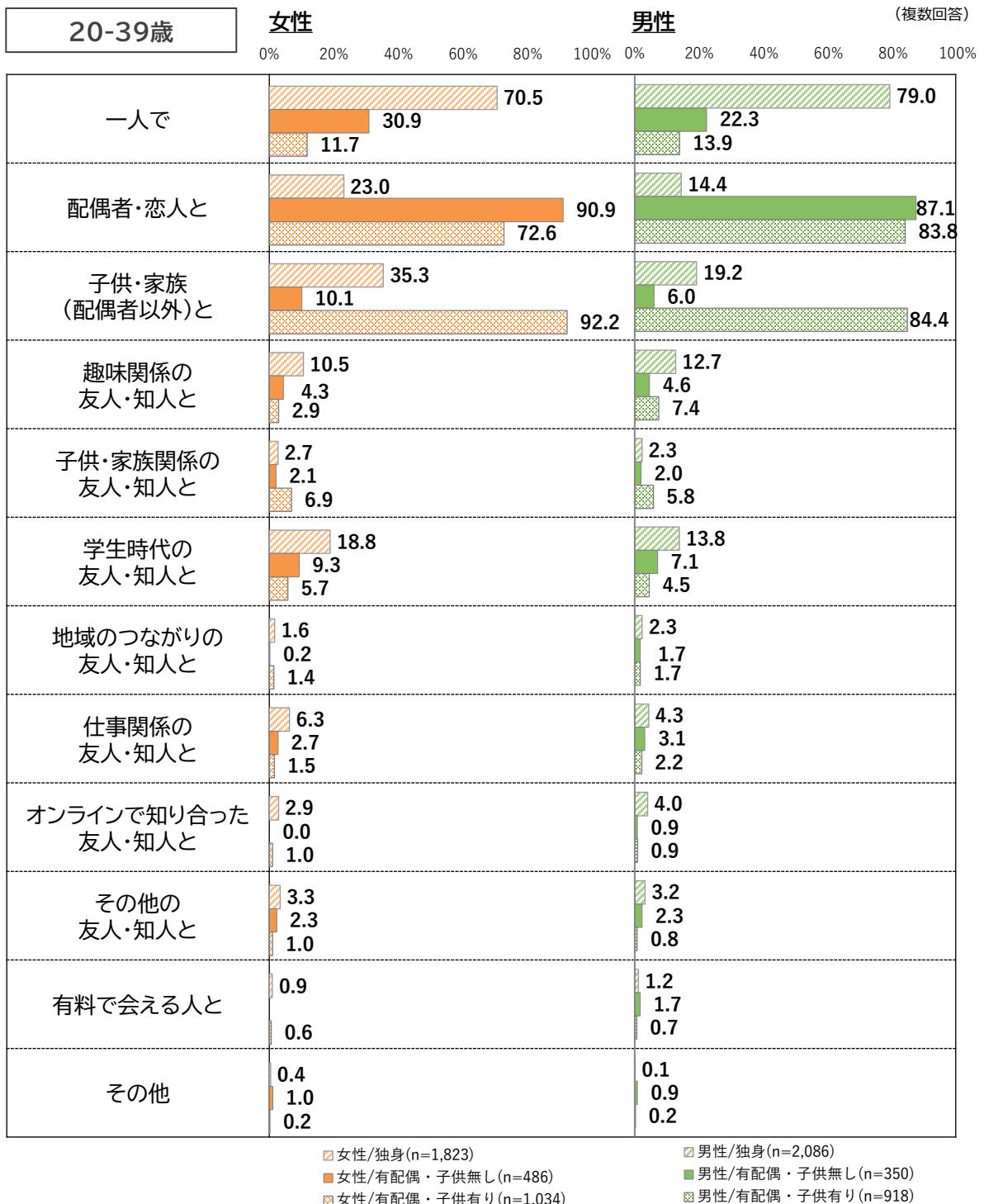
- ・休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか男女別で見ると、男女ともに、20代では「一人で」「学生時代の友人・知人と」が他年代より高い。但し「一人で」は、女性では57.6%、男性では66.3%と、男性の方がやや高い。
- ・20代以外では、「友人・知人」関係で最も高いものは、男性では「趣味関係の友人・知人」となっている。また「地域のつながりの友人・知人」は、男女ともに「60代」でやや高く、「子供・家族関係の友人・知人」は、女性では30-40代でやや高い。「オンラインで知り合った友人・知人」は、男性20代でやや高い。
- ・男女で比較すると、「子供・家族(配偶者以外)」とは、どの年代でも女性の方が10%ポイント近く高い。



(3) 休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか(20-39歳、配偶状況・子供の有無別)

・休みの日に誰と時間を過ごすことが多いかについて、配偶状況・子供の有無別に20-39歳の男女別で見ると、男女ともに、「独身」では「一人で」が最も高く、女性で70.5%、男性で79.0%。「有配偶・子供無し」では「配偶者・恋人と」が男女ともに9割前後と最も高く、「有配偶・子供有り」では「子供・家族(配偶者以外)と」が女性92.2%、男性84.4%と最も高い。

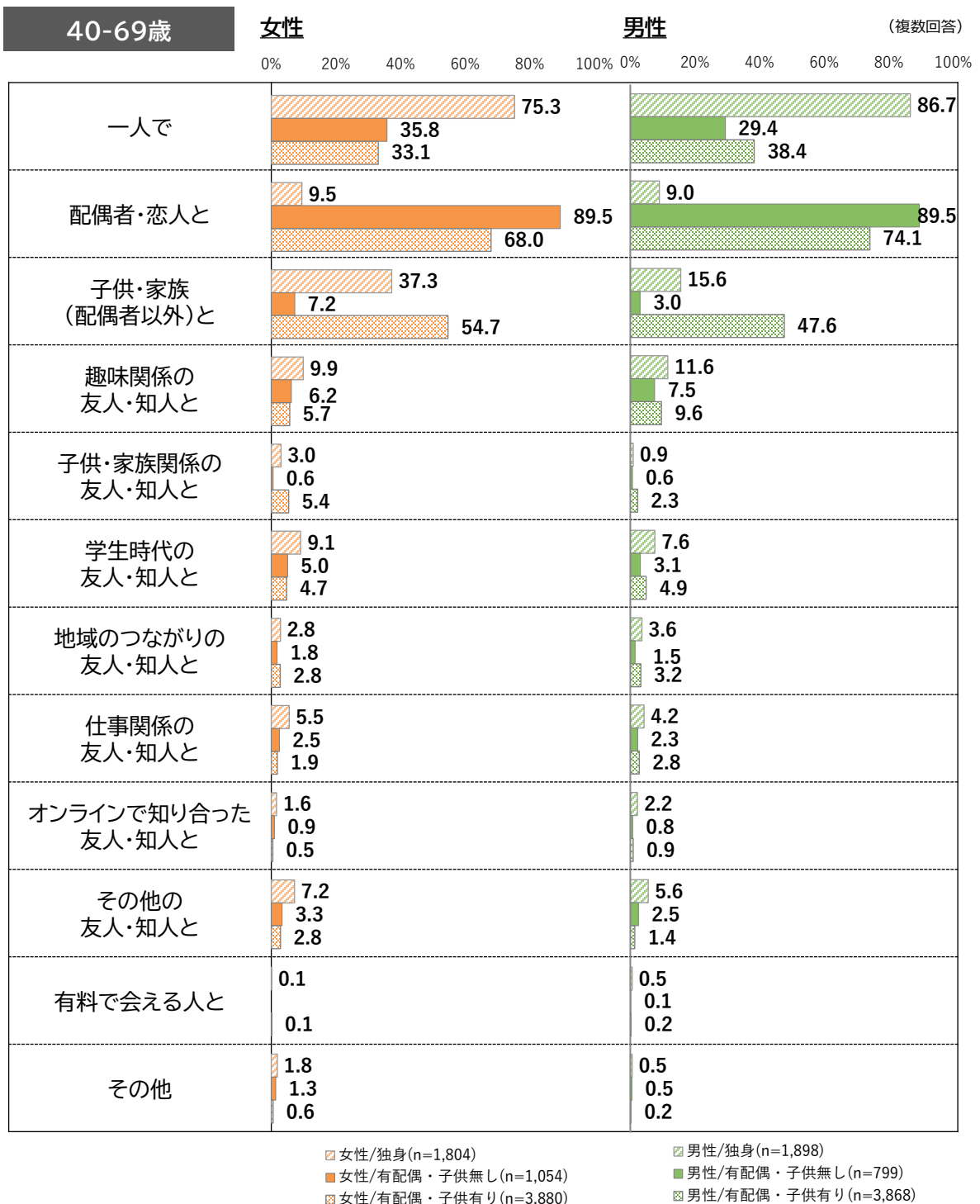
・男女ともに、「学生時代の友人・知人と」「趣味関係の友人・知人と」は「独身」では1割を超え、3区分の中で最も高い。また、「独身男性」では、「オンラインで知り合った友人・知人と」が4%と他区分に比べやや高い。また、「子供・家族と」について「独身女性」では35.3%、「独身男性」では19.2%と10%ポイント以上差がある。



(3) 休みの日に誰と時間を過ごすことが多いか(40-69歳、配偶状況・子供の有無別)

・休みの日に誰と時間を過ごすことが多いかについて、配偶状況・子供の有無別に40-69歳の男女別で見ると、男女ともに、「独身」では「一人で」が最も高く、女性で75.3%、男性で86.7%。「有配偶・子供無し」では「配偶者・恋人と」が9割と最も高く、「有配偶・子供有り」では「配偶者・恋人と」が7割と最も高いが、「子供・家族(配偶者以外)」も女性54.7%、男性47.6%と高い。

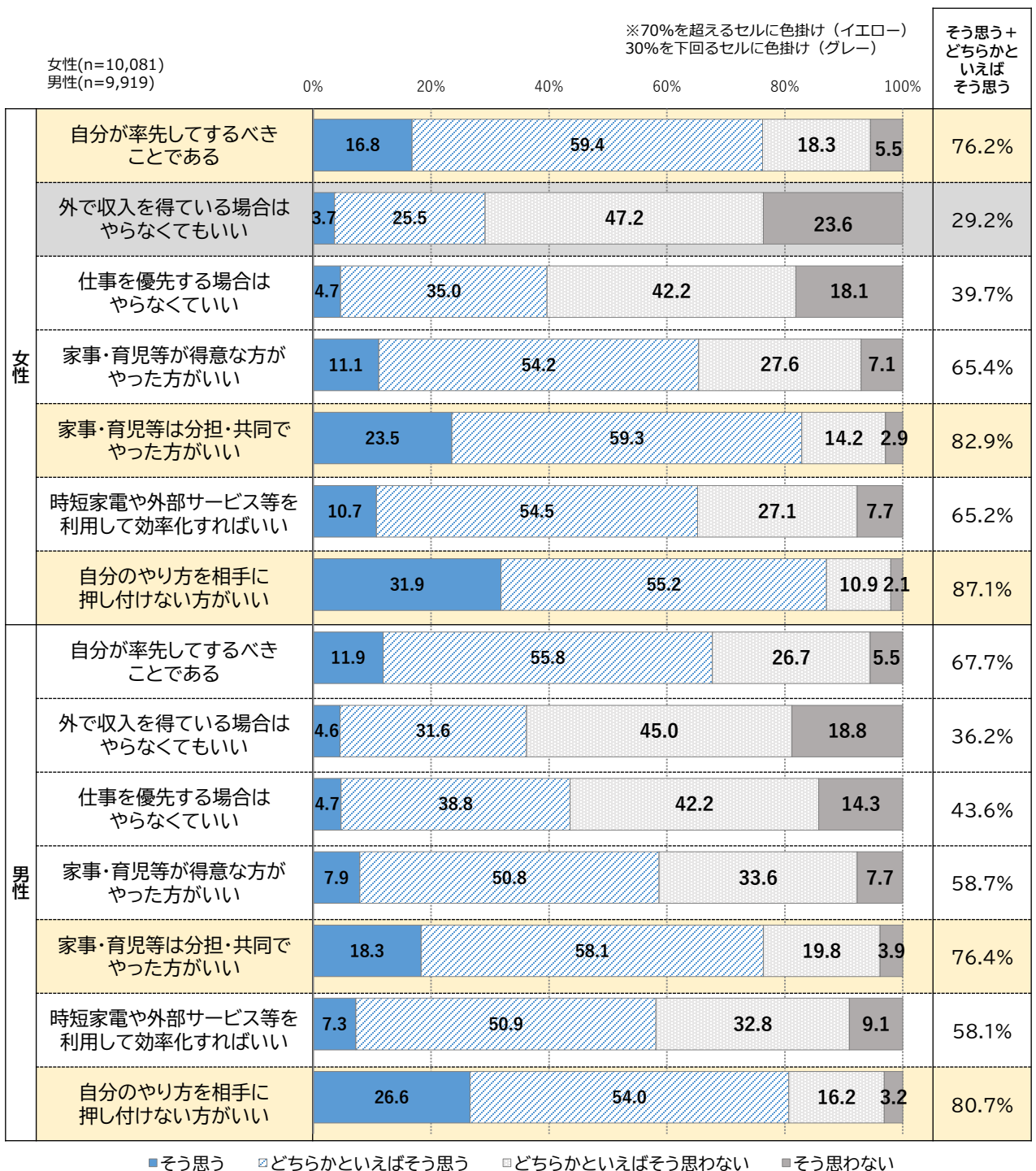
・男女ともに、「趣味関係の友人・知人」は「独身」では1割前後となり、3区分の中で最も高い。また、「独身女性」では「子供・家族と」が37.3%となるが、「独身男性」では15.6%と10%ポイント以上差がある。



(4) 家事・育児等への考え方

・家事・育児等への考え方について男女別で見ると、「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値で男女ともに7割を超える項目は、「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」「自分のやり方を相手に押し付けない方がいい」。女性のみ7割を超える項目は、「自分が率先してやるべきことである」。また、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の計が3割を下回るものは、女性の「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」。

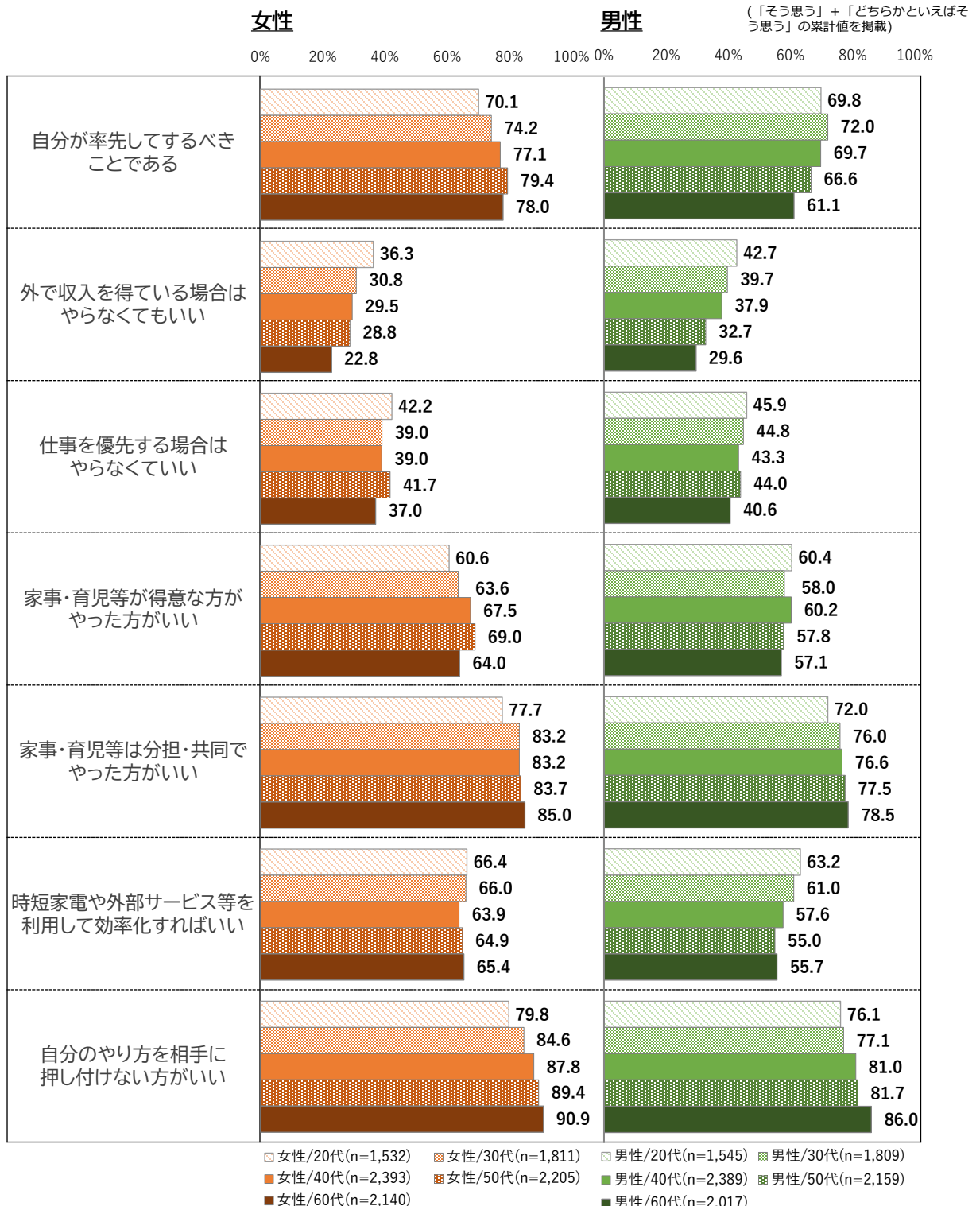
・男女で比較して10%ポイント以上差がある項目はなかった。



(4) 家事・育児等への考え方(年代別)

・家事・育児等への考え方について年代別に見てみると、男女ともに上の年代ほど「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」「自分のやり方を相手に押し付けない方がいい」が高い。また若いほど、「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」が高い。女性では、上の年代ほど「自分が率先してすべきことである」が高い傾向にあるが、男性では上の年代ほど低い傾向があり、男女で傾向が異なる。

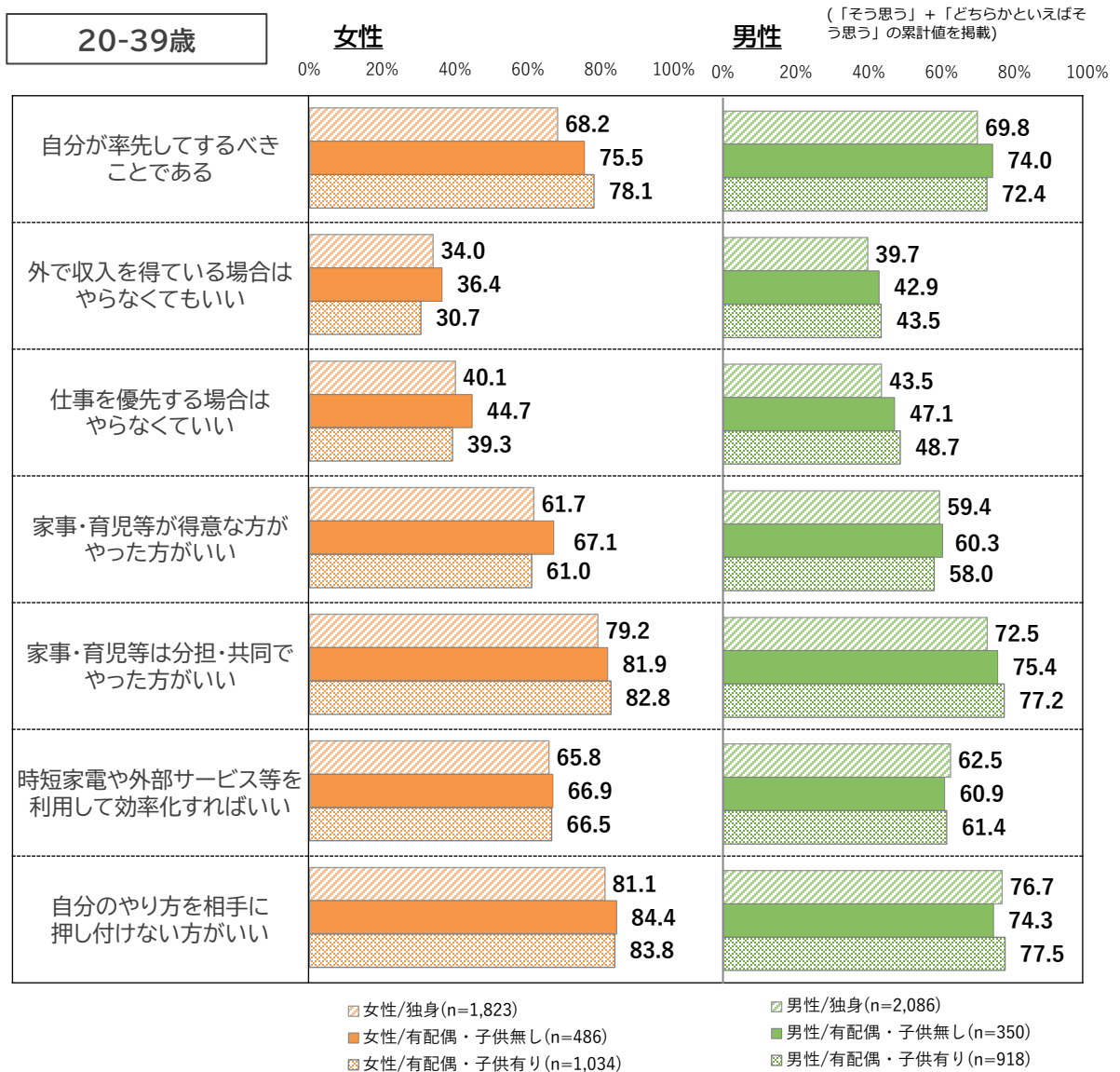
・同年代の男女で比較すると、「自分が率先してすべきことである」「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」は、50代以上で男性の方が10%ポイント近く低い。



(4) 家事・育児等への考え方(20-39歳、配偶状況・子供の有無別)

・家事・育児等への考え方について、配偶状況・子供の有無別(20-39歳)に見てみると、女性では、「独身」と「有配偶・子供有り」で比較すると、「自分が率先してすべきことである」は、「有配偶・子供有り」の方が10%ポイント程度高い。男性では、配偶状況によって大きく差があるものはなかった。

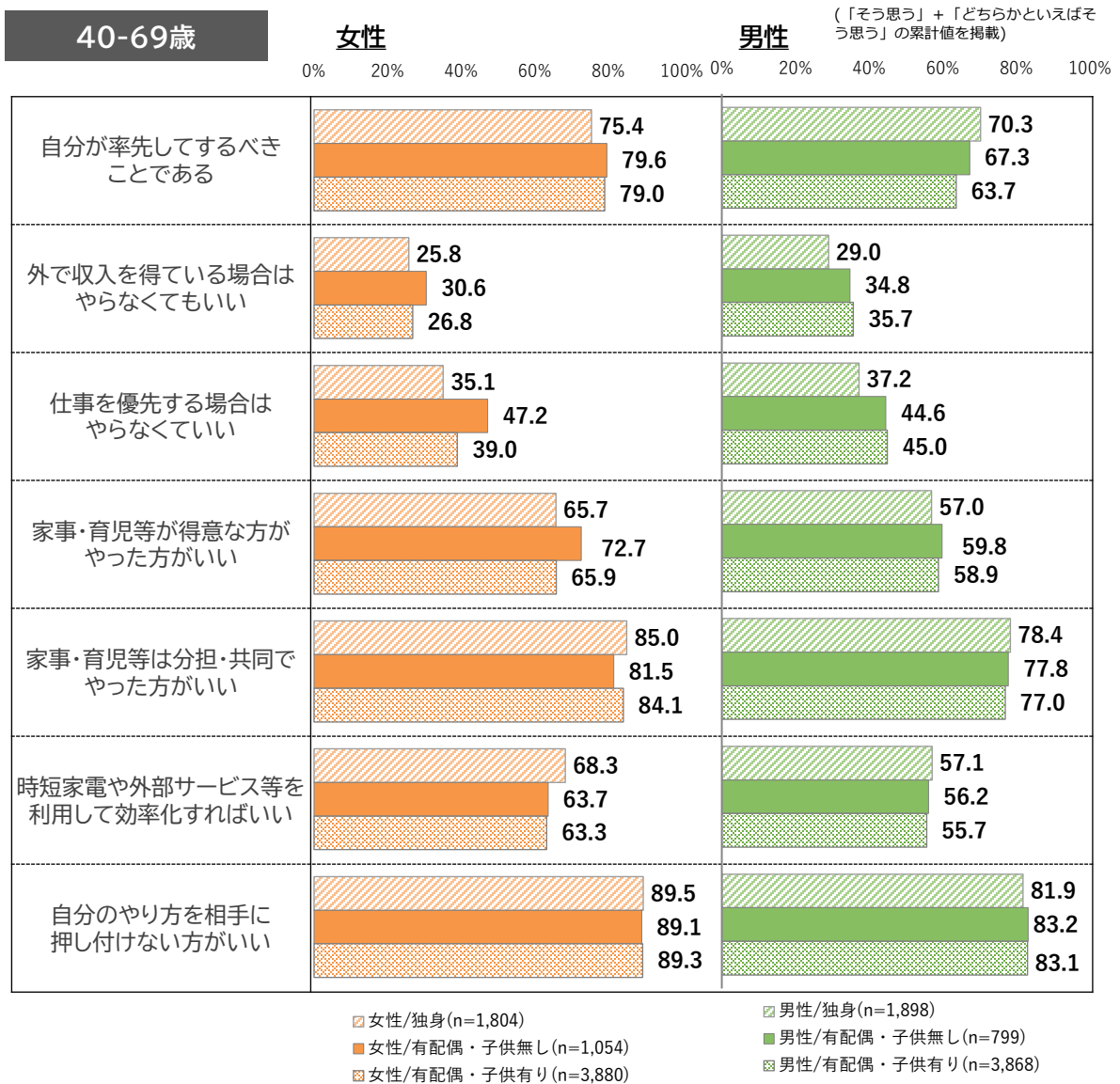
・男女で比較すると、「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」については、「有配偶・子供有り」においては男性の方が10%ポイント以上高く、「仕事を優先する場合はやらなくていい」も、男性の方が10%ポイント近く高い。



(4) 家事・育児等への考え方(40-69歳、配偶状況・子供の有無別)

・家事・育児等への考え方について、配偶状況・子供の有無別(40-69歳)に見てみると、女性では、「独身」と「有配偶・子供無し」で比較すると、「仕事を優先する場合はやらなくていい」は、「有配偶・子供無し」の方が10%ポイント程度高い。男性では、配偶状況で差があるものはなかった。

・男女で比較すると、「有配偶」において「自分が率先してすべきことである」で女性の方が10%ポイント以上高く、「有配偶・子供無し」において「家事・育児等が得意な方がやった方がいい」で女性の方が10%ポイント以上高い。また、「独身」における「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」も、女性の方が10%ポイント以上高い。



(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

・男女別にみると「利用したことがある」が2割を超えるものは、女性では「市販のおかず購入」57.4%、「フードデリバリー・出前利用」29.8%、「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」22.2%。男性では「市販のおかず購入」44.3%、「フードデリバリー・出前利用」23.2%。

・「利用したことがある+してみたいと思う」の累計値で見ると、男女ともに6割を超える項目は、「市販のおかず購入」。女性のみ6割を超える項目は、「フードデリバリー・出前利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」。

・一方、「利用したことがある+してみたいと思う」の累計値が3割を下回るものは、男女ともに「料理代行」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」。

・男女別にみると、「市販のおかず購入」「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」は女性の方が10%ポイント程度高い。

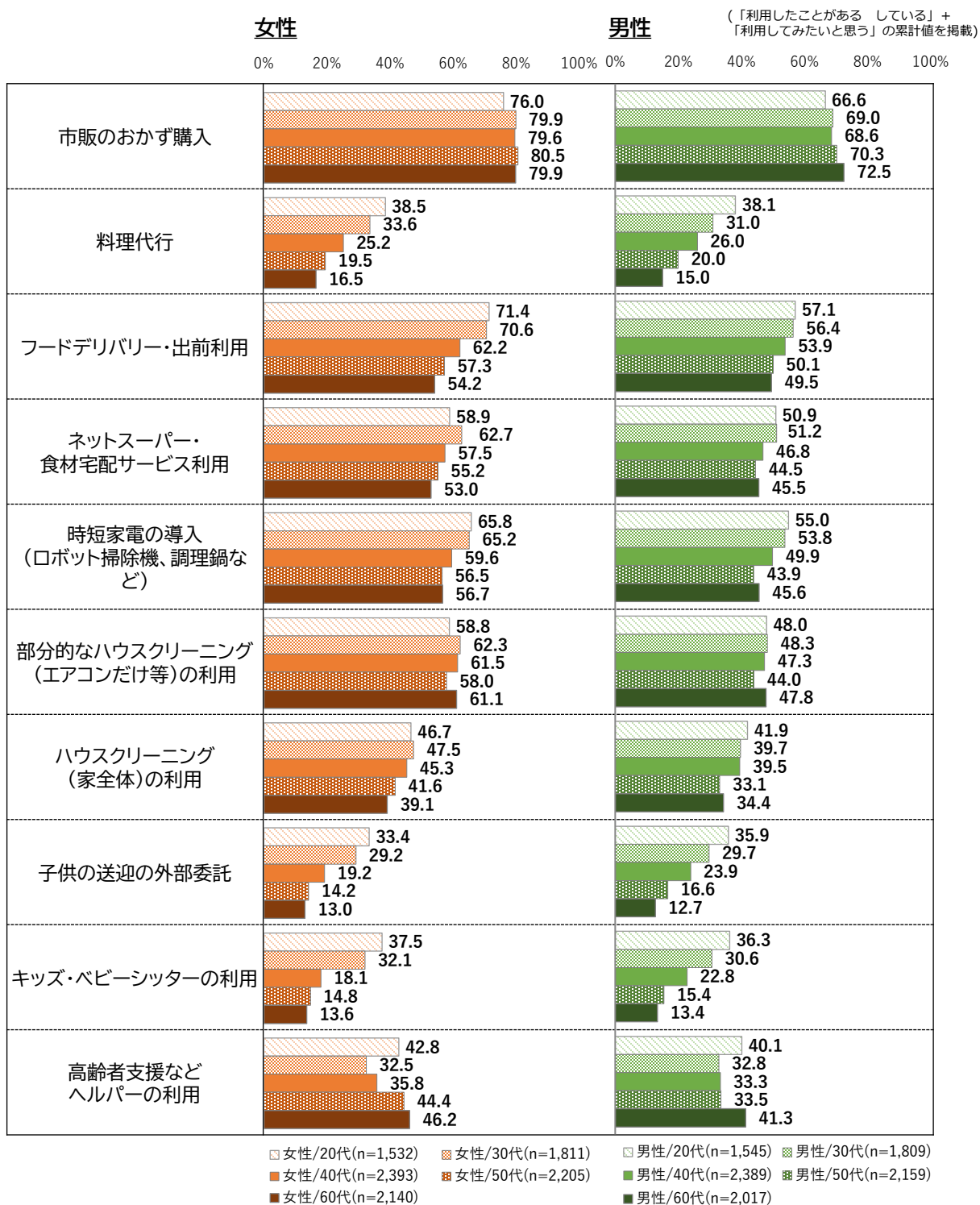
		※60%を超えるセルに色掛け（イエロー） 30%を下回るセルに色掛け（グレー）						利用したことがある・している+利用してみたいと思う
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	
女性	市販のおかず購入	57.4 (イエロー) 22.0 (グレー) 20.6 (グレー)						79.4%
	料理代行	2.7 (グレー)	22.9 (グレー)		74.3 (グレー)			25.7%
	フードデリバリー・出前利用	29.8 (イエロー)		32.5 (グレー)		37.7 (グレー)		62.3%
	ネットスーパー・食材宅配サービス利用	22.2 (イエロー)		34.9 (グレー)		42.8 (グレー)		57.2%
	時短家電の導入 (ロボット掃除機、調理鍋など)	15.0 (イエロー)		45.3 (グレー)		39.8 (グレー)		60.2%
	部分的なハウスクリーニング (エアコンだけ等)の利用	13.3 (イエロー)		47.1 (グレー)		39.6 (グレー)		60.4%
	ハウスクリーニング (家全体)の利用	4.7 (グレー)	39.1 (グレー)		56.2 (グレー)			43.8%
	子供の送迎の外部委託	2.8 (グレー)	18.0 (グレー)		79.2 (グレー)			20.8%
	キッズ・ベビーシッターの利用	3.0 (グレー)	18.9 (グレー)		78.1 (グレー)			21.9%
	高齢者支援などヘルパーの利用	6.7 (グレー)	33.6 (グレー)		59.6 (グレー)			40.4%
男性	市販のおかず購入	44.3 (イエロー) 25.3 (グレー) 30.5 (グレー)						69.5%
	料理代行	4.6 (グレー)	20.6 (グレー)		74.7 (グレー)			25.3%
	フードデリバリー・出前利用	23.2 (イエロー)		29.9 (グレー)		46.9 (グレー)		53.1%
	ネットスーパー・食材宅配サービス利用	15.9 (イエロー)		31.5 (グレー)		52.5 (グレー)		47.5%
	時短家電の導入 (ロボット掃除機、調理鍋など)	12.4 (イエロー)		36.8 (グレー)		50.8 (グレー)		49.2%
	部分的なハウスクリーニング (エアコンだけ等)の利用	11.3 (イエロー)		35.7 (グレー)		53.0 (グレー)		47.0%
	ハウスクリーニング (家全体)の利用	5.8 (グレー)	31.6 (グレー)		62.5 (グレー)			37.5%
	子供の送迎の外部委託	4.2 (グレー)	18.8 (グレー)		77.0 (グレー)			23.0%
	キッズ・ベビーシッターの利用	4.0 (グレー)	18.8 (グレー)		77.2 (グレー)			22.8%
	高齢者支援などヘルパーの利用	6.8 (グレー)	29.2 (グレー)		64.0 (グレー)			36.0%

■利用したことがある・している ▨利用してみたいと思う □利用してみたいと思わない

(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向(年代別)

・年代別に見てみると、男女ともに若いほど「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」などが高い。また20-30代では、「時短家電の導入」がやや高い。上の年代になるほど高い項目はないが、女性では20代と50代以上、男性では20代と60代で「高齢者支援などヘルパーの利用」がやや高い。

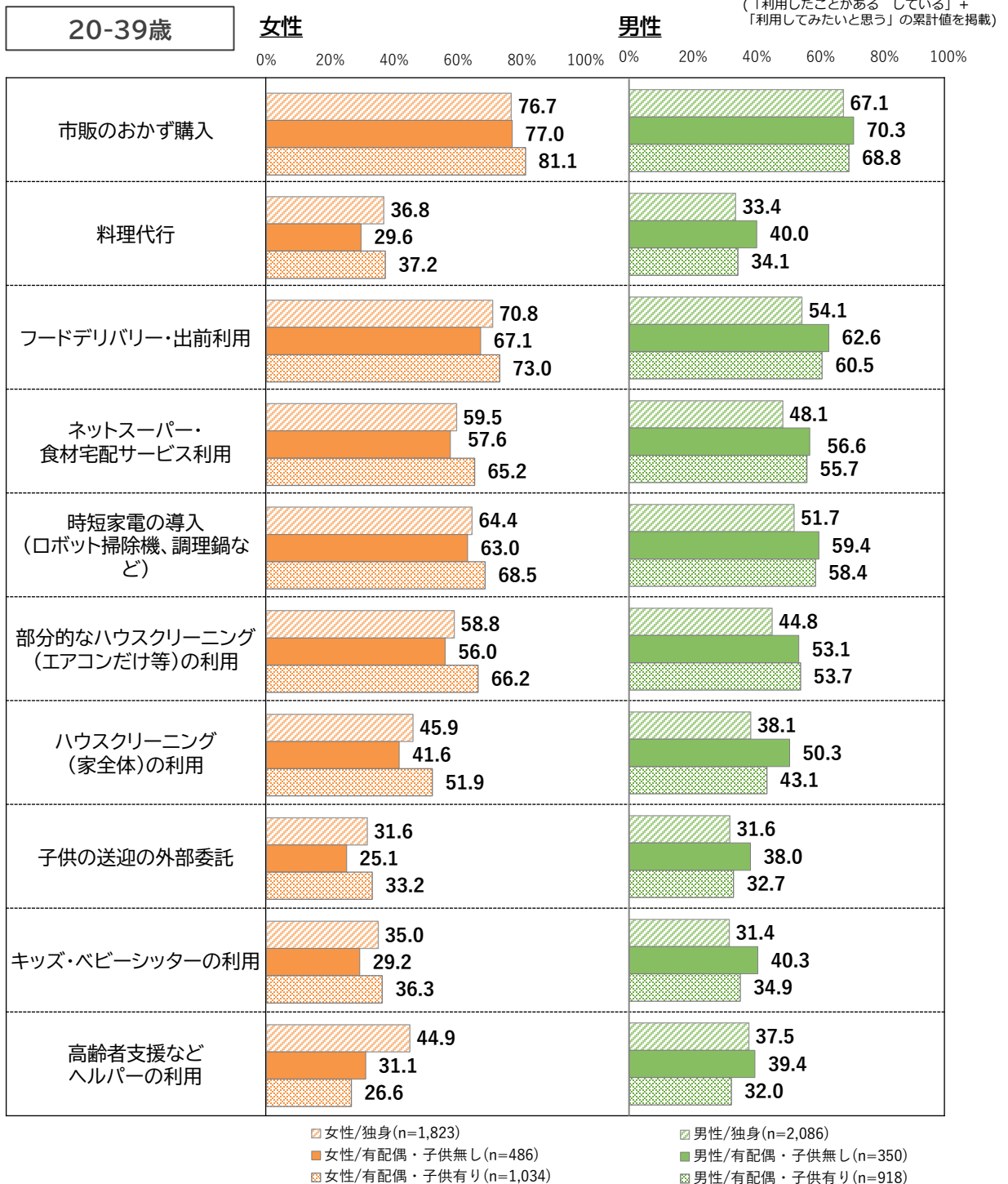
・同年代の男女で比較すると、女性の方が高い項目が多く、「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」は全ての年代で、「市販のおかず購入」は20-50代で、「フードデリバリー・出前利用」は20-30代で、「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」は30-50代で、「高齢者支援などヘルパーの利用」は50代で女性の方が10%ポイント程度高い。



(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向(20-39歳、配偶状況・子供の有無別)

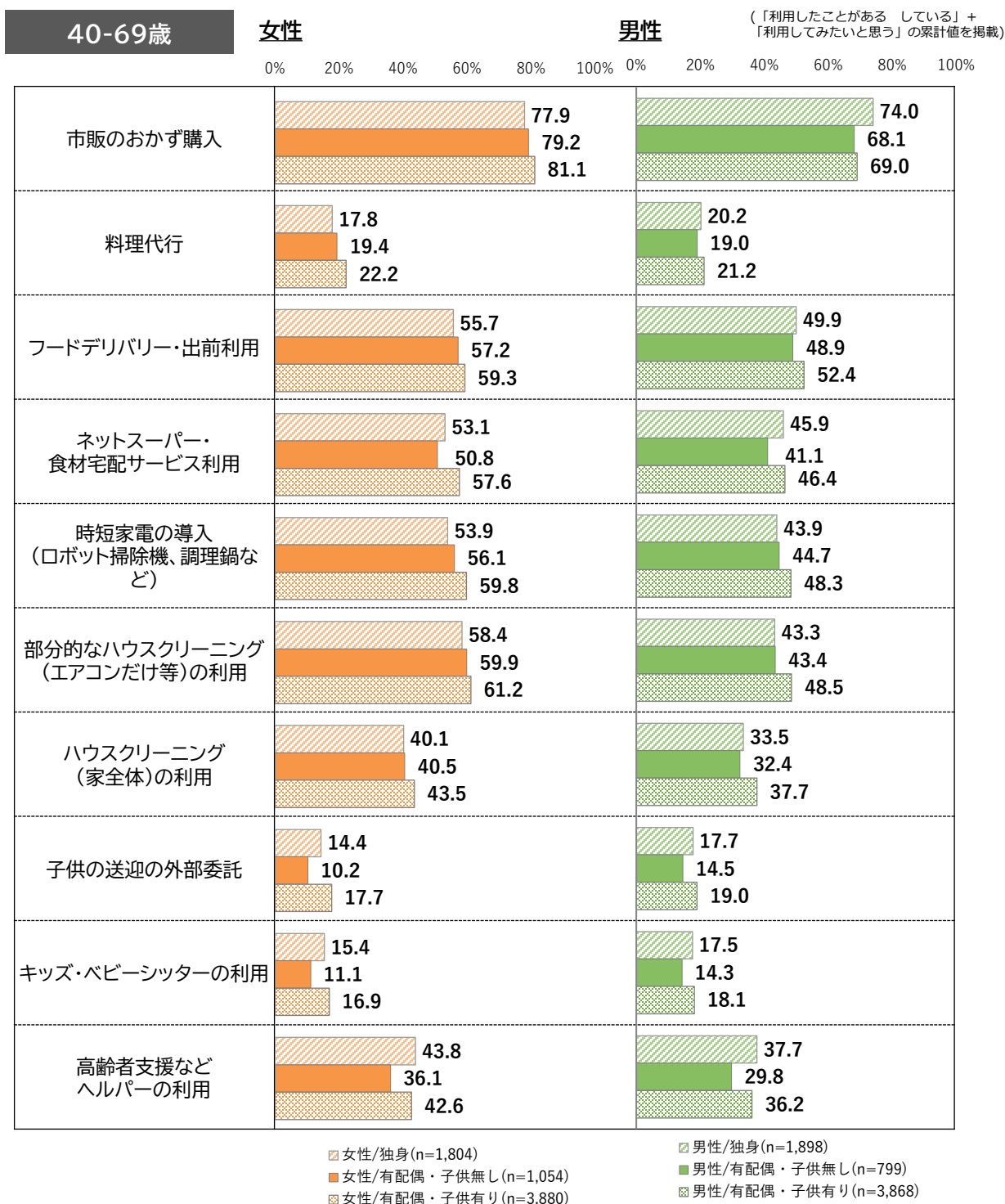
・配偶状況・子供の有無別(20-39歳)に見てみると、女性では「高齢者支援などヘルパーの利用」は、「独身」の方が「有配偶」よりも10%ポイント以上高い。男性では、「部分的なハウスクリーニングの利用」について、「有配偶」の方が10%ポイント近く高く、「ハウスクリーニングの利用」については、「有配偶・子供無し」で高い。

・男女で比較すると、全体的に女性の方が高い項目が多いが、「独身」では「フードデリバリー・出前利用」「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」について女性の方が10%ポイント以上高く、「有配偶・子供有り」では、「市販のおかず購入」「フードデリバリー・出前利用」「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」について、女性の方が10%ポイント以上高い。



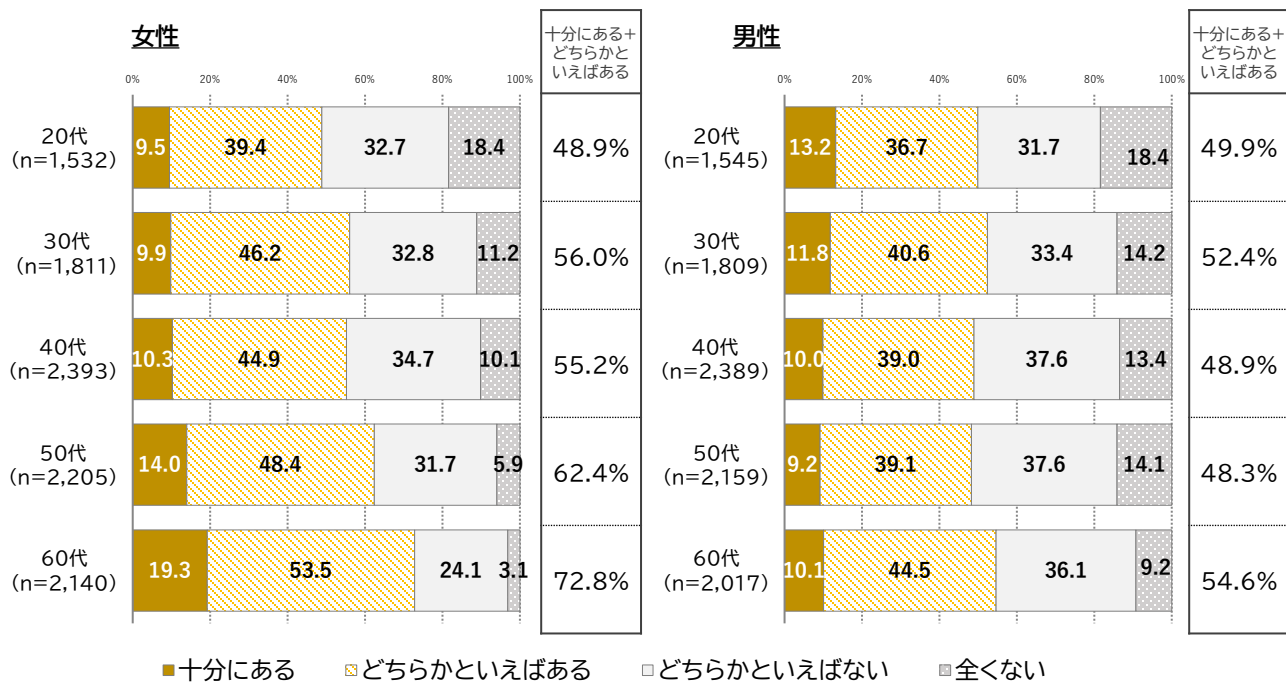
(5) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向(40-69歳、配偶状況・子供の有無別)

・配偶状況・子供の有無別(40-69歳)に見てみると、男女ともに、「独身」と「有配偶」で10%ポイント以上差があるものはない。
 ・男女で比較すると、全体的に女性の方が高い項目が多いが、全ての区分で「時短家電の導入」「部分的なハウスクリーニングの利用」について女性の方が10%ポイント以上高い。また、「有配偶」では「市販のおかず購入」についても女性の方が高く、「有配偶・子供有り」では「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」についても、女性の方が10%ポイント以上高い。



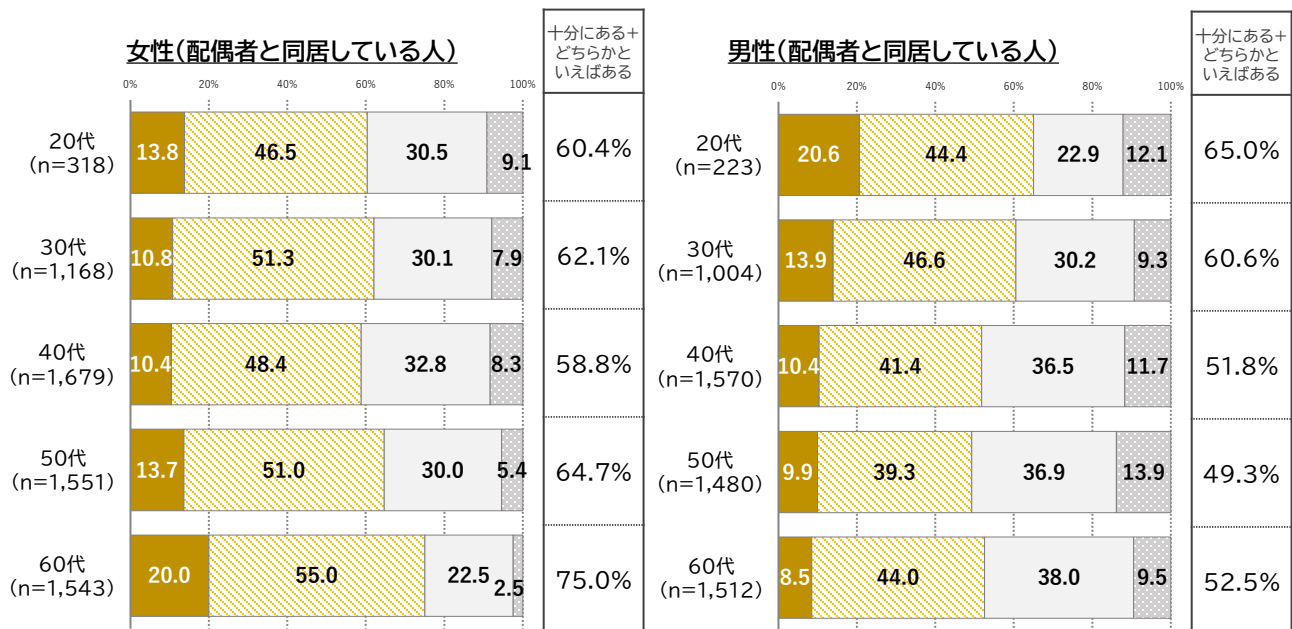
(6) 自分の家事のスキル(能力)についての評価(年代別)

- 年代別に「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、女性では20代で48.9%、30代で56.0%、40代で55.2%、50代で62.4%、60代で72.8%と、上の年代ほど高い傾向となっている。
- 男性では、20代で49.9%、30代で52.4%、40代で48.9%、50代で48.3%、60代で54.6%となっている。
- 男女で比較すると、「50代以上」で、女性の方が10%ポイント以上高い。若いほど男女差は小さく、20代ではほぼ同程度となっている。

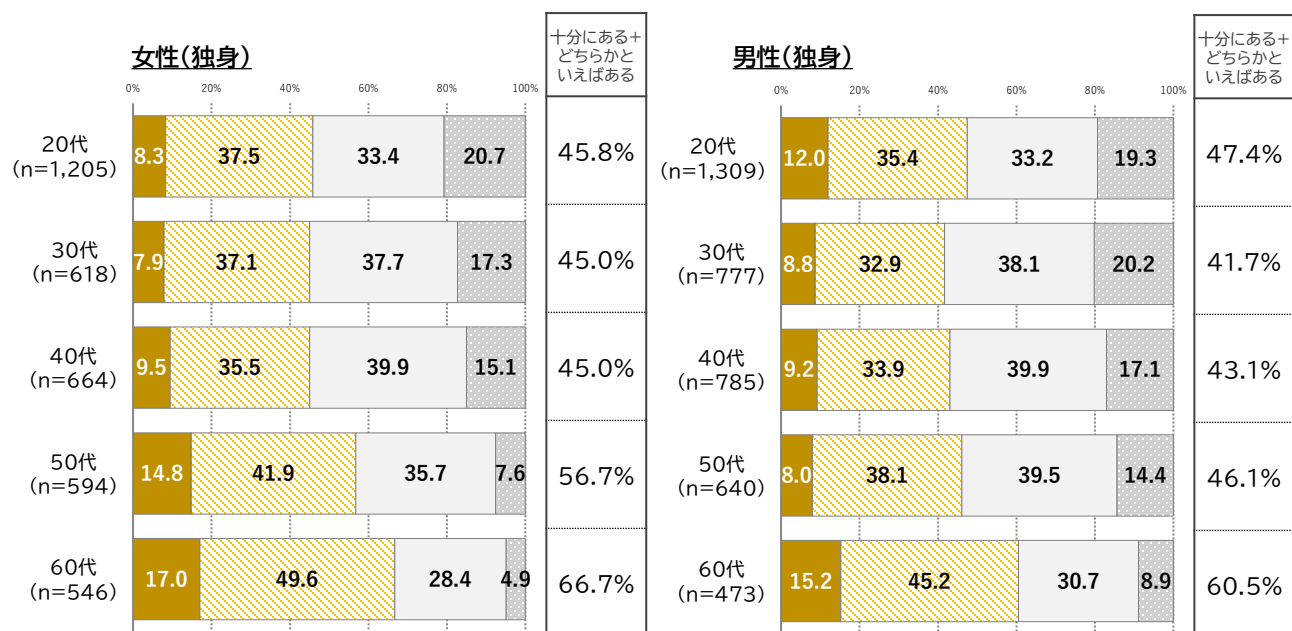


(6) 自分の家事のスキル(能力)についての評価(配偶者と同居している人及び独身)

- ・年代別に「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、配偶者と同居している人においては、女性では60代が75.0%と最も高い。男性では20代で65.0%と最も高く、30代でも60.6%と6割を超える。
- ・独身においては、女性では60代が66.7%と最も高い。男性では60代が60.5%と最も高く、それより下の年代と10%ポイント以上差がある。
- ・男女で比較すると、配偶者と同居している人について、20～40代では差は10%ポイント以内であるが、50代以上では差は10%ポイント以上となり、女性の方が高い。独身では、50代のみ女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・配偶者と同居している人と独身で比較すると、男女ともに20～30代では、「配偶者と同居している人」の方が15%ポイント程度高い。また女性は40代でも、「配偶者と同居している人」の方が10%ポイント以上高い。



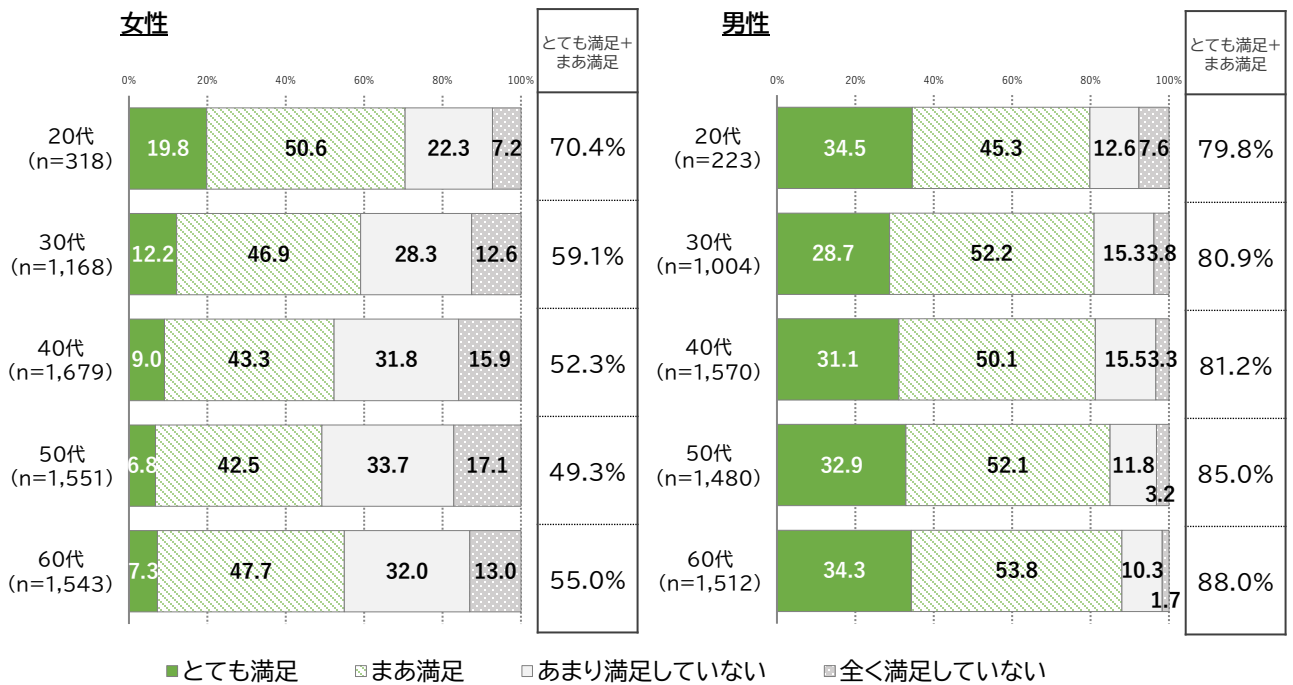
■十分にある ■どちらかといえばある □どちらかといえばない ■全くない



■十分にある ■どちらかといえばある □どちらかといえばない ■全くない

(7) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している人が対象)

- ・年代別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、女性においては20代で70.4%と唯一7割を超え、30代で59.1%、40代で52.3%、50代で49.3%、60代で55.0%となっている。
- ・男性においては、20代で79.8%、30代で80.9%、40代で81.2%、50代で85.0%、60代で88.0%と、どの年代でも8~9割となっている。
- ・男女で比較すると、20代では差が10%ポイント未満だが、年代が上になるほど男女差が大きくなり、30代では20%ポイント以上、40代以上では30%ポイント程度、男性の方が高い。

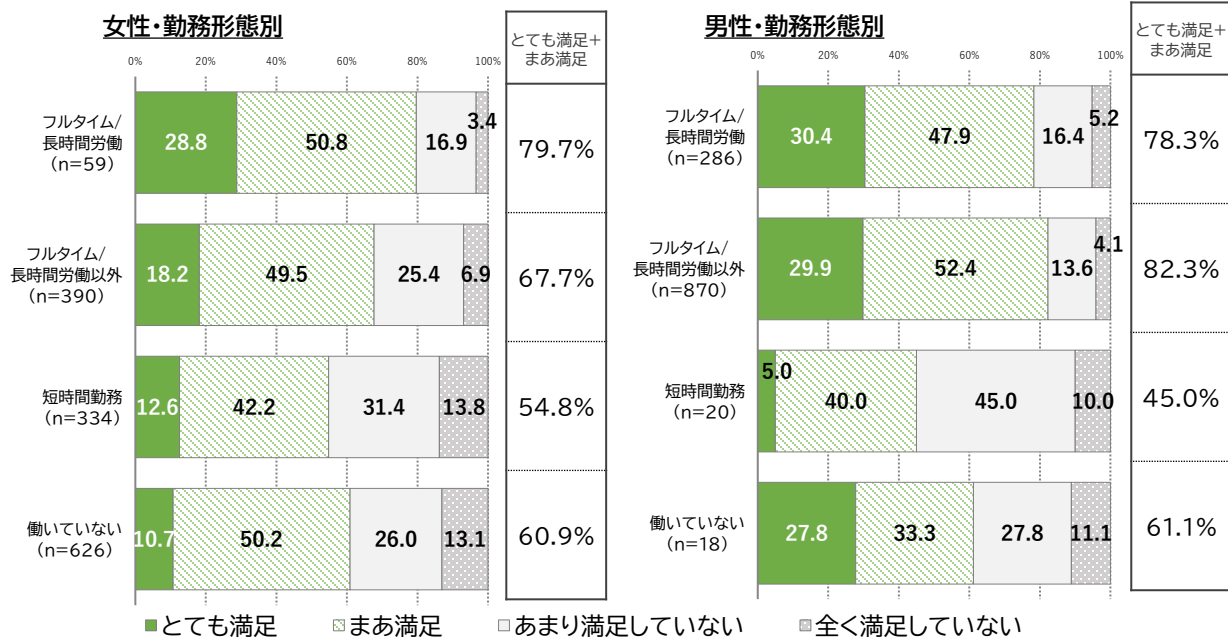


(7) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している人が対象、勤務形態別)

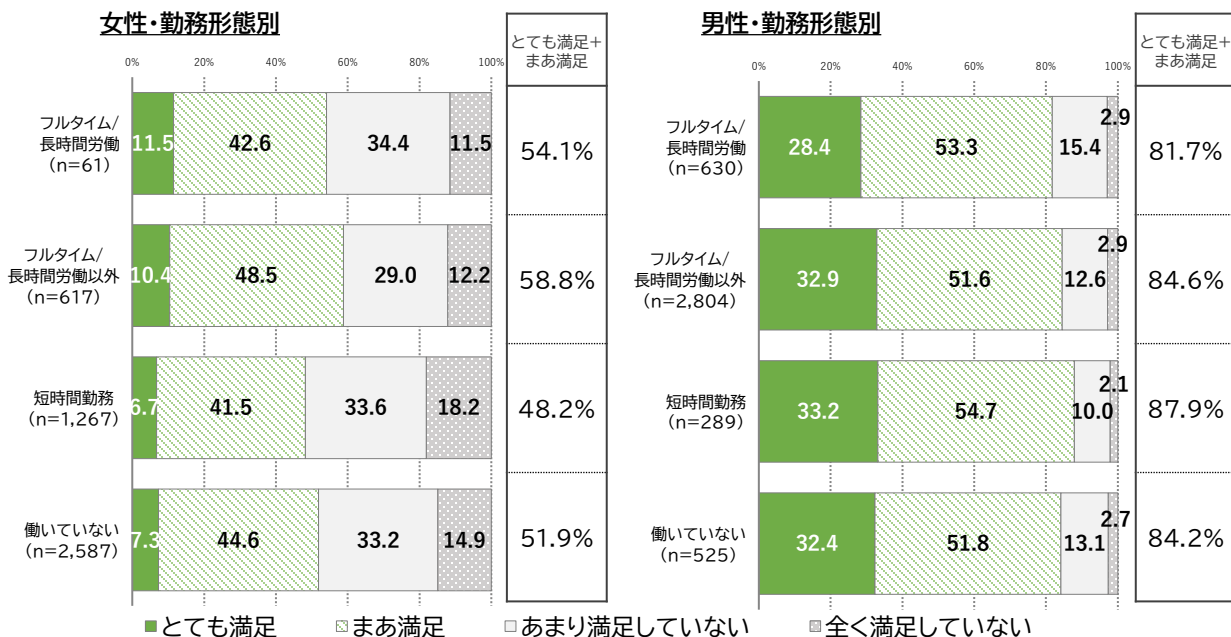
・年代、勤務形態別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、20-39歳女性では「フルタイム/長時間労働」が79.7%と最も高く、最も低い「短時間勤務」54.8%と比べ、差は20%ポイント以上。男性では「フルタイム/長時間労働」と「フルタイム/長時間労働以外」が、いずれも8割程度となっている。

・40-69歳の女性では「フルタイム/長時間労働以外」が58.8%と最も高く、「短時間勤務」が48.2%と最も低い。20-39歳ほど労働時間による差は小さく、40-69歳の方が満足度は低い傾向にある。男性では、どの区分でも8割強となっている。

20-39歳



40-69歳

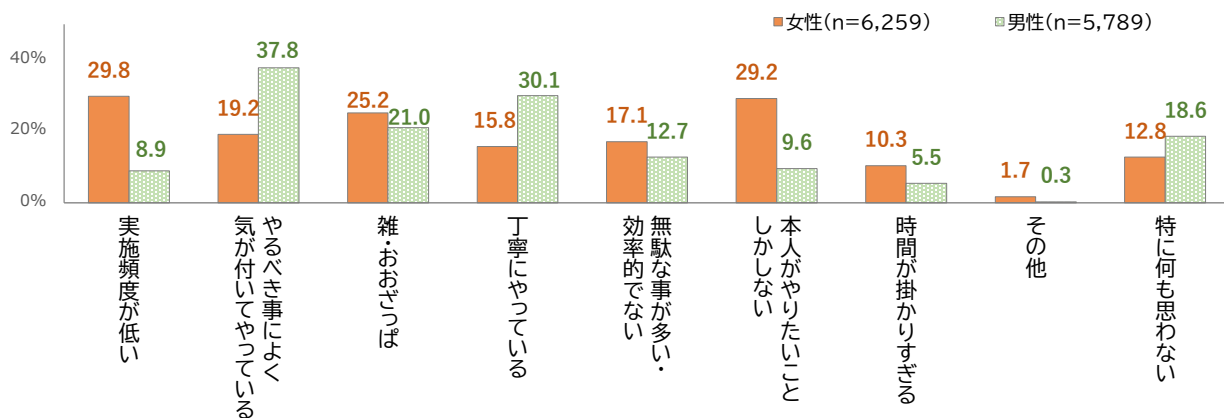


(8) 配偶者の実施する家事についてどう感じるか(配偶者と同居している人が対象)

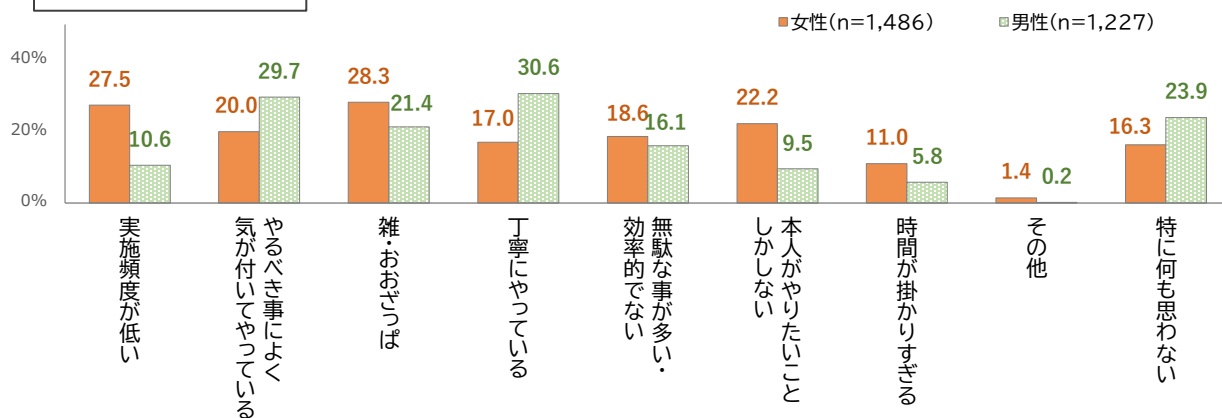
・女性では「実施頻度が低い」29.8%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかししない」29.2%が続いており、男性よりも10%ポイント以上高い。一方男性は、「やるべき事によく気が付いてやっている」37.8%が最も高く、次に「丁寧にやっている」30.1%となっており、女性よりも10%ポイント以上高い。

・20-39歳について男女別に見ると、全体と同じ傾向であり、「実施頻度が低い」は15%ポイント以上、「本人がやりたいことしかししない」は10%ポイント以上、女性の方が高い。一方「丁寧にやっている」は、10%ポイント以上男性の方が高い。

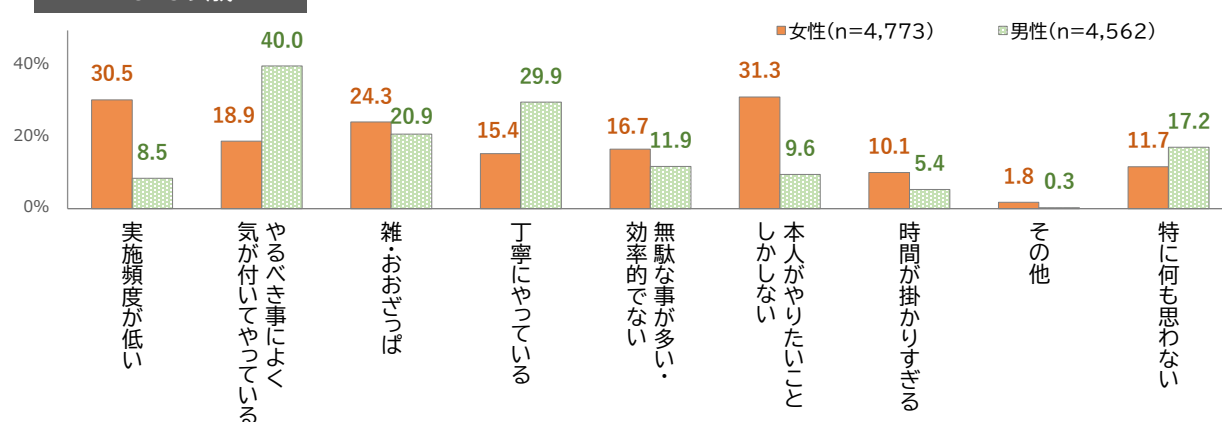
・40-69歳について男女別に見ると、「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかししない」は20%ポイント以上女性の方が高い。一方、「やるべき事によく気が付いてやっている」は20%ポイント以上、「丁寧にやっている」は10%ポイント以上男性の方が高い。



20-39歳



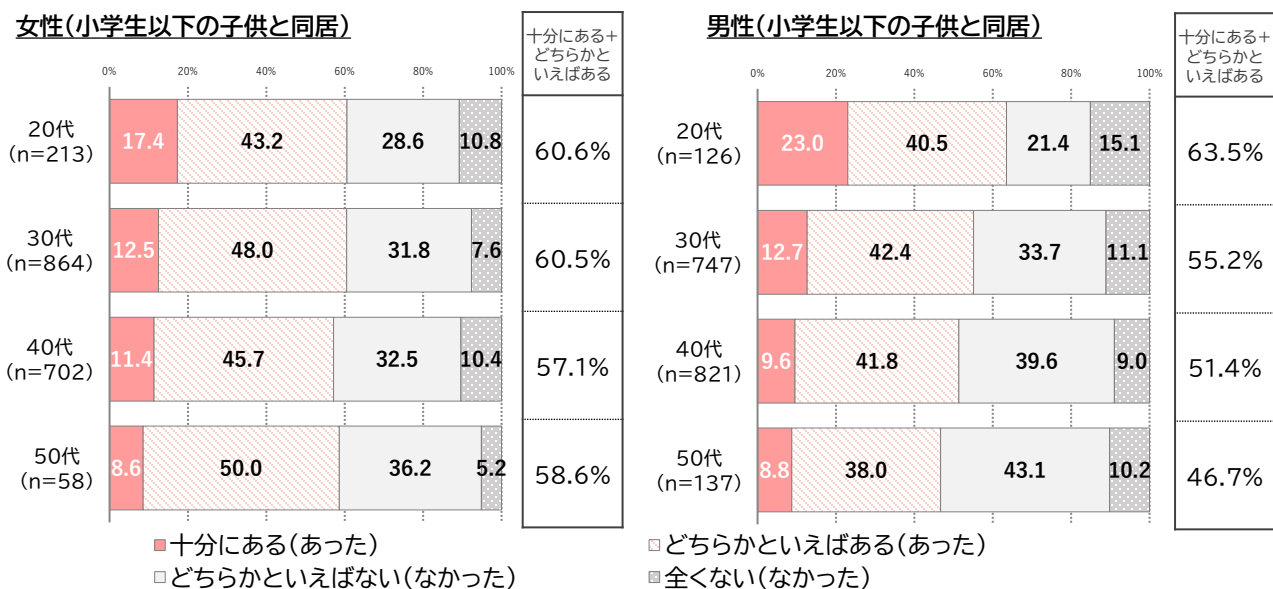
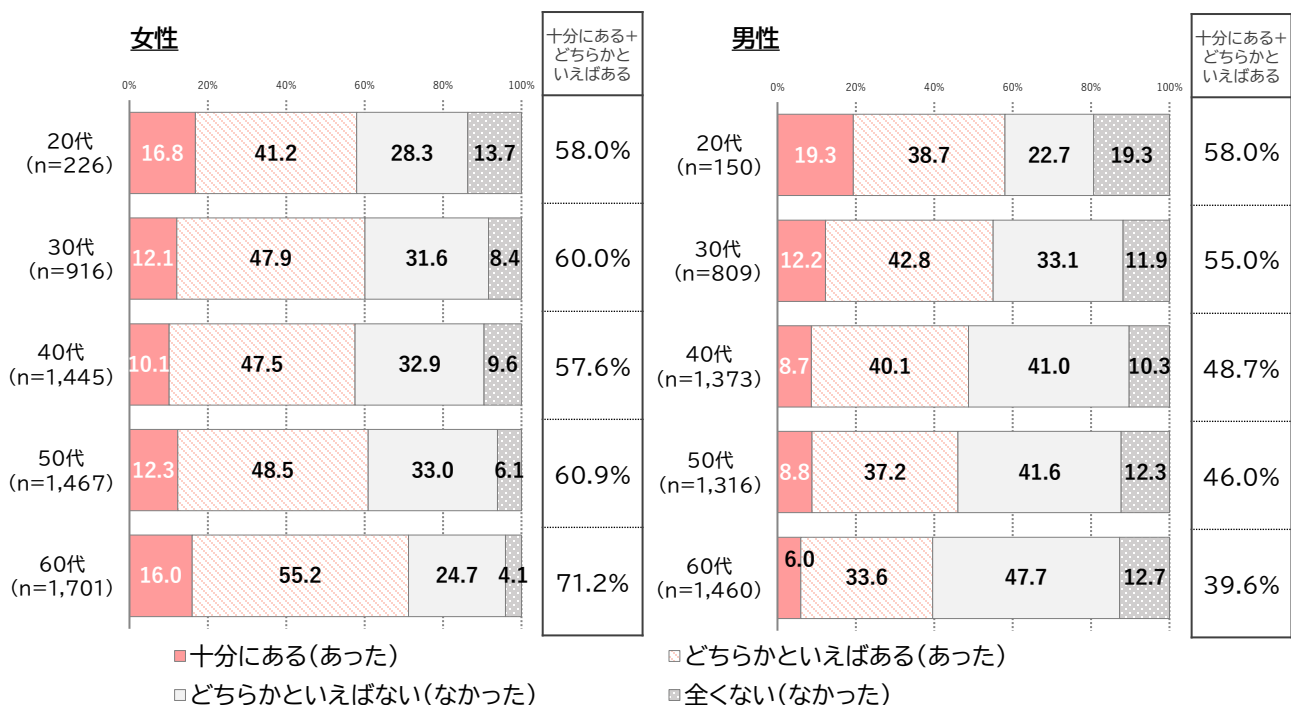
40-69歳



(9) 自分の育児のスキル(能力)についての評価(子供がいる・いたことのある人が対象)

・年代別に「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、女性では20-50代では6割、60代では71.2%となっている。男性では、20代で58.0%と最も高く、年代が上がるほど割合が下がり、60代では39.6%となっている。また、男女で比較すると、20代では同程度だが上の年代ほど男女差が大きく、50代では女性の方が15%ポイント、60代では30%ポイント以上高い。

・小学生以下の子供と同居している人について見てみると、女性では全ての年代で6割となっている。男性では、全体結果と同様に年代が若いほど割合が高く、20代では63.5%、一方50代では46.7%となっている。男女で比較すると、20代では同程度(男性の方がやや高い)だが、上の年代ほど男女差が大きく、女性の方が高い傾向。



(10) 配偶者の実施する育児への満足度(子供がいる・いたことのある人、小学生以下の子供と同居)

・年代別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、女性では20-30代で6割、40代で50.2%、50代で45.9%、60代で43.9%と、上の年代ほど低い。男性では上の年代ほど満足度は高い傾向にあるが、どの年代でも80%台となっている。また、男女で比較すると、どの年代でも20%ポイント近く男性の方が高く、特に40代より上でその差は30%ポイント以上と大きくなる。

・小学生以下の子供と同居している女性では、20代では64.3%となっているが、上の年代ほど低く、50代では50.0%となっている。男性では、どの年代でも85~88%程度となっている。男女で比較すると、上の年代になるほど、男性の満足度が女性の満足度を大きく上回る結果となっている。

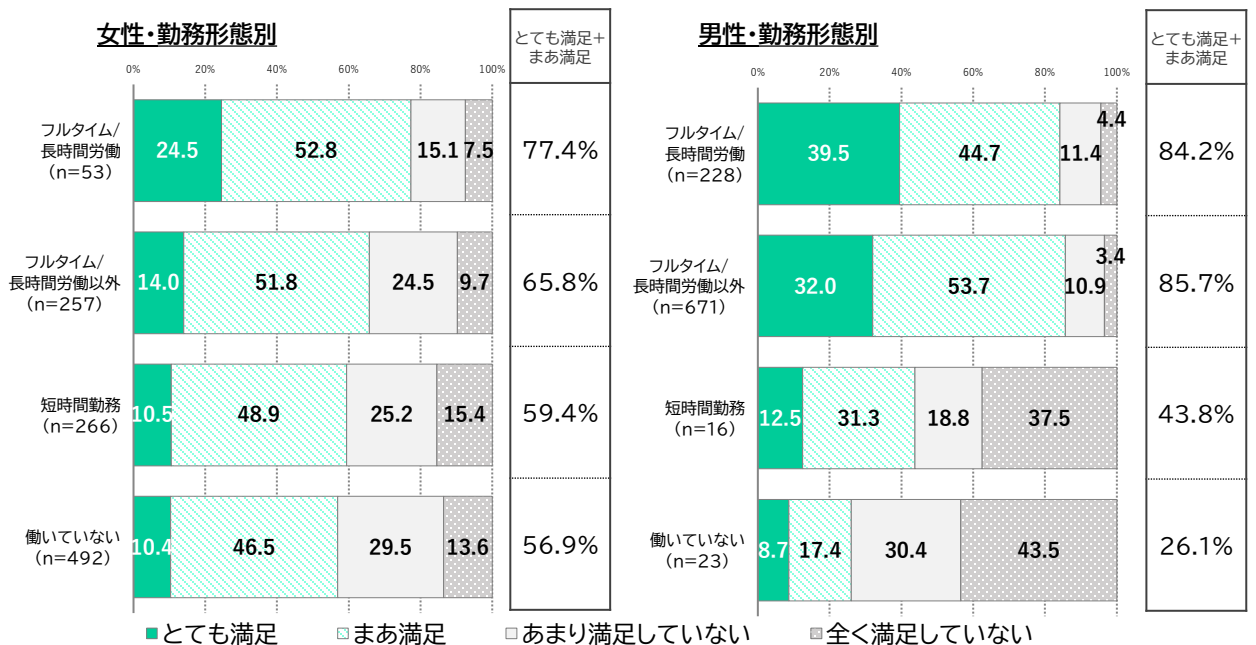


(10) 配偶者の実施する育児への満足度(子供がいる・いたことのある人、勤務形態別)

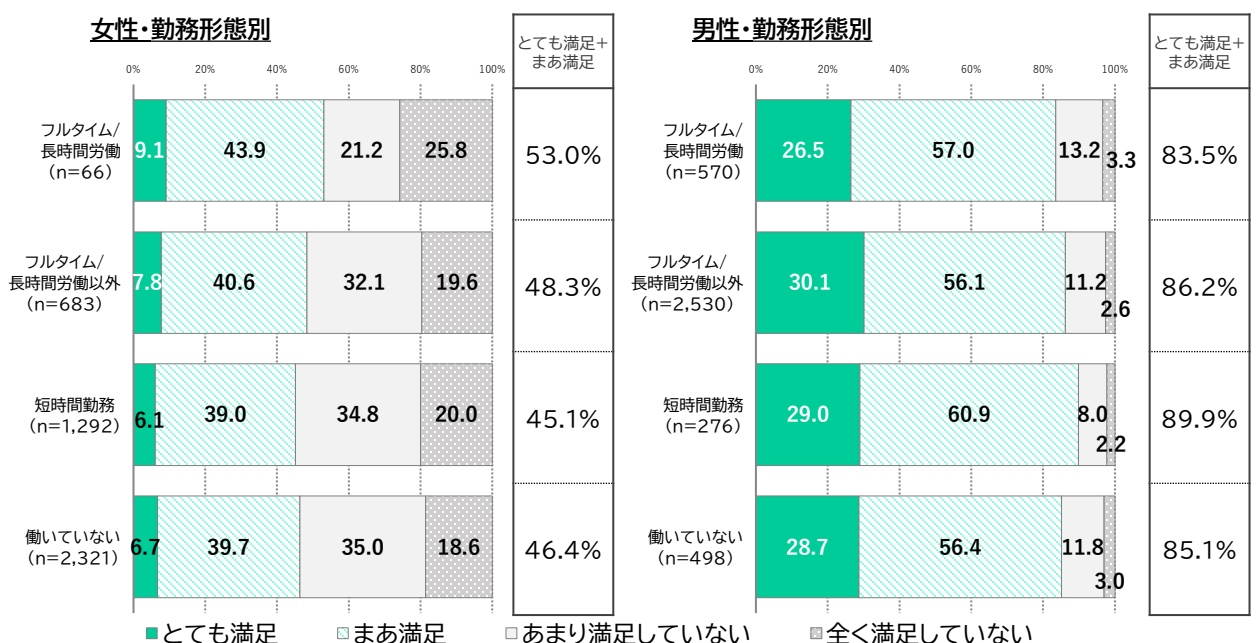
・年代、勤務形態別に「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、20-39歳の女性では「フルタイム/長時間労働」が77.4%と最も高い。一方、「短時間勤務」では59.4%、「働いていない」では56.9%と、差は10%ポイント以上。男性では「フルタイム/長時間労働」と「フルタイム/長時間労働以外」、いずれも85%前後となっている。

・40-69歳の女性では「フルタイム/長時間労働」が53.0%と最も高く、「短時間勤務」が45.1%と最も低い。20-39歳ほど労働時間による差は小さくなく、40-69歳の方が満足度が低い傾向にある。また、男性では、どの区分でも8割強となっている。

20-39歳



40-69歳

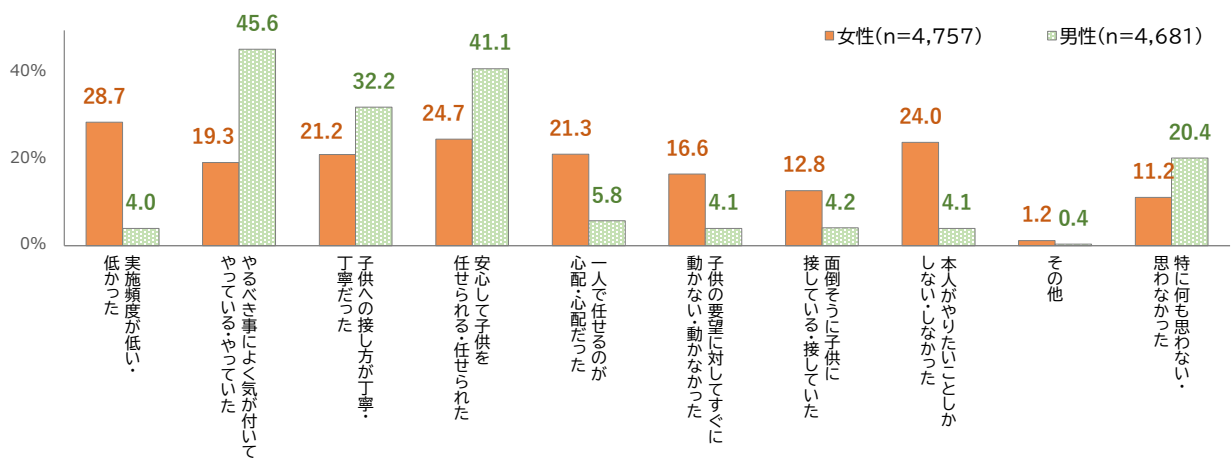


(11) 配偶者の実施する育児についてどう感じるか(子供がいる・いたことのある人が対象)

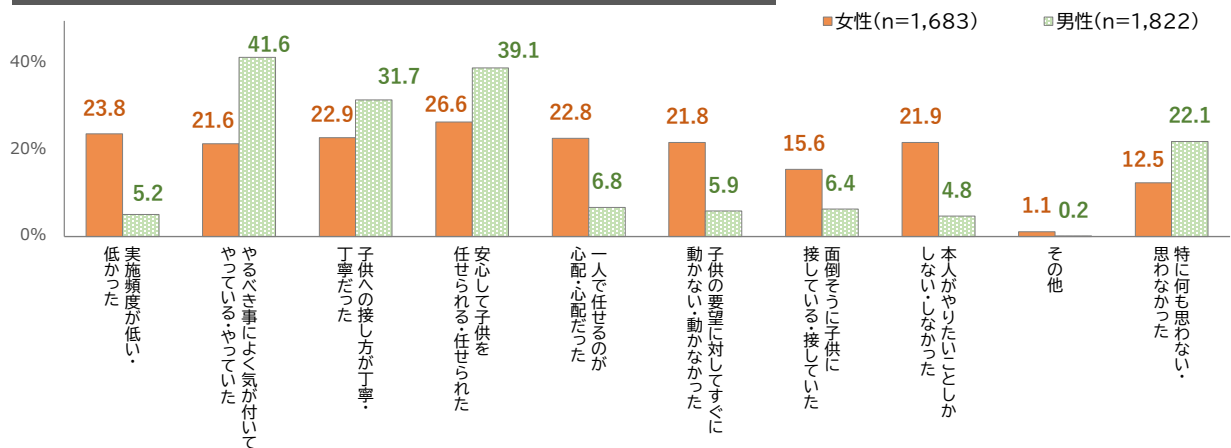
・現在、配偶者と同居している人について見ると、女性では「実施頻度が低い・低かった」28.7%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかしかない・しなかった」24.0%が続き、この2項目は男性よりも20～25%ポイント程度高い。また、「一人で任せるのが心配・心配だった」21.3%も男性より15%ポイント以上高い。一方、男性では「やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた」45.6%が最も高く、次に「安心して子供を任せられる・任せられた」41.1%、「子供への接し方が丁寧・丁寧だった」32.2%が続き、この3項目では女性よりも10%ポイント以上高い。

・また、現在、配偶者と小学生以下の子供と同居している人で見ると、「実施頻度が低い」「一人で任せるのが心配・心配だった」「子供の要望に対してすぐに動かない・動かなかった」「本人がやりたいことしかしかない・しなかった」は女性の方が15%ポイント以上高い。一方、「やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた」「安心して子供を任せられる・任せられた」は男性の方が10%ポイント以上高い。

現在、配偶者と同居している人



現在、配偶者と小学生以下の子供と同居している人



調査結果まとめ

◆1日の時間の使い方 有職者におけるテレワークの日・テレワーク以外の日の比較

1 有職者の「仕事のある1日」における時間の使い方を、テレワークの有無により比較すると、**テレワークの日の方が「仕事時間」は、女性は22分、男性は36分短い。**

2 また、男性では、テレワークの日の方が「家事・育児時間」が**22分長い**。女性の方が家事・育児時間が長い傾向は変わらないが、**テレワークの日の方がその差が小さい。**

3 男女ともにテレワークの日の方が「自分のことに使う時間」が**19分長い**。また、男性では「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も**11分長い**。

有職者全体 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワークの日	差異 (②-①)
仕事時間	女性	6時間47分	6時間25分	-22分
	男性	8時間23分	7時間47分	-36分
家事・育児時間	女性	2時間09分	2時間10分	+1分
	男性	0時間49分	1時間11分	+22分
家族と遊んだり くつろいだりする時間	女性	1時間20分	1時間23分	+3分
	男性	1時間11分	1時間22分	+11分
自分のことに 使う時間	女性	2時間16分	2時間35分	+19分
	男性	2時間15分	2時間34分	+19分

※10分以上増減のあるセルに色掛け、黄色が+10分以上、グレーが-10分以上

◆1日の時間の使い方 有配偶男性におけるテレワークの日・テレワーク以外の日の比較

1 「20-39歳/フルタイム長時間勤務」の男性では、テレワークの日の方が「仕事時間」が**1時間15分短い**。また40-69歳男性でも1時間7分短い。

2 一方、「20-39歳/フルタイム長時間勤務」の男性では、テレワークの日の方が「家事・育児時間」が、**40分長い**。また、40-69歳男性でも34分長い。

3 正規雇用労働者の男性を年代別で比較すると、**テレワーク有無に限らず、20-39歳の方が「仕事時間」が長く、かつ「家事・育児時間」も20-39歳の方が長い。**

有配偶・ 正規雇用労働者の男性 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワーク の日	差異 (②-①)
仕事時間	20-39歳	9時間05分	8時間15分	-50分
	40-69歳	8時間47分	8時間11分	-36分
家事・育児 時間	20-39歳	1時間26分	1時間54分	+28分
	40-69歳	0時間43分	1時間06分	+23分
家族と遊んだり、 くつろいだりする時間	20-39歳	1時間21分	1時間36分	+15分
	40-69歳	1時間22分	1時間35分	+13分
自分のことに 使う時間	20-39歳	1時間23分	1時間42分	+19分
	40-69歳	1時間49分	2時間17分	+28分

有配偶・フルタイム/ 長時間労働の男性 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワーク の日	差異 (②-①)
仕事時間	20-39歳	9時間44分	8時間29分	-1時間15分
	40-69歳	9時間35分	8時間28分	-1時間7分
家事・育児 時間	20-39歳	1時間15分	1時間55分	+40分
	40-69歳	0時間45分	1時間19分	+34分
家族と遊んだり、 くつろいだりする時間	20-39歳	1時間01分	1時間22分	+21分
	40-69歳	1時間16分	1時間28分	+12分
自分のことに 使う時間	20-39歳	1時間14分	1時間31分	+17分
	40-69歳	1時間35分	1時間56分	+21分

調査結果まとめ

◆生活の中の時間 増減希望

- 1 子供がいる20-39歳において、男性では「**仕事時間を減らしたい**」が34%、「**家事・育児時間を増やしたい**」が28%と高い。一方女性では「**仕事時間**」は増加・減少希望に分かれる。
- 2 子供がいる40-69歳において、男性では「**家事・育児時間を増やしたい**」は14%と、下の年代に比べ低い。女性では「**仕事時間を増やしたい**」が23%と、減少希望を上回る。
- 3 「**家族とくつろぐ**」「**自分のことに使う**」は増加希望が大きく上回るが、特に若い年代で顕著。特に女性においては、「**自分のことに使う時間を増やしたい**」が5割を超える。

20-39歳・子供有り		減らしたい	増やしたい	40-69歳・子供有り		減らしたい	増やしたい
仕事時間	女性	23.2%	28.6%	仕事時間	女性	12.7%	22.5%
	男性	34.1%	16.6%		男性	25.7%	10.2%
家事・育児時間	女性	33.5%	14.4%	家事・育児時間	女性	20.2%	6.0%
	男性	14.1%	27.7%		男性	7.6%	14.3%
家族と遊んだり、くつろいだりする時間	女性	5.0%	44.1%	家族と遊んだり、くつろいだりする時間	女性	2.1%	25.2%
	男性	6.0%	42.2%		男性	3.4%	30.7%
自分のことに使う時間	女性	4.2%	51.3%	自分のことに使う時間	女性	2.6%	34.1%
	男性	7.3%	44.4%		男性	3.8%	35.0%

※増減で10%ポイント以上差がある（高い項目に色掛け）

◆家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

- 1 利用経験が男女ともに2割を超える項目は、「**市販のおかず購入**」「**フードデリバリー・出前利用**」のみ。女性のみ2割を超える項目は「**ネットスーパー・食材宅配**」。
- 2 上記以外の項目で、「**利用経験有+今後利用してみたい**」の計が6割を超える項目は、女性における「**時短家電の導入**」「**部分的なハウスクリーニングの利用**」。
- 3 年代別では、男女ともに**若いほど利用意向の高いサービスが多い**。

- 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向について、「利用したことがある」が2割を超えるものは、女性では「市販のおかず購入」57.4%、「フードデリバリー・出前利用」29.8%、「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」22.2%。男性では「市販のおかず購入」44.3%、「フードデリバリー・出前利用」23.2%。
- 「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値で見ると、年代別では、男女ともに若いほど「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」などが高い。
- また20～30代で、「時短家電の導入」がやや高い。上の年代になるほど高い項目はないが、女性では20代と50代以上、男性では20代と60代で「高齢者支援などヘルパーの利用」がやや高い。

・家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

（上が「利用したことがある」数値、(カッコ内)が「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値）

※選択肢は抜粋
※「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値で男女で10%ポイント程度差がある（高い）項目に色掛け

	女性	男性
市販のおかず購入	57.4% (79.4%)	44.3% (69.5%)
フードデリバリー・出前利用	29.8% (62.3%)	23.2% (53.1%)
ネットスーパー・食材宅配サービス利用	22.2% (57.2%)	15.9% (47.5%)
時短家電の導入	15.0% (60.2%)	12.4% (49.2%)
部分的なハウスクリーニングの利用	13.3% (60.4%)	11.3% (47.0%)

調査結果まとめ

◆自分の家事・育児スキル(能力)と配偶者の実施する家事・育児への満足度

- 家事に関する自分のスキルへの評価について、20～30代では男女同程度、40代以上では**女性が上回る**。配偶者の家事への満足度は**全ての年代で女性の方が低い**が、若いほど差は小さい。
- 育児に関する自分のスキルへの評価について、30代以上では女性が上回るが、家事よりその差は小さい。配偶者の育児への満足度は、**家事同様に全ての年代で女性の方が満足度が低い**。
- 年代における自分のスキルへの評価の差異は、**男性では家事・育児ともに若い年代ほど高い傾向にあり、20代で最も高い**。

家事(配偶者と同居している人)		【自分】 十分ある+ どちらかとい えればある 計	【配偶者】 とても満足+ まあ満足 計
20代	女性	60.4%	70.4%
	男性	65.0%	79.8%
30代	女性	62.1%	59.1%
	男性	60.6%	80.9%
40代	女性	58.8%	52.3%
	男性	51.8%	81.2%
50代	女性	64.7%	49.3%
	男性	49.3%	85.0%
60代	女性	75.0%	55.0%
	男性	52.5%	88.0%

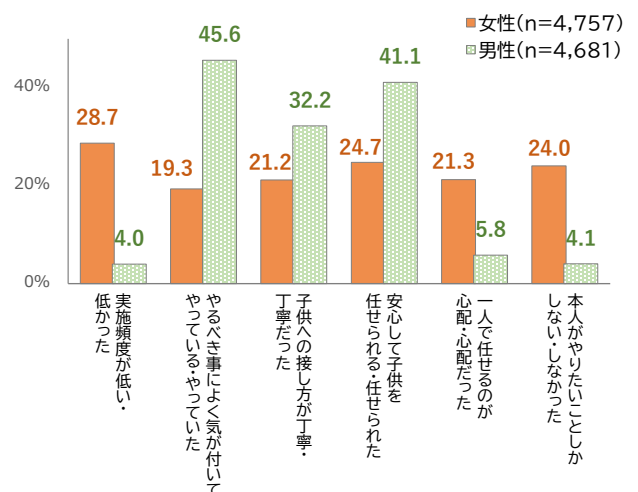
育児(小学生以下の 子供と同居している人)		【自分】 十分ある+ どちらかとい えればある 計	【配偶者】 とても満足+ まあ満足 計
20代	女性	60.6%	64.3%
	男性	63.5%	88.1%
30代	女性	60.5%	60.5%
	男性	55.2%	85.0%
40代	女性	57.1%	54.6%
	男性	51.4%	84.9%
50代	女性	58.6%	50.0%
	男性	46.7%	87.6%

◆配偶者の実施する家事・育児についての考え

- 配偶者の家事についての考えでは、女性の方が「**実施頻度が低い**」「**本人がやりたいことしかない**」が高く、男性の方が「**やるべきことによく気が付いてやっている**」「**丁寧**」が高い。
- 配偶者の育児について、女性の方が「**実施頻度が低い**」「**本人がやりたいことしかない**」「**一人で任せるのが心配**」が高く、男性の方が「**やるべきことによく気が付いてやっている**」「**子供への接し方が丁寧**」「**安心して子供を任せられる**」が高い。
- 家事よりも、「**配偶者の育児についての考え**」の方が、男女差が大きい。

- 配偶者の実施する家事についての考えを、配偶者と同居している人で見ると、女性では「実施頻度が低い」29.8%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかない」29.2%が続き、男性よりも10%ポイント以上高い。一方男性は、「やるべき事によく気が付いてやっている」37.8%が最も高く、次に「丁寧にやっている」30.1%と、女性よりも10%ポイント以上高い。
- 配偶者の実施する育児についての考えを、配偶者と同居している、子供がいる・いたことのある人で見ると、女性では「実施頻度が低い・低かった」28.7%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかない・しなかった」24.0%が続き、この2項目は男性よりも20～25%ポイント程度高い。また、「一人で任せるのが心配・心配だった」21.3%も男性より15%ポイント以上高い。男性では「やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた」45.6%が最も高く、次に「安心して子供を任せられる・任せられた」41.1%、「子供への接し方が丁寧・丁寧だった」32.2%と、いずれも女性より10%ポイント以上高い。

◆配偶者の実施する育児についてどう感じるか ※選択肢は抜粋 (子供がいる・いたことのある、現在配偶者と同居している人)



5.生活の中での責任とストレス

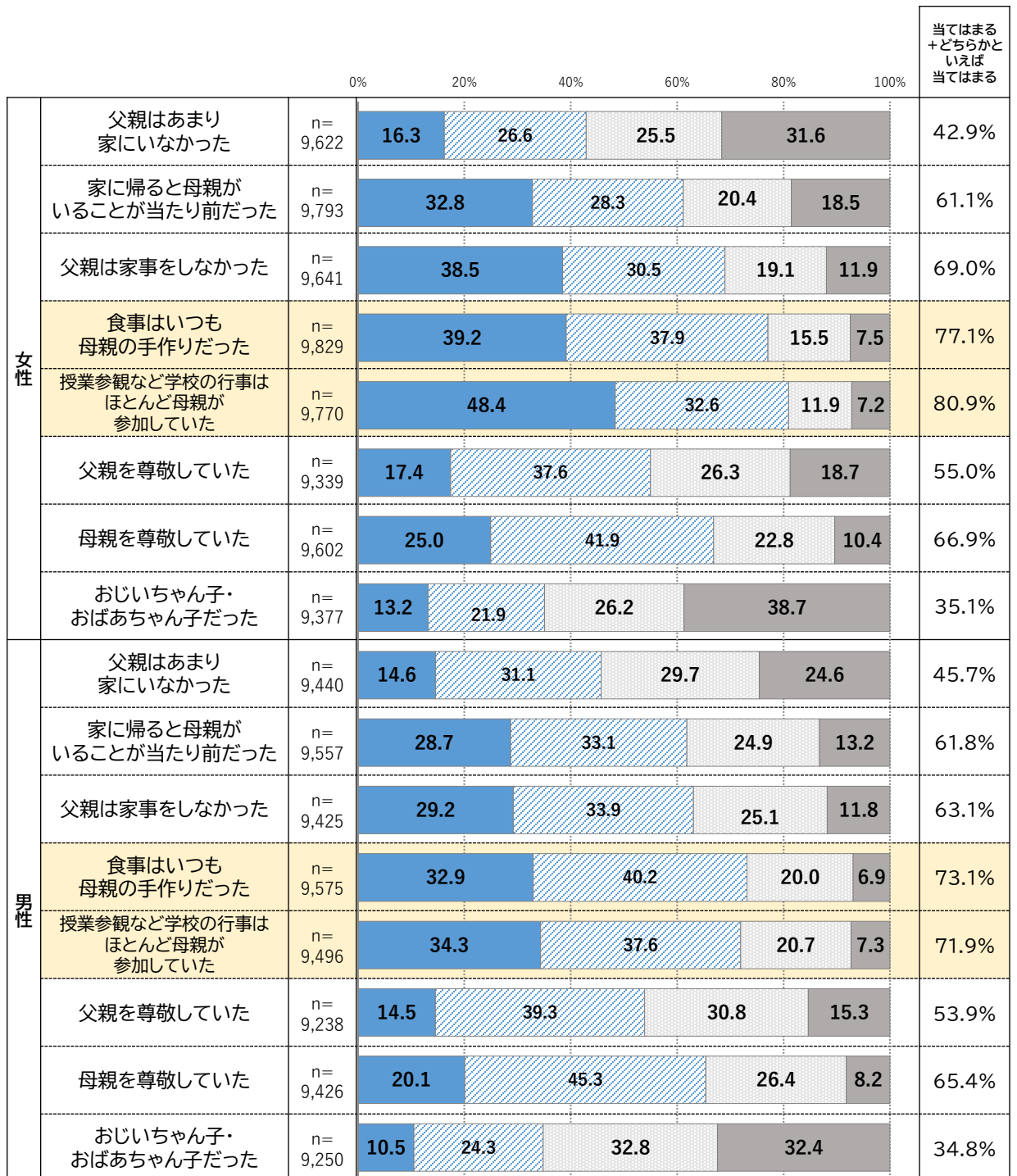
(1) 自分の父親・母親等との関係について

・「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値で見ると、男女ともに7割を超える項目は、「食事はいつも母親の手作りだった」「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」。

・男女で10%ポイント以上差がある項目はなかった。

・「父親を尊敬していた」「母親を尊敬していた」については、男女ともに「母親を尊敬していた」が「父親を尊敬していた」の割合よりも10%ポイント以上高い。

※70%を超えるセルに色掛け（イエロー）
※「答えられない」と回答した人は除外して集計



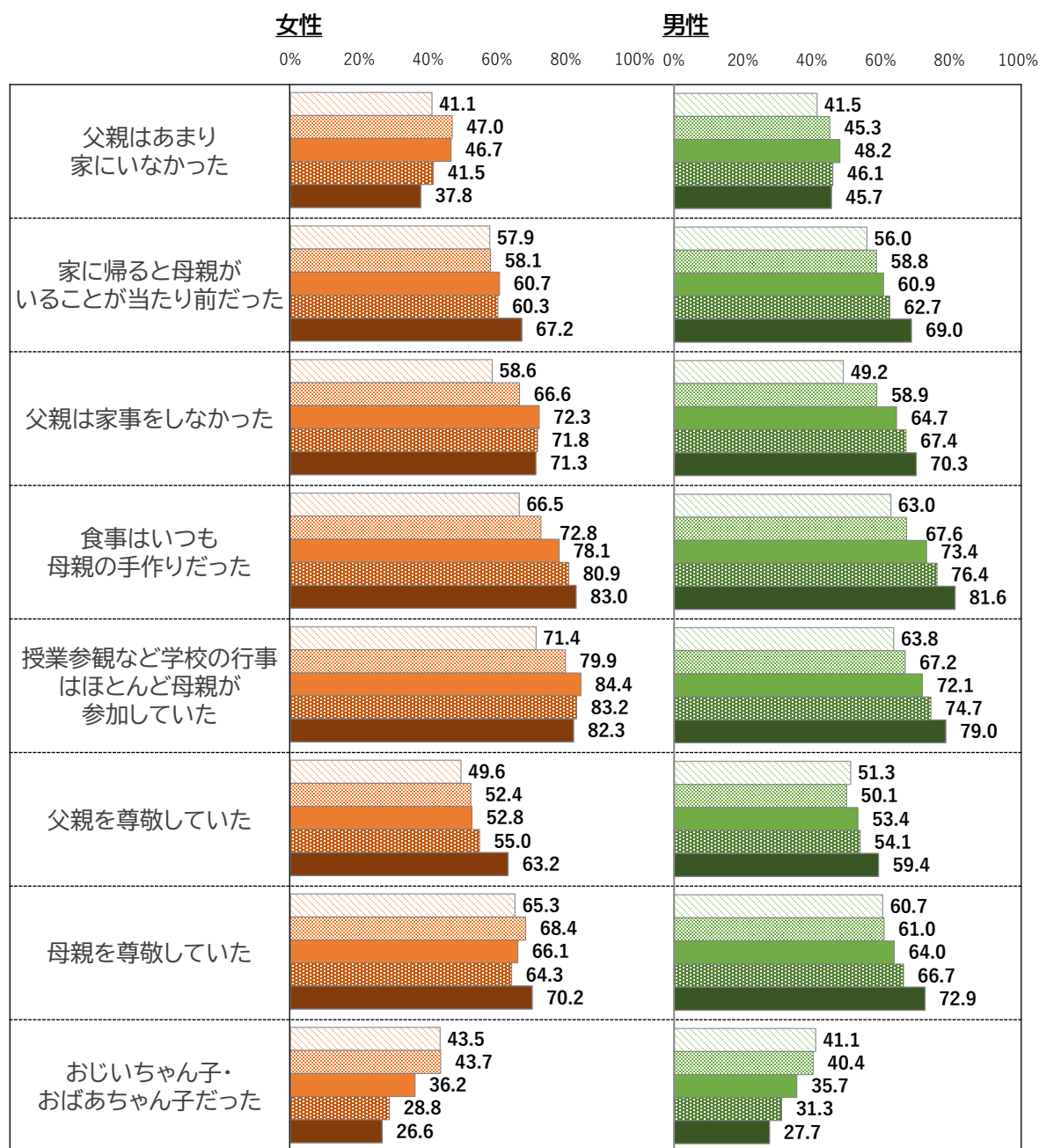
■ 当てはまる
 ■ どちらかといえば当てはまる
 □ どちらかといえば当てはまらない
 ■ 当てはまらない

(1) 自分の父親・母親等との関係について(年代別)

・年代別に見てみると、男女ともに若いほど「おじいちゃん子・おばあちゃん子だった」が高く、上の年代になるほど「父親は家事をしなかった」「食事はいつも母親の手作りだった」「父親を尊敬していた」が高い。また女性では上の年代になるほど「父親を尊敬していた」が高く、男性では上の年代になるほど「家に帰ると母親がいることが当たり前だった」「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」「母親を尊敬していた」が高い。

・同年代の男女で比較すると、20代では「父親は家事をしなかった」で女性の方が10%ポイント近く高く、30-40代では「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」で女性の方が10%ポイント以上高い。

(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値を掲載)
※「答えられない」と回答した人は除外して集計



※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計対象のnが異なる。

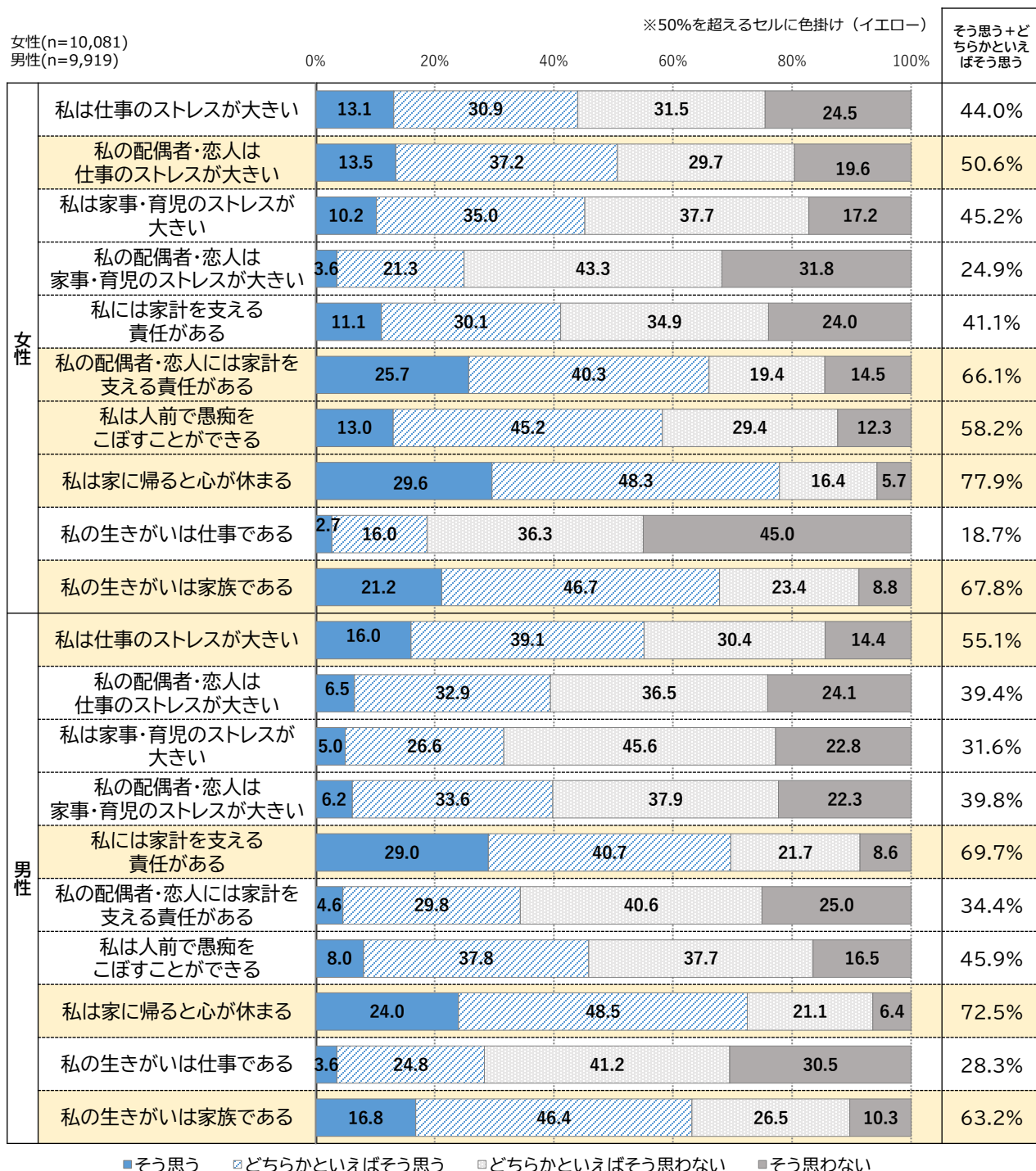
□ 女性/20代(n=1,532) □ 女性/30代(n=1,811)
■ 女性/40代(n=2,393) ■ 女性/50代(n=2,205)
■ 女性/60代(n=2,140)

□ 男性/20代(n=1,545) □ 男性/30代(n=1,809)
■ 男性/40代(n=2,389) ■ 男性/50代(n=2,159)
■ 男性/60代(n=2,017)

(2) ストレスや責任などについての考え方

・「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値が50%を超える項目についてみると、男女ともに「私は家に帰ると心が休まる」7割強、「私の生きがいは家族である」6割強となっている。女性でのみ50%を超える項目は、「私の配偶者・恋人には家計を支える責任がある」66.1%、「私は人前で愚痴をこぼすことができる」58.2%、「私の配偶者・恋人は仕事のストレスが大きい」50.6%。男性でのみ50%を超える項目は、「私には家計を支える責任がある」69.7%、「私は仕事のストレスが大きい」55.1%。

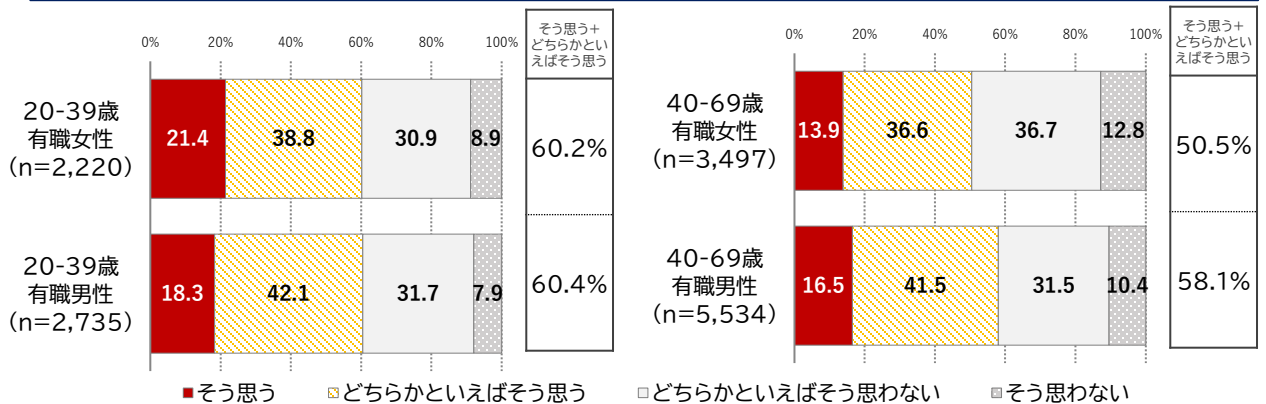
・男女で差がある項目についてみると、「私の配偶者・恋人は仕事のストレスが大きい」「私は家事・育児のストレスが大きい」「私の配偶者・恋人には家計を支える責任がある」「私は人前で愚痴をこぼすことができる」は女性の方が10%ポイント以上高い。一方、「私は仕事のストレスが大きい」「私の配偶者・恋人は家事・育児のストレスが大きい」「私には家計を支える責任がある」は男性の方が10%ポイント以上高い。



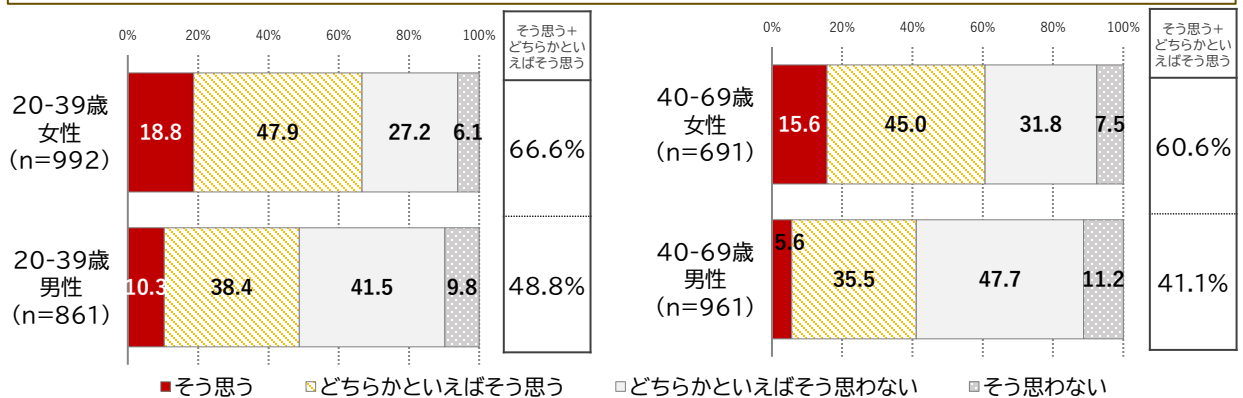
(2) 自分のストレスや責任などについての考え方(年代別)

- ・年代別に有職者における「仕事のストレス」について比較してみると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、20-39歳では男女とも6割と同程度。40-69歳では女性50.5%、男性58.1%。
- ・配偶者と小学生以下の子供と同居している人の「家事・育児のストレス」を比較してみると、20-39歳においては、女性で66.6%、男性48.8%と、15%ポイント以上女性の方が高い。40-69歳では、女性は60.6%、男性は41.1%と、上の年代でも15%ポイント以上女性の方が高い。
- ・有配偶における「家計を支える責任」について比較してみると、20-39歳においては、女性で41.9%、男性で75.2%と、男性の方が30%ポイント以上高い。40-69歳では、女性は33.8%、男性で79.0%と、男性の方が40%ポイント以上高い。

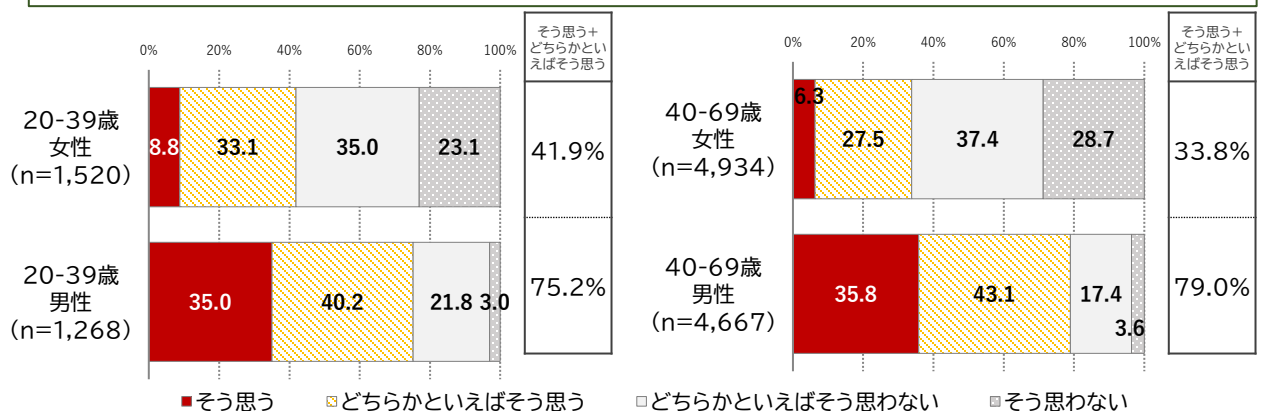
私は仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



私は家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



私には家計を支える責任がある ※有配偶が対象

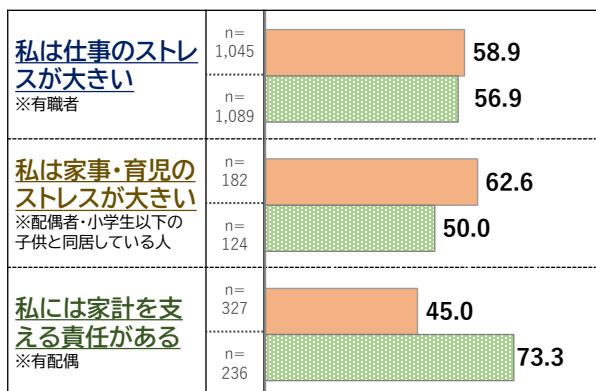


(2) 自分のストレスや責任などについての考え方(年代別)

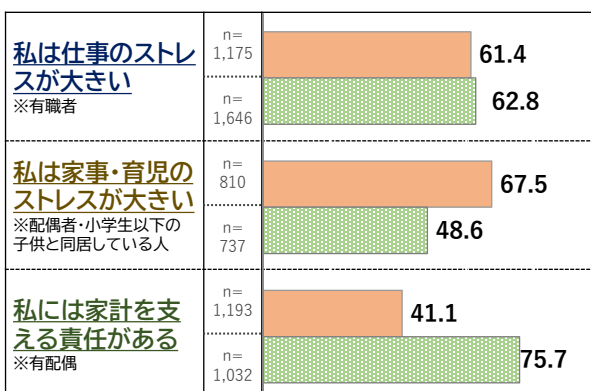
- 年代別にみると、仕事のストレスについては、20代・30代では男女ともに6割で同程度となっているが、40代・50代では男性の方が10%ポイント程度ストレスが大きいと感じる人が多くなる。60代は男女ともに4割であり、全年代で最も割合が小さい。
- 家事・育児のストレスについては、どの年代でも女性の方が男性よりも10%ポイント以上ストレスを感じる人が多いが、男女差は20代で10%ポイント程度、30代～40代で20%ポイント弱、50代で30ポイント%弱と、年代が上がるほど男女差が大きい。
- 家計を支える責任については、男性ではどの年代でも75%～80%程度であるが、女性では20代で45.0%と最も高く、60代では29.6%と、上の年代になるほど低くなる。それに伴い、男女差も上の年代になるほど大きくなる。

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載)

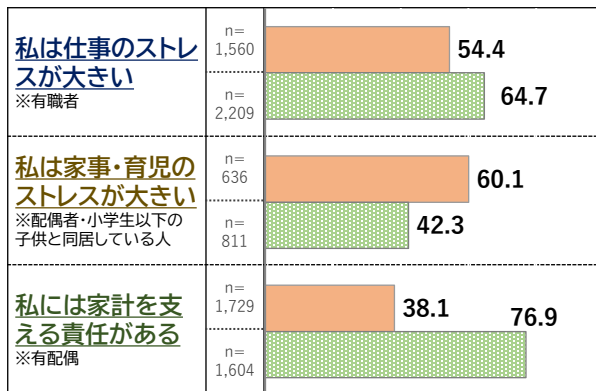
20代



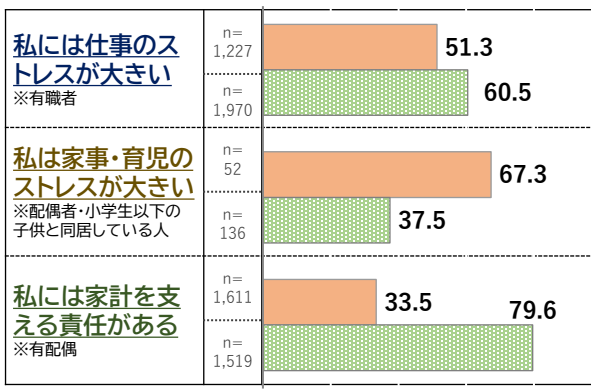
30代



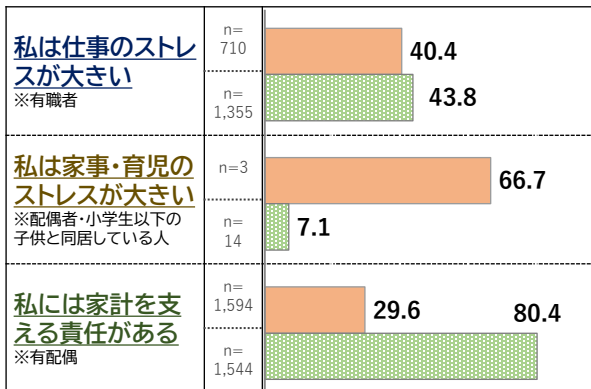
40代



50代



60代

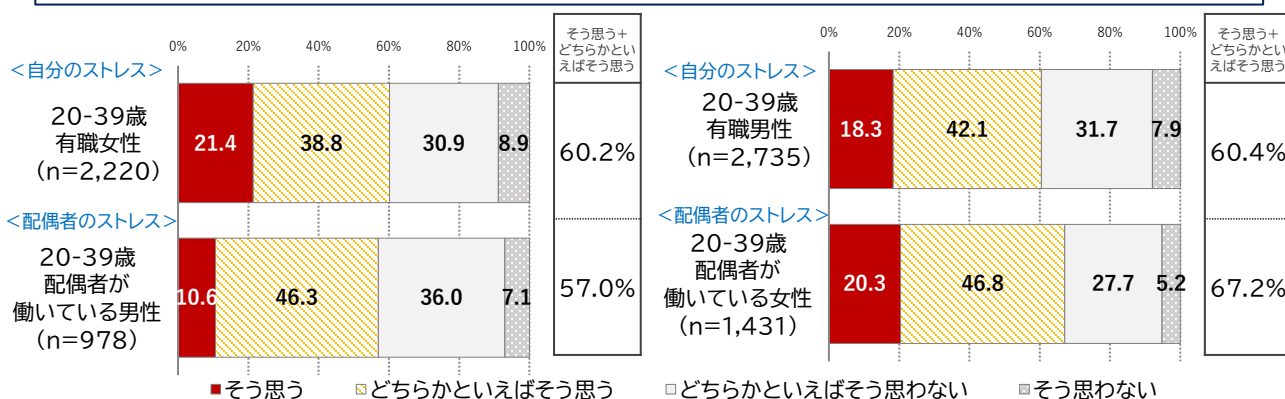


(3) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(20-39歳)

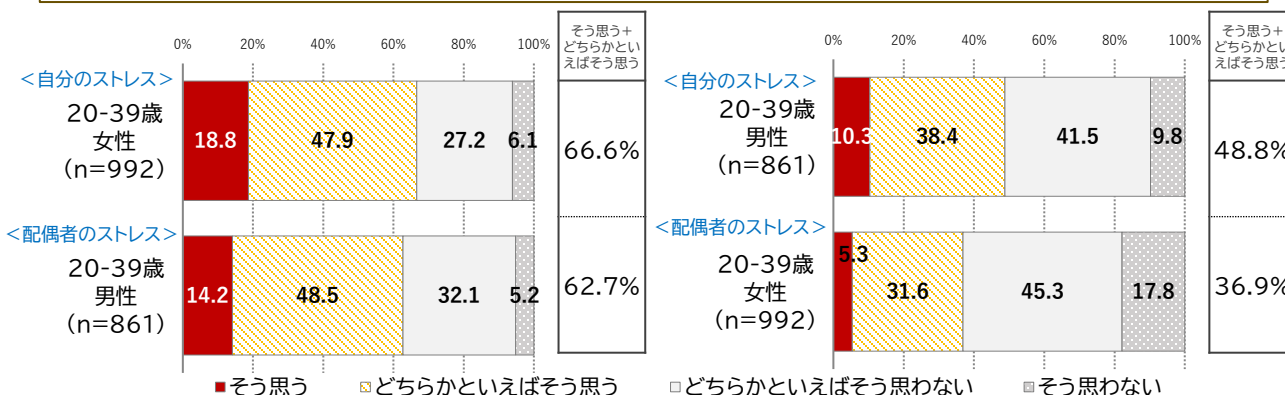
- ・20-39歳において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレスは60.2%、男性が配偶者に対して考えるストレスは57.0%と同程度。男性のストレスは60.4%、女性が配偶者に対して考えるストレスは67.2%となっている。
- ・家事・育児のストレスについては、女性が感じるストレスは66.6%、男性が配偶者に対して考えるストレスは62.7%。男性が感じるストレスは48.8%、女性が配偶者に対して考えるストレスは36.9%となっている。
- ・家計を支える責任については、女性が考える自分の責任は41.9%、男性が配偶者に対して考える責任は47.6%。男性の考える自分の責任は75.2%、女性が配偶者に対して考える責任は79.1%となっている。

20-39歳

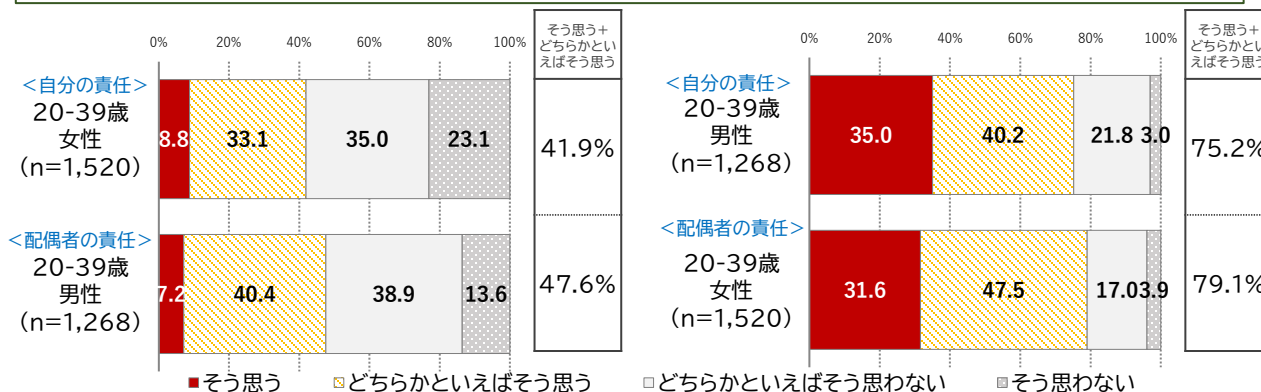
仕事のストレスが大きい



家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



家計を支える責任がある ※有配偶が対象



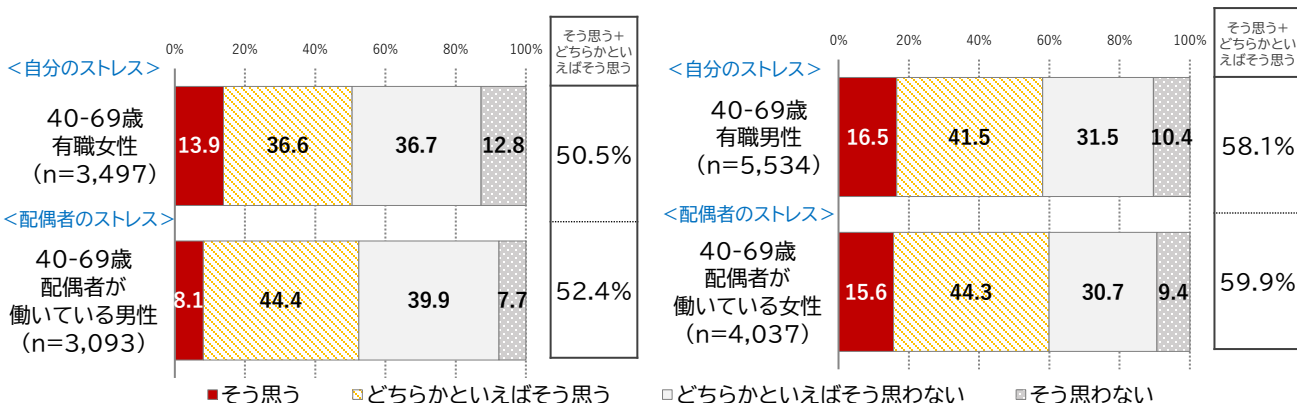
※カップル調査ではないことに留意。

(3) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(40-69歳)

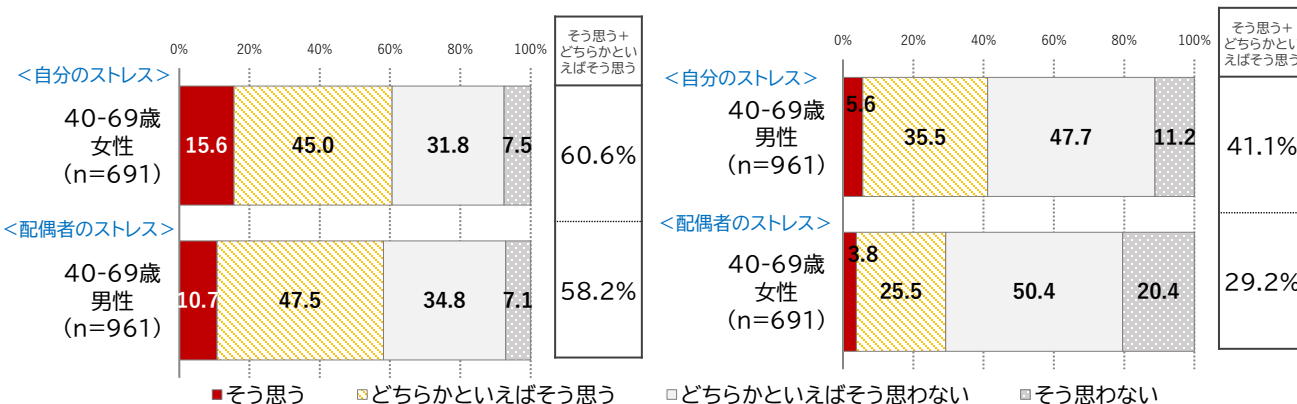
- ・40-69歳において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと」考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレスは50.5%、男性が配偶者に対して考えるストレスは52.4%は同程度。男性が感じるストレスは58.1%、女性が配偶者に対して考えるストレスは59.9%と同程度。
- ・家事・育児のストレスについては、女性が感じるストレスは60.6%、男性が配偶者に対して考えるストレスは58.2%。男性が感じるストレスは41.1%、女性が配偶者に対して考えるストレスは29.2%となっている。
- ・家計を支える責任については、女性が考える自分の責任は33.8%、男性が考える配偶者の責任は35.7%、男性の考える自分の責任は79.0%、女性が考える配偶者の責任は81.1%と、どちらも同程度となった。

40-69歳

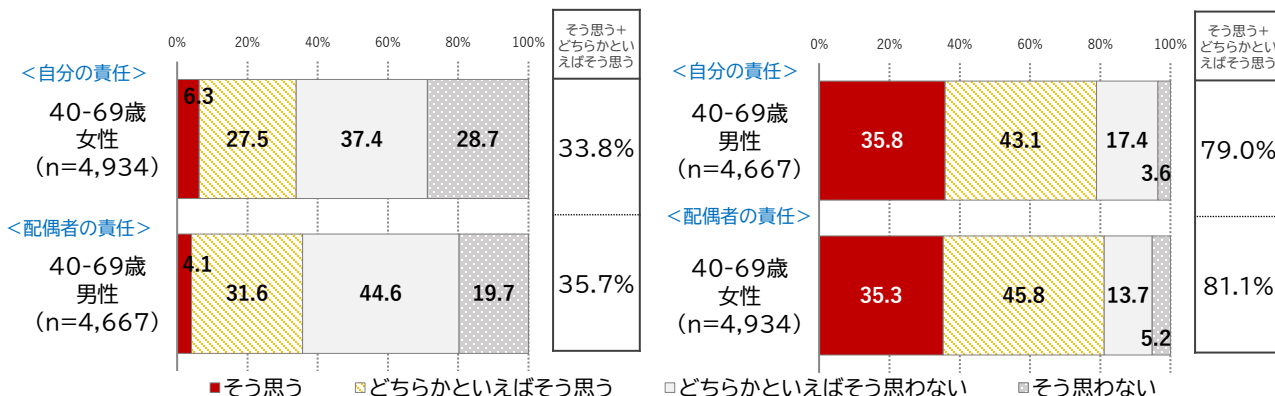
仕事のストレスが大きい



家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



家計を支える責任がある ※有配偶が対象

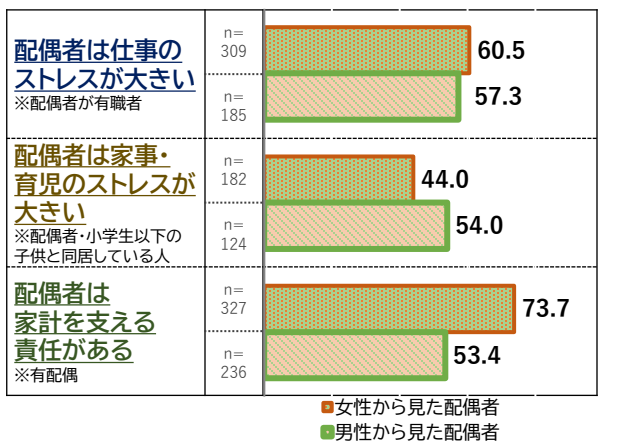


※カップル調査ではないことに留意。

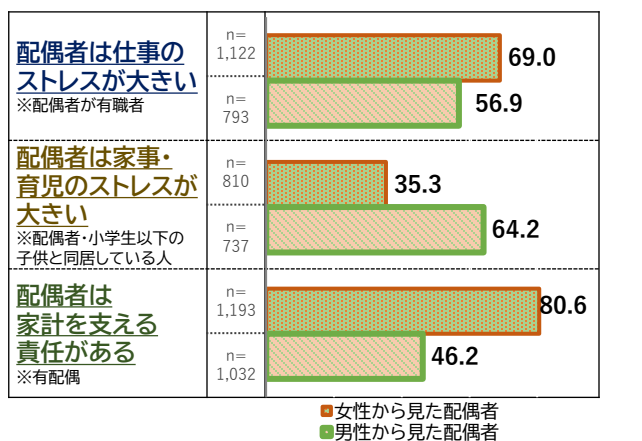
(3) 配偶者のストレスや責任などについての考え方(年代別)

- ・年代別に見てみると、配偶者の仕事のストレスについては、20代と60代では、男女ともに配偶者のストレスが大きいと考える割合が同程度。一方、30～50代については、女性の方が配偶者のストレスが大きいと考える割合が10%ポイント程度高い。
- ・家事・育児のストレスについては、60代を除く全ての年代で男性の方が配偶者のストレスが大きいと考える割合の方が高いが、20代ではその差が最も小さく、10%ポイント程度。
- ・家計を支える責任については、女性30代以上では「配偶者に対して考える責任」は8割となっている。一方、男性の「配偶者は家計を支える責任がある」と考える割合は若い年代ほど高く、20代男性では53.4%となっている。それに伴い、配偶者に責任があると考える割合は、上の年代になるほど男女差が大きくなり、男性の方が高くなる。

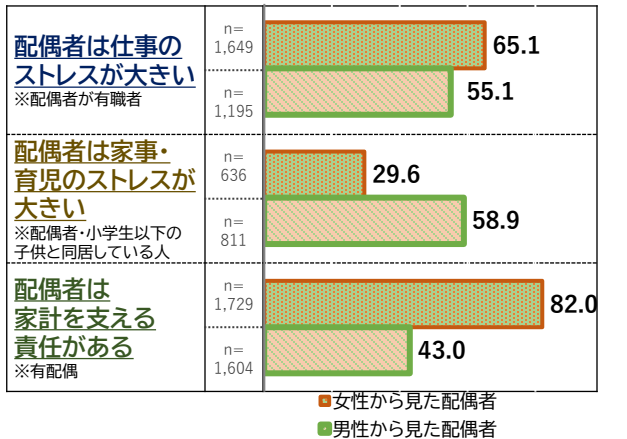
20代



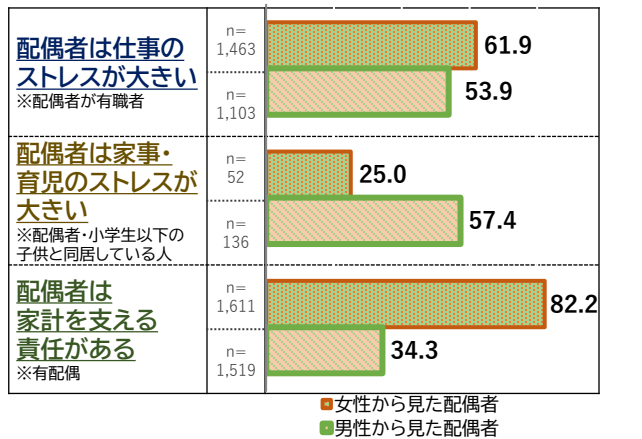
30代



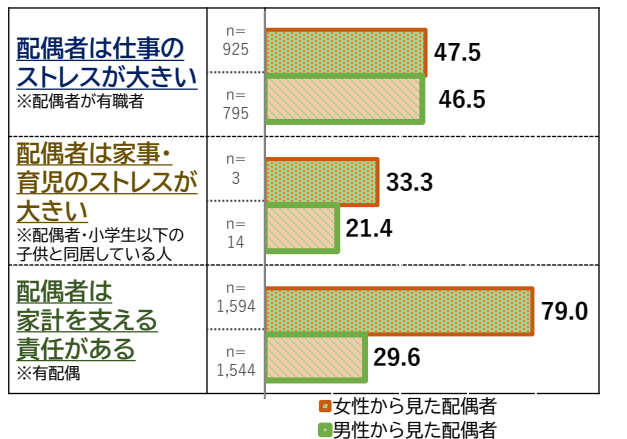
40代



50代



60代



調査結果まとめ

◆ストレスや責任などについての考え方

- 1 仕事のストレスが大きいと感じる割合は、**20-30代では男女ともに6割**。40-50代では、**男性の方がストレスが大きい**。60代では男女ともに4割で、最もストレスが小さい。
- 2 家事・育児のストレスが大きいと感じる割合は、**全ての年代で女性の方が高いが**、上の年代になるほど男女差が大きい。
- 3 家計を支える責任は、男性では全ての年代で75~80%程度。女性では**若い年代ほど高いが、20代でも45%程度であり、男女差が大きい**。

※ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載

ストレスや責任などについての考え方（自分）	20代		30代		40代		50代		60代	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
私は仕事のストレスが大きい <small>※有職者</small>	58.9%	56.9%	61.4%	62.8%	54.4%	64.7%	51.3%	60.5%	40.4%	43.8%
私は家事・育児のストレスが大きい <small>※配偶者・小学生以下の子供と同居している人</small>	62.6%	50.0%	67.5%	48.6%	60.1%	42.3%	67.3%	37.5%		
私には家計を支える責任がある <small>※有配偶</small>	45.0%	73.3%	41.1%	75.7%	38.1%	76.9	33.5%	79.6%	29.6%	80.4%

※家事・育児のストレスについて、60代は対象者が少ないため省略。

◆自分と配偶者に対するストレスや責任などについての考え方

- 1 仕事のストレスは、**男女ともに自分のストレスが大きい**と考える割合と、**配偶者が考えるストレスについて10%ポイント以上の差はなく**、どちらの年代でも同様の傾向。
- 2 家事・育児のストレスは、**男性が自分のストレスが大きいと考える割合と、女性が配偶者のストレスが大きいと考える割合**において、どちらの年代でも10%ポイント以上差がある。
- 3 家計を支える責任は、男女・どちらの年代でも、**自分に責任があると考える割合・配偶者に責任があると考える割合について大きな差はない**。

ストレスや責任などについての考え方	20-39歳				40-69歳			
	女性（自分）	男性から見た配偶者	男性（自分）	女性から見た配偶者	女性（自分）	男性から見た配偶者	男性（自分）	女性から見た配偶者
仕事のストレスが大きい <small>※有職者</small>	60.2%	57.0%	60.4%	67.2%	50.5%	52.4%	58.1%	59.9%
家事・育児のストレスが大きい <small>※配偶者・小学生以下の子供と同居している人</small>	66.6%	62.7%	48.8%	36.9%	60.6%	58.2%	41.1%	29.2%
家計を支える責任がある <small>※有配偶</small>	41.9%	47.6%	75.2%	79.1%	33.8%	35.7%	79.0%	81.1%

※ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載

第3章 分析視点別結果

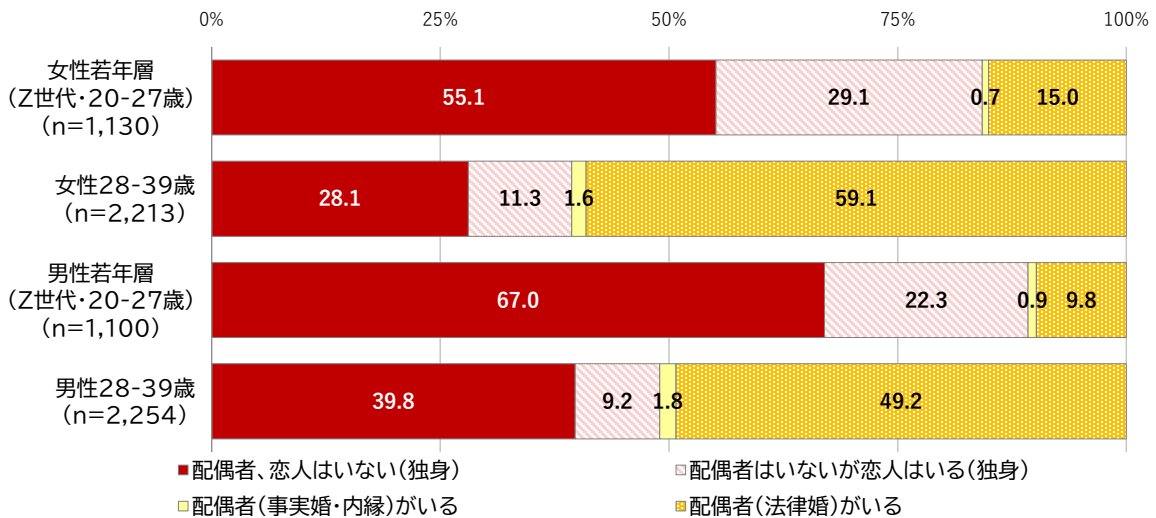
1. 若年層を取り巻く状況

※若年層(Z世代)=20歳~27歳を対象としている

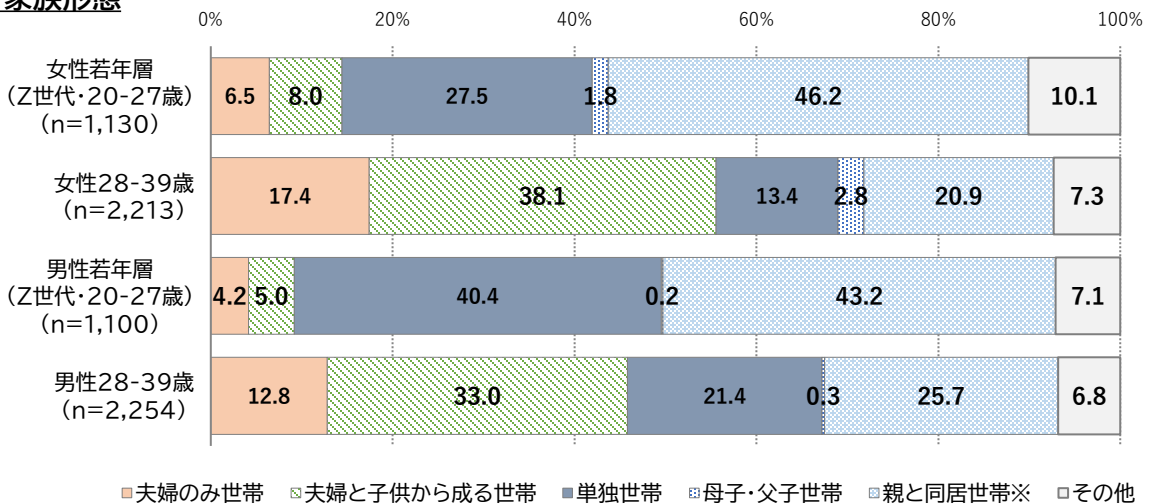
(1) 若年層(Z世代)の基本属性情報

- ・調査時点で、20歳~27歳を「若年層(Z世代)」と定義して、傾向を分析する。
- ・配偶者等の状況についてみると、「女性若年層」では「配偶者、恋人はいない(独身)」が55.1%と最も高く、次に「配偶者はいないが恋人はいる(独身)」が29.1%、「配偶者(法律婚)がいる」が15%となっている。「男性若年層」でも同様に、「配偶者、恋人はいない(独身)」が最も高く67.0%。「配偶者はいないが恋人はいる(独身)」が22.3%。「配偶者(法律婚)がいる」は9.8%となっている。
- ・家族形態についてみると、「女性若年層」では「親と同居世帯」が46.2%と最も高く、次に「単独世帯」が27.5%と続く。「男性若年層」では「親と同居世帯」が43.2%、「単独世帯」が40.4%と同程度となっている。

◆現在の配偶者等の状況



◆家族形態



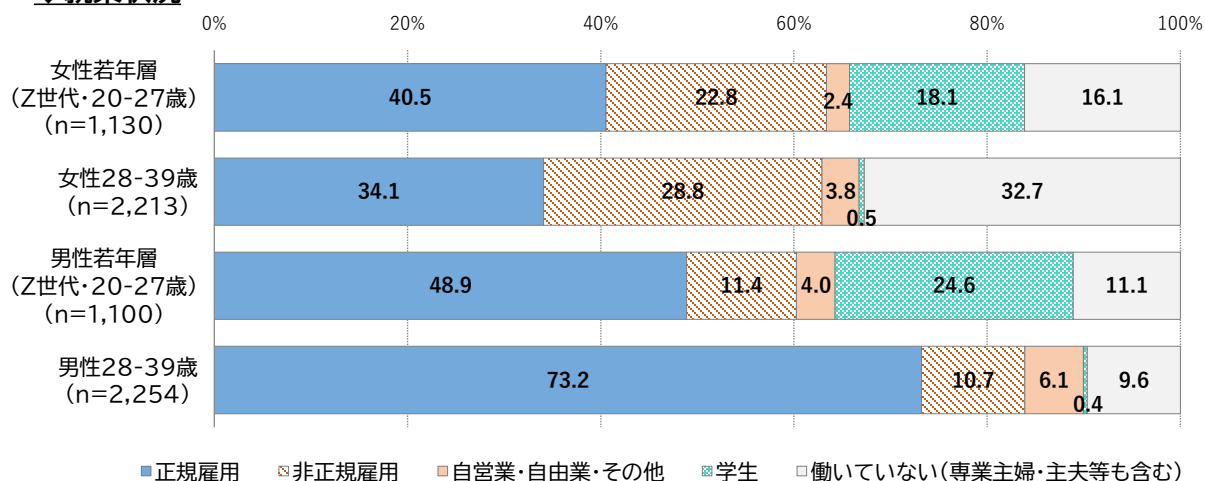
※「親と同居世帯」…自分と親の組み合わせで同居しており、かつ、配偶者・子供・孫と同居していない世帯

(2) 就業状況と個人年収

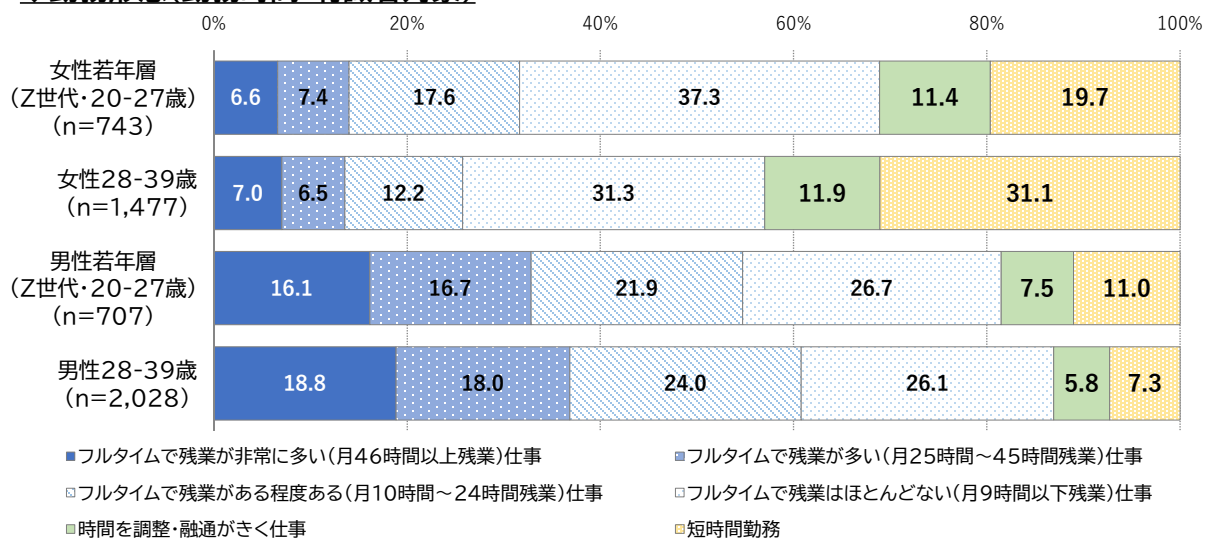
・現在の就業状況についてみると、「女性若年層」では「正規雇用」40.5%、「非正規雇用」22.8%、「学生」18.1%。「男性若年層」では「正規雇用」48.9%、「非正規雇用」11.4%、「学生」24.6%。男女で比較すると、女性の方が「非正規雇用」が10%ポイント以上高く、「正規雇用」「学生」は男性の方が高い。

・有職者における勤務形態(勤務時間)についてみると、「女性若年層」では「フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事」が37.3%と最も高い。一方、「男性若年層」でも「フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事」が26.7%と最も高いが、「フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事」が16.1%、「フルタイムで残業が多い(月25～45時間残業)仕事」も16.7%と、「女性若年層」と比べると、残業時間が長い傾向がある。また「28-39歳」と比較すると、女性においては「若年層」の方が「フルタイム」の割合が高く、「28-39歳」の方が「短時間勤務」の割合が高くなる。男性では、女性ほどの差異は見られない。

◆就業状況

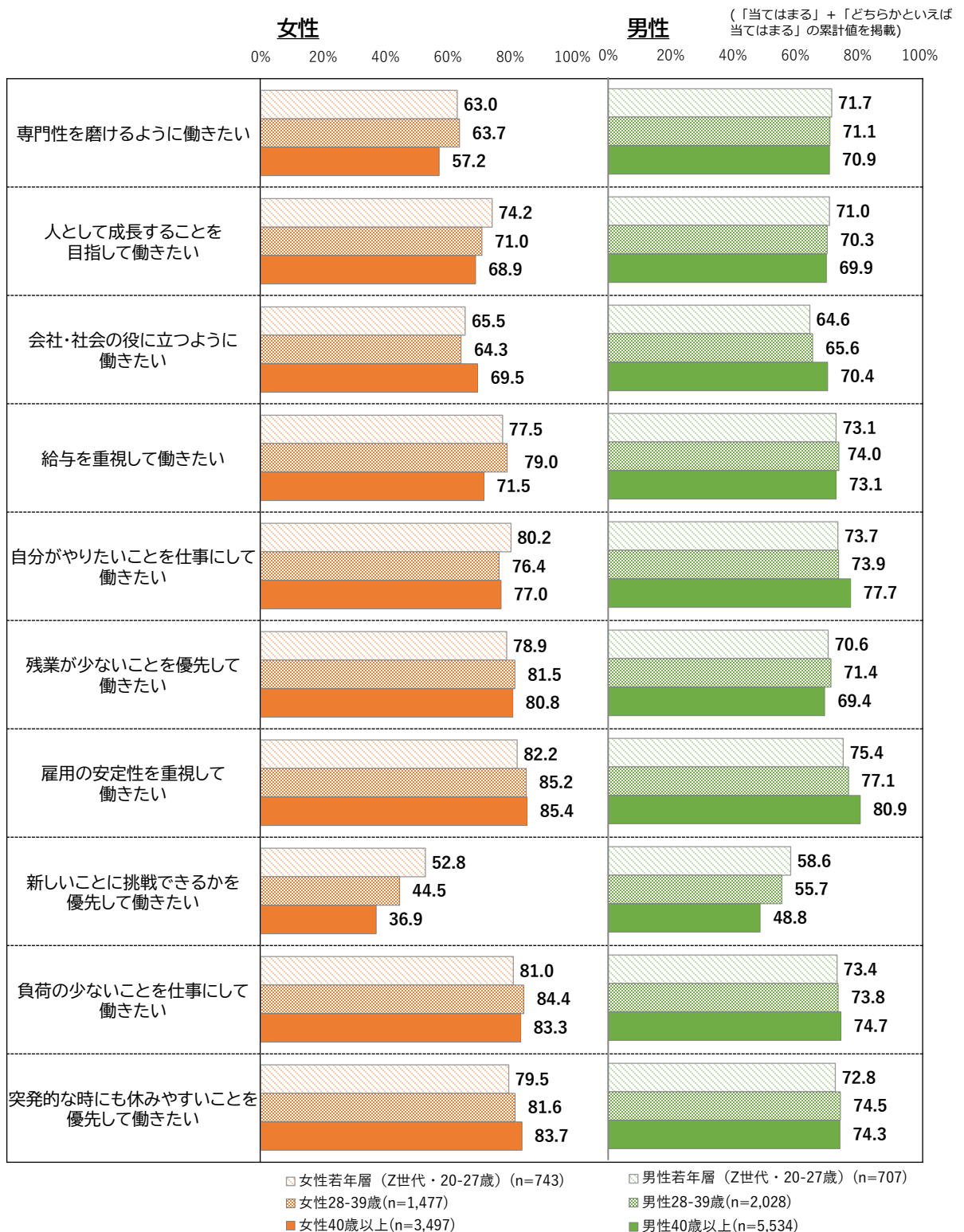


◆勤務形態(勤務時間・有職者対象)



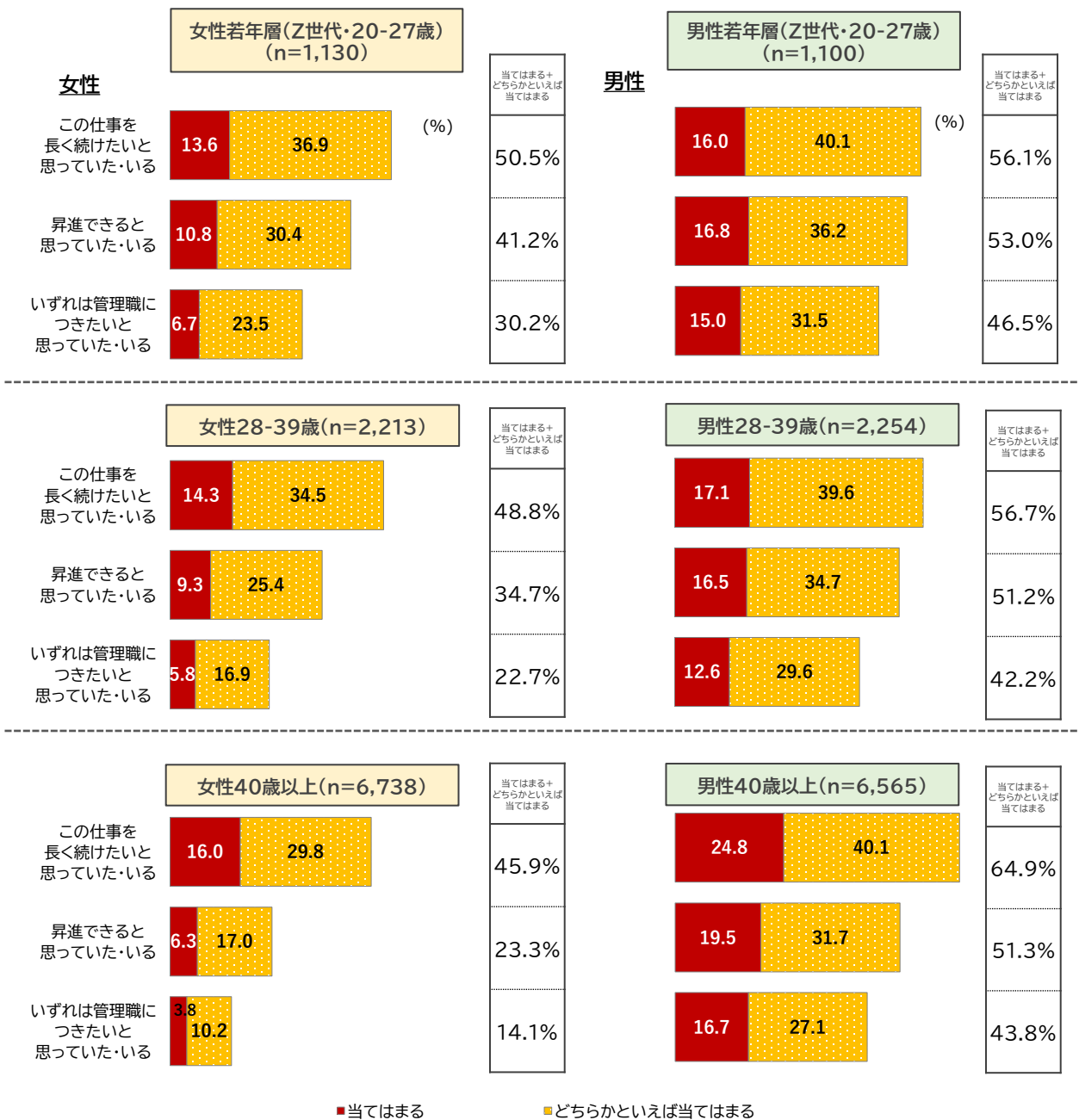
(3) 仕事・働くことに対する現在の考え方(有職者対象)

・年代別に見てみると、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」が高く、「女性若年層」では52.8%、「男性若年層」では58.6%となっている。また、この項目について、男女差が最も小さいのが「若年層」となっており、上の年代になると男性の方が女性よりも10%ポイント以上高くなる。



(4)「仕事での昇進」 20代時点での考え方

- ・年代別にみると女性は、「長く続けたい」「昇進できる」「いずれは管理職」の全項目で「若年層」で割合が高く、特に「昇進できる」は41.2%、「いずれは管理職」は30.2%と、「28-39歳」と比べて5%ポイント以上高い。
- ・男性は、「昇進できる」「いずれは管理職」については、年代差はあまりない。一方、「長く続けたい」は、「40歳以上」で下の年代よりも8%ポイント程度高い。
- ・男女差は「40歳以上」で最も大きく、「昇進できる」「いずれは管理職」は男性の方が30%ポイント近く高い。また、その差は若い年代ほど小さく、「若年層」では「昇進できる」「いずれは管理職」について、男女差は10%ポイント程度となる。

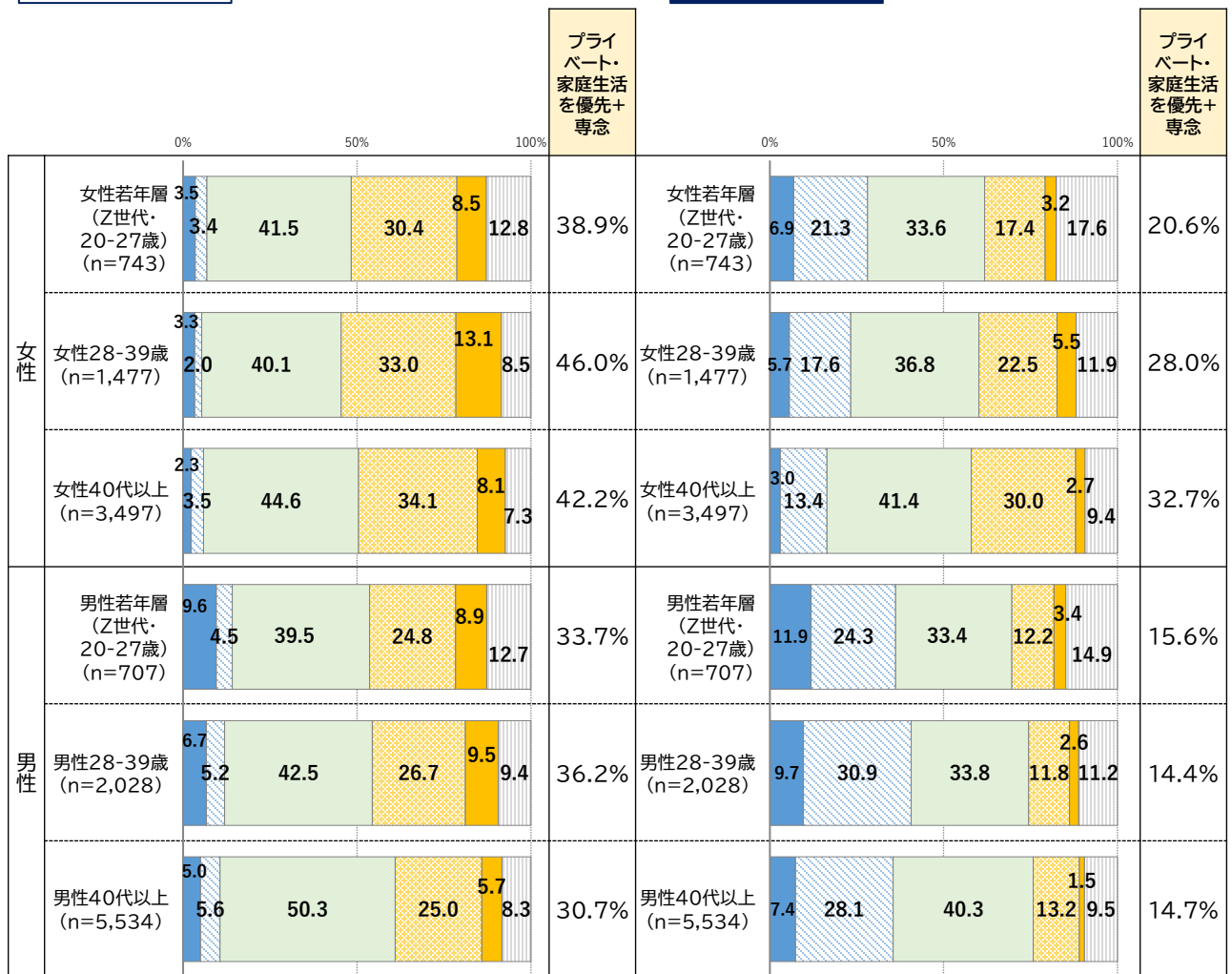


(5) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有識者が対象)

- ・男女ともに、全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高い。また全ての年代で「理想」に比べて「現実」の方が、「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・「理想」においては、女性では年代による差はあまり大きくない。男性では、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」は、上の年代ほど高い。一方、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の男女差を見てみると、「若年層」ではその差は10%ポイント以内となっているが、「28-39歳」「40歳以上」では、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント程度高くなっている。
- ・「現実」においては、女性では若い年代ほど「仕事に専念+優先」が高く、上の年代ほど「プライベート・家庭生活を優先」が高くなっている。「女性若年層」では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」20.6%よりも、「仕事を優先+専念」28.1%の方が高い。男性では、年代による差はあまり大きくない。
- ・「現実」について男女で比較すると、「若年層」については、男女差が最も小さい。「28-39歳」では女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」が10%ポイント以上高くなり、「40歳以上」ではその差は20%ポイント近くまで広がる。

①理想

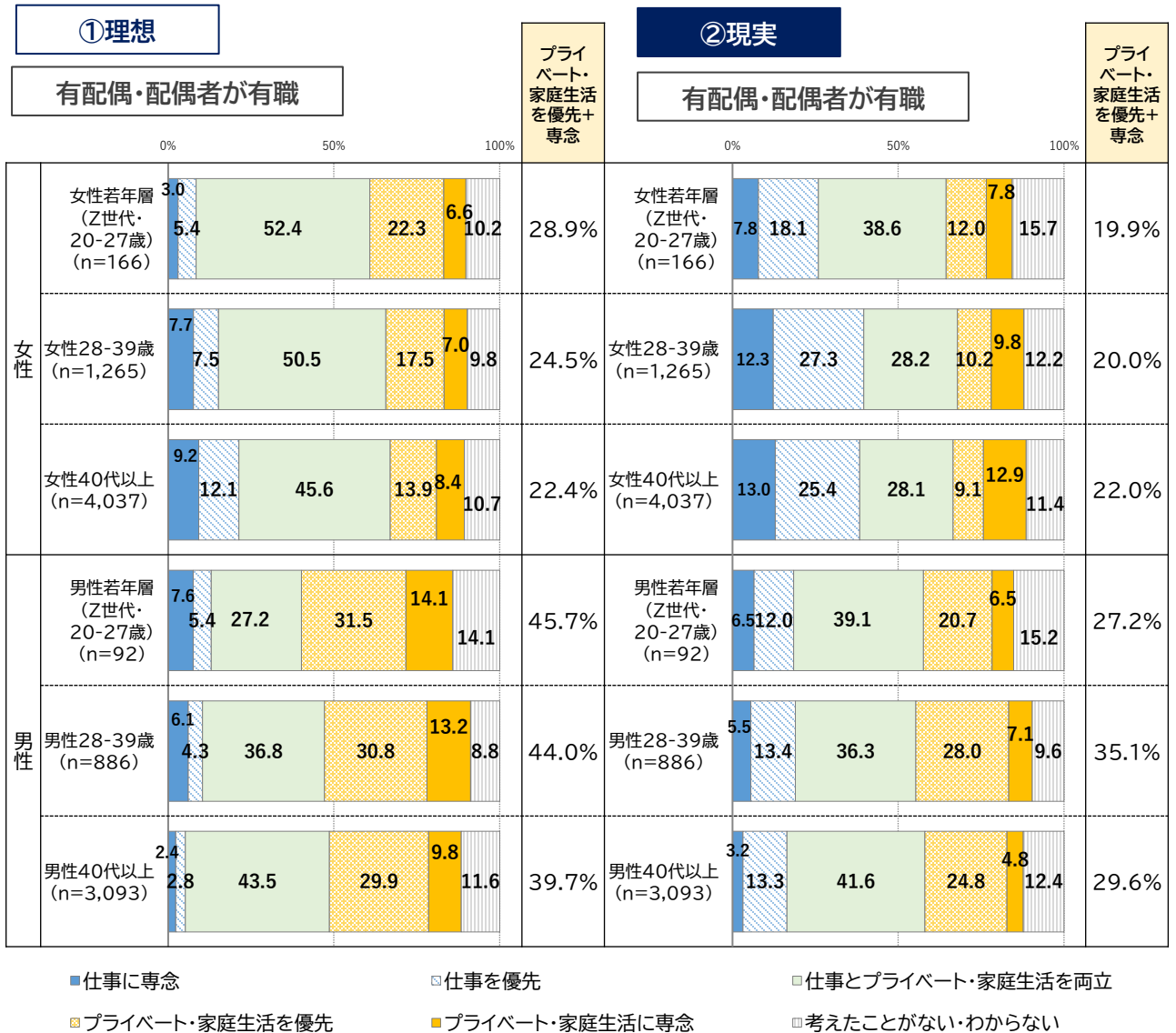
②現実



- 仕事に専念
- プライベート・家庭生活を優先
- 仕事を優先
- プライベート・家庭生活に専念
- 仕事とプライベート・家庭生活を両立
- 考えたことがない・わからない

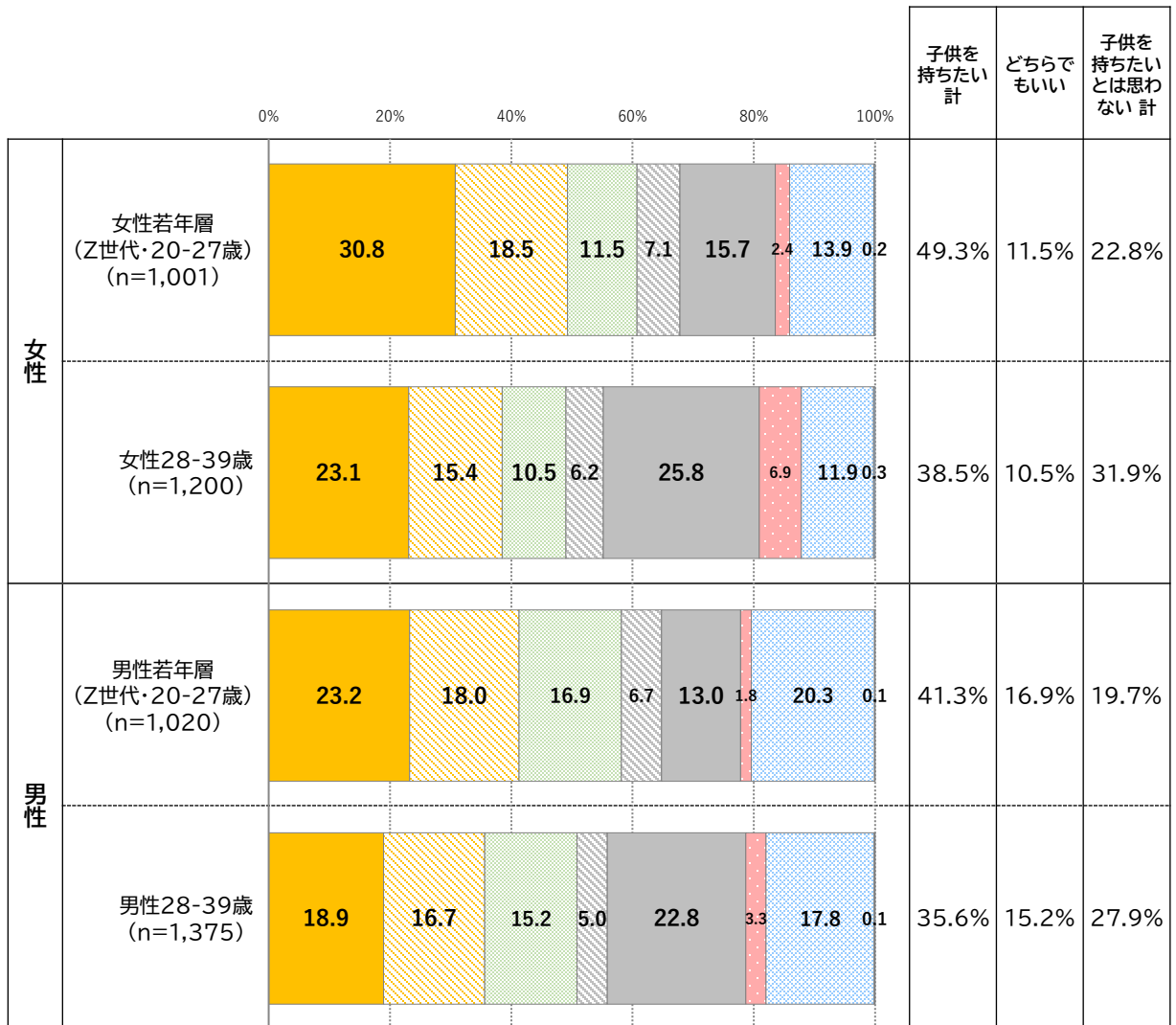
(6) 配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者対象)

- ・配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランスについてみると、「理想」に比べて「現実」では、男女ともに全ての年代で「仕事に専念+優先」の割合が高い。
- ・「理想」においては、女性では全ての年代で「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高いが、「プライベート・家庭生活を優先+専念」は若い年代ほど高くなり、「若年層」では28.9%。一方、「仕事に専念+優先」は上の年代ほど高い。男性でも同様に、「プライベート・家庭生活を優先+専念」は若い年代ほど高く、「若年層」では45.7%。一方、「仕事に専念+優先」も、若い年代ほど高い。上の年代ほど「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が高く、「40代以上」では43.5%。
- ・「現実」においては、女性では「仕事に専念+優先」の割合は、「若年層」と「28-39歳」「40代以上」で差があり、「若年層」では25.9%と、上の年代に比べて10%ポイント以上低い。一方「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合は、「若年層」で38.6%と上の年代に比べて10%ポイント以上高い。男性では年代による差はそこまで大きくない。
- ・男女で比較すると、「理想」では「若年層」「28-39歳」においては、女性の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」を望む割合が高く、男性の方が「プライベート・家庭生活を優先」を望む割合が高い。「現実」では、「仕事に専念+優先」の割合が、「若年層」では男女間で差はあまりないが、上の年代では20%ポイント以上「女性」の方が高い。



(7) 今後、子供を持ちたいと思うか(子供を持ったことがない人対象)

- ・女性は、「若年層」では「子供を持ちたい(計)」が49.3%と、「子供を持ちたいと思わない(計)」22.8%を上回る。「28-39歳」と比べると、「子供を持ちたい(計)」は「若年層」の方が10%ポイント高い。
- ・男性は、「若年層」では「子供を持ちたい(計)」が41.3%と、「子供を持ちたいと思わない(計)」19.7%を上回る。「28-39歳」と比べると、「子供を持ちたい(計)」は「若年層」の方が高いが、女性ほどの差はない。



- 子供を持ちたいと思う
- 出来れば子供を持ちたいと思う
- どちらでもいいと思う
- あまり子供を持ちたいとは思わない
- 子供を持ちたいとは思わない
- 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- まだわからない・考えたことがない
- その他

※子供を持ちたい(計) = 子供を持ちたいと思う + 出来れば子供を持ちたいと思う

※子供を持ちたいとは思わない(計) = 子供を持ちたいとは思わない + あまり子供を持ちたいとは思わない

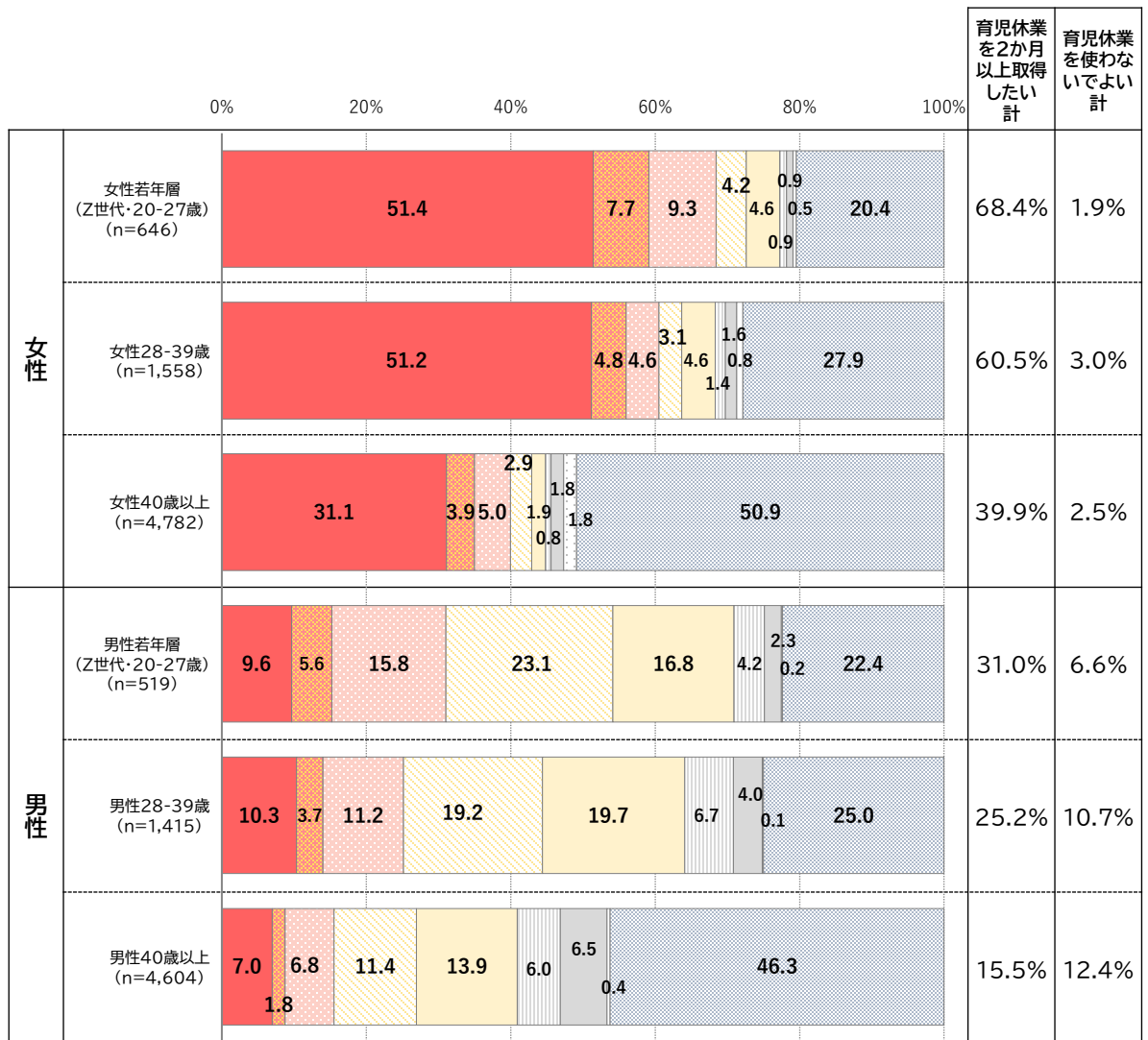
(8) 育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0~3歳の頃)の希望

(子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ったことがないが持ちたい人(妊娠中も含む)が対象)

・女性においては、「若年層」「28-39歳」では「育児休業を半年以上取得したい」が5割で最も高い。一方、40代以上では、「覚えていない・特に希望はない・なかった」が5割と高いが、育児休業取得希望の項目の中では「半年以上取得したい」が最も高い。また、若い年代ほど「2か月以上取得したい」が高く、「若年層」では68.4%となっている。

・男性においては、「若年層」では「育児休業を1か月程度取得したい」が23.1%と最も高く、「28-39歳」では「覚えていない・特に希望はない」が25.0%、育児休業取得希望の項目の中では「育児休業を数日間取得したい」「1か月程度取得したい」がどちらも19%程度となっている。「40歳以上」では「覚えていない・特に希望はない」が46.3%と最も高い。「2か月以上取得したい」計で見ると、若い年代ほど高く、「若年層」では31.0%となっている。

・男女で比較すると、女性では取得希望の期間においては「半年以上」が最も高いが、男性では「若年層」で「1か月程度」、それより上の年代では「数日間」希望が最も高く、差が大きい。



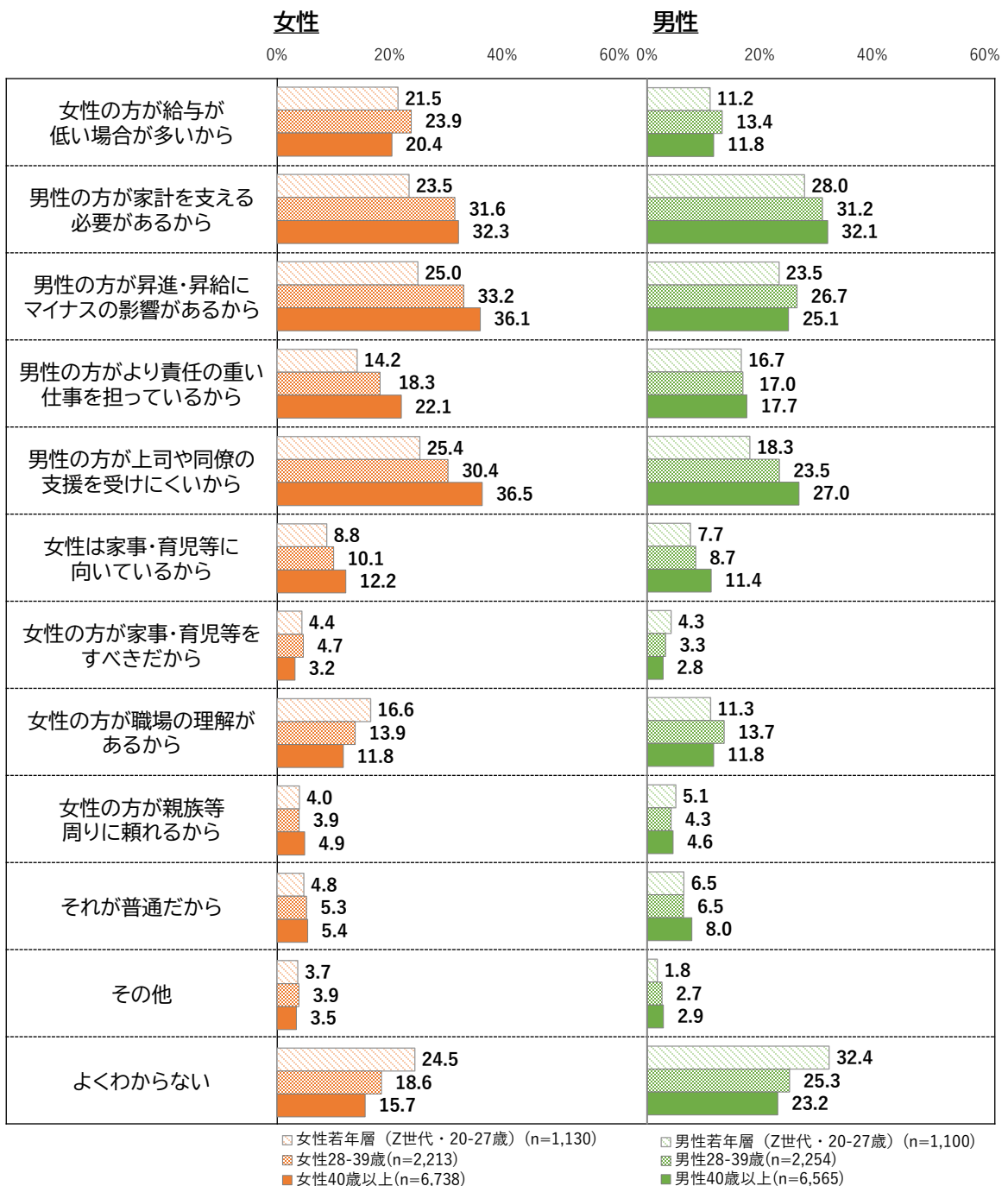
- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

※育児休業を2か月以上取得したい(計) = 育児休業を半年以上取得したい + 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい + 育児休業を2-3か月取得したい
 ※育児休業を使わないでよい(計) = 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい + 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい

(9) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由

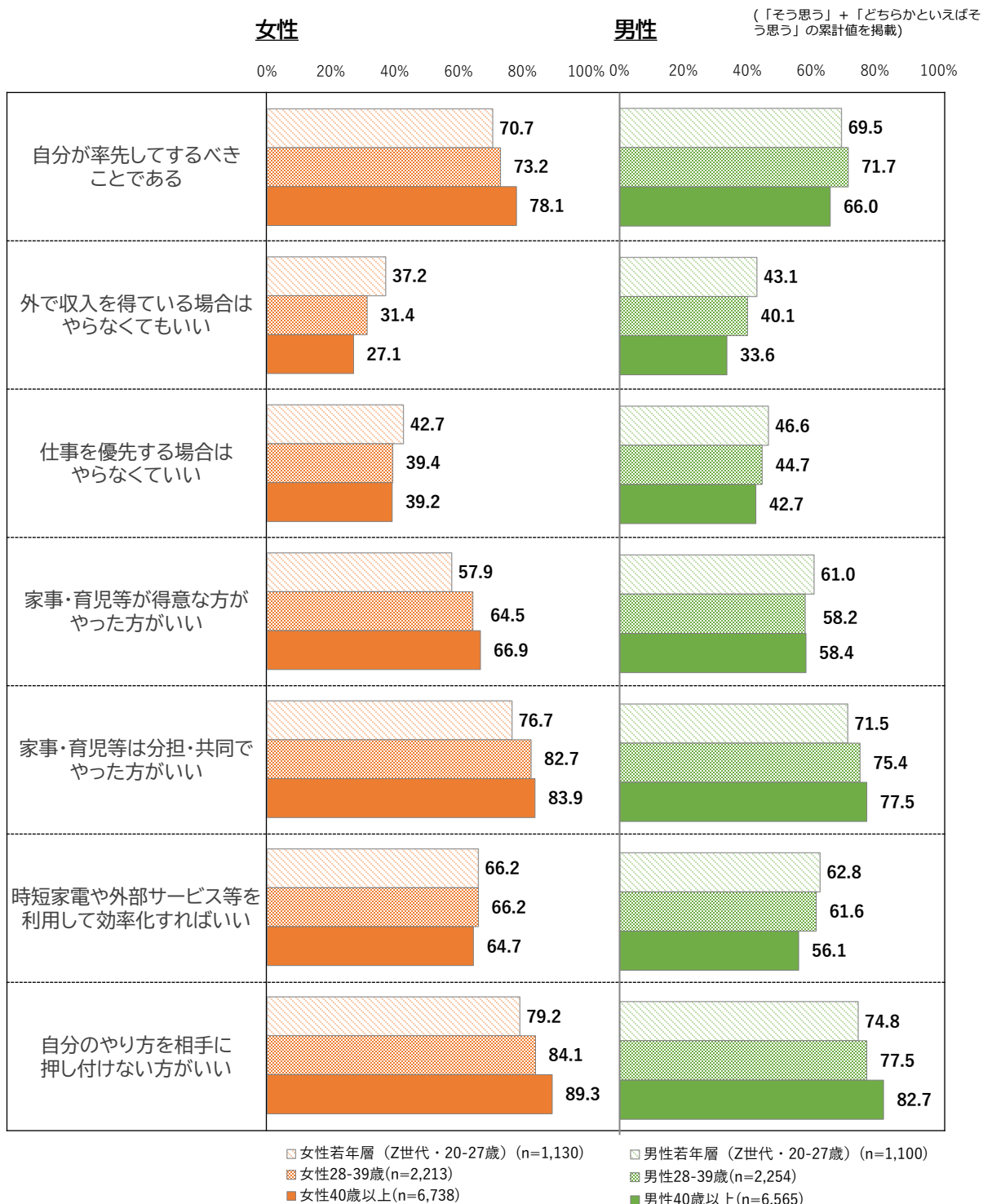
・年代別に見てみると、男女ともに上の年代ほど「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」が高い。また、「男性の方が家計を支える必要があるから」は、女性では「若年層」と「28-39歳」以上でやや差があり、「若年層」の方が低い。また、女性では上の年代ほど「男性の方がより責任の重い仕事を担っているから」「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」等が高くなる。一方、「女性の方が職場の理解があるから」は若い年代ほど高い。

・同年代の男女で比較すると、「女性の方が給与が低い場合が多いから」については、「若年層」「28-39歳」において10%ポイント以上女性の方が高い。「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」は、「40歳以上」では女性で36.1%、男性で25.1%と差が大きいが、若い年代では男女差が小さく、「若年層」では女性で25.0%、男性で23.5%と同程度。



(10) 家事・育児等への考え方

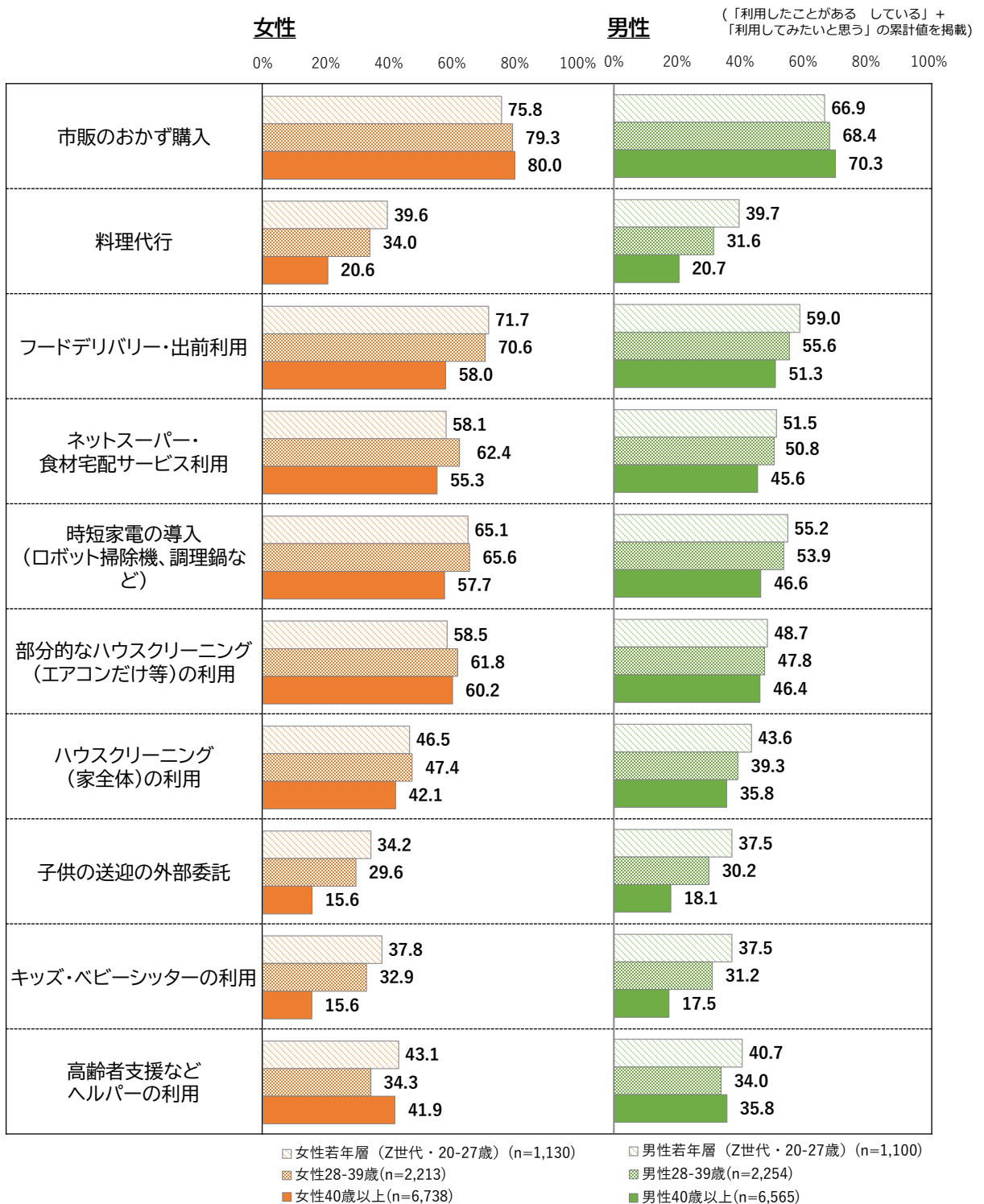
- ・家事・育児等への考え方について「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値で見ると、年代別では、男女ともに若い年代ほど男女差が小さく、「若年層」では男女で10%ポイント以上差がある項目はない。
- ・「自分が率先してすべきことである」は、「40歳以上」では女性の方が10%ポイント以上高いが、「若年層」「28-39歳」では男女差は小さい。また、「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」は、若年層では男女ともに4割程度と高い。「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」は、男性では「若年層」「28-39歳」と「40歳以上」でやや差が見られた。一方、「自分のやり方を相手に押し付けない方がいい」等は、男女ともに上の年代ほど高い。



(11) 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

・家事・育児等に関する外部サービスの利用経験、意向について「利用したことがある・している」+「利用してみたいと思う」の累計値で見ると、年代別では、男女ともに若い年代ほど「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」などが高く、特に「若年層」では「料理代行」が男女ともに40%程度と高く、「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」についても、男女とも35%以上となっている。

・同年代の男女で比較すると、女性の方が高い項目がほとんどだが、「若年層」ではやや男女差が小さい傾向。

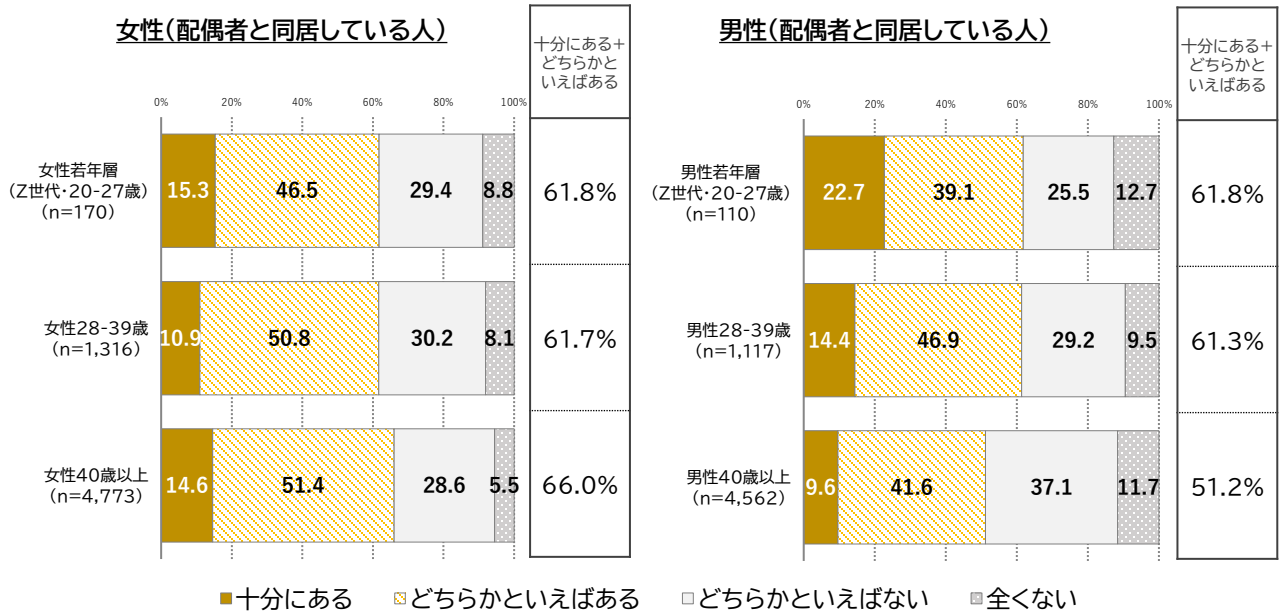


(12) 自分の家事のスキル(能力)と配偶者の実施する家事への満足度 (配偶者と同居している人が対象)

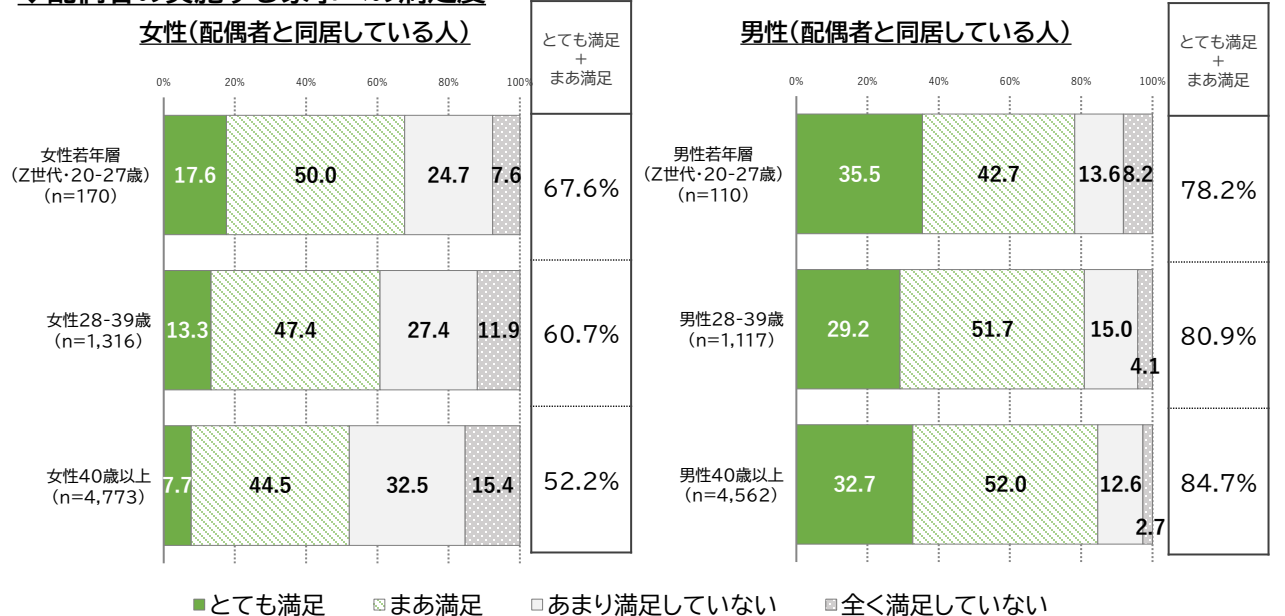
・自分の家事のスキル(能力)について、「十分にある」+「どちらかといえばある」の累計値を見てみると、「若年層」「28-39歳」では、男女ともに61~62%と同程度。一方、「40歳以上」では、女性で66.0%、男性で51.2%と男女で10%ポイント以上差がある。なお、「男性若年層」では、「十分にある」が22.7%と男女全ての年代の中で最も高い。

・配偶者の家事への満足度について、「とても満足+まあ満足」の累計値を見てみると、どの年代でも男性の方が満足度が10%ポイント以上高い。一方、「若年層」では満足度の男女差は10%ポイント程度であるが、「28-39歳」では20%ポイント程度、「40歳以上」では30%ポイント以上と、差が大きくなる。

◆自分の家事のスキル(能力)についての評価



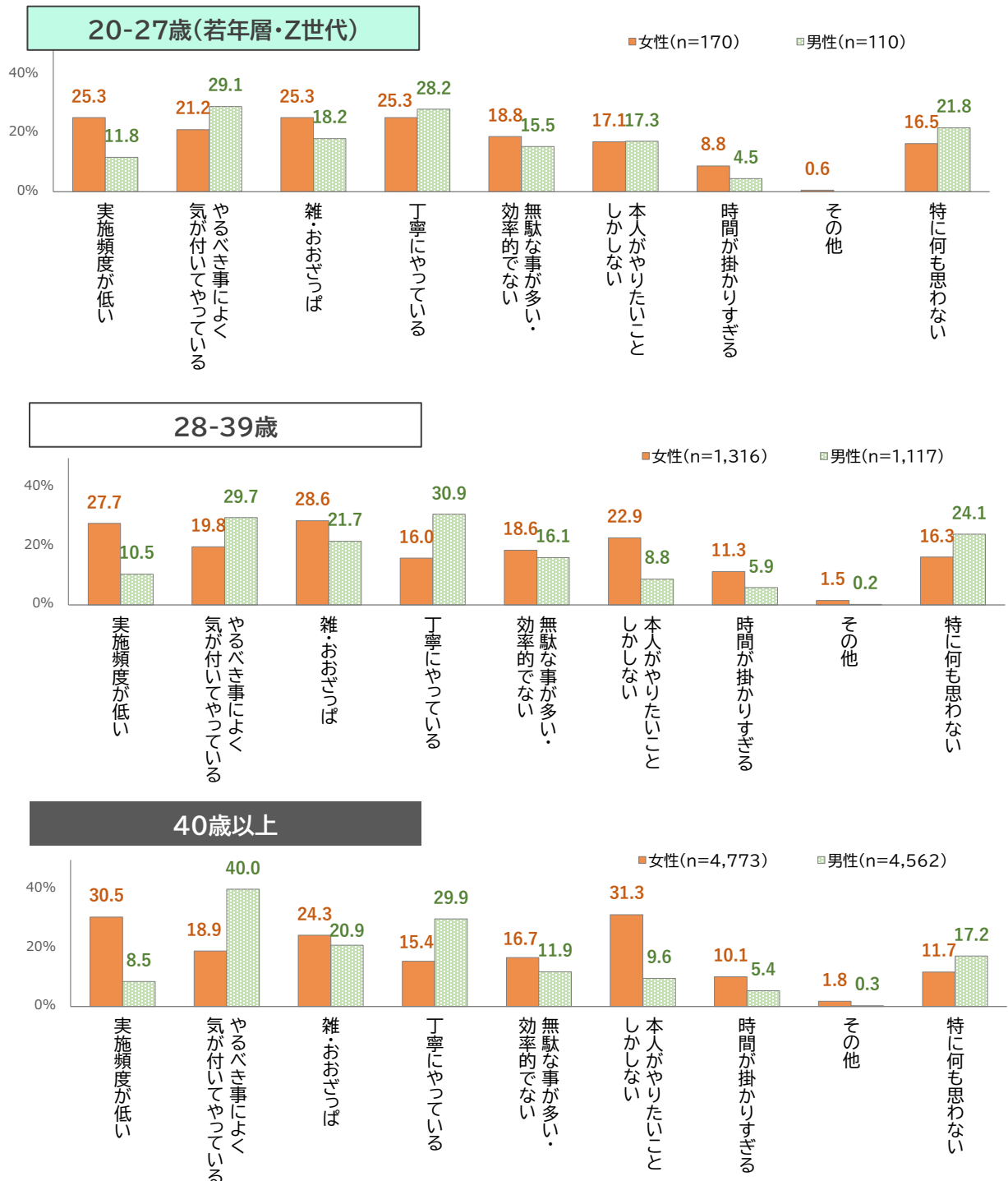
◆配偶者の実施する家事への満足度



(13) 配偶者の実施する家事についてどう感じるか(配偶者と同居している人が対象)

・「若年層」について、男女差が大きい項目をみると「実施頻度が低い」では、女性の方が10%ポイント以上高い。「28-39歳」では、女性の方が「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかやらない」が高く、男性の方が「やるべき事によく気が付いてやっている」「丁寧に行っている」が高い。「40歳以上」でも、「28-39歳」と同様の傾向である。

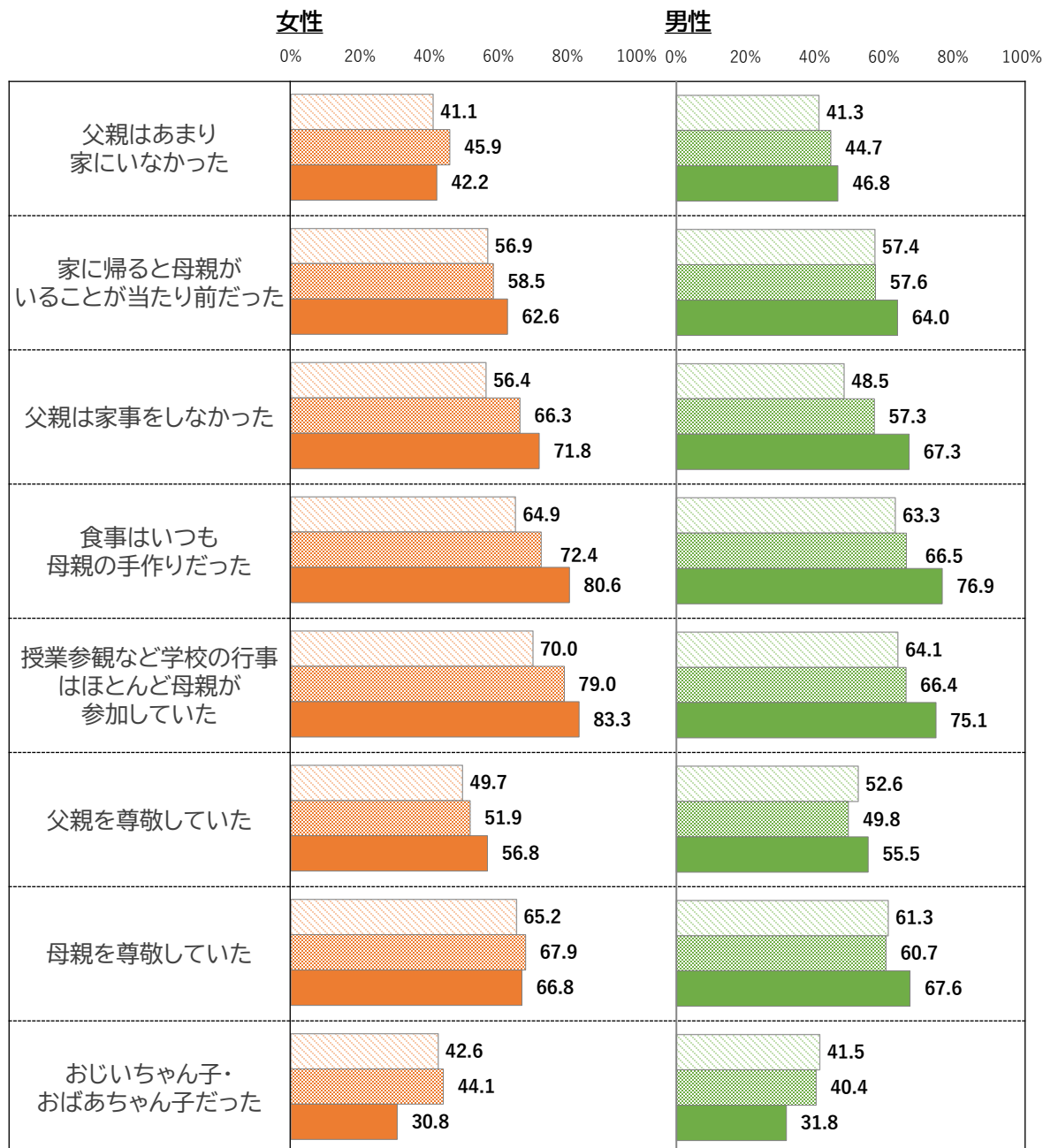
・上の年代で男女差がある項目を、「若年層」で見ると、「本人がやりたいことしかやらない」は男女ともに17%程度、「やるべき事によく気が付いてやっている」は男性で29.1%、女性で21.2%、「丁寧に行っている」は男性で28.2%、女性で25.3%と、上の年代に比べて男女差が小さい。



(14) 自分の父親・母親等との関係について

・自分の父親、母親等の関係について「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値でみると、年代別では、男女ともに「若年層」「28-39歳」では「おじいちゃん子・おばあちゃん子だった」が4割と高く、「40歳以上」と差が大きい。また、上の年代ほど高い項目が多いが、「若年層」と「28-39歳」で比較すると、女性では「父親は家事をしなかった」「食事はいつも母親の手作りだった」「授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた」について、男性では「父親は家事をしなかった」について「若年層」で10%ポイント程度低い。

(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値を掲載)
※「答えられない」と回答した人は除外して集計



※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計対象のnが異なる。

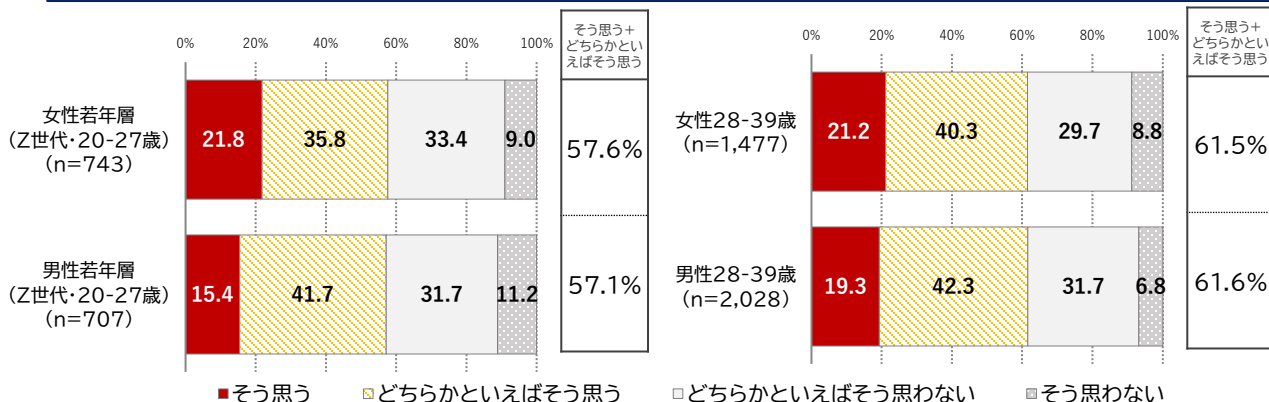
□ 女性若年層 (Z世代・20-27歳) (n=1,130)
 ■ 女性28-39歳 (n=2,213)
 ■ 女性40歳以上 (n=6,738)

□ 男性若年層 (Z世代・20-27歳) (n=1,100)
 ■ 男性28-39歳 (n=2,254)
 ■ 男性40歳以上 (n=6,565)

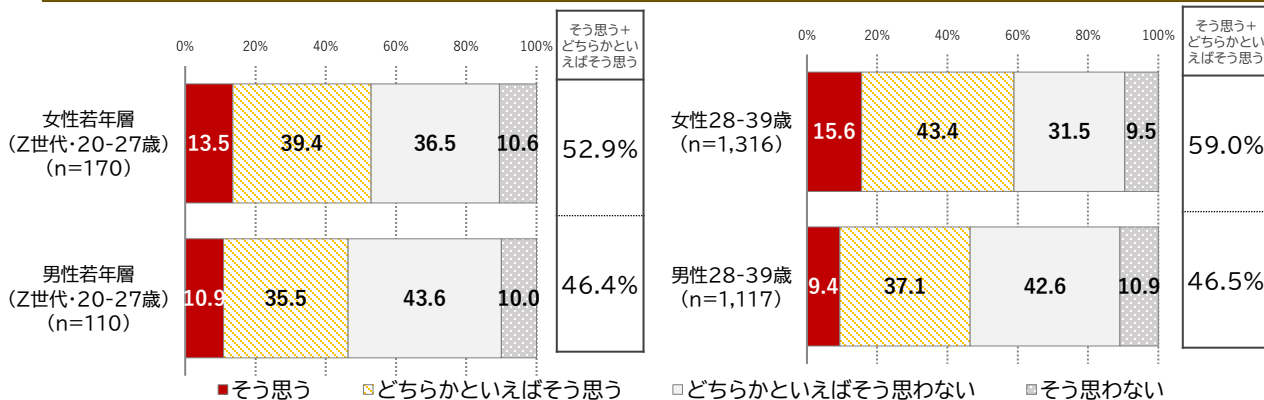
(15) 自分のストレスや責任などについての考え方

- ・有職者における「仕事のストレス」について比較すると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、「若年層」「28-39歳」のどちらも、男女とも約6割と同程度。
- ・配偶者と同居している人の「家事・育児のストレス」を比較すると、「若年層」では、女性で52.9%、男性で46.4%と、女性の方が高いが10%ポイント以上の差はない。一方、「28-39歳」では、女性で59.0%、男性で46.5%と、女性の方が10%ポイント以上高くなっている。
- ・有配偶における「家計を支える責任」について比較すると、「若年層」「20-39歳」のどちらも、女性で4割強、男性で7割強となっている。

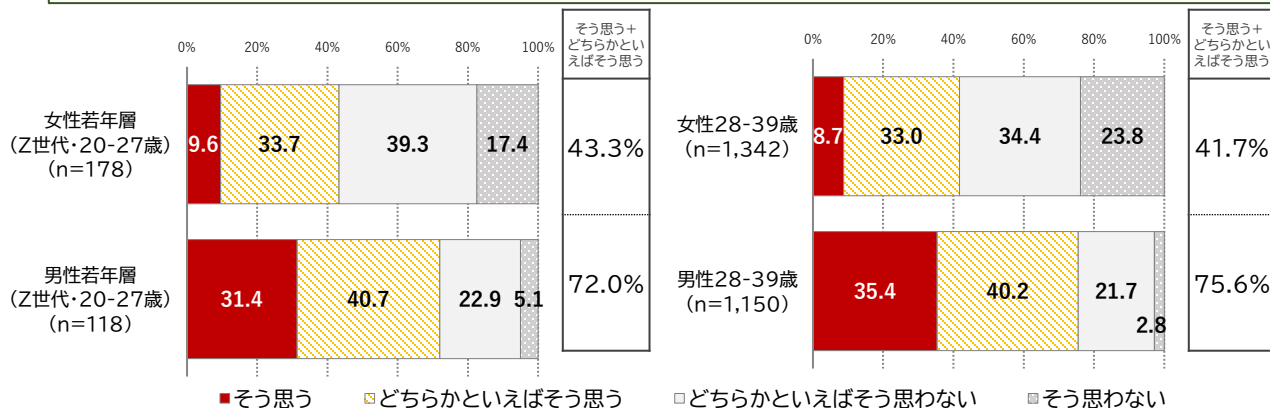
私は仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



家事・育児のストレスが大きい ※配偶者と同居している人が対象



私には家計を支える責任がある ※有配偶が対象



(16) 自分と配偶者の「家計を支える責任」についての考え方(有配偶者が対象)

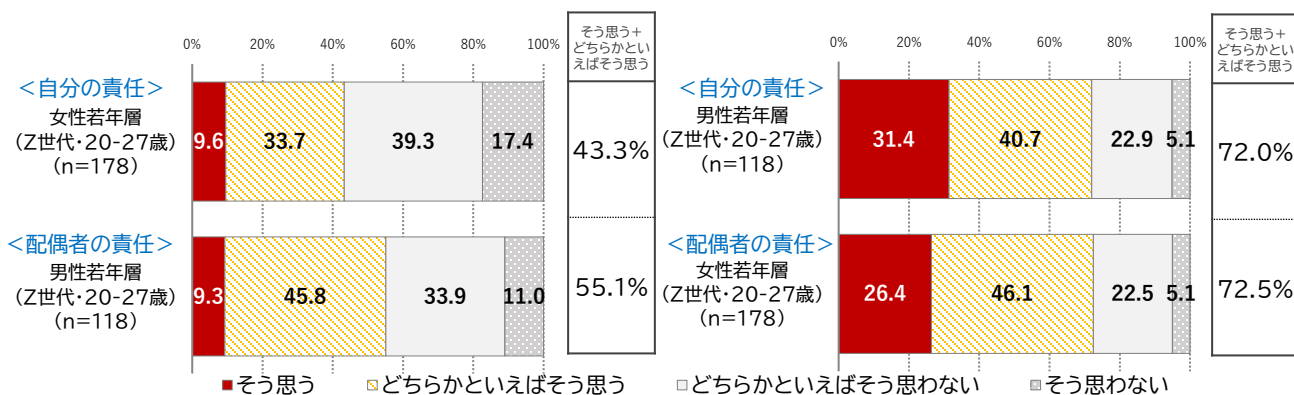
・「若年層」「28-39歳」における「家計を支える責任」について、自分が感じる責任と、配偶者に対して考えている責任を比較したものが下記である。

・「若年層女性」が自分に「家計を支える責任がある」と考える割合(43.3%)に対して、「若年層男性」が配偶者に「家計を支える責任がある」と考える割合は55.1%と、10%ポイント以上高い。一方、「若年層男性」が考える自分の責任(72.0%)に対して、「若年層女性」が考える配偶者の責任は72.5%と、同程度となっている。

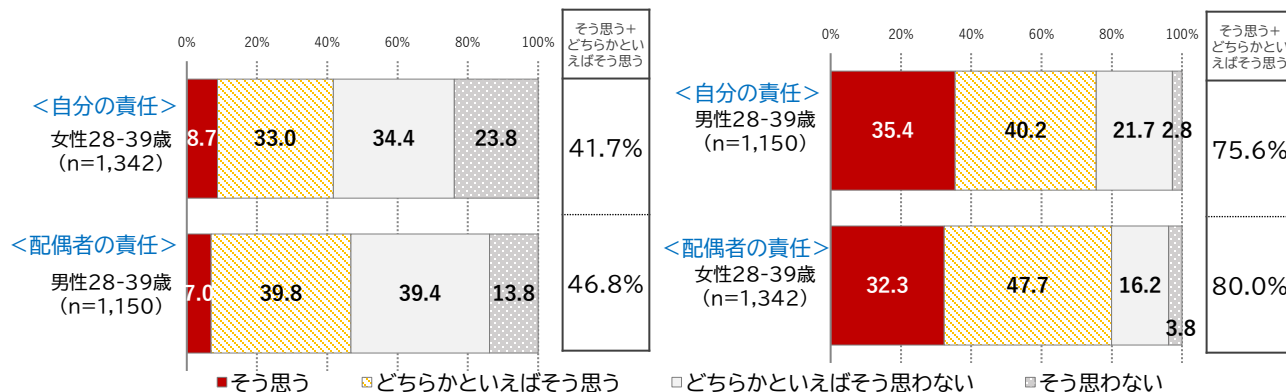
・「28-39歳」においては、女性が考える自分の責任(41.7%)に対して男性の考える配偶者の責任は46.8%と、「若年層」よりは男女差が小さい。なお、男性が考える自分の責任は75.6%、女性が考える配偶者の責任は80.0%となっている。

・2つの年代で比較すると、男性が考える配偶者の責任は、「若年層」の方が高い。一方、女性が考える配偶者の責任は、「若年層」の方が低い。

20-27歳(若年層・Z世代)



28-39歳

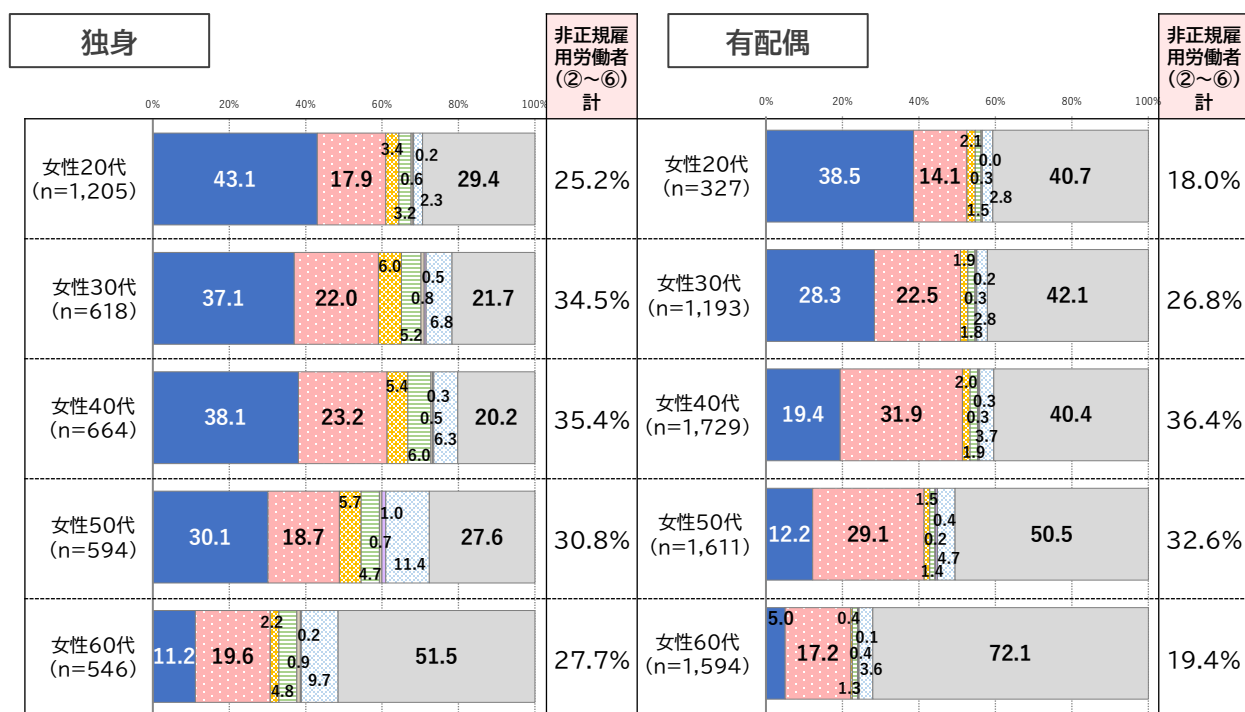


※カップル調査ではないことに留意が必要。

2. 非正規雇用労働者を取り巻く状況

(1) 女性非正規雇用労働者の年代別割合(配偶状況別)

- ・女性の非正規雇用労働者についての傾向を分析する。
- ・年代ごとの「非正規雇用労働者」の割合について、配偶状況別に見てみると、独身では「40代」で35.4%、「30代」で34.5%と、他の年代に比べてやや高い。有配偶では「40代」が36.4%と最も高い。
- ・「非正規雇用労働者」の内訳について、配偶状況別で比較すると、40代より上の年代では有配偶の方が「パート・アルバイト」の割合が10%ポイント程度高く、独身の方がパート・アルバイト以外の非正規雇用(派遣社員・契約社員など)の割合が高い。



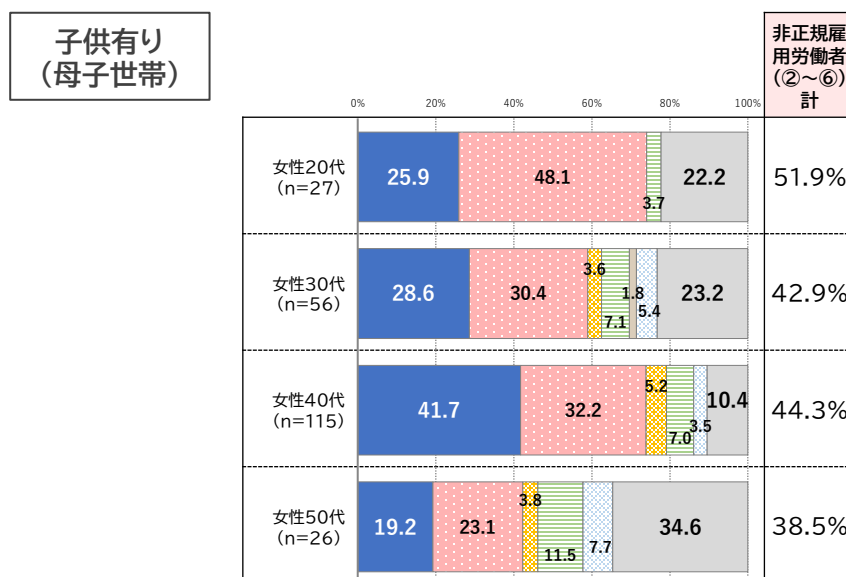
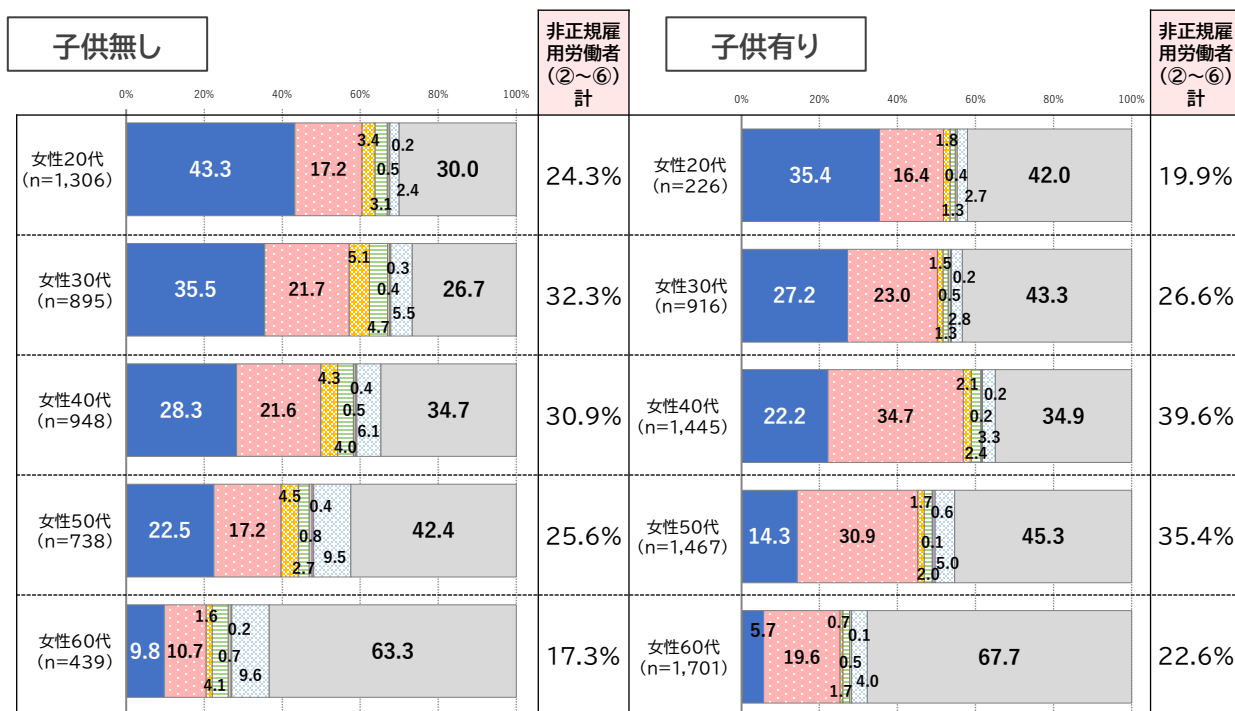
- ① 正規雇用労働者
- ② パート・アルバイト
- ③ 労働派遣事業所の派遣社員
- ④ 契約社員
- ⑤ 嘱託
- ⑥ その他の形で雇用されている
- ⑦ 仕事をしている/その他
- ⑧ 仕事をしていない(主婦・学生等も含む)

(1) 女性非正規雇用労働者の年代別割合(子供の有無別)

・「非正規雇用労働者」の割合について、年代・子供の有無別に見てみると、子供無しでは「30代」で32.3%、「40代」で30.9%と高い。子供有りでは「40代」で39.6%と全ての年代で最も高い。

・「非正規雇用労働者」の内訳をみると、40代より上の年代では子供有りにおいては「パート・アルバイト」の割合が10%ポイント程度高く、独身の方がパート・アルバイト以外の非正規雇用労働者(派遣社員・契約社員など)の割合が高い。

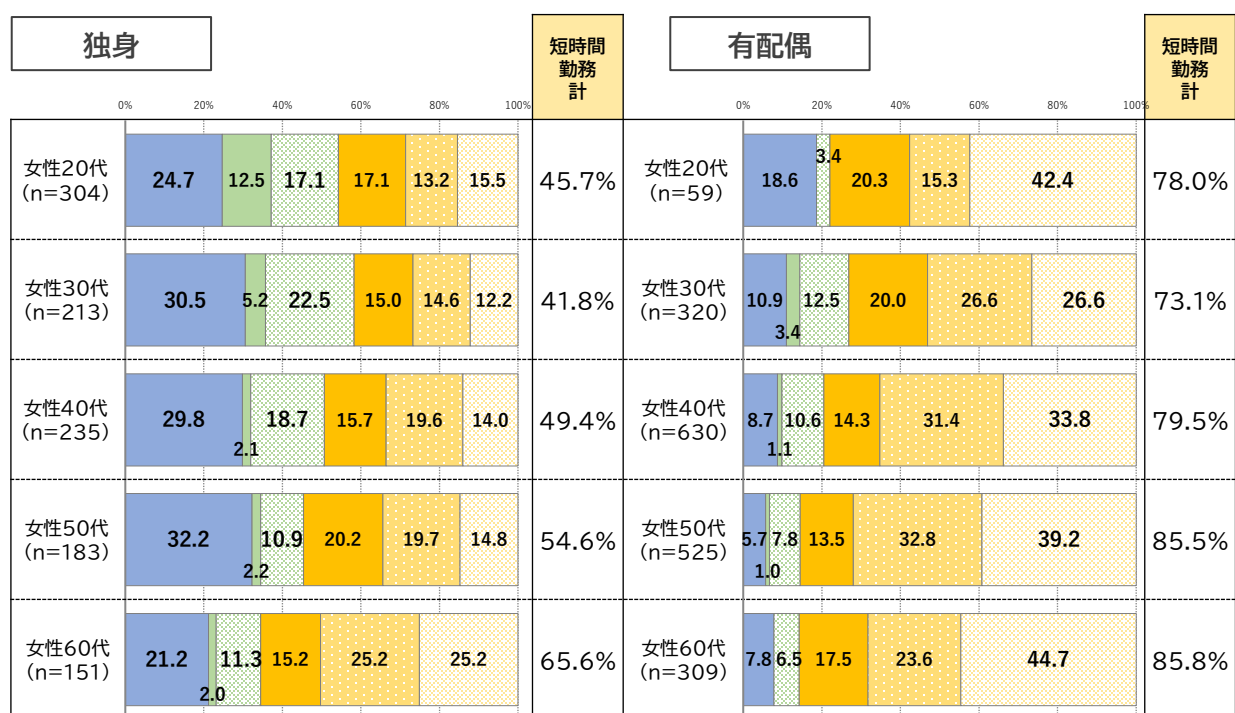
・子供有り(母子世帯)においては、20~30代で「子供有り(全体)20~30代」と比較すると、非正規雇用労働者の割合が15~30%ポイント程度高い。一方、40代で見ると、「子供有り(母子世帯)」では正規雇用労働者が41.7%と、「子供有り(全体)40代」22.2%に対して20%ポイント程度高い。



- ①正規雇用労働者
- ②パート・アルバイト
- ③労働派遣事業所の派遣社員
- ④契約社員
- ⑤嘱託
- ⑥その他の形で雇用されている
- ⑦仕事をしている/その他
- ⑧仕事をしていない(主婦・学生等含む)

(2) 女性非正規雇用労働者の勤務形態(勤務時間)(配偶状況別)

- ・非正規雇用労働者における勤務形態(勤務時間)について、配偶状況別に見てみると、いずれの年代でも「有配偶」の方が、「短時間勤務」の割合が20%ポイント以上高い。特に20～50代では30%ポイント以上の差が見られた。
- ・非正規雇用労働者の内訳をみると、「独身」においては、全ての年代で「フルタイム」が2割以上となっているが、「有配偶」では20代では18.6%と2割に近いものの、30代で10.9%、40代では8.7%となっている。
- ・「短時間勤務」を勤務時間別にみると、「有配偶」においては全ての年代で、「週20時間未満」の割合が最も高くなっている。

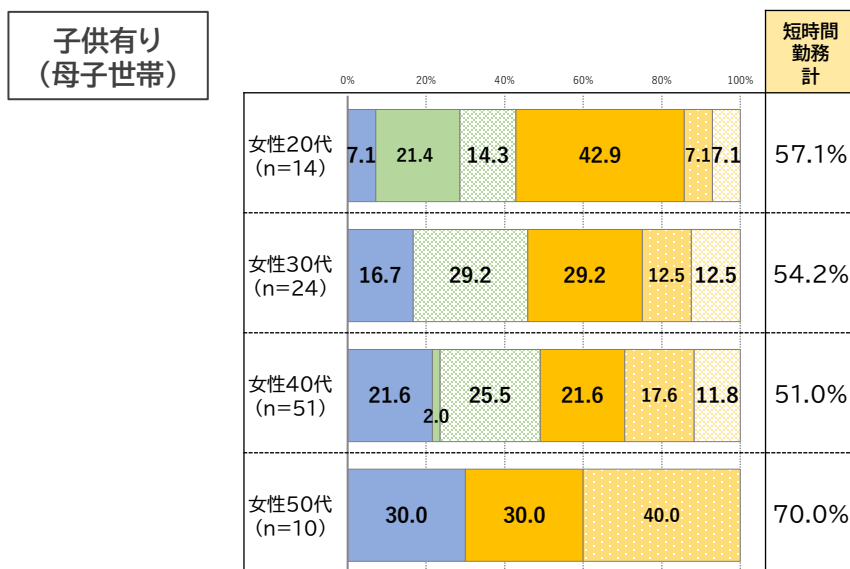
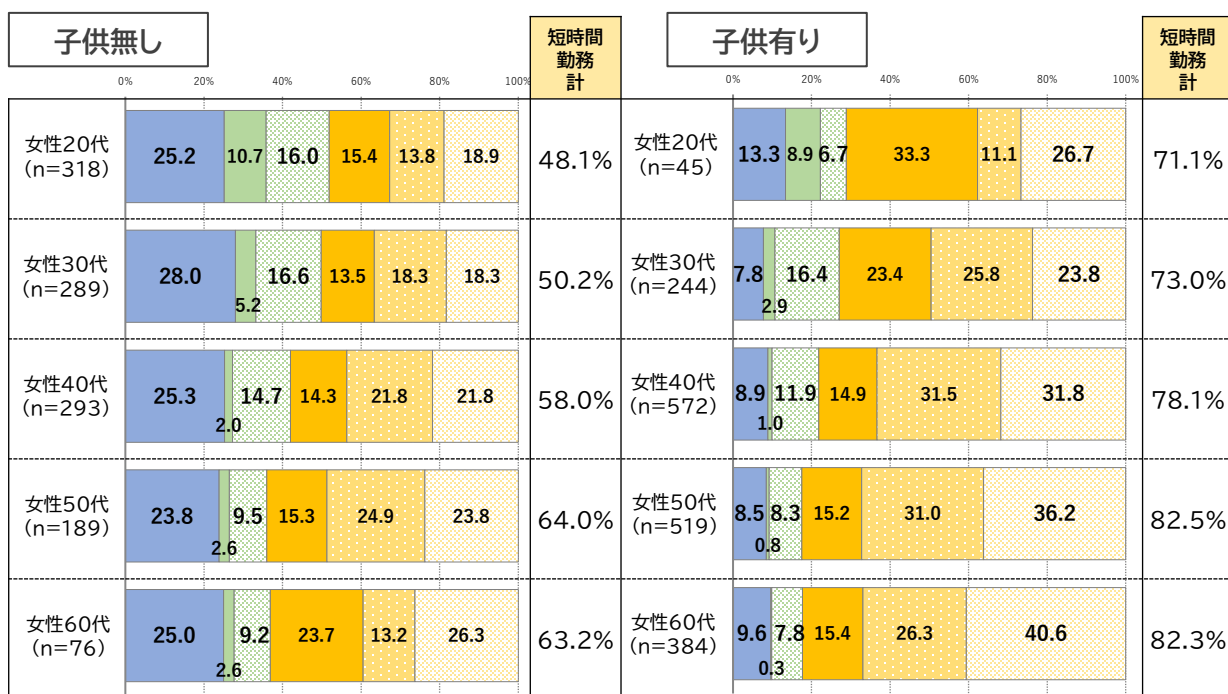


- フルタイム
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 短時間勤務(週20時間未満)

※短時間勤務(計)=短時間勤務(週30時間以上40時間未満) + (週20時間以上30時間未満) + (週20時間未満) の計

(2) 女性非正規雇用労働者の勤務形態(勤務時間)(子供の有無別)

- ・非正規雇用労働者における勤務形態(勤務時間)について、子供の有無別に見てみると、いずれの年代でも「子供有り」の方が、「短時間勤務」の割合が20%ポイント程度高い。
- ・非正規雇用労働者の内訳をみると、「子供無し」においては、全ての年代で「フルタイム」が2割以上となっているが、「子供有り」では20代でも13.3%、30代以上ではいずれも1割を切っている。
- ・20～30代の「子供有り(母子世帯)」においては、「子供有り(全体)20～30代」と比較すると、「短時間勤務」の割合が10%ポイント以上低い。40代で見ると、「子供有り(母子世帯)」では「短時間勤務」が51.0%と、「子供有り(全体)40代」(78.1%)よりも30%ポイント近く低く、「フルタイム」や、「時間を調整・融通がきく仕事」の割合が高い。

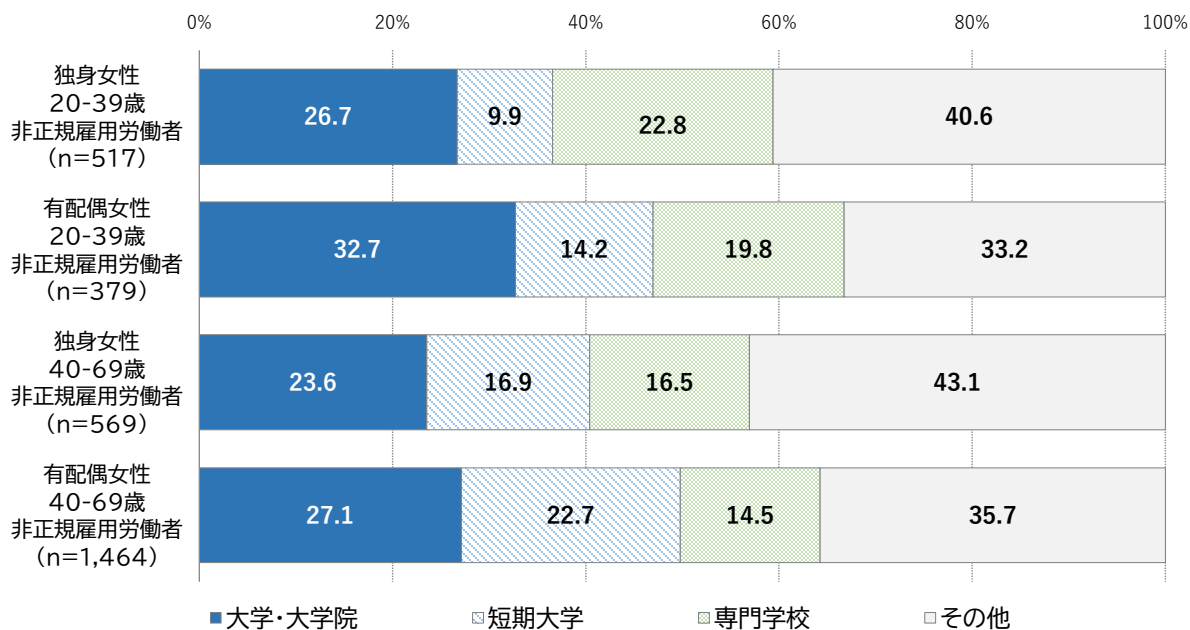


※短時間勤務(計)=短時間勤務(週30時間以上40時間未満) + (週20時間以上30時間未満) + (週20時間未満) の計

- フルタイム
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 短時間勤務(週20時間未満)

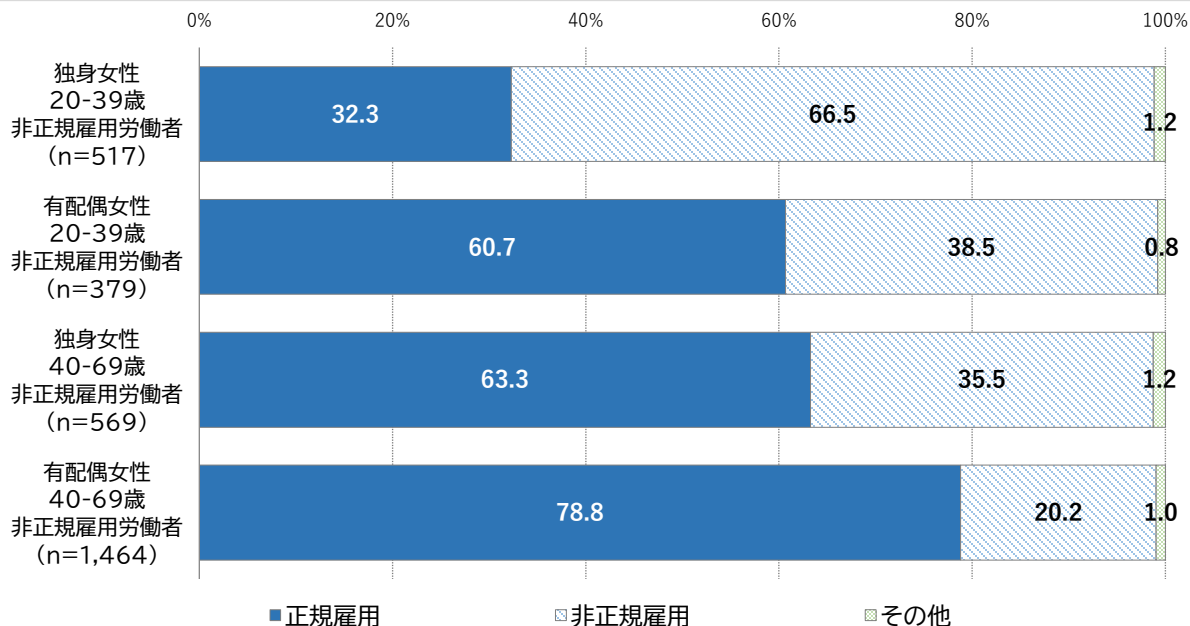
(3) 女性非正規雇用労働者の最終学歴(配偶状況別)

・非正規雇用労働者の最終学歴について、年代・配偶状況別に見てみると、どちらの年代でも「大学・大学院+短期大学」の割合は、「有配偶」の方が10%ポイント程度高い。「大学・大学院卒」の割合が最も高いのは、「有配偶20-39歳」で32.7%となっている。



(4) 女性非正規雇用労働者の初職の状況(配偶状況別)

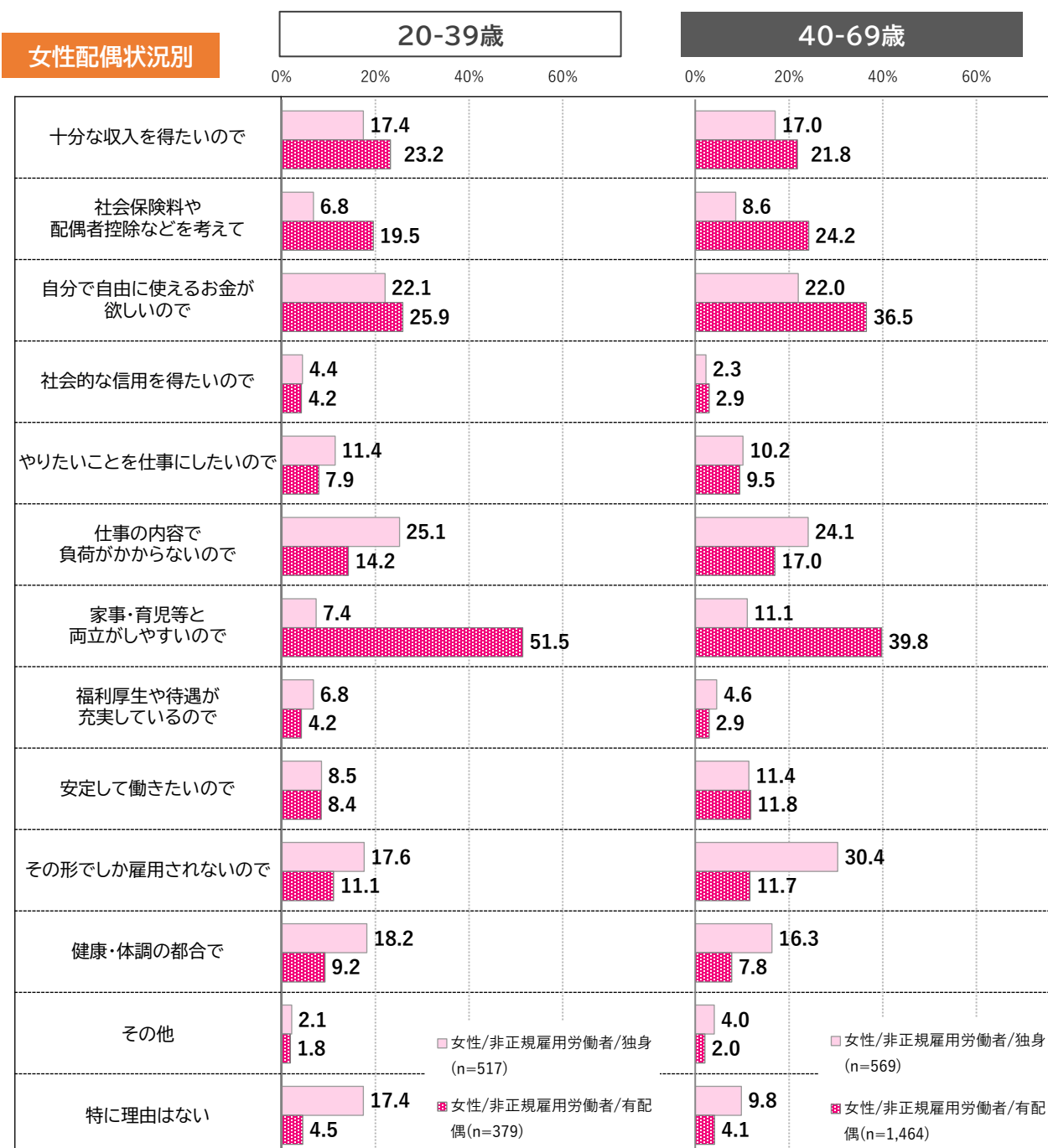
・非正規雇用労働者の初職の状況を見てみると、「(初職が)正規雇用」が最も高いのは、「有配偶40-69歳」で78.8%。配偶状況別で比較すると、どちらの年代でも、「(初職が)正規雇用」の割合は、「有配偶」の方が高く、特に「20-39歳」の若い年代では30%ポイント以上差がある。



(5) 女性非正規雇用労働者の現在の職業・雇用形態で働いている理由(配偶状況別)

・現在の職業・雇用形態で働いている理由について配偶状況別に見てみると、20-39歳では、独身で「仕事の内容で負荷がかからないので」25.1%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」22.1%が高い。一方、有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」51.5%が顕著に高く、独身と比べると40%ポイント以上の差がある。独身の方が「仕事の内容で負荷がかからないので」「健康・体調の都合で」が10%ポイント近く高く、有配偶の方が「社会保険料や配偶者控除などを考えて」が10%ポイント以上高い。

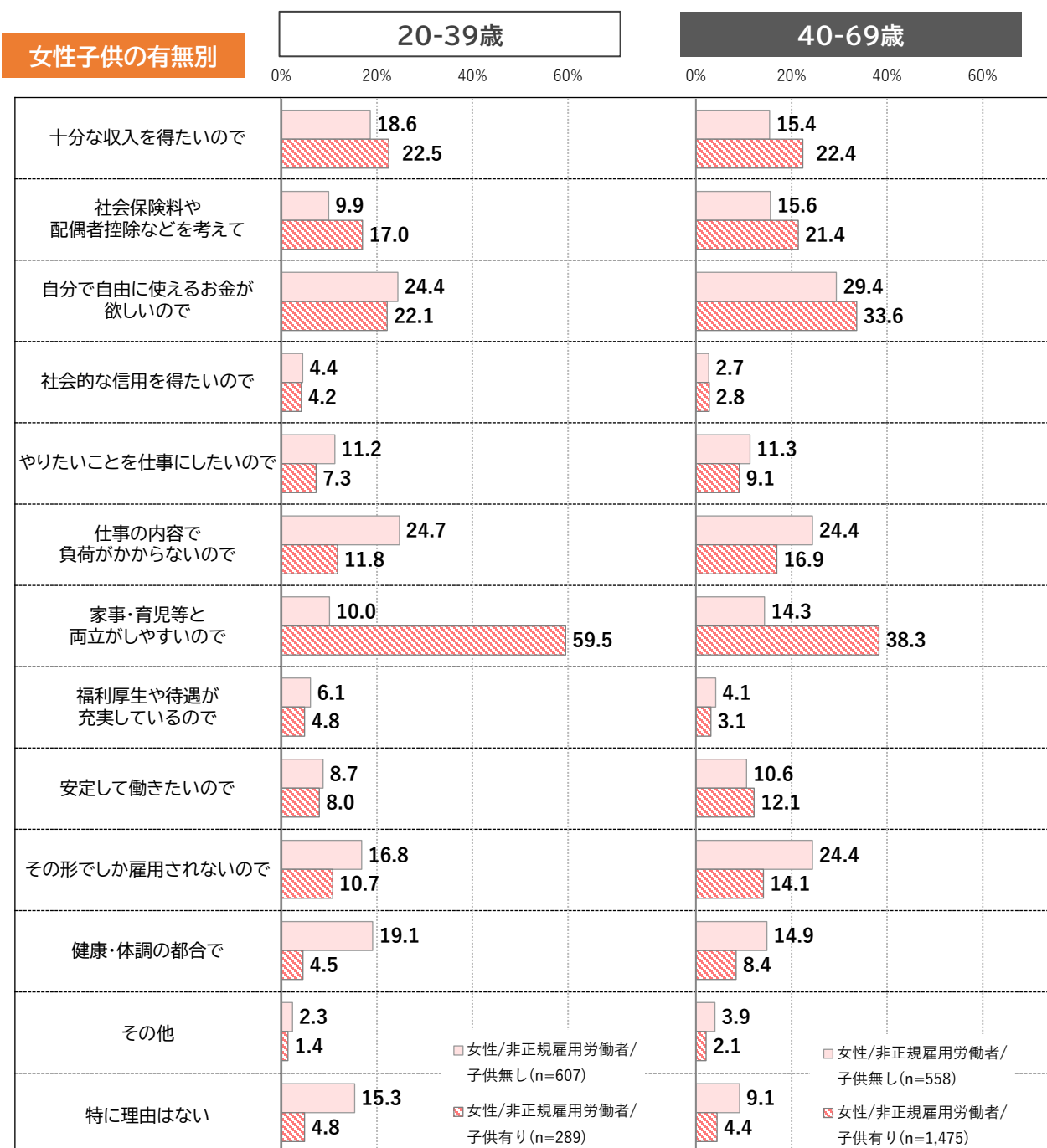
・40-69歳で見ると、独身では「その形でしか雇用されないの」30.4%が最も高く、次に「仕事の内容で負荷がかからないの」24.1%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」22.0%が続く。一方、有配偶では「家事・育児等と両立がしやすいので」39.8%が最も高く、独身と比べると30%ポイント近く差がある。独身の方が「その形でしか雇用されないの」が10%ポイント以上高く、有配偶の方が「社会保険料や配偶者控除などを考えて」「自分で自由に使えるお金が欲しいので」が10%ポイント以上高い。



(5) 女性非正規雇用労働者の現在の職業・雇用形態で働いている理由(子供の有無別)

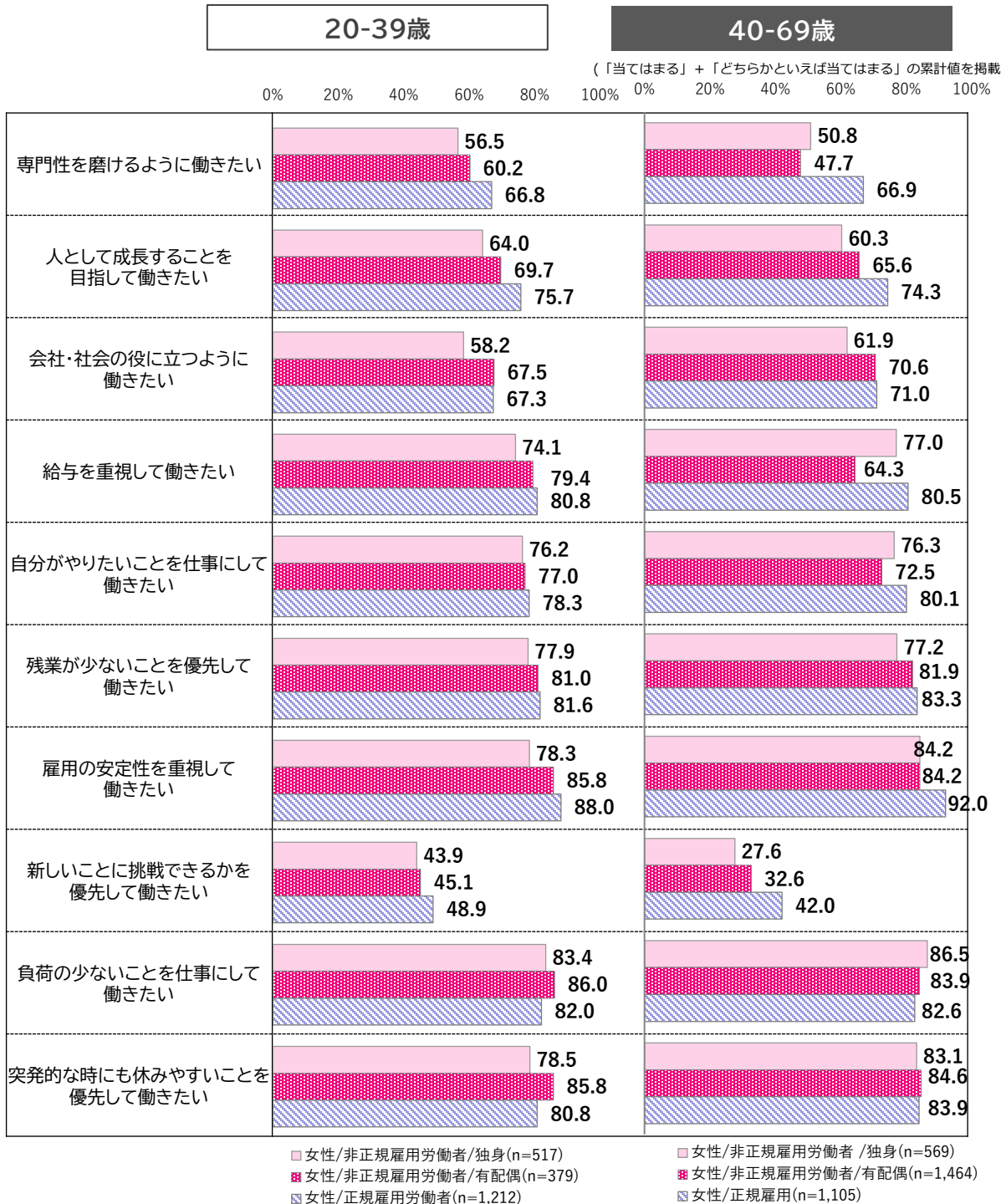
・現在の職業・雇用形態で働いている理由について子供の有無別に見てみると、20-39歳では、子供無しでは「仕事の内容で負荷がかからないので」24.7%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」24.4%が高い。一方、子供有りでは「家事・育児等と両立がしやすいので」59.5%が顕著に高く、子供無しと比べると50%ポイント近い差がある。子供無しの方が「仕事の内容で負荷がかからないので」「健康・体調の都合で」が10%ポイント以上高い。

・40-69歳で見ると、子供無しでは「自分で自由に使えるお金が欲しいので」29.4%が最も高く、次に「仕事の内容で負荷がかからないので」「その形でしか雇用されないの」が続く。子供有りでは「家事・育児等と両立がしやすいので」38.3%が最も高く、子供無しと比べると20%ポイント以上の差がある。一方、子供無しの方が「その形でしか雇用されないの」が10%ポイント以上高い。



(6) 女性非正規雇用労働者の仕事・働くことに対する現在の考え方(雇用形態・配偶状況別)

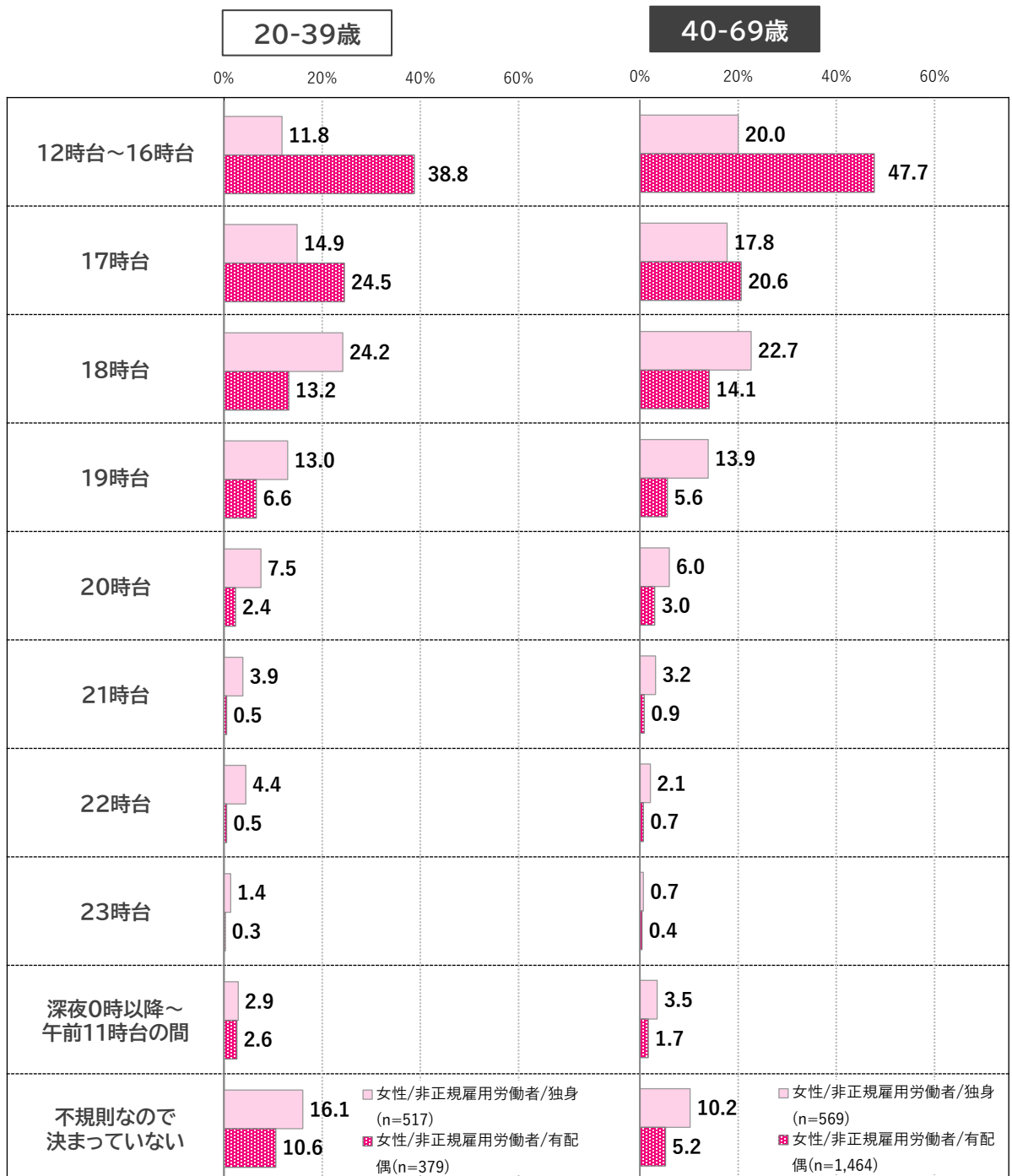
・仕事・働くことに対する現在の考え方を、雇用形態・配偶状況別に見てみると、20-39歳においては、「会社・社会の役に立つように働きたい」「雇用の安定性を重視して働きたい」は、「非正規雇用労働者/独身」では、他2区分に対して10%ポイント近く低い。
 ・40-69歳においては、「専門性を磨けるように働きたい」は「正規雇用労働者/有配偶」で、「非正規雇用労働者」よりも15%ポイント以上高い。また「人として成長することを目指して働きたい」「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」も「正規雇用労働者/有配偶」で高い。一方、「給与を重視して働きたい」は、「非正規雇用労働者/有配偶」で、他2区分に対して10%ポイント以上低い。



(7) 女性非正規雇用労働者の仕事がある日の平均的な帰宅時間(配偶状況別)

・配偶状況別に「自分の帰宅時間」を比較したものが下記である。20-39歳においては、「有配偶」では「12時台～16時台」が38.8%と最も高く、次に「17時台」24.5%と、17時以前の帰宅で6割を超える。「独身」では「18時台」24.2%が最も高く、次に「17時台」14.9%、「19時台」13.0%と、17時～19時前後で5割となっている。

・40-69歳においては、「有配偶」では「12時台～16時台」で47.7%と、より16時以前の時間帯が高い。



(8) 現在の1日の時間の使い方(仕事がある日(テレワーク以外の日)) (有職者女性、雇用形態・配偶状況別)

・仕事がある日(テレワーク以外)の1日の時間の使い方を雇用形態、配偶状況別に見てみると、20-39歳においては、「非正規雇用労働者/有配偶」では「家事・育児時間」が3時間34分と、「正規雇用労働者」1時間32分と比べ2時間以上長い。一方、「非正規雇用労働者/独身」では、「自分のことに使う時間」が3時間6分と、他2区分に対して1時間以上長い。

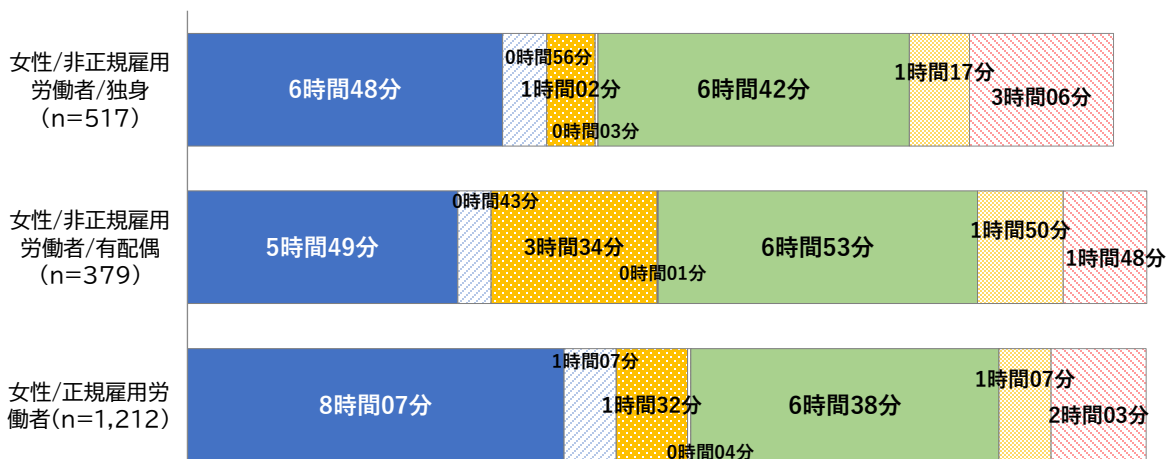
・40-49歳でも同様に、「非正規雇用労働者/有配偶」では「家事・育児時間」が3時間1分と、「正規雇用労働者」の1時間50分と比べ、1時間以上長い。また、「自分のことに使う時間」は、20-39歳と同様に「非正規雇用労働者/独身」が2時間50分でも最も長い。

・どちらの年代でも、「通勤・通学時間」は「非正規雇用労働者/有配偶」が最も短い。

仕事がある日(テレワーク以外)

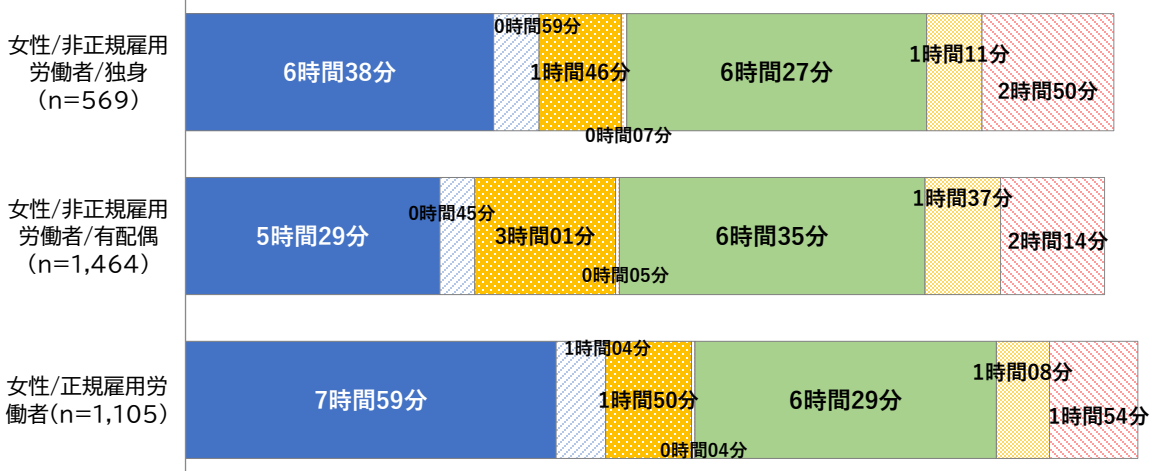
20-39歳

- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間



40-69歳

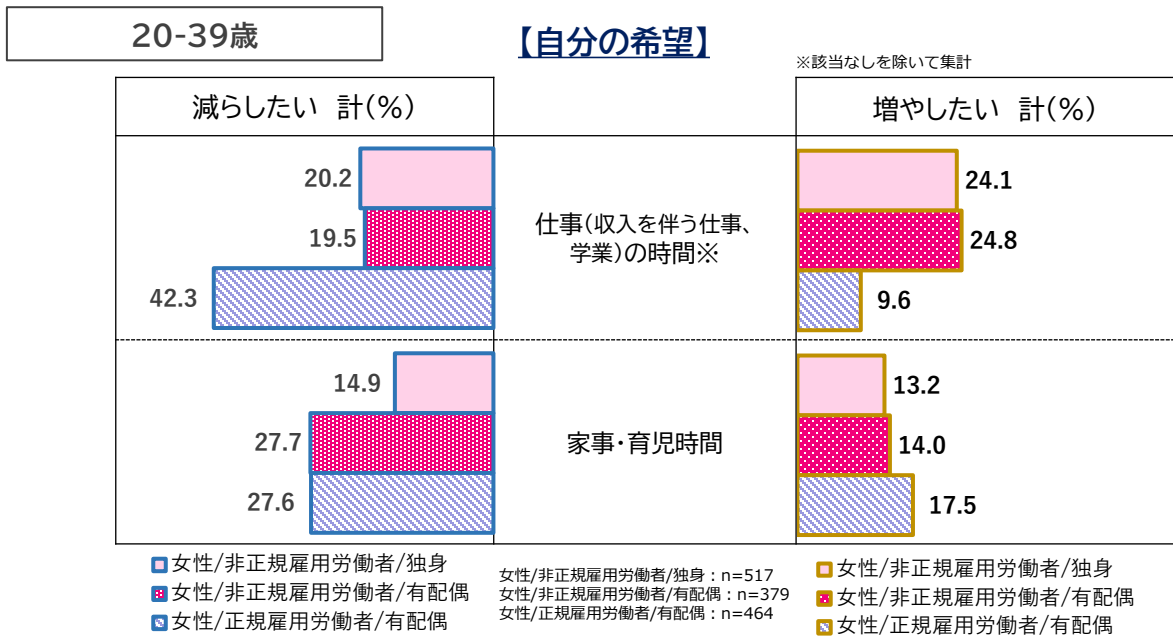
- 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間
- 家事・育児時間
- 睡眠時間
- 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)
- 通勤・通学時間
- 介護時間
- 家族と遊んだり、くつろいだりする時間



(9) 仕事時間と家事・育児時間の増減希望(20-39歳有職者女性)(雇用形態・配偶状況別)

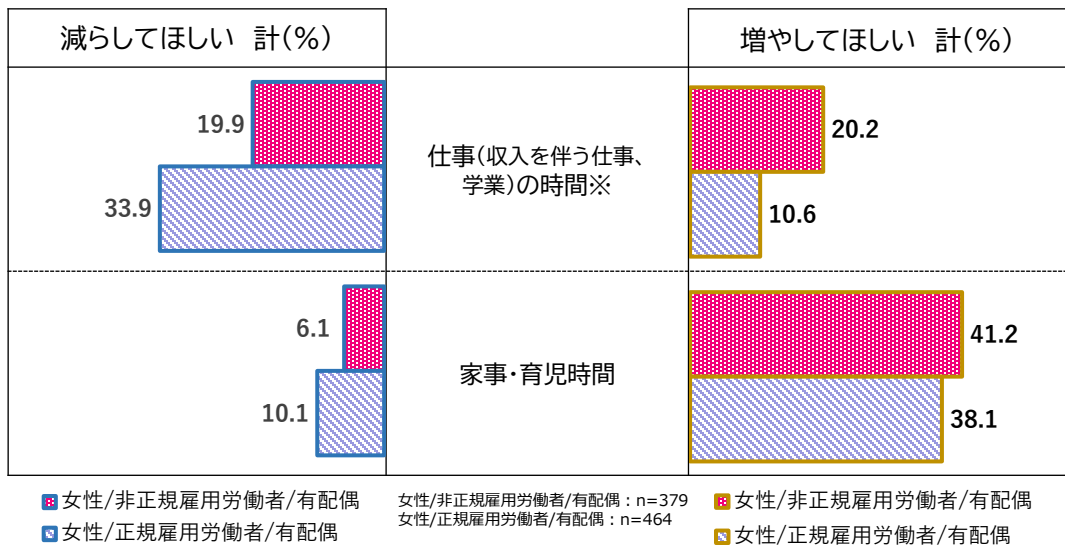
・仕事時間と家事・育児時間の増減希望について、20-39歳の有職者女性を雇用形態、配偶状況別に見てみると、自分の仕事時間について、「非正規雇用労働者」では、配偶状況にかかわらず「減らしたい」が20%程度、「増やしたい」が24%程度と、希望が分かれている。一方、「正規雇用労働者/有配偶」では「減らしたい」が42.3%と高い。自分の家事・育児時間については、「非正規雇用労働者/有配偶」「正規雇用労働者/有配偶」のいずれも、「減らしたい」が28%ポイント程度と高い。

・配偶者への仕事時間増減の希望では、「非正規雇用労働者/有配偶」では「減らしてほしい」「増やしてほしい」がいずれも20%程度と分かれている。「正規雇用労働者/有配偶」では、「減らしてほしい」が33.9%と高い。配偶者への家事・育児時間増減の希望では、非正規雇用労働者・正規雇用労働者のいずれも「増やしてほしい」が4割程度と高い。



【配偶者への希望(有配偶のみ)】

※仕事の時間は有配偶で配偶者が有職の人を対象



※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計数のnが異なる。

※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

※減らしてほしい計 = 「大幅に減らしてほしい」 + 「少し減らしてほしい」

※増やしてほしい計 = 「大幅に増やしてほしい」 + 「少し増やしてほしい」

(9) 仕事時間と家事・育児時間の増減希望(40-69歳有職者女性)(雇用形態・配偶状況別)

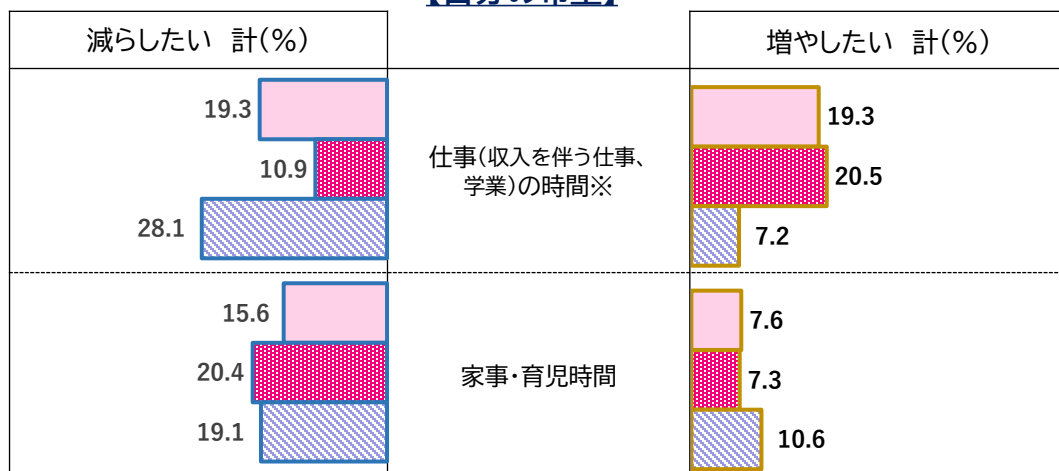
・仕事時間と家事・育児時間の増減希望について40-69歳の有職者女性を雇用形態、配偶状況別に見てみると、自分の仕事時間について、「非正規雇用労働者/独身」では、「減らしたい」「増やしたい」がどちらも19%。「非正規雇用労働者/有配偶」では、「増やしたい」が20.5%と高い。「正規雇用労働者/有配偶」では「減らしたい」が28.1%と高いが、20-39歳と比べるとその割合は10%ポイント以上低い。自分の家事・育児時間については、「非正規雇用労働者/有配偶」「正規雇用労働者/有配偶」のいずれも、「減らしたい」が20%程度。

・配偶者への仕事時間増減の希望では、非正規雇用労働者・正規雇用労働者のいずれも、「減らしてほしい」「増やしてほしい」が12~16%程度となっている。配偶者への家事・育児時間増減の希望では、非正規雇用労働者・正規雇用労働者のいずれも「増やしてほしい」が25~29%と高いが、20-39歳と比べると、その割合は10%ポイント以上低い。

40-69歳

【自分の希望】

※該当なしを除いて集計



■ 女性/非正規雇用労働者/独身

■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

女性/非正規雇用労働者/独身：n=569
女性/非正規雇用労働者/有配偶：n=1,464
女性/正規雇用労働者/有配偶：n=612

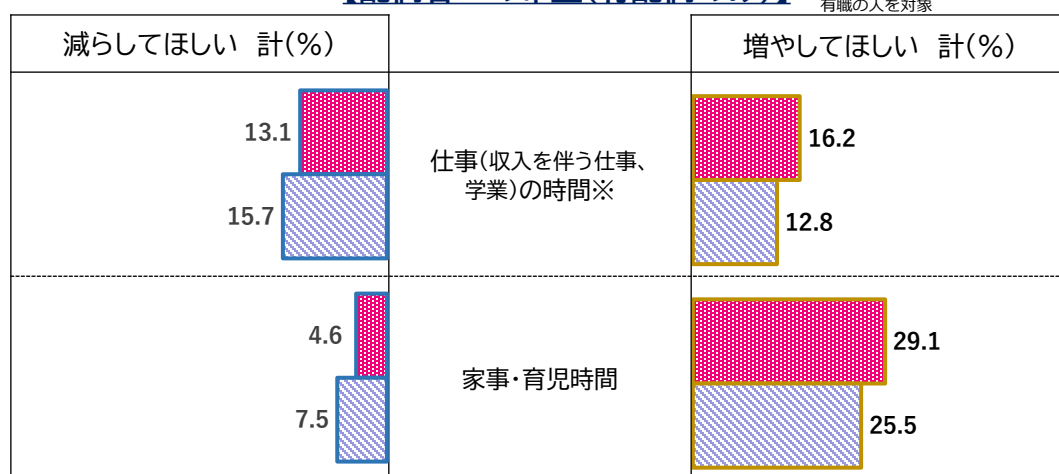
■ 女性/非正規雇用労働者/独身

■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

【配偶者への希望(有配偶のみ)】

※仕事の時間は有配偶で配偶者が有職の人を対象



■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

女性/非正規雇用労働者/有配偶：n=1,464
女性/正規雇用労働者/有配偶：n=612

■ 女性/非正規雇用労働者/有配偶

■ 女性/正規雇用労働者/有配偶

※対象者数の表示は全数。ただし設問によって集計数のnが異なる。

※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」

※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」

※減らしてほしい計 = 「大幅に減らしてほしい」 + 「少し減らしてほしい」

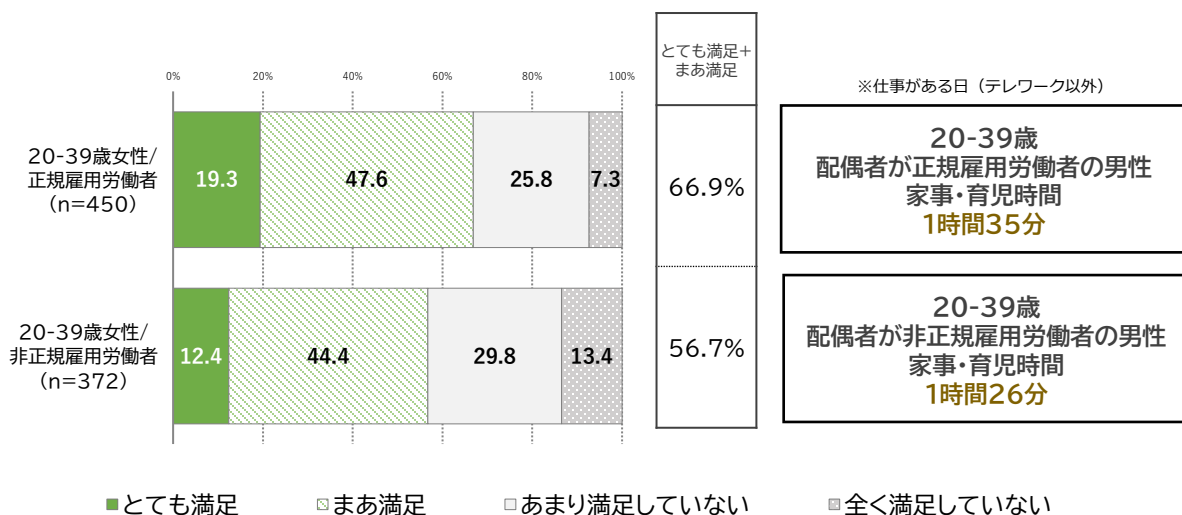
※増やしてほしい計 = 「大幅に増やしてほしい」 + 「少し増やしてほしい」

(10) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している有職者の女性が対象)

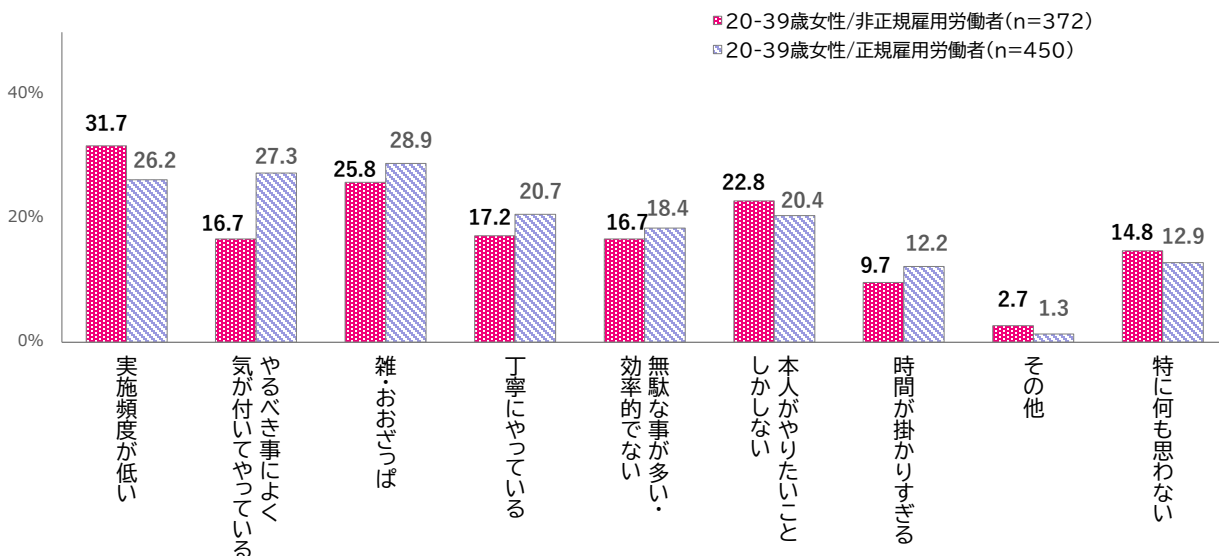
・配偶者の実施する家事への満足度について、20-39歳の「とても満足」+「まあ満足」の累計値をみると、非正規雇用労働者は56.7%、正規雇用労働者では66.9%と、非正規雇用労働者の方が10%ポイント以上低い。なお、「配偶者が正規雇用労働者の男性」における家事・育児時間は1時間35分、「配偶者が非正規雇用労働者の男性」における家事・育児時間は1時間26分と、9分短い。

・配偶者の実施する家事については、「やるべきことに気が付いてよくやっている」は正規雇用労働者で27.3%と、非正規雇用労働者よりも10%ポイント以上高い。一方、「実施頻度が低い」は、非正規雇用労働者の方が5%ポイント程度高い。

配偶者の実施する家事についての満足度



配偶者の実施する家事についてどう感じるか

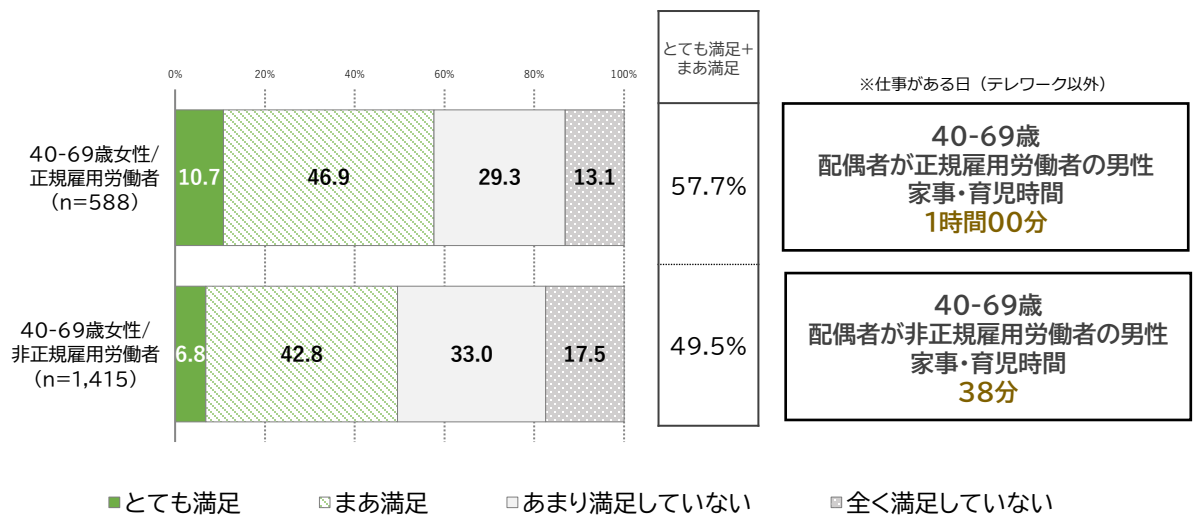


(10) 配偶者の実施する家事への満足度(配偶者と同居している有職者の女性が対象)

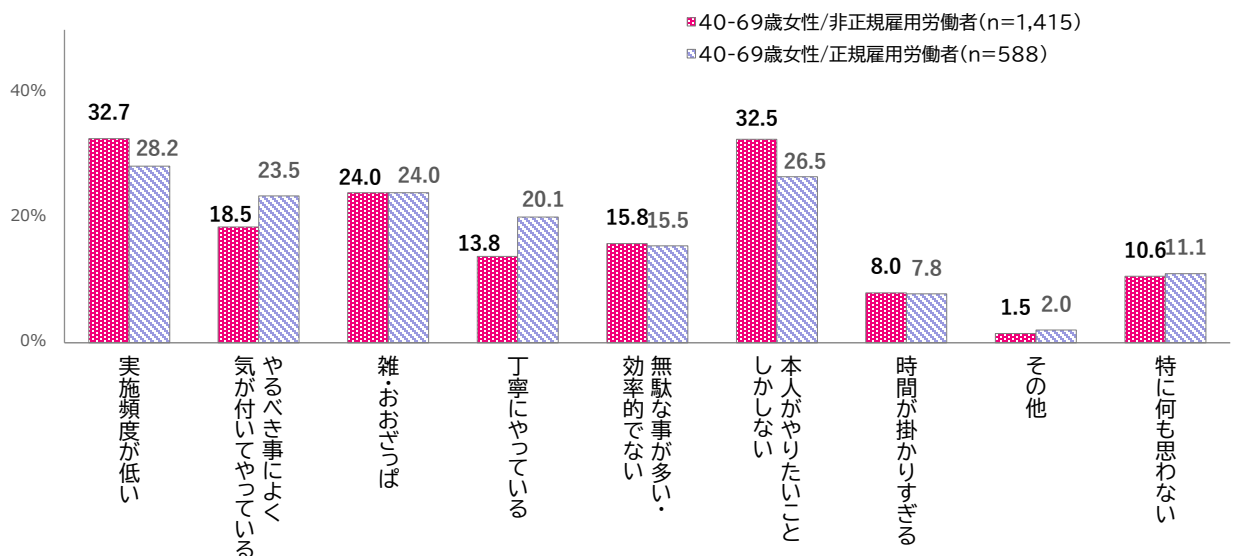
・配偶者の実施する家事への満足度について、40-69歳の「とても満足」+「まあ満足」の累計値をみると、非正規雇用労働者では49.5%、正規雇用労働者の女性では57.7%となっている。なお、「配偶者が正規雇用労働者の男性」の家事・育児時間は1時間、「配偶者が非正規雇用労働者の男性」の家事・育児時間は38分と、22分短い。

・配偶者の実施する家事については、「やるべきことに気が付いてよくやっている」「丁寧にやっている」は正規雇用労働者の方が非正規雇用労働者よりも5%ポイント以上高く、一方、「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかししない」は、非正規雇用労働者の方が5%ポイント程度高い。

配偶者の実施する家事についての満足度



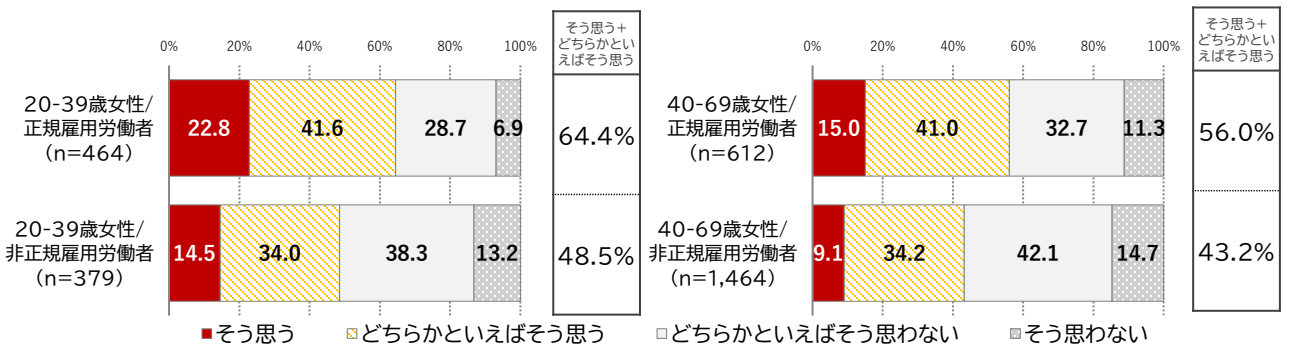
配偶者の実施する家事についてどう感じるか



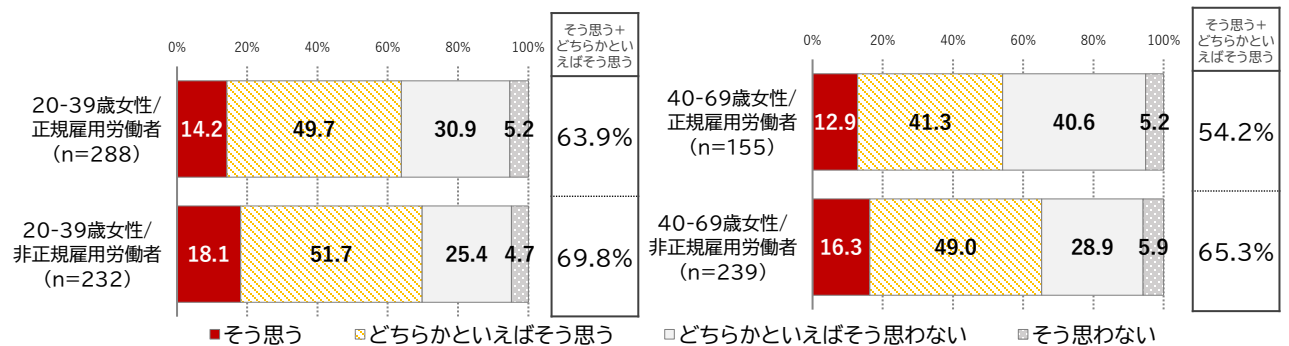
(11) ストレスや責任などについての考え方(有配偶の有識者女性)

- ・「仕事のストレス」を比較すると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、20-39歳においては「正規雇用労働者」で64.4%、「非正規雇用労働者」で48.5%と10%ポイント以上の差がある。40-69歳でも10%ポイント以上「正規雇用労働者」で高い。
- ・配偶者と小学生以下の子供と同居している人の「家事・育児のストレス」を比較してみると、20-39歳においては、「正規雇用労働者」で63.9%、「非正規雇用労働者」で69.8%。40-69歳では「正規雇用労働者」で54.2%、「非正規雇用労働者」で65.3%と、どちらの区分でも「非正規雇用労働者」の方が高いが、特に上の年代で差が大きい。
- ・「家計を支える責任」について比較すると、20-39歳においては「正規雇用労働者」で54.3%、「非正規雇用労働者」で45.9%、40-69歳では「正規雇用労働者」で53.6%、「非正規雇用労働者」で34.6%と、どちらの年代でも「正規雇用労働者」の方が高いが、上の年代の方がその差は大きい。一方、「非正規雇用労働者」の年代別で比較すると、若い年代の方が「家計を支える責任がある」とする割合が、10%ポイント以上高い。

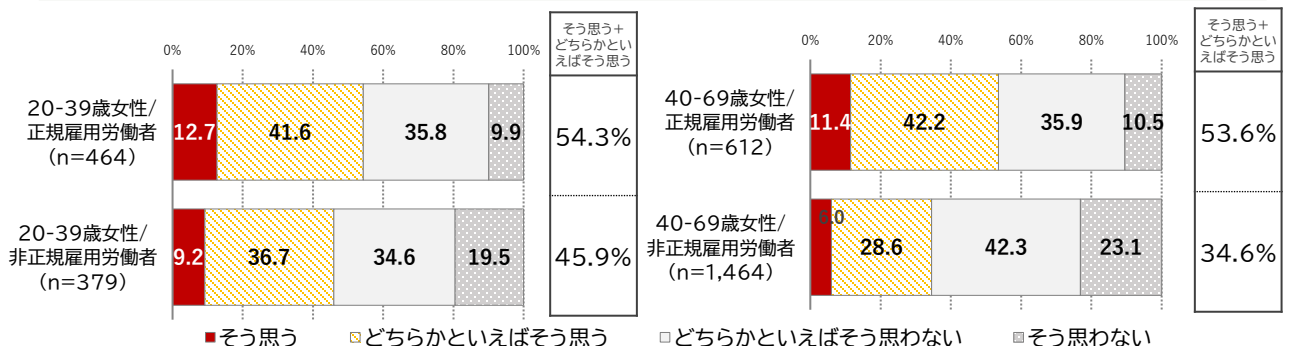
私は仕事のストレスが大きい



私は家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人が対象



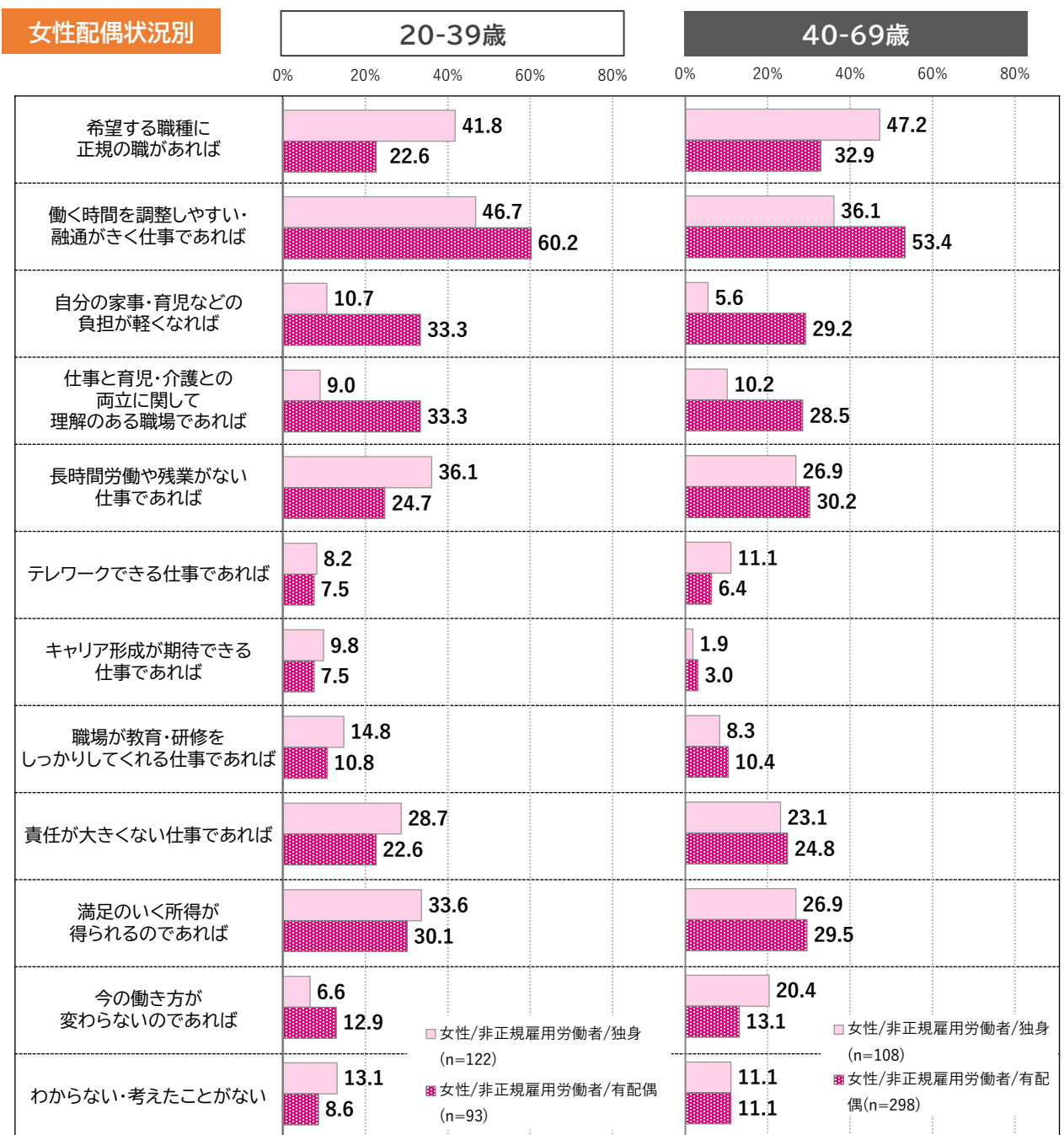
私には家計を支える責任がある



**(12) どのような条件があれば「正規の会社員」として働きたいと思うか
(勤務時間を「増やしたい」と回答した女性非正規雇用労働者対象)**

・配偶状況別で見ると、20-39歳においては、どちらの区分でも「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高いが、特に「有配偶」では60.2%と顕著に高い。また、「希望する職種に正規の職があれば」「長時間労働や残業がない仕事であれば」は「独身」の方が10%ポイント以上高く、「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は「有配偶」の方が10%ポイント以上高い。

・40-69歳においては、「有配偶」では「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」が最も高く53.4%で、「独身」よりも10%ポイント以上高い。「独身」では「希望する職種に正規の職があれば」が47.2%と最も高く、「有配偶」よりも10%ポイント以上高い。また、「自分の家事・育児などの負担が軽くなれば」「仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば」は「有配偶」の方が高い。



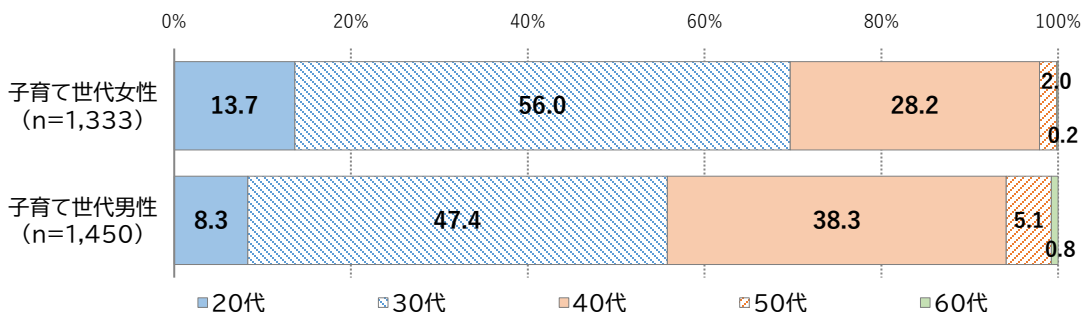
3. 子育て世代を取り巻く状況

※子育て世代=配偶者と子供と同居している人
(同居している子供は小学生まで)

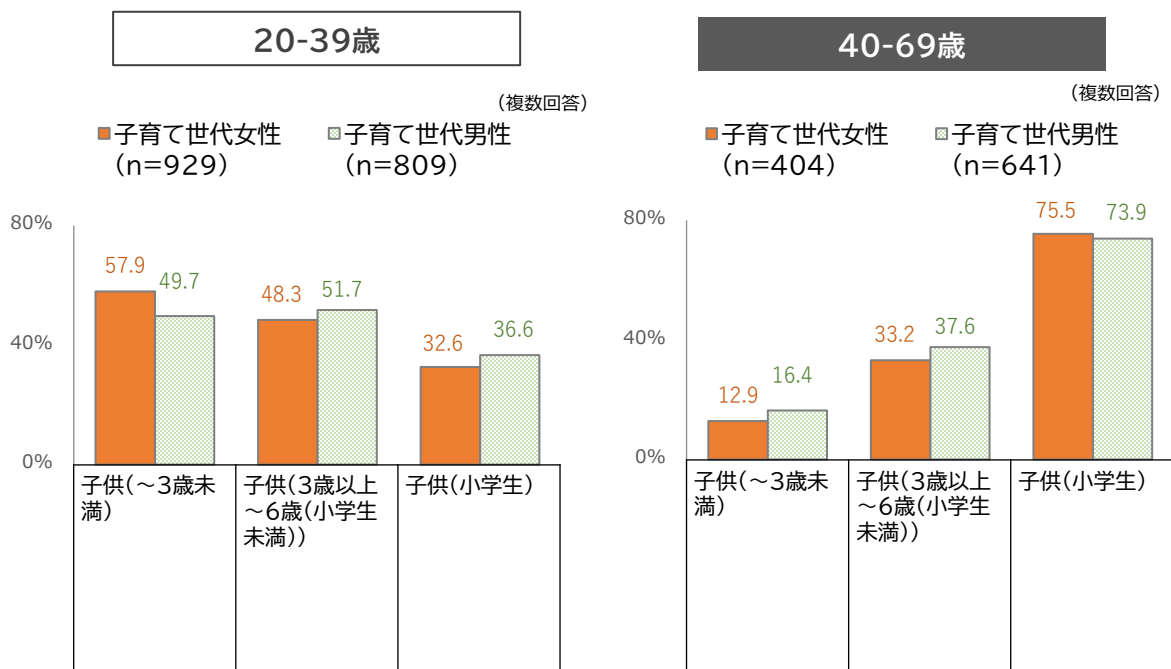
(1) 子育て世代の基本情報(属性)

- ・配偶者と子供と同居している人(同居している子供は小学生まで、中学生以上の子供とは同居していない)を「子育て世代」として、傾向を分析する。
- ・子育て世代の女性の年代構成については、「30代」が56.0%と過半数を占める。続いて「40代」が28.2%、「20代」が13.7%と、この3つの年代が中心。男性については、「30代」が47.4%と女性と同様に最も高いが、次に「40代」が38.3%と、女性に比べて「40代」の割合が10%ポイント程度高い。また、「20代」は8.3%となっている。
- ・同居家族を見てみると、男女ともに「20-39歳」では、「3歳未満の子供」、「3歳以上～6歳(小学生未満)」の子供が5割前後、「小学生」は33～37%程度となっている。「40-69歳」では、男女ともに「小学生」が7割を超え、顕著に高い。

◆年代構成



◆同居家族

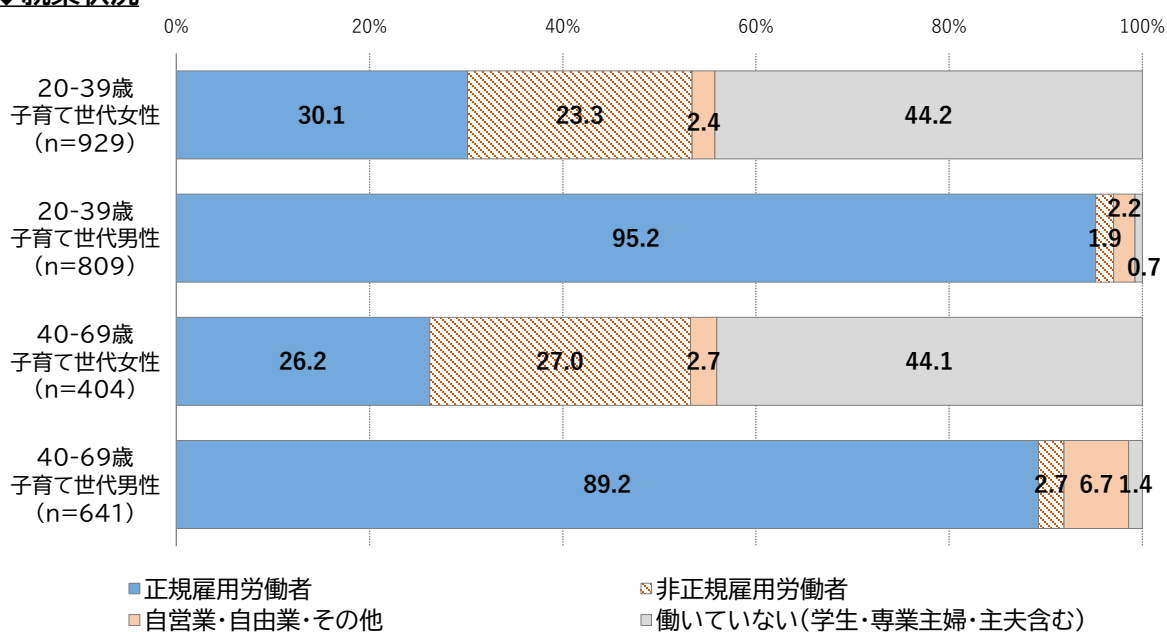


(2) 子育て世代の就業状況と勤務形態(年代別)

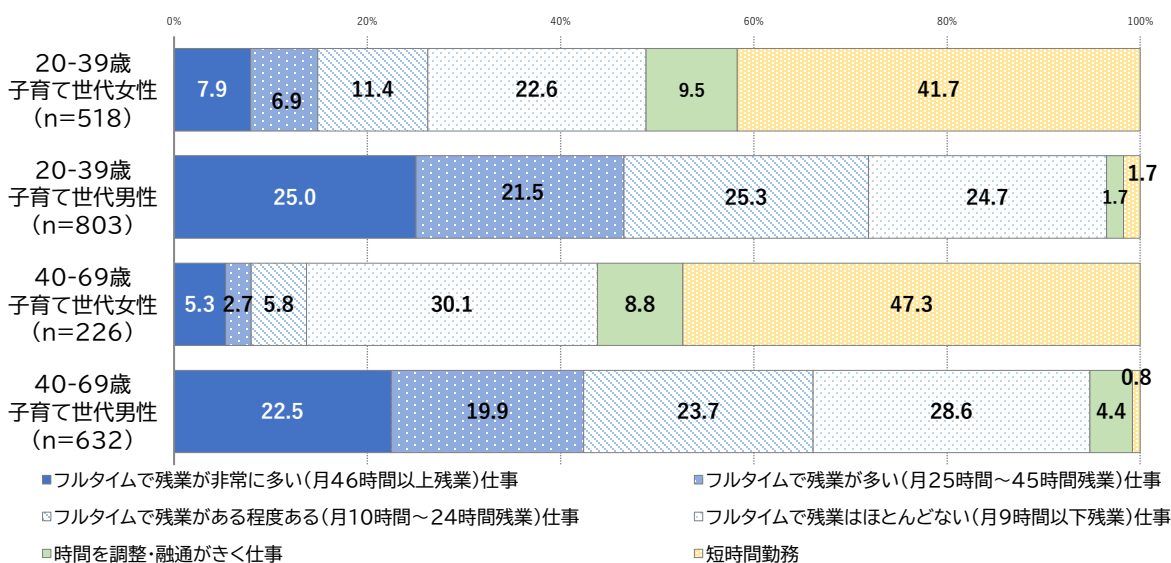
・現在の就業状況について見てみると、女性では、「20-39歳女性」「40-69歳女性」ともに、「正規雇用労働者」が3割、「非正規雇用労働者」が2～3割、「働いていない」が44%程度となっている。一方、男性は、どちらの年代でも9割前後が「正規雇用労働者」となっている。

・有職者の勤務形態(勤務時間)については、女性ではどちらの年代でも「短時間勤務」が4割を超える。男性では、どちらの年代でも「フルタイム」での仕事に9割を超え、「フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事」も2割以上と高い。

◆就業状況



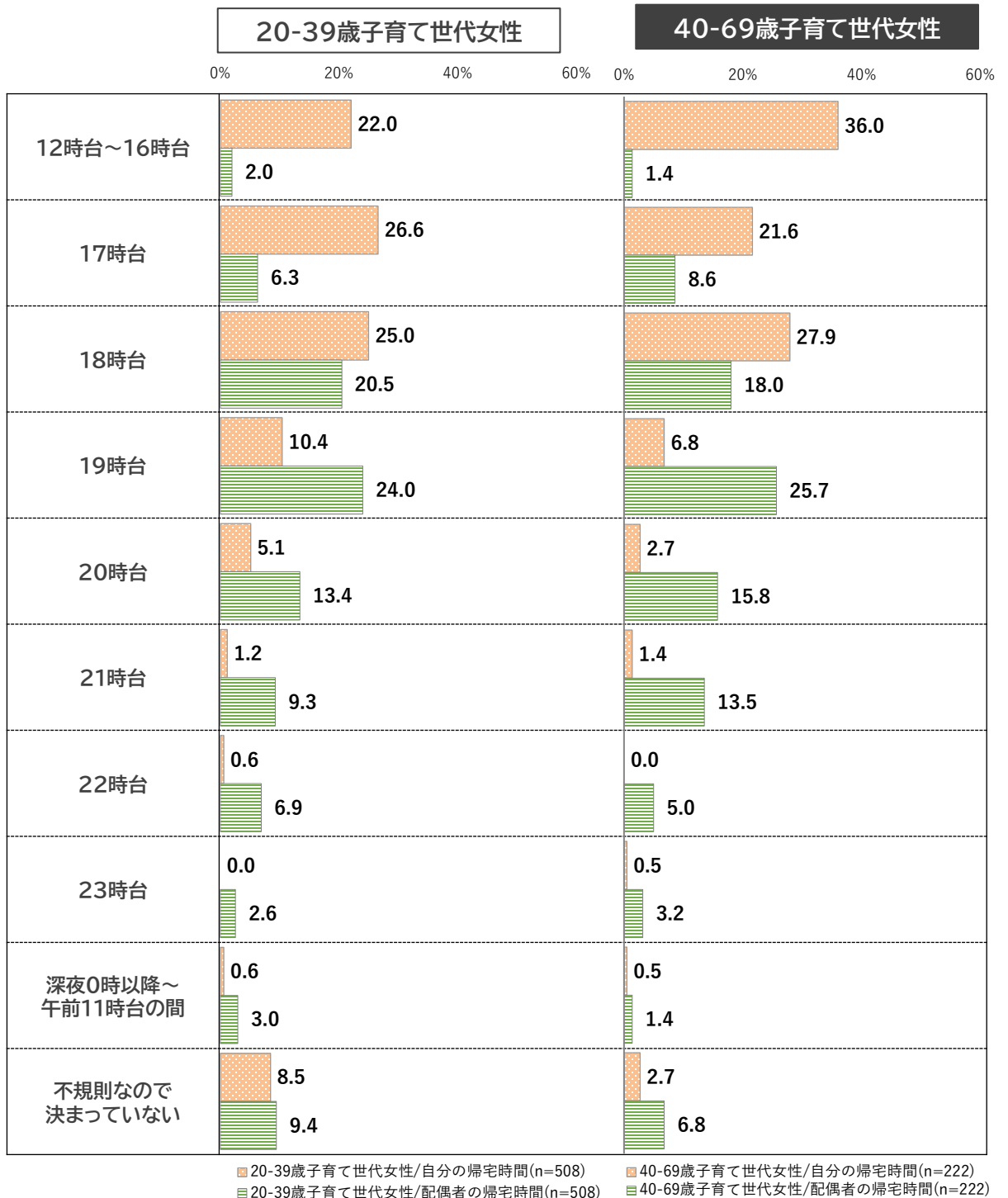
◆勤務形態(勤務時間)



(3) 子育て世代の仕事がある日の自分と配偶者の平均的な帰宅時間 (配偶者と同居しており、自分も配偶者も働いている子育て世代の女性)

・「自分の帰宅時間」と「配偶者の帰宅時間」を比較したものが下記である。「20-39歳」においては、18時台以前の時間帯については自分の割合の方が高く、19時台以降の時間帯については配偶者の割合の方が高い。なお、配偶者では「20時台以降」で35%となっている。

・40-69歳においても同様の傾向であり、特に自分では「12時台～16時台」が36.0%が最も高い。配偶者では「20時台以降」で4割を占める。



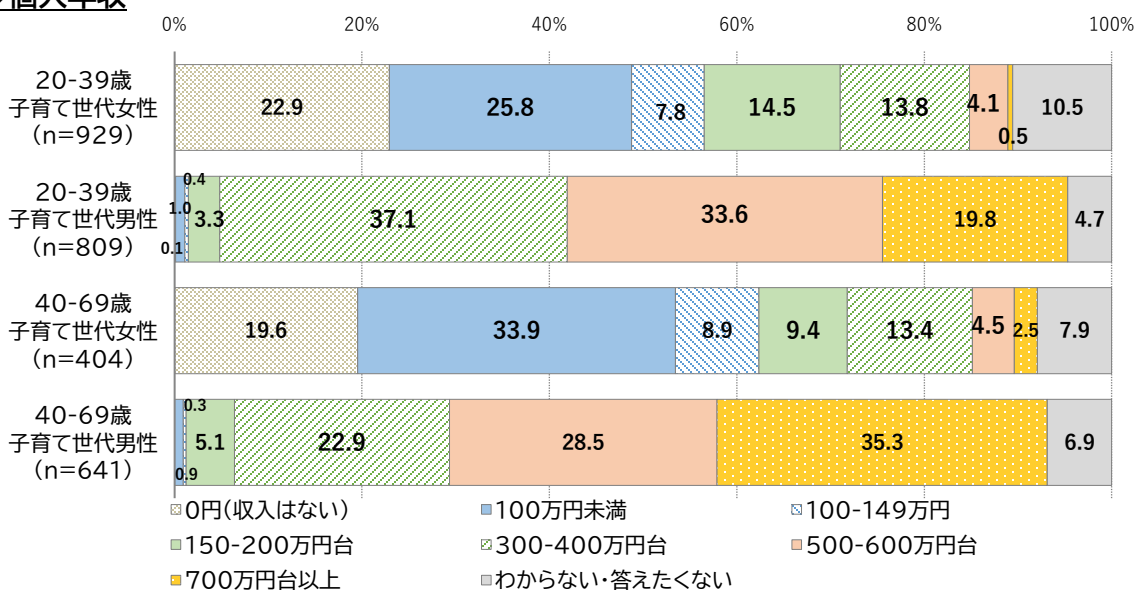
※配偶者の帰宅時間について「わからない・知らない」は表章していないため、合計が100%とならない。

(4) 子育て世代の年収(年代別)

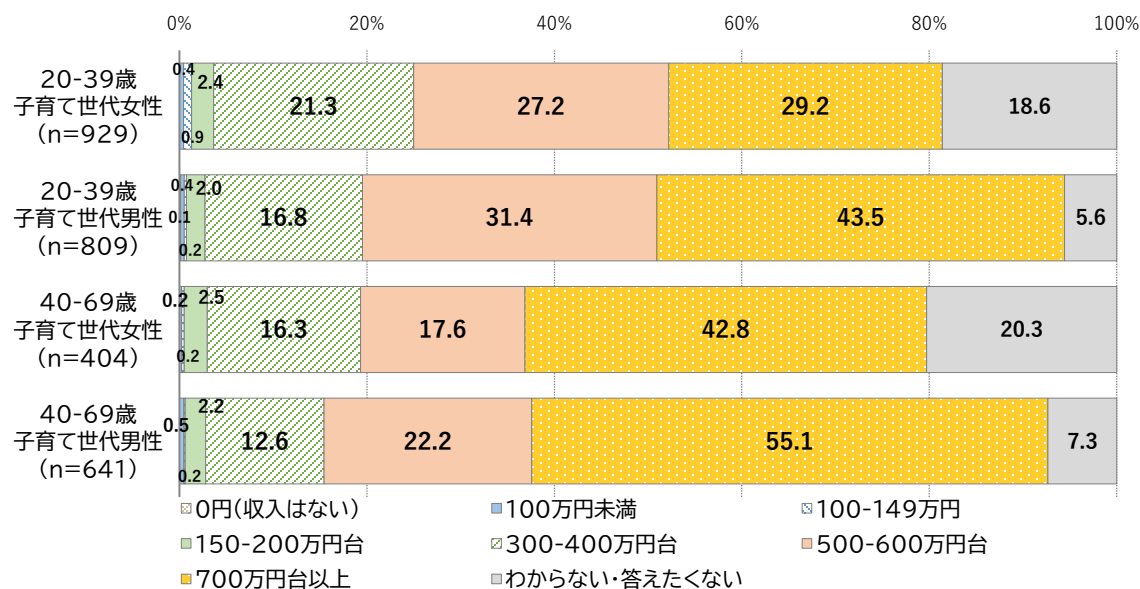
・個人年収について、「20-39歳女性」「40-69歳女性」ともに、最も高いのは「100万円未満」となっている。「300万円以上」は、どちらの年代でも2割程度。一方、「20-39歳男性」では、「300-400万円台」が最も高く37.1%。「500-600万円台」が33.6%、「700万円台以上」が19.8%。「40-69歳男性」では、「700万円台以上」が最も高く35.3%となっている。

・世帯年収について、どちらの年代でも女性において「わからない・答えたくない」が2割程度。「20-39歳」では、男女ともに「500-600万円台」が3割前後、「300-400万円台」が2割前後となる。「40-69歳」では、男女ともに「500-600万円台」が2割前後、「700万円台以上」は4割以上となっている。

◆個人年収

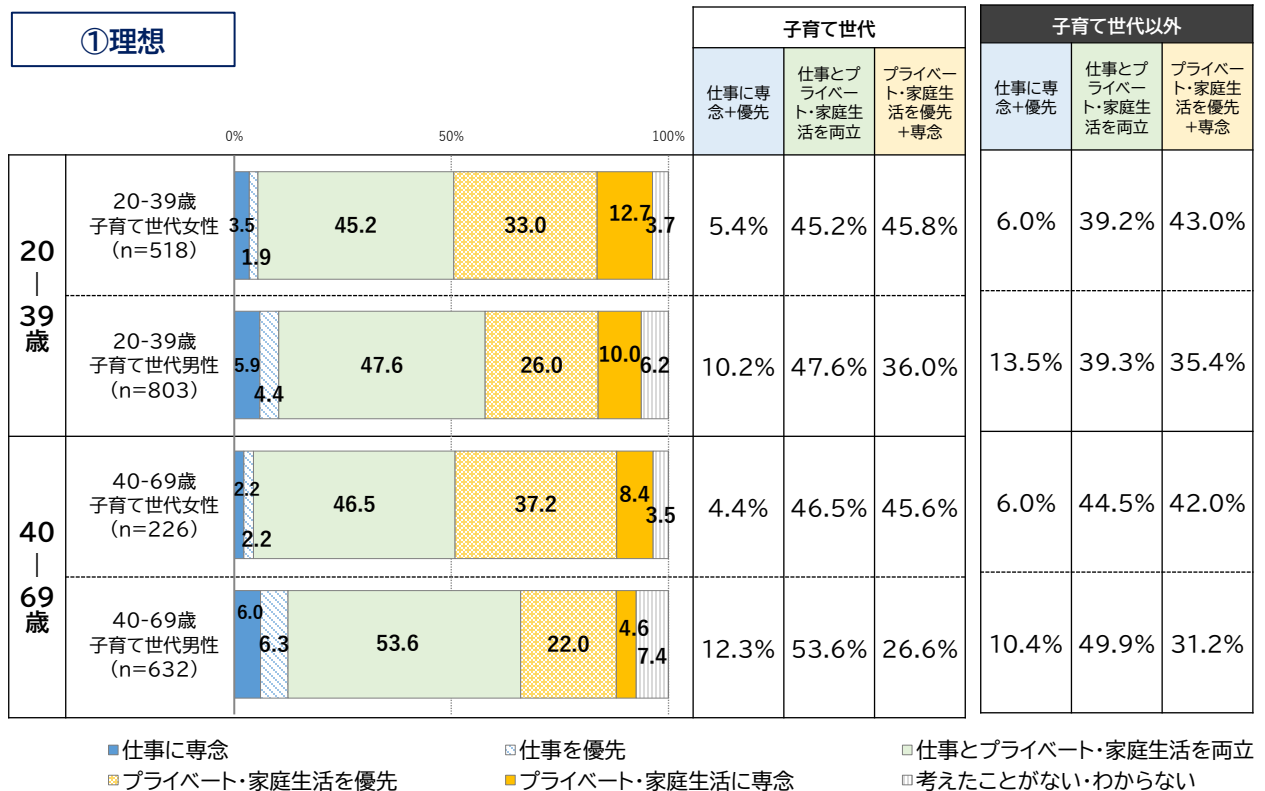


◆世帯年収



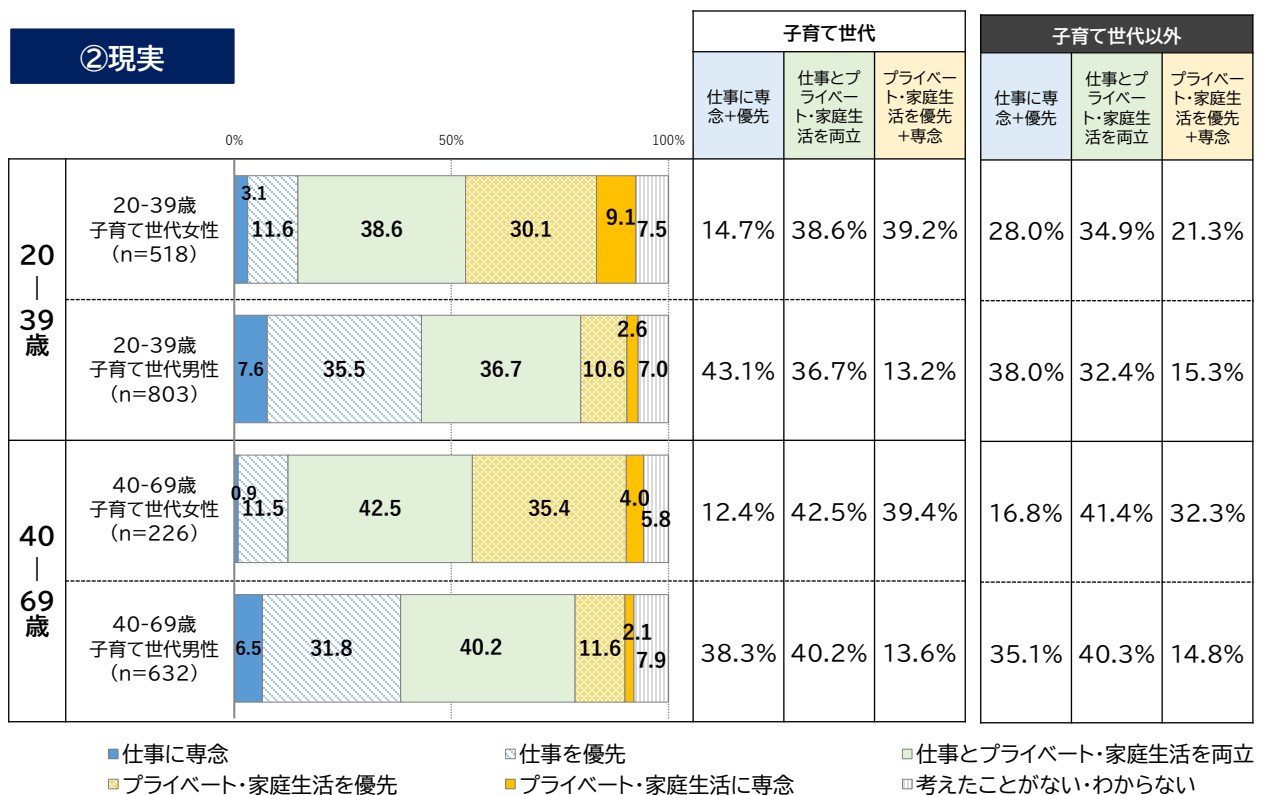
(5) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、理想)

- ・理想について、男女ともに、いずれの年代でも「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が最も高く、また「子育て世代以外」よりも「子育て世代」の方が「仕事とプライベート・家庭生活を両立」を挙げる割合がやや高い。
- ・「20-39歳子育て世代」では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男性の方が10%ポイント程度低い。一方「仕事とプライベート・家庭生活を両立」は、男女ともに45~48%と同程度。
- ・「40-69歳子育て世代」では「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男女差が若い年代よりも大きく、男性の方が20%ポイント程度低くなっており、その分「仕事とプライベート・家庭生活を両立」の割合が男性で53.6%と高い。



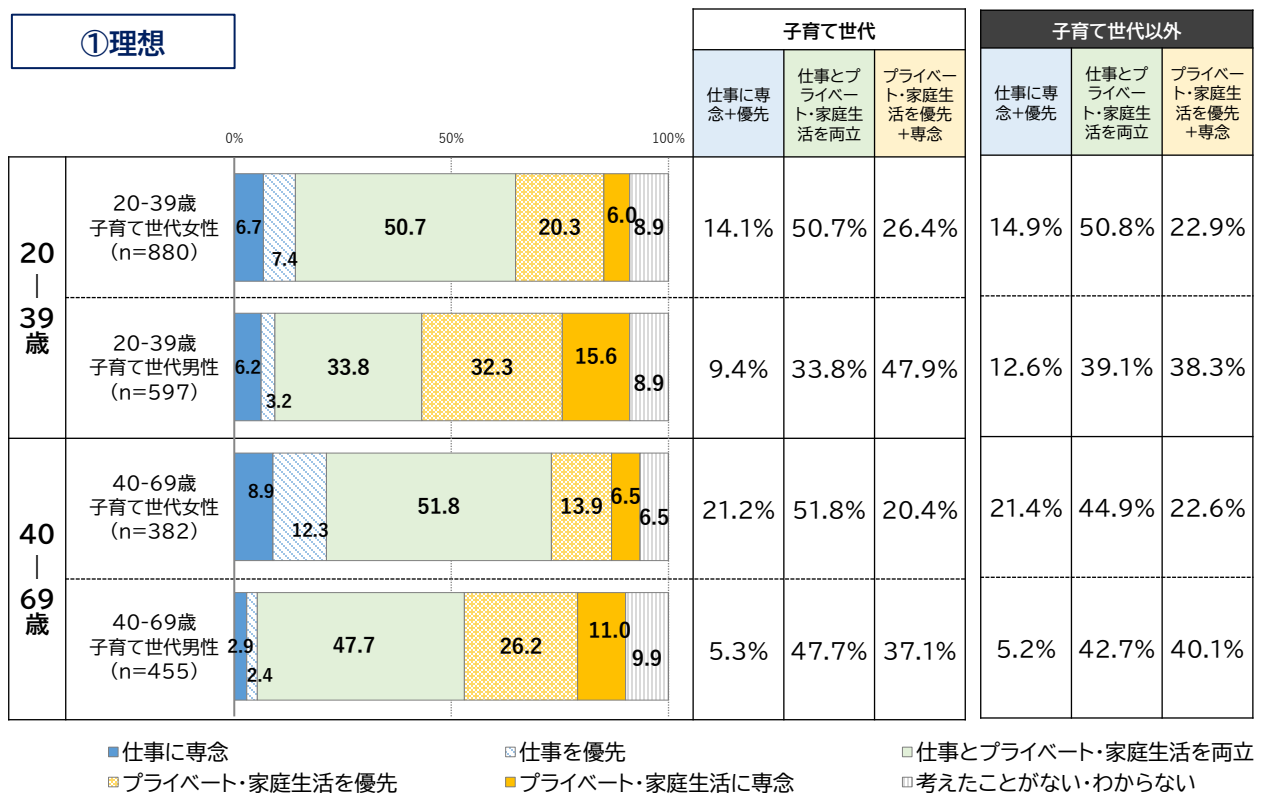
(6) 仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者、現実)

- ・現実について、「20-39歳子育て世代」の女性では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」「仕事とプライベート・家庭生活を両立」がどちらも4割程度。一方男性では、「仕事に専念+優先」が43.1%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が36.7%と、「仕事に専念+優先」の割合が女性よりも30%ポイント程度高い。
- ・「40-69歳子育て世代」の女性では、「プライベート・家庭生活を優先+専念」「仕事とプライベート・家庭生活を両立」がどちらも4割程度。一方男性では、「仕事に専念+優先」が38.3%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が40.2%と、「仕事に専念+優先」の割合が女性に対して25%ポイント程度高い。
- ・「理想」と「現実」を比較すると、女性ではどちらの年代でも10%ポイント以上の差はない。一方、男性では「仕事に専念+優先」において差が大きく、特に「20-39歳」では理想に対して現実では「仕事に専念+優先」の割合が30%ポイント以上高い。
- ・「子育て世代」と「子育て世代以外」を比較すると、「20-39歳」では、「子育て世代以外の女性」の方が「仕事に専念+優先」の割合が10%ポイント以上高く、「子育て世代の女性」では「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。



(7) 配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者対象、理想)

- ・「20-39歳子育て世代」の配偶者への理想は、「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男性の方が20%ポイント以上高い。一方、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」は、女性で50.7%、男性で33.8%と、女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・「40-69歳子育て世代」の配偶者への理想は、「プライベート・家庭生活を優先+専念」について、男性の方が10%ポイント以上高い。一方、「仕事に専念+優先」は、女性で21.2%、男性で5.3%と、女性の方が10%ポイント以上高い。
- ・配偶者が有職の「子育て世代」と「子育て世代以外」について、10%ポイント以上差がある項目はなかった。

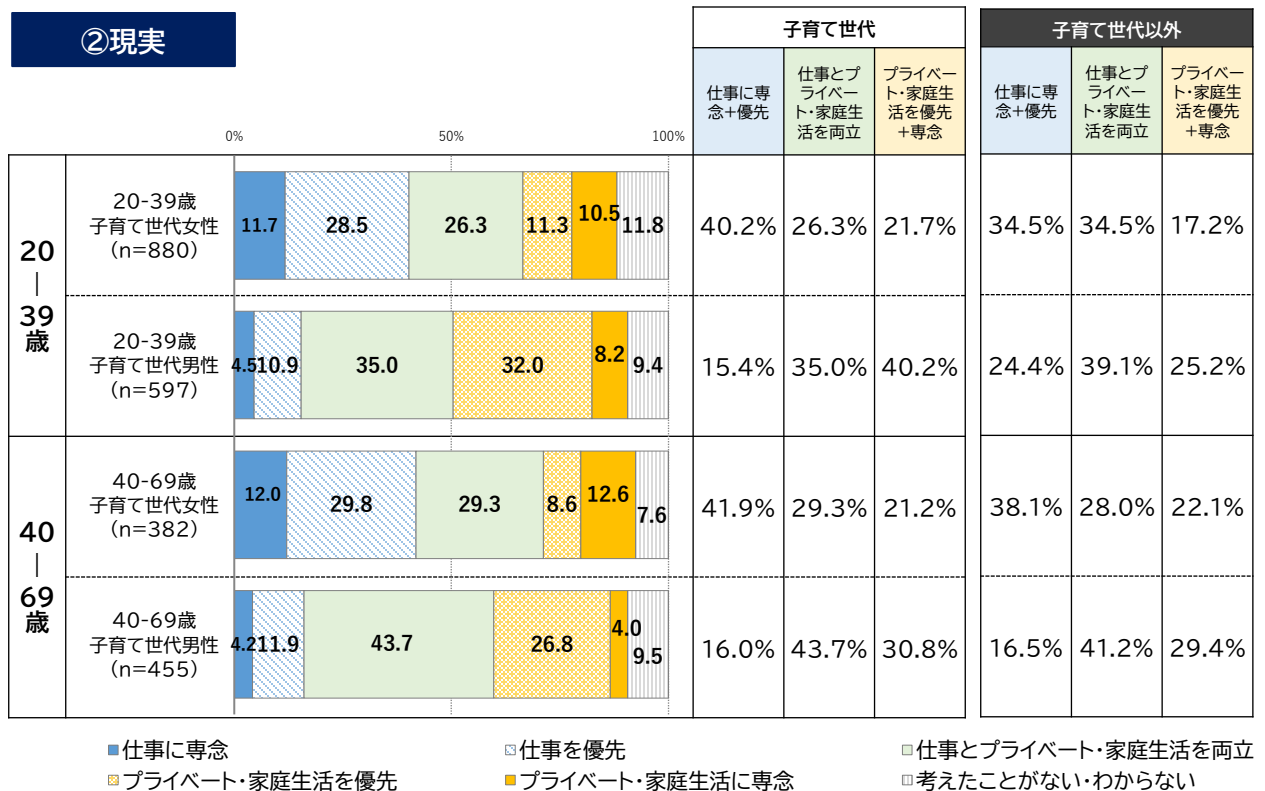


(8) 配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者対象、現実)

・「20-39歳子育て世代」では、女性では配偶者の現実として「仕事に専念+優先」が40.2%と、理想よりも「仕事に専念+優先」の割合が20%ポイント以上高い。一方、男性は、配偶者の現実について「プライベート・家庭生活を優先+専念」が40.2%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が35.0%と、理想と比較して大きな差はない。

・「40-69歳子育て世代」では、女性では配偶者の現実として「仕事に専念+優先」が41.9%と、理想よりも「仕事に専念+優先」の割合が20%以上高い。一方、男性は、配偶者の現実について「プライベート・家庭生活を優先+専念」が30.8%、「仕事とプライベート・家庭生活を両立」が43.7%、「仕事に専念+優先」が16.0%と、理想よりも「仕事に専念+優先」の割合が10%ポイント以上高い。

・「子育て世代」と「子育て世代以外」を比較すると、「20-39歳男性」で、「子育て世代」の方が「仕事に専念+優先」の割合が9%ポイント低く、「プライベート・家庭生活を優先+専念」の割合が10%ポイント以上高い。



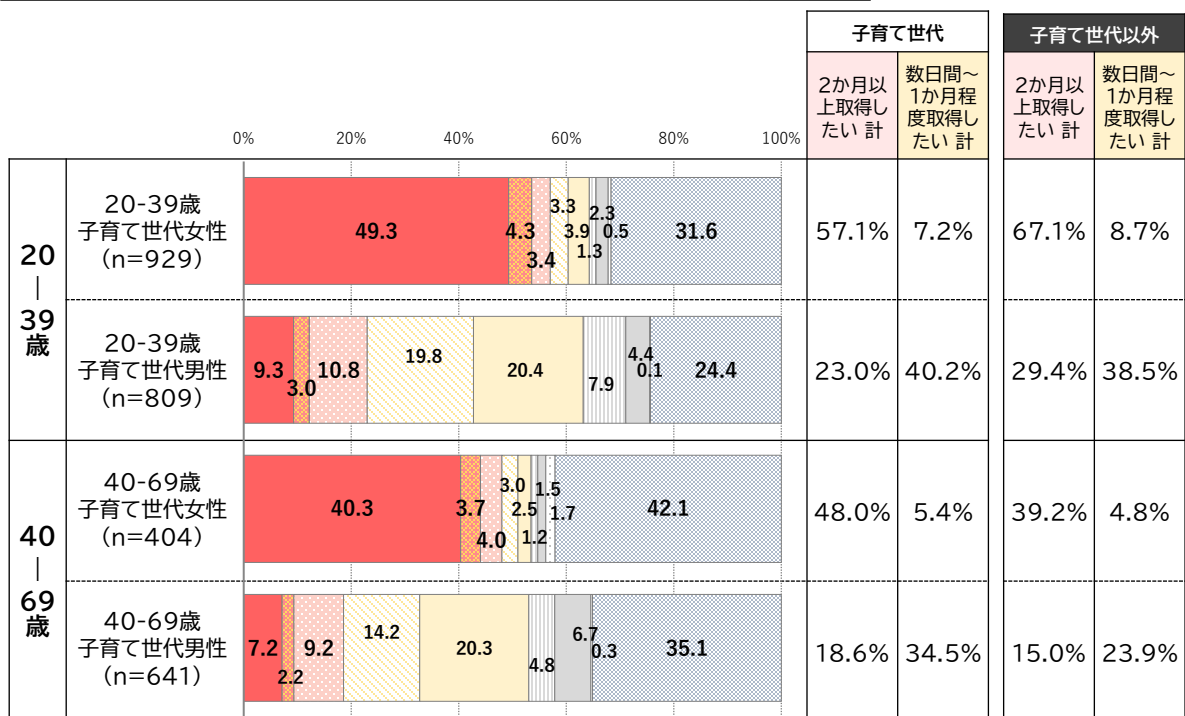
(9) 育児休業

- ・育児休業取得状況について、「20-39歳子育て世代」においては、女性で45.5%、男性で23.6%が「取得経験有り(取得中含む)」となっている。「40-69歳子育て世代」では、女性で31.4%、男性で12.8%が「取得経験有り」となっている。
- ・育児休業取得の希望では、「20-39歳子育て世代」においては、女性で57.1%、男性で23.0%が「2か月以上取得したい」となっている。「40-69歳子育て世代」では、女性で48.0%、男性で18.6%が「2か月以上取得したい」となっており、男女とも若い年代の方が割合は高い。
- ・「子育て世代」と「子育て世代以外」を比較すると、「20-39歳」では、男女ともに「子育て世代以外」の方が「2か月以上取得したい」割合が高い。「40-69歳」では、「子育て世代」の方が、「2か月以上取得したい」が高い。

◆育児休業取得の経験

	自分が育児休業を取得したことがある・取得中	自分が育児休業を取得したことはない
20-39歳子育て世代女性(n=929)	45.5%	54.5%
20-39歳子育て世代男性(n=809)	23.6%	76.4%
40-69歳子育て世代女性(n=404)	31.4%	68.6%
40-69歳子育て世代男性(n=641)	12.8%	87.2%

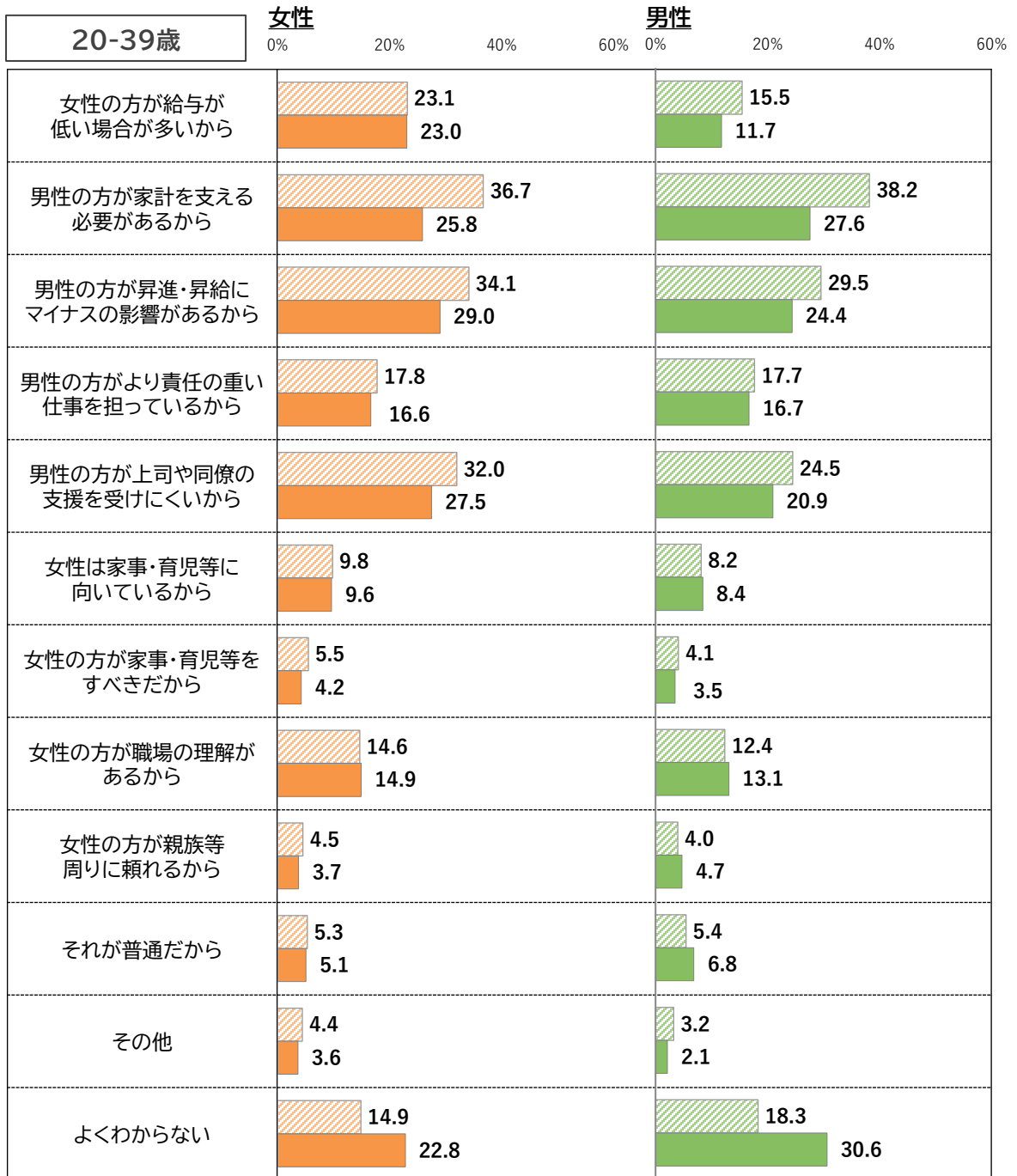
◆育児休業取得(第1子が生まれてから、子供が0~3歳の頃)の希望



- 育児休業を半年以上取得したい
- 育児休業を4-5か月(半年未満)取得したい
- 育児休業を2-3か月取得したい
- 育児休業を1か月程度取得したい
- 育児休業を数日間取得したい
- 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- その他
- 覚えていない・特に希望はない・なかった

(10) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(20-39歳)

- ・男女ともに、「男性の方が家計を支える必要があるから」は、「子育て世代」の方が「子育て世代以外」よりも10%ポイント以上高い。
- ・「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」についても、「子育て世代」の方が高い傾向が見られた。



▨ 20-39歳子育て世代女性(n=929)

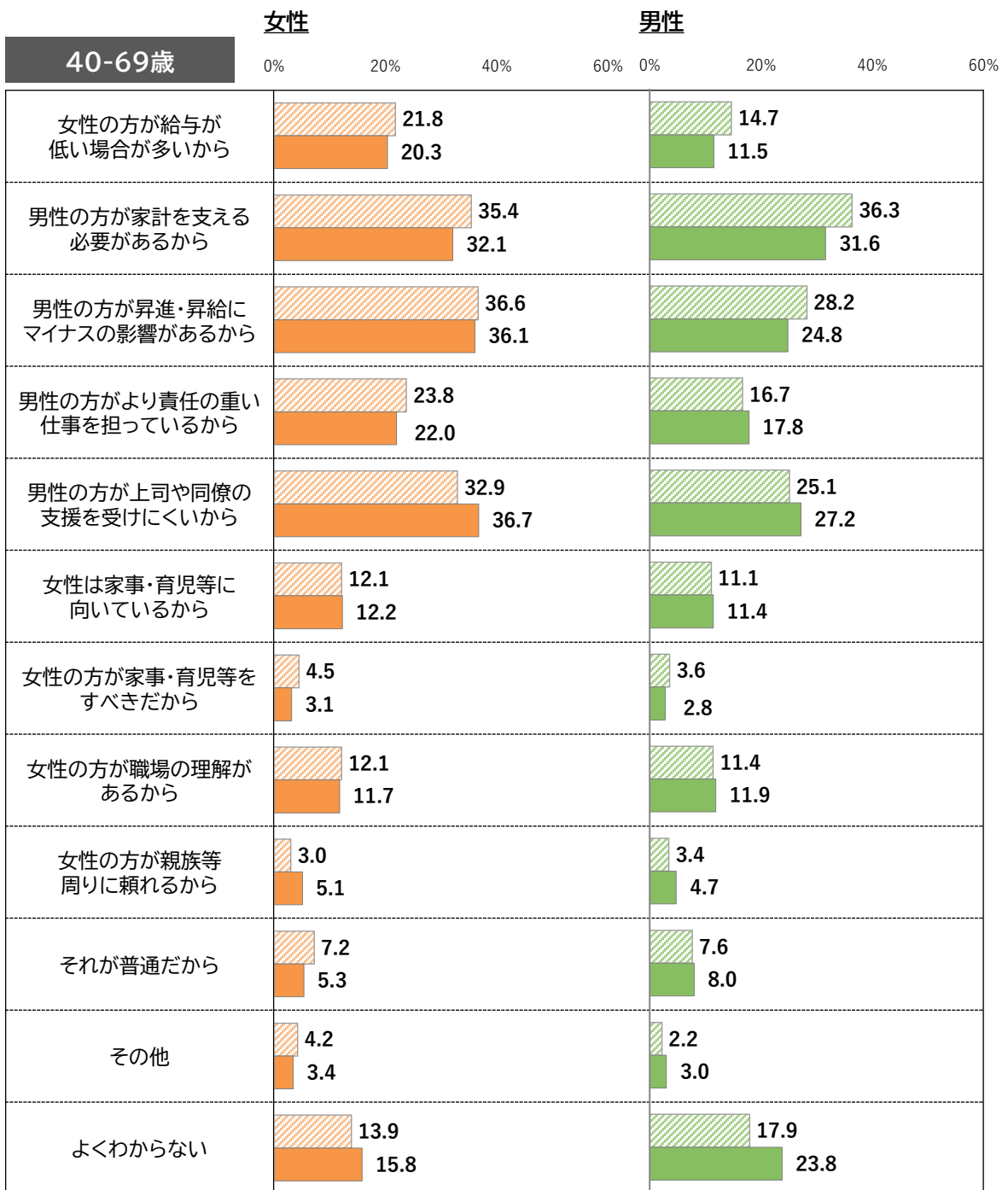
▨ 20-39歳子育て世代男性(n=809)

■ 20-39歳子育て世代以外の女性(n=2,414)

■ 20-39歳子育て世代以外の男性(n=2,545)

(10) 男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由(40-69歳)

- ・「子育て世代」と「子育て世代以外」であまり大きな差はないが、「男性の方が家計を支える必要があるから」については、「子育て世代」の方が「子育て世代以外」よりも高い傾向が見られた。
- ・「子育て世代」においては男女差はあまり大きくないが、「女性の方が給与が低い場合が多いから」「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから」「男性の方がより責任の重い仕事を担っているから」「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから」については、女性の方がやや高い。



■ 40-69歳子育て世代女性(n=404)

■ 40-69歳子育て世代以外の女性(n=6,334)

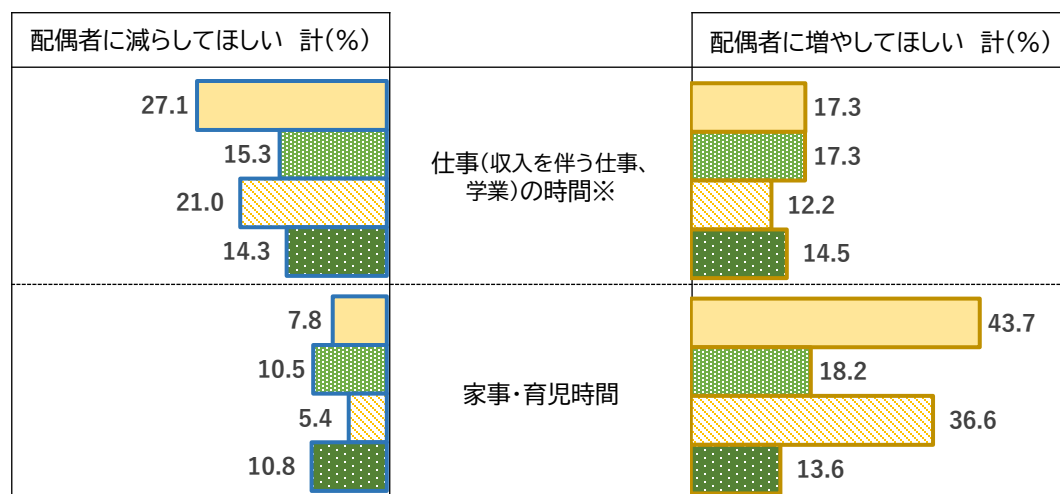
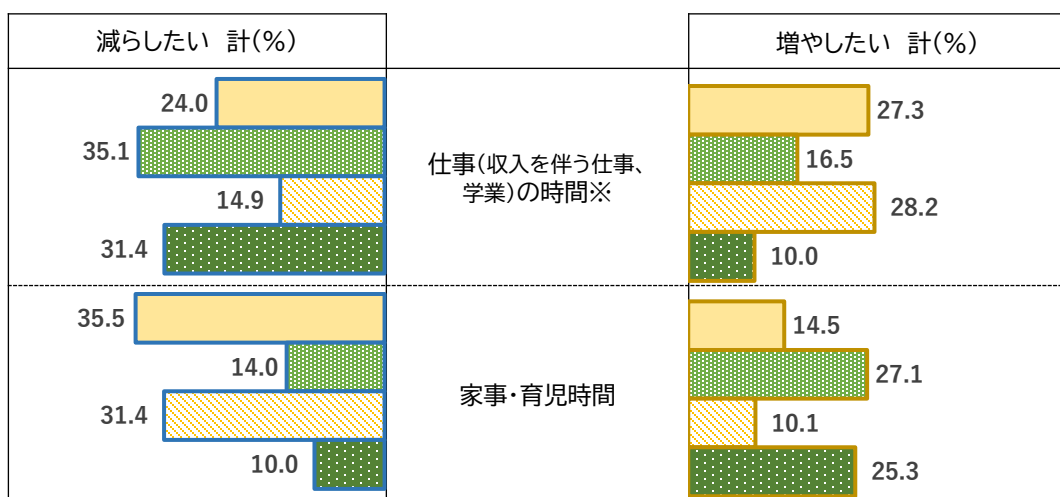
■ 40-69歳子育て世代男性(n=641)

■ 40-69歳子育て世代以外の男性(n=5,924)

(11) 生活時間の増減希望(自分・配偶者)

- ・自分の仕事時間の増減希望について、「子育て世代女性」では、「20-39歳」では「減らしたい」24.0%、「増やしたい」27.3%と同程度。「40-69歳」では、「増やしたい」が28.2%と、「減らしたい」14.9%を上回る。「子育て世代男性」では、どちらの年代でも「減らしたい」が3割を超える。
- ・自分の家事・育児時間の増減希望については、「子育て世代女性」では、どちらの年代でも「減らしたい」が3割を超える。一方、「子育て世代男性」では、どちらの年代でも「増やしたい」が25%を超える。
- ・配偶者への仕事時間の増減希望については、「子育て世代女性」では、「20-39歳」で「減らしてほしい」が27.1%と、「増やしてほしい」17.3%を上回る。「子育て世代男性」では、どちらの年代でも「減らしてほしい」「増やしてほしい」が同程度。
- ・配偶者の家事・育児時間の増減希望については、「子育て世代女性」では、どちらの年代でも「増やしてほしい」が3割を超え高いが、特に「20-39歳」で43.7%と高い。「子育て世代男性」では、「減らしてほしい」「増やしてほしい」がどちらも1割強となった。

■ 20-39歳子育て世代女性(n=929) ※nは全数、設問によって変わる
■ 20-39歳子育て世代男性(n=809) ※該当しないは除いて集計
■ 40-69歳子育て世代女性(n=404)
■ 40-69歳子育て世代男性(n=641)



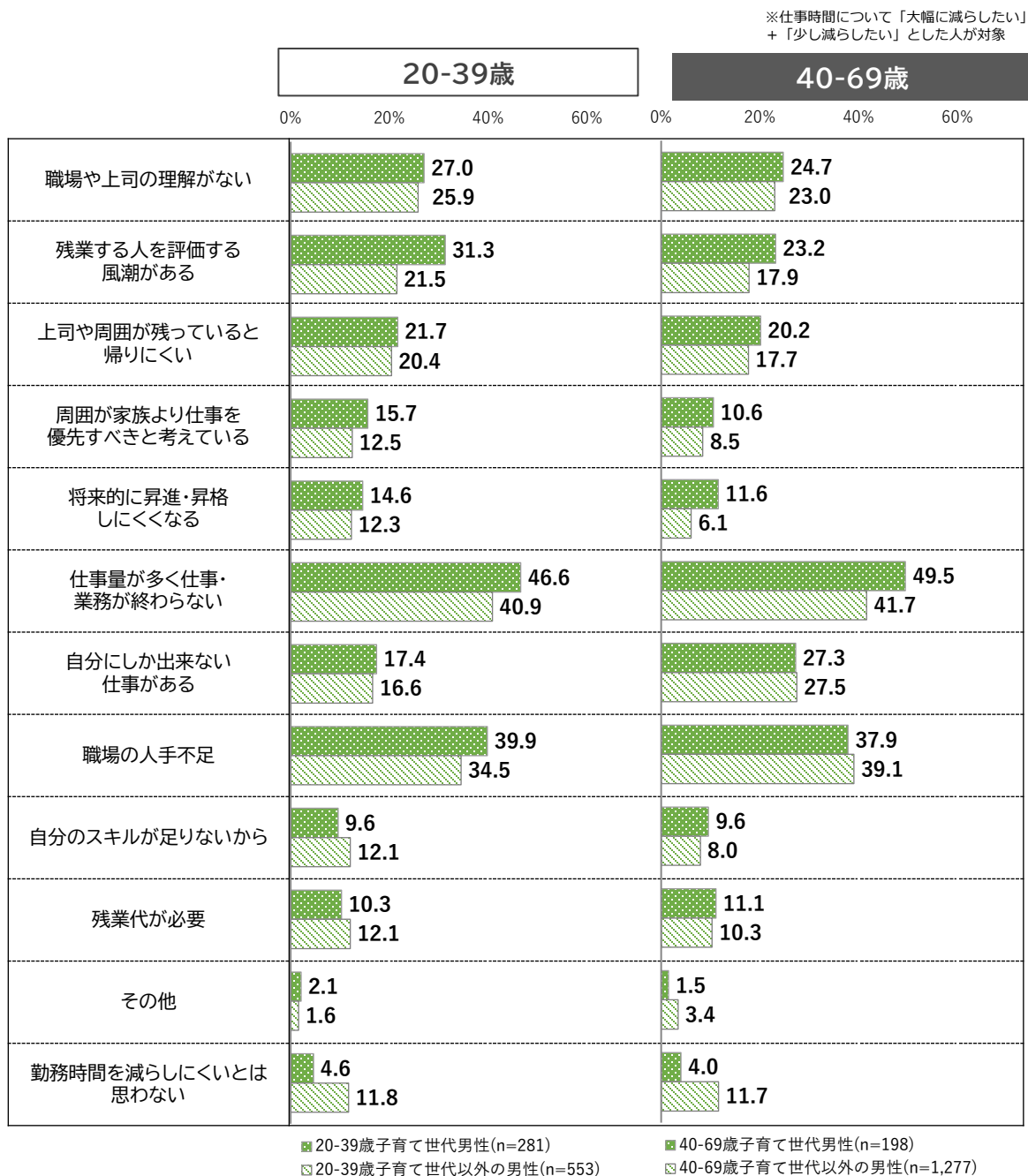
※減らしたい計 = 「大幅に減らしたい」 + 「少し減らしたい」
 ※増やしたい計 = 「大幅に増やしたい」 + 「少し増やしたい」
 ※減らしてほしい計 = 「大幅に減らしてほしい」 + 「少し減らしてほしい」
 ※増やしてほしい計 = 「大幅に増やしてほしい」 + 「少し増やしてほしい」

(12) 勤務時間を減らしにくい理由(男性、仕事を減らしたい人対象)

・男性の勤務時間を減らしにくい理由を見てみると、「20-39歳」では、「残業する人を評価する風潮がある」について、「子育て世代男性」の方が、「子育て世代以外の男性」よりも10%ポイント程度高い。また、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」「職場の人手不足」についても、「子育て世代男性」の方がやや高い傾向が見られた。

・「40-69歳」では、「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」については、「子育て世代男性」の方がやや高い傾向が見られた。

・年代で比較すると、「残業する人を評価する風潮がある」について、「20-39歳」の方が、「40-69歳」よりも高い傾向が見られた。また「自分にしか出来ない仕事がある」は、「子育て世代」「子育て世代以外」のいずれも、「40-69歳」の方が「20-39歳」よりも10%ポイント程度高い。

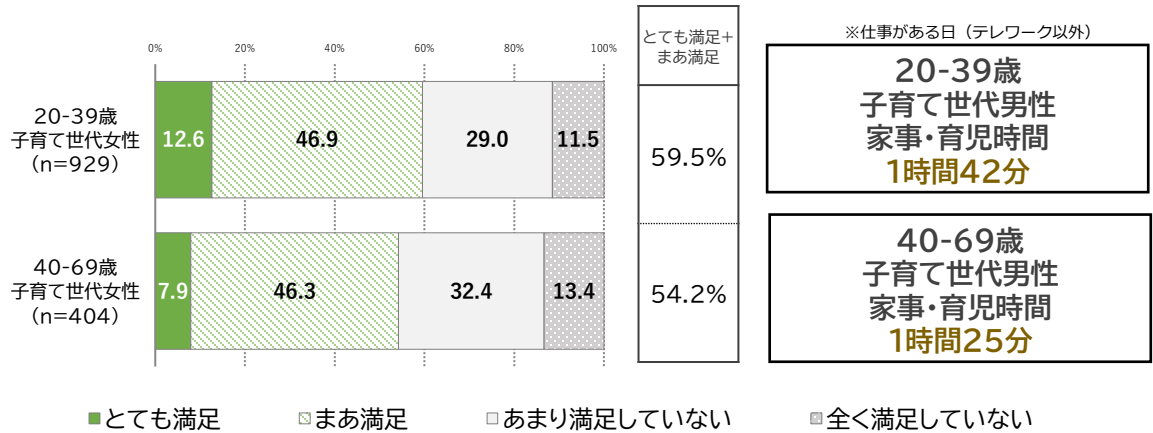


(13) 配偶者の実施する家事への満足度

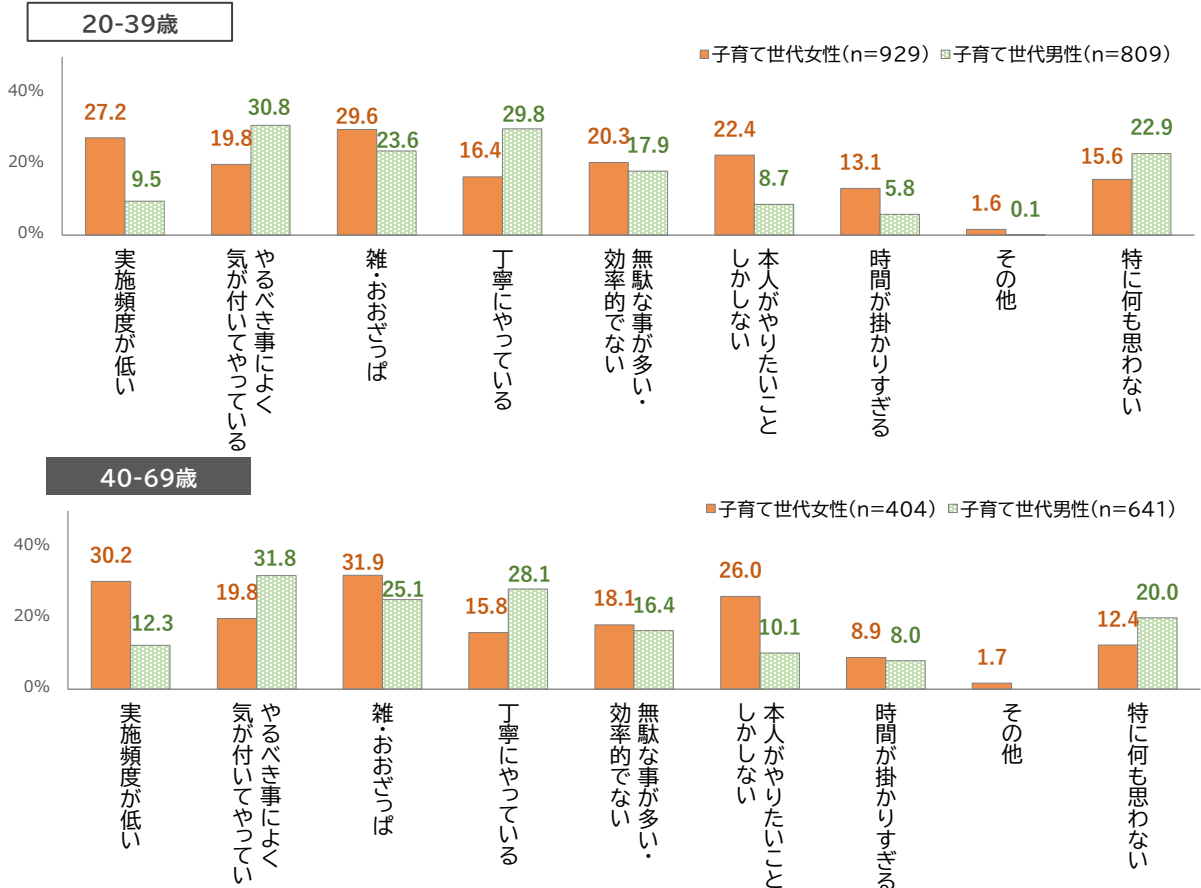
・女性の配偶者の家事への満足度について、子育て世代女性で「とても満足」+「まあ満足」の累計値を見てみると、「20-39歳」で59.5%、「40-69歳」で54.2%と、「20-39歳」の方がやや高い。子育て世代男性における「家事・育児時間」を見てみると、「20-39歳」で1時間42分、「40-69歳」で1時間25分と、「40-69歳」の方が17分長く、女性側の満足度もそれに伴っている可能性がある。

・配偶者の実施する家事についてどう感じるかについては、「20-39歳」「40-69歳」どちらの年代でも「実施頻度が低い」「本人がやりたいことしかしかない」は女性の方が10%ポイント以上高く、「やるべきことに気が付いてよくやっている」「丁寧にやっている」は男性の方が10%ポイント以上高い。

配偶者の実施する家事についての満足度

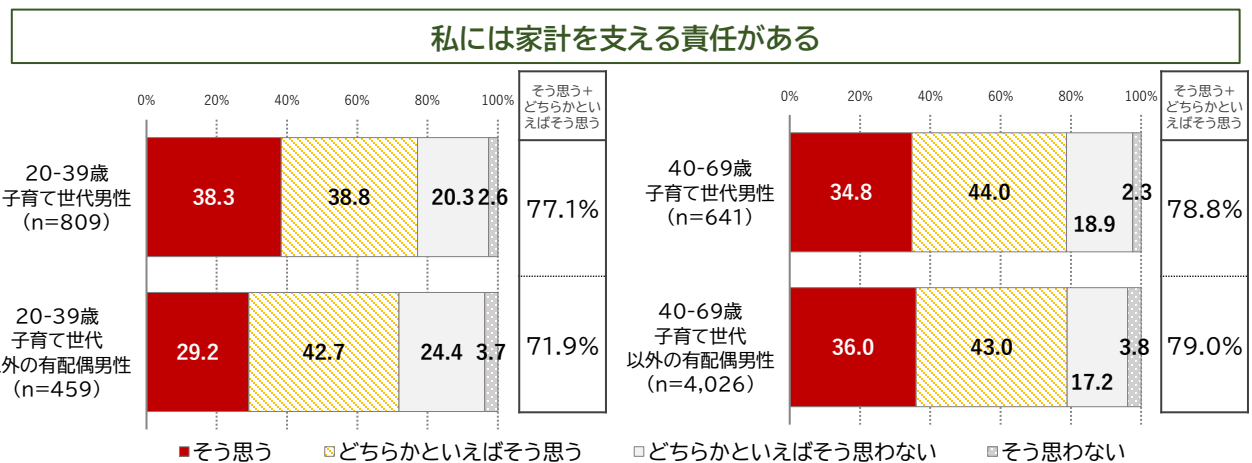
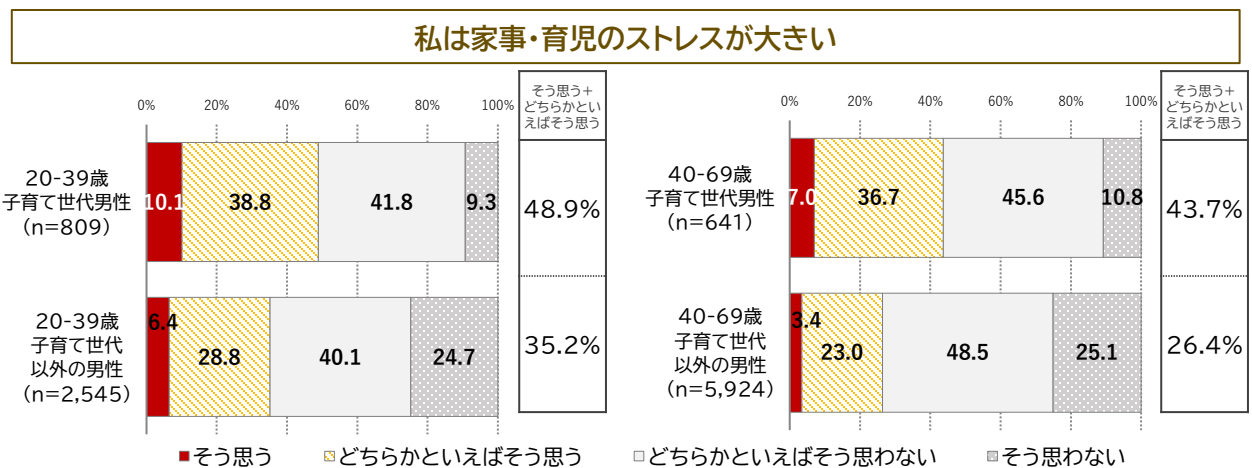
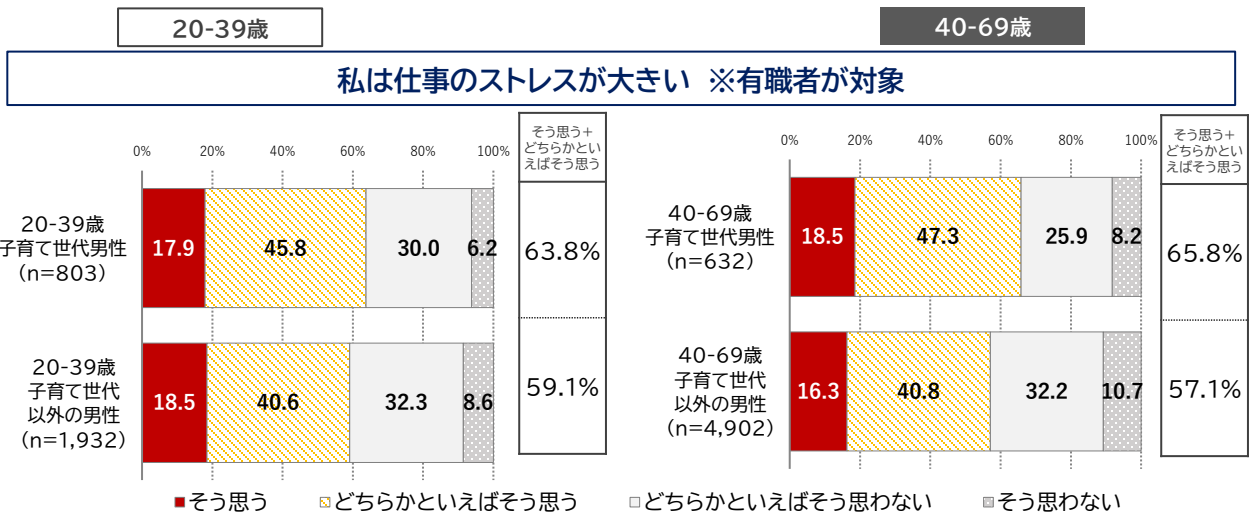


配偶者の実施する家事についてどう感じるか



(14) 自分のストレスや責任などについての考え方(男性)

- ・男性有職者における「仕事のストレス」について比較すると(ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値、以下同様)、「子育て世代の男性」「子育て世代以外の男性」で、どちらの年代でも10%ポイント以上の差はないが、やや「子育て世代の男性」の方がストレスが大きい割合が高い。
- ・「家事・育児のストレス」を比較すると、どちらの年代でも、「子育て世代の男性」の方が、「子育て世代以外の男性」に比べて、10%ポイント以上ストレスが大きい割合が高い。
- ・有配偶における「家計を支える責任」について比較してみると、20-39歳においては、「子育て世代の男性」の方が、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の累計がやや高い。

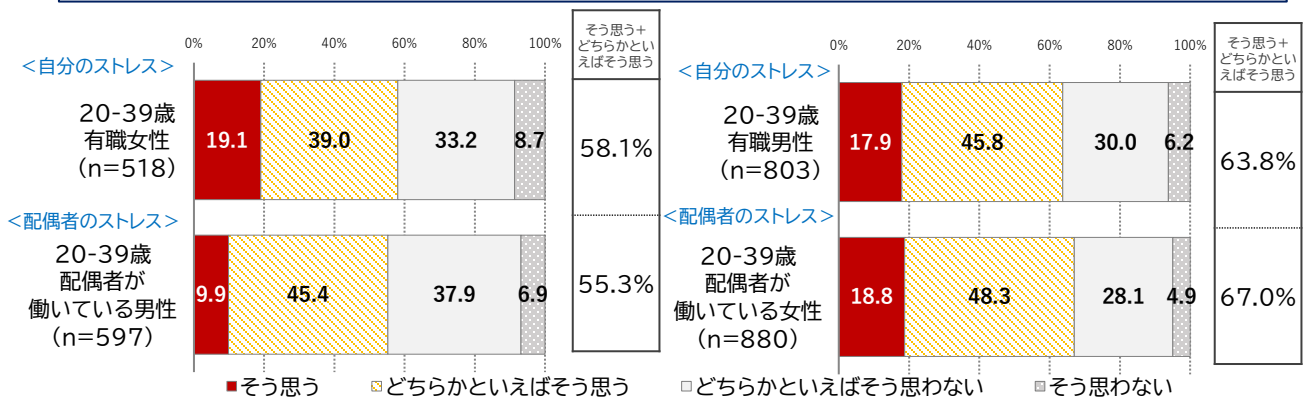


(15) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(20-39歳)

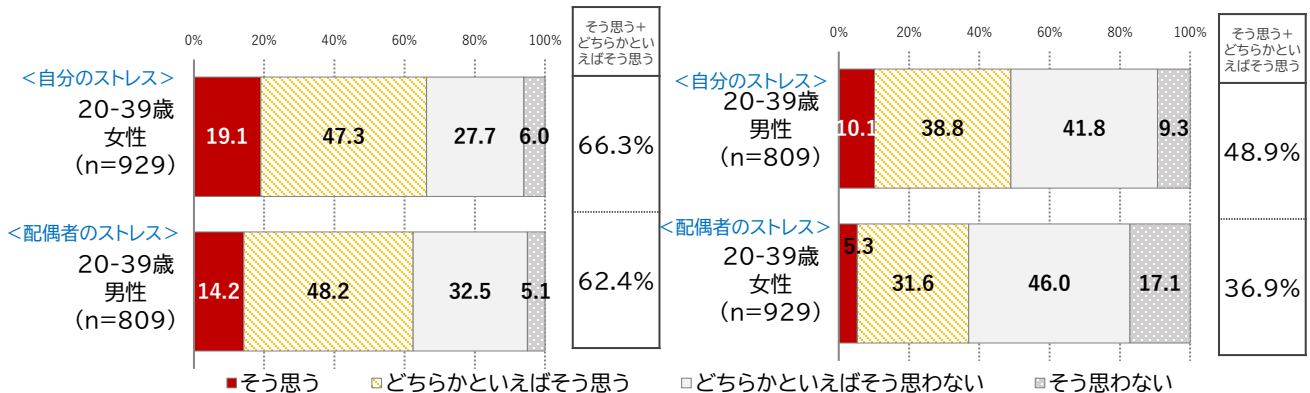
- ・「20-39歳子育て世代」において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと」考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレス58.1%と、男性が配偶者に対して考えるストレス55.3%は同程度。男性が感じるストレスは63.8%、女性が配偶者に対して考えるストレスは67.0%と同程度。
- ・家事・育児のストレスでは、女性が感じるストレスは66.3%と、男性が配偶者に対して考えるストレスは62.4%と同程度。男性のストレス48.9%に対して、女性が配偶者に対して考えるストレスは36.9%と10%ポイント以上差がある。
- ・家計を支える責任については、女性が考える責任と男性が配偶者に対して考える責任はどちらも4割強、男性が考える責任と女性が配偶者に対して考える責任はどちらも8割程度となった。

20-39歳 子育て世代

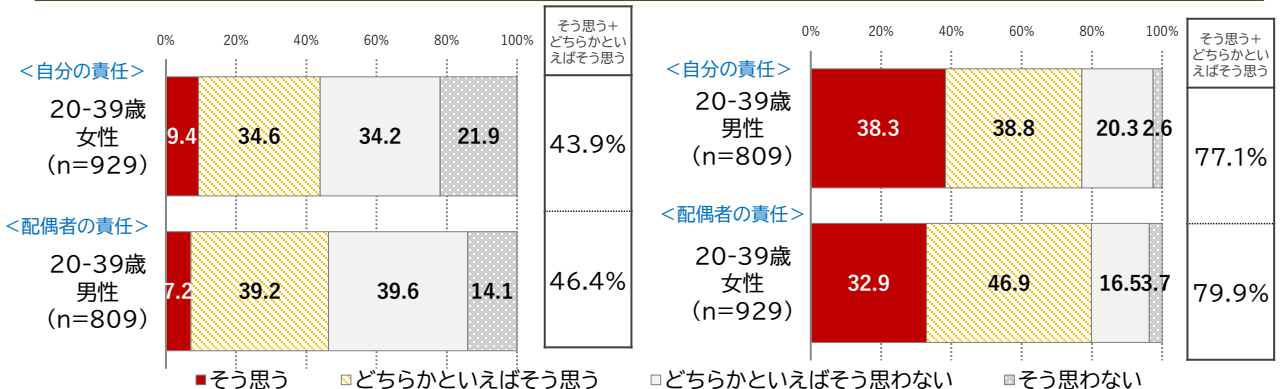
仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



家事・育児のストレスが大きい



家計を支える責任がある



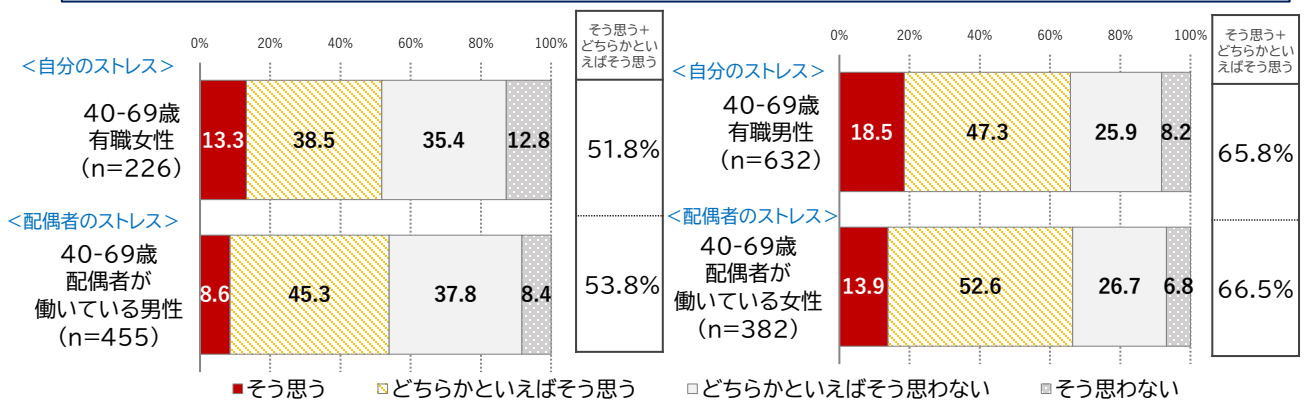
※カプセル調査ではないことに留意。

(15) 自分と配偶者のストレスや責任などについての考え方(40-69歳)

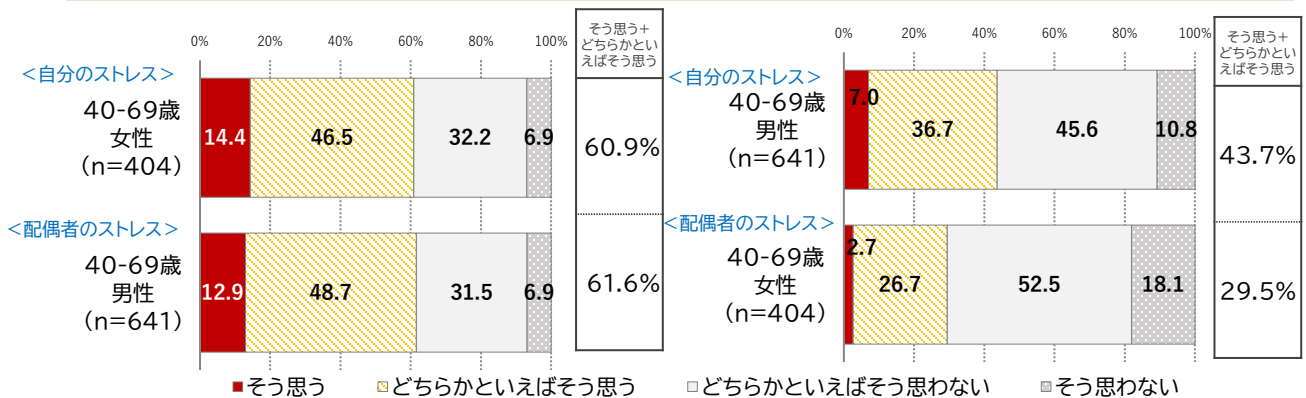
- ・「40-69歳子育て世代」において、自分が感じるストレスや責任と、配偶者が「感じているのではないかと」考えるストレスや責任について比較したものが下記である。
- ・仕事のストレスについては、女性が感じるストレス51.8%と、男性が配偶者に対して考えるストレス53.8%は同程度。男性の感じるストレス65.8%に対して、女性が配偶者に対して考えるストレス66.5%も同程度。
- ・家事・育児のストレスでは、女性の感じるストレス60.9%と、男性が配偶者に対して考えるストレスは61.6%と同程度。男性の感じるストレス43.7%に対して、女性が配偶者に対して考えるストレスは29.5%と10%ポイント以上差がある。
- ・家計を支える責任については、女性が考える責任と男性が配偶者に対して考える責任はどちらも4割前後、男性が考える責任と女性が配偶者に対して考える責任はどちらも8割前後となった。

40-69歳 子育て世代

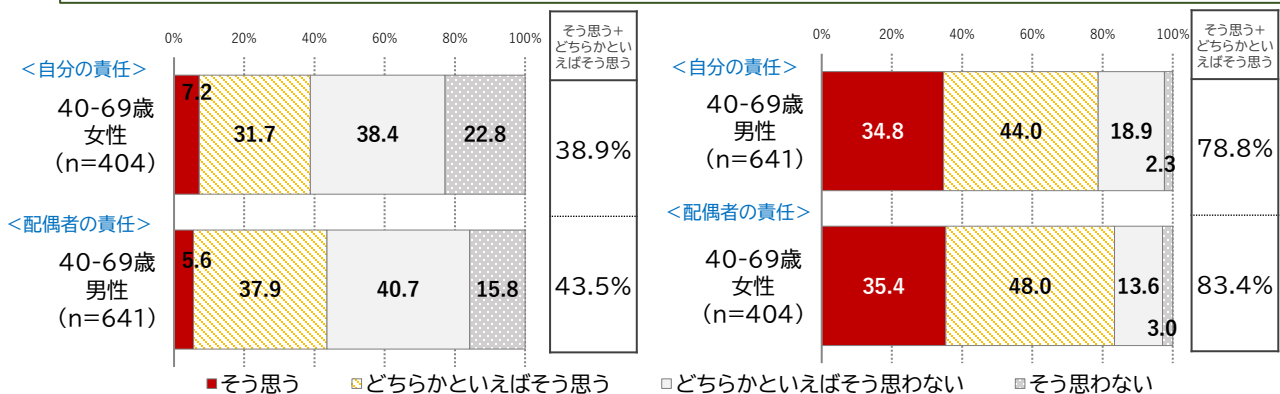
仕事のストレスが大きい ※有職者が対象



家事・育児のストレスが大きい



家計を支える責任がある



※カップル調査ではないことに留意。

4. 就職氷河期世代を取り巻く状況

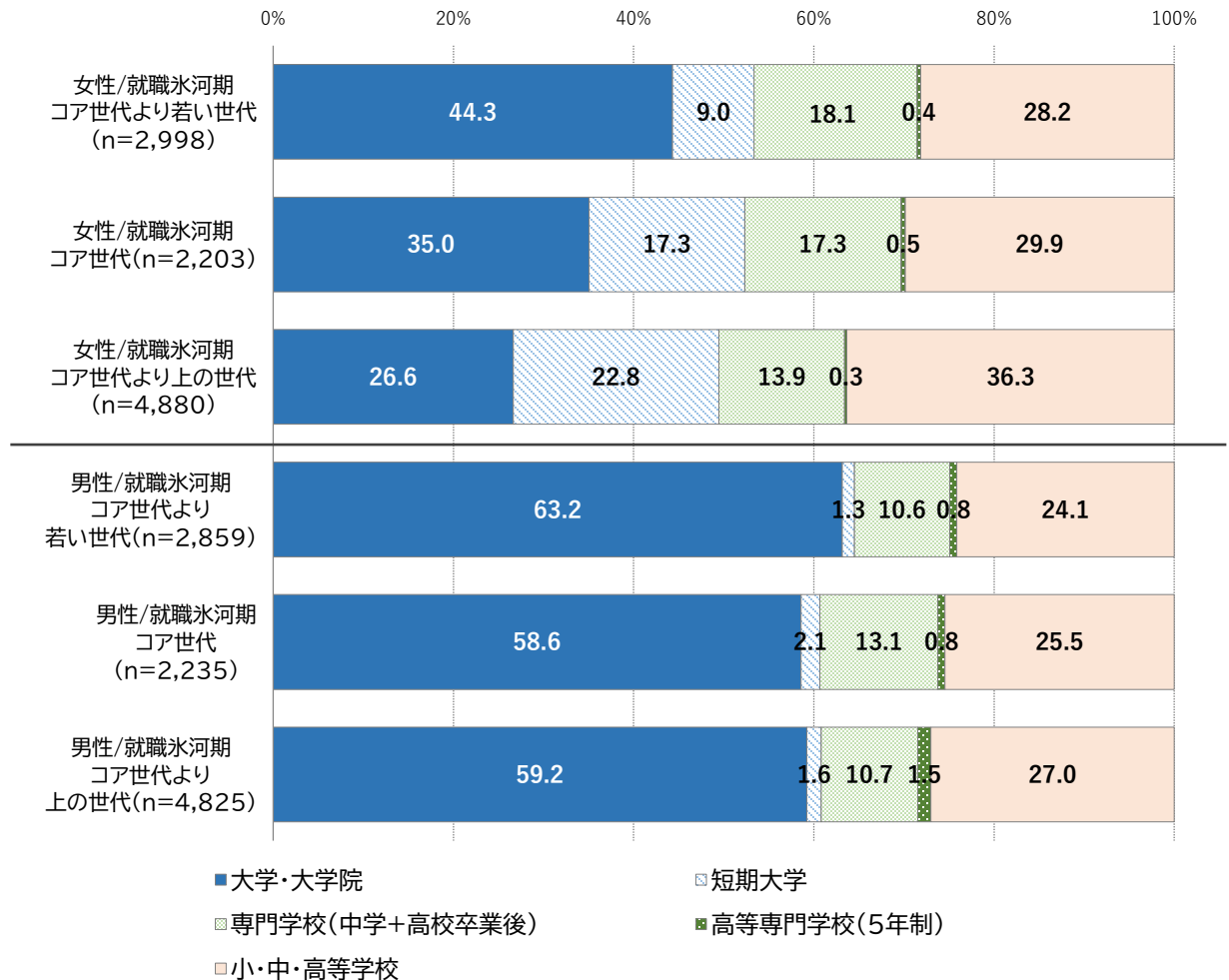
(1) 基本情報(最終学歴)

- ・調査時点の年齢によって、「就職氷河期コア世代」とそれより若い世代、上の世代に区分(定義は下記参照)し、傾向を分析する。
- ・学歴について、女性では、「就職氷河期コア世代」では「大学・大学院」が35.0%、「小・中・高等学校」が29.9%となっている。「大学・大学院」は若い世代ほど割合が高く、「短期大学」は上の世代ほど高い。一方、「小・中・高等学校」の割合は、「就職氷河期コア世代」と「就職氷河期コア世代より若い世代」のどちらも28~30%と同程度となっている。
- ・男性では、「就職氷河期コア世代」「就職氷河期コア世代より若い世代」「就職氷河期コア世代より上の世代」のどの区分でも「大学・大学院」が6割前後、「専門学校」が1割強、「小・中・高等学校」が25%前後と、世代により大きな差はない。

【定義】

- ・「就職氷河期コア世代」1975年～1984年生まれ=2022年調査時点38歳～47歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より若い世代」1985年生まれ以降=2022年調査時点20歳～37歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より上の世代」1974年生まれより前=2022年調査時点48歳～69歳で定義

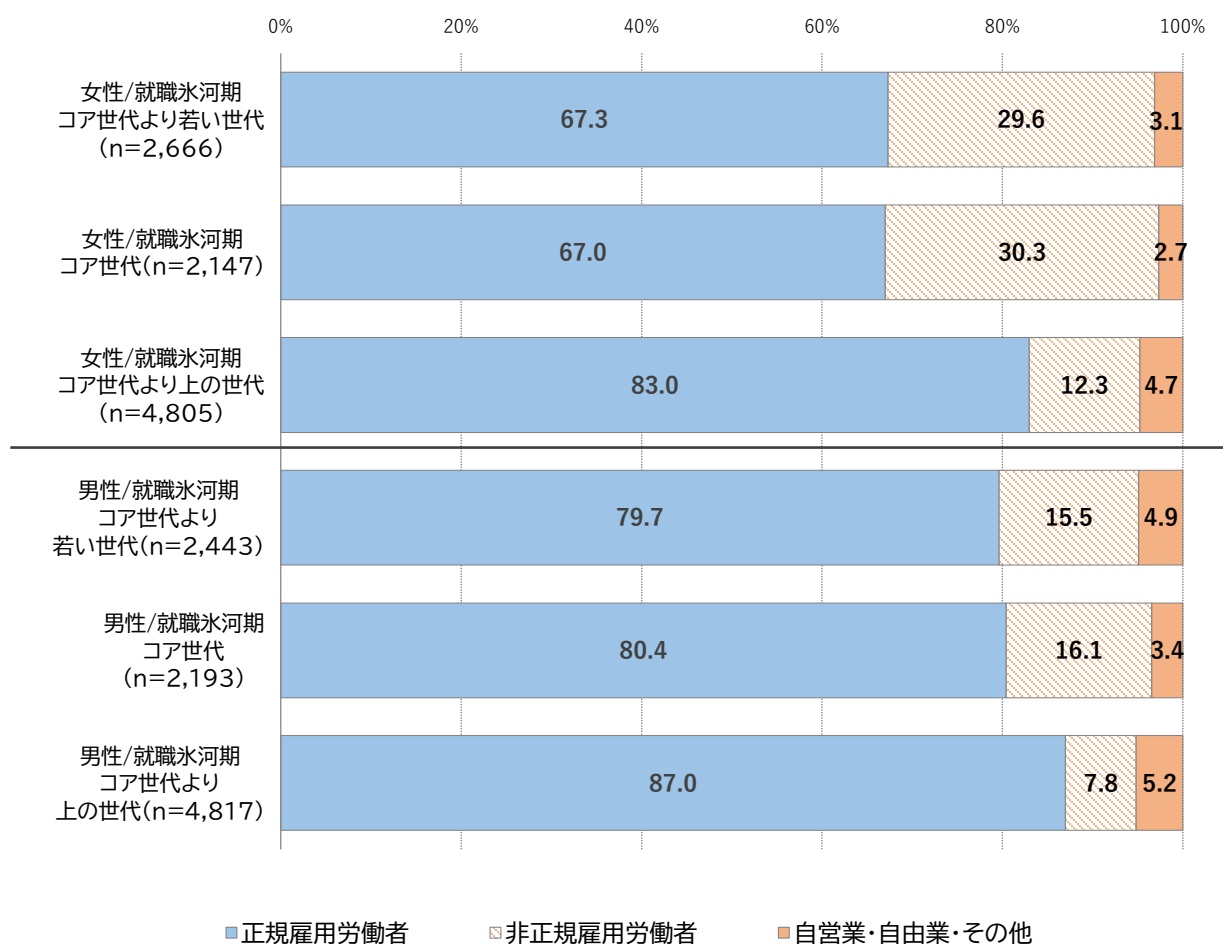
◆最終学歴



(2) 初職の状況(最終学歴後に働いていた人)

・最終学歴後に働いていた人を対象に、初職の状況を見てみると、男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」で「正規雇用労働者」の割合が高く、女性で83.0%、男性で87.0%。

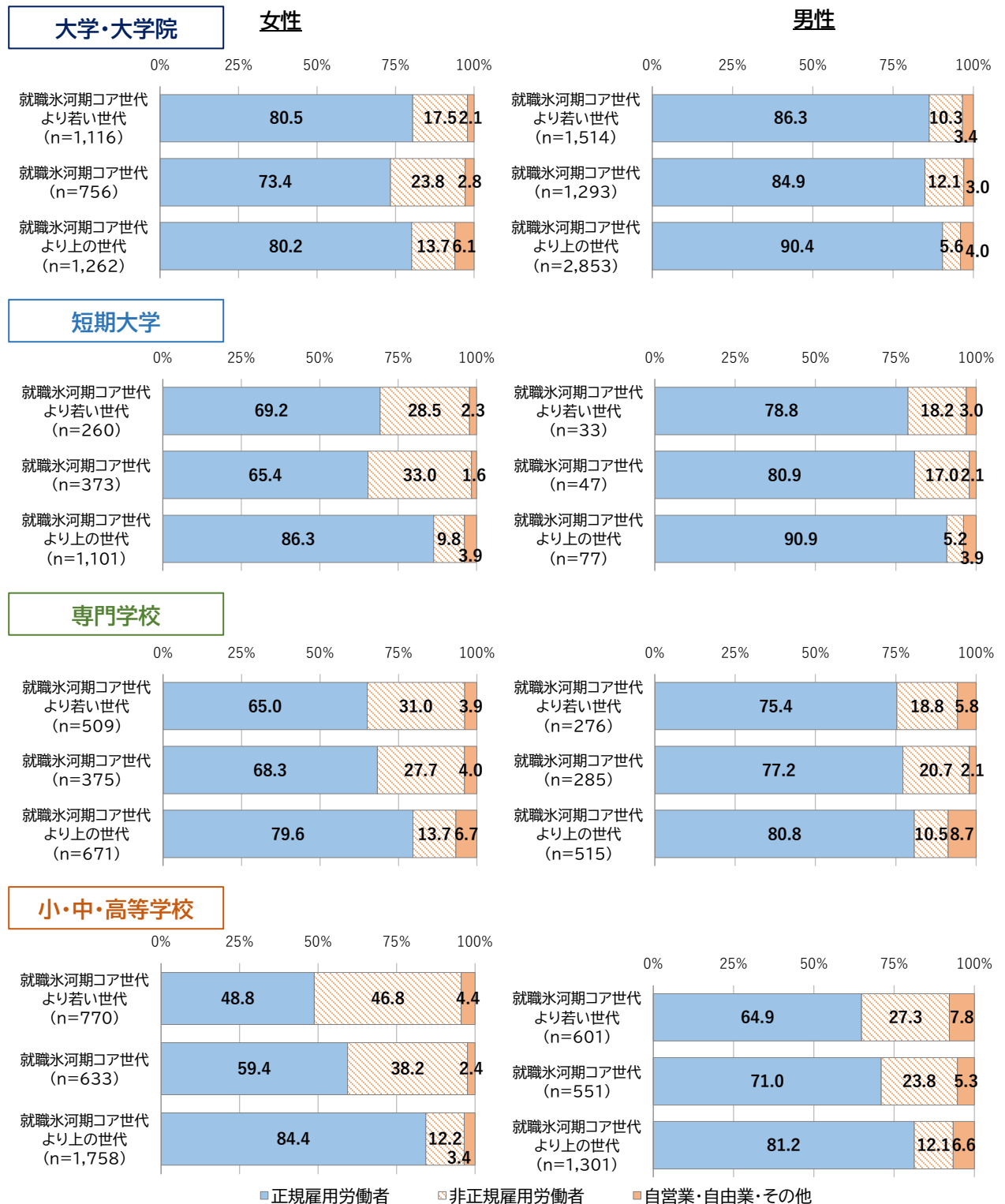
・「就職氷河期コア世代」「就職氷河期コア世代より若い世代」では大きな差は見られず、「非正規雇用労働者」は女性で3割、男性で16%程度となっている。



(2) 初職の状況(最終学歴別)

・最終学歴別に初職の状況を見てみると、女性については、「大学・大学院」においては、「就職氷河期コア世代」で「正規雇用労働者」が73.4%に対し、「就職氷河期コア世代より若い世代」「就職氷河期より上の世代」ではどちらも80%程度と、やや差が見られた。「短期大学」においても、「正規雇用労働者」割合が最も低いのは、「就職氷河期コア世代」となっている。

・男女ともに、「大学・大学院」において「正規雇用労働者割合」が最も低いのは、「就職氷河期コア世代」となっている。

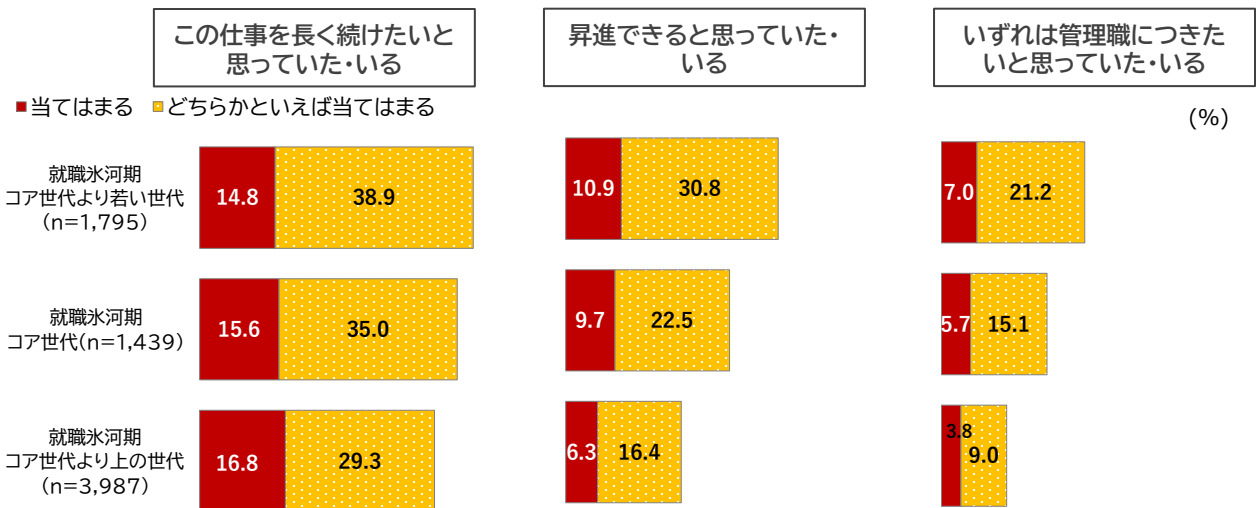


(3)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(女性、初職の雇用形態別)

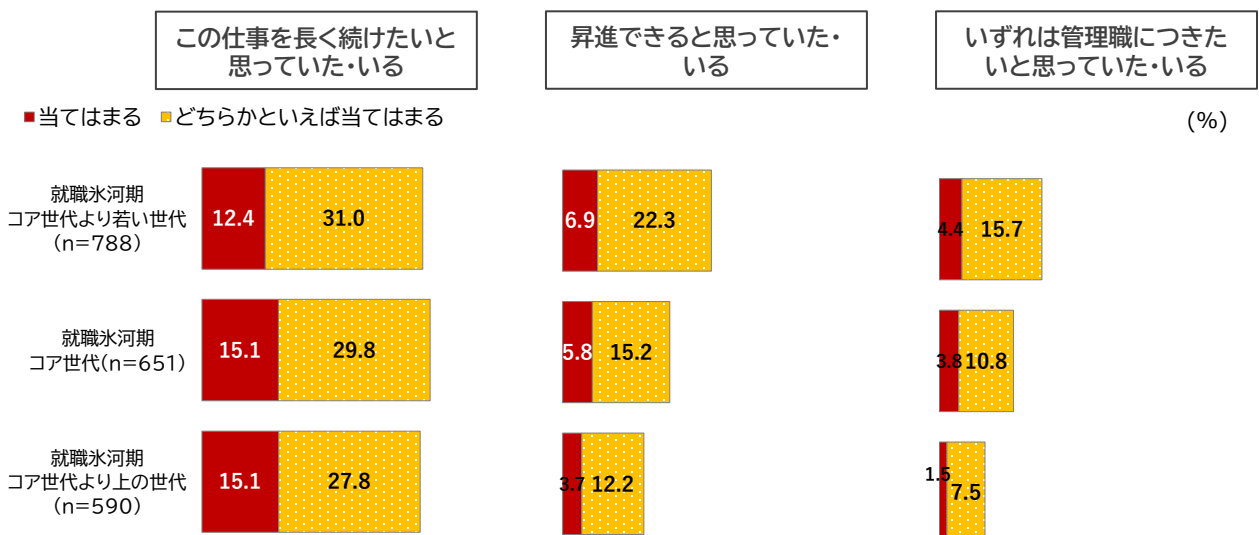
・20代時点の「仕事での昇進」等に関する考え方を「当てはまる」+「とても当てはまる」の累計値で見ると、「初職が正規雇用の女性」では、年代が若いほど「昇進できる」「いずれは管理職」が高く、上の年代になるほど低い傾向にあり、「就職氷河期コア世代」もその傾向にある。「長く続けたい」については、「就職氷河期コア世代」と「就職氷河期コア世代より若い世代」でどちらも5割強となっている。

・「初職が非正規雇用の女性」でも同様に、「昇進できる」「いずれは管理職」に関しては、若い世代ほど高い。また、「初職が正規雇用の女性」と比べると全体的に割合が低い。「長く続けたい」については、どの世代でも同程度となっている。

初職が「正規雇用」・女性



初職が「非正規雇用」・女性



(3)「仕事での昇進」 20代時点での考え方(男性、初職の雇用形態別)

- ・「初職が正規雇用の男性」では、「昇進できる」「いずれは管理職」については世代による差はあまりないが、「当てはまる」の割合は、やや「就職氷河期コア世代より上の世代」で高い。「長く続けたい」については、「就職氷河期コア世代より若い世代」で、上の年代と比べるとやや低い。
- ・「初職が非正規雇用の男性」でも同様に、「昇進できる」「いずれは管理職」に関して、世代による差はほとんどない。一方、「初職が正規雇用の男性」と比べると全体的に割合が低い。「長く続けたい」については、「就職氷河期コア世代より上の世代」でやや高い結果となった。

初職が「正規雇用」・男性

この仕事を長く続けたいと
思っていた・いる

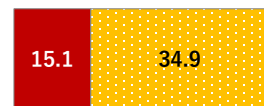
昇進できると思っていた・
いる

いずれは管理職につきた
いと思っていた・いる

■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる

(%)

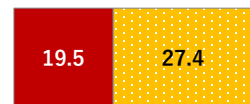
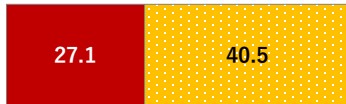
就職氷河期
コア世代より若い世代
(n=1,946)



就職氷河期
コア世代(n=1,764)



就職氷河期
コア世代より上の世代
(n=4,191)



初職が「非正規雇用」・男性

この仕事を長く続けたいと
思っていた・いる

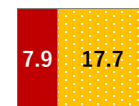
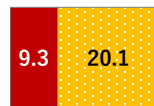
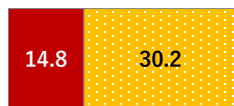
昇進できると思っていた・
いる

いずれは管理職につきた
いと思っていた・いる

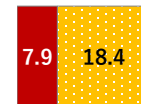
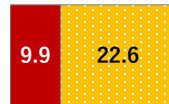
■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる

(%)

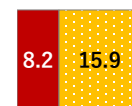
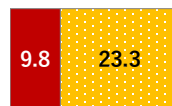
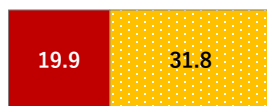
就職氷河期
コア世代より若い世代
(n=378)



就職氷河期
コア世代(n=354)



就職氷河期
コア世代より上の世代
(n=377)



(4) 昇進することへのイメージ(現在正規雇用労働者対象)

・現在「正規雇用労働者」についてみると、「就職氷河期コア世代」が他世代に比べ高い項目は、男女ともに「役割の割に給料が上がらない」であり、73%程度となっている。男性においては「会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる」「仕事量が増し、勤務時間の調整がしにくくなる」等がやや高い。他世代に比べて低い項目は、男女ともに「自分がやりたい仕事ができる」「大きな仕事・重要な仕事ができる」「仕事の責任により充実感・満足感が上がる」となっている。他世代に比べてどちらかという昇進へのネガティブイメージがやや高く、ポジティブイメージがやや低い傾向が見られた。

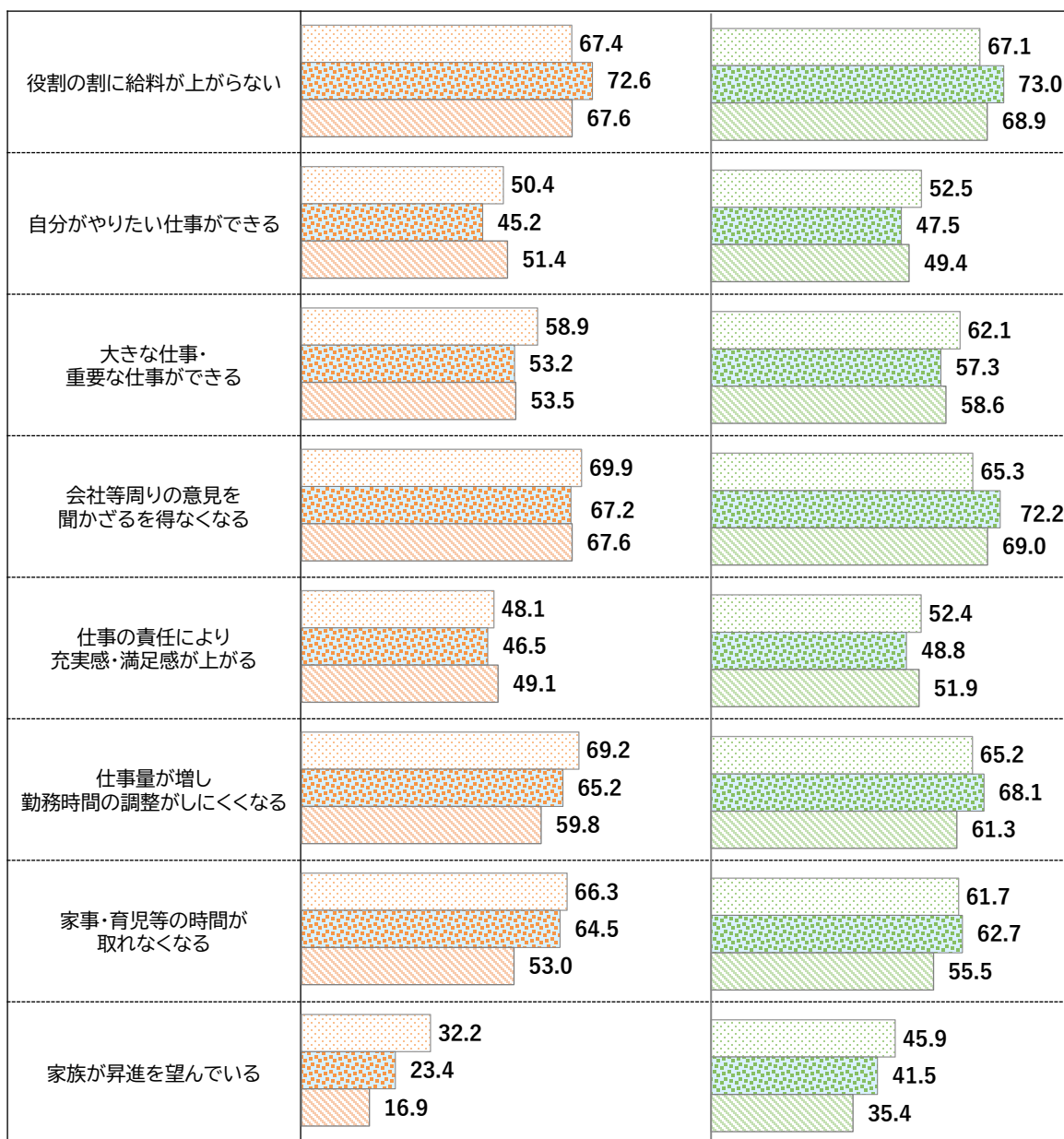
現在「正規雇用労働者」

女性

男性

(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値を掲載)

0% 20% 40% 60% 80%



□ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,130)
 ■ 就職氷河期コア世代(n=555)
 ▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=632)

□ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,811)
 ■ 就職氷河期コア世代(n=1,692)
 ▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=2,603)

(4) 昇進することへのイメージ(現在非正規雇用労働者対象)

・現在「非正規雇用労働者」についてみると、「就職氷河期コア世代」が他世代に比べ高い項目は、男女ともに、「役割の割に給料が上がらない」となっている。男性においては、「大きな仕事・重要な仕事ができる」「会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる」「仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる」等がやや高い。

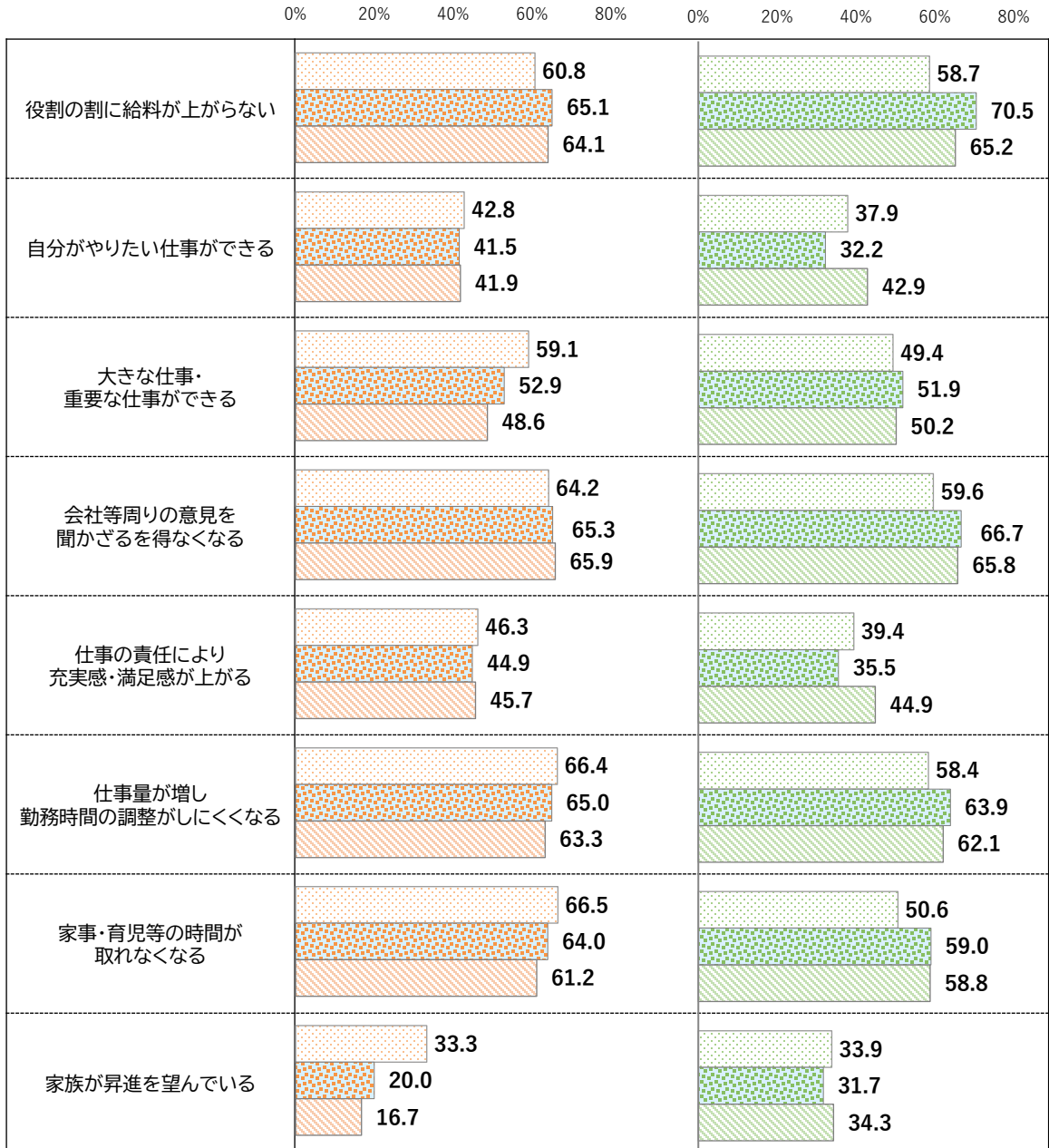
・他世代に比べて低い項目は、男女ともに「自分がやりたい仕事ができる」「仕事の責任により充実感・満足感が上がる」となっている。

現在「非正規雇用労働者」

女性

男性

(「当てはまる」+「どちらかといえば当てはまる」の累計値を掲載)



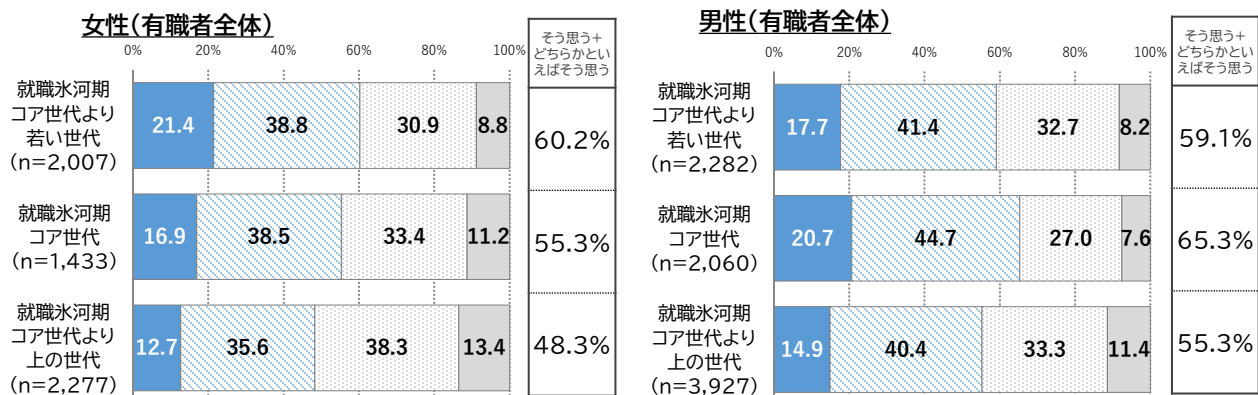
□ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=780)
 ■ 就職氷河期コア世代(n=780)
 ▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=1,369)

□ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=322)
 ■ 就職氷河期コア世代(n=183)
 ▨ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=673)

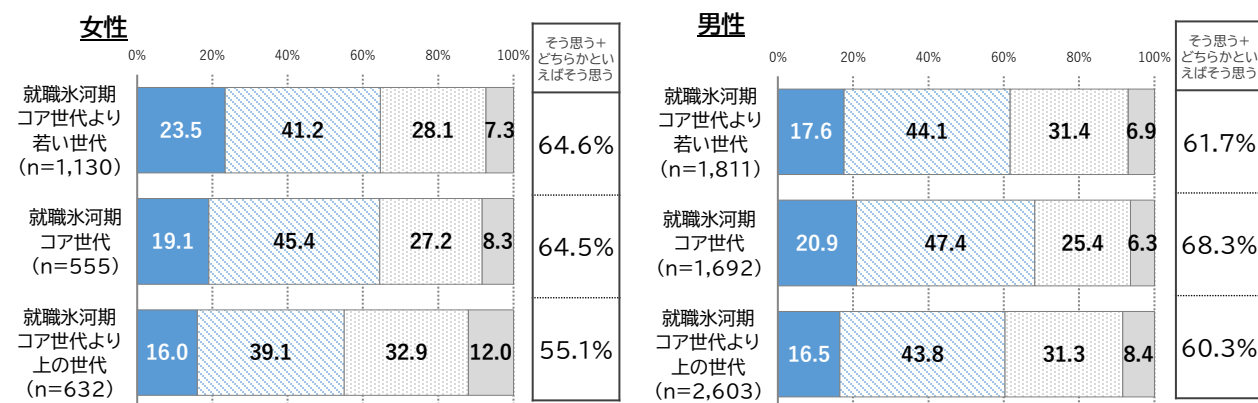
(5) 仕事へのストレス「私は仕事のストレスが大きい」(有職者対象)

・仕事へのストレスについて、「ストレスが大きい」に対して「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」と回答した累計値で見ると、有職者全体では、女性では若い年代ほど高い傾向が見られた。男性では、「就職氷河期コア世代」で65.3%と最も高い。

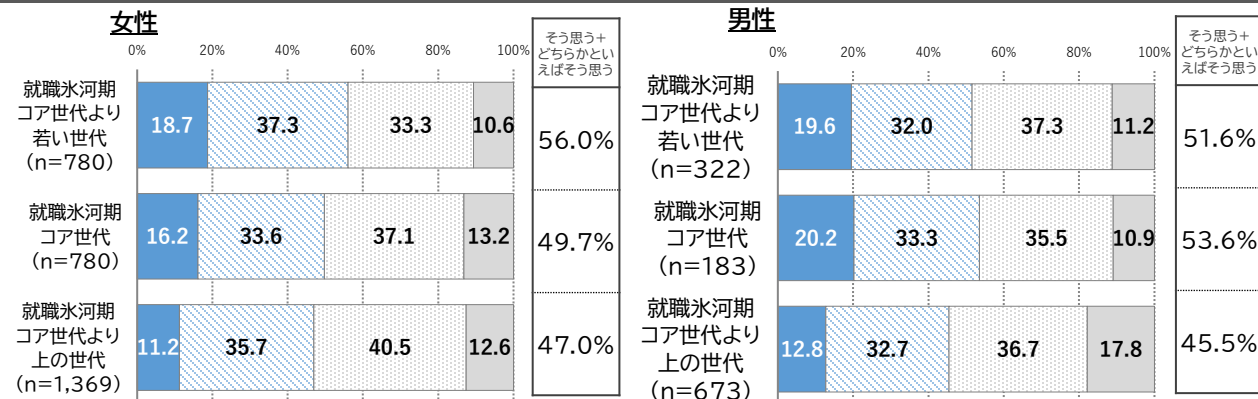
・現在の雇用形態別で見ると、「正規雇用」の女性では、「就職氷河期コア世代」と「就職氷河期コア世代より若い世代」でどちらも65%程度と、上の世代に比べて10%ポイント程度高い。一方、「正規雇用労働者」の男性については、「就職氷河期コア世代」で最も高く、他世代に比べて7~8%ポイント程度高い。「非正規雇用労働者」においては、女性では若い世代ほど高く、男性ではわずかな差ではあるが「就職氷河期コア世代」で最も高くなった。



現在が「正規雇用労働者」



現在「非正規雇用労働者」



■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

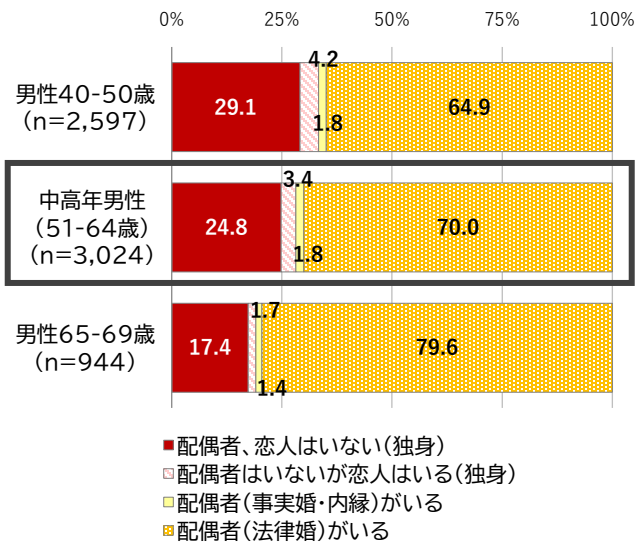
5. 中高年男性を取り巻く状況

※中高年男性=51歳～64歳男性を対象としている

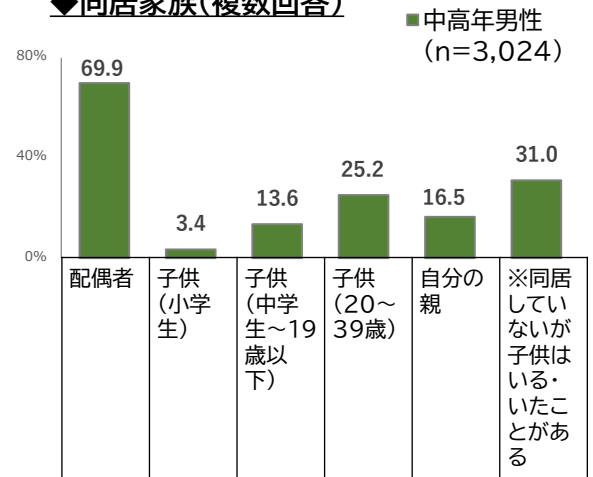
(1) 基本属性状況

- ・中高年男性の状況について、現在51歳～64歳の男性に絞って傾向を分析する。
- ・配偶状況については、「有配偶(法律婚・事実婚・内縁含む)」で7割強。現在独身の人のうち、「恋人はいる」が3.4%。「有配偶」の割合は下の年代に比べると高く、上の年代に比べると低い。
- ・同居状況については、「自分の親」と同居が16.5%、「子供(中学生～19歳以下)」と同居が13.6%、「子供(20～39歳)」と同居が25.2%。「同居していないが子供はいる(いたことがある)」が31.0%。
- ・家族形態については、「夫婦のみ世帯」と「夫婦と子供から成る世帯」がどちらも3割程度。一方、「単独世帯」17.6%、「親と同居世帯」7.9%となっている。

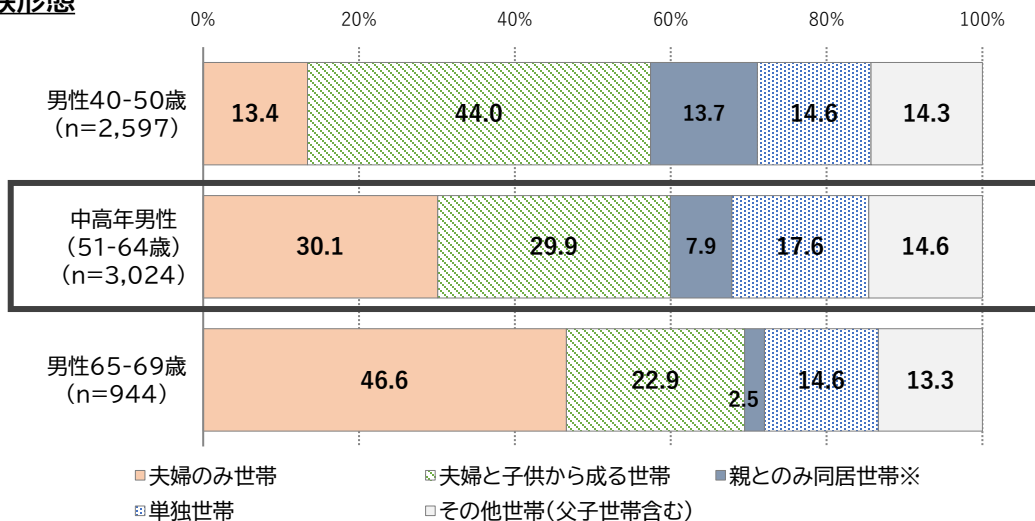
◆現在の配偶者等の状況



◆同居家族(複数回答)



◆家族形態

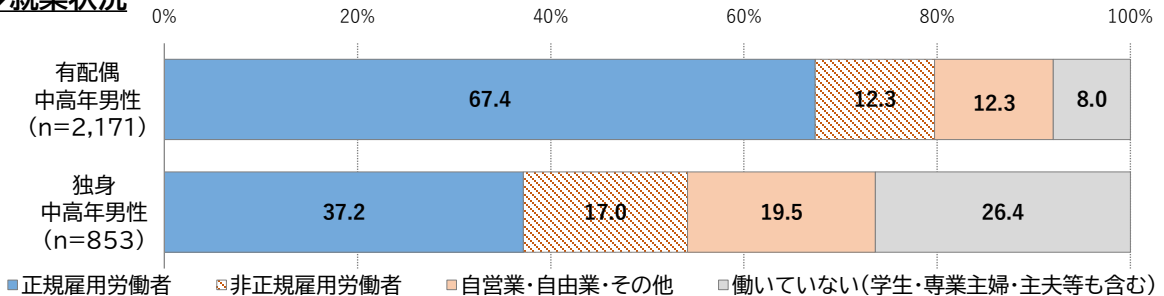


※「親とのみ同居」…自分と親(自分の親)の組み合わせで同居しており、かつ、親以外の世帯員がいない人

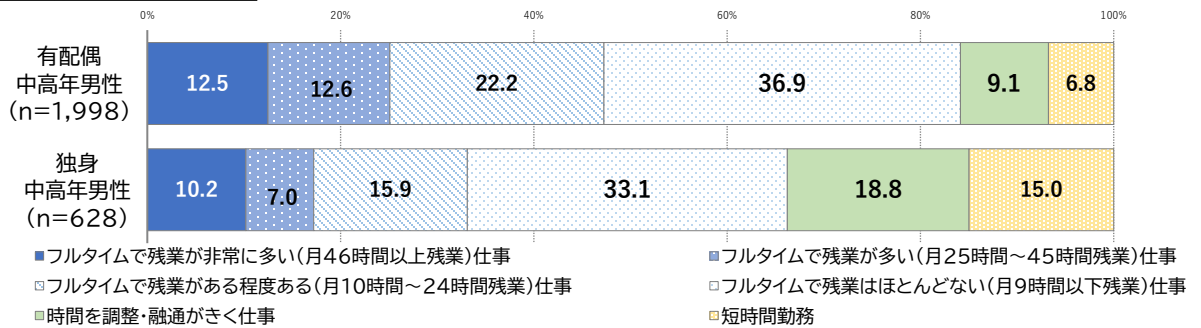
(2) 就業状況と個人年収(配偶状況別)

- ・現在の就業状況について、「有配偶」では「正規雇用」が67.4%。対して「独身」では37.2%と差が大きい。
- ・勤務形態については、「有配偶」では、36.9%が「フルタイムで残業はほとんどない仕事」。「独身」では、「時間を調整・融通がきく仕事」18.8%、「短時間勤務」15.0%が「有配偶」と比べて少し高い。どちらの区分でも「フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事」は1割強。
- ・個人年収については、「有配偶」では「700万円以上」が32.1%と最も高い。一方、「独身:1人暮らし」では「300-400万円台」が24.6%、「独身:親とのみ同居」でも「300-400万円台」が26.3%と、最も高い。

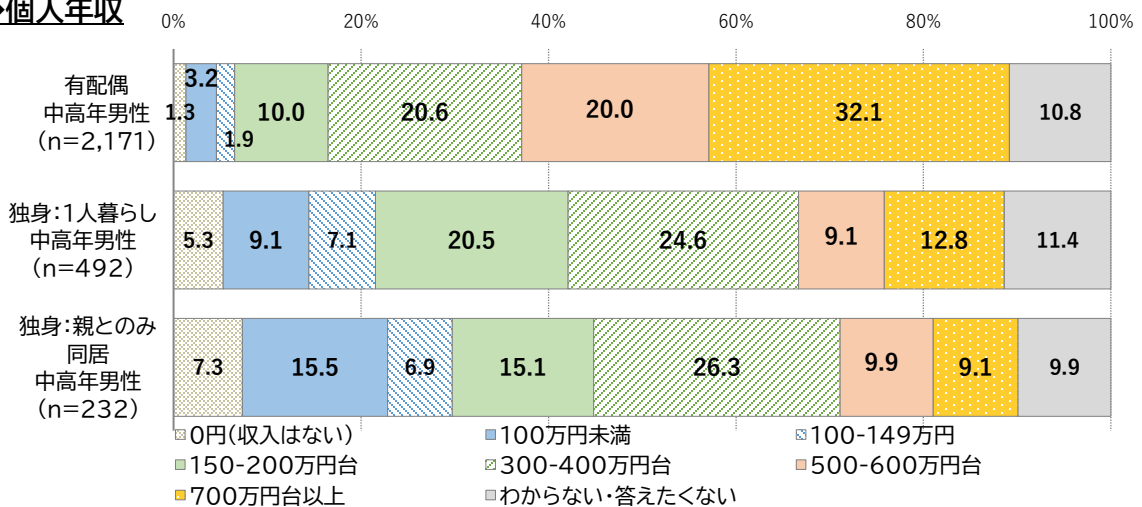
◆就業状況



◆勤務形態(勤務時間)



◆個人年収



※「親とのみ同居」…自分と親(自分の親)の組み合わせで同居しており、かつ、親以外の世帯員がいない人

分析結果 まとめ

1. はじめに

さまざまな場面での男女共同参画に取り組むことが近年の日本の大きな課題となっているが、人々の意識や行動はどのような態様を示しているのだろうか。集計結果を概観した時に見えてくるのは以下のようなおおそのパターンである。

- (1)若年世代ほど意識の上での男女平等は進んでいる。
- (2)未婚者の間では男女間の意識や行動に差異は少ないが、有配偶かつ子どもをもっている人たちの間では男女間の意識や行動に差異が大きくなり、伝統的なパターンに近い結果が示される。こうした有配偶-無配偶間で見られる差異は、子育てが夫婦にとって大きな課題であり、子育てを期に性別分業的な形に移行する夫婦が多いことを示唆している。ただし、そうした性別分業は意識面でも行動面でも従来よりは平等化しつつある。
- (3)かつてよりも出産退職者は減少し、乳幼児を抱えた時期に正規雇用を継続する女性が増加しており、とくにこの傾向は大卒者で著しい。

このように、従来典型的に示されてきた性別分業を支持するような態度や行動は少しずつではあるが平等化の方向にむかっている。その変化は自らの家族を形成していない若年無配偶者で早く、自らの家族を形成している有配偶者については遅い。家族を形成すると、次第に性別分業的なパターンや意識が表面化していくようだ。皮肉なことではあるが、未婚化・晩婚化が男女共同参画を進めているといえるのかもしれない。

しかしながら若年の無配偶と、中高年の無配偶は質的に少し異なる要素があるようだ。若年の無配偶者にはその後結婚していく人が大量に含まれているが、中高年の無配偶者は結婚しなかった人、離別した人、配偶者を失った人が含まれる。このうち、配偶者の死亡によって無配偶者になる確率はそれほど高くはなく、また増加しているわけでもない。これに比して前二者の比率は増加している。

無配偶でいることは男性と女性で大きく意味を異にするとされ、とくに対人関係の広がりの中でその差が大きい傾向が知られている。男性は女性に比して総じて対人関係の広がり狭いことが知られているが、有配偶者は妻を通じて子どもや親族、地域の対人関係との接点が生じるのに対して無配偶者はこうした点で対人関係が限定される。中高年の男性無配偶者には不安定な就業状態や所得の低い人も少なからず含まれており、この人々は社会的な孤立を含めたさまざまなリスクを抱えているといえる。すなわち

- (4)未婚化の進展によって生活上のリスクを抱えた中高年男性の問題が顕在化しつつある。

以下ではそれぞれについて、報告書の結果を参照しながらまとめてみたい。

2. 若年世代の意識・態度のパターン

仕事・働くことに対する考え方を年代別・性別に比較すると、総じて若年層ほど性別による差異は小さい。20代・30代では女性のほうが「給与を重視」「やりたいことを仕事にする」「雇用の安定性を重視」「残業が少ないことを優先」「突発的な時にも休みやすい」といったことがらを重視する傾向が強く(p17)、「とにかく働く」のではなく「働きやすい環境で働く」ことを求めているようだ。40-69歳では女性で「負荷の少ないこと」「突発的な時にも休みやすい」などの希望が高い傾向があり、子育てや介護との両立が課題になっているようだ。なお、女性は若年層ほど正規雇用の比率が高く、20代では子どもがいない場合に43%強、子どもがいる場合でも35%強が正規雇用と、子どもが乳幼児や小学校の時期にも正規雇用就労を継続している女性が近年ほど増加していることが推察できる(p147)。こうした傾向からみても、就労に関する性別分業は平等化の方向にすすんでいるといえそうだが、このことは男女ともに家庭と両立しやすい働き方が一層求められているともいえるだろう。

また、20代時点での昇進や管理職への希望を尋ねた問いからは、全般的にその比率が低いとはいえ女性では若い世代ほど高い傾向が見られ、仕事についての意識の男女間の格差は縮小しているように思われる(p54)。育児休業の取得などについても男女ともに若年層ほど半年以上の取得の希望が多く(p76)、また育児休業の取得経験も20-39歳男性で20%を超えている(p65)。依然として男女差は存在するが、平等化の方向には進んでいるといえるようだ。家事・育児についての考え方については、男性は若年層では「自分が率先してすべき」などの意見が高く、男女差も少ない傾向が見られるが、一方で「分担・共同でやった方がよい」「自分のやり方を相手に押し付けけない方がいい」などの現実的な意見はむしろ若年層で低い(p102)。無配偶者が多く含まれる若年層の回答は、現実を反映しているというよりは理念的な回答であるのかもしれない。有配偶者に限定した場合、妻による夫の家事への満足度は若年層ほど高いため、若年のカップルにおいては夫の協力度は高いといえそうだ(p111)。また、配偶者と同居して女性が就労している世帯、とくに女性がフルタイム就業している場合には総じて妻による夫の家事参加への満足度は高く(p112)、正規職の場合も過半数が満足を表明している(p158)。家事分担にはまだ性差が大きいとはいえ、若い世代の共働き世帯を中心に世帯内の性別平等化が進展している様子がうかがえる。

以上の傾向はおおむね育児にも当てはまる。ただ、20-39歳の有配偶女性は自身が正規雇用であっても非正規雇用であってもおよそ4割が夫の家事・育児時間を増やしてほしいと回答しており(p156)、夫の家事・育児に満足しているものが多いものの、現状以上のさらなる平等化が望まれているといえそうだ。

一方、親との関係は若い世代ほど父母を「尊敬していた」の比率が低まっている。なかでも父への尊敬は男女ともに20代では5割程度しかなく、男性では父母いずれに対する尊敬も年齢が若くなるほど低まっている(p122)。男性の家事・育児参加が進む中で今後この数値がどのように変動するのか、関心が持たれるところである。

今回の調査でやや衝撃的な結果となったのは、子どものいない女性(無配偶者を含む)の中で「子どもを持ちたいと思わない」とする回答の比率がきわめて高かったことである(p136)。28-39歳では25.8%と4分の1以上が明確に「持ちたくない」と意思表示している(男性は同22.8%)。いわゆるモニター調査であるために一般化には慎重である必要があるが、これらの意識がどのような人々によって回答されているのか、今後明らかにしていく必要は大きい。

また対人関係で意外な結果となったのは、祖父母との関係を尋ねる「おじいちゃん子・おばあちゃん子だった」の結果である(p122)。男女ともに若年層ほど該当率が高いという結果であり、年齢との関連がかなり強く、20代では男女ともに4割を超えている。ともすればかつての家族のほう世代間関係が緊密で、祖父母一孫の関係が近かったようなイメージがあるが、この結果は真逆である。きょうだい数が徐々に減少し、また未婚化・晩婚化が進展する中で祖父母にとって少孫化ともいうべき孫の数が少なくなる現象が生じていること、共働き世帯の増加によって育児にかかわる祖父母が増えていること、などの結果として子どもにとって祖父母の距離が近くなっているということなのかもしれない。

3. 結婚すること・子どもを持つことによる変化

一時点的なデータなので、有配偶者・無配偶者間の差異、子どものいる人・いない人の差異をただちに結婚や子どもを持ったことによる変化だとみなすことはできない。しかし、全般的には無配偶者と子どもをもつ有配偶者の間の差異は女性に大きい傾向があるようだ。

非正規雇用は家庭と両立しやすいものとして従来から有配偶女性によって選ばれることが多い。このため、女性20代についてみると無配偶者では非正規雇用が全体の25%ほど(p146)、非正規雇用のうち短時間勤務は全体の46%ほどだが(p148)、子供をもつ20代女性については非正規雇用全体の7割強が短時間勤務である(p149)。後者の数値は年齢が高くなるにつれて増加し、50代に至っては8割を超えている。子供をもつ女性の場合には短時間勤務が圧倒的に多くなる。もちろんこうした非正規雇用の女性たちは最初から非正規雇用で就労していたわけではなく、20-39歳では6割、40-69歳では8割近くが初職は正規雇用である(p150)。こうした数値からは女性に出産退職などが依然として多い傾向を垣間見ることができる。一方で、20-39歳の無配偶女性で非正規のケースは初職が正規雇用の比率は3割強、非正規の比率が7割近くと高い。初職以降、安定的とはいえないライフコースを送ってきている様子が推察できる。

現在非正規雇用で就労している女性にその理由を尋ねた結果では、独身の場合には1割に満たない「家事・育児と両立がしやすいので」が有配偶では4割を超えている(p151)。20-39歳の子どもをもつ女性では6割ほどが家事・育児との両立のしやすさが非正規雇用で働く理由であると回答している(p152)。どういった条件があれば正規就労するかを尋ねた問いでは女性は総じて「働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば」とする回答が多いが、この傾向は子供をもつ女性で顕著で20-39歳では5割を超えており、とくに子どもがいる場合に「自分の家事・育児の負担が軽くなれば(約34%)」「両立に理解のある職場であれば(約41%)」などの希望が顕著に高い(p28)。子どもの出生にともない、女性が家事・育児役割中心の生活にシフトする傾向が推察できると同時に、家事・育児と両立しやすい就労の形が望まれているともいえる。

仕事がある日の帰宅時間について考察してみると、無配偶では男女差は少ないのに対して、有配偶者の場合には男女差が大きく、20-39歳では女性は19時より前の帰宅が6割を超えるのに対して男性は3割程度に過ぎない(p29)。こうした差異は40-69歳でも看取できる(p30)。

女性は配偶者の有無にかかわらず残業の多い長時間労働はそれほど多くないが、男性は総じて有配偶者でこの比率が高まり、とりわけ若い世代においてこの傾向が顕著である(p33)。子どもの出生を期に平等型から性別分業型のライフスタイルとなり、男性が仕事に専心する傾向が強まり、女性は家事・育児に割く時間が多くなる。男性自身もこうした状態を家族生活をふくめた私生活に費やす時間が十分に取れない点で問題と考えている(p34)。こうした勤務時間を減らせない最大の理由は「仕事量が多いこと」、ついで「職場の人手不足」と回答されている(p39)。こうした性別分業的なパターンへの成立の一端は仕事のあり方に起因するものといえるだろう。さらに企業規模が小さい場合には人手不足などの結果としてこうした問題が生じやすいことがうかがえる。

では、当事者である人々はこうした事態をどのように考えているのだろうか。仕事とプライベートの理想に関しては、仕事に専念・優先したいという希望は全体的には少ないが、総じて男性のほうがこの希望は多く、若年ほど高い傾向がみられる(p55)。年齢とともに家庭生活との両立を理想とするものが男女ともに増加するが、現実についての結果では特に男性は仕事専念・優先の比率が高くなる(p56)。女性はプライベート・家庭生活を優先／専念したいという希望がどの年齢でも男性より高い。また女性は夫に両立を望む傾向が強いが、現実には夫は仕事に専念・優先がどの年齢層でも多くなる(p61)。このように子どもの出生後は夫婦間で男性に稼得役割が、女性にケア役割が配分されている構造が看取できる。

前者については「私には家計を支える責任がある」と「思う」「どちらかといえば思う」の合計は有配偶男性では20-39歳、40-69歳いずれにおいても8割近くに達しているのに対して、有配偶女性ではそれぞれ約4割、3割強にすぎない。一方で家事・育児のストレスは女性に大きく、有配偶で子供と同居する女性では20-39歳で7割近く、40-69歳でも6割強に達しているのに対して男性では各約5割、4割にとどまっている(p124)。有配偶の正規雇用女性は家事・育児と仕事の二重負担で苦しんでいることが想定されるが、データ上は必ずしもそうでなく、家事・育児のストレスについては非正規雇用の女性のほうが高い傾向が見られる(p160)。

なお、妻による夫に対する「家計を支える責任」への期待は夫の回答とほとんどずれておらず、稼得役割についていえば、男性も女性も夫に稼得役割を大きく期待しているといえる。一方家事・育児のストレスについては、夫による「妻の抱えているストレス」の評価は妻の回答とそれほどはずれていないが、妻からみた夫の家事・育児のストレスは、夫の回答よりも10%以上低く、意外と夫の状況が理解されていないということなのかもしれない(p126,127)。

4. 中高年無配偶男性の問題

「休日に誰と過ごすか」という問いに対して、男女ともに20-39歳の無配偶者は「一人で」が7割以上、恋人や友人と一緒に過ごすという回答は少ない(p99)。この傾向はとくに男性に顕著であるが、40-69歳になると男女ともに恋人・友人の比率はさらに減少し、無配偶女性の約75%、無配偶男性の約87%が「一人で」と回答している(p100)。休日を一人で過ごすことが直ちに問題だとは言えないが、高齢期になるほど対人関係は家族・親族中心になることが知られており、とくに男性未婚者は対人関係が限定されていくことが指摘されている。男性未婚者は多くのケースで子どもがおらず、親もこの時期には死亡していることが多いため、親族の存在自体が限定されるためである。ここでもこうしたパターンと整合的な結果が得られている。

51-64歳の中高年男性の分析結果からは無配偶者のうち正規雇用についているものは4割に満たず、無職者が4分の1以上を占めている。個人所得も一人暮らしの場合2割強が、親とのみ同居している場合でも約3割が年収150万円未満と低所得者が少なからず含まれていることがわかる(p188)。未婚化の進展の結果、無配偶状態で中高年期を過ごす人々が増加しているが、この人たちの一部には不安定な就労と低い所得に特徴づけられる人々が含まれていることには留意すべきだろう。

【分析資料】 出産退職の減少とその意味

1. はじめに

これまでの日本の女性のライフコースに見られる特徴として、第1子出生後の出産退職の多さが指摘されてきた。国立社会保障人口問題研究所の出生動向基本調査では第1子出生後の女性の継続就労率を毎回公表しているが、かつては25%から30%ほどであり、変化は乏しいとされていた。しかしながら2021年9月に発表された第16回出生動向基本調査の結果からは、2015～19年の間に第1子を出産した女性の53.8%がその後も就労を継続しており、正規職の女性の68.3%が就労を継続しているという。

実は他の社会では出産退職に関する注目は必ずしも高いとはいえない。アメリカをはじめとする他の社会でも女性の出産退職は決して少ないわけではないが、復職や再就職が日本よりも容易であるためにそれほど注目が集まらないのではないかとと思われる。日本は新卒一括採用および終身雇用制といった雇用上の特徴ゆえに出産退職後の復職や再就職が他の社会よりも簡単ではなく、他の社会以上に出産退職がキャリア上の損失を伴うものと目されてきたようだ。

今回のデータにおいても未就学児を抱えた女性の就労率は高い。以下ではこのことがどのような意味をもつか、どのような変化を今後引き起こすのかを考察する。

2. ライフステージ別に見た女性の就労率

末子の年齢によってライフステージを末子0-2歳、3-6歳、小学生、13-19歳に区分し、有配偶女性の就業状態を正規職、非正規・自営、無職の3つに区分したところ、図1のような結果となった。

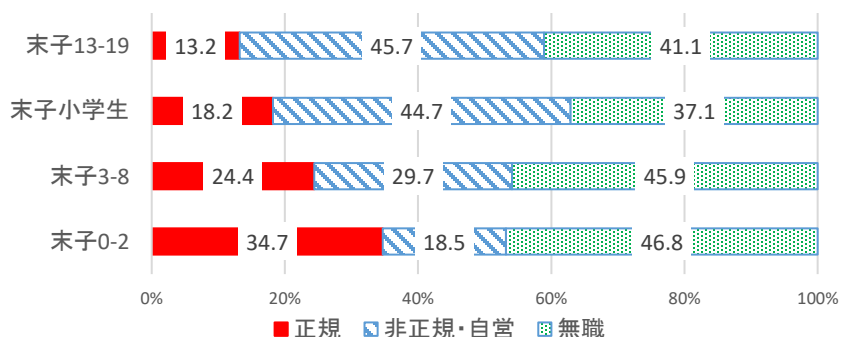


図1 末子年齢別にみた有配偶女性の就業状況(n=2,338)

一番仕事と育児の両立が難しいと想定される末子0-2歳についてみると、34.7%が正規職就業、無職者は半数を下回っている。しかし末子年齢が上がるにつれ、正規職就業者の比率は低下し、非正規・自営(自営は少ないため主成分は非正規)が半数近くに達するようになる。正規職就労率が末子年齢の上昇にともないその後低下していくことからすると、若い世代ほど出産退職が減少し継続就労が増加していると考えられそう(後述のようにテレワークの経験率はそれほど高くはなく、コロナ下での一時的な現象とは考えにくい)。

ついで有配偶女性の学歴を短大・高専卒以上(大卒)と高卒以下(非大卒)に区分して正規職就労者の比率を比較したのが図2である。

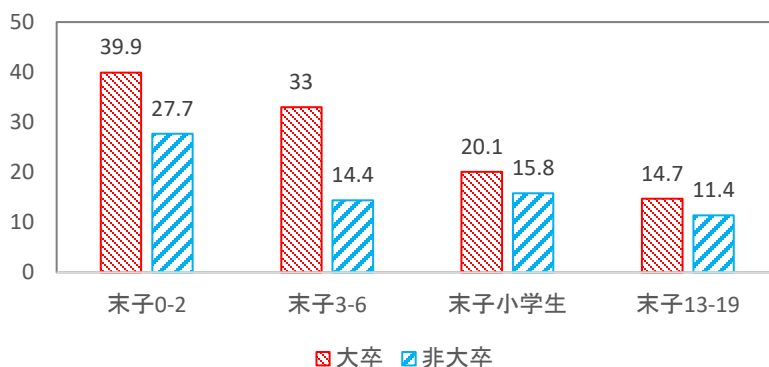


図2 有配偶女性の学歴別・ライフステージ別にみた正規職就労率(n=2,388)

図2から、女性の正規職就労率は大卒で高く、非大卒ではそれより低く、また末子が未就学の時期にその差が大きいことが理解できる。末子0-2歳という乳幼児を抱えた時期でも、大卒女性の4割が正規職で就労をしている。出産退職をせずに継続就労をする傾向は大卒女性に顕著な方向になってきているようだ。これに比較すると末子が小学生以上では正規職就労者の比率は低く、従来指摘されてきたような水準に近い。今後、現在の末子0-2歳に見られるパターンがそのまま継続するのか、いわゆる「小1の壁」のようにその後正規職就労率が低下するのかは注目すべき事象である。

3. 正規職共働きの増加と世帯所得格差の増大

結婚は学歴同類婚ないし女性にとっての学歴上昇婚の形をとることが知られている。このことは大卒の女性は大卒以上の男性と結婚する傾向が見られることを意味する。とすれば、大卒女性の出産後の正規職の継続就労率の増加は、大卒の正規職共働き夫婦の増加をもたらすと予測できる。男性は子の出生後もほとんどの者が正規職就労を継続する。従来は大卒の女性でも出産退職することが多かったが、そうでなくなることは高所得の共働き世帯が増加することを予想させる。この点を検討してみよう。有配偶女性の学歴を大卒・非大卒に区分し、末子年齢別に就業形態別の世帯年収を比較してみた(図3)。

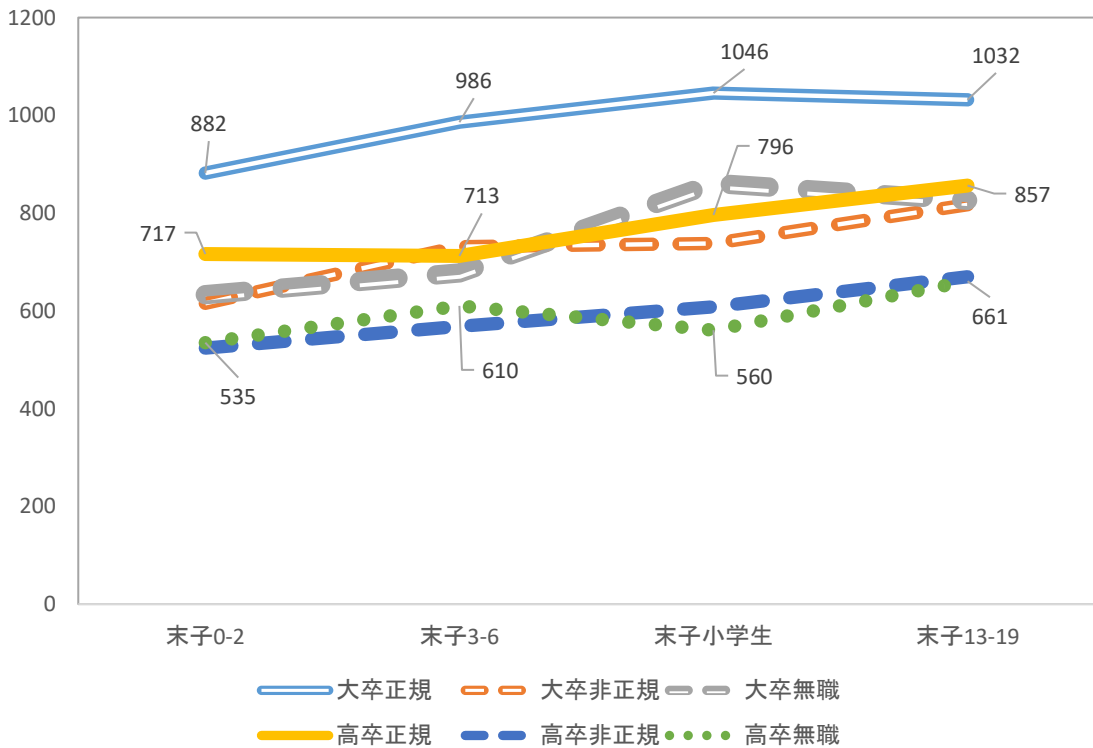


図3 ライフステージ別にみた有配偶女性の学歴別・就労形態別世帯年収の平均値
(単位:万円, n=1,883)

まず傑出して世帯所得が高いのは予想通り大卒正規職女性の世帯であり、末子小学生・中学生以上では世帯所得の平均値が1000万円を超えている。ついで高卒正規職、大卒非正規職、大卒無職などの世帯が比較的近い所得額でまとまっており、最後に高卒非正規職、高卒無職がひとつのまとまりを示している。大卒正規職世帯と他世帯の所得格差が大きくなるのは末子小学生の時期で、高卒無職世帯と比較すると倍近い差異が見られる。皮肉なことだが女性の出産後の継続就労が高まったことでとくに大卒の共働き世帯に高所得世帯が多くなり、従来よりも所得格差が大きくなっていることが推察できる。このことが子どもの生活や教育環境にどのような差異を生み出しているのか、今後精査していく必要があるだろう。

4. 未就学児をもつ有配偶有職女性およびその世帯の特徴

それでは、こうして増加してきた「子どもが未就学の時期(末子0-6歳)に正規就労している」有配偶女性の労働環境にはどのような特徴があるのだろうか。まず、勤務形態を正規職・非正規職別に図4に示す。

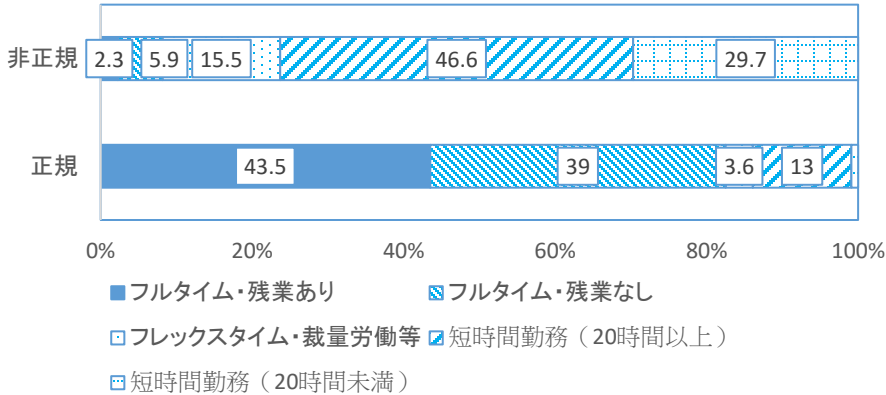


図4 未就学児をもつ有配偶女性の勤務形態(n=550)

図4からわかるように、正規職は「フルタイム残業あり」が43.5%と家庭との両立が簡単ではない世帯がかなりの比重を示している。「フレックスタイム・裁量労働等」は4%にも達していない。これに対して非正規は短時間勤務が75%以上とほぼ真逆の構造になっている。

テレワークの普及が家庭との両立を可能にしている可能性を検討してみたが、正規雇用者331名のうち調査時点においてテレワークをしていないものが75%、週1日以上は16%に過ぎない。ちなみに、非正規雇用では92%がテレワークをしていない。これらの数値からすると、テレワークの普及が女性のワークライフバランスを高め、出産退職を減らしたとは考えにくい。

正規職就労者に「正社員で働く理由」を尋ねた結果では「十分な収入を得るため」67.4%、「雇用の安定性を重視」50.5%あたりが主要な意見であり、「社会的信用を得たい」「やりたい仕事をしたい」などの仕事のやりがいを重視する回答はいずれも2割を下回っていた。また「家事・育児と両立しやすいため」は22.7%であった。この結果からすれば職場が家庭と両立しやすいので出産退職が減っている、とも考えにくい。

また、仕事や働くことに関する現在の考え方を尋ねたところ、「雇用の安定を重視」は92.7%が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答し、「給与を重視」が84.9%と同様の傾向が続く。また「ワークライフバランスを重視」が88.8%と家庭との両立が大きな関心事項になっていることがわかる。基本的には大卒女性を中心に「働いて所得を得ること」への動機づけが強くなっており、このことが出産退職を減らした一因となっているように思われる。

5. 未就学児をもつ有配偶有職女性の世帯の家事・育児の特徴

つぎに同じ末子0-6歳の有配偶有職女性の世帯について、家事・育児などの様子を検討してみよう。まず女性本人の育休取得経験は89.7%であるが、その夫の育休取得経験も19.3%と(これまでの日本の水準から考えれば)高く、まだまだ取得率に差はあるものの家事・育児の平等化が進展していることがうかがえる。

食事・料理の外部サービスの利用については、「市販のおかず購入」「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」のいずれかの利用経験の有無について集計したところ、図5のような結果となった。

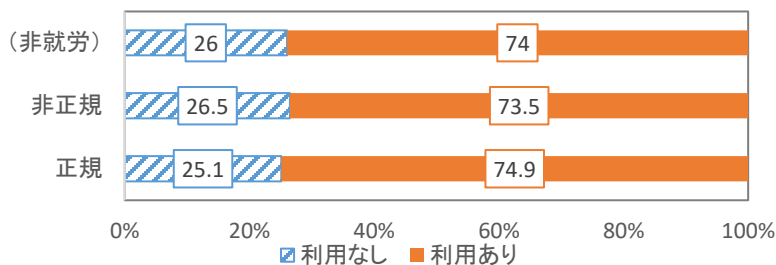


図5 未就学児をもつ有配偶女性の食事・料理の外部サービスの利用状況(n=1,039)

図5では比較のために非就労(専業主婦)の利用状況も示してあるが、意外なことに正規職就労者とそれ以外の間にそれほど大きな差異は見られない。正規職就労者でこうしたサービスを利用したことがないものが4分の1ほど存在することはやや驚きだが、親(子にとっての祖父母)と同居し、家事を任せているケースがあるのかもしれない。

時短家電(ロボット掃除機、調理鍋)などの利用経験は全般的に低かったが正規職では30.8%、非正規職では23.3%が利用経験ありと回答している(非就労は20.9%)。ハウスクリーニングの利用(部分[エアコンなど]・全体)も総じて利用率は低く、正規職で11.2%、非正規職で5.5%、非就労で5.1%という結果であった。子どもの送迎の外部委託、キッズ・ベビーシッターの利用といった育児サービスの利用経験についても利用率は低く、正規職で13.3%、非正規で10%、非就労で7.8%という結果であった。

時短家電・ハウスクリーニング・育児サービスいずれも正規職とそれ以外の間に利用率に関する統計的な有意差が示されたものの、全般的に利用率は低く、これらの利用が就労継続を可能にしているとみなすことは難しい。

もう一つ考えらえるのは親族による家事・育児支援である。ここで末子年齢別に本人・配偶者の親との同居率を女性の就業形態別に比較してみよう。

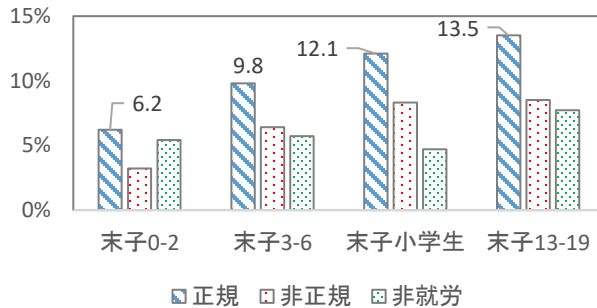


図6 末子年齢別・有配偶女性の就労状況別に見た親との同居率(n=2,255)

妻の親・夫の親との同居はいずれも少ないが、やや妻の親との同居のほうが多い傾向がみられる。図6は妻方・夫方を問わず少なくとも1名以上の親と同居している比率を示しているが、全般的には同居率はそれほど高くはない。末子の年齢段階があがるにつれて親との同居率は高くなる傾向がみられ、とくに正規職ではこの傾向が顕著である。とはいうものの、末子が未就学の場合の親との同居率は6%程度に過ぎず、同居の親に家事や育児を依存しているというわけでもないようだ。これは、かつては未就学の子どもの抱えている状態での就労は親族の利用可能性に大きく規定されていたのに対して、現在はそうした状況が改善され、親族の利用可能性が低い人たちも就労するようになったということなのかもしれない。そこで最後に夫の協力について検討してみたい。

有配偶女性に夫の家事・育児への関わりを直接測定している項目はないため、配偶者の家事への満足度の平均値をライフステージ別・(女性の)就労状況別に図7に示す。

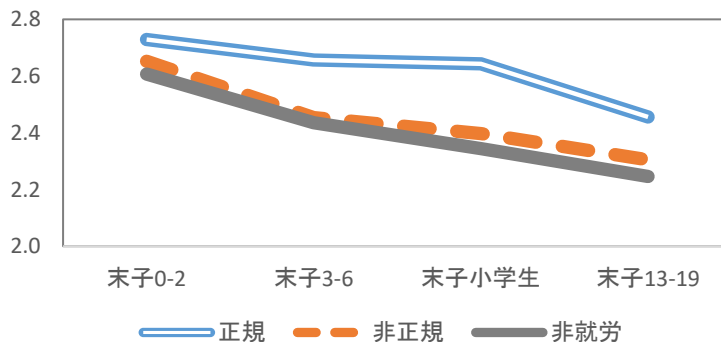


図7 末子年齢別・有配偶女性の就労状況別に見た夫の家事への満足度(n=2,215)

図7の満足度は得点が高いほど満足していることを意味し、1(全く満足していない)から4点(とても満足)の4段階で測定されている。図7では末子0-2歳で満足度が高く、その後満足度が低下しているように映るが、ライフステージ間に有意差は見られず、就労状態のみが有意な効果を示し、正規職就労者の場合に夫の家事についての満足度は高い。ただし末子0-2歳に限れば就労状態の違いによる差異は少なく、この時期には全般的に夫の関わりが大きいようだ。育児について末子未就学の時期のみに限定し、同様に妻の就労状態別に夫の育児への満足度の平均値を示したのが図8である。

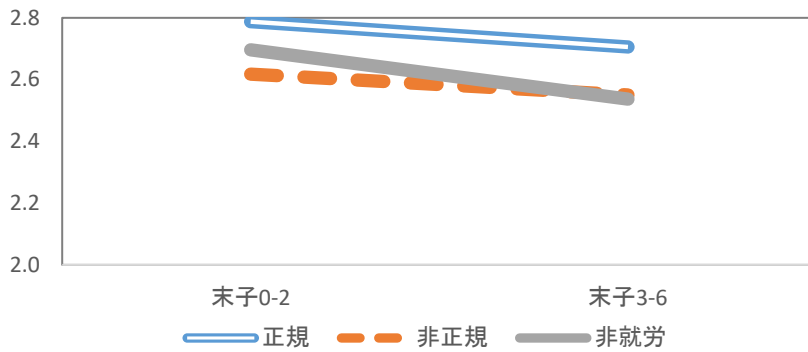


図8 未就学児をもつ有配偶女性の就労状況別に見た夫の育児への満足度 (n=950)

図8の育児もほぼ図7の家事と同様のパターンを示し、妻正規職の場合に夫の育児に対する満足度は有意に高い。以上からすると、とくに妻が正規職の場合に夫の家事・育児参加が高いことが推察される。これを確認するために有配偶男性を抽出し、妻の就労状況別・ライフステージ別に夫回答による仕事のある日の夫の家事・育児時間の平均値を示したものが図9である。

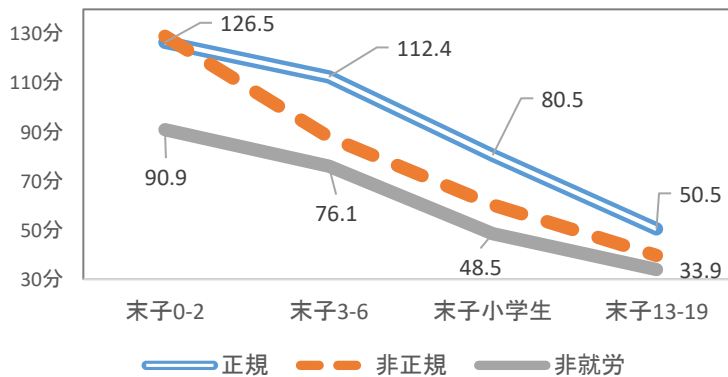


図9 末子年齢別・妻の就労状況別に見た夫の家事・育児時間 (仕事がある日, 夫回答: n=2,412)

図9では末子0-2歳の家事・育児時間の平均値が高く、ライフステージに沿って数値は低下していく。また妻正規職就労者の家事・育児時間は末子0-2歳では妻非正規就労の場合とほとんど差異はないが、それを除けば基本的には高い。では妻の家事・育児時間と比較して夫の家事・育児参加はどの程度のものなのだろうか。

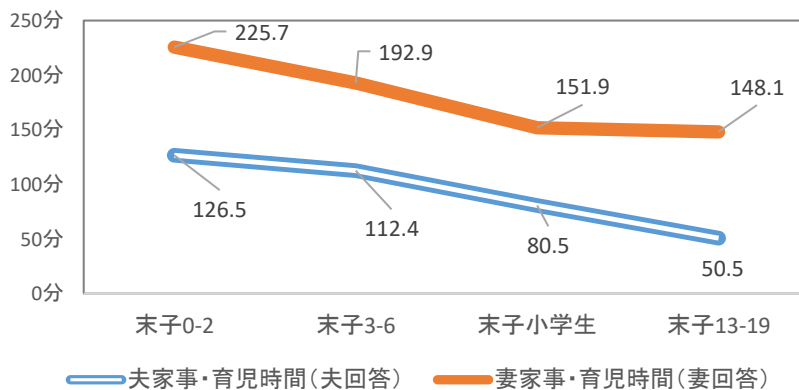


図10 末子年齢別にみた妻正規就労者の妻・夫の家事・育児時間の平均値 (仕事がある日, n=1,462)

図10は妻正規職の有配偶男性および有配偶女性を抽出し、仕事のある日の夫の家事・育児時間(夫回答)と妻の家事時間(妻回答)を比較したものである(同一世帯内での比較ではないことに注意)。妻が正規職就労をしている場合、夫の家事時間は非正規や非就労の妻の夫よりも長い、それでも妻の家事時間に比較するとかなり低く、不完全な指標ではあるが夫と妻の家事・育児時間の平均値の合計に占める夫の家事・育児時間の比率を算出すると、末子0-2歳で35.9%、末子3-6歳で36.8%、末子小学生で34.6%、末子13-19歳で25.4%と、夫の担当は全体の3割強というところであり、家事・育児の主要な部分は依然として女性が担っていることがわかる。

以上の結果の評価は議論の分かれるところではあるが、正規職共働きでも3割しか男性が担当していない、ということもできるし、3割くらい担当するようになったという言い方もできるように思える。なお、末子未就学の時期について、夫の家事および育児に対する正規職の妻の満足度は妻の学歴による差異は示されなかった。この分析だけからは結論は出せないが、未就学児をかかえて正規職に就労する大卒の妻の夫が特に協力的である、というわけではないようだ。

6. 結論

出産退職をせずに正規就労を継続する有配偶女性が増加し、特に大卒女性にそうした傾向が高まっているようだ。こうした人々は夫婦で正規就労をしているために世帯年収が高く、それ以外の世帯との所得格差は大きくなっている。

またこうした正規雇用を継続する有配偶女性は必ずしも家事・育児と両立しやすい労働環境にあるわけでもなく、親族資源に恵まれているというわけでもない。基本的には妻が主要な部分を担当しながら、夫が一部を分担する形で家事や育児に対応しているようだ。この点でやはりこうした世帯を支える重要な存在は夫であるように思われる。妻に比較するとまだまだ家事・育児の分担率は少ないとはいえ、従来よりは育児休業の取得率や家事・育児の分担率は増加している。今後、これらの人々に性別平等型の夫婦関係がより広く示されていくように思われる。

研究協力者：夏天(慶應義塾大学大学院)・王婷(慶應義塾大学大学院)

今回のテーマは男性を中心に見ていくということであった。そこで今回は、この調査で行われたクロス集計から男性の育児休業を中心に筆者の関心事項をひろってみる。

1. 男性の育児休業について

男性の育児休業を増やす取り組みを政府は検討している。男性の育児休業への希望について見る。子どもがいない20代の男性を見ると、3割が育児休業を「2か月から半年以上取得したい」としている。子どもがいない30代、40代もあまり変わらない。1か月以上という区切りで見ると、「子どもがいない20代と30代」(つまり将来子どもを持ちたいとしている層)では5割前後の男性が、1か月以上の育児休業を自分自身で取得を希望すると回答している。これは実際の男性の育児休業期間の状況に比べると驚くほど長い。

では一方、子どものいる20代から40代はどうだろうか。子どもがいる場合は、20代の男性の5割が1か月程度以上取得したいとする点で、20代では子どもがいる場合もいない場合もそれほど大きい差はない。しかし30代になると1か月以上の希望は4割強、40代では1か月以上の希望が25%と大幅に下がる。40代ですでに子どもを持っている男性となると、結婚はかなり前の者も多いのかもしれない。つまり婚姻時期は2005年から2015年くらいかもしれない。

実はこの15年で夫婦の働き方と出産が大きく変わっている。2010年以後は、女性の第1子出産の育児休業利用が大卒層を中心に増加し(永瀬(2014))、ウーマノミクス政策がとられた2013年以降、総務省『労働力調査』の毎年の調査で見るとさらに年々、大卒女性を中心に正社員での就業継続が増加していった(Nagase(2017))。

国立社会保障人口問題研究所『出生動向基本調査』を見ると、第1子を持つ時期により妻の専業主婦率が大きく変化している。実は、1980年代から2005年まで、第1子出産後に女性の7割が無職になる状況はほぼ変わらなかった。しかしながら第16回調査を見ると、2005-2009年の第1子出産では女性の6割強が、2010-2014年では女性の5割強が、そして2015-2019年では女性の4割が専業主婦世帯である。つまりこの15年では5年ごとに専業主婦率が下落している。この15年に子どもを持つ夫婦の仕事と子育てが大きく変わっていることがわかる。

だから若い世代では子どもがいる場合もいない場合も、男性も育児休業をとりたいという希望は高いのであろう。一方、子どもがいる40代でその希望が低いのは、妻の就業継続がまだ難しい時代に第1子を持ったからかもしれない。またあるいは40代になると責任が増え、仕事が忙しくなり、とても1か月はとれないという考えになるのかもしれない。

現実には男性の育児休業取得は女性に比べて大幅に低く、期間も短い。ではなぜ男性の方が女性よりも育児休業をとらないのか、という設問に対しては、20-39歳の有配偶有子男女では、「男性の方が家計を支える必要があるから」が女性37%、男性38%ともっとも回答が高い。「男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響がある」については、有配偶男性以上に有配偶女性の方の同意が高い。有配偶で子どもがいない女性は同じく子どもがいない有配偶男性よりも10%ポイント高い。「男性の方が上司や同僚の支援を受けにくい」についても有配偶で子どもがいる女性は同じ有配偶で子どもがいる男性よりも8%ポイント高い。

男女ともに夫の収入が家計を支えるために重要と考えている。加えて、女性は特に夫が育児休業をとることで、将来の夫の収入が下がるのではないかと、男性以上に心配しているのである。女性は、自分の将来賃金は、夫ほどには上がらない可能性が高いと思っていて、夫の将来の稼ぎが下がったら困ると思っているのかもしれない。また結局のところ共働きとしても女性が子育てを中心になってせざるを得ないと自分でシミュレーションをしているからかもしれない。

しかし男性が家事育児をしないと、共働きの場合は、第2子がなかなか持てず、結果的に子ども1人となる確率が上がることが実証的に示されている(Nagase and Brinton(2017))。また男性が0歳から育児にかかわることで、1歳、2歳と育児への自信がつくということを、菅原ますみ教授は研究で発表されている(近未来の課題解決を目指した実証的社会科学事業「ジェンダー格差センシティブな働き方と生活の調和報告書(2012)」)。さらに思いがけないコロナ期に男性の在宅時間が増えたことが、男性の親子満足度をあげたことがわかっている(Nagase and Okuda(2021))。

このようなことを考えれば、男性が育児休業をとることで昇進・昇給にマイナスの影響がないことを明確にすることは、日本の少子化の緩和、また父親としての幸福度の上昇に資するものであるだろう。こうした方向に政策を変えていくべきである。このためには上司や同僚に対する教育も必要である。すなわち、男性が育児休業をとることは、父親の権利であるとともに、日本の次世代育成のために必要なことであり、また労働力が減少する日本の未来に向けて、女性が働き続けられるように、新しい子育て環境の構築が可能な働き方の改革が必要なのだとすることを、上司や同僚に対して教育することが必要であろう。実際のところ、2010年以降、女性の育児休業が増えたのは1つは「育児短時間」が義務化されたからであるが、もう1つの理由は、企業の取り組みによって女性が育児休業をとって良いという方向へ職場の雰囲気がかわっていったからである(永瀬(2014) Nagase(2017))。これから必要なのは、男性が育児休業を取って良いという風にさらに職場の雰囲気が変わっていくことである。

もし職場で、特に男性に長時間労働が当然視される文化があり、一方、配偶者である妻からは家事育児分担を要求され、また男性自身も家事育児分担を望んでいるとすれば、そこには容易ではないものがあるだろう。

2. 若手の労働市場の変化

もう1つ、今回の調査で目立つのは、2022年の影響調査でも指摘したが(永瀬(2023))、今回の調査からも若い男女の初職就業が容易になっていないこと、それがおそらく交際や婚姻への移行を難しくしていることである。

今回調査で卒業後1年以内に仕事に就いていた割合は、20-39歳をみると、現在既婚の女性の87.1%に対して現在独身の女性では75.9%、現在既婚の男性88.8%に対して、現在独身の男性では72.0%となっており、卒業後1年以内に仕事に就けていない割合は、20-39歳の男女ともに、既婚者に対して独身の方が1割以上高い。

引用文献

- ・近未来の課題解決を目指した実証的社会科学事業「ジェンダー格差センシティブな働き方と生活の調和報告書(2012) お茶の水女子大学
- ・永瀬伸子(2023)「シングルキャリアと今後の支援の可能性—シングルは幸せか?」『日本労働研究雑誌』No.750 2023年1月号
- ・永瀬伸子(2014)「育児短時間の義務化が第1子出産と就業継続、出産意欲に与える影響:法改正を自然実験とした実証分析」、『人口学研究』,第37巻第1号,p27-53.
- ・Nobuko Nagase and Junko Okuda (2021) “How Work from Home and School Closing affected Gender Division of Labor in Household” Remote Working During the Pandemic II : Impact on Gender and Family Relations,” *Society of the Advancement of Socio-Economics(SASE) 33rd Annual Meeting , online (2021.7.3)*
- ・Nagase, Nobuko (2018) “Has Abe’s WOMANOMICS worked?” *Asian Economic Policy Review* 13(2) 68-101.
- ・Nagase, Nobuko (2017) The Effect of Family Friendly Policies on Fertility and Maternal Labor Supply Stanford University Asia Health Policy Program working paper #42 May 2 2017.
- ・Nagase, Nobuko and Mary Brinton (2017) “The Gender Division of Labor and the Second Birth,” *Demographic Research* vol.36 Article11 339-370.

参考資料 WEBアンケート調査票

令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査 スクリーニングアンケート

居住地:全国
男女(20代～60代) ※登録時の情報で実施の為、本アンケートでは確認しない

F1 あなたの年齢をお知らせください。

直接入力

F2 お住まいの地域を教えてください。(1つ)

※プルダウンで47都道府県表示

SC1 現在、結婚相手や配偶者、恋人がいますか。(1つ)

※法律婚・婚姻の届出をしている

※事実婚・婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にあることを指す。当人同士に結婚する意思があり、共同生活を営んでいるのであれば事実婚として成立。

配偶者はいない

1 配偶者、恋人はいない(独身)

配偶者はいないが恋人はいる

2 配偶者はいないが恋人はいる(独身)

配偶者がいる

3 配偶者(法律婚)がいる

4 配偶者(事実婚・内縁)がいる

SC2 過去に離婚・死別の経験がありますか。(いくつでも)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※回答したくない方は「答えたくない」とお答えください

1 過去に離婚・死別の経験はない

2 過去に離婚したことがある

3 過去に死別したことがある

4 これまで一度も結婚してはいない

5 答えたくない

SC3 現在、同居している方がいますか。同居している人数についてもお答えください。(いくつでも)

※あなたから見た見解でお答えください

※配偶者には、婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含みます。

※子供は養子・里子等も含めてください

※親は里親も含めてください

※寮・施設/ルームシェアなどに複数人と同居している方は、「その他(寮、施設、ルームシェアなど)」とお答えください

1 一緒に住んでいる人はいない

2 配偶者

3 恋人

4 子供(独身・離死別含む)

5 子供(既婚)

6 子供の配偶者

7 あなたの親

8 配偶者の親

9 あなた・配偶者の祖父母

10 孫

11 その他親族(兄弟姉妹、叔母、叔父など)

12 その他非親族(友人など)

13 寮、施設、ルームシェアなど

⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人
⇒	人

SC4 子供の有無と、現在同居している子供の年齢についてお聞きします。当てはまるものを全てお選びください。(いくつでも)

※養子・里子等も含めてください

※子供の配偶者は含みません

子供はいない・子供を持ったことがない

1 子供はいない・子供を持ったことがない

現在妊娠中である

2 現在自分が妊娠中、もしくは配偶者・恋人が妊娠中・子供を持つ予定がある

子供はいるが同居していない

3 同居していない子供がいる・子供を持ったことがある

同居している子供がいる

4 3歳未満

5 3歳以上～6歳(小学生未満)

6 小学生

7 中学生～19歳以下

8 20～39歳

9 40歳以上

SC5 最後に行かれた(または現在行かれている)学校は次のどれにあたりますか。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。(1つ)

- 1 小学校・中学校
- 2 高等学校
- 3 専門学校(中学卒業後)
- 4 専門学校(高校卒業後)
- 5 短期大学
- 6 高等専門学校(5年制)
- 7 大学
- 8 大学院

SC6 あなたの職業・雇用形態について、当てはまるものを選択してください。(1つ)

※学生でアルバイトとして働いている方は、「学生」を選んでください。

※契約社員・労働契約にあらかじめ雇用期間が定められている者

※委託・定年退職者等を一定期間再雇用する目的で契約し、雇用される者

※労働派遣事業所の派遣社員・労働者派遣法に基づく労働者派遣事業所に雇用され、そこから派遣されている者

※パート・アルバイト・常勤労働者のうち、1日の所定労働時間が正社員より短い者又は1週の所定労働日数が正社員より少ない者のいずれかに該当する者であって、「委託」「契約社員」以外の者

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

※産休・育休等取得中は、産休・育休等取得前の状況を思い出してお答えください。

仕事をしている／雇用されている

1 正規の会社員・職員・従業員

2 パート・アルバイト

3 労働派遣事業所の派遣社員

4 契約社員

5 委託

6 その他の形で雇用されている

仕事をしている／上記以外

7 会社などの役員

8 自営業・自由業(従業員がいる)

9 自営業・自由業(従業員がいない)

10 自家営業の手伝い(家族従業員)

11 家庭内の賃仕事(内職)

12 その他

仕事をしていない

13 主婦・主夫

14 学生

15 その他(働いていない)

SC7 現在の勤務形態について、最も当てはまるものを選択してください。(1つ)

- ※フルタイム・1週間の労働時間が40時間程度の勤務(1日8時間で週5日など)
- ※時間を調整・融通がきく仕事・裁量労働、フレックスタイム、自営業、アルバイトなど
- ※短時間勤務・フルタイムと比べ、1週間の労働時間が短い勤務(1日6時間で週4日、または1日8時間で週3日など)
- ※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出してお答えください。

- 1 フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
- 2 フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事
- 3 フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
- 4 フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事
- 5 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 6 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 7 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 8 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 9 短時間勤務(週20時間未満)

SC8 あなたご自身の仕事の種類について、実際にしている主な仕事の内容をお選びください。(1つ)

- ※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。
- ※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出してお答えください。

- 1 事務的な仕事
- 2 専門的・技術的な仕事
- 3 管理的(マネジメント的)な仕事 ※課長職以上
- 4 販売の仕事
- 5 サービスの仕事
- 6 保安の仕事
- 7 農林漁業の仕事
- 8 生産工程の仕事
- 9 輸送・機械運転の仕事
- 10 建設・探掘の仕事
- 11 運搬・清掃・包装等の仕事
- 12 その他

SC9 あなたの勤務先の業種について教えてください。(1つ)

- ※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。
- ※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出してお答えください。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 農業・林業・漁業 | 11 不動産業・物品賃貸業 |
| 2 鉱業・採石業・砂利採取業 | 12 宿泊業・飲食サービス業 |
| 3 建設業 | 13 教育・学習支援業 |
| 4 製造業 | 14 医療・福祉業 |
| 5 電気・ガス・熱供給・水道業 | 15 他サービス業 |
| 6 情報通信業 | 16 その他の産業 |
| 7 運輸業・郵便業 | |
| 8 卸売業 | |
| 9 小売業 | |
| 10 金融業・保険業 | |

SC10 あなたご自身の仕事について、勤務先の従業員数を教えてください。(1つ)

- ※本社、支店、工場なども含めた従業員総数。パートなども含みます。
- ※官公庁にお勤めの方は、「官公庁」をお選びください。
- ※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出してお答えください。

- 1 1名～4名
- 2 5名～29名
- 3 30名～49名
- 4 50名～99名
- 5 100名～299名
- 6 300名～999名
- 7 1,000名以上
- 8 官公庁
- 9 民間企業・官公庁以外に勤めている
- 10 わからない

SC11 先ほどお答えいただいた、最終学歴 ※回答内容提示 を卒業された後、最初に仕事に就いた時期を教えてください。(1つ)

- 1 卒業してすぐ(卒業してから1年以内)働いていた
- 2 卒業して1年以内ではないが、2年以内に働いていた
- 3 卒業してしばらく働かず、3年以上後に働いていた
- 4 卒業してから今まで働いていない

SC12 最終学歴後に初めて就いた仕事の職業・雇用形態について、当てはまるものを選択してください。(1つ)

- ※契約社員・労働契約にあらじめ雇用期間が定められている者
- ※嘱託・定年退職者等を一定期間再雇用する目的で契約し、雇用される者
- ※労働派遣事業所の派遣社員・労働者派遣法に基づく労働者派遣事業所に雇用され、そこから派遣されている者
- ※パート・アルバイト・常用労働者のうち、1日の所定労働時間が正社員より短い者又は1週の所定労働日数が正社員より少ない者のいずれかに該当する者であって、「嘱託」、「契約社員」以外の者

仕事をしている/雇用されている人

- 1 正規の会社員・職員・従業員
- 2 パート・アルバイト
- 3 労働派遣事業所の派遣社員
- 4 契約社員
- 5 嘱託
- 6 その他の形で雇用されている

仕事をしている/上記以外

- 7 会社などの役員
- 8 自営業・自由業(従業員がいる)
- 9 自営業・自由業(従業員がいない)
- 10 自家営業の手伝い(家族従業員)
- 11 家庭内の責任者(内職)
- 12 その他

SC13 今年度(2022年度)の①個人年収(あなたご自身)と、②世帯全体の年収について、教えてください。(各々1つずつ)

※今年度(2022年度)見込み額でお答えください

※年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください

※世帯全体の年収は、あなたの年収を含む世帯年収でお答えください

	①個人年収	②世帯全体の年収
1 1万円～50万円未満	1	1
2 50万円～99万円	2	2
3 100万円～149万円	3	3
4 150万円～199万円	4	4
5 200万円台	5	5
6 300万円台	6	6
7 400万円台	7	7
8 500万円台	8	8
9 600万円台	9	9
10 700万円台	10	10
11 800万円台	11	11
12 900万円台	12	12
13 1,000万円～1,400万円台	13	13
14 1,500万円～1,900万円台	14	14
15 2,000万円以上	15	15
16 0円(収入はない)	16	16
17 わからない/答えたくない	17	17

SC14 現在の配偶者、または恋人の職業・雇用形態を教えてください。(1つ)

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

※学生でアルバイトとして働いている方は、「学生」を選んでください。

※契約社員・労働契約にあらかじめ雇用期間が定められている者

※嘱託・定年退職者等を一定期間再雇用する目的で契約し、雇用される者

※労働派遣事業所の派遣社員・労働者派遣法に基づく労働者派遣事業所に雇用され、そこから派遣されている者

※パート・アルバイト・常用労働者のうち、1日の所定労働時間が正社員より短い者又は1週の所定労働日数が正社員より少ない者のいずれかに該当する者であって、「嘱託」、「契約社員」以外の者

※配偶者・恋人が産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出してお答えください。

仕事をしている/雇用されている人

- 1 正規の会社員・職員・従業員
- 2 パート・アルバイト
- 3 労働派遣事業所の派遣社員
- 4 契約社員
- 5 嘱託
- 6 その他の形で雇用されている

仕事をしている/上記以外

- 7 会社などの役員
- 8 自営業・自由業(従業員がいる)
- 9 自営業・自由業(従業員がいない)
- 10 自家営業の手伝い(家族従業員)
- 11 家庭内の貫仕事(内職)
- 12 その他

仕事をしていない

- 13 主婦・主夫
 - 14 学生
 - 15 その他(働いていない)
- 把握していない
- 16 把握していない

SC15 現在の配偶者、または恋人の勤務形態について、最も当てはまるものを選択してください。(1つ)

※フルタイム・1週間の労働時間が40時間程度の勤務(1日8時間で週5日など)

※時間を調整・融通がきく仕事・就業労働、フレックスタイム、自営業、アルバイトなど

※短時間勤務・フルタイムと比べ、1週間の労働時間が短い勤務(1日6時間で週4日、または1日8時間で週3日など)

※配偶者・恋人が産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出してお答えください。

- 1 フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
- 2 フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事
- 3 フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
- 4 フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事
- 5 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間を超える仕事
- 6 時間を調整・融通がきく仕事で週64時間以下の仕事
- 7 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 8 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 9 短時間勤務(週20時間未満)
- 10 把握していない

SC16 今年度(2022年度)の配偶者、または恋人の個人年収について教えてください。(1つ)

※今年度(2022年度)見込み額でお答えください

- 1 自分よりかなり多いと思う
- 2 自分より多いと思う
- 3 自分と同じくらいと思う
- 4 自分より少ないと思う
- 5 自分よりかなり少ないと思う
- 6 わからない/答えたくない

●「仕事・働き方」についてお聞きします。

■Q6で1～7(仕事をしている・かつ雇用されている方)にお聞きします。

あなたの職業・雇用形態：【※Q6の回答内容を提示 例：正規の会社員・職員・従業員】

Q17 あなたが現在の「職業・雇用形態」で働いている理由について、下記から当てはまるものをお選びください。(いくつでも)

- 1 十分な収入を得たいので
- 2 社会保険料や配偶者控除などを考えて
- 3 自分で自由に使えるお金が欲しいので
- 4 社会的な信用を得たいので
- 5 やりたいことを仕事にしたいので
- 6 仕事の内容で負荷がかからないので
- 7 家事・育児等と両立がしやすいので
- 8 福利厚生や待遇が充実しているので
- 9 安定して働きたいので
- 10 その形でしか雇用されないで
- 11 健康・体調の都合で
- 12 その他
- 13 特に理由はない

■Q6で2～6と答えた方(仕事をしている・かつ正規の会社員・職員・従業員以外の形で雇用されている人)、もしくは13～15(働いていない方)にお聞きします。

Q18 どのような条件があれば「正規の会社員・職員・従業員」として働きたいと思えますか。(いくつでも)

- 1 希望する職種に正規の職があれば
- 2 働く時間を調整しやすい・融通がきく仕事であれば
- 3 自分の家事・育児などの負担が軽くなれば
- 4 仕事と育児・介護との両立に関して理解のある職場であれば
- 5 長時間労働や残業がない仕事であれば
- 6 テレワークできる仕事であれば
- 7 キャリア形成が期待できる仕事であれば
- 8 職場が教育・研修をしっかりとってくれる仕事であれば
- 9 責任が大きい仕事であれば
- 10 満足のいく所得が得られるのであれば
- 11 今の働き方が変わらないのであれば
- 12 わからない・考えたことがない

Q19 あなたご自身の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」に対する「①理想」と「②実際の状況」について、最も近いものをお選びください。(各々1つずつ)

※現在働いていない人は、働いた場合の理想のみでお答えください。

	①理想	②実際の状況
1 仕事に専念	1	1
2 仕事を優先	2	2
3 仕事とプライベート・家庭生活を両立	3	3
4 プライベート・家庭生活を優先	4	4
5 プライベート・家庭生活に専念	5	5
6 考えたことがない・わからない	6	6

Q20 配偶者・恋人の「仕事とプライベート・家庭生活のバランス」に対する「①理想」と「②実際の状況」について、あなたご自身の考えとして、最も近いものをお選びください。(各々1つずつ)

※現在配偶者・恋人がいない人は、配偶者・恋人がいた場合の理想のみでお答えください。

	①理想	②実際の状況
1 仕事に専念	1	1
2 仕事を優先	2	2
3 仕事とプライベート・家庭生活を両立	3	3
4 プライベート・家庭生活を優先	4	4
5 プライベート・家庭生活に専念	5	5
6 考えたことがない・好きにしてほしい	6	6

■Q6で1～12と答えた方(仕事をしている方)にお聞きします。

Q21 あなたの仕事・働くことに対する現在の考え方について、最も近いものをそれぞれお選びください。(各々1つずつ)

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
1 専門性を磨けるように働きたい	1	2	3	4
2 人として成長することを目指して働きたい	1	2	3	4
3 会社・社会の役に立つように働きたい	1	2	3	4
4 給与を重視して働きたい	1	2	3	4
5 自分がやりたいことを仕事にして働きたい	1	2	3	4
6 残業が少ないことを優先して働きたい	1	2	3	4
7 雇用の安定性を重視して働きたい	1	2	3	4
8 新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい	1	2	3	4
9 負荷の少ないことを仕事にして働きたい	1	2	3	4
10 突発的な時にも休みやすいことを優先して働きたい	1	2	3	4

■Q6で1～12と答え方(仕事をしている方)にお聞きします。

Q22 あなたの仕事において必要と考えるものを、下記の中からお選びください。(いくつでも)

※スキルアップ:仕事に対する技術を向上させること

※リスキリング(学び直し):技術革新やビジネスモデルの変化に対応するために、新しい知識やスキルを学ぶこと

- 1 最低限仕事で必要なことの習得
- 2 スキルアップ
- 3 リスキリング(学び直し)
- 4 特になし

■Q23 仕事での昇進について、20代時点のあなたの見通し・考えとして最も近いものをお選びください。(各々1つずつ)

※昇進・・それ以前の役職・地位よりも高い役職・地位に就くこと

※30～60代の人は、20代の頃どう思っていたか、20代の人は現在どう思っているか、についてお答えください。

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
1 昇進できると思っていた・いる	1	2	3	4
2 いずれは管理職につきたいと思っていた・いる	1	2	3	4
3 この仕事を長く続けたいと思っていた・いる	1	2	3	4

■Q6で1～12と答え方(仕事をしている方)にお聞きします。

Q24 あなたは、昇進することについてどのようなイメージをお持ちですか。それぞれについて最も近いものをお選びください。(各々1つずつ)

※昇進・・それ以前の役職・地位よりも高い役職・地位に就くこと

※あなたご自身が昇進することを考えてお選びください。

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
1 役割の割に給料が上がらない	1	2	3	4
2 自分がやりたい仕事ができる	1	2	3	4
3 大きな仕事・重要な仕事ができる	1	2	3	4
4 会社等周りの意見を聞かざるを得なくなる	1	2	3	4
5 仕事の責任により充実感・満足感が上がる	1	2	3	4
6 仕事量が増し勤務時間の調整がしにくくなる	1	2	3	4
7 家事・育児等の時間が取れなくなる	1	2	3	4
8 家族が昇進を望んでいる	1	2	3	4

■Q4で1・2のみ選択した方にお聞きします。

Q25 あなたは今後、子供を持ちたいと思えますか。現在の考えに最も近いものを下記よりお選びください。(1つ)

※養子、里親等も含みます。

- 1 子供を持ちたいと思う
- 2 出来れば子供を持ちたいと思う
- 3 どちらでもいいと思う
- 4 あまり子供を持ちたいとは思わない
- 5 子供を持ちたいとは思わない
- 6 妊娠中である・既に子供を持つ予定がある
- 7 まだわからない・考えたことがない
- 8 その他

●「育休」についてお聞きします。

■Q4で3～9と答え方(子供がいる・子供がいたことがある方)にお聞きします。

Q26 育児休業の取得経験について、下記よりお選びください。(いくつでも)

※1日でも育児休業を取得した人は、「取った」としてください

- 1 育児休業を取ったことがない(自分・配偶者含めて)
- 2 過去に育児休業を取った(自分)
- 3 過去に育児休業を取った(配偶者)
- 4 現在育児休業取得中(自分)
- 5 現在育児休業取得中(配偶者)
- 6 当時働いていなかった・育児休業を取れる仕事でなかった(自分)
- 7 当時働いていなかった・育児休業を取れる仕事でなかった(配偶者)

■Q4で3～9、もしくはQ25で1、2、6が対象と答え方にお聞きします。

Q27 第一子が生まれた後、子供が0～3歳の頃の「育児休業取得」について、自分の希望(子供がいる人は当時の希望)をお答えください。(1つ)

※子供がいる人は、実際取得したかどうかではなく、「希望としてどう考えていたか」でお答えください

※第一子が生まれてから、子供が0～3歳の頃を想定してお答えください

- 1 育児休業も有給休暇も使わず、休まないでよい
- 2 育児休業を使わず、有給休暇を数日間取得したい
- 3 育児休業を数日間取得したい
- 4 育児休業を1か月程度取得したい
- 5 育児休業を2～3か月取得したい
- 6 育児休業を4～5ヶ月(半年未満)取得したい
- 7 育児休業を半年以上取得したい
- 8 その他
- 9 覚えていない・特に希望はない・なかった

Q28 現在、男性の育児休業取得率が女性に比べて低い状況ですが、**なぜ男性は育児休業を取得しないことが多い**と思いますか？**あなたの考えを教えてください。**(いくつでも)

- 1 女性の方が給与が低い場合が多いから
- 2 男性の方が家計を支える必要があるから
- 3 男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから
- 4 男性の方がより責任の重い仕事を担っているから
- 5 男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから
- 6 女性は家事・育児等に向いているから
- 7 女性の方が家事・育児等をすべきだから
- 8 女性の方が職場の理解があるから
- 9 女性の方が親族等周りに頼れるから
- 10 それが普通だから
- 11 その他
- 12 よくわからない

Q29 「**育児休業**」を取得することや、取得した後について、最も近いものをお選びください。(各々1つずつ)

- ◆現在子供がいる人は、(男性の場合も)あなたご自身が取得した時・取得したらどうなったと思うかについてお答えください。
- ◆現在子供がいない人は、(男性の場合も)現時点での自分が取得する時のイメージについてお答えください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1 収入が減り不安な状態になる	1	2	3	4
2 昇進・昇給にマイナスの影響がある	1	2	3	4
3 会社の制度等に問題があり取りにくい	1	2	3	4
4 仕事の仲間、周囲に迷惑をかける	1	2	3	4
5 復帰後に自分の仕事・ポジションがない	1	2	3	4
6 復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る	1	2	3	4
7 職場・上司の理解を得られない	1	2	3	4
8 家にいる時間が増え安心感が高まる	1	2	3	4
9 自分の時間が取れるようになる	1	2	3	4
10 仕事から離れることで価値観が広がる	1	2	3	4
11 子供との良い関係を築くことができる	1	2	3	4

●「テレワーク」についてお聞きします。

■Q6で1～12と答えた方(仕事をしている方)にお聞きします。

Q30 あなたご自身のテレワーク(在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイル勤務含む)実施頻度についてお聞きします。この3年の間で、①最も多かった時期と、②この3ヵ月の実施頻度について教えてください。(各々1つずつ)

- ※①について、「感染症にかかったためその間はずっとテレワークをしていた」場合は、その期間以外で最も多かった時期についてお答えください。
- ※②については、この3ヵ月(10-12月)の間を考えて、平均してどのぐらいの頻度で実施していたかでお答えください。

	①最も多かった時期	②この3ヵ月の間
1 週に4日以上	1	1
2 週に3日程度	2	2
3 週に1～2日程度	3	3
4 月に1～2日程度	4	4
5 それ以下の頻度	5	5
6 ①この3年の間でテレワークをしていない・②3ヵ月の間でテレワークをしていない	6	6
7 その他	7	7

■Q14で1～12と答えた方(配偶者・恋人が働いている方)にお聞きします。

Q31 あなたの配偶者・恋人のテレワーク(在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイル勤務含む)実施頻度についてお聞きします。この3年の間で、①最も多かった時期と、②この3ヵ月の実施頻度について教えてください。(各々1つずつ)

- ※①について、「感染症にかかったためその間はずっとテレワークをしていた」場合は、その期間以外で最も多かった時期についてお答えください。
- ※②については、この3ヵ月(10-12月)の間を考えて、平均してどのぐらいの頻度で実施していたかでお答えください。

	①最も多かった時期	②この3ヵ月の間
1 週に4日以上	1	1
2 週に3日程度	2	2
3 週に1～2日程度	3	3
4 月に1～2日程度	4	4
5 それ以下の頻度	5	5
6 ①この3年の間でテレワークをしていない・②3ヵ月の間でテレワークをしていない	6	6
7 その他	7	7
8 知らない・把握していない	8	8

■Q6で1～12と答えた方(仕事をしている方)にお聞きします。

Q32 仕事がある日の1日の時間配分について、**現在の状況**を分単位で教えてください。(それぞれ数字入力)

※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等取得前の状況を思い出して「仕事がある日の現実」をお答えください。

※テレワークを実施している人は、「仕事がある日(テレワーク以外)」「仕事がある日(テレワーク)」のそれぞれについてお答えください。

「家事」の主なもの・食事の準備・後片づけ、掃除、洗濯、衣類・日用品の整理片づけなど
 「育児」の主なもの・乳幼児の世話、子供の付き添い、子供の勉強や遊びの相手、乳幼児の送迎、保護者会活動への参加など
 「介護」の主なもの・家族や親族に対する日常生活における入浴・トイレ・移動・食事などの手助け

	仕事がある日(テレワーク以外)	仕事がある日(テレワーク)
1 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間	分	分
2 通勤・通学時間	分	分
3 家事・育児時間	分	分
4 介護時間	分	分
5 睡眠時間	分	分
6 食事・身の回りの用事(入浴時間等)の時間	分	分
7 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)	分	分
8 家族と遊んだり、くつろいだりする時間	分	分
9 友人等と遊んだり、くつろいだりする時間	分	分
10 その他	分	分
合計(合計1440分になるようにご記入ください)	0 分	0 分

【参考:時間/分の見本表】

1時間=60分
 2時間=120分
 3時間=180分
 4時間=240分
 5時間=300分
 6時間=360分
 7時間=420分
 8時間=480分
 9時間=540分

Q33 働いている人は仕事がない日(勤め先がお休みの日)、働いていない人は普段の1日の時間配分について、**現在の状況**を分単位で教えてください。(それぞれ数字入力)

※産休・育休等取得中の方は、産休・育休等中の一日の過ごし方をお答えください。

※働いている人は、勤め先がお休みの日を想定してお答えください

「家事」の主なもの・食事の準備・後片づけ、掃除、洗濯、衣類・日用品の整理片づけなど
 「育児」の主なもの・乳幼児の世話、子供の付き添い、子供の勉強や遊びの相手、乳幼児の送迎、保護者会活動への参加など
 「介護」の主なもの・家族や親族に対する日常生活における入浴・トイレ・移動・食事などの手助け

	仕事がない日	普段の1日
1 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間	分	分
2 通勤・通学時間	分	分
3 家事・育児時間	分	分
4 介護時間	分	分
5 睡眠時間	分	分
6 食事・身の回りの用事(入浴時間等)の時間	分	分
7 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)	分	分
8 家族と遊んだり、くつろいだりする時間	分	分
9 友人等と遊んだり、くつろいだりする時間	分	分
10 その他	分	分
合計(合計1440分になるようにご記入ください)	0 分	0 分

【参考:時間/分の見本表】

1時間=60分
 2時間=120分
 3時間=180分
 4時間=240分
 5時間=300分
 6時間=360分
 7時間=420分
 8時間=480分
 9時間=540分
 10時間=600分

Q34 以下の**生活の中の時間**について、増やしたいか減らしたいか、当てはまるものをそれぞれお選びください。(各々1つずつ)

	大幅に減らしたい	少し減らしたい	現在のままでいい	少し増やしたい	大幅に増やしたい	該当しない
1 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間	1	2	3	4	5	6
2 通勤・通学時間	1	2	3	4	5	6
3 家事・育児時間	1	2	3	4	5	6
4 介護時間	1	2	3	4	5	6
5 睡眠時間	1	2	3	4	5	6
6 食事・身の回りの用事(入浴時間等)の時間	1	2	3	4	5	6
7 自分のことに使う時間(趣味・自己啓発・くつろぎ等)	1	2	3	4	5	6
8 家族と遊んだり、くつろいだりする時間	1	2	3	4	5	6
9 友人等と遊んだり、くつろいだりする時間	1	2	3	4	5	6

■Q1で2～4と答えた方(配偶者・恋人がいる)にお聞きします。

Q35 以下の**配偶者・恋人の生活の中の時間**について、増やしてほしいか減らしてほしいか、当てはまるものをそれぞれお選びください。(各々1つずつ)

	大幅に減らしてほしい	少し減らしてほしい	現在のままでいい	少し増やしてほしい	大幅に増やしてほしい	該当しない・特に希望はない
1 仕事(収入を伴う仕事、学業)の時間	1	2	3	4	5	6
2 家事・育児時間	1	2	3	4	5	6
3 介護時間	1	2	3	4	5	6

■Q34の1(仕事時間)で1~2(減らしたい)とした方にお聞きします。

Q36 あなたご自身の勤務時間を減らしにくい理由として、あなたに当てはまるものをお選びください。(いくつでも)

※昇進・それ以前の役職・地位よりも高い役職・地位に就くこと

- 1 職場や上司の理解がない
- 2 残業する人を評価する風潮がある
- 3 上司や周囲が残っていると傳りにくい
- 4 周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている
- 5 将来的に昇進・昇格しにくくなる
- 6 仕事量が多く仕事・業務が終わらない
- 7 自分にしか出来ない仕事がある
- 8 職場の人手不足
- 9 自分のスキルが足りないから
- 10 残業代が必要
- 11 その他
- 12 勤務時間を減らしにくいとは思わない

■Q6で1~12と答えた方(仕事をしている方)にお聞きします。

Q37 仕事がある日の平均的な帰宅時間について、当てはまるものをお選びください。(1つ)

※テレワーク以外の日を想定してお答えください

※ずっとテレワーク(在宅での仕事)の方は、平均的な仕事終了時間についてお答えください

- 1 12時台~16時台
- 2 17時台
- 3 18時台
- 4 19時台
- 5 20時台
- 6 21時台
- 7 22時台
- 8 23時台
- 9 深夜0時以降~午前11時台の間
- 10 不規則なので決まっていない

■Q14で1~12と答えた方(配偶者・恋人が仕事をしている人)にお聞きします。

Q38 仕事がある日の配偶者・恋人の平均的な帰宅時間について、当てはまるものをお選びください。(1つ)

※テレワーク以外の日を想定してお答えください

※ずっとテレワーク(在宅での仕事)の方は、平均的な仕事終了時間についてお答えください

- 1 12時台~16時台
- 2 17時台
- 3 18時台
- 4 19時台
- 5 20時台
- 6 21時台
- 7 22時台
- 8 23時台
- 9 深夜0時以降~午前11時台の間
- 10 不規則なので決まっていない
- 11 わからない・知らない

■Q6で1~12と答えた方(仕事をしている方)にお聞きします。

あなたの勤務形態:【※Q7の回答内容を提示 例:フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事】

Q39 あなたの仕事について、【Q7の回答を表示】とお答えいただきましたが、現在の勤務時間による影響として、どちらの方に近いかが当てはまるものをお選びください。(各々1つずつ)

※昇進・それ以前の役職・地位よりも高い役職・地位に就くこと

A	どちらか といえは				B
	Aに近い	Aに近い Bに近い	Bに近い Aに近い	Bに近い	
1 自分がやりたい仕事ができる	1	2	3	4	自分がやりたい仕事ができない
2 昇進・昇給により影響を与える	1	2	3	4	昇進・昇給により影響を与えない
3 仕事で周りに負担をかけることがない	1	2	3	4	仕事で周りに負担をかけてしまう
4 職場での人間関係が円滑になる	1	2	3	4	職場での人間関係に支障をきたす
5 趣味等の時間を十分取りやすい	1	2	3	4	趣味等の時間を十分取りにくい
6 家事・育児等の時間を十分取りやすい	1	2	3	4	家事・育児等の時間を十分取りにくい
7 家族とのコミュニケーションの時間を取りやすい	1	2	3	4	家族とのコミュニケーションの時間を取りにくい
8 知人などの繋がりが増える	1	2	3	4	知人などの繋がりが減る
9 ワーク・ライフ・バランスを保つことができる	1	2	3	4	ワーク・ライフ・バランスを保つことができない

●ライフスタイル全般についてお聞きします。

Q40 家事・育児等へのあなたのお考えについて、近いものをそれぞれお答えください。(各々1つずつ)

※現在配偶者・恋人がいない人は、配偶者・恋人がいた場合を想定してお答えください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1 自分が率先してすべきことである	1	2	3	4
2 外で収入を得ている場合はやらなくてもいい	1	2	3	4
3 仕事を優先する場合はやらなくていい	1	2	3	4
4 家事・育児等が得意な方がやった方がいい	1	2	3	4
5 家事・育児等は分担・共同でやった方がいい	1	2	3	4
6 時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい	1	2	3	4
7 自分のやり方を相手に押し付けけない方がいい	1	2	3	4

Q41 下記の家事・育児等に関する外部サービスについて、利用経験(経験がない場合は興味)を教えてください。(各々1つずつ)

	利用したことがある・している	利用してみたいと思う	利用してみたいと思わない
1 市販のおかず購入	1	2	3
2 料理代行	1	2	3
3 フードデリバリー・出前利用	1	2	3
4 ネットスーパー・食材宅配サービス利用	1	2	3
5 時短家電の導入(ロボット掃除機、調理鍋など)	1	2	3
6 部分的なハウスクリーニング(エアコンだけ等)の利用	1	2	3
7 ハウスクリーニング(家全体)の利用	1	2	3
8 子供の送迎の外部委託	1	2	3
9 キッズ・ベビーシッターの利用	1	2	3
10 高齢者支援などヘルパーの利用	1	2	3

Q42 あなたご自身の家事のスキル(能力)について、ご自身でどのように評価されていますか。(1つ)

※頻度だけでなく、実施内容等も含めてトータルでお考えください。

- 1 十分にある
- 2 どちらかといえばある
- 3 どちらかといえばない
- 4 全くない

■Q3で2,3と答えた方(配偶者・恋人と同居している人)にお聞きします。

Q43 あなたの配偶者・恋人が実施する家事について、どのくらい満足できていますか。(1つ)

※頻度だけでなく、実施内容等も含めてトータルでお考えください。

- 1 とても満足
- 2 まあ満足
- 3 あまり満足していない
- 4 全く満足していない

■Q3で2,3と答えた方(配偶者・恋人と同居している人)にお聞きします。

Q44 あなたの配偶者・恋人が実施する家事についてどう感じるか、当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

- 1 実施頻度が低い
- 2 やるべき事によく気が付いてやっている
- 3 雑・おざっぱ
- 4 丁寧にやっている
- 5 無駄な事が多い・効率的でない
- 6 本人がやりたいことかしない
- 7 時間が掛かりすぎる
- 8 その他
- 9 特に何も思わない

■Q4で1・2のみチェックの方は対象外、それ以外の方にお聞きします。

Q45 **あなたご自身**の**育児スキル(能力)**について、ご自身でどのように評価されていますか。(1つ)

※頻度だけでなく、実施内容等も含めてトータルでお考えください。

※育児期間が過ぎている人は、当時どうだったかでお考えください。

- 1 十分にある(あった)
- 2 どちらかといえばある(あった)
- 3 どちらかといえばない(なかった)
- 4 全くない(なかった)

■Q4で1・2のみチェックの方は対象外、それ以外の方にお聞きします。

Q46 **あなたの配偶者・恋人**が実施する**育児**について、どのくらい満足できていますか(出来ていましたか)。(1つ)

※育児期間が過ぎている人は、当時どうだったかでお考えください。

※頻度だけでなく、実施内容等も含めてトータルでお考えください。

- 1 とても満足
- 2 まあ満足
- 3 あまり満足していない
- 4 全く満足していない

■Q4で1・2のみチェックの方は対象外、それ以外の方にお聞きします。

Q47 **あなたの配偶者・恋人**が実施する**育児**についてどう感じるか(感じていたか)、当てはまるものを選んでください。(いくつでも)

※育児期間が過ぎている人は、当時どうだったかでお考えください。

- 1 実施頻度が低い・低かった
- 2 やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた
- 3 子供への接し方が丁寧・丁寧だった
- 4 安心して子供を任せられる・任せられた
- 5 一人で任せるのが心配・心配だった
- 6 子供の要望に対してすぐに動かない・動かなかった
- 7 面倒そうに子供に接している・接していた
- 8 本人がやりたいことしかない・しなかった
- 9 その他
- 10 特に何も思わない・思わなかった

Q48 以下について、**あなたご自身や周囲のことを考えた時にどう思われるか**をお答えください。(各々1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1 私は仕事のストレスが大きい	1	2	3	4
2 私の配偶者・恋人は仕事のストレスが大きい	1	2	3	4
3 私は家事・育児のストレスが大きい	1	2	3	4
4 私の配偶者・恋人は家事・育児のストレスが大きい	1	2	3	4
5 私には家計を支える責任がある	1	2	3	4
6 私の配偶者・恋人には家計を支える責任がある	1	2	3	4
7 私は人前で悪癖をこぼすことができる	1	2	3	4
8 私は家に帰ると心が休まる	1	2	3	4
9 私の生きがいは仕事である	1	2	3	4
10 私の生きがいは家族である	1	2	3	4

Q49 以下について、**あなたご自身のことを振り返った時にどうであったか**をお答えください。(各々1つずつ)

	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない	答えられない
1 父親はあまり家にいなかった	1	2	3	4	5
2 家に帰ると母親がいることが当たり前だった	1	2	3	4	5
3 父親は家事をしなかった	1	2	3	4	5
4 食事はいつも母親の手作りだった	1	2	3	4	5
5 授業参観など学校の行事はほとんど母親が参加していた	1	2	3	4	5
6 父親を尊敬していた	1	2	3	4	5
7 母親を尊敬していた	1	2	3	4	5
8 おじいちゃん子・おばあちゃん子だった	1	2	3	4	5

Q50 あなたは、お休みの日に誰と時間を過ごすことが多いですか。当てはまるものを全てお答えください。(いくつでも)

- 1 一人で
- 2 配偶者・恋人と
- 3 子供・家族(配偶者以外)と
- 4 趣味関係の友人・知人と
- 5 子供・家族関係の友人・知人と
- 6 学生時代の友人・知人と
- 7 地域のつながりの友人・知人と
- 8 仕事関係の友人・知人と
- 9 オンラインで知り合った友人・知人と
- 10 その他の友人・知人と
- 11 有料で会える人と
- 12 その他